

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第441集

長野原一本松遺跡(4)

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第24集

2008

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



5区60号住居跡全景



60号住居跡炉体土器



60号住居跡炉体土器

口絵(2)



95区6号住居跡



95区44号土坑

序

長野原一本松遺跡は、群馬県北西部を流れる吾妻川を望む段丘上に営まれた集落遺跡です。八ッ場ダム建設に伴う事業として、平成6年より平成19年にかけて発掘調査を進めてまいりました。

八ッ場ダムは、洪水調整、水利用を目的として昭和27年に計画され、発掘調査は平成6年度より本格的に着手されました。以来、数多くの遺跡が発掘調査され、報告書刊行に従い、様々な成果と課題が明らかになってきました。

その一つとして、八ッ場ダム建設に伴う発掘調査は、これまで当事業団が行ってまいりました様々な発掘調査と違い、広大な一つの地域を対象とした事業であることです。一つの調査遺跡は、この広大な地域の一地点にすぎませんが、一遺跡毎の内容がお互いに関連し合い、一地域の歴史的様相が明確に把握できる事業として評価されております。

長野原一本松遺跡の報告書としての調査成果は、本書で数えて4冊目となります。前3冊は、いずれも縄文時代中期・後期の良好な環状集落跡の資料として、大きな成果を上げております。本書も、平成14年度に調査された縄文時代集落跡資料を中心とした掲載内容ですが、特に5区60号住居跡は、全面敷石住居跡で、張り出し部壁にも積み石が築かれており、県内でも屈指の敷石住居跡として位置付けられるものと期待されております。いずれは、周辺の調査遺跡の成果と併せて、大きな調査成果の礎となる資料となりましょう。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、及び長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。心から感謝の意を表しますとともに、本書が、一地域の歴史解明に留まらず、さらに広く活用される事を願い序といたします。

平成20年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇 夫

例 言

1. 本書は八ッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された、長野原一本松遺跡発掘調査報告書である。平成13年度と平成18年度及び平成19年度に、調査報告書である『長野原一本松遺跡(1)』～『長野原一本松遺跡(3)』が刊行されており、本書は第4冊目となり、平成14年度に行われた発掘調査成果を報告する。
2. 発掘調査は建設省(現国土交通省)の委託を受け、群馬県教育委員会が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施された
3. 遺跡所在地 群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字一本松地内
調査期間 平成14年4月1日～平成15年3月31日
整理期間 平成19年4月1日～平成20年3月31日
4. 本報告書に係る平成14年度及び平成19年度の体制は以下のとおりである
平成14年度 理事長 小野宇三郎
常務理事 吉田 豊 事務局長 神保侑史 管理部長 萩原利通
八ッ場ダム調査事務所
所長 水田 稔 調査研究部長 津金澤吉茂 課長 下城 正
野口富太郎、矢嶋知恵子
平成19年度 理事長 高橋勇夫
常務理事 木村裕紀 事業局長 津金澤吉茂 総務部長 萩原 勉
八ッ場ダム調査事務所
所長 巾 隆之 調査研究部長 中束耕志 庶務GL 吉田有光
若林正人、鈴木理佐
5. 発掘調査担当者 平成14年度 麻生敏隆、原 信行、飯森康広、唐沢友之、石川雅俊
6. 報告書作成担当 編集・執筆 山口逸弘、遺物写真撮影 佐藤元彦、遺物保存処理 関 邦一
整理補助員 富沢友理、唐沢美恵子、加邇保晶、川津えみ子、青柳 智
7. 鑑定分析・委託 自然科学分析(テフラ分析) 株式会社古環境研究所
出土種子・出土材樹種同定・年代測定 株式会社パレオ・ラボ
石器実測・トレース業務 技研測量株式会社、株式会社測研
遺構測量・デジタル編集業務 株式会社測研
8. 出土遺物及び図面・写真等の記録は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
9. 発掘調査及び報告書作成には、下記の機関・諸氏よりご協力・ご指導を賜った。記して感謝の意を表します。(順不同・敬称略)
国土交通省関東地方建設局八ッ場ダム工事事務所、長野原町教育委員会、八ッ場ダム調査事務所職員 秋田かな子、阿部昭典、江原 英、小川卓也、小林 正、笹森健一、佐藤雅一、清水克彦、白石光男、鈴木徳雄、菅谷通保、高橋清文、高林真人、田中浩江、寺内隆夫、寺崎裕助、富田孝彦、新山保明、長沢展生、日沖剛史、福田貫之、古谷 渉、松村和男、宮田忠洋、山崎芳春、綿田弘実、割田博之

凡 例

1. 本書で使用した方位は、国家座標北を示す。
2. 等高線・遺構断面図等に印した数値は海拔標高を示す
3. 遺構図縮尺は原則として以下の通りであるが、厳密に統一していない、各挿図中のスケールを参照して頂きたい。
遺跡全体図 1/1000 各区別遺構全体図 1/200 住居跡 1/60 炉・カマド 1/30 埋設土器 1/20
土坑 1/30・1/40
4. 遺物実測図の縮尺は原則として以下の通りであるが、厳密に統一していない、各挿図中のスケールを参照して頂きたい。
土器 完形・半完形 1/4、破片類 1/3
石器 石鏃・石錐 1/1、小型品 1/2、打製石斧・磨製石斧・磨石等 1/3、石皿・多孔石等 1/4・1/6
また、礫石器実測図中の破線は使用痕の範囲を示す。
5. 遺物計測値は口径・底径・高さ・長さ・幅・厚さは小数点第2位を四捨五入しcm単位で、重量は電磁式はかり等を使用し、g・kg単位で表示した。
6. 遺構・遺物写真図版における縮尺・撮影方向は統一していない。
7. なお、本報告書Ⅰ～Ⅱ章は、八ッ場ダム建設関連に伴う報告「長野原一本松遺（1）」・「長野原一本松遺（2）」とほぼ内容が一致する。同一事業、同一遺跡での刊行であり、加筆後再録させていただいた。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
写真図版目次	
表目次	
第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査	1
第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 発掘調査の方法	2
第3節 調査経過	2
第2章 地理的及び歴史的環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 検出された遺構と遺物	7
第1節 基本層序	7
第2節 遺構・遺物の概要	8
第3節 縄文時代	17
1 住居跡	17
2 柱穴列（建物跡）	111
3 竪穴状遺構・炉跡・埋甕	117
4 土坑・ピット	127
5 列石	179
6 遺構外出土遺物	179
第4節 平安時代以降	208
1 遺構と遺物（住居跡・溝）	208
・遺構計測表	213
・遺物観察表	221
第4章 分析とまとめ	264
第1節 火山灰分析	264
第2節 炭化材樹種同定	269
第3節 種子同定	276
第4節 年代測定	279
第5節 まとめにかえて	281

挿図目次

第1図	長野原一本松遺跡の位置図	1	第80図	95区9号住居跡(2)	100
第2図	長野原一本松遺跡調査区及び経過図	3	第81図	95区9号住居跡出土遺物(1)	101
第3図	基本層序	7	第82図	95区9号住居跡出土遺物(2)	102
第4図	周辺の遺跡	9	第83図	95区9号住居跡出土遺物(3)	103
第5図	5区・95区遺構配置図	11	第84図	95区10号住居跡(1)	105
第6図	5区60号住居跡周辺遺構配置図	13	第85図	5区10号住居跡(2)	106
第7図	17区遺構配置図	14	第86図	95区10号住居跡出土遺物(1)	107
第8図	18区遺構配置図	15	第87図	95区10号住居跡出土遺物(2)	108
第9図	19区遺構配置図	16	第88図	95区10号住居跡出土遺物(3)	109
第10図	5区58号住居跡(1)	18	第89図	95区11号住居跡・出土遺物	110
第11図	5区58号住居跡(2)	19	第90図	5区1号建物跡	112
第12図	5区58号住居跡(3)	20	第91図	95区1号建物跡(1)	113
第13図	5区58号住居跡出土遺物(1)	21	第92図	95区1号建物跡(2)	114
第14図	5区58号住居跡出土遺物(2)	22	第93図	95区2号建物跡(1)	115
第15図	5区59号住居跡	24	第94図	95区2号建物跡(2)	117
第16図	5区60号住居跡(1)	26	第95図	5区1号堅穴状遺構・出土遺物	118
第17図	5区60号住居跡(2)	28	第96図	埋甕・炉跡(1)	119
第18図	5区60号住居跡(3)	29	第97図	埋甕・炉跡出土遺物(1)	121
第19図	5区60号住居跡(4)	30	第98図	炉跡(2)・集石	123
第20図	5区60号住居跡(5)	31	第99図	炉跡(3)	124
第21図	5区60号住居跡出土遺物(1)	32	第100図	炉跡出土遺物(2)	126
第22図	5区60号住居跡出土遺物(2)	33	第101図	5区土坑(1)	130
第23図	5区60号住居跡出土遺物(3)	34	第102図	5区土坑(2)	131
第24図	5区60号住居跡出土遺物(4)	35	第103図	5区土坑(3)	132
第25図	5区60号住居跡出土遺物(5)	36	第104図	5区土坑(4)	133
第26図	5区60号住居跡出土遺物(6)	37	第105図	5区土坑(5)	134
第27図	5区60号住居跡出土遺物(7)	38	第106図	5区土坑(6)	135
第28図	5区61号住居跡(1)	40	第107図	5区土坑(7)	136
第29図	5区61号住居跡(2)	41	第108図	5区土坑(8)	137
第30図	5区61号住居跡出土遺物(1)	42	第109図	5区土坑(9)	138
第31図	5区61号住居跡出土遺物(2)	43	第110図	5区土坑(10)	139
第32図	5区61号住居跡出土遺物(3)	44	第111図	5区土坑(11)	140
第33図	5区61号住居跡出土遺物(4)	45	第112図	5区土坑(12)	141
第34図	5区62号住居跡(1)	47	第113図	5区土坑(13)・95区土坑(1)	142
第35図	5区62号住居跡(2)	48	第114図	5区土坑出土遺物(1)	143
第36図	5区62号住居跡出土遺物(1)	49	第115図	5区土坑出土遺物(2)	144
第37図	5区62号住居跡出土遺物(2)	50	第116図	5区土坑出土遺物(3)	145
第38図	5区63号住居跡・出土遺物	51	第117図	5区土坑出土遺物(4)	146
第39図	5区64号住居跡	52	第118図	5区土坑出土遺物(5)	147
第40図	5区64号住居跡出土遺物(1)	53	第119図	5区土坑出土遺物(6)	148
第41図	5区64号住居跡出土遺物(2)	54	第120図	5区土坑出土遺物(7)	149
第42図	5区65号住居跡(1)	55	第121図	5区土坑出土遺物(8)	150
第43図	5区65号住居跡(2)	56	第122図	5区土坑出土遺物(9)	151
第44図	5区65号住居跡出土遺物(1)	57	第123図	5区土坑出土遺物(10)・ピット出土遺物	152
第45図	5区65号住居跡出土遺物(2)	58	第124図	95区土坑(2)	153
第46図	5区66号住居跡	59	第125図	95区土坑(3)	154
第47図	5区66号住居跡出土遺物	60	第126図	95区土坑(4)	155
第48図	5区67号住居跡	61	第127図	95区土坑(5)	156
第49図	95区3号住居跡(1)	63	第128図	95区土坑(6)	157
第50図	95区3号住居跡(2)	64	第129図	95区土坑(7)	158
第51図	95区3号住居跡出土遺物(1)	66	第130図	95区土坑(8)	159
第52図	95区3号住居跡出土遺物(2)	67	第131図	95区土坑出土遺物(1)	160
第53図	95区3号住居跡出土遺物(3)	68	第132図	95区土坑出土遺物(2)	161
第54図	95区4号住居跡(1)	70	第133図	95区土坑出土遺物(3)	162
第55図	95区4号住居跡(2)	71	第134図	95区土坑出土遺物(4)	163
第56図	95区4号住居跡出土遺物(1)	73	第135図	95区土坑出土遺物(5)	164
第57図	95区4号住居跡出土遺物(2)	74	第136図	95区ピット出土遺物(1)	165
第58図	95区4号住居跡出土遺物(3)	75	第137図	95区ピット出土遺物(2)	166
第59図	95区4号住居跡出土遺物(4)	76	第138図	95区ピット出土遺物(3)・17区埋設土器	167
第60図	95区4号住居跡出土遺物(5)	77	第139図	17区埋設土器・土坑(1)	168
第61図	95区4号住居跡(3)・5号住居跡	78	第140図	17区土坑(2)	169
第62図	95区5号住居跡出土遺物	79	第141図	17区土坑(3)	170
第63図	95区6号住居跡(1)	81	第142図	17区土坑(4)	171
第64図	95区6号住居跡(2)	82	第143図	18区土坑(1)	172
第65図	95区6号住居跡(3)	83	第144図	18区土坑(2)	173
第66図	95区6号住居跡出土遺物(1)	85	第145図	18区土坑(3)	174
第67図	95区6号住居跡出土遺物(2)	86	第146図	18区土坑(4)	175
第68図	95区6号住居跡出土遺物(3)	87	第147図	18区土坑(5)	176
第69図	95区6号住居跡出土遺物(4)	88	第148図	18区土坑(6)・19区土坑(1)	177
第70図	95区7号住居跡	89	第149図	19区土坑(2)	178
第71図	95区7号住居跡出土遺物(1)	90	第150図	5区列石	180
第72図	95区7号住居跡出土遺物(2)	91	第151図	5区遺構外出土土器(1)	182
第73図	95区7号住居跡出土遺物(3)	92	第152図	5区遺構外出土土器(2)	183
第74図	95区7号住居跡出土遺物(4)	93	第153図	5区遺構外出土土器(3)	184
第75図	95区7号住居跡出土遺物(5)	94	第154図	5区遺構外出土土器(4)	185
第76図	95区8号住居跡	95	第155図	5区遺構外出土土器(5)	186
第77図	95区8号住居跡出土遺物(1)	96	第156図	5区遺構外出土土器(6)	187
第78図	95区8号住居跡出土遺物(2)	97	第157図	5区遺構外出土土器(7)	188
第79図	95区9号住居跡(1)	99	第158図	95区遺構外出土土器(1)	189

第159図	95区遺構外出土石器 (2)	190
第160図	95区遺構外出土石器 (3)	191
第161図	95区遺構外出土石器 (4)	192
第162図	95区遺構外出土石器 (5)	193
第163図	95区遺構外出土石器 (6)	194
第164図	95区遺構外出土石器 (7)	195
第165図	95区遺構外出土石器 (8)・土製円盤	196
第166図	5区遺構外出土石器 (1)	197
第167図	5区遺構外出土石器 (2)	198
第168図	5区遺構外出土石器 (3)	199
第169図	95区遺構外出土石器 (1)	200
第170図	95区遺構外出土石器 (2)	201
第171図	95区遺構外出土石器 (3)	202
第172図	95区遺構外出土石器 (4)	203
第173図	95区遺構外出土石器 (5)	204

第174図	95区遺構外出土石器 (6)	205
第175図	95区遺構外出土石器 (7)	206
第176図	95区遺構外出土石器 (8)	207
第177図	5区54号住居跡	209
第178図	5区57号住居跡	210
第179図	95区1号溝・17区1号溝	212

第4章第1節		
図1	第1地点(17区U-17)・第2地点の土層柱状図	265
図2	重鉍物組成ダイアグラム	267
第5節		
図1	中期出入り口施設を持つ住居跡(1)	283
図2	中期出入り口施設(埋壘)を持つ住居跡(2)	284
図3	中期出入り口施設(埋壘)を持つ住居跡(3)	287
図4	中期出入り口施設(埋壘)を持つ住居跡(4)	288

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧表	
第2表	住居跡計測表	213
第3表	建物跡計測表	214
第4表	土坑・ピット計測表	215
第5表	出土石器観察表	221
第6表	出土石器計測表	256
第4章		
第1節		
表1	重鉍物組成分析結果	267
表2	屈折率測定結果	267

第2節		
表1	長野原一本松遺跡5区60号住居跡出土炭化材樹種同定結果	271
表2	長野原一本松遺跡4区5号堅穴遺構出土炭化材樹種同定結果	272
表3	長野原一本松遺跡遺構別の検出樹種比較	271
第3節		
第1表	炭化種実出土一覧表	276
第4節		
表1	放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果	280

図版目次

口絵1	5区60号住居跡全景	60号住居跡炉体土器	60号住居跡炉体土器
口絵2	95区6号住居跡	95区44号土坑	
PL.1 長野原一本松遺跡遠景(西から) 平成14年度5区・95区調査範囲			
PL.2	5区58号住居跡全景	5区58号住居跡炉跡	5区58号住居跡北西部 5区58号住居跡土層 5区58号住居跡全景
PL.3	5区59号住居跡全景	5区59号住居跡炉跡	5区60号住居跡全景
PL.4	5区60号住居跡住居部敷石状況	5区60号住居跡張り出し部敷石状況	
PL.5	5区60号住居跡張り出し部敷石状況	5区60号住居跡張り出し部敷石状況	5区60号住居跡連結部敷石状況
	5区60号住居跡連結部敷石状況	5区60号住居跡炭化材出土状況	
PL.6	5区60号住居跡炭化材出土状況	5区60号住居跡炉内埋設土器(上位)	5区60号住居跡炉内埋設土器(上・下位)
	5区60号住居跡炉内埋設土器(下位)	5区60号住居跡床下状況	
PL.7	5区61号住居跡全景	5区61号住居跡1号炉	5区61号住居跡2号炉 5区61号住居跡埋壘 5区61号住居跡床下
PL.8	5区62号住居跡全景	5区62号住居跡炉跡	5区62号住居跡埋設土器 5区62号住居跡連結部石囲い施設
	5区62号住居跡炉掘り込み		
PL.9	5区63号住居跡全景	5区63号住居跡炉跡	5区64号住居跡全景 5区64号住居跡遺物出土状況 5区65号住居跡全景
	5区65号住居跡炉跡	5区66号住居跡全景	5区66号住居跡埋設土器
PL.10	95区3号住居跡全景	95区3号住居跡集石施設	
PL.11	95区3号住居跡埋壘	95区3号住居跡炉跡	95区3号住居跡炭化材出土状況 95区3号住居跡床下全景
	95区4号住居跡全景		
PL.12	95区4号住居跡埋壘上位の石	95区4号住居跡伏壘9	5区4号住居跡炉跡 95区4号住居跡埋壘
	95区4号住居跡遺物出土状況	95区4号住居跡遺物出土状況	95区4号住居跡遺物出土状況 95区5号住居跡全景
PL.13	95区6号住居跡全景	95区6号住居跡炉と出入り口部	
PL.14	95区6号住居跡炉跡	95区6号住居跡遺物出土状況	95区6号住居跡遺物出土状況 95区6号住居跡遺物出土状況
	95区6号住居跡床下	95区6号住居跡床下炉周辺	95区6号住居跡床下入り口部周辺 95区6号住居跡炉調査風景
PL.15	95区7号住居跡全景	95区7号住居跡炉跡	95区7号住居跡伏壘 95区7～9号住居跡全景 95区9号住居跡床下全景
PL.16	95区10号住居跡全景	95区10号住居跡炉跡	95区10号住居跡床下 95区10号住居跡出入り口部
	95区11号住居跡遺物出土状況		
PL.17	5区1号建物跡	95区2号建物跡	
PL.18	95区1号建物跡(柱痕)	95区1号建物跡完掘	
PL.19	5区1号堅穴状遺構	5区9号炉跡	5区10号炉跡 95区1号炉跡 95区2号炉跡 95区3号炉跡 95区4号炉跡
	95区5号炉跡		
PL.20	95区6号炉跡	95区7号炉跡	95区8号炉跡 95区9号炉跡 95区10号炉跡 95区11号炉跡 95区12号炉跡
	95区13号炉跡		
PL.21	95区14号炉跡	95区15号炉跡	95区16号炉跡 5区8号埋壘 5区8号集石 95区1号集石 5区754号土坑
	5区754号土坑		
PL.22	5区762号土坑	5区765号土坑	5区755号土坑 95区44号土坑 95区44号土坑 95区51号土坑 95区67号土坑
PL.23	5区628号土坑	5区678号土坑	5区679号土坑 5区680号土坑 5区711号土坑 5区714号土坑 5区715号土坑
	5区716号土坑	5区717号土坑	5区718号土坑 5区719号土坑
PL.24	5区720号土坑	5区721・722号土坑	5区722・723号土坑 5区724号土坑 5区726号土坑 5区727号土坑
	5区728号土坑	5区729号土坑	5区730号土坑 5区731号土坑 5区732号土坑 5区733号土坑 5区734号土坑
	5区735号土坑	5区736号土坑	
PL.25	5区736号土坑	5区737号土坑	5区738号土坑 5区739号土坑 5区740号土坑 5区741号土坑 5区742号土坑
	5区743号土坑	5区746号土坑	5区747号土坑 5区745号土坑 5区748号土坑 5区749号土坑 5区750号土坑
	5区751号土坑		
PL.26	5区752号土坑	5区753号土坑	5区755号土坑 5区756号土坑 5区757号土坑 5区758号土坑 5区759号土坑
	5区760号土坑	5区761号土坑	5区763号土坑 5区764号土坑 5区766号土坑 5区767号土坑 5区768号土坑
	5区769号土坑		

PL.27	5区770・772号土坑	5区773号土坑	5区777号土坑	5区778号土坑	5区779号土坑	5区781号土坑
	5区782号土坑	5区785号土坑	5区786号土坑	5区791号土坑	5区798号土坑	5区799号土坑
PL.28	95区29号土坑	95区30号土坑	95区31号土坑	95区32号土坑	95区33号土坑	95区34号土坑
	95区36・37・38号土坑	95区39号土坑	(5区65住柱穴)	95区40号土坑	(5区65住柱穴)	95区42号土坑
PL.29	95区43号土坑	95区45号土坑	95区46号土坑	95区47号土坑	95区48号土坑	(95区1号建物柱穴) 95区49号土坑
	95区50号土坑	95区52号土坑	95区53号土坑	95区55号土坑	95区56・60号土坑	95区57号土坑 (95区8号集石)
	95区58号土坑	95区59号土坑	95区61号土坑			
PL.30	95区62号土坑	95区63号土坑	95区64号土坑	95区65号土坑	95区66号土坑	95区69号土坑
	95区71号土坑	95区72号土坑	95区73号土坑	95区74号土坑	95区75号土坑	95区76号土坑
	95区79号土坑					
PL.31	5区141号ピット	5区150号ピット	5区160・161号ピット	95区98号ピット	(95区1号建物柱穴)	
	95区111号ピット	(95区1号建物柱穴)	95区119号ピット	95区123号ピット	95区109号ピット	(95区1号建物柱穴)
	95区122号ピット	(95区1号建物柱穴)	95区136号ピット	(95区2号建物柱穴)	5区倒木痕調査風景	
PL.32	17区2号土坑	17区3号土坑	17区4号土坑	17区5号土坑	17区6号土坑	17区7号土坑
	17区9号土坑	17区10号土坑	17区11号土坑	17区12号土坑	17区13号土坑	
PL.33	17区14号土坑	17区15号土坑	17区16号土坑	17区17号土坑	17区18号土坑	17区19号土坑
	17区21号土坑	17区22号土坑	17区23号土坑	17区24号土坑	17区25号土坑	17区26号土坑
	17区28号土坑					
PL.34	17区29号土坑	17区30号土坑	17区31号土坑	17区32号土坑	17区33号土坑	17区34号土坑
PL.35	18区4号土坑	18区6号土坑	18区7号土坑	18区2号土坑	18区3号土坑	18区5号土坑
	18区9号土坑	18区11号土坑				
PL.36	18区10号土坑	18区22号土坑	18区調査風景	18区13号土坑	18区14号土坑	18区15号土坑
	18区17号土坑	18区19号土坑				
PL.37	18区20号土坑	18区土坑群	18区土層	18区土坑遠景	19区3号土坑	19区4号土坑
	19区6号土坑	19区7号土坑				19区5号土坑
PL.38	19区8号土坑	19区9号土坑	19区10号土坑	19区遠景調査風景調査風景	17区埋設土器	17区1号溝
PL.39	5区列石調査風景調査風景	5区遺構外(Q-5)	遺物出土	5区遺構外(P-2)	遺物出土	
	5区遺構外(P-4)	遺物出土調査風景	95区遺構外(S-22)	遺物出土	95区遺構外(Q-21)	遺物出土調査風景
	95区遺構外(P-22)	遺物出土	95区遺構外(N-20)	遺物出土		
PL.40	5区54号住居跡全景	5区57号住居跡全景				
PL.41	5区58号住居跡出土遺物・5区60号住居跡出土遺物					
PL.42	5区60号住居跡出土遺物					
PL.43	5区60号住居跡出土遺物					
PL.44	5区60号住居跡出土遺物・5区61号住居跡出土遺物					
PL.45	5区61号住居跡出土遺物					
PL.46	5区61号住居跡出土遺物・5区62号住居跡出土遺物					
PL.47	5区63号住居跡・5区64号住居跡・5区65号住居跡・5区66号住居跡出土遺物					
PL.48	95区3号住居跡出土遺物					
PL.49	95区3号住居跡出土遺物・95区4号住居跡出土遺物					
PL.50	95区4号住居跡出土遺物					
PL.51	95区4号住居跡出土遺物・95区5号住居跡出土遺物					
PL.52	95区6号住居跡出土遺物					
PL.53	95区6号住居跡出土遺物					
PL.54	95区7号住居跡出土遺物					
PL.55	95区7号住居跡出土遺物					
PL.56	95区8号住居跡出土遺物・95区9号住居跡出土遺物					
PL.57	95区9号住居跡出土遺物					
PL.58	95区10号住居跡出土遺物・95区11号住居跡出土遺物					
PL.59	5区1号竪穴状遺構・8号埋壘・9号炉・10号炉・95区3号炉・5号炉・7号炉・13号炉出土遺物					
PL.60	5区8号集石・95区1号集石・5区土坑出土遺物					
PL.61	5区土坑出土遺物					
PL.62	5区土坑出土遺物					
PL.63	5区土坑出土遺物					
PL.64	5区土坑出土遺物・ピット出土遺物・95区土坑出土遺物					
PL.65	95区土坑出土遺物					
PL.66	95区土坑出土遺物・ピット出土遺物					
PL.67	95区ピット出土遺物					
PL.68	17区1号埋設土器・5区遺構外出土土器					
PL.69	5区遺構外出土土器					
PL.70	5区遺構外出土土器					
PL.71	5区遺構外出土土器・95区遺構外出土土器					
PL.72	95区遺構外出土土器					
PL.73	95区遺構外出土土器					
PL.74	95区遺構外出土土器・土製円盤					
PL.75	5区遺構外出土土器					
PL.76	95区遺構外出土土器					
PL.77	95区遺構外出土土器					
PL.78	遺構外出土土器					

第4章

第2節

- 図版1 長野原一本松遺跡住居跡(5区60号・4区5号)出土炭化材樹種(1)
- 図版2 長野原一本松遺跡住居跡(5区60号・4区5号)出土炭化材樹種(2)
- 図版3 長野原一本松遺跡住居跡(5区60号・4区5号)出土炭化材樹種(3)

第3節

- 図版1 炭化した炭化種実

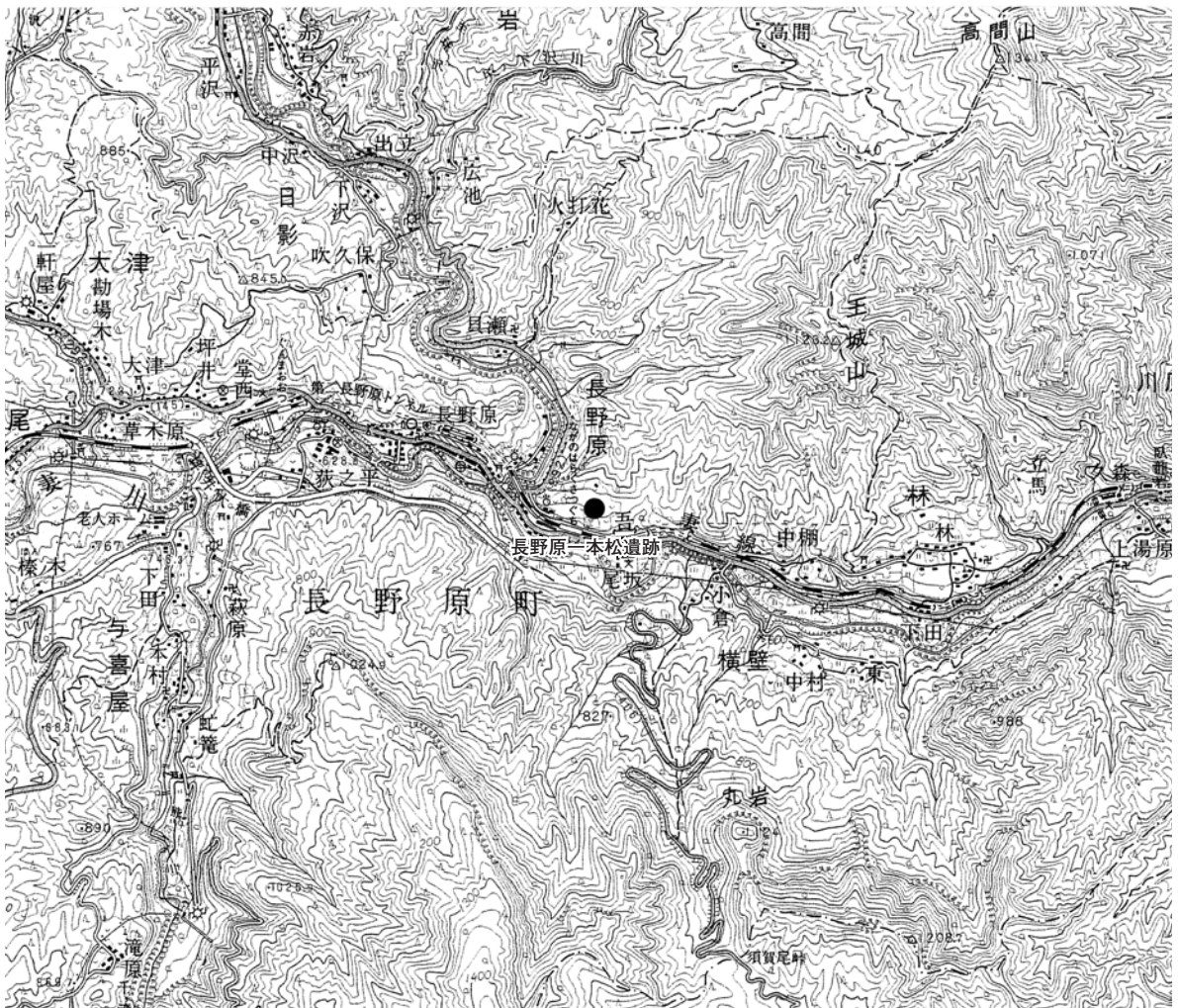
第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財調査は、平成6年に始まり現在に至る。その間、様々な遺跡に発掘調査が及び、また調査報告書も年次を重ねるに従い数も増やしている。長野原一本松遺跡の報告書も本書で4冊を数え、各書に調査に至る経過や調査方法が記されている。そのため本書では調査に至る経過・調査方法は概略に止め、詳細は前3冊に譲るものとする。

第1節 発掘調査に至る経過

長野原一本松遺跡の調査は、ハッ場ダム建設に伴う発掘調査で平成6年度より着手された。当初は工事用道路やモデル造成地建設が主な調査原因であったが、平成10年度より代替地建設に伴う調査も併用され、各年度毎に調査が進められていった。

平成14年度の調査は代替地対象である遺跡のほぼ中央の5区・95区が調査対象となり、さらに遺跡の北側に当たる箇所、県道林・長野原線建設に伴う調査として17～19区を調査した。14年度調査面積は約6400㎡である。



第1図 長野原一本松遺跡の位置図

第2節 発掘調査の方法

本遺跡の発掘調査は多年次にわたる。さらにその調査範囲も遺跡のほぼ全域にあたり広大な面積を対象としている。そのため調査方法やその記録方法など、統一した方法で行われ、各年度・各調査区で記録の不備が無いようにしている。例えば、グリッド設定方法や遺構名称の付け方、図面・写真の記録方法など、調査年度や調査区が変わっても、均質な記録を取るようにした。

グリッドに関しては、遺跡全体を覆う形でグリッド設定を行った。日本平面直角座標第Ⅸ系を使用し、1km方眼の大グリッド「地区」を設定し、さらにこの中を100m方眼の中グリッド「区」に分けた。この「区」が調査区を表す名称として、調査及び整理（報告書）でも使用されている。

中グリッド「区」の中をさらに4m方眼で細分したものを最小グリッドとして使用している。このグリッドの呼称は、中グリッドの南東隅を起点とし、北方向に1～25までの数字を付し、西方向へA～Yまでのアルファベットを付した。こうして設定した最小グリッドの呼称は中グリッド「区」、小グリッドの南東交点を付け4m方眼名とした（例95区A-1）。

遺構番号は「区」毎に1から付し、年度を超える場合でも続き番号を使用した。このため年度を跨いで調査を行った遺構については同番号を用いている。

尚、中グリッド番号は八ッ場ダム関連の長野原町内の遺跡を覆うようになっており、各遺跡も同様のグリッド呼称方法がとられている。

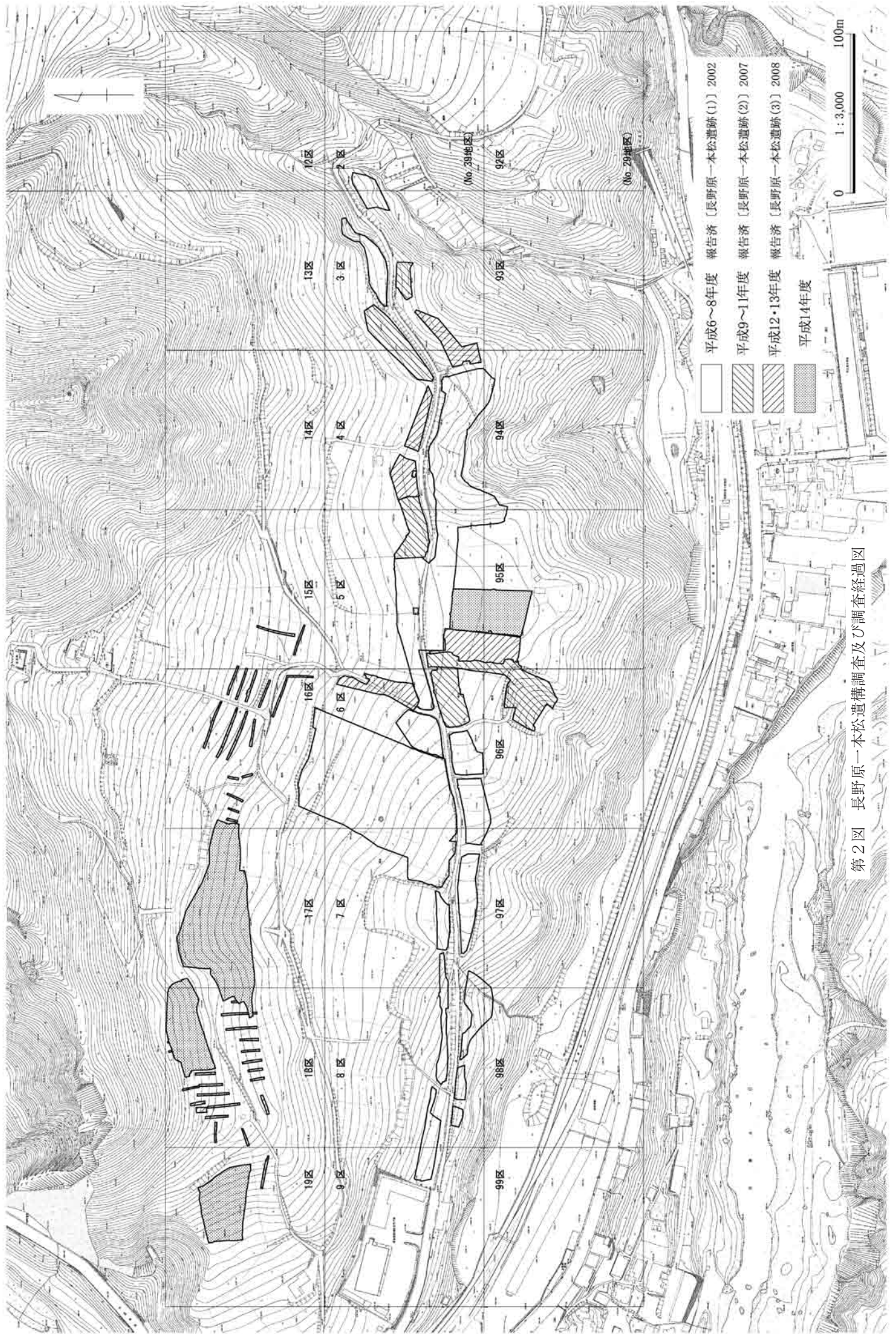
また、本書で取り扱う平成14年度調査は、発掘調査作業員の雇用・管理を請負制度とし、調査全体の省力化を図った。

第3節 調査の経過

平成14年度における長野原一本松遺跡の調査は、通年ではなく、年度途中同じ八ッ場ダム関連の立馬Ⅱ遺跡の調査にも携わっている。立馬遺跡の調査は年度当初より予定されてはいなかったものの、大きな支障もなく調査班の移動を果たしている。年度後半に再び長野原一本松遺跡に戻り5区・95区の調査を継続したが、当調査区は縄文時代中期～後期集落の中核部分にあたり、良好な敷石住居跡等住居跡21軒、建物跡3棟・土坑140基余りなど充実した遺構量を調査した。冬期にさしかかり、11・12月は降霜・降雪などに悩まされ、遺構面の保護を重ね調査を完遂した。

以下は調査抄録である。

平成14年			
4月初旬	18区より調査着手。重機による表土掘削 作業員による遺構確認。土坑数基の調査	10月中旬	5区・95区2面目の調査継続 住居跡・土坑等遺構密度高い。
4月中旬	17区・19区の調査着手。重機による表土掘削 作業員による遺構確認。各区土坑10数基の調査	10月下旬	5区・95区2面目の調査継続 5区住居跡調査・95区土坑調査を主に進める
4月下旬	18区調査終了	11月初旬	5区・95区2面目の調査継続 5区60号住居跡等写真・遺構図記録
5月初旬	19区遺構測量・調査終了 17区2面目の調査面。谷地形検出 5区・95区調査着手。		95区住居跡調査。包含層調査時に住居跡1軒検出 町内・県外からの見学者多い
5月中旬	17区遺構測量・調査終了 5区・95区1面目の調査継続。 5区 平安時代住居跡・陥穴縄文時代土坑・溝・列石の 調査	11月中旬	5区・95区2面目の調査継続 5区60号住居跡・5区3号住居跡 炭化材の観察・取り 上げ
5月下旬	95区 土坑・溝の調査 5区・95区1面目の調査継続	11月下旬	ラジコンヘリによる空撮 5区・95区2面目の調査継続
	17区追加部分調査着手 立馬Ⅱ遺跡への移動準備	12月初旬	遺構図・写真記録・遺物取り上げが主な作業 5区・95区2面目の調査継続
6月初旬	17区調査終了 5区・95区1面目調査終了 立馬Ⅱ遺跡へ移動		5区60号住居跡炉体土器取り上げ・敷石取り上げ 降雪日が続く
10月初旬	調査再開 5区・95区2面目の調査 58～60号住居調査等	12月中旬	5区・95区2面目の調査継続 5区60号住居跡炭化材・掘立柱建物跡の柱材保存処理
		12月下旬	5区・95区2面目の調査終了へ 95区旧石器試掘 12月末、調査終了。調査区埋め戻し



第2図 長野原一本松遺構調査及び調査経過図

第2章 地理的及び歴史的環境

前章冒頭でも述べたように、長野原一本松遺跡に関する報告書は3冊が既刊されており、本章の遺跡を取り巻く環境も詳細に述べられている。重複する記述を避けるため、概略のみを記述する。

第1節 地理的環境

長野原一本松遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原に所在する。吾妻川左岸の河岸段丘3面に位置し、吾妻川と白砂川合流点の北東に広がる河岸段丘と山地地形が周辺の景観である。対岸には丸岩山や須賀尾峠を臨み、吾妻渓谷上流の山地地形にあつて、比較的平坦面が広がる河岸段丘を選び、集落が営まれた遺跡として、本遺跡の地理的な位置付けがある。

遺跡の中心は南側への緩やかな傾斜面が安定して続く洪積台地上に占地する。南側の延長は、傾斜を強め急峻な段丘崖へと至る。本遺跡調査区17～19区にあたる北側は、山地地形が連続した急斜面地形にあたり、集落跡としては居住区からは外れ、陥穴や土坑が検出されている。東側は台地東縁を区切る小河川「とちのき沢」が吾妻川へ流れ込む。遺構密度は少ないが、「とちのき沢」の対岸は幸神遺跡となっている。西側も遺構密度は少なく、陥穴等が調査されているが、比較的緩やかな斜面地形が続き白砂川へ延長する。この西側斜面は、当遺跡地への主要な導線として現在も道路として供されている。

さて、吾妻川は長野県境の鳥井峠に端を発し、途中湯尻川や万座川を合流し本遺跡周辺に至る。さらに白砂川は、新潟県境の山麓部に端を発し、本遺跡の南西で吾妻川と合流する。このことから、長野原一本松遺跡は長野県と新潟県との主要なルートを結ぶ分岐点の一角を担う箇所にある遺跡といえよう。

第2節 歴史的環境

周辺の遺跡は、近年のハツ場ダム建設に関わる調査で年々増加しており、その資料の充実ぶりは他の地域を圧倒する。本書でも概略は述べるが、将来的には考古学的な評価を加えた詳細な遺跡分布を提示する必要がある。

旧石器時代

現在のところ、該期遺跡の存在は知られていない。ハツ場ダム関連の当事業団調査でも、ロームが遺存する遺跡では必ず旧石器試掘を行い、その存在を確認しているが、良好な例は検出されていない。しかしながら、縄文時代草創期遺跡は調査されていることから、また広域な周辺地域の様相からも、旧石器時代遺跡の存在は可能性が高く、今後の綿密な調査を期待したい。

縄文時代

草創期・早期：川原畑石畑岩陰遺跡では多縄文系土器群の出土が知られる。林楡木Ⅱ遺跡でも草創期の土器が出土している。現状のところ台地上での出土例が知られるが、今後調査が河川低位段丘に及んだ場合、草創期資料の充実が予想されよう。早期に関しても、近年飛躍的に出土例が増加している。前述の林楡木Ⅱ遺跡や立馬Ⅱ遺跡・三平遺跡でも早期撚糸文・押型文・沈線文系の土器がまとまって出土している。早期末葉に比定される条痕文系土器が三平遺跡で報告されている。さらに、平成19年度調査では、立馬Ⅲ遺跡では条痕文系土器のまとまった出土が見られた。

前期：初頭～前葉の資料としては、立馬Ⅰ遺跡・三平遺跡で羽状縄文系土器である花積下層式や関山式が出土している。いずれも従来当地域では出土例の希薄な例で、好資料といえよう。集落跡の存在も可能性が高い。前期後葉の資料に関しては、平野部に見るような大集落は検出されていない。しかしながら、諸磯a式土器は三平Ⅱ遺跡で土坑から、楡木Ⅲ遺跡では諸磯b式土器が包含層から、三平Ⅱでは諸磯c式土器と信州系土器の土坑共伴が見られ、平野部該期集落跡とは様相を異にする集落立地・土器様相があるようだ。前期末資料としては三平Ⅱで十三菩提式が包含層より出土している。

中期：初頭の資料としては立馬Ⅱ遺跡が充実する。五領ヶ台式や深沢式、大木7b式が住居跡出土としてまとまる。さらに当遺跡では、前葉段階である阿玉台Ⅰa式～Ⅱ式、勝坂1式が出土することから、中期段階といえども大型台地居住に限らず、狭小な山地状台地も選択する傾向が把握された。中期中葉段階では上ノ平遺跡で焼町土器や三原田類型等が多量に共伴する31号住居跡が調査されている。また、幸神2号住居跡では焼町土器が炉体土器として使用されていた。後葉段階は、長野原一本松遺跡や横壁中村遺跡、坪井Ⅱ遺跡等が知られる。これらの大型集落跡に付随し山根遺跡や幸神遺跡のような小規模遺跡が存在する領域景観は重要である。

後期：厳密な継続占地ではないものの、長野原一本松遺跡や横壁中村遺跡では後期初頭～前半の集落が安定する。向原遺跡も同様な例と思われる。林中原遺跡や林上原遺跡でも住居跡が調査されていることから、周辺に大型集落が存在するのであろう。また、上ノ平遺跡でも敷石住居跡が調査されている。しかしながら、後葉段階になると、遺跡数は減少し、長野原一本松遺跡や横壁中村遺跡に資料が見られる程度である。

晩期：他の地域に見られるような大量の出土遺物を持つ遺跡は現状のところ調査されていない。散在的な集落立地なのであろうか。特に晩期前葉～中葉の資料は貧弱であり、横壁中村遺跡に数点をみる程度である。後葉段階～末葉に至ると若干ながら資料は増加し、横壁中村遺跡や下原遺跡、立馬遺跡で出土土器を見ることができる。

弥生時代

川原湯勝沼遺跡で晩期末～弥生前期に比定される甕棺墓が報告されている。中期では、横壁中村遺跡・立馬Ⅱ・三平Ⅰ遺跡などで出土土器を見ることができる。

古墳時代

これまで、古墳時代集落・墳墓は当地域では存在し得ないといわれてきたが、近年の調査で下原遺跡・林中原遺跡で中期住居跡が検出されている。今後も注意を要しよう。

奈良・平安時代

大規模な集落跡は調査されていないが、各遺跡で数軒単位の住居跡を見る。時期は9世紀～10世紀を中心としており、生業を含めた集落研究が必要であろう。また、これまで縄文時代に比定されてきた陥穴状土坑も、林花畑遺跡の調査成果により平安時代及びそれ以降に時期を充てる可能性が強くなっている。

中世～近世

各遺跡で中世に比定される遺構・遺物が検出されている。また、周辺には城館址が点在しており、例えば長野原城や柳沢城が知られる。平成19年度調査では林中原遺跡で城跡が検出され、良好な石垣・土橋等が確認されている。近世では、下位段丘の各遺跡で天明3年の浅間山噴火に伴う泥流下の畠跡や建物跡が調査されている。

第2章 地理的及び歴史的環境

第1表 周辺の遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
1	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡、大形の掘立柱建物、敷石住居などを検出、平安時代の住居、中世の掘立柱建物や多くの土坑等が検出されている。	平6～17年度、埋文事業団調査 本書は平9～11年度調査分の報告	2002(平6～8年度調査分)
2	幸神遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑。陥し穴。	平8・9・17年度埋文事業団調査	
3	尾坂遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑・建物跡。	平6・7・11・18年度、埋文事業団調査	
4	御嶽山岩陰	長野原町林	縄文・弥生	岩陰遺跡。		
5	峰ツ沢岩陰	長野原町林	縄文?	岩陰遺跡。打製石斧出土。		
6	楡木Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	散布地		
7	楡木Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の住居跡	平12・13年度、埋文事業団調査	
8	楡木Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・弥生	縄文時代前期・後期、弥生時代の包含層。	平9年度、埋文事業団調査	
9	滝沢観音岩陰	長野原町林	中世・近世	岩陰遺跡。「滝沢観音」の堂宇と石仏群あり。		
10	二反沢遺跡	長野原町林	中世・近世	中世の石垣を伴う造成跡、近世水路、畑跡。(旧大乘院堂跡)	平12年度、埋文事業団調査	⑪
11	中棚Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・平安	散布地		
12	中棚Ⅱ遺跡	長野原町林	近世	天明三年泥流下の畑、および安永九年と考えられる埋没畑等。	平11～13・15年度、埋文事業団調査	⑤⑥
13	下原遺跡	長野原町林	古墳・近世	天明三年(1783)泥流下の畑、中世の畑、古墳時代の住居跡等	平12・16年度、埋文事業団調査	⑤
14	林宮原遺跡	長野原町林	古墳・平安	古墳時代の住居跡1、平安時代の住居跡6、土坑6。	平15年度、町教委調査	市教委 2004
15	林中原Ⅰ遺跡	長野原町林				
16	林中原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期の敷石住居、晩期の土器片。	平15年度、町教委調査	
17	下田遺跡	長野原町林	平安・近世	散布地		
18	上原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期の敷石住居跡。	平15年度、町教委調査	
19	上原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	散布地		
20	上原Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文	散布地		
21	上原Ⅳ遺跡	長野原町林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。	平15年度、埋文事業団調査	
22	花畑遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住居跡、陥し穴群。	平9～12年度、埋文事業団調査	
23	林の御塚	長野原町林	中世・近世	寛永二年(1625)に「権大僧都法印村信」の墳墓として築造されたと伝えられる。古墳の可能性も。	長野原町指定	
24	東原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代土器片、陥し穴。	平6・9年度、埋文事業団調査	
25	東原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10年度埋文事業団調査	
26	東原Ⅲ遺跡	長野原町林	平安・近世	散布地		
27	立馬Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期・晩期の住居跡。弥生時代中期後半の土器棺墓。	平13・14年度、埋文事業団調査	⑬
28	立馬Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代草創期・早期の土器・石器。中期初頭～前半の住居跡9軒、中期後半の住居跡1軒。平安時代前後の陥し穴等。	平14・15年度、埋文事業団調査	⑩
29	立馬Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期土器。後期敷石住居跡。平安時代以降の陥し穴等	平成19年度 埋文事業団調査	
30	川原湯勝沼遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安・近世	縄文時代晩期の埋設土器、古墳時代の遺物、平安時代の住居跡、天明三年泥流下の畑。	平15・16年度、埋文事業団調査	⑧
31	横壁勝沼遺跡	長野原町横壁		縄文時代中期～後期の土器片、槍先形尖頭器出土。	平6・7年度、埋文事業団調査	
32	横壁中村遺跡	長野原町横壁	縄文・弥生 平安・中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡、縄文時代晩期、弥生時代の土器片、平安・中世の遺構・遺物。	平8～17年度、埋文事業団調査	⑤⑦⑨⑫
33	山根Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文・平安	散布地、磨製石斧、石鏃、石棒などの石器類出土		
34	山根Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安・近世	散布地。		
35	山根Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居、土坑調査。	平10・13年度、埋文事業団調査	
36	山根Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	石器出土		
37	西久保Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代後期の住居、水場を検出	平6・10・12年度、埋文事業団調査	
38	西久保Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安	散布地。		
39	西久保Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
40	西久保Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
41	柳沢城跡	長野原町横壁	中世	別城一郭付随と呼ばれる特殊な構造、曲輪、堀、土居などを検出、常滑、瀬戸、美濃、珠洲焼、さらには中国陶磁などが出土。	平5年度、町教委調査	
42	久々戸遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑、建物跡、縄文時代の土器片。	平9・10・15年度、埋文事業団調査	⑤⑥
43	向原遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生 平安	縄文時代中期後半～後期の住居跡3軒・敷石住居2軒、土坑群。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居跡10軒を検出。	平5年度、町教委調査	
44	嶋木Ⅰ遺跡	長野原町長野原	近世	天明泥流下の畑跡、近世の陶磁器片。	平16年度、町教委調査	市教委 2004
45	嶋木Ⅱ遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期の土器片、石器出土。		
46	嶋木Ⅲ遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の石鏃、石錐等出土。		
47	長野原城跡	長野原町長野原	中世	土塁や堀切・物見台などが残る。長野原合戦の舞台となる。		

参考文献

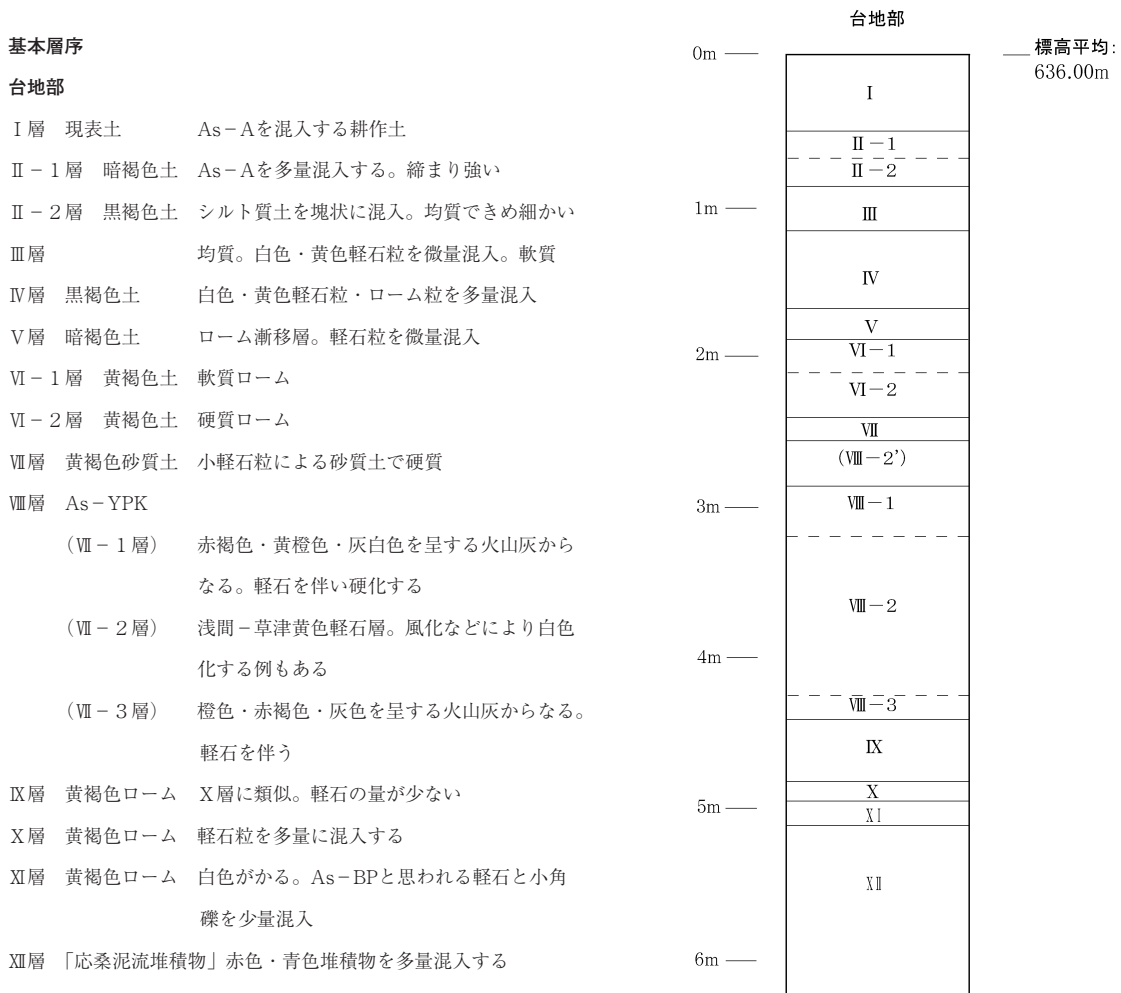
- ①長野原町 『長野原町誌』 上巻 1976
- ②長野原町 『長野原町の自然』 1988
- ③群馬県埋蔵文化財調査事業団 『長野原一本松遺跡(1)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 2002
- ④群馬県埋蔵文化財調査事業団 『ハツ場ダム発掘調査集成(1)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集 2002
- ⑤群馬県埋蔵文化財調査事業団 『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集 2003
- ⑥群馬県埋蔵文化財調査事業団 『久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 2004
- ⑦群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横壁中村遺跡(2)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 2005
- ⑧群馬県埋蔵文化財調査事業団 『川原湯勝沼遺跡(2)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第6集 2005
- ⑨群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横壁中村遺跡(3)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 2006
- ⑩群馬県埋蔵文化財調査事業団 『立馬Ⅱ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 2006
- ⑪群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9集 2006
- ⑫群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横壁中村遺跡(4)』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 2006
- ⑬群馬県埋蔵文化財調査事業団 『立馬Ⅰ遺跡』 ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第11集 2006

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 基本層序

ハッ場ダム建設に関わる発掘調査は、当事業団がかつて経験のない規模である広域な地域を対象とした調査である。そのため、調査資料もその蓄積が、将来的な考古学研究に寄与するものとして位置付けられている。基本層序もその一つで、各遺跡での層位データの蓄積は、相互の比較資料となり、当地域の考古学的層位の様相を明らかにするものである。故に小規模の発掘調査でも基本層序資料は作成するべきであり、当事業団調査でも継続的なデータ取得を重ねてきている。

長野原一本松遺跡での基本層序は、各年度調査・各調査区毎に記録化を果たしてきた。その結果、台地部分における層序はほぼ把握され、既刊報告書である長野原一本松遺跡(1)・(2)で提示されている。そのため、本書では台地部分層位のみを概略を記すに止める。



第3図 基本層序

第2節 遺構遺物の概要

本報告書は、長野原一本松遺跡平成14年度調査分を掲載している。平成14年度は前述のように、5区・95区・17～19区の調査を行った。このうち5区・95区は複数年次にまたがる調査区であり、全容を本報告書では提示できない。本章では、平成14年度調査に限り、その検出遺構と出土遺物の概要を掲載するが、遺跡の全体感や総括的な性格は、長野原一本松遺跡最終刊報告書にまとめてみたい。

ここでは、平成14年度調査分に限り、検出された遺構・遺物についてその概要を以下に述べる。

縄文時代中期

主に95区で調査された住居跡が良好な例を呈する。3号住居跡～11号住居跡があたる。本遺跡で検出された環状集落跡の中央部～南側である台地の縁辺部に位置する。いずれも円形～五角形を平面形とした、掘り込みのしっかりした住居跡である。殆どが中央部付近に石囲い炉を持ち、壁際に周溝を巡らす。このうち、3号住は北壁際に集石施設を設けている。入り口施設あるいは祭壇状施設としての性格を想起させるが、類例を集めて検討を要しよう。4号住は南側壁際に伏甕を置く。伏甕は7号住にも認められている。6号住は卵形の平面形で大型の炉を持つ。特筆すべきは南側壁に出入り口施設と思われるピットを設ける例である。出入り口部を検出した住居跡は他にも3号住・4号住・9号住・10号住があり、いずれも南壁際にその痕跡を見出すことができた。5区では、61号住と64号住が中期土器を出土するが、61号住も出入口施設としての埋甕を有す。

出土遺物は、概ね中期後半の所産である。関東系の加曾利E式に加え、唐草文系土器が主体となる遺構もある。さらに、新潟県域の土器文様の影響を受けた例や大木9式も少量ながら出土している。

縄文時代後期

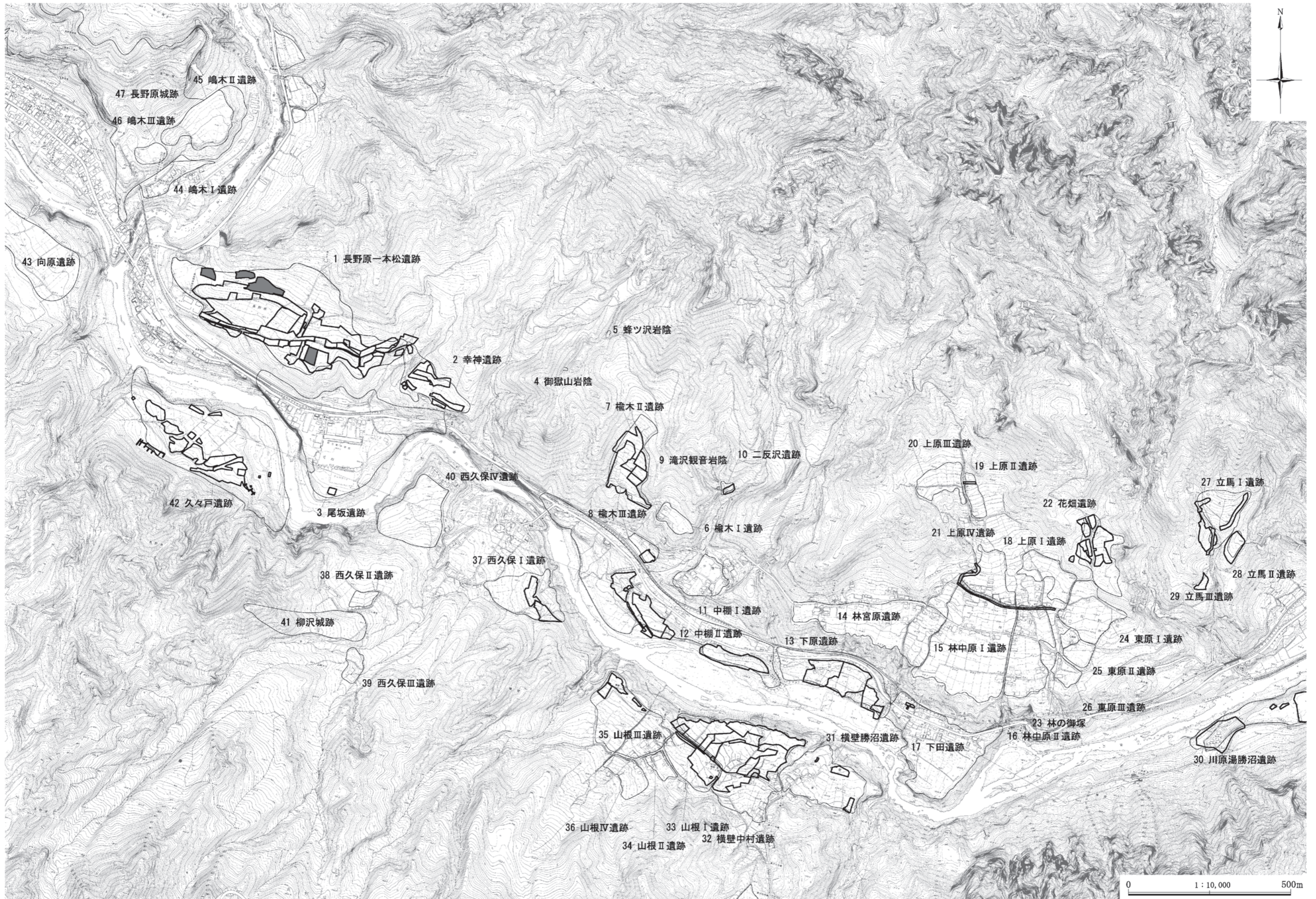
5区の敷石住居跡群が目立つが、95区などにも土坑出土土器として称名寺式等が見られる。敷石住居跡は60号住が特出する。全面敷石で床面には炭化材が残る。さらに張出し部壁には積み石が観察され、立体的な景観を見せた。60号住、62号住とも炉内に土器を埋設する特徴を有す。その他の敷石住居跡は、柱穴や炉の存在から、平面形を推測した経緯を持つが、全て南側に張り出し部を持ち、対ピットも確定的な様相を示している。環状集落内で敷石住居群が、群在する傾向は極めて特徴的であり、本遺跡環状集落跡の全貌が提示された際に、中核的な後期住居群となろう。出土遺物は堀之内1式と2式を主体としており、称名寺式と加曾利B1式がやや客体的ながら少量見ることができる。

尚、5区・95区とも石鏃の出土量が多く、また石錐も比較的量を見る。さらに軽石製品もあり、通常の打製石斧－磨石類という環状集落内石器群に石錐と軽石製品が加わる様相と考えられよう。

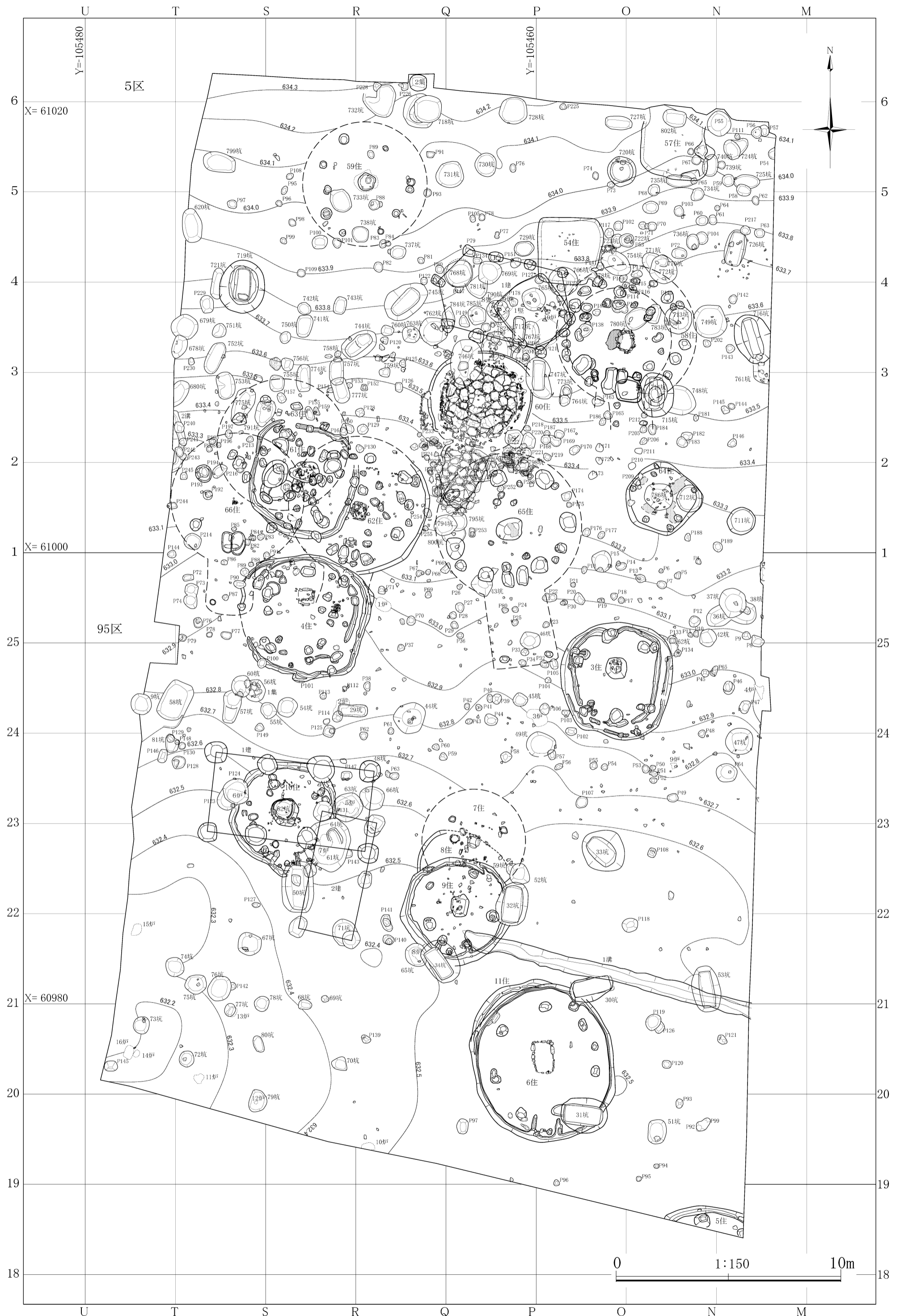
平安時代 5区北側で54号住と57号住が平安時代住居跡として調査された。単独の検出で、カマドを設けるものの、出土遺物も無いため時期・生業など詳細には至らないが、従来の本遺跡該期住居跡の例から、概ね9世紀の所産と判断している。

陥穴

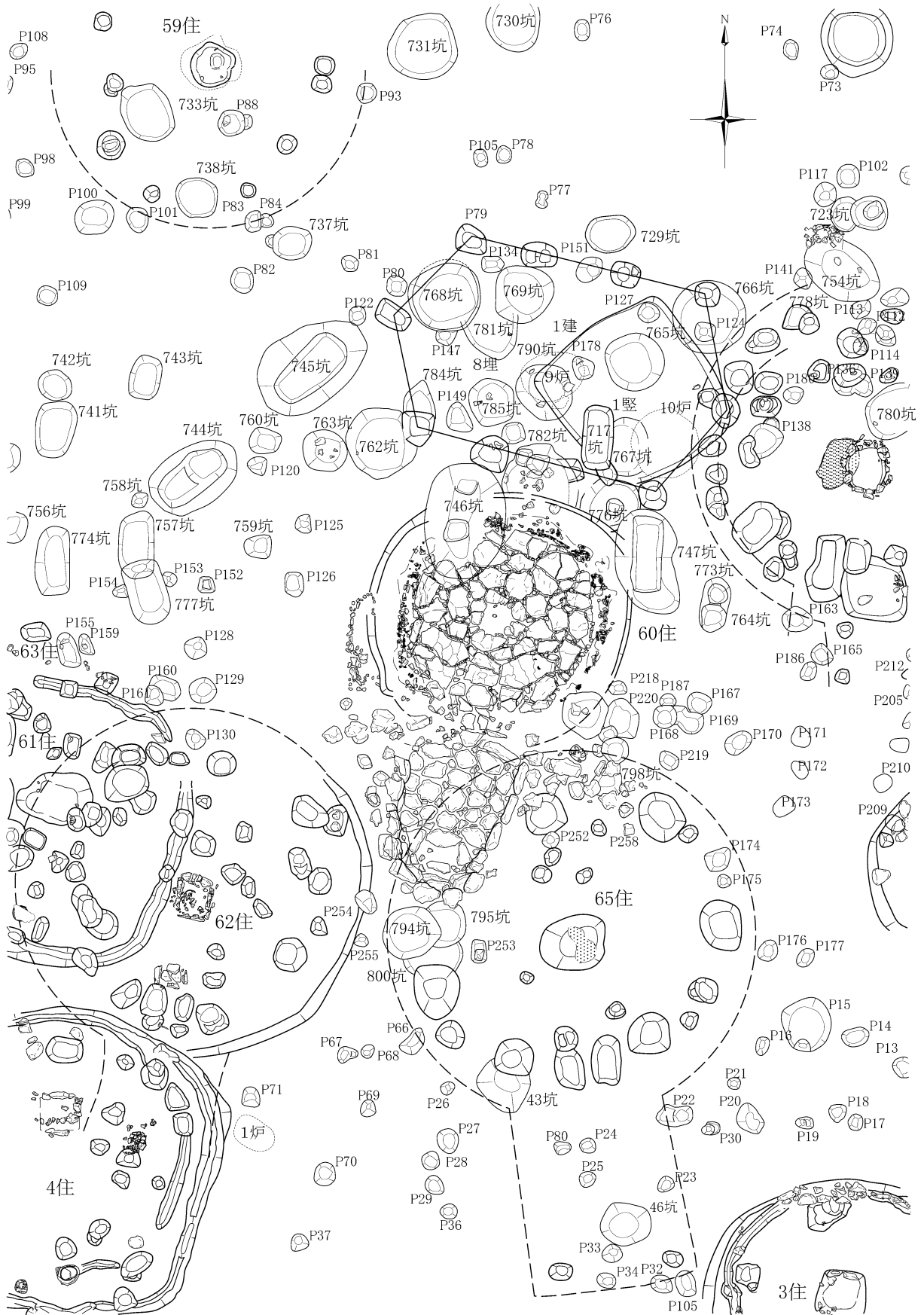
5区・95区・17～19区で陥穴状土坑が多数検出されている。陥穴は従来縄文時代の所産と捉えられてきたが、近年の調査では重複遺構との検討を重ね、平安時代以降の時期を与える例が増えてきている。おそらく本遺跡でも5区・95区で検出した陥穴は平安時代～中世と思われる。反面、18区で見ることのできる、溝状の陥穴は縄文時代に遡る可能性もあり、一概に全ての陥穴に時期を与えて報告は不可能である。本書では、一括して縄文時代土坑の中で、陥穴を扱うが、中世に下る例もあることは常に注意したい。



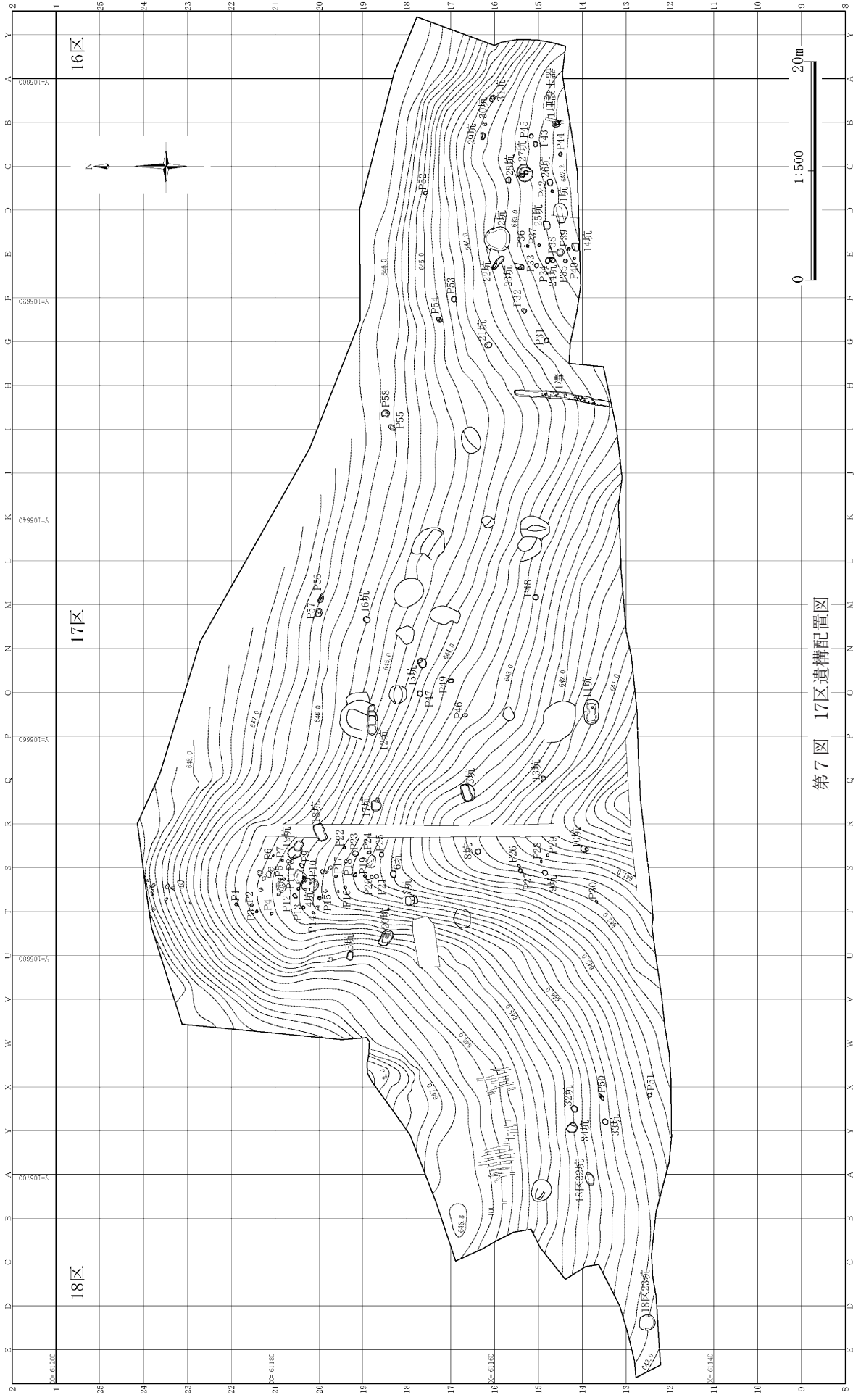
第4図 周辺の遺跡



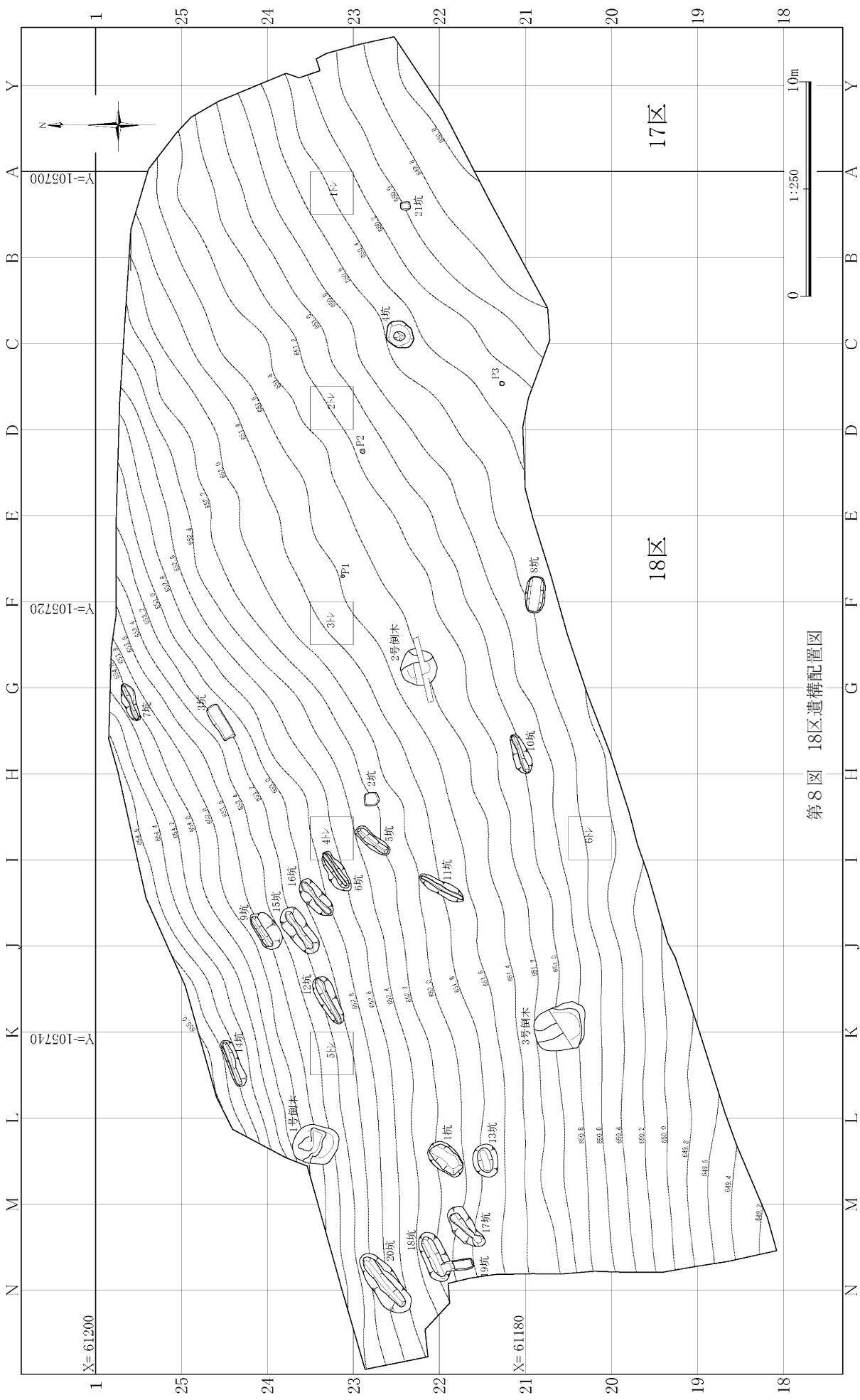
第5图 5·95区遺構配置図



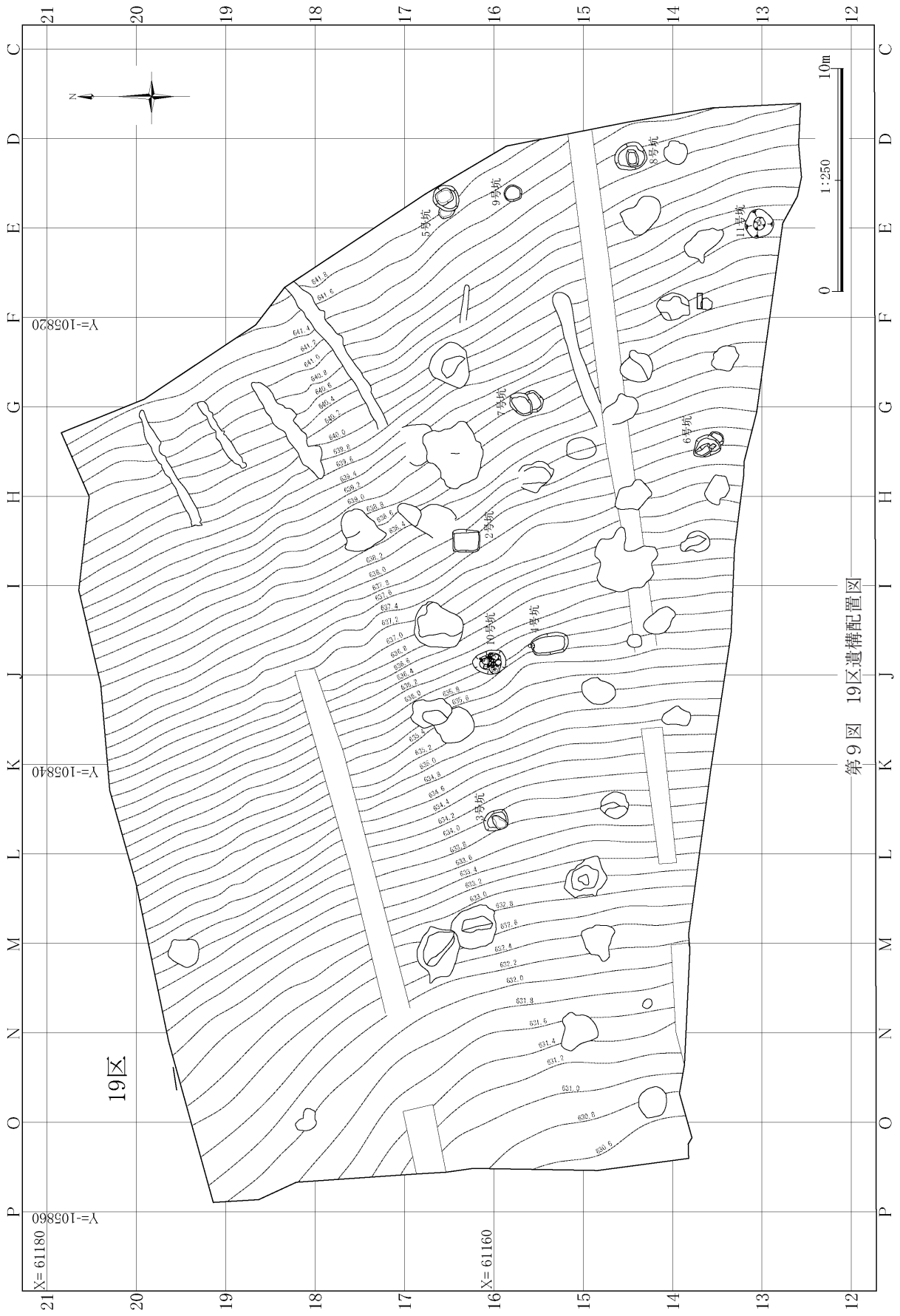
第6図 5区60号住周辺遺構配置図 (1:100)



第7図 17区遺構配置図



第8图 18区遺構配置図



第9图 19区遺構配置図

第3節 縄文時代

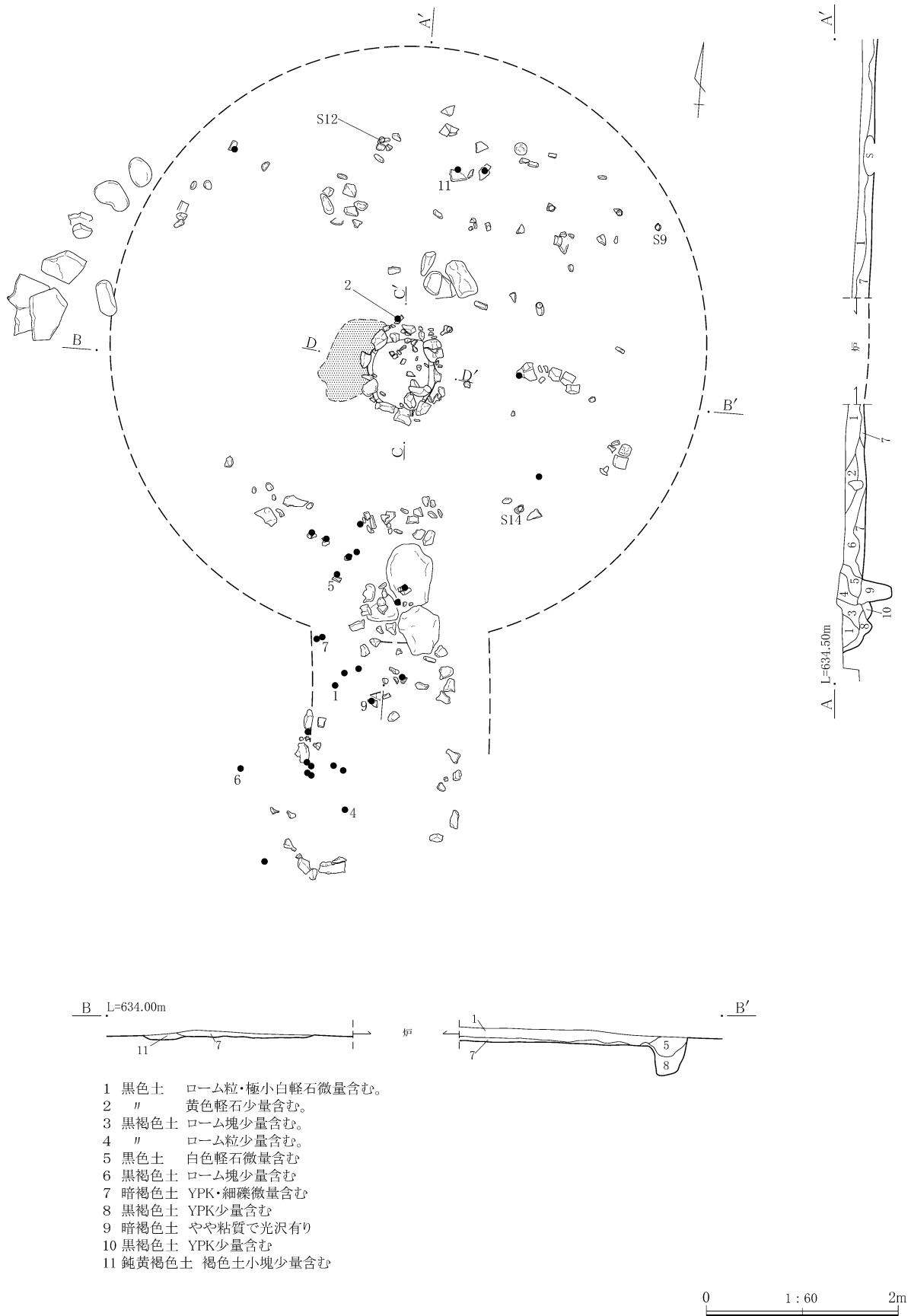
本節では、長野原一本松遺跡平成14年度調査分における縄文時代に比定される各遺構と遺物について述べる。対象となる調査区は5区、95区、17区～19区で本来ならば、区毎の説明が望ましいが、5区と95区は隣接しているため、分別した報告は困難である。ここでは、遺構種別にその概要を述べさせていただく。掲載順は各遺構種別に5区→95区→17区→18区→19区である。

1 住居跡

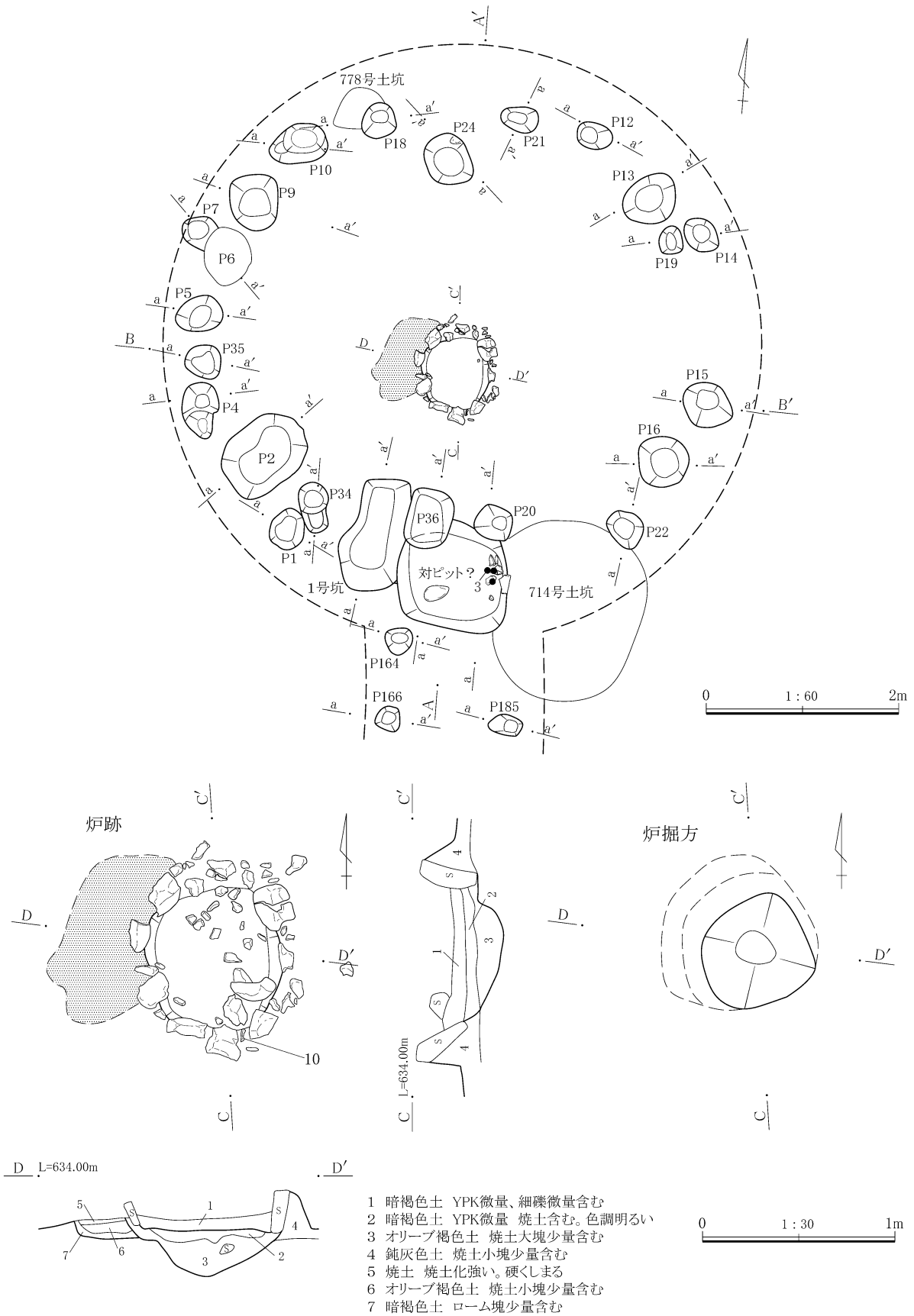
5-58号住居跡

位置 N・O-2～4グリッドに位置する。調査区では北東にあたり、台地中央やや南より緩やかな南傾斜に占地する。**重複** 67号住居跡と重なる。その他に772号土坑や754号土坑・714号土坑等多くの土坑・ピットと重複しており、住居跡としての全容把握が困難であった。新旧は不明。**形状** 炉跡確認後、土層判断と遺物の分布範囲及び北西隅の石の集中、さらに入出口部の扁平な石の集中を念頭に住居跡平面形を推定した。その結果、全体像は柄鏡形を呈し、6.2m前後の円形の住居部分を推定した。ただ、壁奥の柱穴をP24と捉えた場合、やや方形を呈する可能性もあろう。柄の部分は南へ突出するが、1m以上の張り出しと考える。深さは土層の観察で約20cmを測る。**方位** 長軸はほぼ北を向くが平面形が判然としないため確定的ではない。

床面 炉石を確認した際に、床面の検出に努めたが、良好な例は見られなかった。漸移層の暗褐色土を床面としているが、良好な敷石は確認されず、連結部に一部が確認されたのみである。**炉** ほぼ中央に南北に軸を持つ石囲い炉を検出した。川原石・板石等十数個からなり、一部は加熱により破碎していた。掘り込みは床面から30cm程の土坑が設けられ、上部に上記の自然石を並べていた。焼土は炉内では少量で、炉東側にまとまる傾向が見られた。**柱穴** 壁際に沿って、25基のピットを検出した。主柱穴は特定できないが、P2、(P8・9)、(P13・14)、(P15・P16)が配置・規模から妥当性が高い。これらは重複あるいは近接した位置にある柱穴であり、住居跡重複関係を示唆する。ただし67号住居跡に帰属する重複ではなく、58号住居跡内部での建て替え等の行為より派生した柱穴重複と捉えておきたい。また、P6・7も良好な深さを見せる。壁奥のピットとしては、やや床面中央に寄るがP24が良好である。入出口部の対ピットとしては、P20とP30が充てられるが、貯蔵穴とした土坑との重複により判然としない。**入出口部** 小ピットP164・P166・P185の配置と小礫・遺物の分布より推定した。南側を向く傾向が見られたが、南端までは確認できなかった。**床下の状態** 床下調査の際、対ピットとしたP36の西に大型の土坑を見ることができた。これは67号住居跡の対ピットの可能性が調査時に判断されている。また、対ピット南に重複するように貯蔵穴とされた土坑がある。これも位置的に対ピットの可能性もある。**遺物出土状態** 完形個体等の出土は見られず、埋土下位に破片が散在する状態で出土している。石器も同様に住居跡推定域の全体から出土しており、分布の偏りなどは見られなかった。また、重複する67号住居跡に帰属し得る遺物を抽出できなかった。**所見** 壁を確認できなかった住居跡ではあるが、炉跡を中心に柱穴の配置と遺物の散布から平面形を見出し、柄鏡形住居跡の全体像を把握した。遺物の出土状態から詳細な時期は不明だが、炉跡周辺の出土土器片及び貯蔵穴とされた土坑出土の土器片は加曾利EⅣ式・称名寺式であることから、後期初頭に時期を求めたい。その他の出土遺物で、後期中葉段階の土器はあるいは67号住居跡に帰属し得る可能性もある。

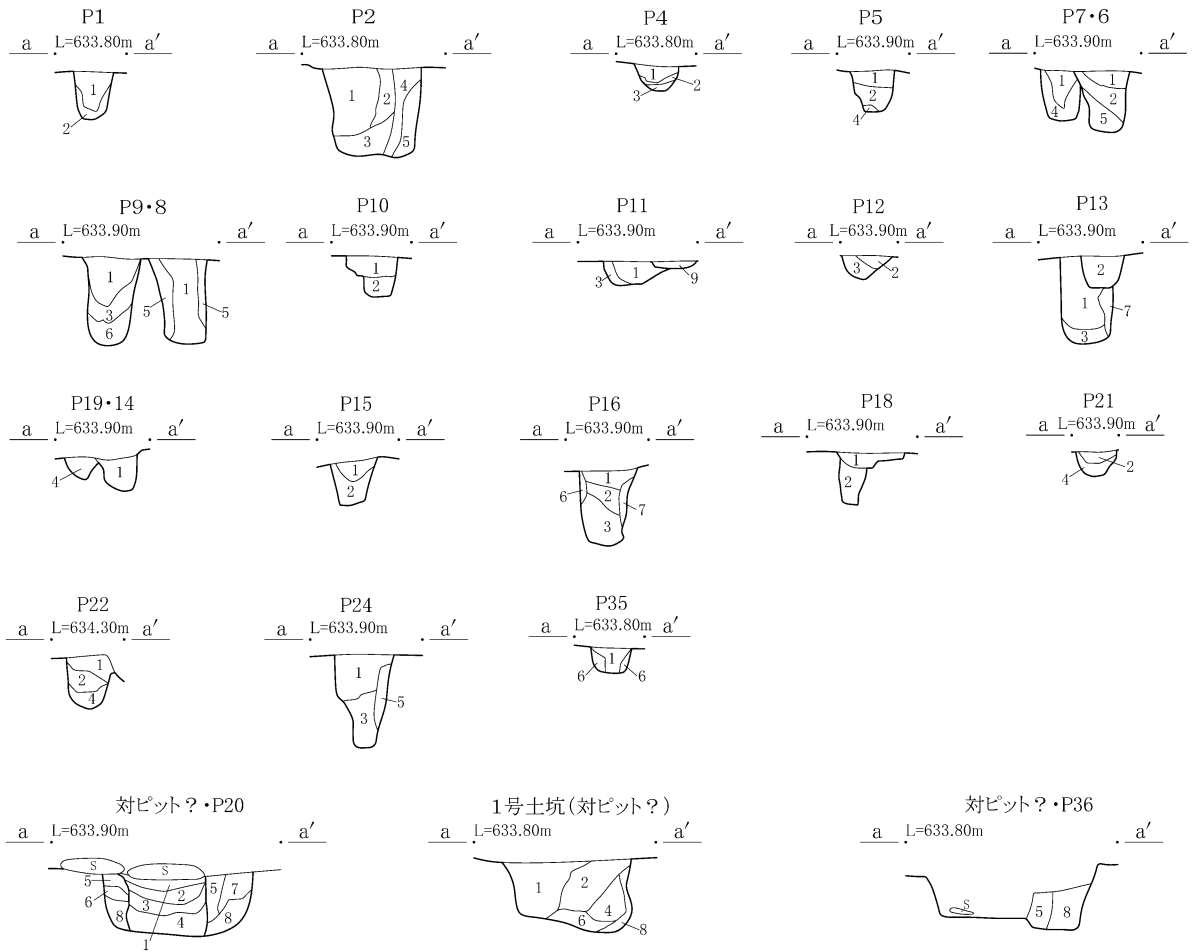


第10図 5区58号住居跡(1)



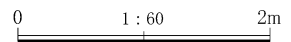
第11図 5区58号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 黒色土 YPK微量含む
- 2 黒色土 YPK・褐色粒微量含む
- 3 黒色土 YPK・褐色粒・ローム小塊微量含む
- 4 黒色土 YPK・褐色粒微量含む。ローム小塊少量含む
- 5 黒色土 YPK・褐色粒微量含む。ローム小塊多く含む

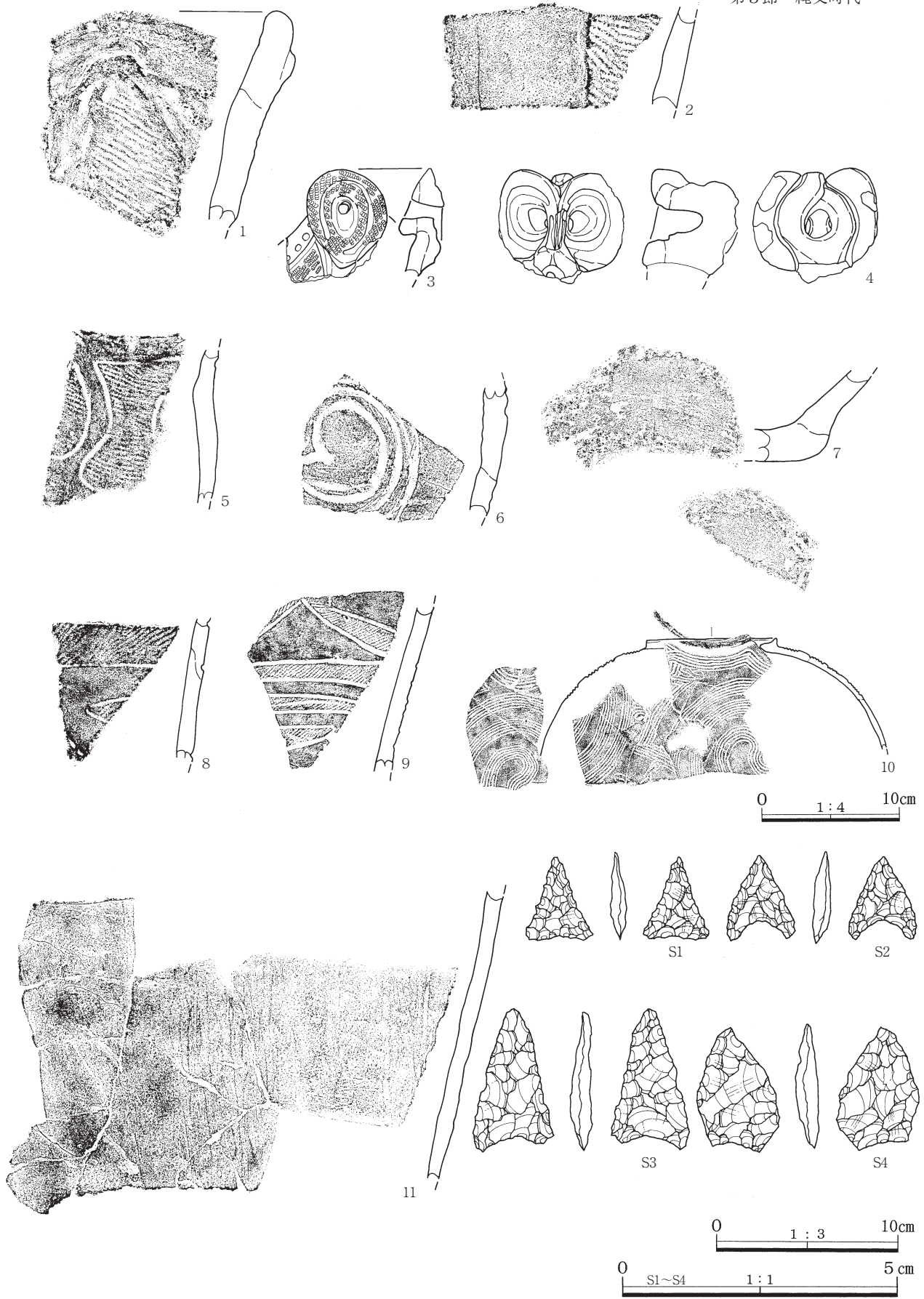
- 6 黒色土 YPK・褐色粒微量含む。ローム大塊少量含む
- 7 黒色土 YPK・褐色粒微量含む。ローム大塊少量含む
- 8 黒褐色土 YPK・褐色粒微量含む。ローム大塊多く含む
- 9 暗褐色土 IV層主体



第12図 5区58号住居跡(3)



出入り口部敷石下土層(東から)
対ピット?・P20



第13図 5区58号住居跡出土遺物 (1)

第3章 検出された遺構と遺物



第14図 5区58号住居跡出土遺物(2)

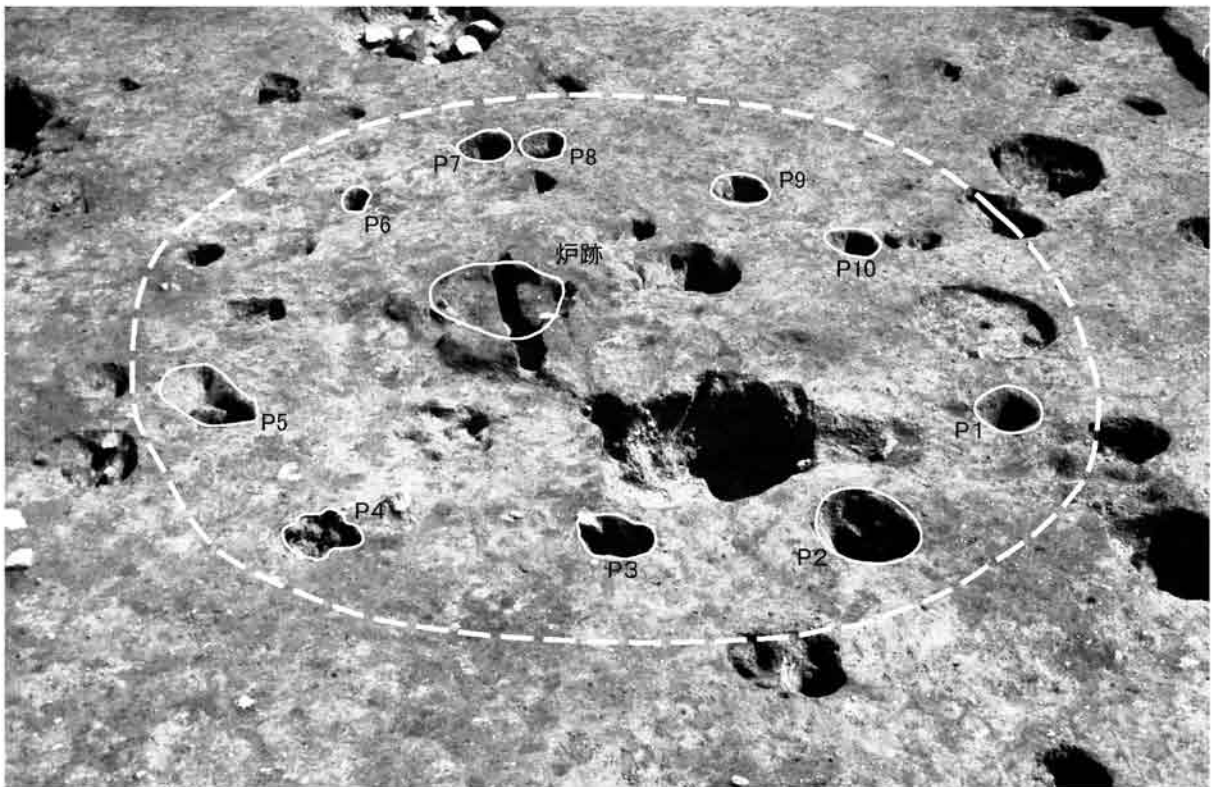
5-59号住居跡

位置 調査区北側のQ・R-4・5グリッドで調査された。南斜面台地でも傾斜が緩やかでほぼ平坦地形に近い周辺地形である。集落内では中央部の南側へ位置する。 **重複** 周辺には近接する住居跡はなく、718号土坑や731~733号土坑やピットが散在する。このうち733号土坑が本住居跡中央やや南西寄りに重複する。

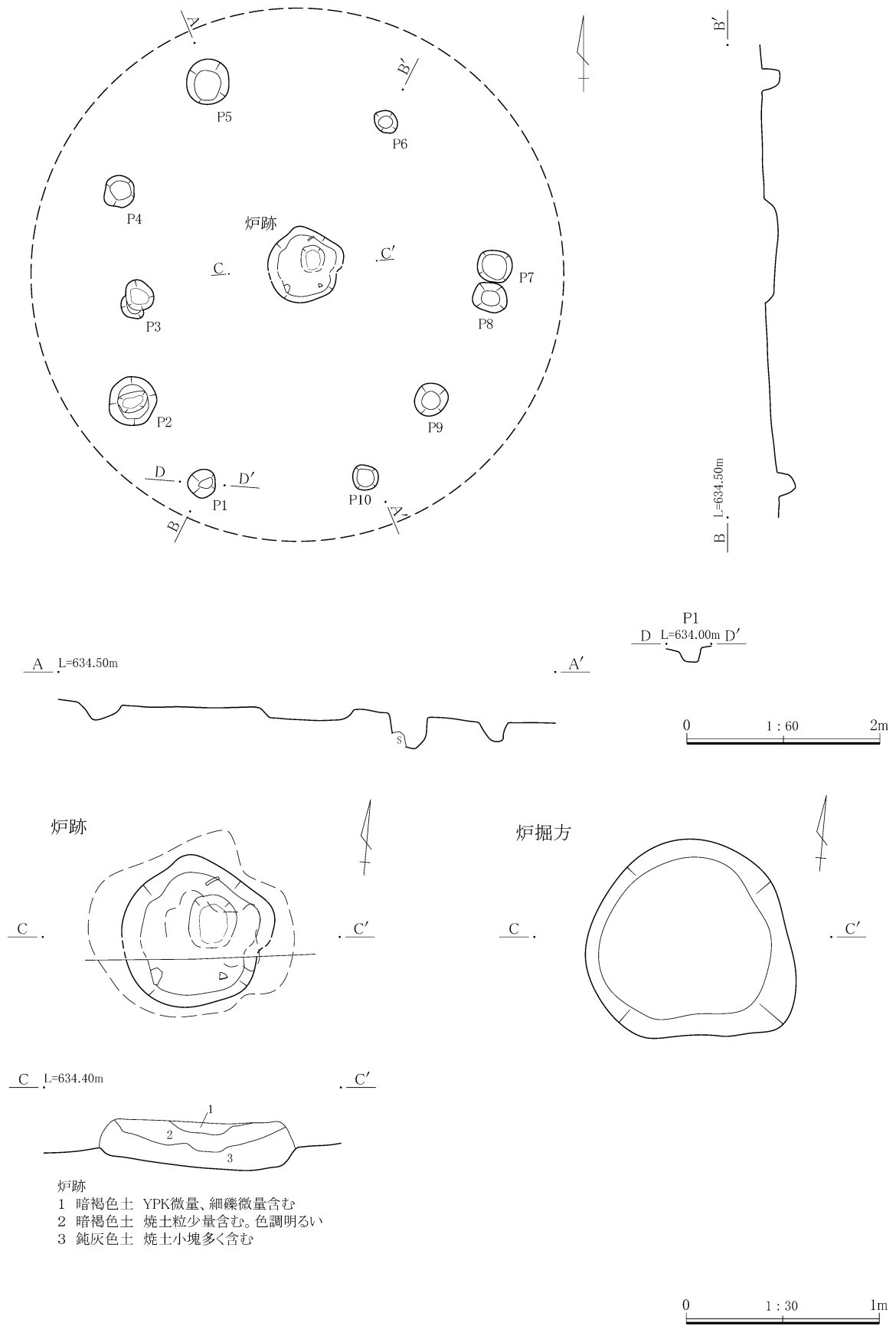
形状 炉及び柱穴のみの確認のため、全体像は把握できない。推定では円形を呈し規模は約径5.5mを測る。

床面 黒色土中の掘り込み・床面構築のため検出されなかった。貼床や硬化面も見られなかった。 **炉** 中央に位置するが、住居跡本体の平面形が不明のため判然としない。地床炉で浅い10cmほどの掘り込みを持つ。調査当初は、単独の8号炉として調査されていたが、その後周辺柱穴の存在が明らかになり、住居跡炉として位置付けた。焼土は上層に集中する。 **柱穴** 小ピット10基を柱穴として考えた。主柱穴としての規模を持つ例は無く、いずれも20~30cm程度の浅い掘り込みのものである。規則性は認められないが、南北の長軸を挟んで東西両極に偏る傾向が見られる。 **遺物出土状態** 出土遺物は無く、貧弱な内容である。周辺のグリッド出土遺物としては、加曽利B1式や堀之内式が少量出土しているが、本住居跡の帰属とは捉え難い。

所見 円形の推定平面形、地床炉の様相から帰属時期を中期に推定したいが、確定性に乏しい。周辺の住居跡からも距離を置き、規則性や配置からも推定できない。時期不詳とせざるを得ない。



5区59号住居跡全景（西から）



第15図 5区59号住居跡

5-60号住居跡

位置 P・Q-1～3グリッドに位置する。調査区中央のやや北よりで調査された。周辺は、極緩やかな南斜面ながらほぼ平坦地形であり、斜面変換地点といえよう。集落内では南西側の一群に属する。

重複 周辺は多くの住居跡・土坑が群在する。58号住居跡・67号住居跡が北東に近接し、南には65号住居跡が接する。また、南西には62号住居跡があり、これらは柄鏡形住居跡であることから、後期住居跡群の一隅を占める位置といえよう。土坑では北側壁に746号土坑や747号土坑が本住居跡を切る重複関係を示している。

また張り出し部には794号土坑～797号土坑が重複し、床下調査時における南端部や連結部東をやや不明瞭にする。

形状 柄鏡形敷石住居跡である。長軸約7.5×短軸4.5mで深さは30cm以上を測る。北壁～西壁が良好に残る全面敷石の住居跡である。住居部分の平面形はほぼ円形ではあるが、全体に緩やかな方形が意識された形状である。張り出し部も全面敷石がなされ、石垣状に積み石された壁を残す。さらに連結部より東西に小規模ながら列石が伸びる。

方位 長軸を北北東に向ける。N-13°-Eを測り、周辺の柄鏡形住居跡と同様の方位といえよう。

床面 全面敷石がなされる。住居部分はほぼ平坦面に石が敷かれ、張り出し部はごく僅かに凹む。連結部は一段立石状に突出し、住居部と張り出し部を画す。敷石は住居部で板石、張り出し部で川原石を選択した状況が把握できた。両者とも大型の石材を並べ、隙間には更に小礫を充填させる入念な床面構築である。

炉 住居部分ほぼ中央で検出された。石囲い炉といえよう。敷石の延長上にある石囲いで、炉縁辺が突出はしておらず、炉石も板石が兼ねていた。規模は石囲い外縁で約1.8×1.0m、内縁で約0.6×0.5mを測り、楕円状の掘り込みを持ち、40cm程の深さを測る。炉内部に2個体の埋設土器を上下に設けており、上位の土器は深鉢体部を上下に分割し逆位に、下位の土器は深鉢底部を欠損させ正位に埋置していた。上位の土器は下半に、下位の土器は口縁部が加熱により変色しており、炉内下部における燃焼が推定された。焼土は上層にまとまって見ることができた。

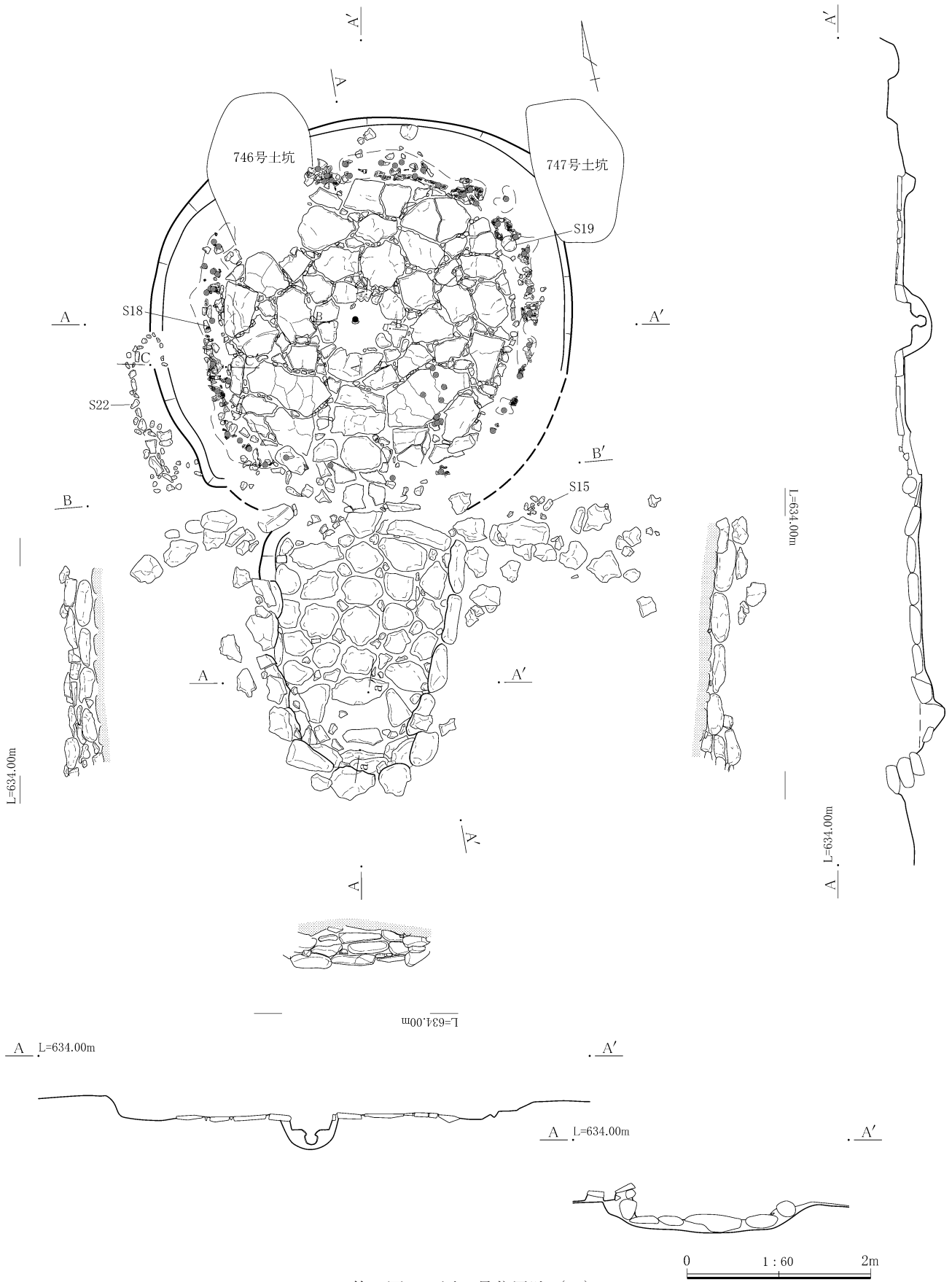
柱穴 敷石上では確認できなかったため、床下調査で検出した。壁奥の柱穴として、P6がやや長軸からずれるが深さも妥当でありこれを充てたい。主柱穴は(P1・P2)、P5、(P8・P9)、P11、(P12・P8)が配置・規模から妥当であろう。小穴と重複する傾向が見られ、あるいは住居規模を変えない建て替えが行われていた可能性もあろう。壁柱穴としては確定性は少ないが、P4・P7・P13・P14・P20・P16・P17が配置的には良好な小穴である。P7は斜位の小穴であり、壁奥の柱穴P6と伴に注意を要する。連結部の対ピットとして、床下調査で検出した



5区60号住居部近撮



5区60号住居炉体土器出土状況



第16図 5区60号住居跡(1)

1号床下土坑を充てたい。土層セクション図でも柱痕を見ることができる。張り出し部は良好な柱穴は検出されなかったが、西壁に沿ってP234～P237、P223、P246が並ぶ。東壁周辺は786坑などが重複するため判然としない。**張り出し部** 南側へ大きく突出し、長軸約2.7m、短軸約1.8m程の規模を誇る張り出し部となる。前述のように、川原石による全面敷石がなされ、東西壁は積み石で構築されていた。西側は川原石と板石による2段の構築が観察されるが、東側は残りが悪く、南北で2段の積み石が観察されるが、中位は上部が逸失しており把握できなかつた。底面の敷石は川原石が主体的に使用され、長軸方向に向かって5列を配していた。また張り出し部南端は敷石が無く、入り口部埋甕等の可能性を想定し半裁調査を施したが、暗褐色土のみの検出となった。**連結部列石** 連結部の東西に小規模な列石を付帯する。東西とも1.5m程弧状に延びる。周辺及び上層には列石や配石遺構はなく、本住居跡施設の一つとして位置付けられよう。特殊な遺物出土や顕著な下部坑等は見られなかったが、列石による左右空間の遮蔽施設としても捉えることができよう。**炭化材** 本住居跡の特筆すべき要素として、壁際の炭化材出土が挙げられる。焼失住居跡として捉えるべきである。746号土坑により攪乱されている箇所は不明だが、おそらく西壁・北壁・東壁際約30～40cm程距離を置いて、敷石部との境に炭化材が連続していた。立位の例もあり、壁際の木製施設が想起で

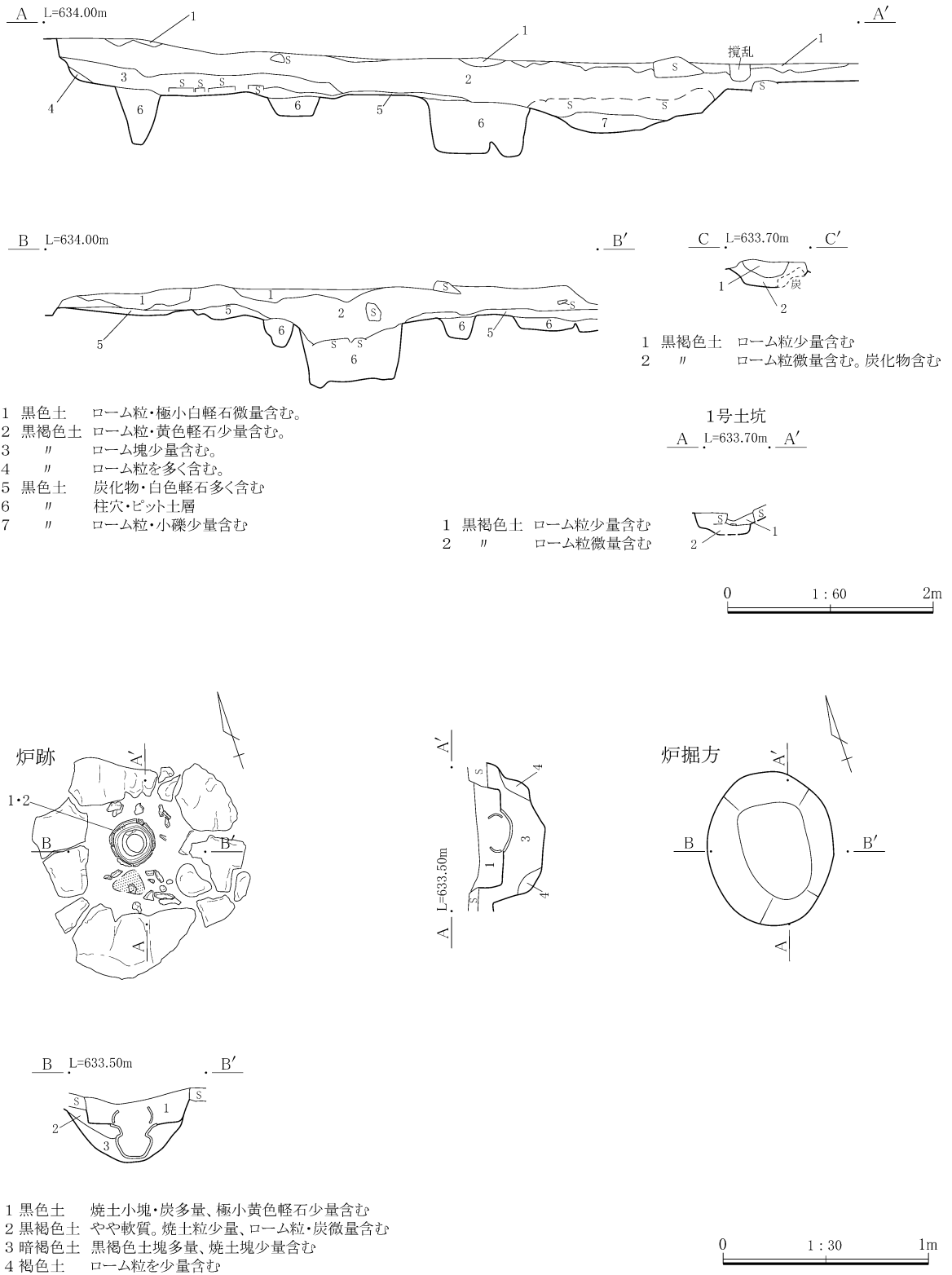


5区60号住張り出し部調査風景

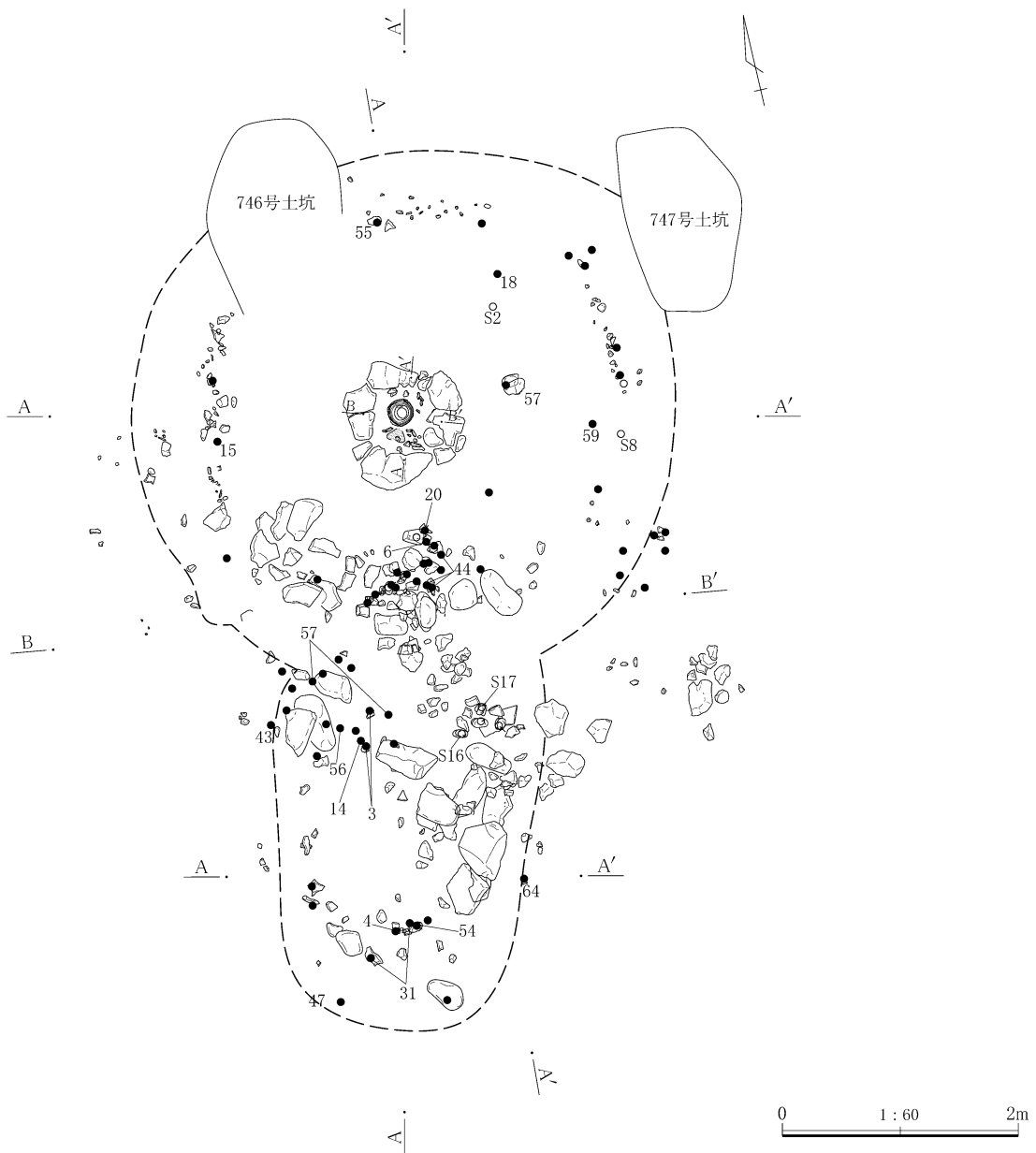


5区60号住張り出し部近撮

第3章 検出された遺構と遺物



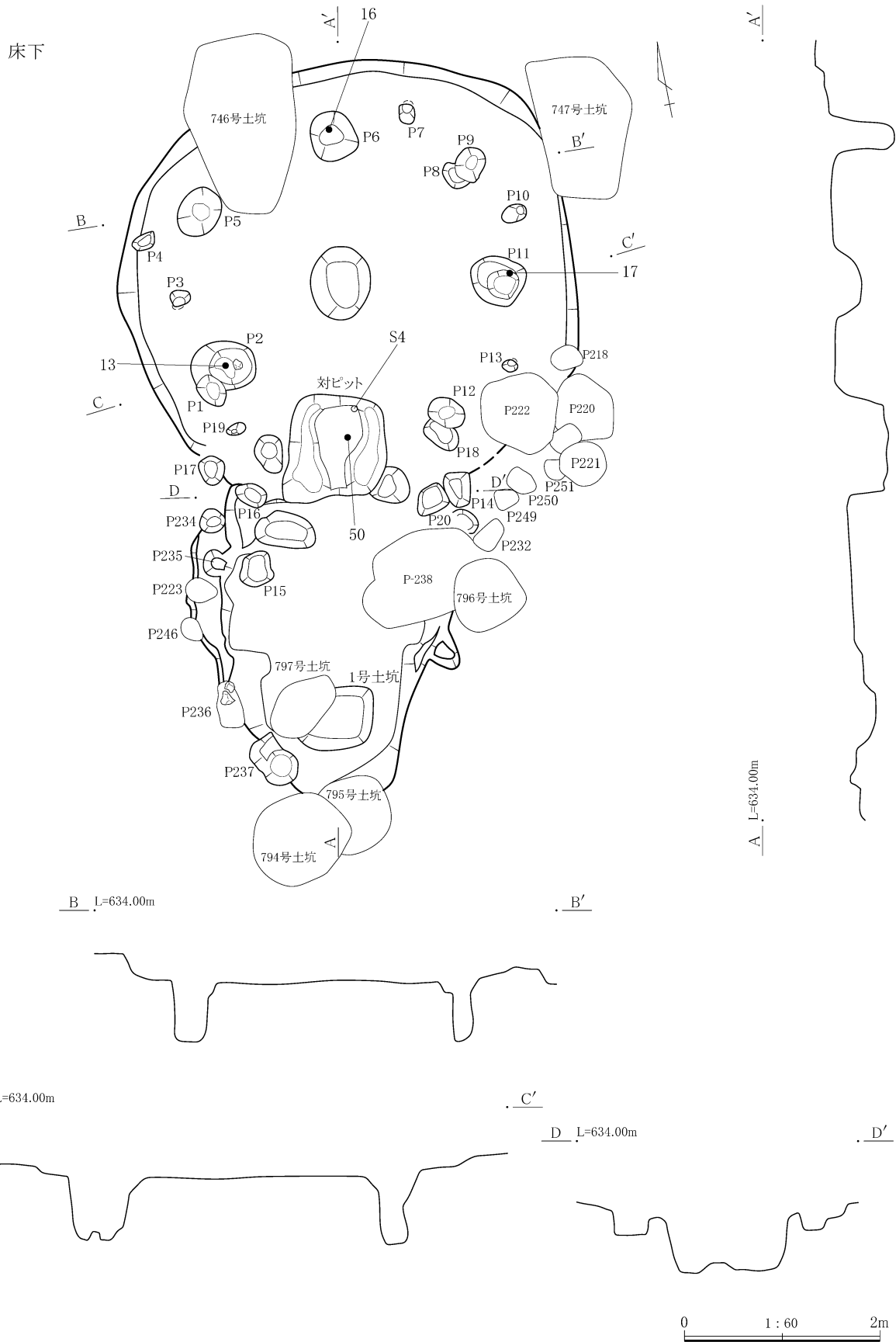
第17図 5区60号住居跡(2)



第18図 5区60号住居跡 (3)

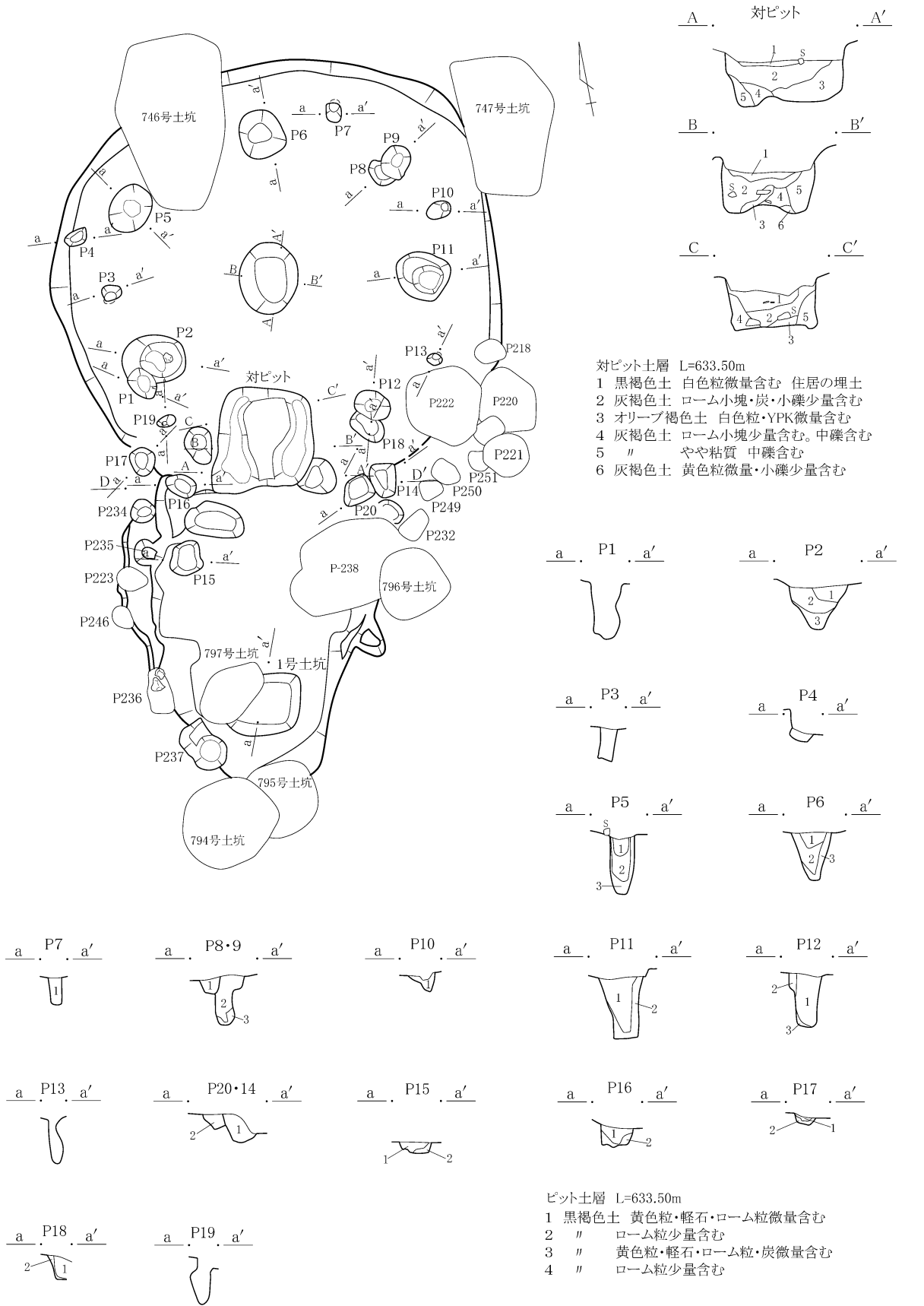
きた。この炭化材と伴に小礫も少量ながら伴出しており、炭化材との関連を窺わせよう。また、炭化材は壁奥P6にもその痕跡が認められた。**周堤礫** 住居部分南西の壁外に小礫が集中する。全周はしなかったが本住居跡壁外に伴う例として捉えた。**遺物出土状態** 炉内土器として1・2が出土している。前述のように上下に埋設された例である。その他の遺物は、炉南側の及び出入口部に集中する傾向がある。また、壁際に沿った出土も少量ながら見られる。

所見 全面敷石住居跡の焼失住居例として評価できよう。壁際炭化材の用途は検討を要するが、復元案は機会を改めて、取り組むべき課題である。おそらく、壁際の土留め施設と壁棚状の施設を兼ねた機能が想定されよう。尚、炭化材の樹種同定は巻末に掲載しているが、概ねクリ材が使用されているようである。遺物の出土はやや少量だが、炉内出土土器である堀之内1式新から判断して、後期前葉期の所産と考えた。

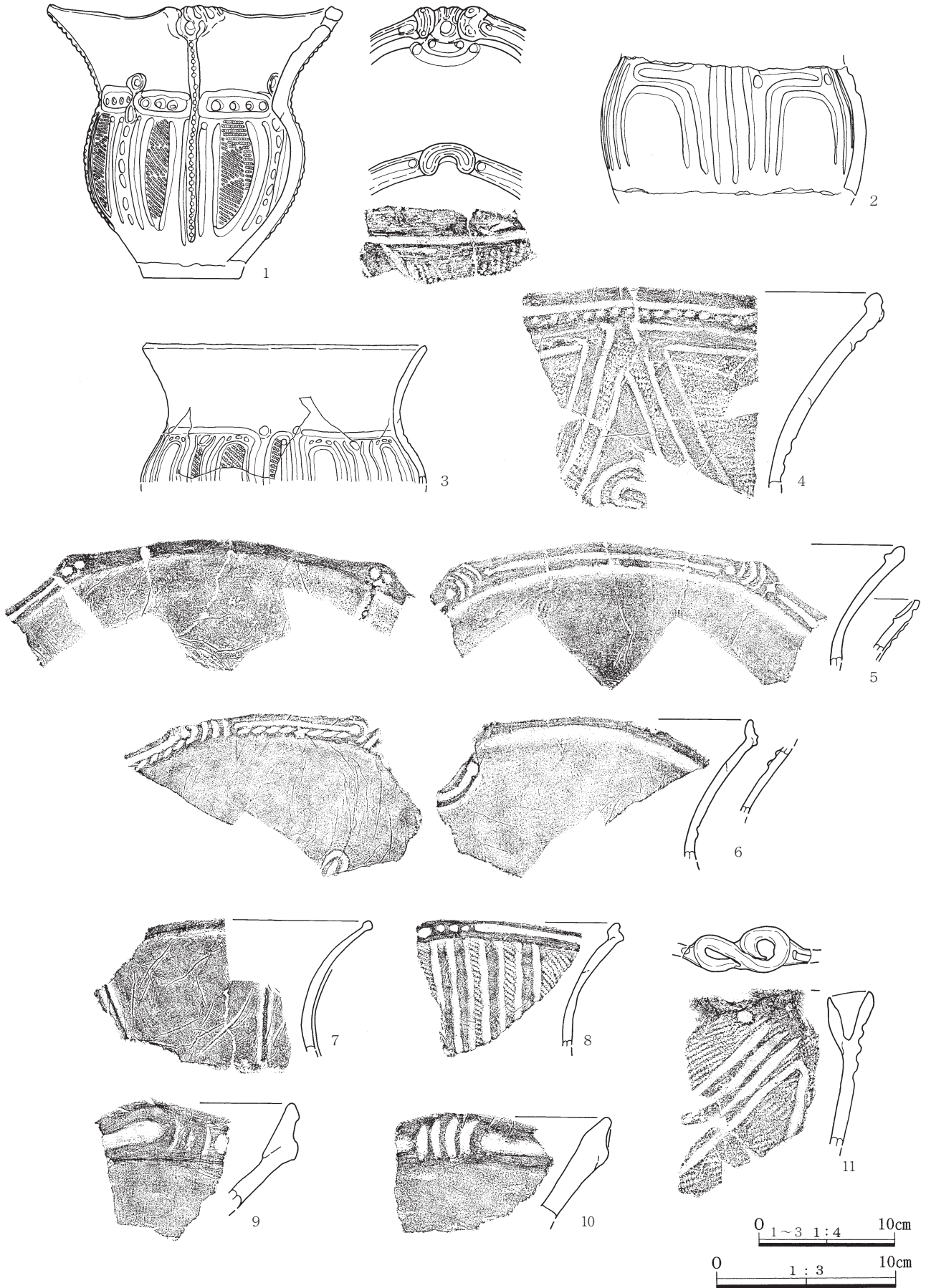


第19図 5区60号住居跡(4)

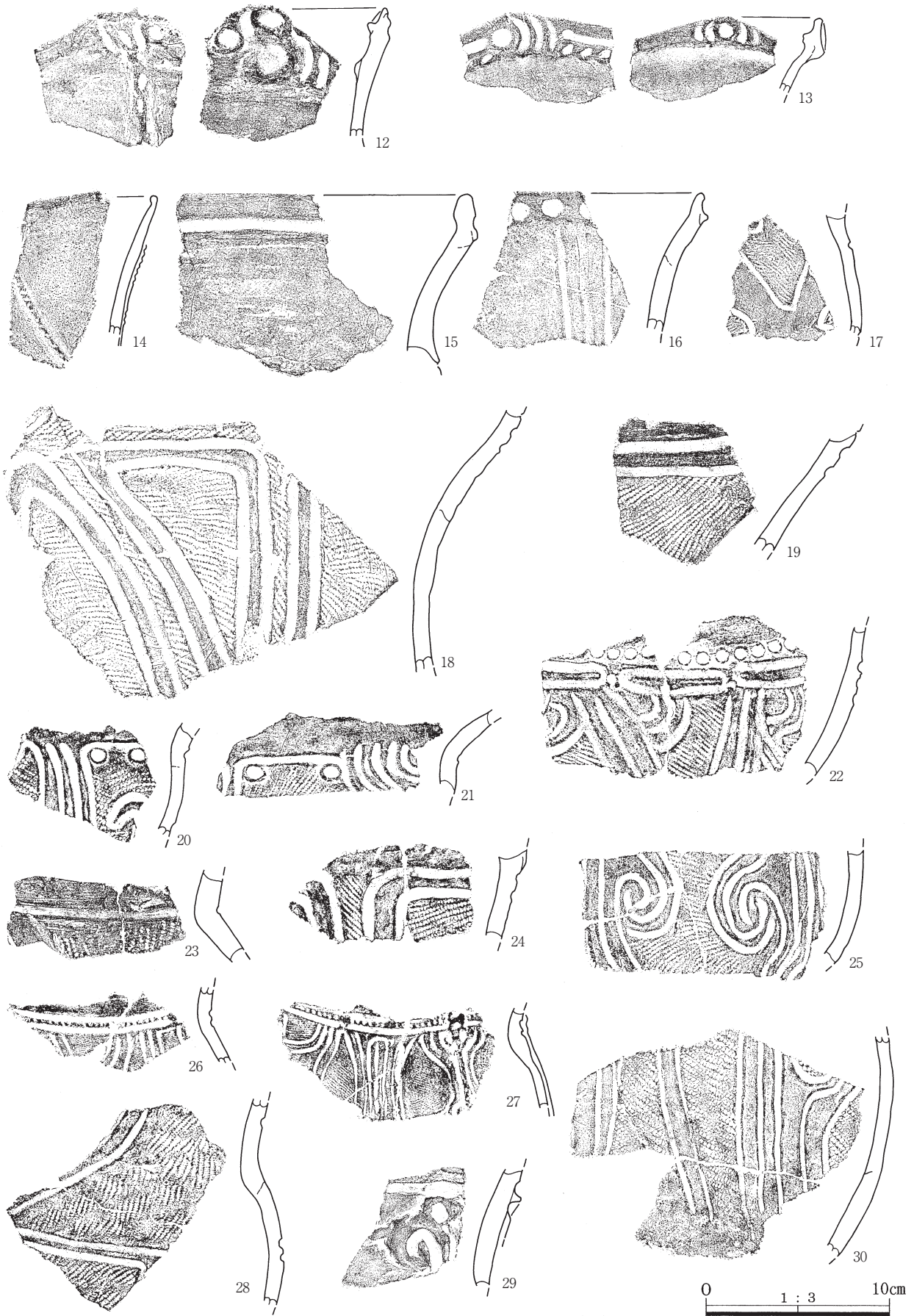
第3節 縄文時代



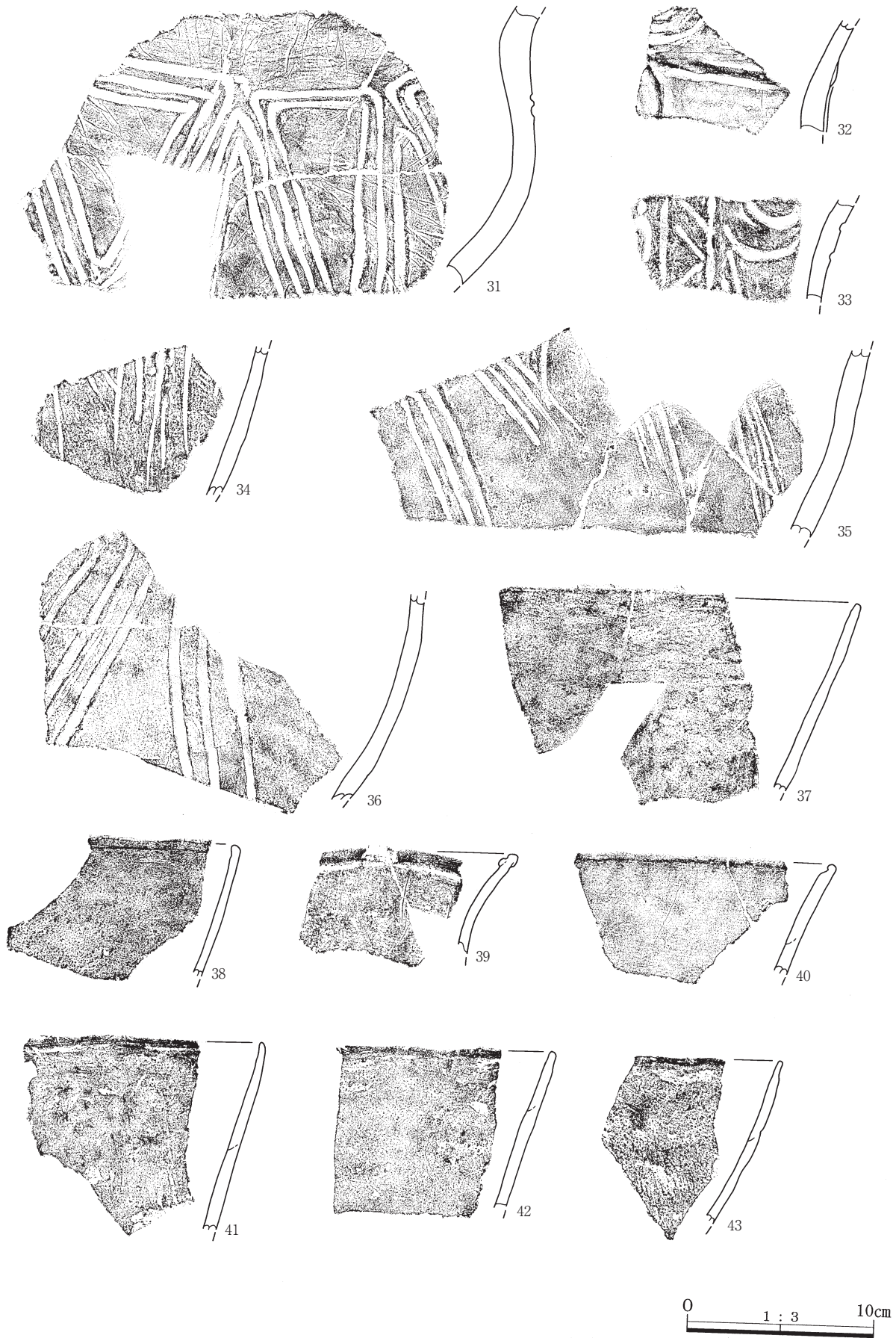
第20図 5区60号住居跡(5)



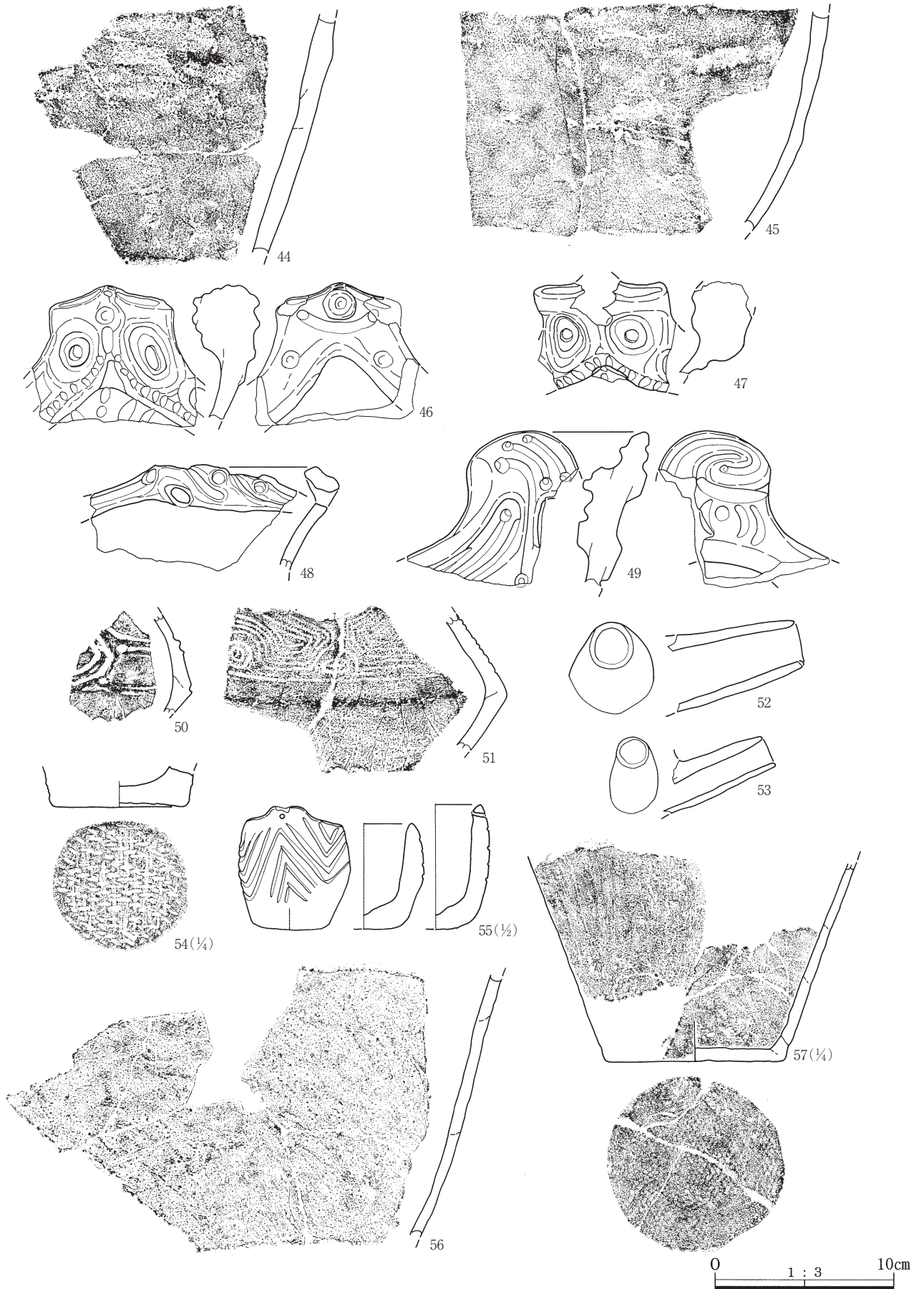
第21図 5区60号住居跡出土遺物(1)



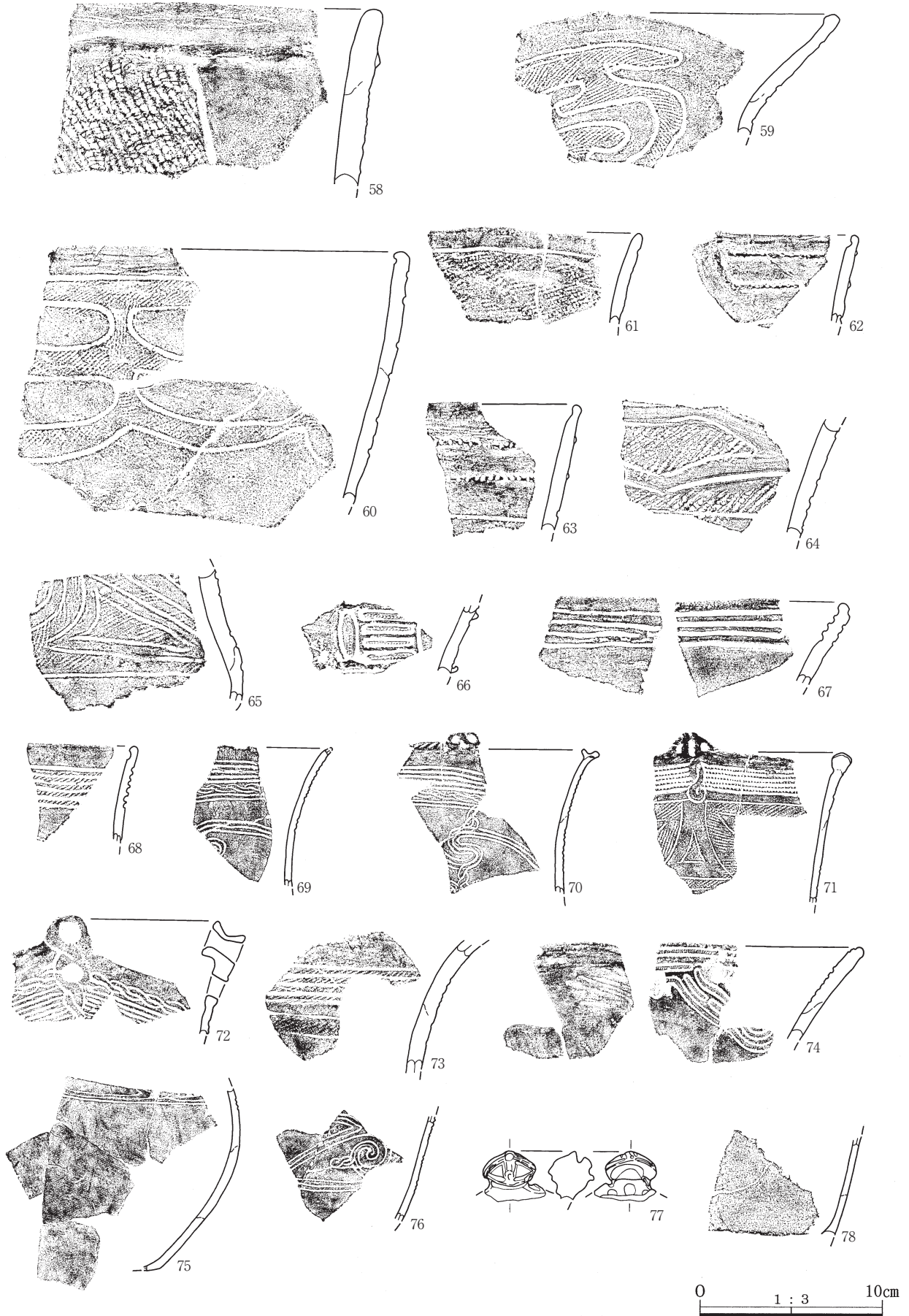
第22図 5区60号住居跡出土遺物(2)



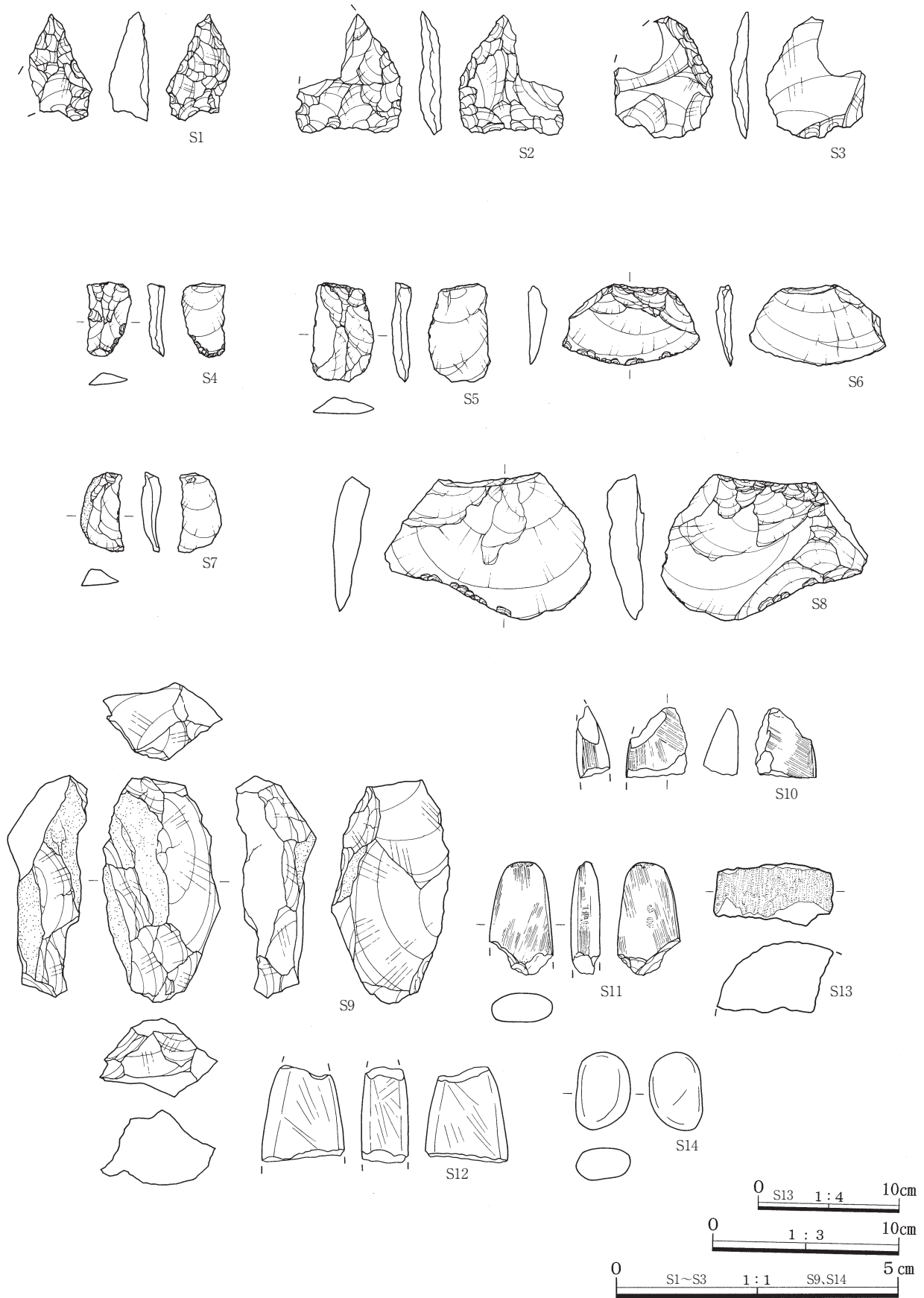
第23図 5区60号住居跡出土遺物(3)



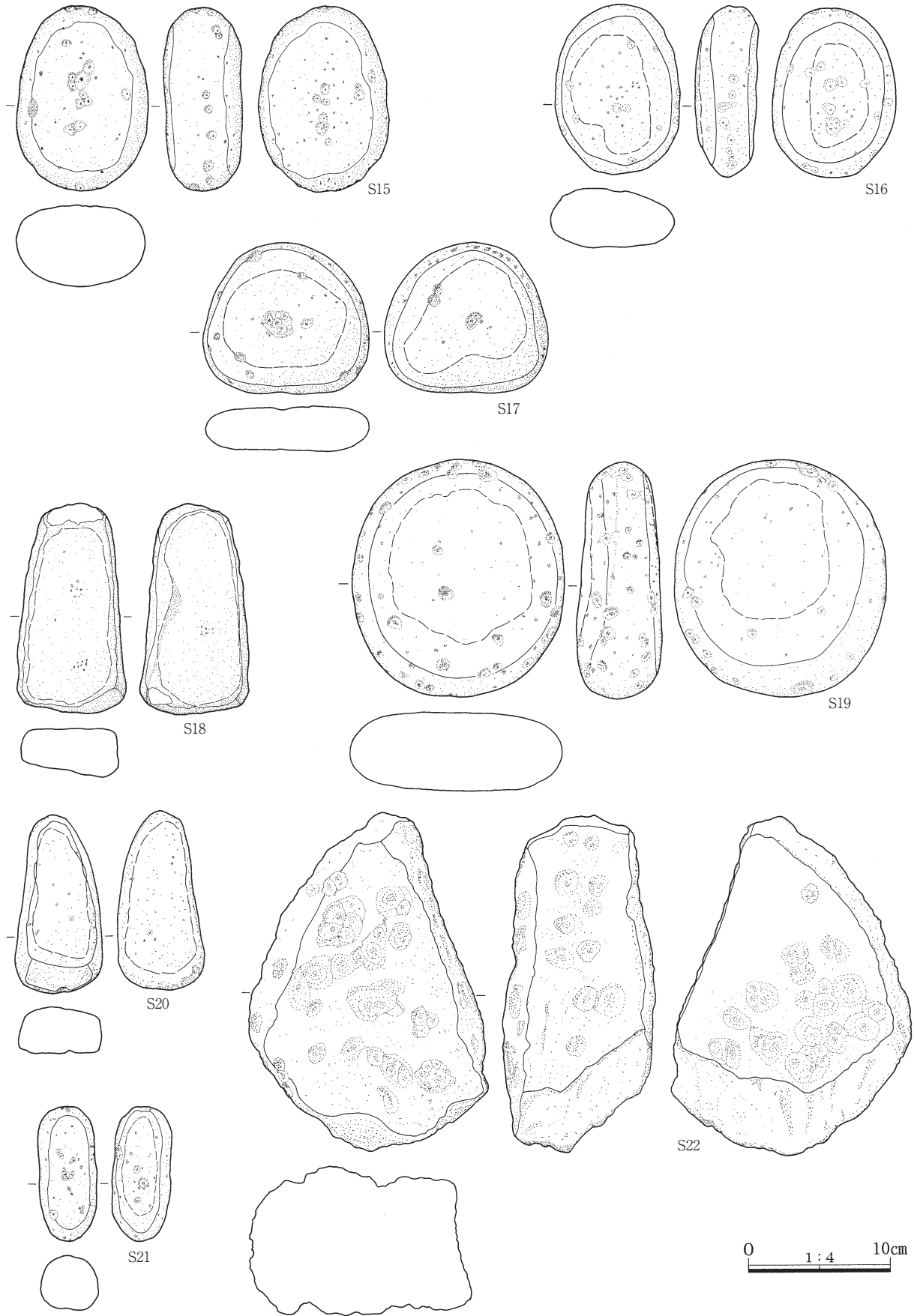
第24図 5区60号住居跡出土遺物(4)



第25図 5区60号住居跡出土遺物(5)



第26図 5区60号住居跡出土遺物(6)



第27図 5区60号住居跡出土遺物（7）

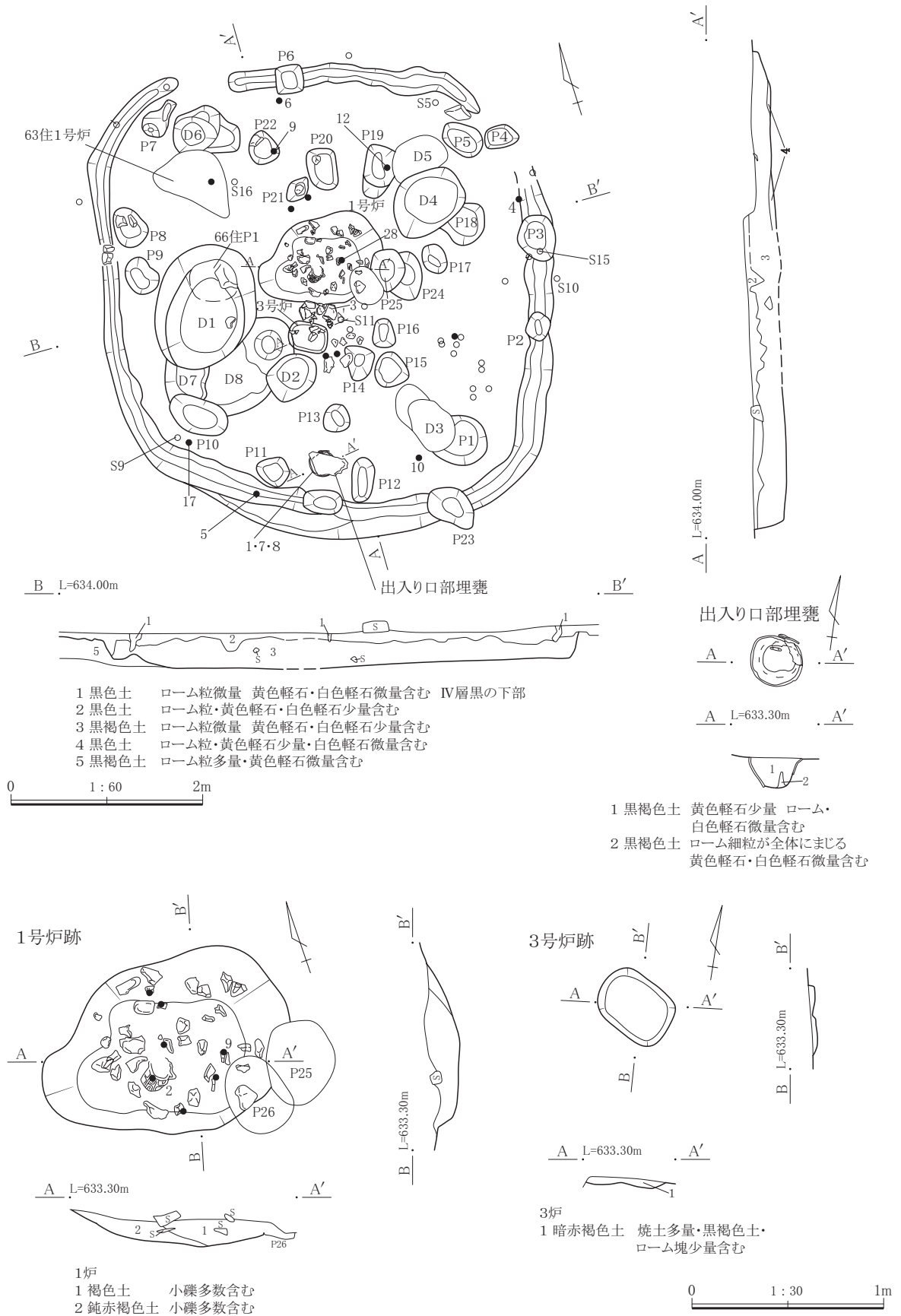
5-61号住居跡

位置 調査区西側の95区との境で調査された住居跡群の中にある。R・S-1・2グリッドに位置する。緩やかな南斜面のほぼ平坦地形で、多くの住居跡群が重複するように、居住地点としては良好な箇所である。

重複 重複する住居跡としては、62号住居跡・63号住居跡・66号住居跡が重なる。63号住居の炉は本住居跡の北西隅に、62号住居囲い炉は本住居跡西壁上で検出されており、炉・柱穴が多数密集する中での、住居跡抽出となった。また区を挟んで、南約1m程に95区4号住居跡が近接する。重複する住居跡との新旧は不確定部分があるが、おそらく本住居跡が周辺の住居群では古段階の新旧関係と考えられる。

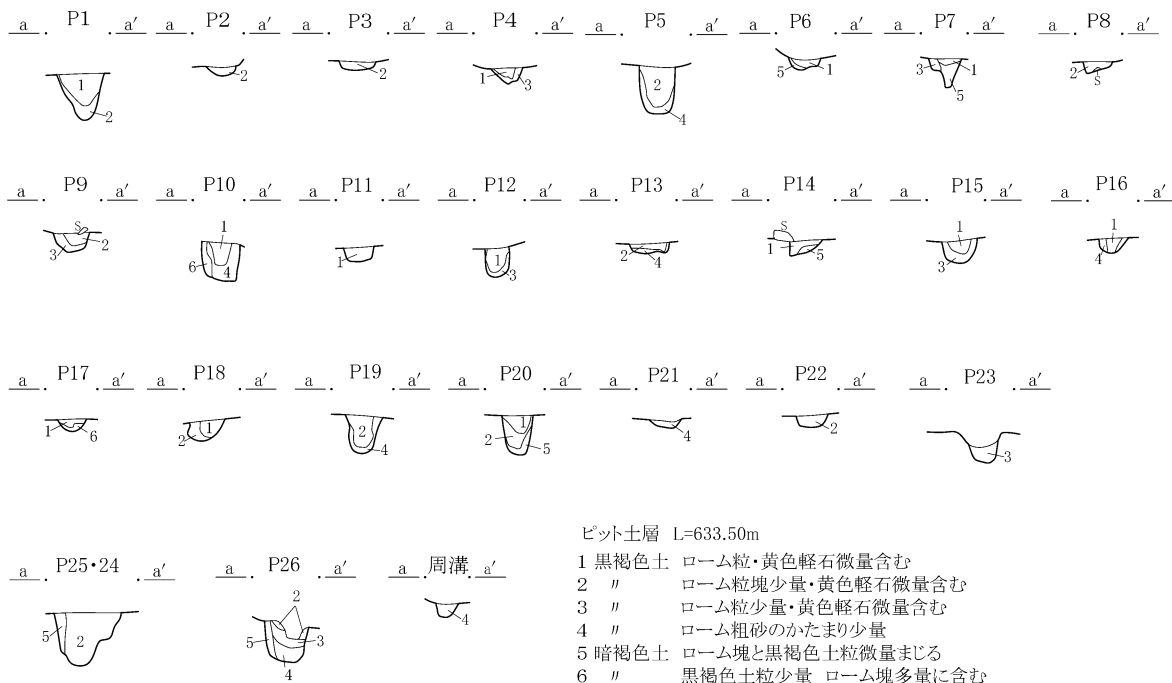
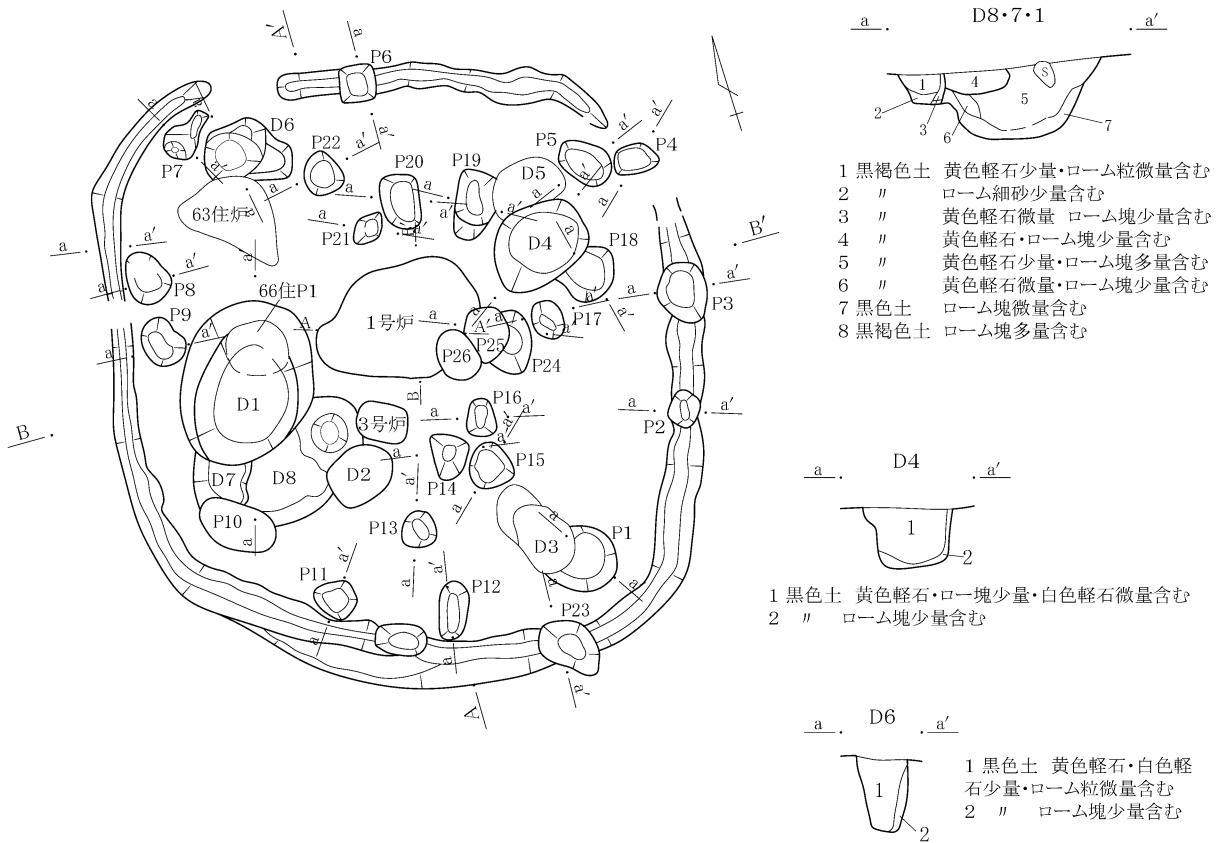
形状 長軸約5m×短軸約4mのやや小型方形を平面形とする。深さは10cm以下だが壁周溝と併せて全周を検出した。また、土層観察では20~30cm程度の立ち上がりを確認している。 **方位** 長軸方位はN-16°-Eで北北東を向く。 **床面** ローム漸移層を地床としており、緩やかな凹凸が見られるものの、ほぼ平坦面を築く。小穴が多く明瞭な貼床は観察できなかったが、平坦面は若干硬化面を見ることができた。 **炉** 床面上に3基の炉を検出したが、そのうち2号炉は調査中に63号住居跡として確定し、本住居跡炉より除外した。1号炉は床面ほぼ中央に設けられた、やや大型の地床炉で不整形の掘り込みを有す。角礫や半完形の小型土器(2)を伴出している。焼土は炉全域に広がる様相を示す。規模は約135×95×60cmを測る。3号炉は1号炉の南側で僅かな掘り込みに堆積する多量の焼土を炉跡と考えた。約40×30×5cmを測る。 **柱穴** 主柱穴としては、(P1・D3)、(D4・P5)、(D6)、(P10・D7・8)の4箇所を充てたい。D6・P10には柱痕状の土層も観察された。各柱穴の多くは重複する様相を示しており、複数回の建て替えが想定されよう。また、P19とP20は深さが良好なピットであり、特にP20は長軸線上にのる柱穴として位置付けたい。壁周溝に重なるP1・P2・P3・P23は壁柱穴の痕跡であろうか。 **壁周溝** 壁の遺存度の悪い北東隅と北西隅で途切れるが、ほぼ全周する様相を示す。柱穴では複数回の建て替えが観察されたが、壁周溝の移動が見られないことから、平面規模を固定したままの柱の移動であろうか。 **出入口部** 本住居跡の特徴の一つに、南壁に見る出入口部の施設が挙げられよう。住居跡平面形も南壁はやや湾曲し、他辺とは差が見られる。南壁中央下の壁周溝内に浅い小ピットが開き、対称的にP11及びP12が設けられる。更に長軸線上に平坦な自然石が置かれ、下位より1号埋甕(1)が正位で出土した。出入口部の「埋甕」として位置付けられる。P11とP12の間は約90cmを測り、後期敷石住居跡にみる対ピットに比してやや小規模であるが、長軸線上に配されており、出入口部の施設として見て良いだろう。南壁の湾曲と併せて、階段状施設や出入口部の空間を位置付けておきたい。 **床下の状態** 床下調査では、前述の埋甕や炉掘り込み、ピット等を検出したが、床下施設としての例えば床下土坑などは明瞭な例は無い。 **遺物出土状態** 1号埋甕(1)は南壁よりに、2は1号炉跡より出土している。その他の土器は破片状態での埋土下位からの出土が目立ち、3は炉跡周辺で僅かに浮いた状態でまとまる。特筆すべきは垂飾状の軽石製品(S17)が南西隅壁際で出土している。

所見 炉や柱穴が群在する遺構群の中で、掘り込みによる平面形確認が果たせた住居跡である。2基の炉を持ち、南側に出入口部を設ける。出土遺物は堀之内式との混在が見られるが、これは周辺の住居群との重複が影響するものと捉え、炉内出土土器(2)、出入口部埋甕(1)が加曾利EⅢ式であることから、中期後葉の所産と判断できよう。



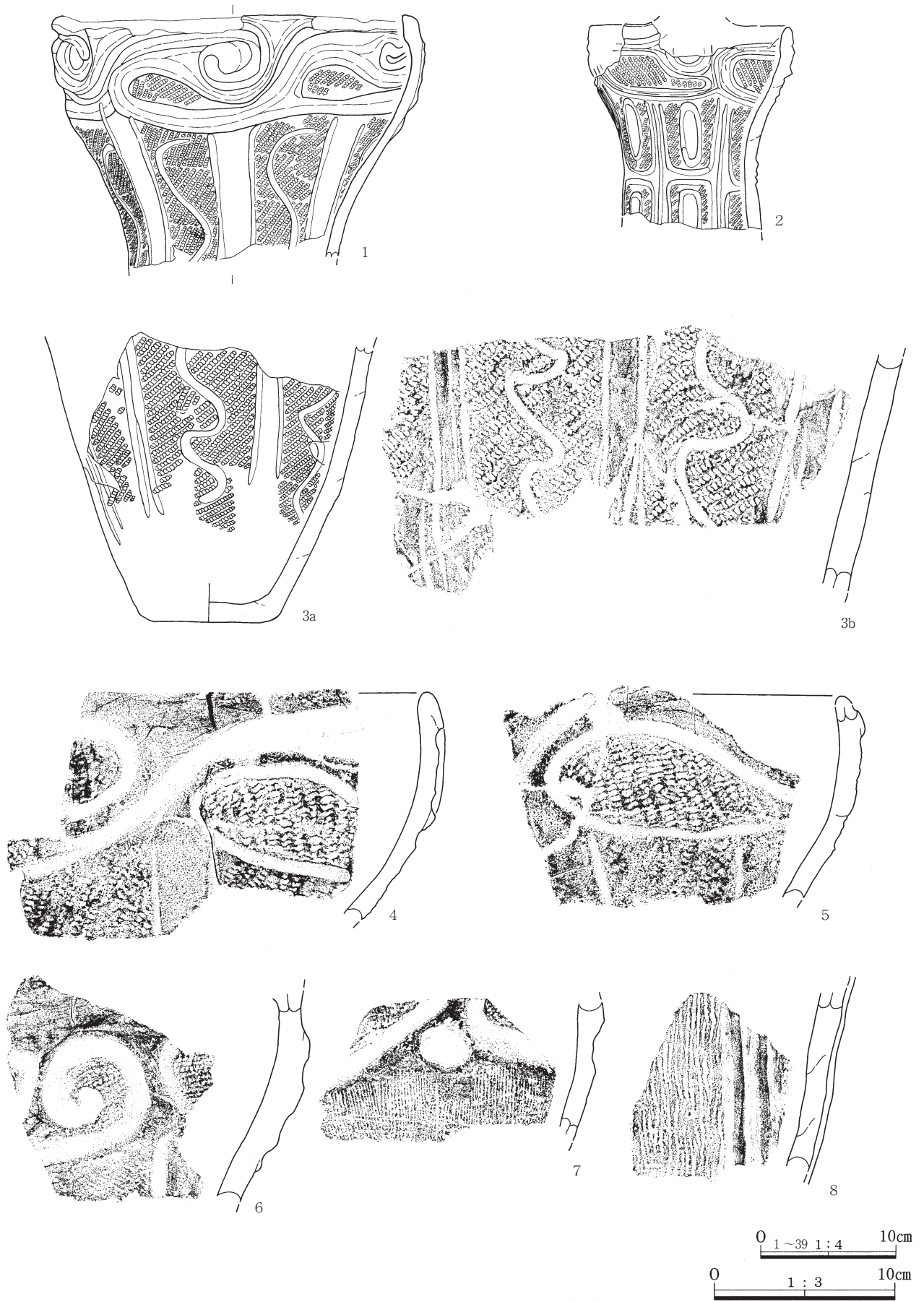
第28図 5区61号住居跡(1)

第3節 縄文時代

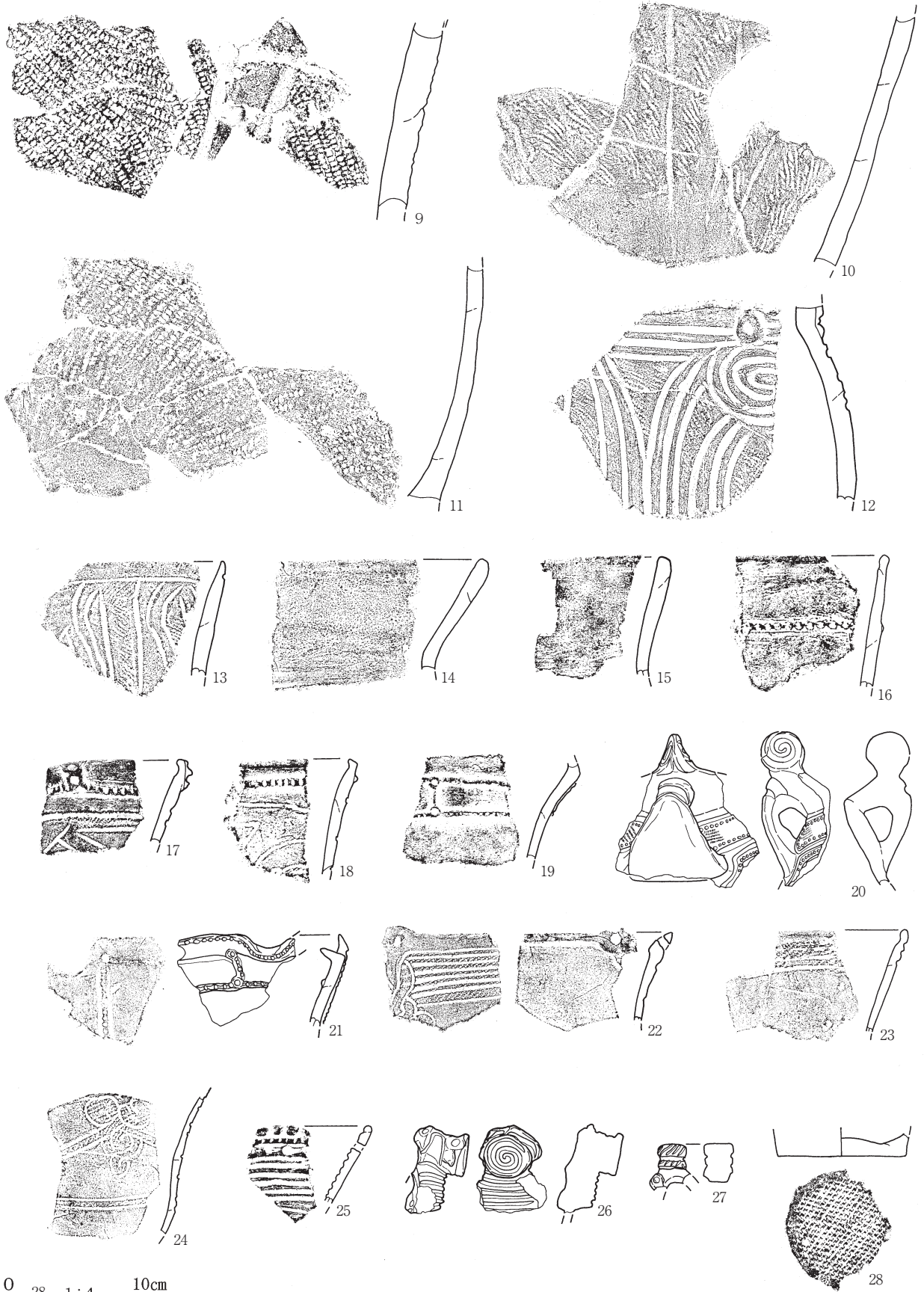


0 1:60 2m

第29図 5区61号住居跡(2)



第30図 5区61号住居跡出土遺物(1)

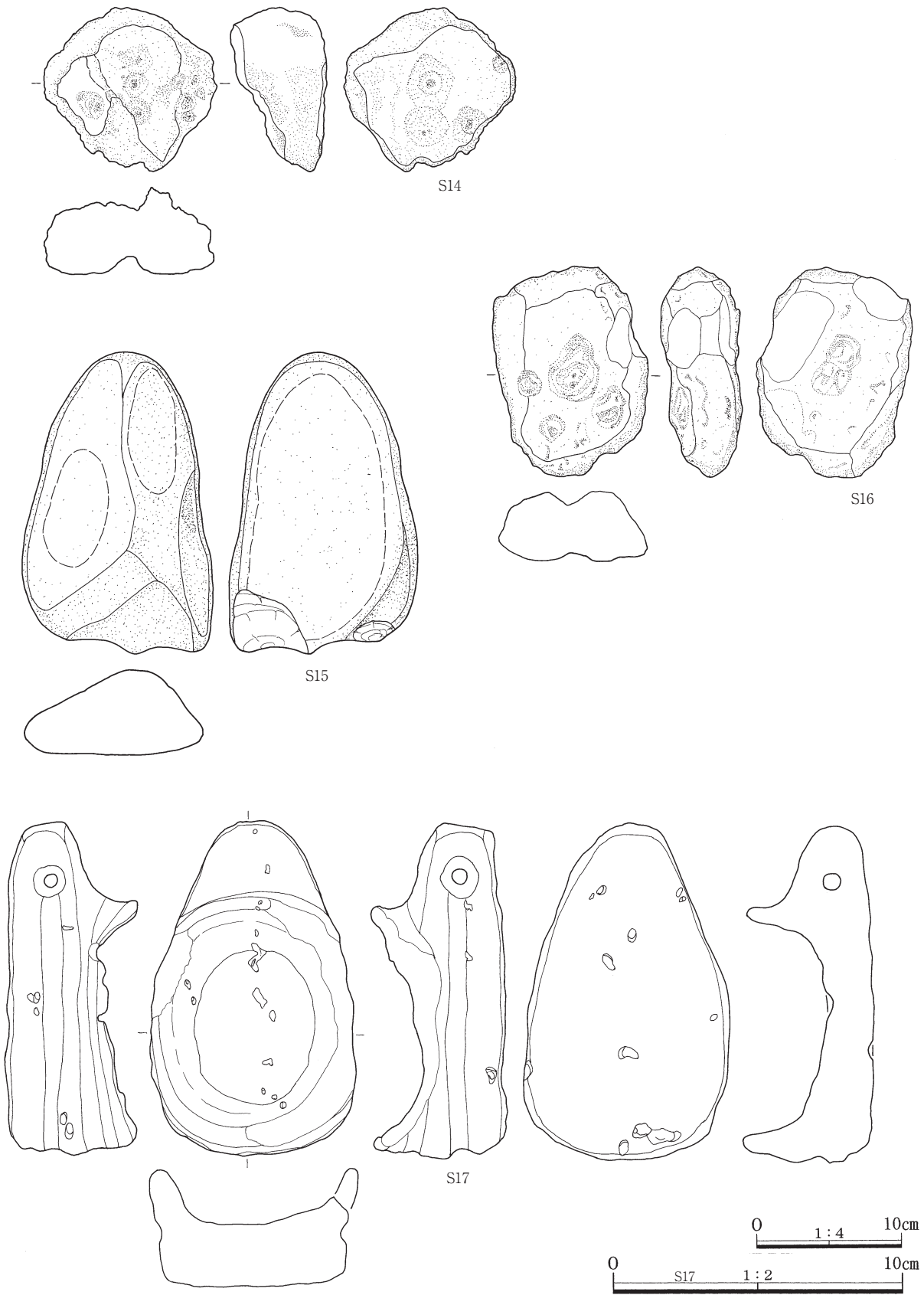


第31図 5区61号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第32図 5区61号住居跡出土遺物(3)



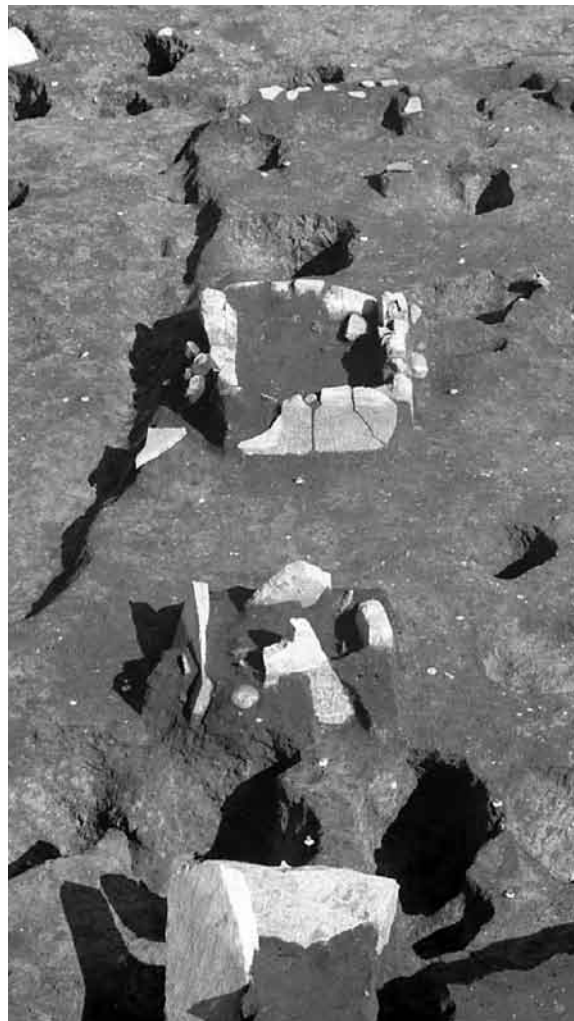
第33図 5区61号住居跡出土遺物(4)

5-62号住居跡

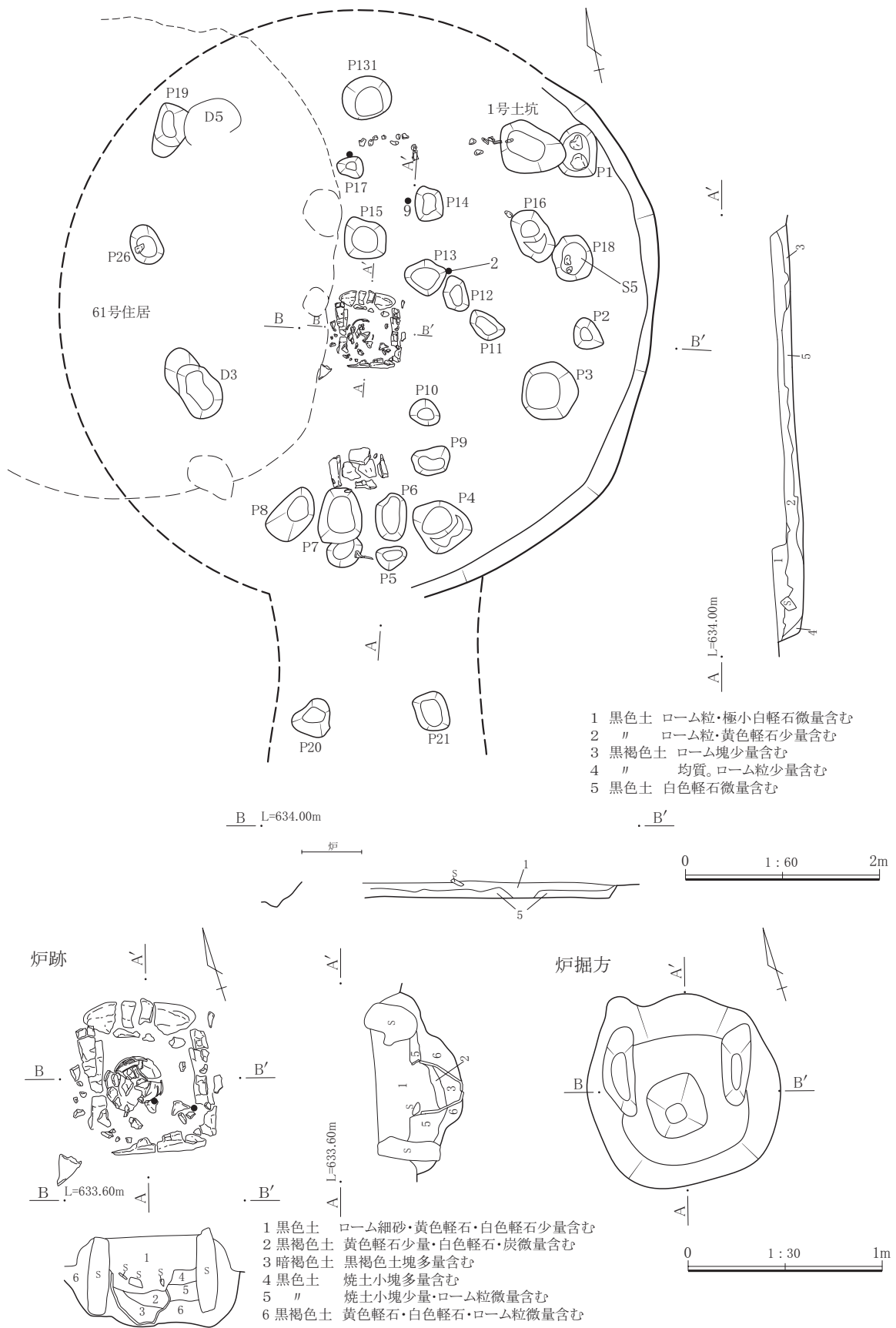
位置・重複 61号住と同様に調査区西側の95区との境を跨って調査された住居跡群の中にある。Q・R-1・2グリッドに位置する。西側に66号住が重複し、南に95区4号住居跡が重複する。推定範囲相互ではあるが、西側から北側にかけて63号住居跡や66号住居跡が重複する位置関係にある。また北東側には前述した全面敷石住居跡である60号住が、南東には65号住居跡が近接するように住居跡群の中心にある。**形状** 柄鏡形住居跡を推定した。東側から南側にかけての壁立ち上りを検出し、住居部の円形規模を見だし、張り出し部にあたる4号住との重複部分から小ピット2基を抽出した。長軸約7.8m×短軸6.1m×深さ約20cmを測る。

方位 長軸方位はN-17°-Eで、北北東を向く。**床面** 調査では、61号住と同時に調査をしたため、床面全体像が判然としないが、東側残存部ではローム漸移層を地床とした平坦な床面である。顕著な硬化面や敷石の痕跡は認められなかった。**炉** 床面ほぼ中央に石囲い炉を設ける。約80×60cm程の方形の平面形を呈し、北側に川原石が充てられ、他の三辺を板石状の安山岩で囲う。いずれも被熱のため破碎が著しい状態を示していた。破碎礫は炉内にも散布するが、炉廃棄時の流入の可能性が高い。また、炉掘り込みには、埋設土器(1)が正位に置かれていた。深鉢口縁部～体部上半を欠くが、底部は完存している。炉埋土及び周辺には焼土粒が散布していたが、多量ではなく、炉石比熱状態とは反する在り方を示す。炉の掘り込みは緩やかな土坑状をなし、石囲い設置穴、埋設土器設置穴を見ることができた。**柱穴** (P1・1号床下

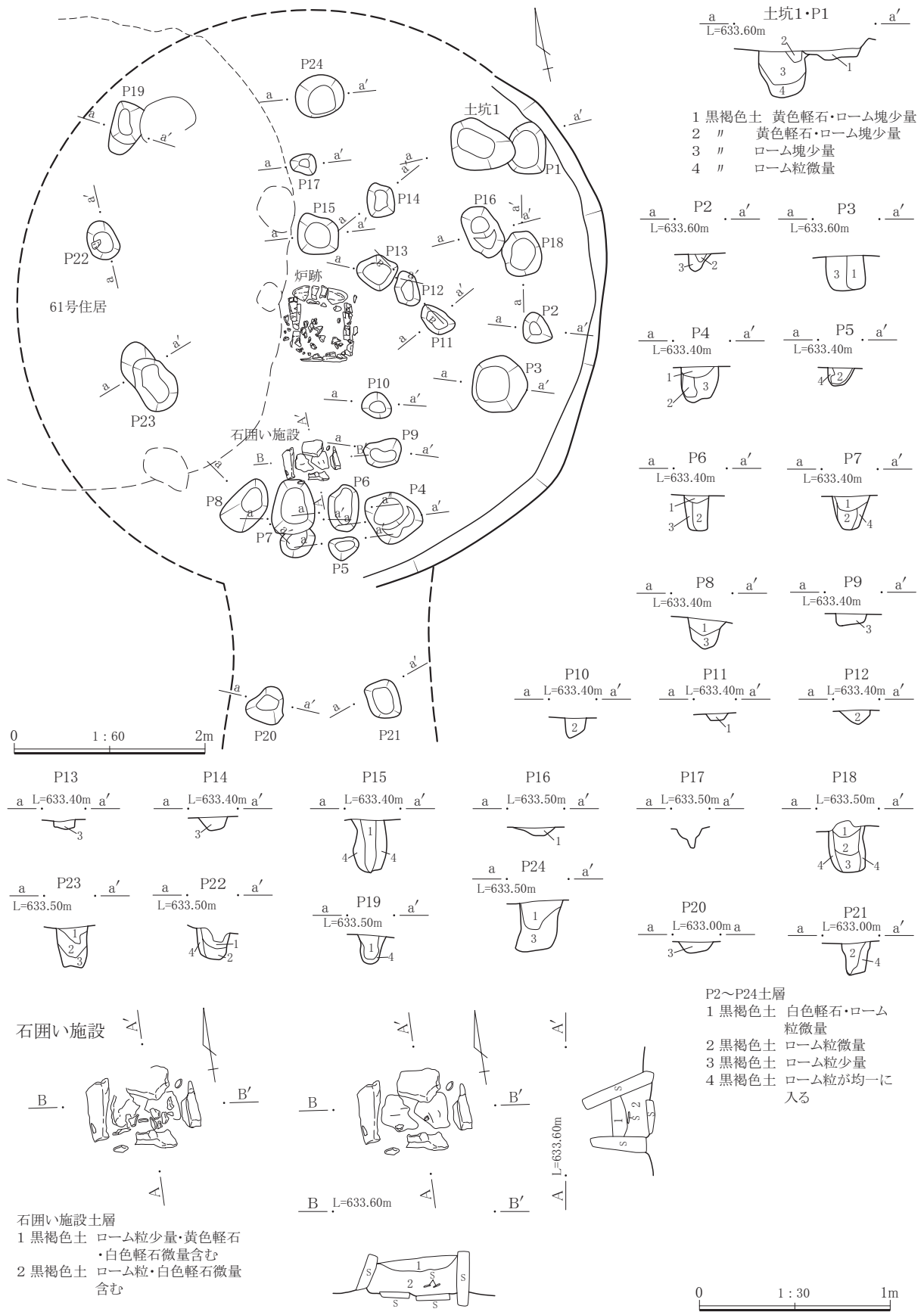
坑)、(P16・P18)、(P3)、(P4)、(P8)、(D3)、(P26)、(P19)・(P131)が壁際に並ぶ柱穴として、深さも妥当である。D3・P26・P19は61号住重複部ではあるが、配置からも本住居跡に帰属する柱穴である。また、炉北に接するP15も長軸線上に乗り、柱痕が観察されている。連結部の対ピットとして、P6とP7がやや小型ながら位置・深さとも良好な様相を示す。張り出し部を推定する際の指標となった、4号住内の小ピット2基(P11・P20)は小規模で浅く、柱穴としてではなく張り出し部痕跡と考えておきたい。**張り出し部** 前述の4号住内の小ピットを張り出し部の施設と考え、柄鏡形住居と捉えている。長軸方向端部は4号住重複のため確認できなかったが、張り出し部短軸幅として約2m程度の規模を想定した。また、図示していないが、連結部に大型自然石が立位ながら原位置を留めない状態で見ることができる。連結部の施設の一部と考えておきたい。**出入り口部石囲い施設** 対ピットとしたP7とP6北に2号炉として調査された石囲い遺構がある。長軸を東西に持たせ約60×40cm程の小型方形を呈する遺構で、出入り口部埋甕と同様の性格を考え、炉ではなく連結口部石囲い施設として捉えた。板石による囲堯で底面にも石が敷かれていた。埋土は黒色土を主体とする。



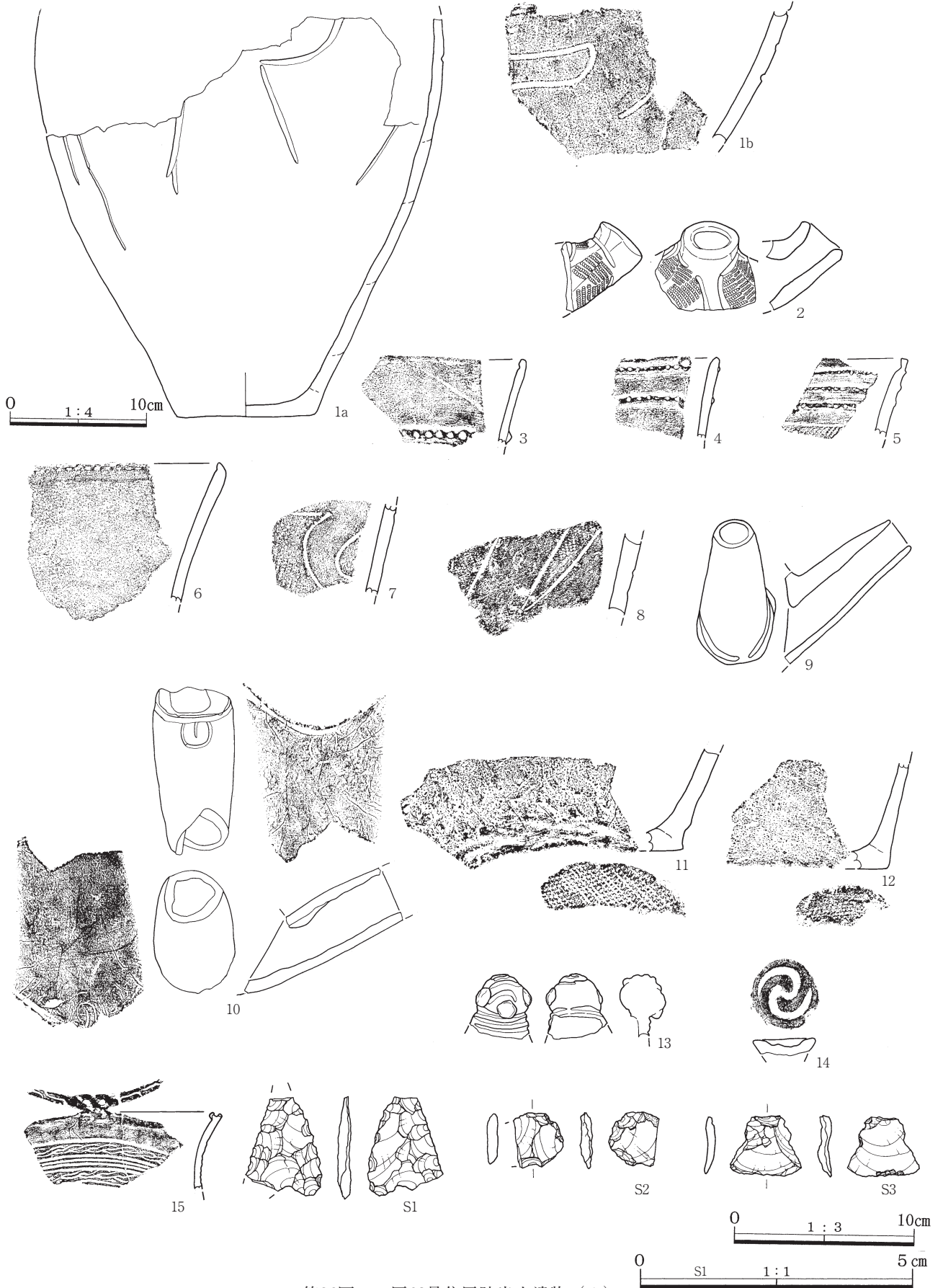
5区62号住石囲い炉と出入り口部石囲い施設



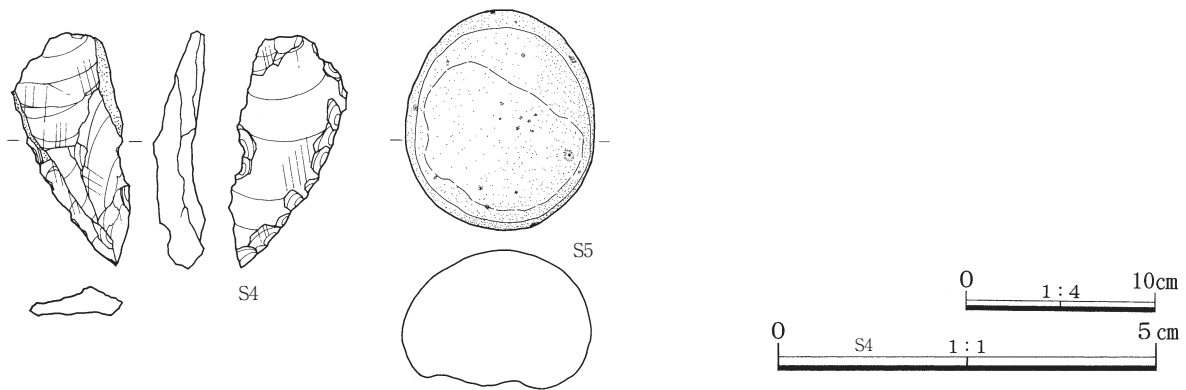
第34図 5区62号住居跡(1)



第35図 5区62号住居跡 (2)



第36図 5区62号住居跡出土遺物(1)



第37図 5区62号住居跡出土遺物(2)

床下 床下調査では、土坑1を検出したが、これは床面からの掘り込みと考え、柱穴として位置付けた。

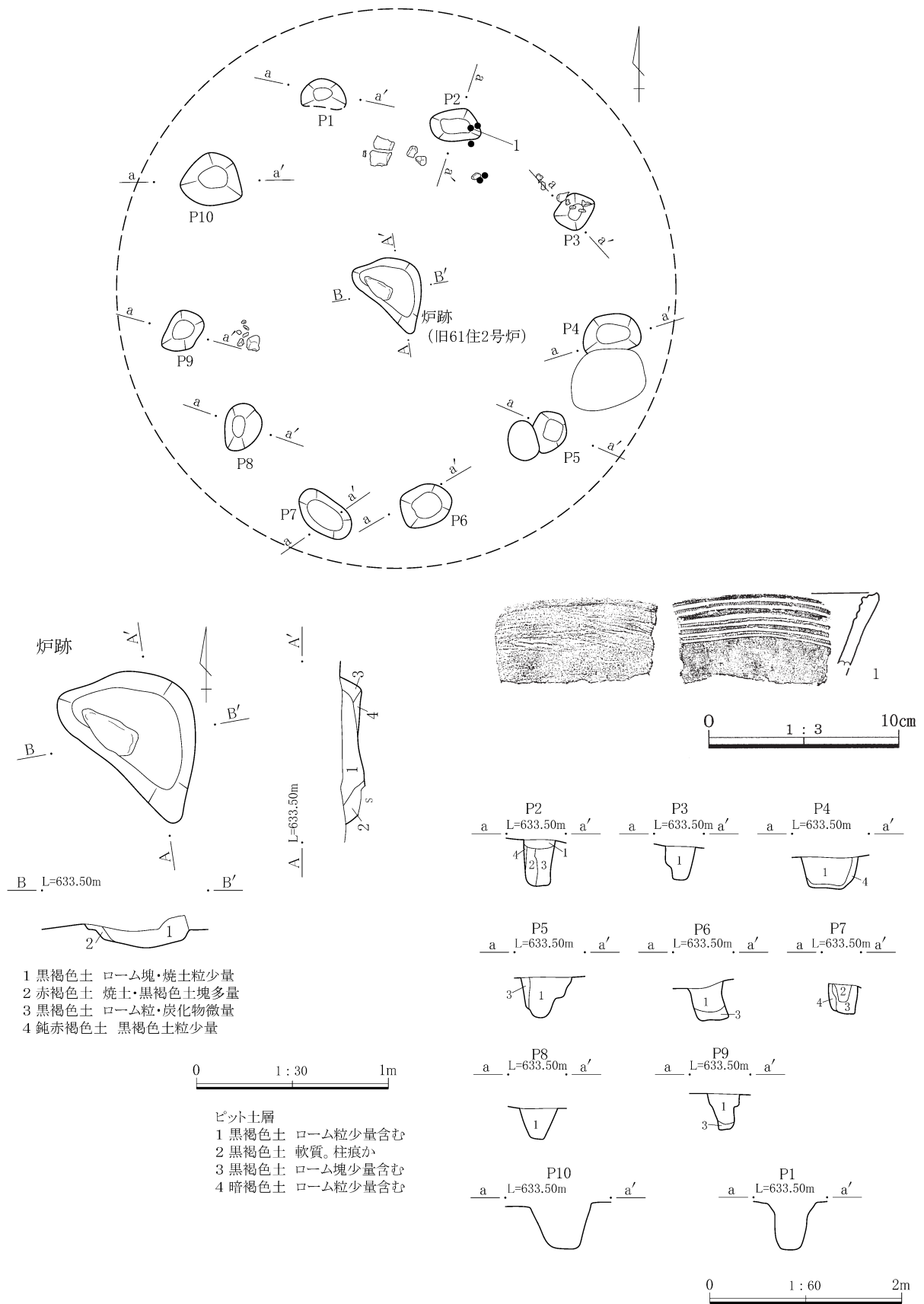
遺物出土状態 前述の石囲い炉内より1の深鉢体部下半を見る他は、土器は全て破片状態で、散漫な出土状態を示す。良好な伴出例ではないだろう。

所見 石囲い炉を中核にした柱穴配置、さらに東壁の存在から、住居跡として確定する。また、連結対ピットや石囲い施設の存在から、柄鏡形住居跡として判断できる。時期は炉内埋設土器が称名寺式終末期～堀之内式古段階の様相を示すことから、後期前葉を充てたい。

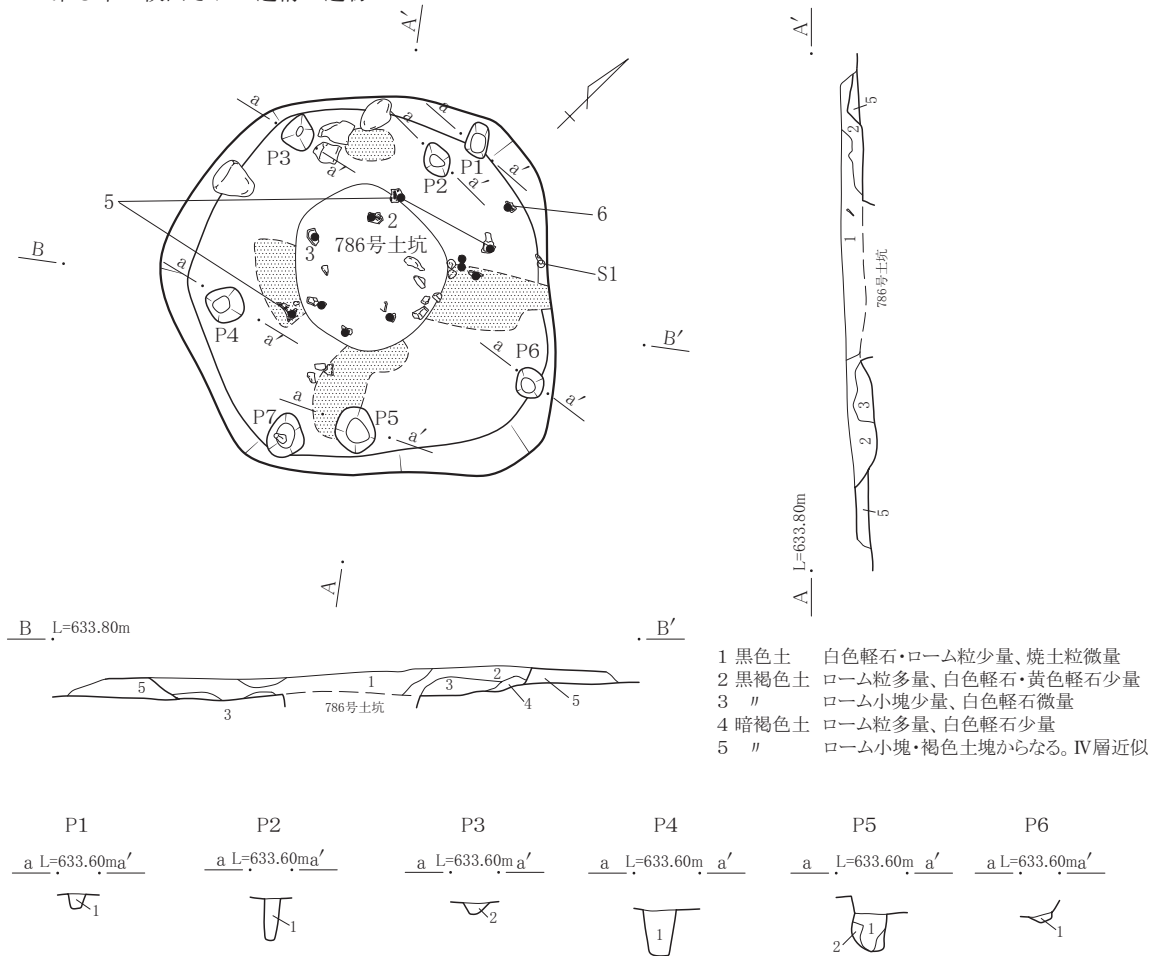
5-63号住居跡

位置・重複 調査区西側で61号住や62号住と伴に調査された。R・S-1・2グリッドに位置する。61号住2号炉の在り方を吟味し、周辺のピットが柱穴として妥当性を帯びたため、住居跡として一群をまとめた。故に、壁による平面形確認ではなく、ピットと炉による推定プランが住居跡範囲で新旧関係は不明である。

形状 推定平面形は径約5.9mの円形を考えた。中型の住居跡といえよう。 **床面** 確認面が柱穴面以下と考えられ、床の状態は不明である。 **炉** 61号住で確認された2号炉を再検討し、本住居跡炉跡として帰属させた。不整形の掘り込みを持つ地床炉である。長軸は約90cm、短軸は約55cm程で、深さ10cm程度の浅い皿状の掘り込みである。焼土は中層に塊状堆積を見ることができ、炉底面も被熱を受けた痕跡を確認した。遺物の出土は見られなかった。 **柱穴** 炉周辺の10基の小ピットを考えた。配置・規模共に妥当性があり、柱穴として位置付けたい。ただし、61号住床面範囲内に入るピットも多く、両住居跡柱穴との整合性は確定的ではない。61号住居跡が中期住居跡として規則的な柱穴配列を示すのに対し、本住居跡柱穴には規則性や方向性は認められず、住居跡として上屋復元等を試みる際には検討を要する。 **遺物出土状態** 極めて貧弱な出土量であり、北側に少量がまとまる。すべて細片・無文の土器片であり、個体図示には至らなかった。浅鉢片1点を図示したが、本住居跡に伴う遺物ではない。 **所見** 炉跡と柱穴による、不確定な住居跡ながら、周辺の他の住居跡範囲を考慮すると、住居跡として可能性を高める必要がある。本書では、時期不詳としておくが、掘り込みの浅い後期住居跡の存在も念頭におきたい。



第38図 5区63号住居跡・出土遺物



ピット土層
 1 黒褐色土 ローム粒・白色軽石・黄色軽石少量
 2 暗褐色土 ローム粒少量含む

第39図 5区64号住居跡
 39図 5区64号住居跡

0 1:60 2m

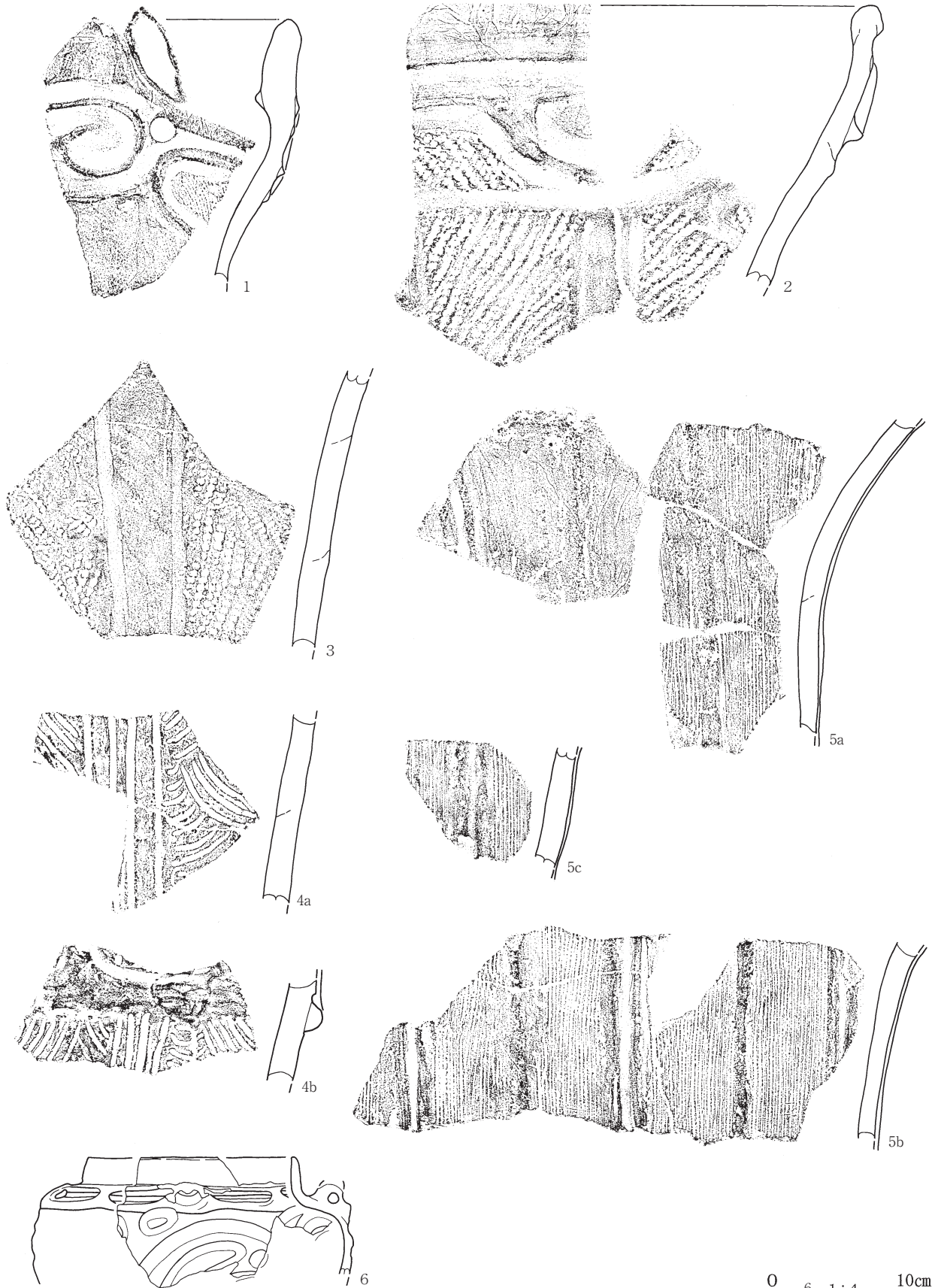
5-64号住居跡

位置 調査区東側で95区との境界北で調査された。N-1グリッドに位置する。周辺はほぼ平坦地形である。

重複 床面中央に786号土坑が大きく重なる。新旧関係は土層の観察からは本住居跡を古く見ることができ
 るが、確定性に乏しい。近接する遺構としては、北側に58号住居が接する。

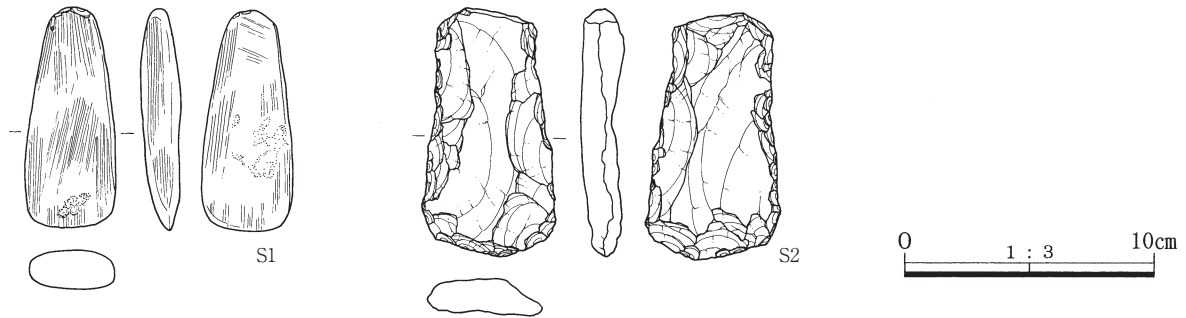
形状 極めて小型の住居跡であり、平面形は五角形を呈する。規模は約3.2×3.0m程で深さは約15cmを測る。
床面 床面は凹凸があり平坦面を築かない。地床で貼床も認められない。やや軟弱な印象を得る。
炉 中央に786坑が重複するため判然としないが、中央部にかけて焼土が広い範囲で検出された。炉の存在は確定的はなく、焼失住居あるいは焼土を伴う施設を考える必要がある。
柱穴 五角形の平面形に沿う形態で小ピットが開く。配置的には良好であるが、深さが妥当な例はP2・P4・P5である。
遺物出土状態 北西壁に大型の自然石が出土するが、本住居跡に帰属するのか流入かは判断できない。土器は埋土下位より破片が集中する。量は住居規模に比して多く、石器2点を併せて8点を図示した。ただし、個体としての出土は見られず、示唆的出土位置を示していない。流入や消極的な廃棄の状態と判断できよう。

所見 小型の住居跡であり、中期集落跡では屢々見られる例ではある。平面形が五角形を呈する例も集落内施設として重要な例と捉えられよう。しかしながら、中央に散布する焼土の様相が居住に伴う所産とは捉え難く、さらに786号坑との重複関係も判然としないことから、住居跡ながら他の住居跡とは性格を異にする施設として位置付けておきたい。あるいは786号土坑を同時存在とした、竪穴状遺構としての判断も可能性を帯びる。786号坑出土遺物も本住居跡と同様の中期後葉である。



第40図 5区64号住居跡出土遺物(1)

0 6 1:4 10cm
0 1:3 10cm



第41図 5区64号住居跡出土遺物(2)

5-65号住居跡

位置 調査区中央で5区と95区に跨り調査された。O・P-1・2・24・25グリッドに位置する。周辺は平坦地形にあたり、住居跡群のほぼ中央に占地する。炉と柱穴の検出によって住居跡として調査された。重複5区60号住の張り出し部より検出された。近接する住居跡としては、西に62号住が接し、南東に95区3号住居跡がある。土坑としては787~789号土坑や794~798号土坑、95区39号土坑や40号土坑やピット群が密集するが、多くが本住居跡の柱穴に帰属する可能性をみた。張り出し部に重なる46号土坑は集石土坑である。重複する住居跡・土坑との新旧関係は不明だが、60号住張り出し下にある様相は、本住居跡が60号住に先行する要素として捉えておきたい。

形状 柄鏡形住居跡として調査した。規模は長軸9.5m×短軸6.5mの大型の住居跡を想定したが、張り出し部の推定規模は2基の小ピットを根拠にしているため、可能性に過ぎない。

方位 長軸方位はN-8°-Wで北北西を向く。

床面 炉跡周辺は僅かに床面が残っていた。ほぼ平坦面であるが、敷石や硬化面の痕跡は検出されなかった。貼床もなくおそらく地床と思われる。

炉 住居部推定範囲中央に地床炉を置く。不整楕円状の掘り込みを持ち、軸を東西に向ける。規模は110×100×30cm程のやや大型の炉で上層に焼土がまとまって確認された。埋設土器等有機的な出土遺物はなかった。

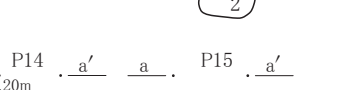
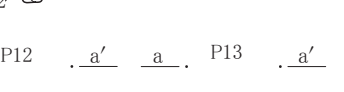
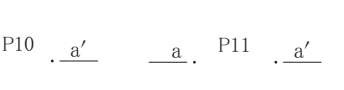
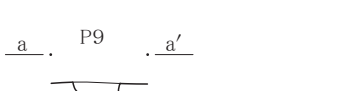
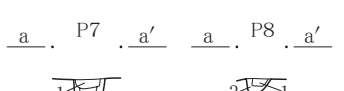
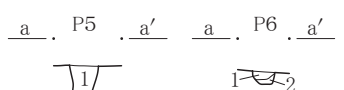
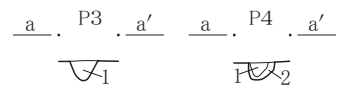
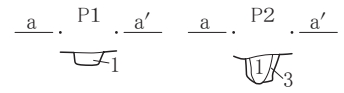
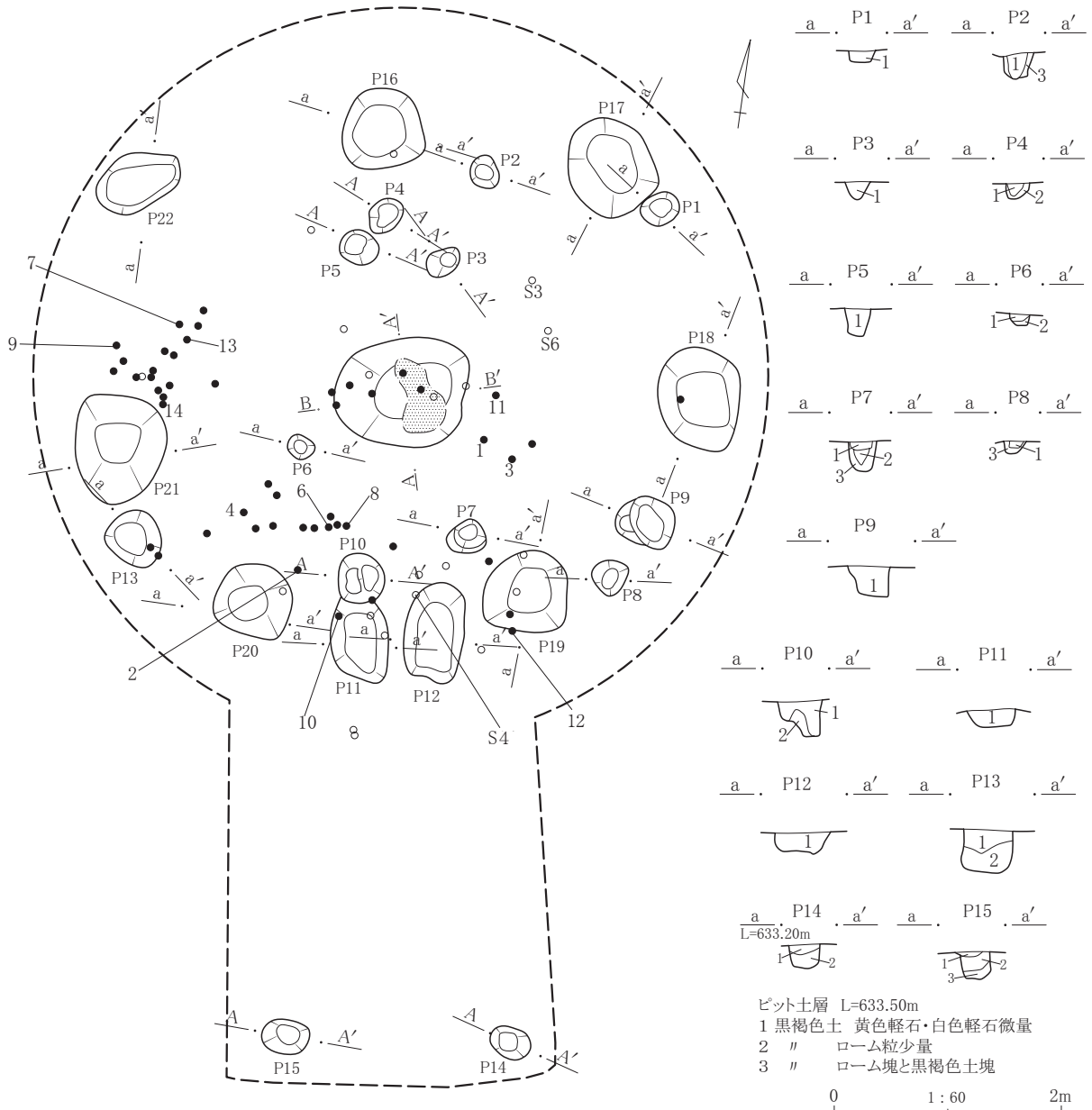
柱穴 炉跡を中心にして半径2~3mの距離を置く土坑・ピットを柱穴として可能性を探った。その結果、787~789号坑・796・797号坑、95区39号坑や40号坑、P9・P13を配置・規模から柱穴として妥当と判断し、新たにピット番号を付した。壁奥の柱穴に相当するP16やピット17~19・20の土層には柱痕が観察されている。また、連結部に相当する箇所にもP11とP12が並ぶ。やや浅いが対ピットとして位置付けたい。

張り出し部 前述のように、柄鏡形住居跡としての調査で、本住居跡の張り出し部を連結部より3.5m南に延長した小ピット2基(P31・P35)にまで求めた。ただし、遺物の分布などの根拠は少なく、可能性を求めた推定規模である。調査時もP31北に近接する46号坑も本住居跡の帰属と考えた経緯がある。

遺物出土状態 全体に散漫な出土状態で、南側から西側に偏る傾向がある。すべて破片状態の出土で、完形土器等の出土は見られなかった。

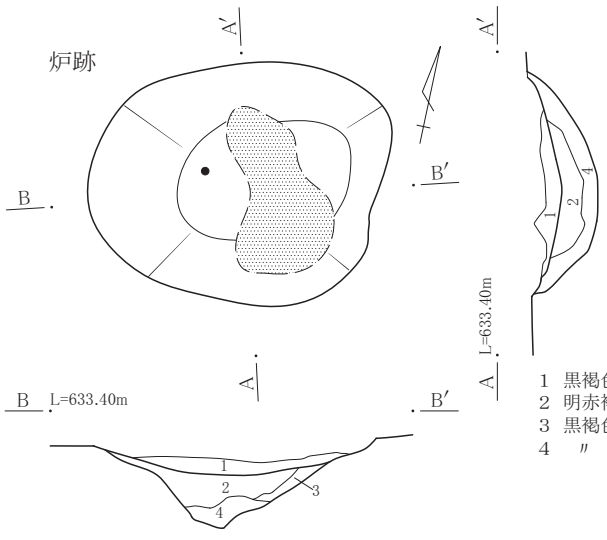
所見 南側敷石住居群にあって、炉と柱穴・対ピットによる住居跡確認である。住居跡としてその存在は確定的であるが、規模・時期など判然としない要素が多い。出土遺物は堀之内1式に集中し、本住居跡の上の60号住先行する要素として妥当であるが、出土遺物の一括性はやや弱い。

第3節 縄文時代

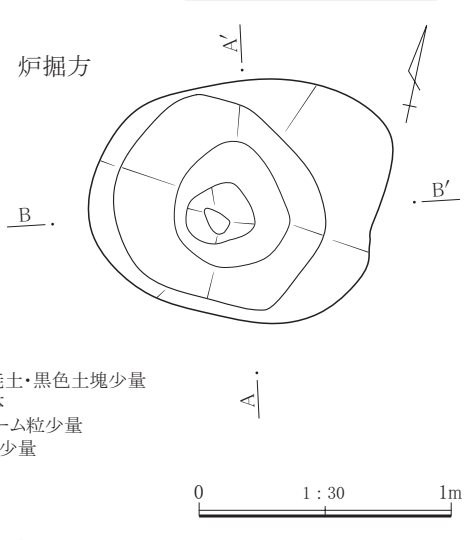


- ピット土層 L=633.50m
- 1 黒褐色土 黄色軽石・白色軽石微量
 - 2 " ローム粒少量
 - 3 " ローム塊と黒褐色土塊

0 1:60 2m

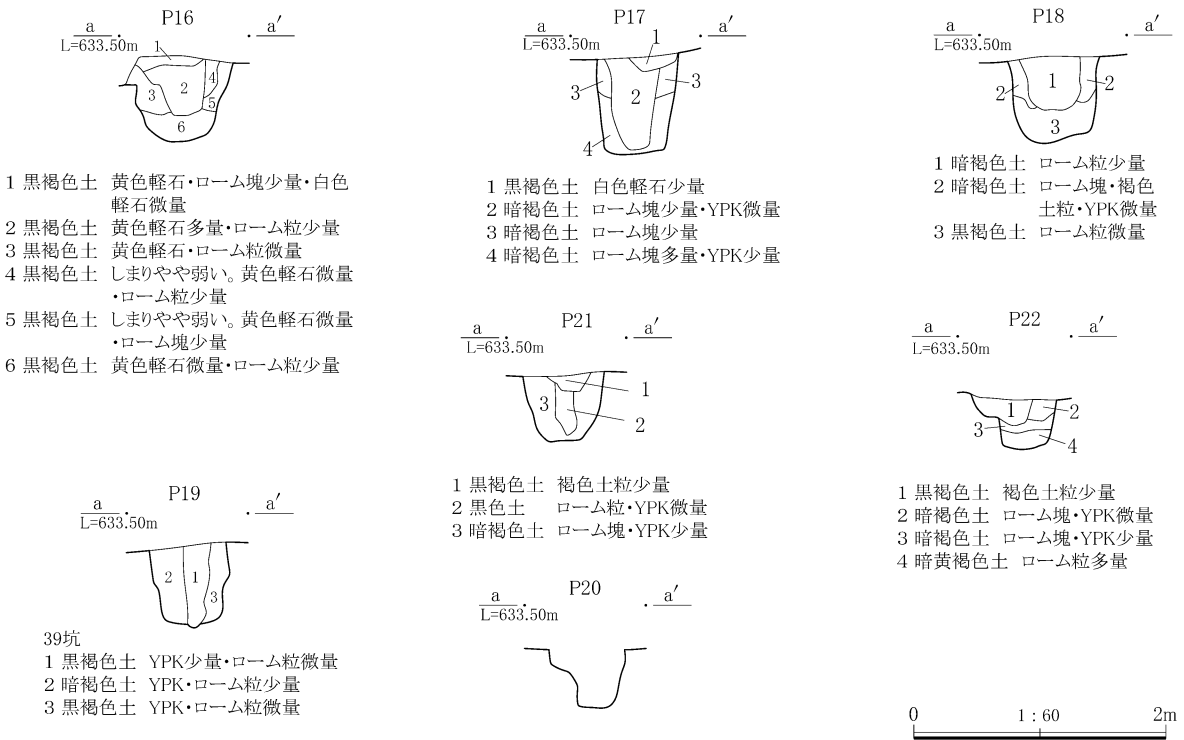


- 1 黒褐色土 明赤褐色焼土・黒色土塊少量
- 2 明赤褐色土 焼土主体
- 3 黒褐色土 焼土粒・ローム粒少量
- 4 " ローム小塊少量

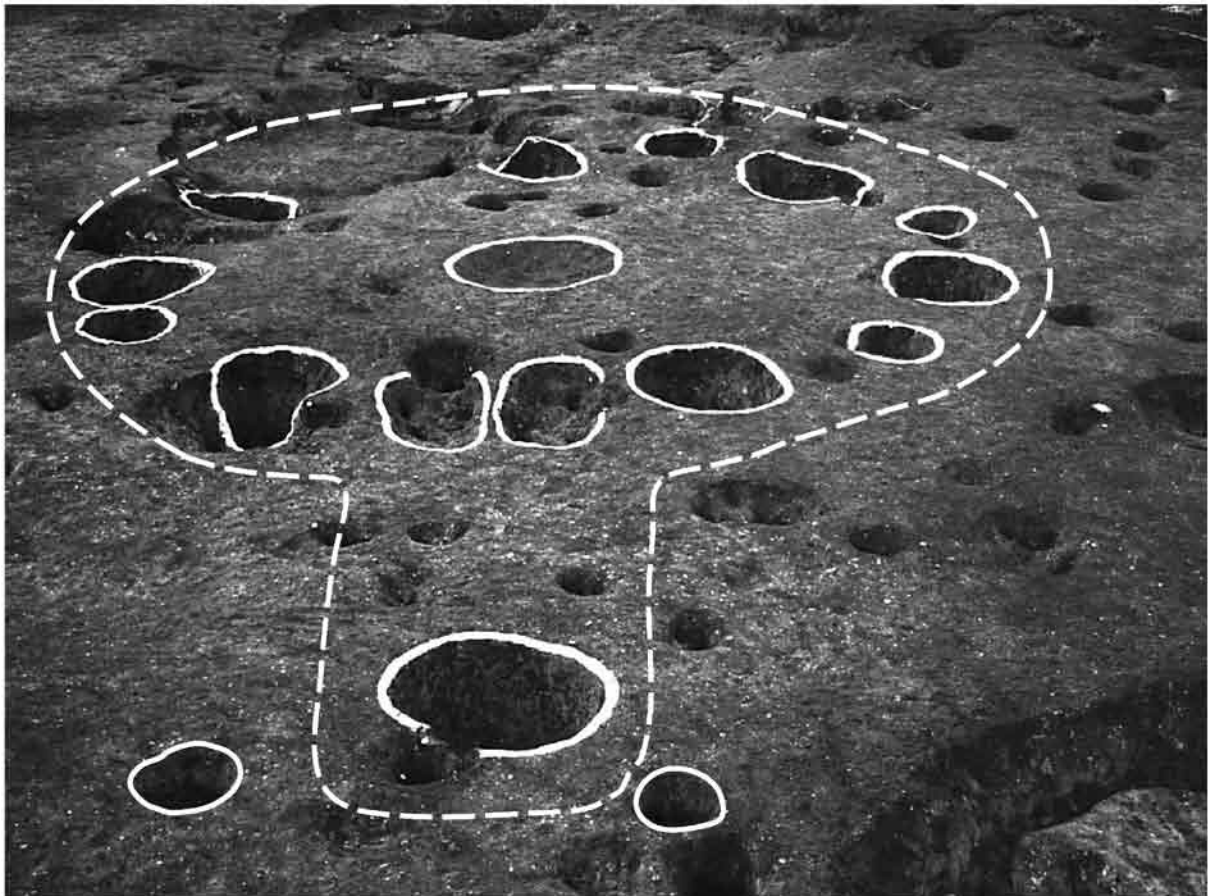


第42図 5区65号住居跡 (1)

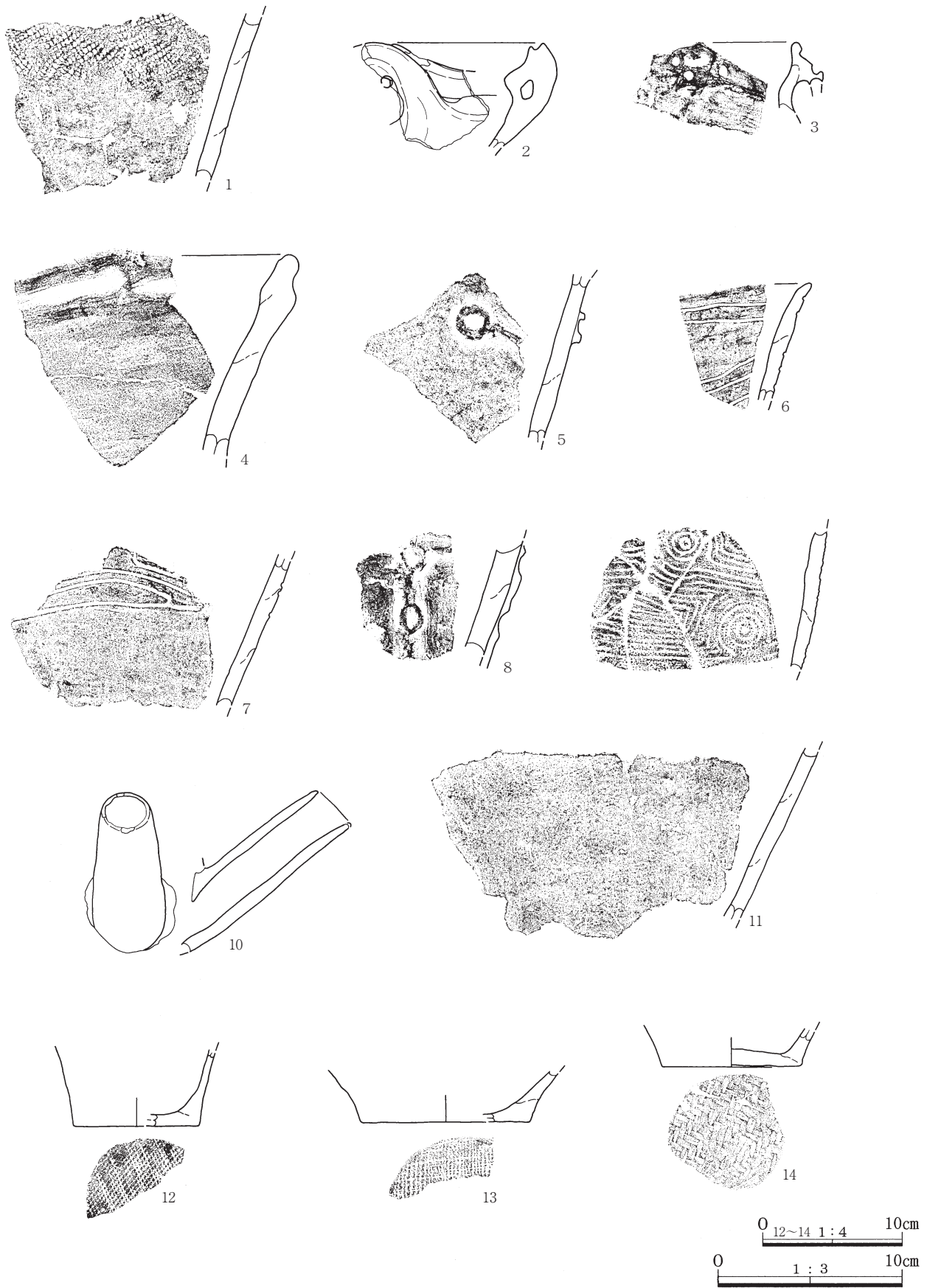
第3章 検出された遺構と遺物



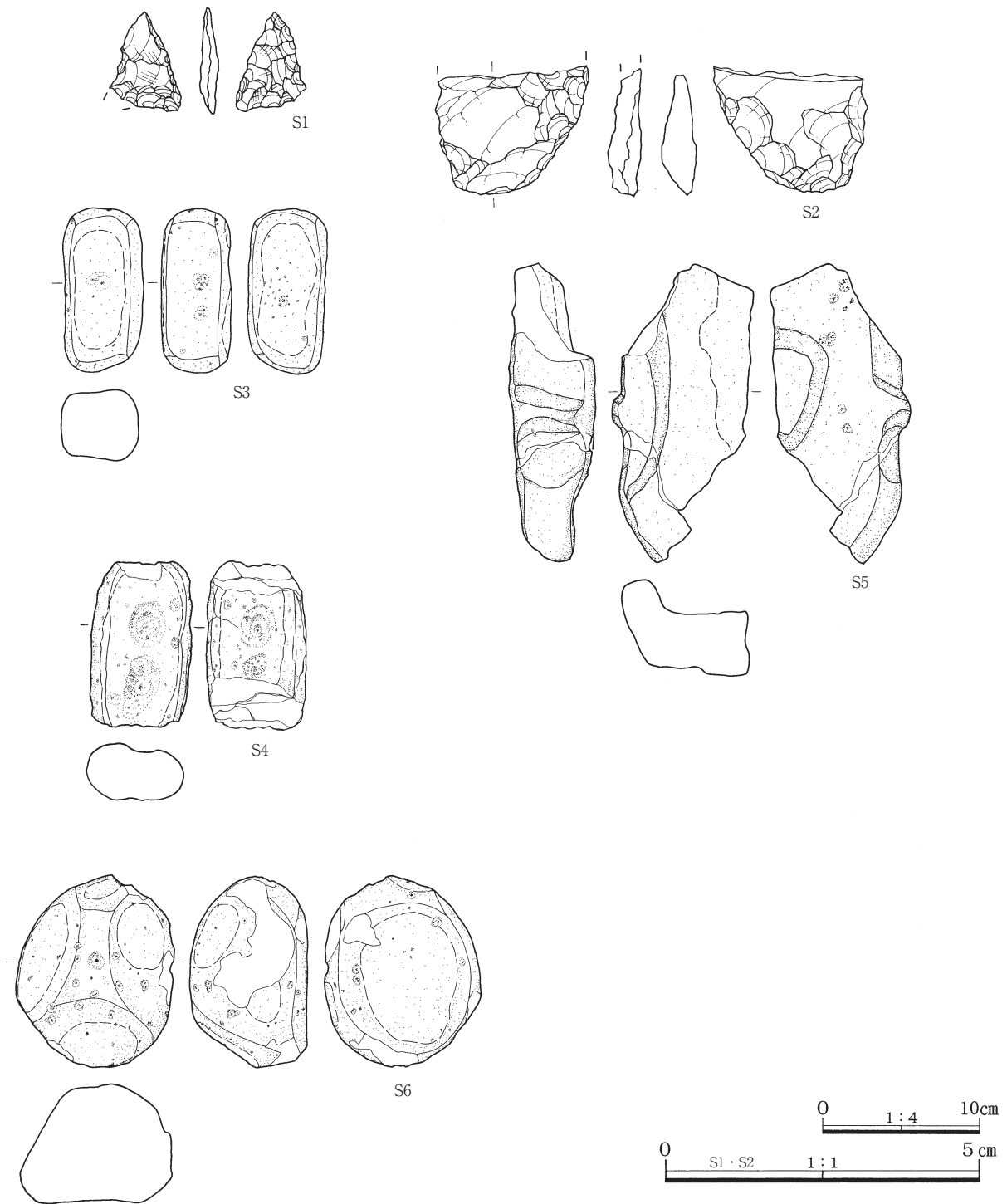
第43図 5区65号住居跡(2)



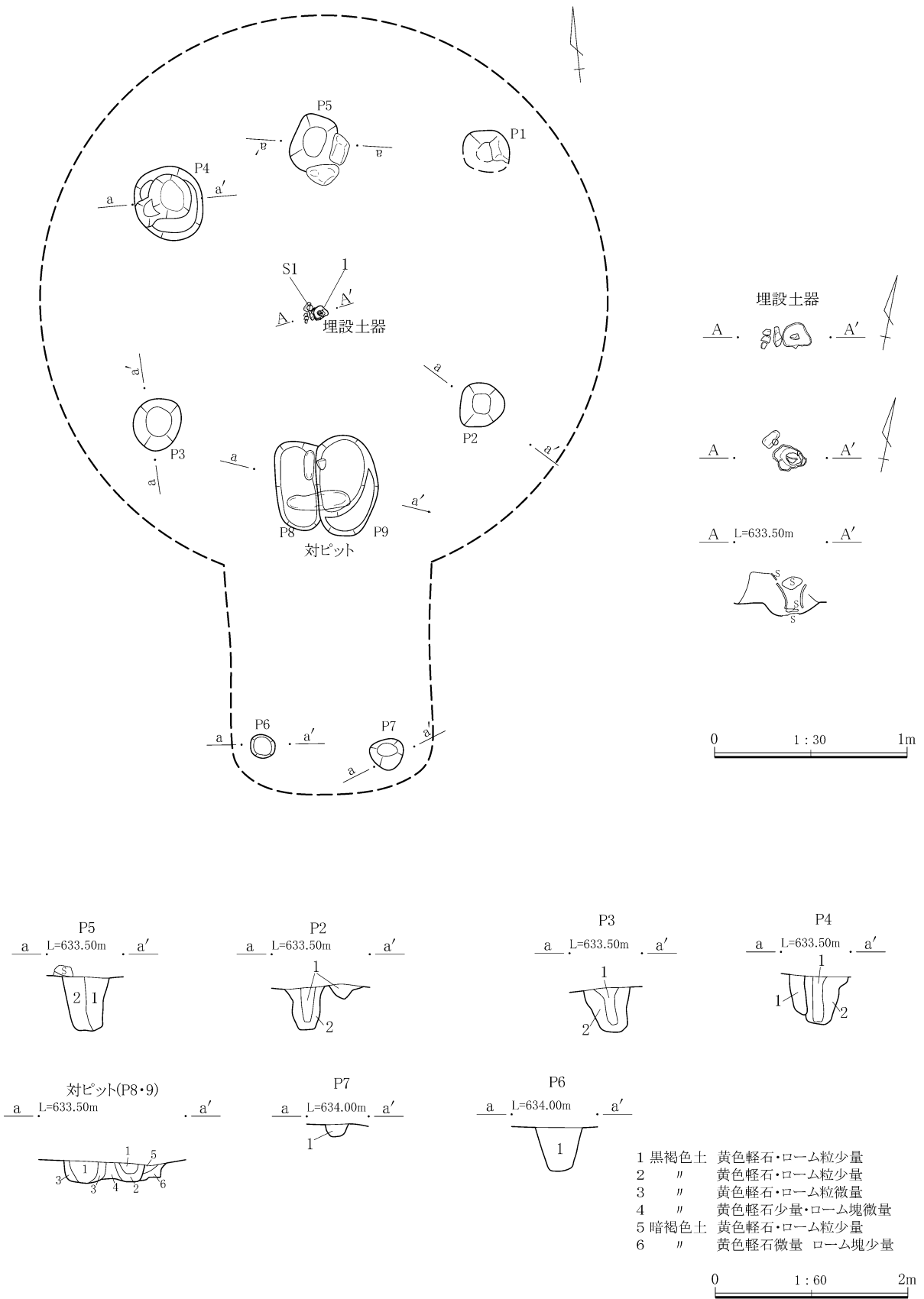
5区65号住居跡全景



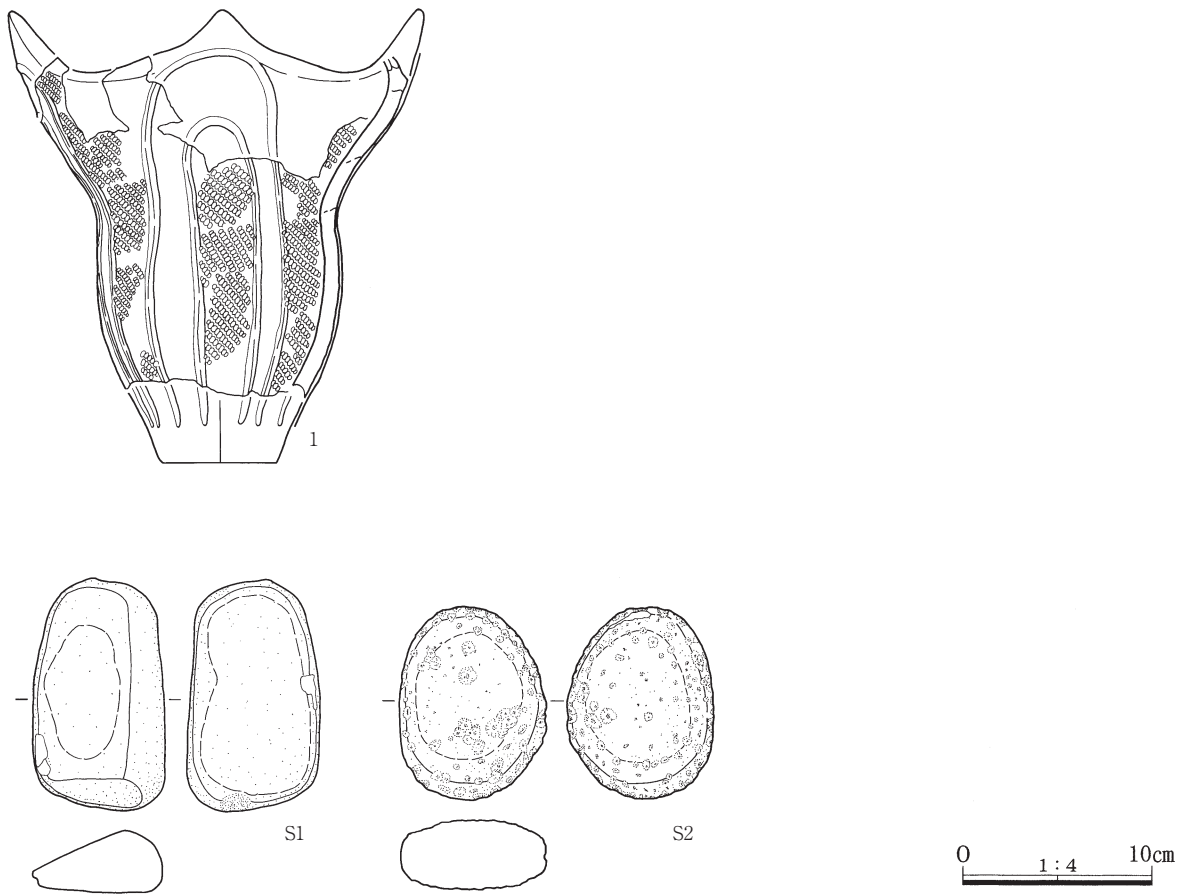
第44図 5区65号住居跡出土遺物(1)



第45図 5区65号住居跡出土遺物(2)



第46図 5区66号住居跡



第47図 5区66号住居跡出土遺物

5-66号住居跡

位置・重複 調査区西端で95区に跨って検出された。R・S-1・2・25グリッドに位置する。周辺はほぼ平坦地形であり、前述の61号住~63号住、95区4号住居跡が重複密集する箇所である。柱穴と1個体の土器のみで住居跡として調査した。

形状 柱穴配置から柄鏡形住居跡として判断した。推定規模として長軸約8.1×短軸5.9mを測る。方位はN-6°-Eだが、軸線が判然としないため、確定的ではない。

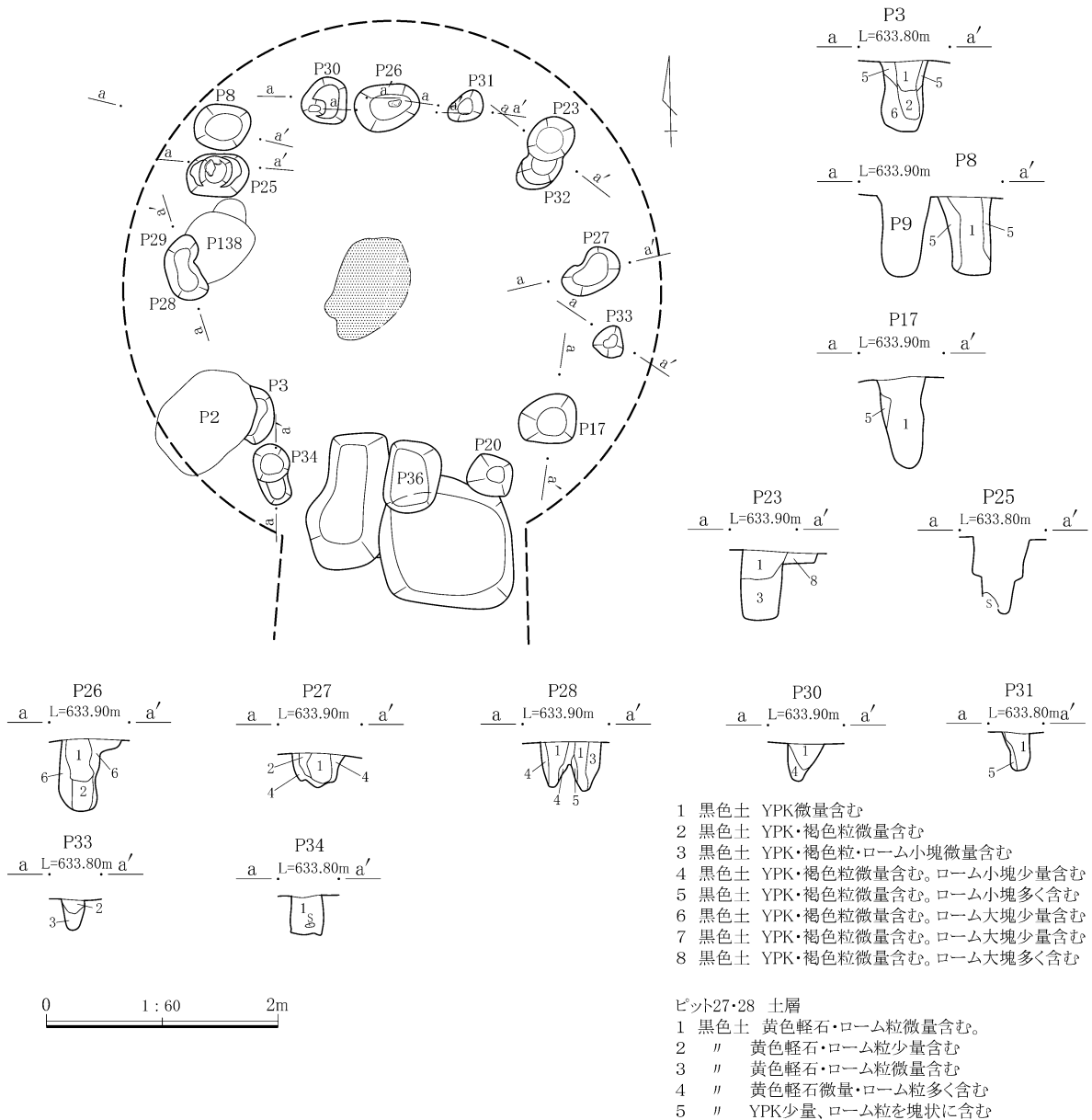
床面 柱穴のみの確認であり、床面は検出できなかった。

炉 中央部に埋設土器を見るが、焼土の集中もなく、炉跡としては明瞭な例は無かった。

柱穴 埋設土器を中心にしたピット・土坑を抽出した。5基のピットを住居部分の柱穴として、2基の土坑を連結部対ピットとして位置付けた。また、南側の小ピットを張り出し部の南端として考えた。柱穴としたピット土層は柱痕が観察され、可能性が高い。また対ピットはやや浅く、掘り込みは連結するが、上層及び北端に大型の棒状礫を置き、示唆的な在り方を示す。張り出し部の小ピットは大きさ深さとも不揃いで規則性は見られない。

遺物出土状態 住居部分中央に正位で埋設土器を検出した(1)。口縁部の殆どを欠き、底部も欠損していた。脇には磨石(S-1)が出土しているが、炉石としての在り方ではない。

所見 柱穴と埋設土器の存在から住居跡として位置付けた。柄鏡形住居跡としたが、張り出し部の存在は推測の域をでない。時期は埋設土器を充て、中期終末としたい。



第48図 5区67号住居跡

5-67号住居跡

調査時に58号住にほぼ重なる形態で抽出した住居跡である。柱穴・焼土・対ピットから住居として調査を果したが、遺物の出土も確定的ではなく、平面形も該期住居跡に比して確定できない要素が多い。そのため、本書では住居跡としては報告はしないが、今後検討を重ね、将来的に住居跡としての位置付けが確定した際には、あらためて報告したい。



5区67号住居跡全景

58号住内側のピットを柱穴として位置付けた

95-3号住居跡

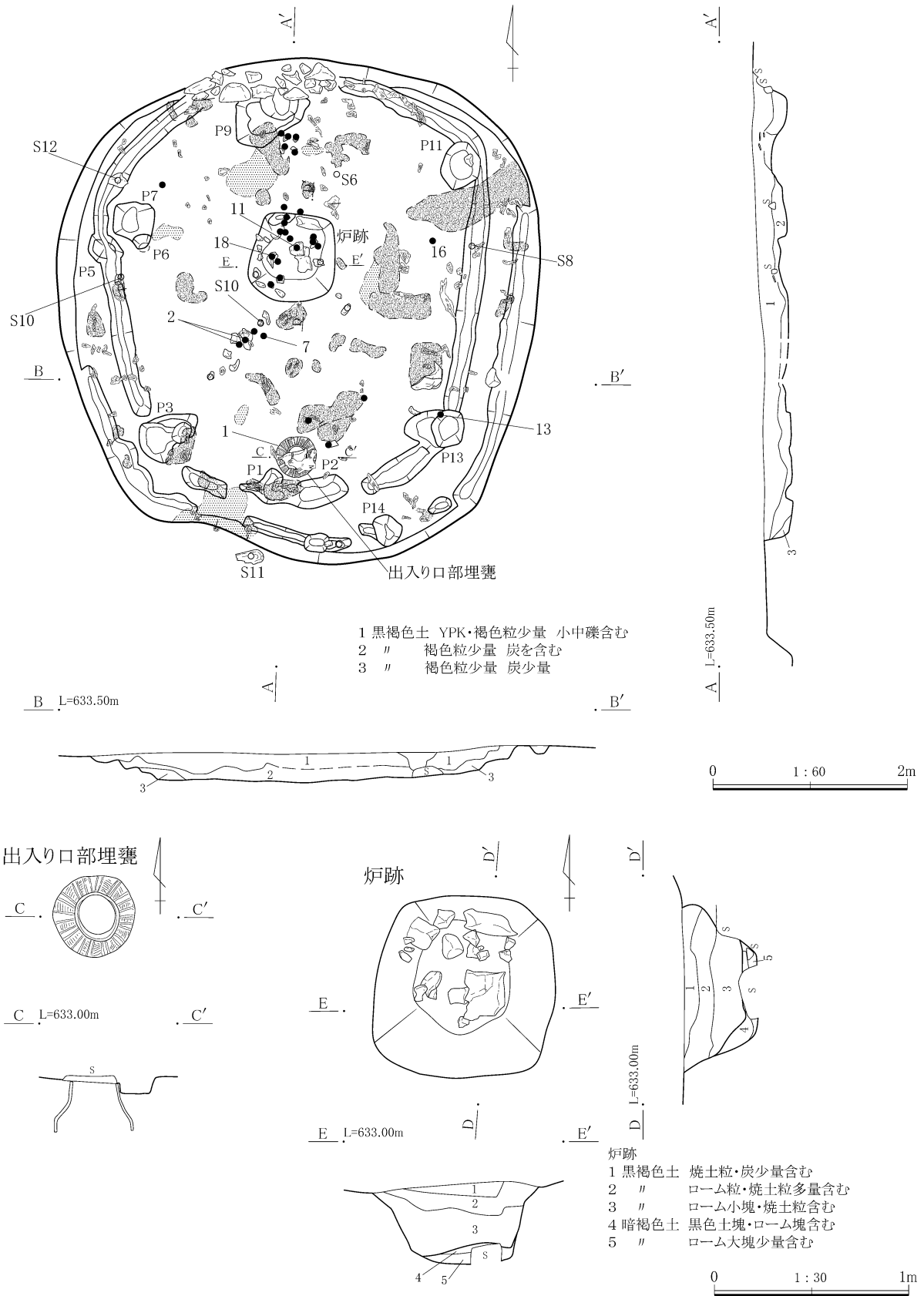
位置 調査区中央やや東よりで調査した。周辺は緩やかな南東傾斜が始まる変換点付近である。N・O-24・25グリッドに位置する。環状集落の南側にあたるが、中期住居跡はさらに南に展開することから、別の支群が存在する可能性もあろう。**重複** 単独の検出である。近接する住居跡としては、北西に5区65号住がある。他の中期住居跡とはやや距離を置く位置に占地する。**形状** 平面形は円形ではあるが、五角形を基調としている。南側壁がやや突出する形態であり、あるいは出入り口部の影響であろうか。規模は南北長軸約5.2×東西短軸約5.0mで、深さは25cmを超え良好な遺存度といえよう。**方位** N-5°-Eを測り長軸はほぼ北を向く。**床面** ローム塊を主体とした薄い貼床を施す。僅かな凹凸があるがほぼ平坦といえよう。全体に硬く締められた貼床で、炉跡周辺より北壁にかけて硬化面が認められた。**炉** 炉跡は床面中央やや北寄りで見出された。軸長90cm程の方形の掘り込みによる地床炉である。底面及び北壁に焼けた自然礫が出土したが、石囲い構築材ではなく、基盤礫の一部と判断した。焼土は中層にやや多く見ることができた。

柱穴 P3、P7、P9、P11、P13からなる五本柱穴と考えた。柱痕も観察され、規模・配置ともに良好な例として評価されよう。さらに床下調査で、各柱穴の内側あるいは北側にさらに同規模のピットを見ることができた(P4・P8・P10・P12)。おそらく本住居の拡張に伴う旧住居柱穴と捉えられよう。

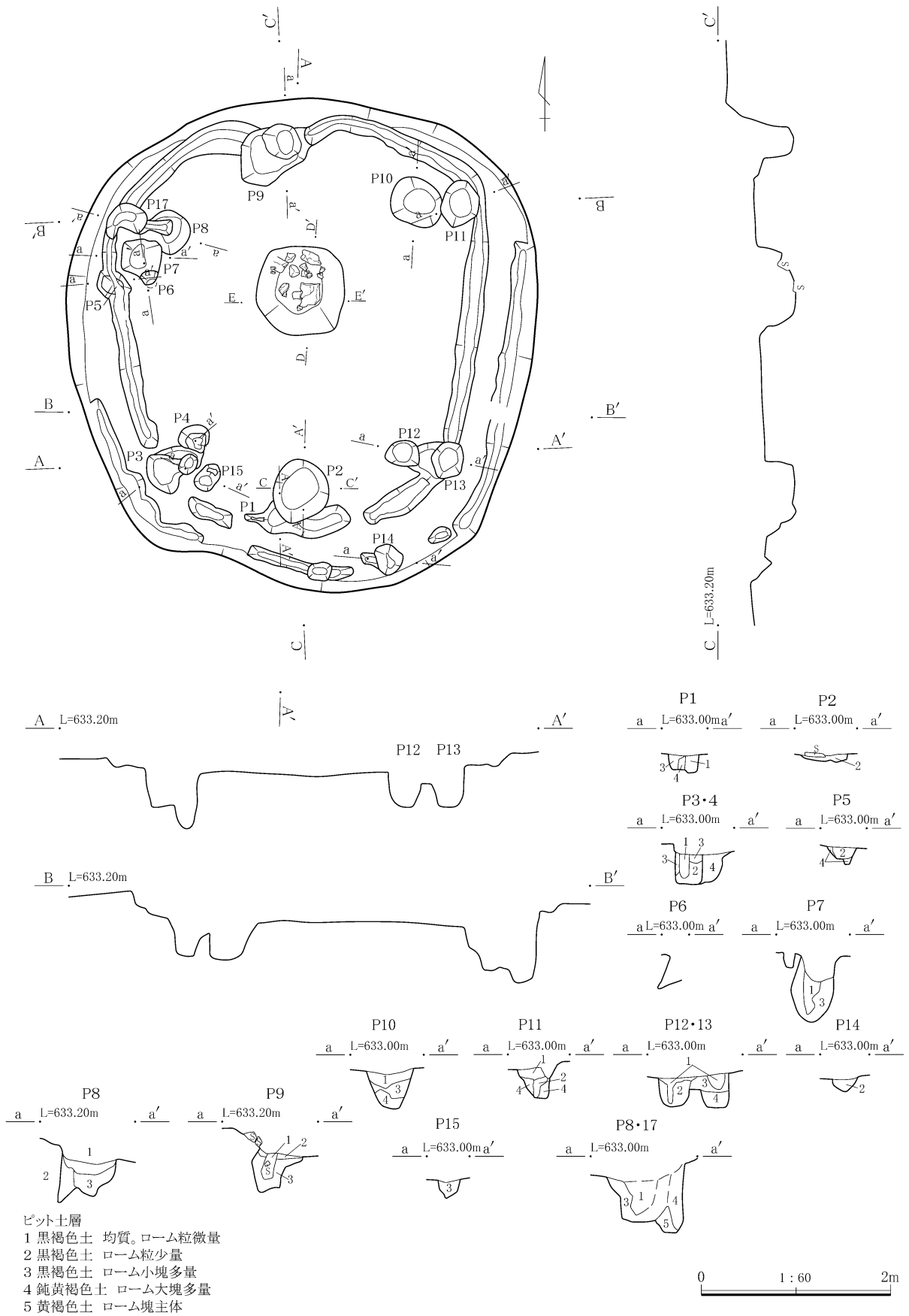
埋甕 南壁より1m程距離を置いて、大型の板石状自然石が置かれ、下位より埋甕を見ることができた。底部を意図的に欠損し、逆位に埋設されていた。旧住居壁周溝が南接しており、出入り口部埋甕として位置付けられる。**出入り口部** 前述の5区61号住や95区6号住・9号住・10号住居跡のように明瞭なピットを伴う出入り口部ではないが、本住居跡も南壁が若干ながら突出する形態を見せ、先に述べた埋甕と併せて、南



95区3号住居跡北壁集石施設



第49図 95区3号住居跡(1)



第50図 95区3号住居跡(2)

壁周辺に出入り口部を捉えておきたい。壁周溝が途切れることなく連続する様相は否定材料だが、北壁集石施設及び炉跡を延長する軸線上に埋甕があり、導線としての出入り口部を特定できよう。内側の小ピット(P1)も何等かの施設と思われる。**壁周溝** 床面内縁でやや直線的に壁周溝を検出している。さらに数cm高いレベルで東壁から南壁・西壁にかけて拡張に伴う壁周溝を見る。内縁壁周溝は旧住居の平面規模であり約4.6×3.9mを測る。外縁の壁周溝はやや細く浅い例であるが、あるいは数cmの段差をもって棚状の施設を拡張した可能性を持つ。さらに、拡張を果たさない北壁には集石施設があり、極めて示唆的な様相を示す。

集石施設 北壁中央に約1mにわたり大型の自然石を積み重ねた集石が検出された。床面よりほぼ壁上にまで達する集石で、直立する壁よりやや緩やかに自然石を置く。中央に壁奥の柱穴が開き、積み石は「柱」を意識したかのように配されている。性格は特定できないが、単なる壁補強とは捉えられず、壁奥柱穴「主柱」を中心とした祭壇状の性格が想起できよう。先にも述べたが、拡張を伴う壁周溝の移動・柱穴の移動の際にも、集石施設と壁奥柱穴の移動はなされていない。**炭化材** 本住居跡は焼失住居の可能性が高い。調査着手時より埋土中より多量の炭化材を出土した。炭化材はある程度のまとまりがあるものの、建築部材や住居構築材を示唆する出土例ではなく、「炭化材廃棄」という消極的な解釈も成り立つ。しかし、炭化部材の残存度は、全てが炭化しなければ良好とはいえないため、部材形状を留めない状況でも焼失住居としての位置付けは可能である。尚、炭化材の樹種はクリと同定されている。**遺物出土状態** 出入り口埋甕(1)の他は全て破片状態で埋土中より多量に出土している。炉及び周辺に集中する傾向があり、2は炉南から、11は炉上層より出土している石皿(12)は南壁出入り口部壁外から、多孔石は北西隅の壁周溝上より出土している。

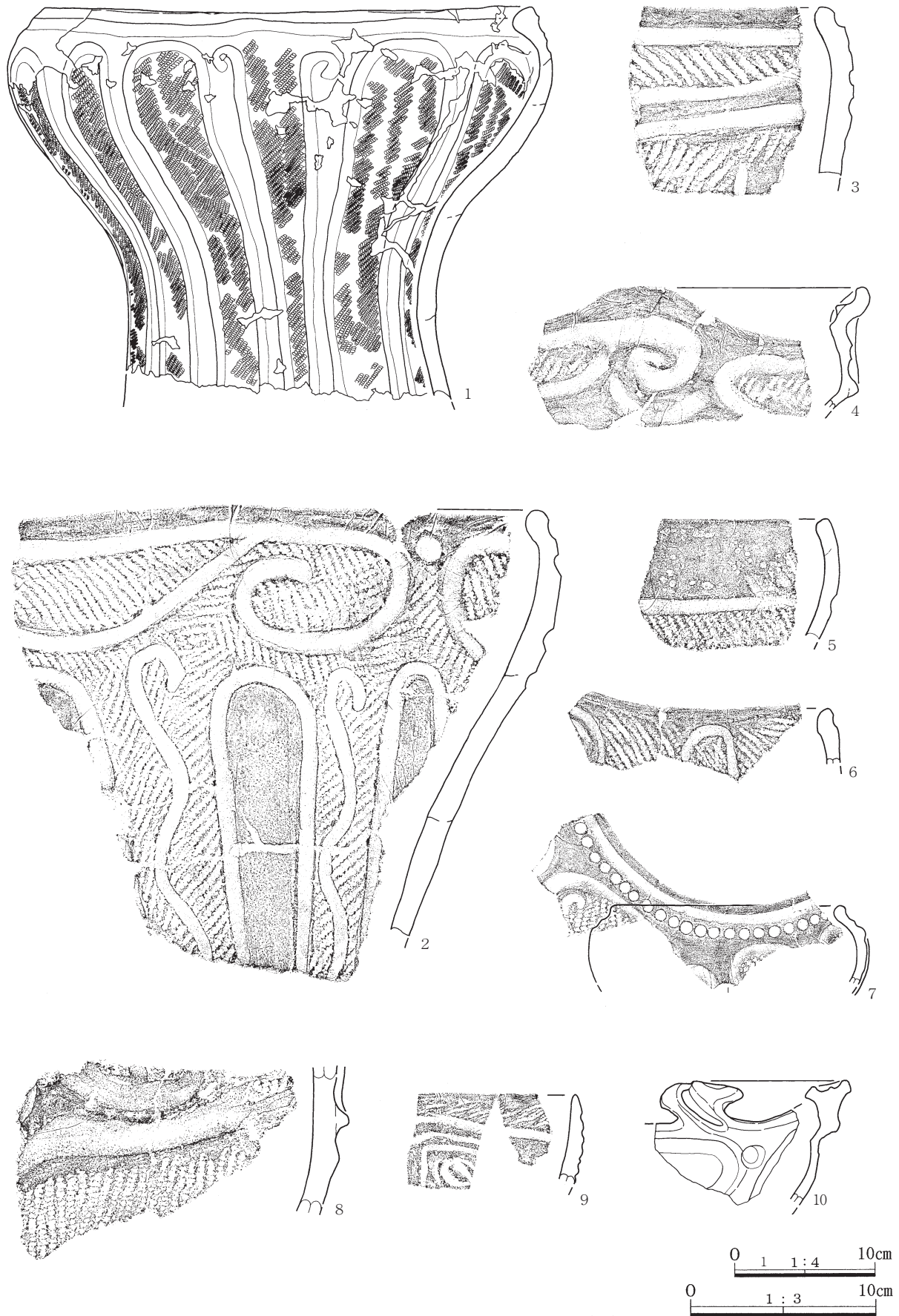
所見 北側壁石積み施設を持つ住居跡として、評価を定めたい。拡張住居でありかつ焼失住居ある。さらに出入り口施設の初現的な形態をも具体化している。極めて資料価値の高い住居跡である。時期は出入り口埋甕が加曾利EⅢ式であることを踏まえ、中期後葉としたい。



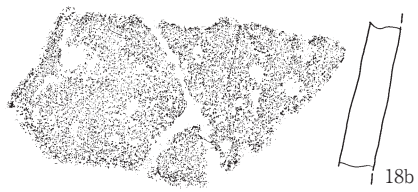
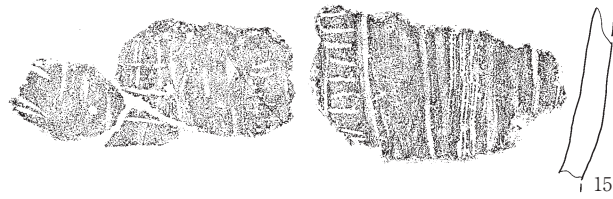
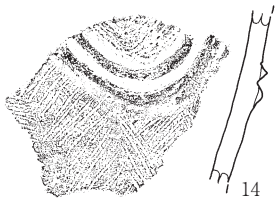
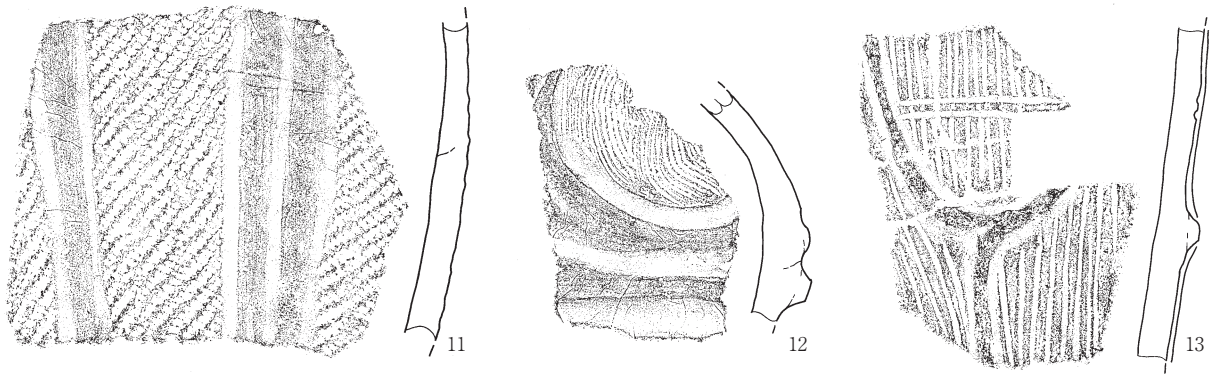
95区3号住炭化材出土状況



95区3号住埋甕調査風景

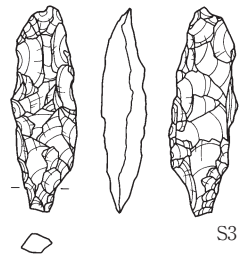
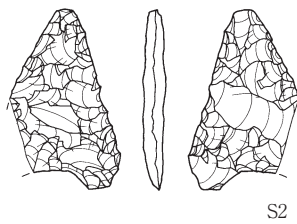
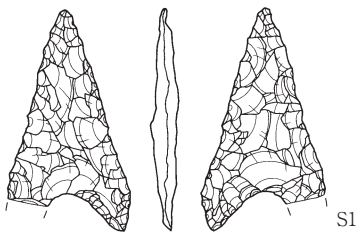


第51図 95区3号住居跡出土遺物(1)



0 1 : 3 10cm

0 1 : 4 10cm



0 1 : 1 5 cm

第52図 95区3号住居跡出土遺物(2)



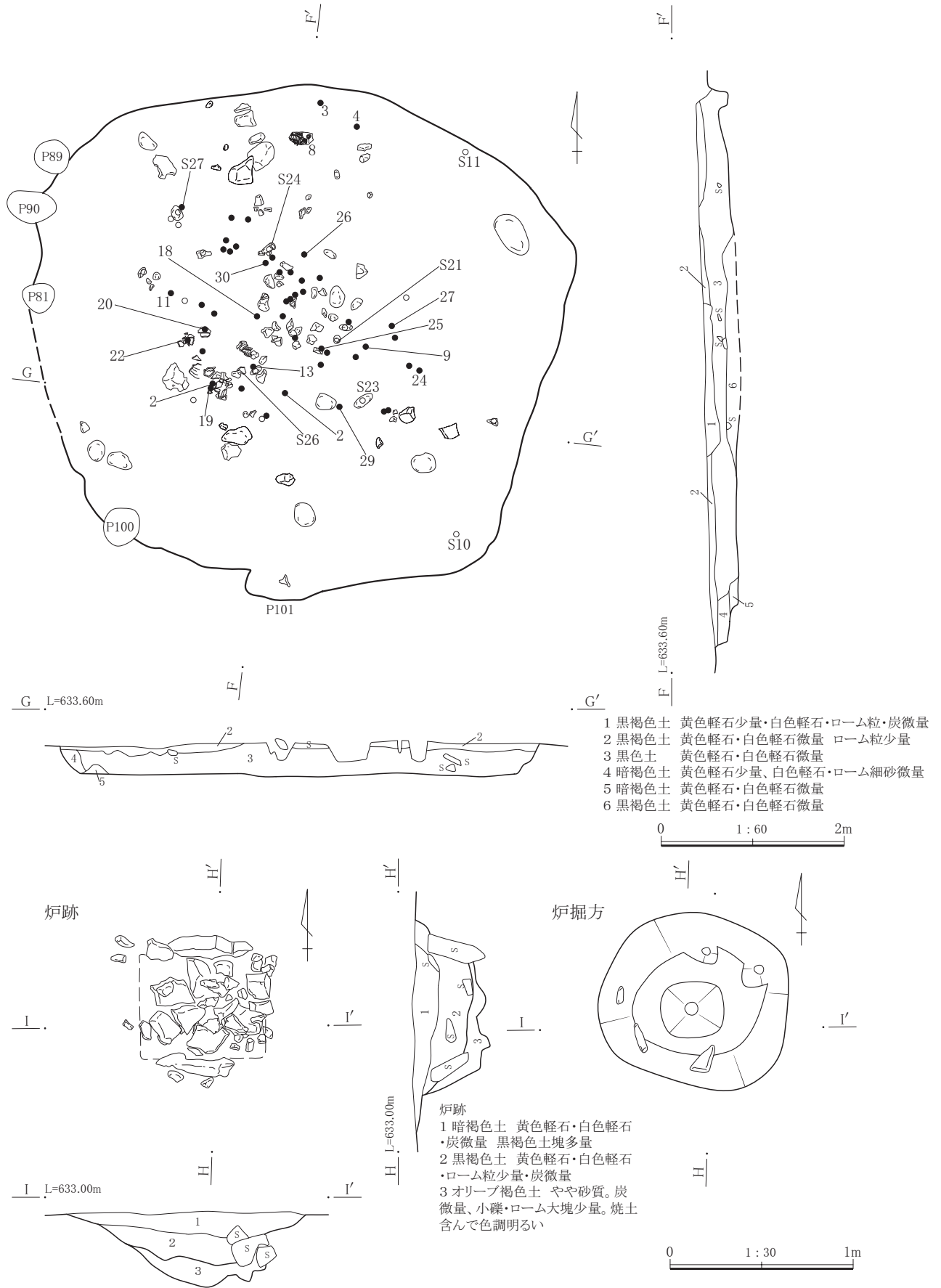
第53図 95区3号住居跡出土遺物(3)

5-4号住居跡

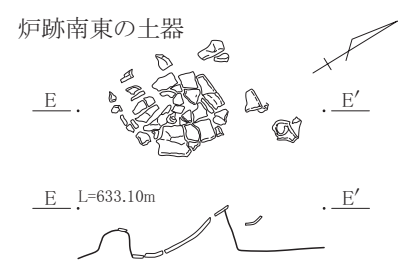
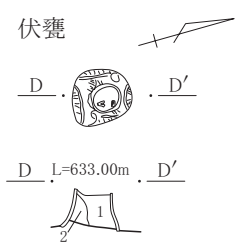
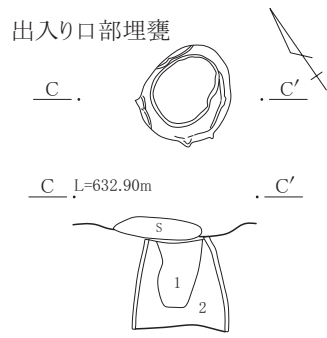
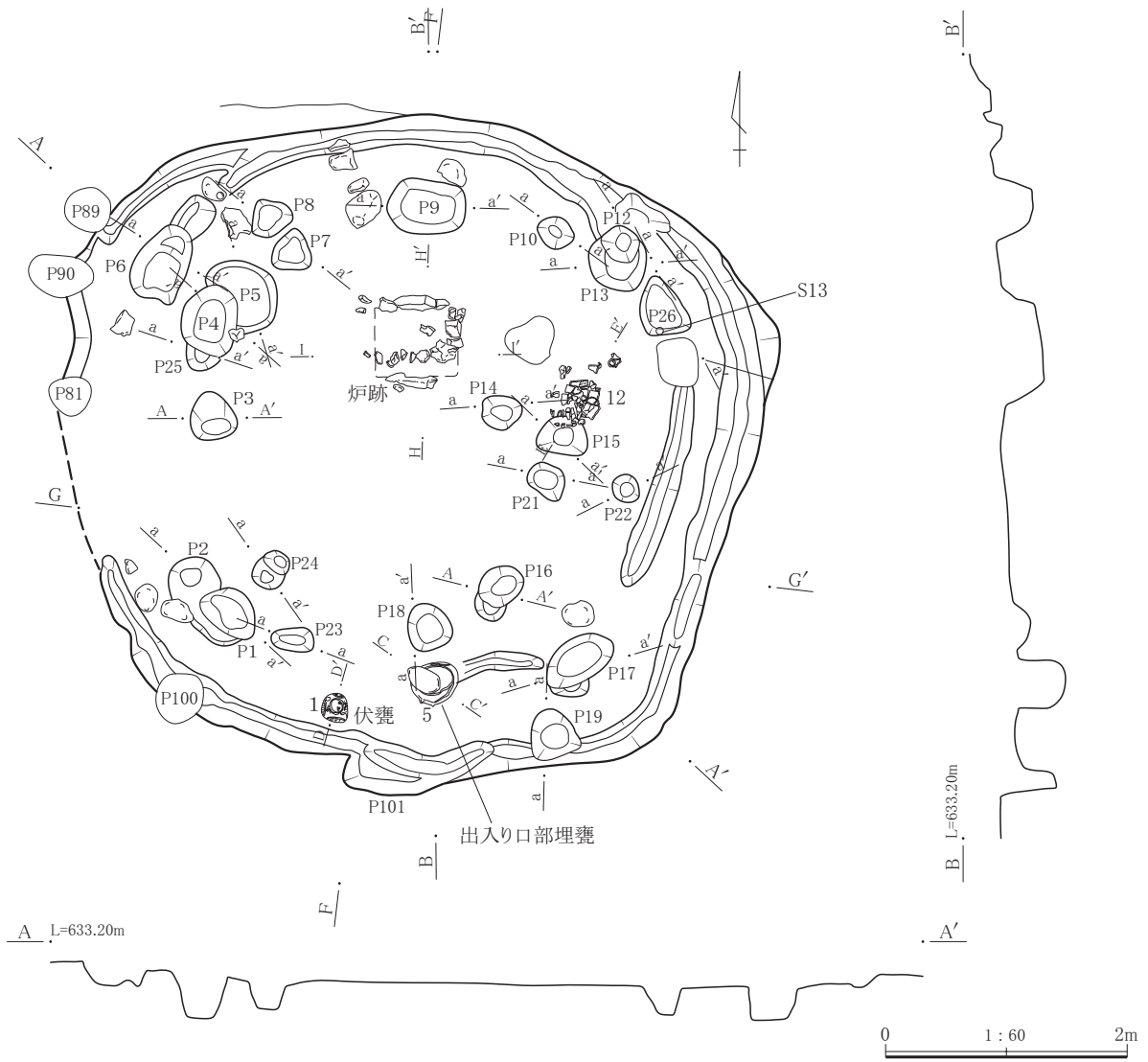
位置 調査区西側のQ～S-24・25グリッドに位置する。5区境界に接して検出された。緩やかな南斜面のほぼ平坦地形で、環状集落南側にあたる。**重複** 北側には95区61号～63号住・66号住が重複・近接する。中期住居跡では、61号住が北約1m、5区10号住が南約4mの距離にあるように、中期住居跡群を構成する1軒である。その他では小ピット群が重複し、5区1号炉が東に接する。**形状** 五角形を基調とした円形を呈する。規模は、長軸約5.9×短軸5.6mを測り、確認面より約15cm程の掘り込みで床面に達する。南壁の中央がP101により乱れが見られる。重複ではなく、出入り口部を示唆する壁の変形と考えたい。**方位** 主軸方位はN-0°-Eでほぼ北を向く。**床面** ローム漸移層を主体とした地床である。ほぼ平坦面が築かれ、明瞭な貼床ではないがローム塊や褐色土塊からなる床面である。炉跡周辺が硬く締まる。**炉** 床面中央北側に偏る位置で確認された。軸長80cm程の方形を呈する石囲い炉で、約40cmの深さの掘り込みを持つ。石囲い四辺のうち炉石を確認し得たのは北辺と南辺で、東辺は下部の痕跡、西辺は破壊され炉内に廃棄された状態で検出された。住居廃棄時の炉破壊行為を想定できよう。焼土は下層に集中していた。**柱穴** (P1・P2)、(P4・P6)、P9、(P13・P26・P20)、(P17・P19)、P18が配置・規模から柱穴として位置付けたい。このうちP9とP18が住居主軸線上に乗り東西二箇所柱穴が配されていた。P9・P18以外は2穴が近接しており、住居建て替えを示唆する。**壁周溝** 柱穴近接による住居建て替えは壁周溝にも具体化する。西側には壁周溝自体は見られなかったが、東壁周溝と南壁周溝は外側に広がり、拡張痕跡として位置付けられる。各壁周溝の延長からおそらく西壁も拡張行為が行われていたものと考えられよう。拡張後の床面レベルは旧住居床面とほぼ同一レベルであり、3号住に見た段差のある拡張ではない。尚、北側壁



95区4号住調査風景

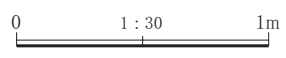


第54図 95区4号住居跡(1)



伏葬
1 黒褐色土 黄色粒微量
2 黒褐色土 ローム大塊少量

出入口部埋葬
1 黒褐色土 黄色粒少量 やや砂質
2 黒褐色土 ローム大塊多量



第55図 95区4号住居跡(2)

は拡張が果たされなかった可能性が高い。これは先に述べた北壁石積み施設を持つ3号住と同様で、本住居跡も北壁に何等かの施設が存在していた可能性がある。**埋甕** 南壁中央とP18との間に、大型の自然石が置かれ下位より逆位の埋甕（5）が出土している。体部中位より下半が打ち欠かれた加曾利EⅢ式の大型の深鉢である。南壁中央下にあり、住居主軸線上に設けられる要素から、出入り口部埋甕と見ることができる。**伏甕** 本住居跡床面には先に述べた埋甕以外にさらに1基の逆位深鉢が出土している（1）。南壁下中央やや西よりで口縁部を床面に接し、体部下半が欠損した唐草文系土器である。土坑の掘り込みなどは確認されず、床面に逆位埋置された状態と見ることができる。**出入り口部** 先に述べたように平面形における南壁の乱れ、埋甕の存在から、南壁中位に住居出入り口部が想定できよう。P101が重複するが、南壁周溝が僅かではあるが突出しており、P101も住居の一部と判断することも可能で、南壁に何等かの施設が想起される。床面に出入り口部ピットを見ることはできないが、出入り口部の存在は把握しておきたい。**遺物出土状態** 埋甕（5）、伏甕（1）の他中期土器が埋土中より多量に出土している。特に中央部分に集中する傾向が見られ、住居廃絶段階の廃棄・流入も考えておきたい。同様に磨石類も埋土中の出土が目立つ。その他に、大型の自然石が埋土中及び床面からも出土している。床面上の幾つかの大型自然石は意図的な配置とも見ることができる。さらに、北壁周辺的大型自然石は、石積み施設の存在をも想起させよう。炉石破壊行為と同時に石積み施設も破壊した行為も可能性を探りたい。

所見 五角形の平面形を呈し、柱穴・壁周溝から拡張住居跡としての可能性を見せる。南壁際の自然石下の埋甕、南壁の乱れ、壁周溝の僅かな突出から、南側出入り口部を想定した。さらに、出入り口部に近接して伏甕の出土も見ることができた。埋甕は加曾利EⅢ式であり、伏甕は唐草文系土器である。系統差のある個体が埋置という行為の元に伴出している。ただし、埋甕は住居構築時あるいは改築時の所産と思われる、伏甕は住居廃絶時の土器埋置と考えることができる。埋甕は出入り口部埋甕であり、伏甕は例えば廃屋墓伏甕という性格も想定できよう。2個体は同一住居内伴出ではあり、時期も中期後葉に比定されるが、厳密な意味では同時期共伴とは言い難い。土器相互の型式学的な判断も現状の研究では系統差のある個体であり、時期差を詳細には判断できない。



95区4号住伏甕（左）と埋甕上位の自然石（右）

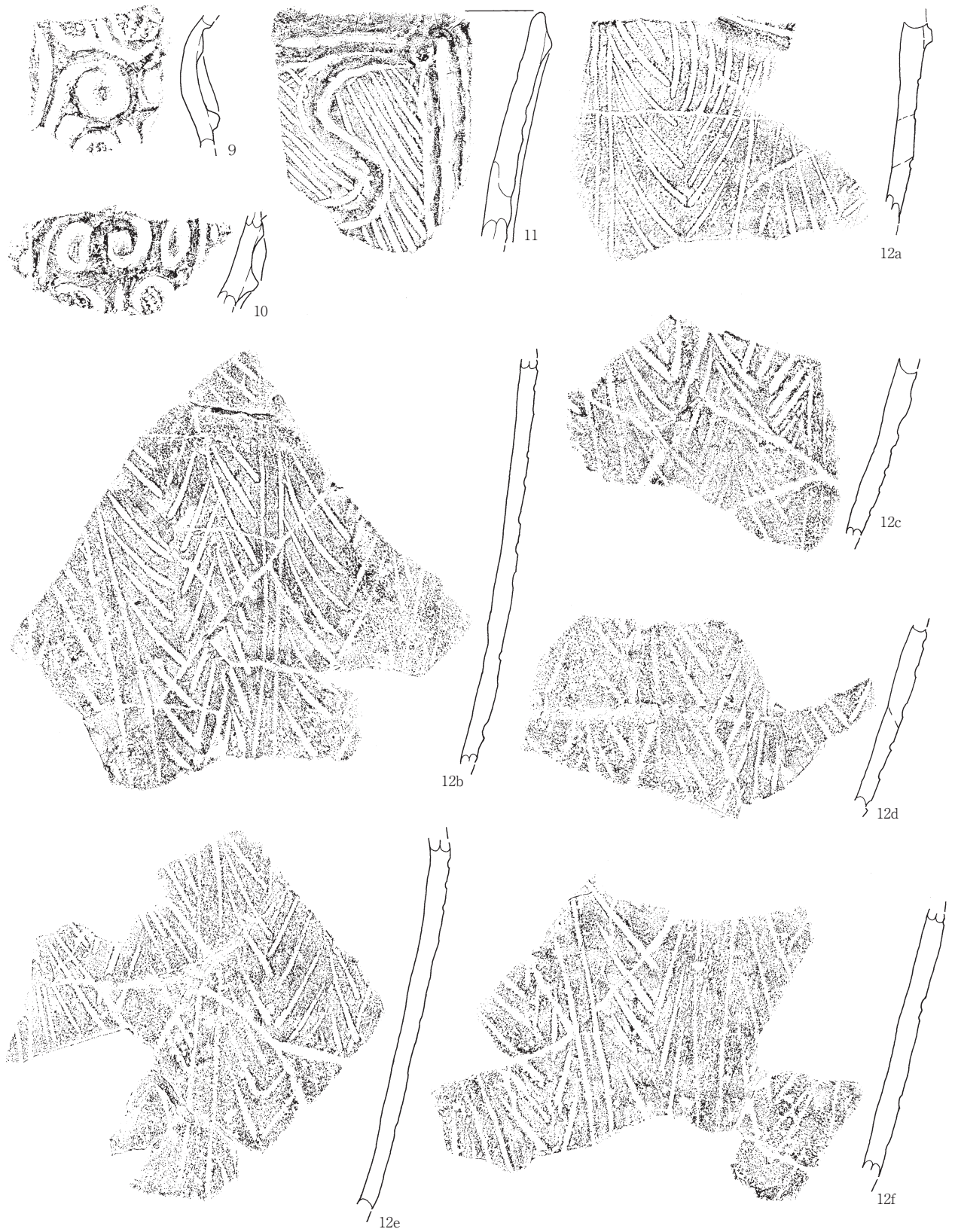


95区4号住伏甕近撮

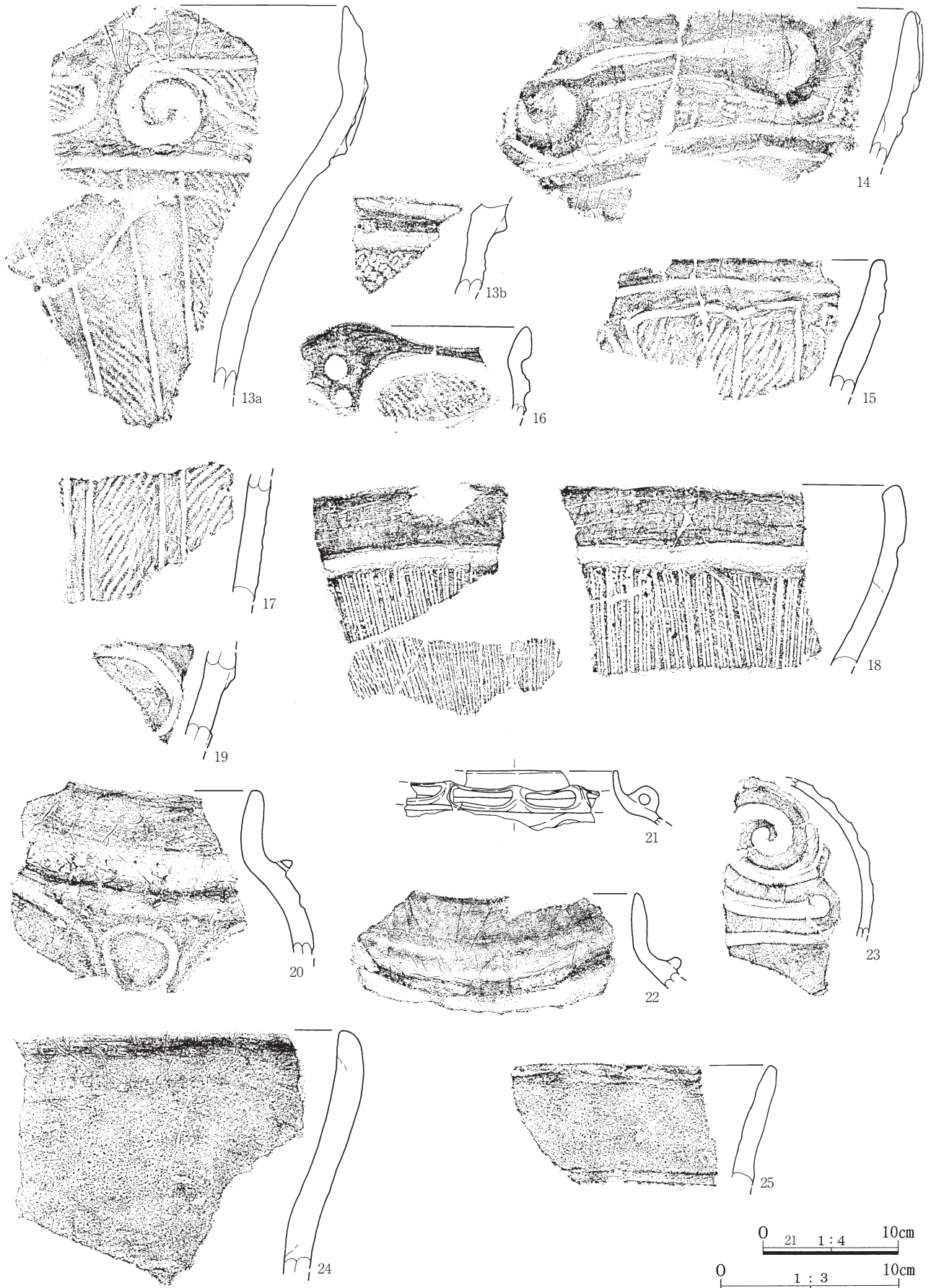


0 1:4 10cm

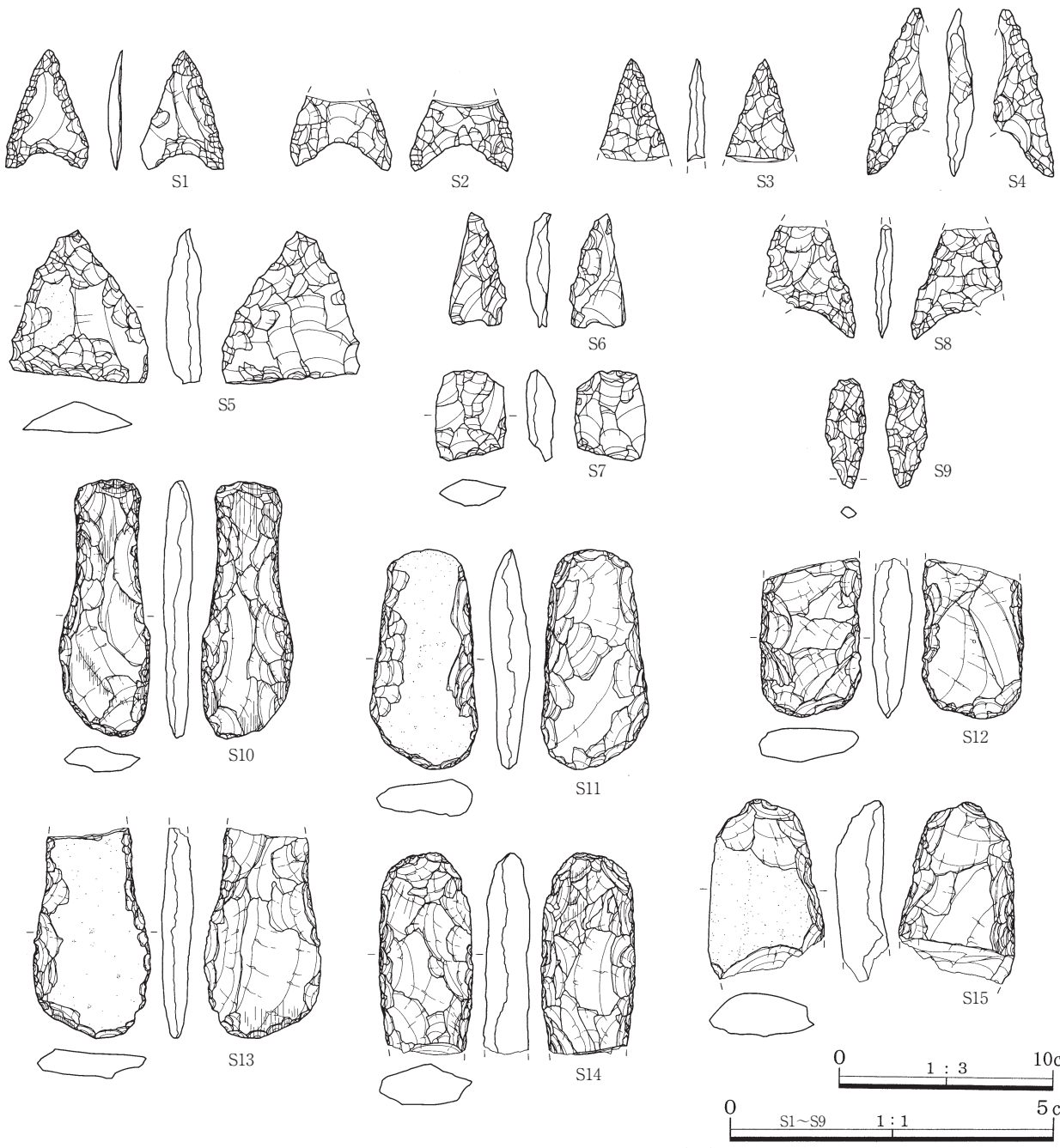
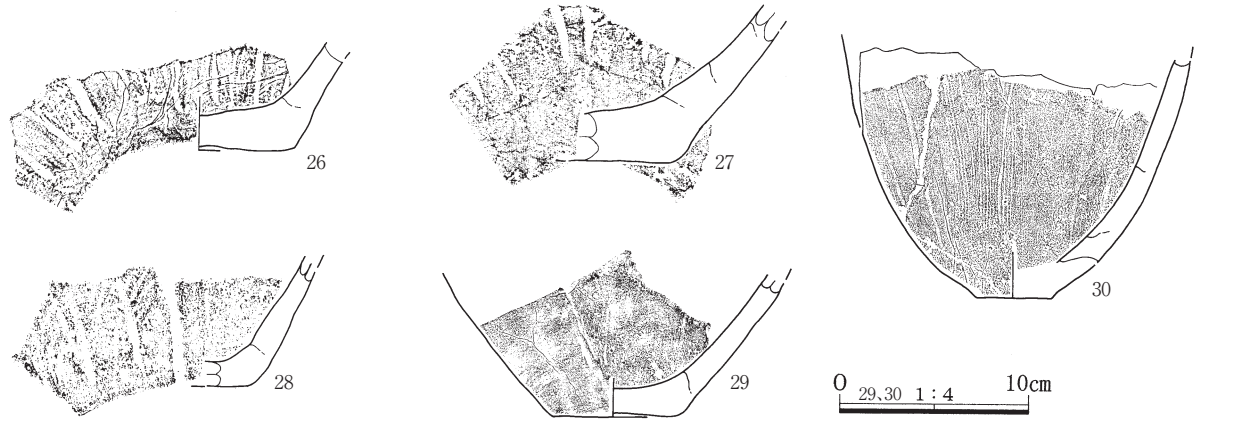
第56図 95区4号住居跡出土遺物(1)



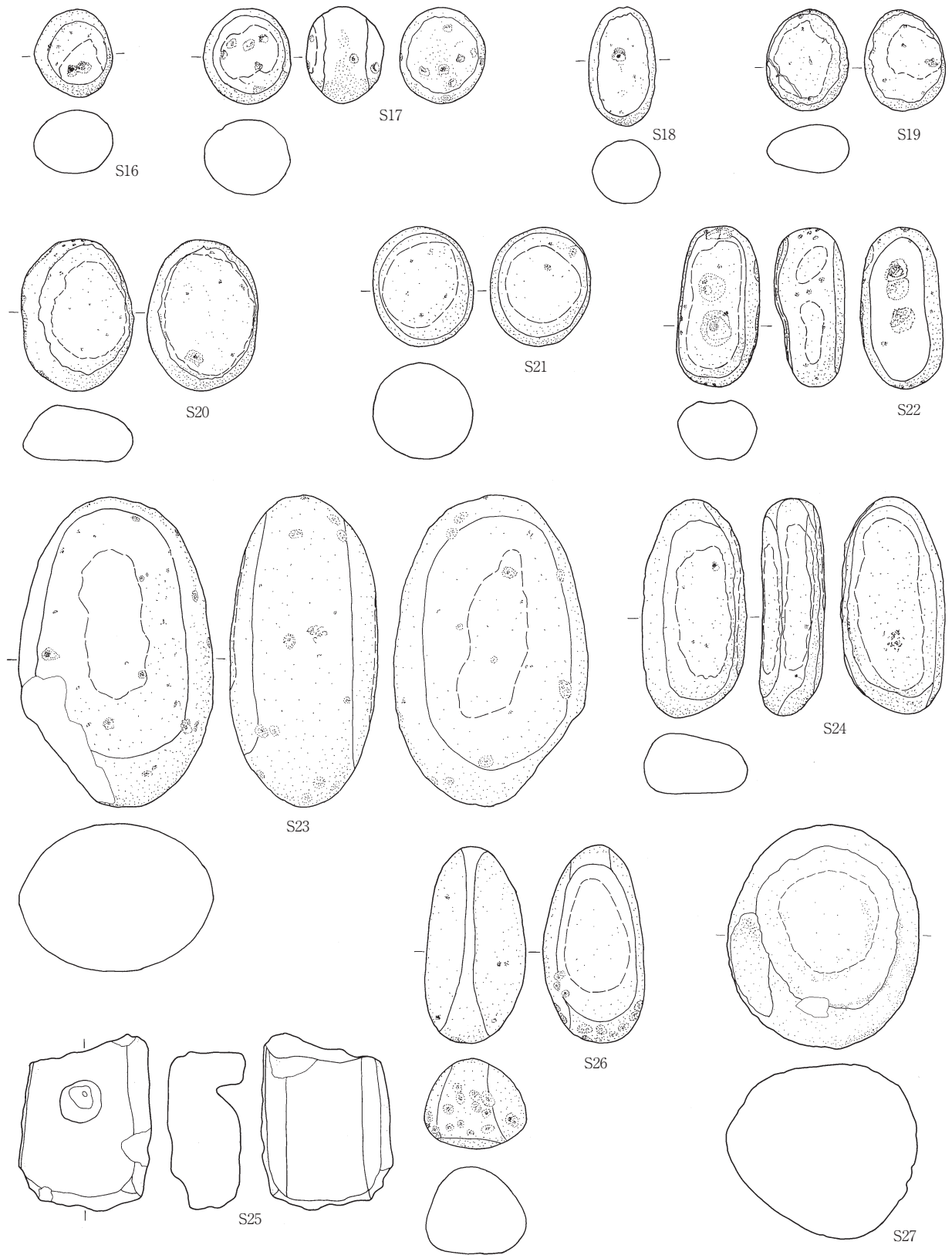
第57図 95区4号住居跡出土遺物(2)



第58図 95区4号住居跡出土遺物(3)



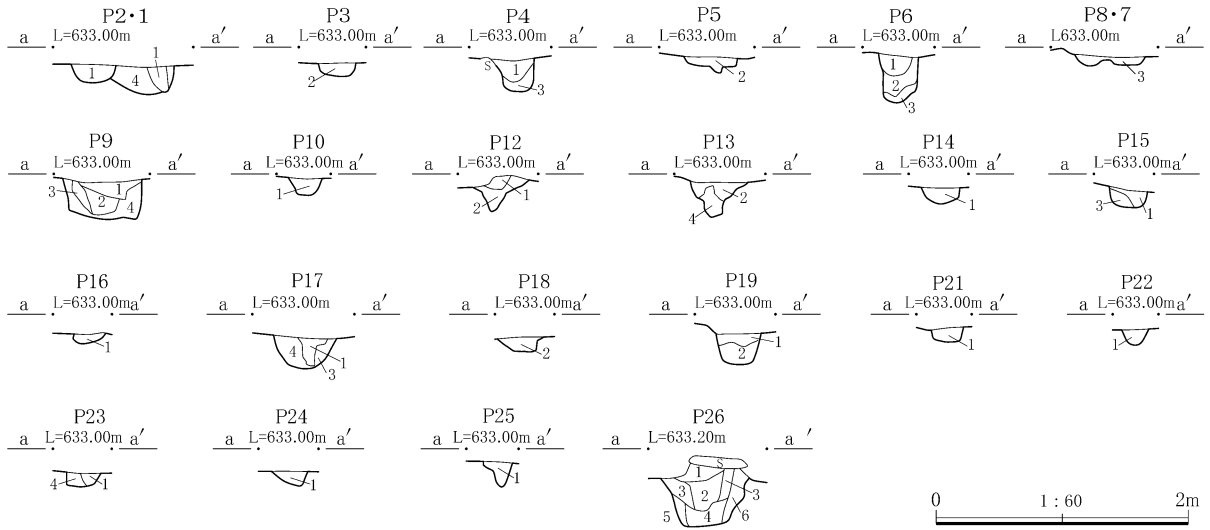
第59図 95区4号住居跡出土遺物(4)



第60図 95区4号住居跡出土遺物(5)

0 1:4 10cm

第3章 検出された遺構と遺物



ピット9土層

- 1 オリーブ褐色土 黄色粒少量
- 2 鈍灰褐色土 黄色粒少量
- 3 黒褐色土 黄色粒少量
- 4 鈍灰褐色土 黄色粒少量

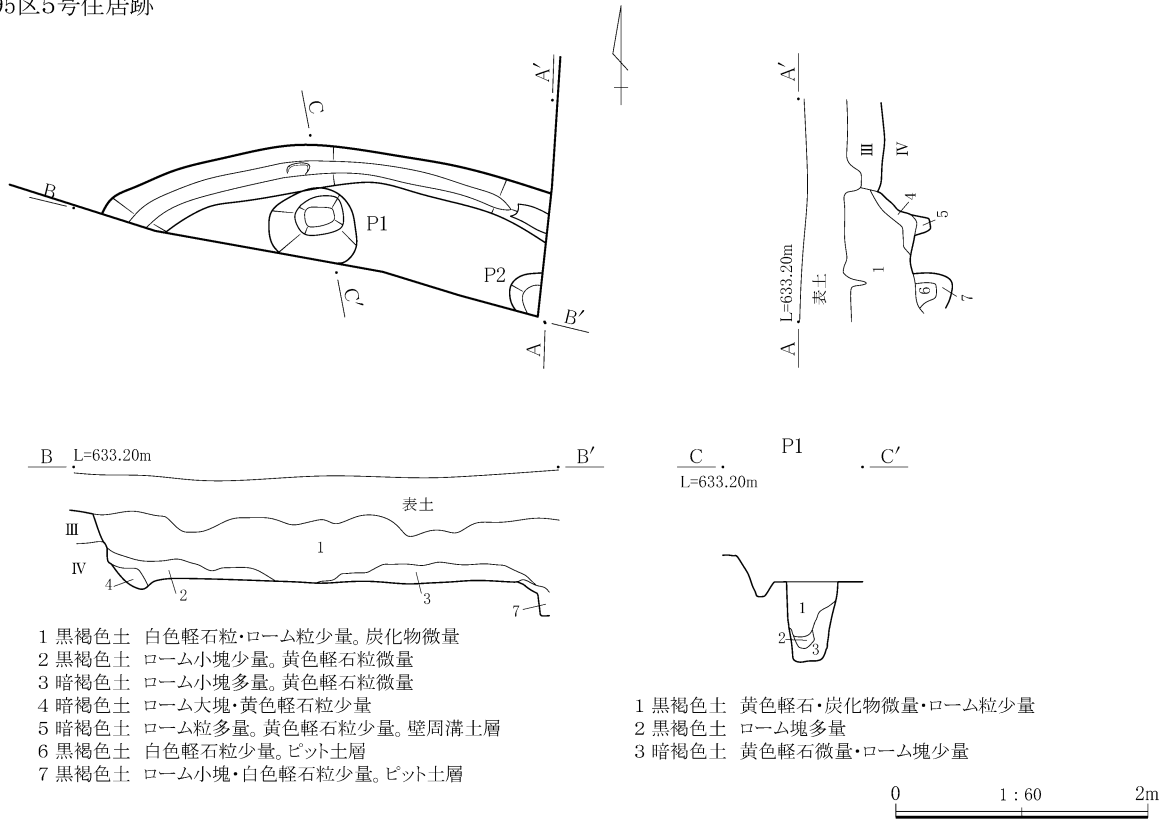
ピット土層

- 1 黒褐色土 黄色粒・ローム小塊少量
- 2 鈍灰褐色土 黄色粒少量
- 3 褐色土 黒色土塊を斑状に含む
- 4 鈍灰褐色土 黄色粒多量 YPK微量

ピット26土層

- 1 黒褐色土 黄色軽石少量 白色軽石少量 ローム粒少量
- 2 黒褐色土 黄色軽石少量 白色軽石少量 ローム塊少量
- 3 黒褐色土 黄色軽石微量 ローム塊多量
- 4 黒褐色土 黄色軽石少量 白色軽石微量 ローム粒少量
- 5 暗褐色土 黄色軽石少量 白色軽石微量 ローム塊多量
- 6 暗褐色土 黄色軽石少量 白色軽石微量 ローム粒少量
- 7 暗褐色土 ローム塊多量

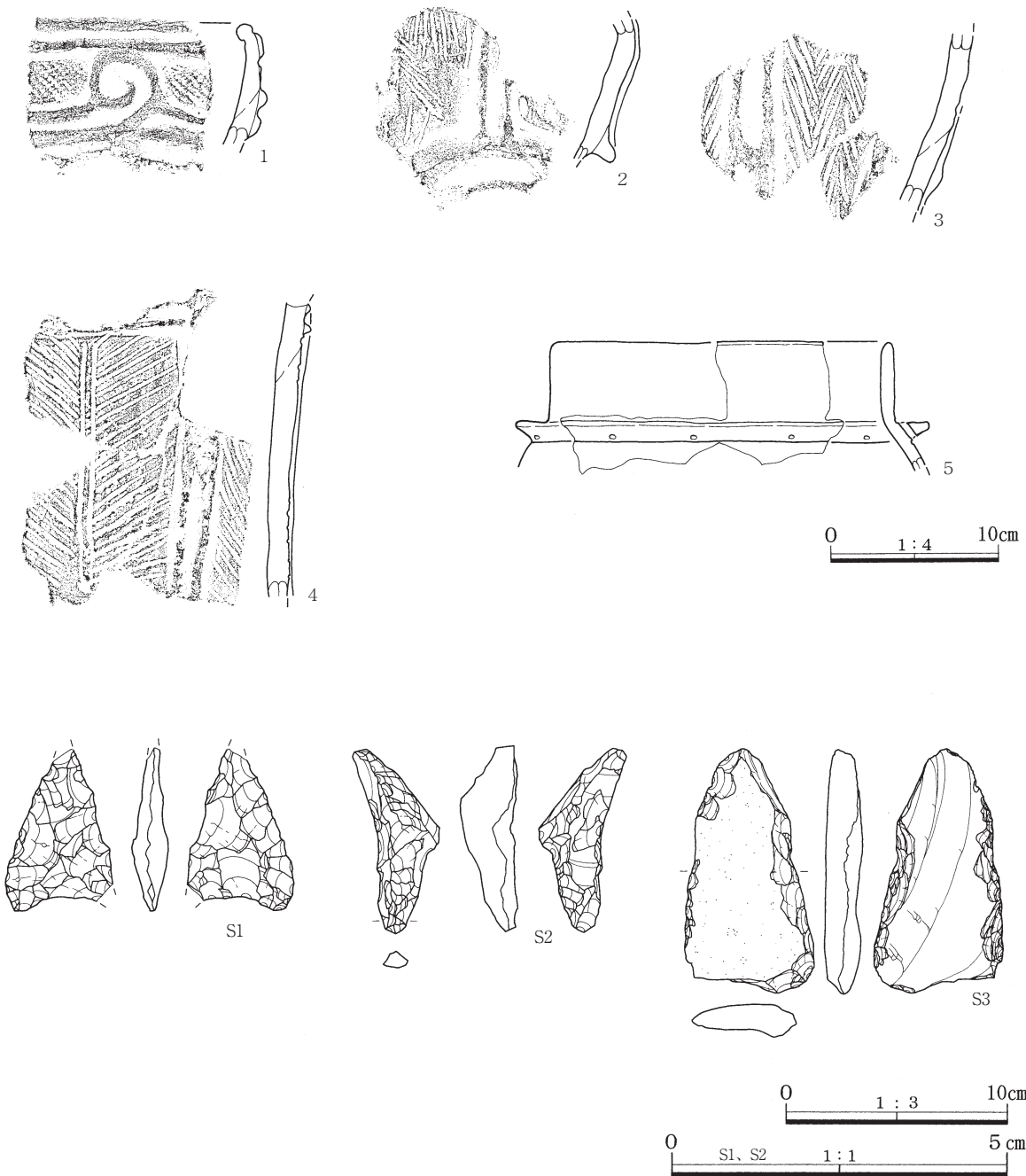
95区5号住居跡



- 1 黒褐色土 白色軽石粒・ローム粒少量。炭化物微量
- 2 黒褐色土 ローム小塊少量。黄色軽石粒微量
- 3 暗褐色土 ローム小塊多量。黄色軽石粒微量
- 4 暗褐色土 ローム大塊・黄色軽石粒少量
- 5 暗褐色土 ローム粒多量。黄色軽石粒少量。壁周溝土層
- 6 黒褐色土 白色軽石粒少量。ピット土層
- 7 黒褐色土 ローム小塊・白色軽石粒少量。ピット土層

- 1 黒褐色土 黄色軽石・炭化物微量・ローム粒少量
- 2 黒褐色土 ローム塊多量
- 3 暗褐色土 黄色軽石微量・ローム塊少量

第61図 95区4号住居跡(3)・5号住居跡



第62図 95区5号住居跡出土遺物

95-5号住居跡

位置 調査区南端のM・N-18グリッドで調査された。環状集落の南端にあたる。北西に6号住居跡が近接する。住居跡北西壁と柱穴の検出であり、南側の多くは平成16年度調査で調査されている。そのため、本書では平成14年度調査で得られた資料を掲載するが、後に刊行される「長野原一本松遺跡(5)」に詳細を譲りたい。その際には本書で掲載した資料も併せて、1軒の竪穴住居跡資料として扱いたい。

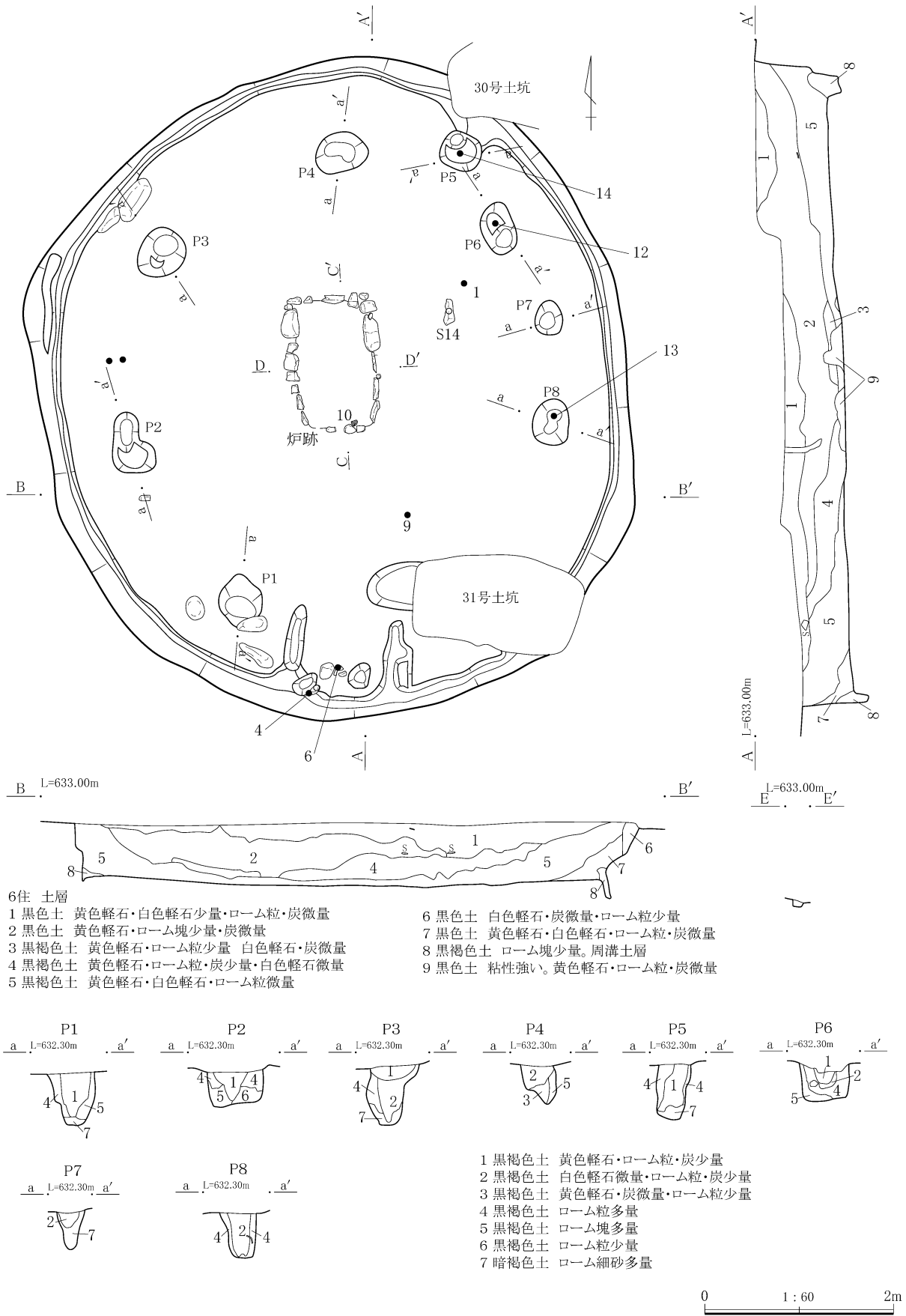
平成14年度調査では、埋土中より出土土器がまとまるが、破片状態の出土であり個体は見られなかった。土器の時期は中期後葉に比定されよう。石器は石鏃・石錐・打製石斧を各1点図示した。

95-6号住居跡

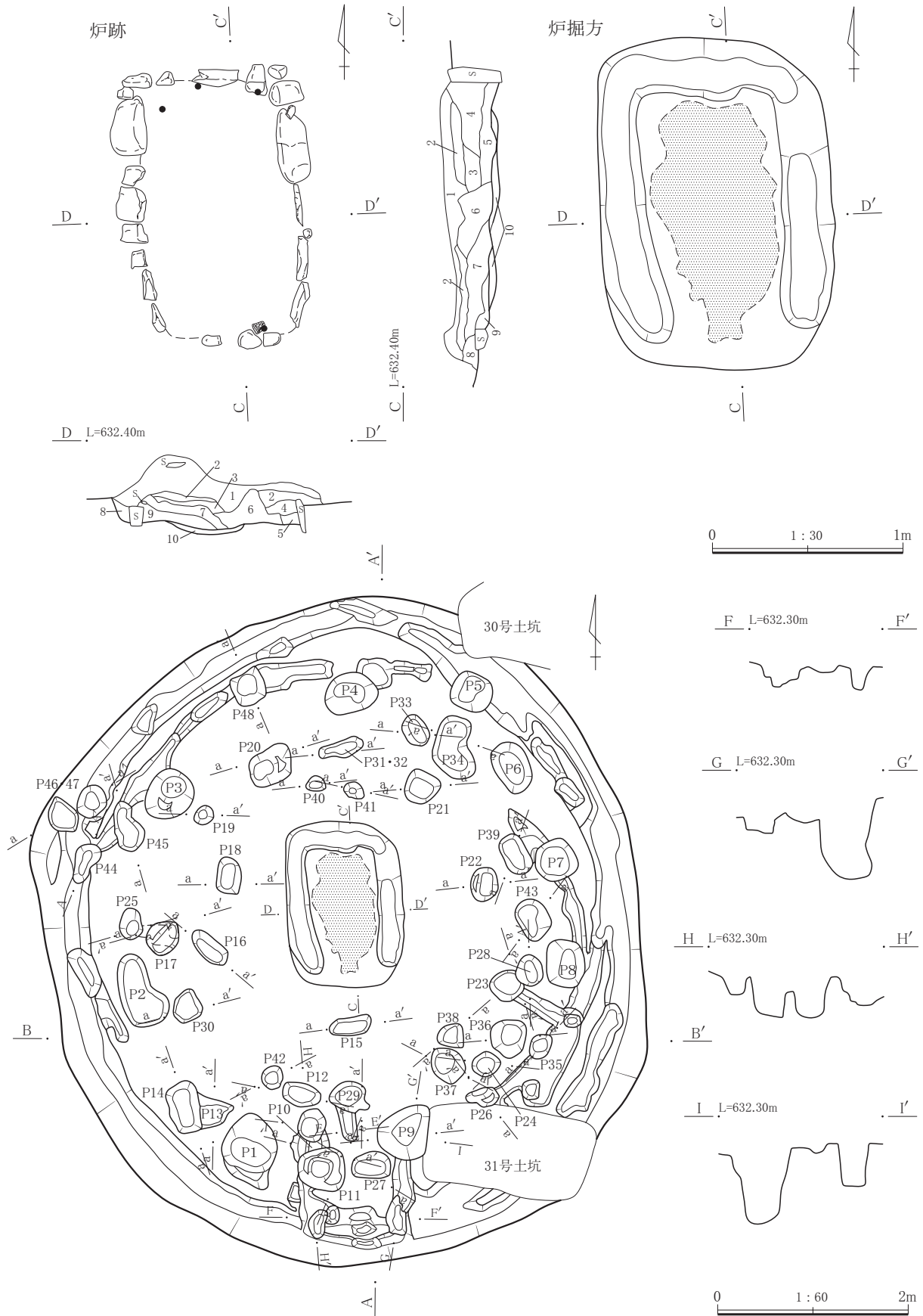
位置 調査区南側で調査された。O・P-19~21グリッドに位置し、緩やかな南斜面に占地する。環状集落では南端の一群に属する住居跡である。**重複** 11号住居跡が北西壁に重なる。新旧関係は不明である。その他30号土坑が北東壁、31号土坑が南東壁を切る。7~9号住居跡が北西に近接する。**形状** 主軸を南北の長軸に持つやや楕円状の円形を平面形とする。規模は約7×6.3mで、深さは60cmを超える良好な遺存度である。**方位** 主軸はほぼ北を向く。**床面** 硬質ロームによる貼床が全面に及ぶ。丁寧に平坦面が築かれ、床面全体は硬く締められていた。特に炉周辺及び南側壁にかけて硬化面が顕著だった。**炉** 床面ほぼ中央に大型の石囲い炉を設ける。主軸を北北西に向け、住居主軸よりやや西に傾ける。規模は約150×100cmで平面形は長方形を呈し、深さ20cm程の掘り込みを持つ。焼土は上層より満遍なく確認され、下層~底面に掛けて顕著であった。炉石は川原石を主体に使用されているが、大型の石ではなく、小型の石を並べ方形に囲む。東西辺に縦長の棒状礫をあてていた。**柱穴** 壁際50~60cmの距離をおいて並ぶP1~P4、P6、P8を柱穴と考えた。配置・規模とも妥当であり、柱痕状の土層も観察されている。P1に対応する南東の柱穴は31号土坑との重複により検出できなかったが、床下調査で得られたP9が相当する可能性がある。P2にはP8が、P3にはP6が対応する柱穴配置であろう。P4は壁奥の柱穴と見做せよう。床下調査においても40基以上のピットを得た。殆どのピットが柱穴としての規模に相当し、旧住居の柱穴特定は困難である。その中で、(P13・P14)、P17、P20、P48、P5、P34、P7、P36が良好な配置を示す。柱穴相互の重複は顕著ではなく、建て替え住居としても、柱穴を新たな箇所へ設けた例と捉えられ、その他のピットも柱穴として相応の規模・配置を示すことから少なくとも2回以上の建て替えが示唆される。**壁周溝** 南



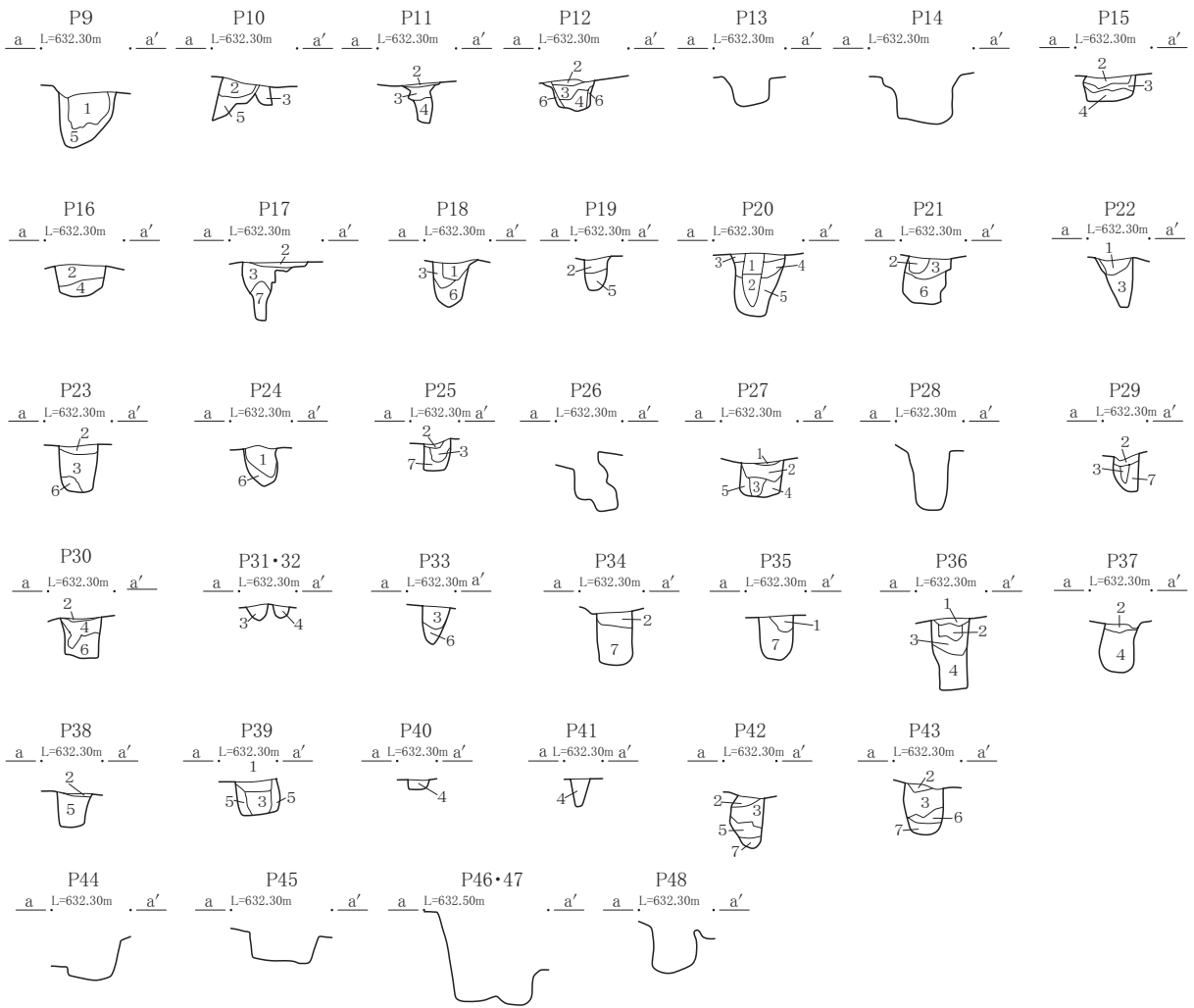
95区6号住居跡調査風景



第63図 95区6号住居跡(1)



第64図 95区6号住居跡(2)



炉跡

- 1 黒色土 ローム粒・炭少量、黄色軽石・白色軽石微量
- 2 黒色粗砂 砂壤土。薄く塊状に堆積。黒色土塊少量
- 3 黒色土 焼土小塊・ローム粒少量、炭微量
- 4 黒色土 ローム小塊少量、焼土粒・炭微量
- 5 黒色土 焼土粒・炭少量。ローム粒微量
- 6 褐色土 焼土塊多量・ローム粒・炭少量。
- 7 黒色土 褐色土塊多量、ローム粒・焼土塊微量
- 8 黒色土 褐色土塊少量、ローム粒・炭微量
- 9 褐色土 ローム小塊多量。炉石裏込め土
- 10 黒色土 ローム粒少量、焼土塊微量

ピット20

- 1 暗褐色土 均質。黄色軽石微量。柱痕
- 2 暗褐色土 均質。ローム粒微量。柱痕
- 3 鈍黄褐色土 黄色軽石微量・硬質ローム多量
- 4 褐色土 ローム塊多量
- 5 褐色土 しまり強い。ローム塊少量

ピット27

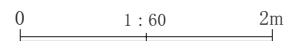
- 1 褐色土 しまり強い。鈍黄褐色土少量
- 2 鈍黄褐色土 ローム粒・黒色土塊少量
- 3 暗褐色土 ローム粒少量。黒色土塊多量
- 4 黒褐色土 しまり弱い。黒色土塊・ローム粒多量
- 5 暗褐色土 しまり弱い。黒色土塊・ローム粒多量

ピット36

- 1 褐色土 黄色軽石微量
- 2 暗褐色土 黄色軽石微量 ローム粒少量
- 3 黒褐色土 黄色軽石微量 ローム塊多量
- 4 鈍黄褐色土 ローム塊多量

その他のピット

- 1 暗褐色土 ローム粒・黄色軽石微量
- 2 暗褐色土 ローム小塊少量
- 3 鈍黄褐色土 ローム粒多量、黒色土塊少量
- 4 鈍黄褐色土 ローム粒・黒色土塊少量
- 5 褐色土 ローム塊と黒色土塊からなる
- 6 褐色土 ローム粒多量
- 7 暗褐色土 しまり弱い。黒色土塊・ローム粒多量



第65図 95区6号住居跡(3)

第3章 検出された遺構と遺物

側出入口部を含めて、全周する。床下調査では建て替えに伴う壁周溝の痕跡も確認できた。拡張住居として判断できるが、旧住居は径約5.5m程の円形を呈した可能性がある。また、北壁下も壁周溝拡張の痕跡が見出せる。3・4号住に見た北奥壁を動かさない拡張ではなく、全体を拡張した様相が看取されよう。

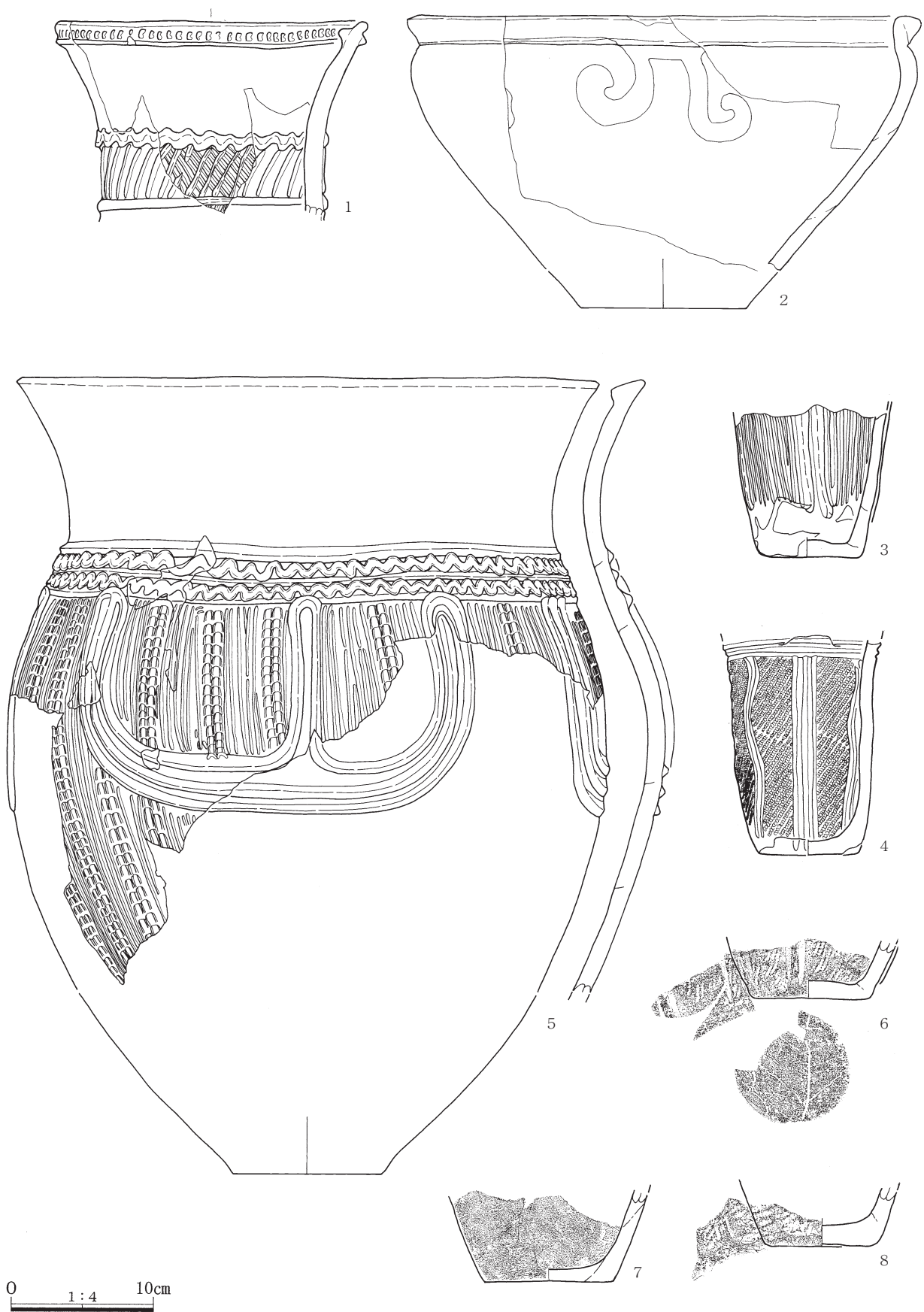
出入口部 本住居跡の特徴の一つに南壁に設けられた出入口施設である。出入口部の埋甕は無く、住居全体の平面形による差も見受けられないが、南壁中央に間仕切り状の小溝が2条長軸方向に80~100cm程延びる。住居主軸線中位に重なり、出入口施設として位置付けたい。さて、床下調査では、この出入口部分は小ピットが密集して検出された。住居建て替え-拡張時も出入口部が意識された痕跡と捉えられよう。小ピットは出入口施設の支柱穴などに性格を充てられよう。さらに、床下調査では床面南東部のP36付近でもピットや小溝が群在していた。出入口部に近似するピット・小溝配置であり、確定的ではないが古段階内縁プランの住居における出入口部であった可能性が想定できる。

遺物出土状態 本住居跡出土遺物は、住居跡遺存度の割には少ない。埋甕や伏甕もなく施設を示唆する土器の出土状態ではない。その中で、4は南側出入口部壁際で、5は床直上よりまとまった状態で出土している。9・10は炉内より、12はP6、13はP8、14はP5より出土した。

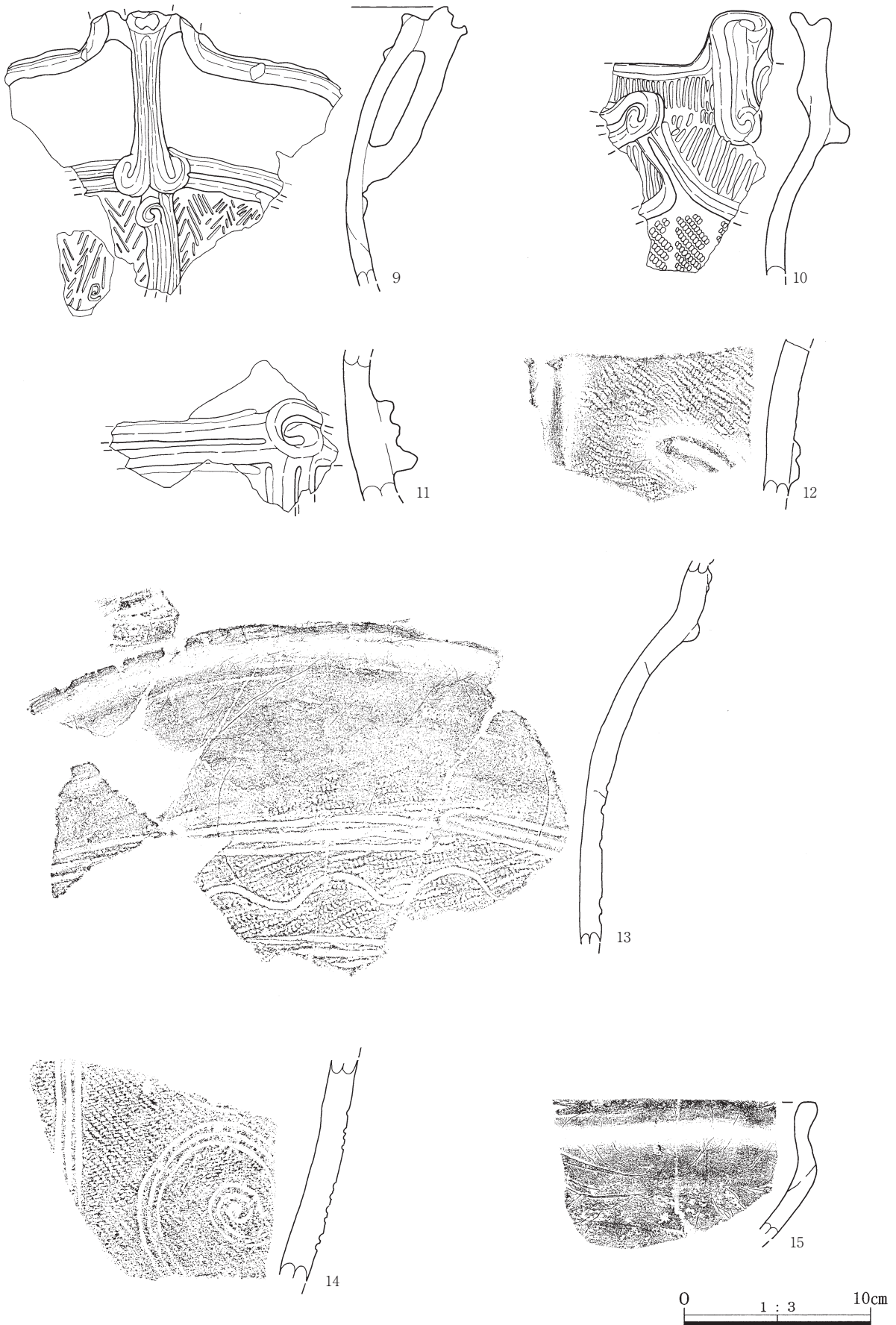
所見 遺存度の良好な住居跡であり、資料価値は高い。特に大型炉の在り方は他の住居跡には無い様相を示す。また出入口部が小溝によって画された状況が把握され、中期住居跡の出入口施設の一端を具体化する。さらに、床下調査により複数回の建て替え-拡張行為が観察された。この中には出入口部の付け替えも含まれる可能性がある。出土遺物は良好な完形個体の出土ではないが、主な出土土器はほぼ加曾利EⅡ式段階と捉えられよう。住居跡の時期は、建て替えや拡張行為からある程度の時間幅が想定されるが、詳細な時期判定は困難であり、ここでは中期後葉段階として位置付けたい。



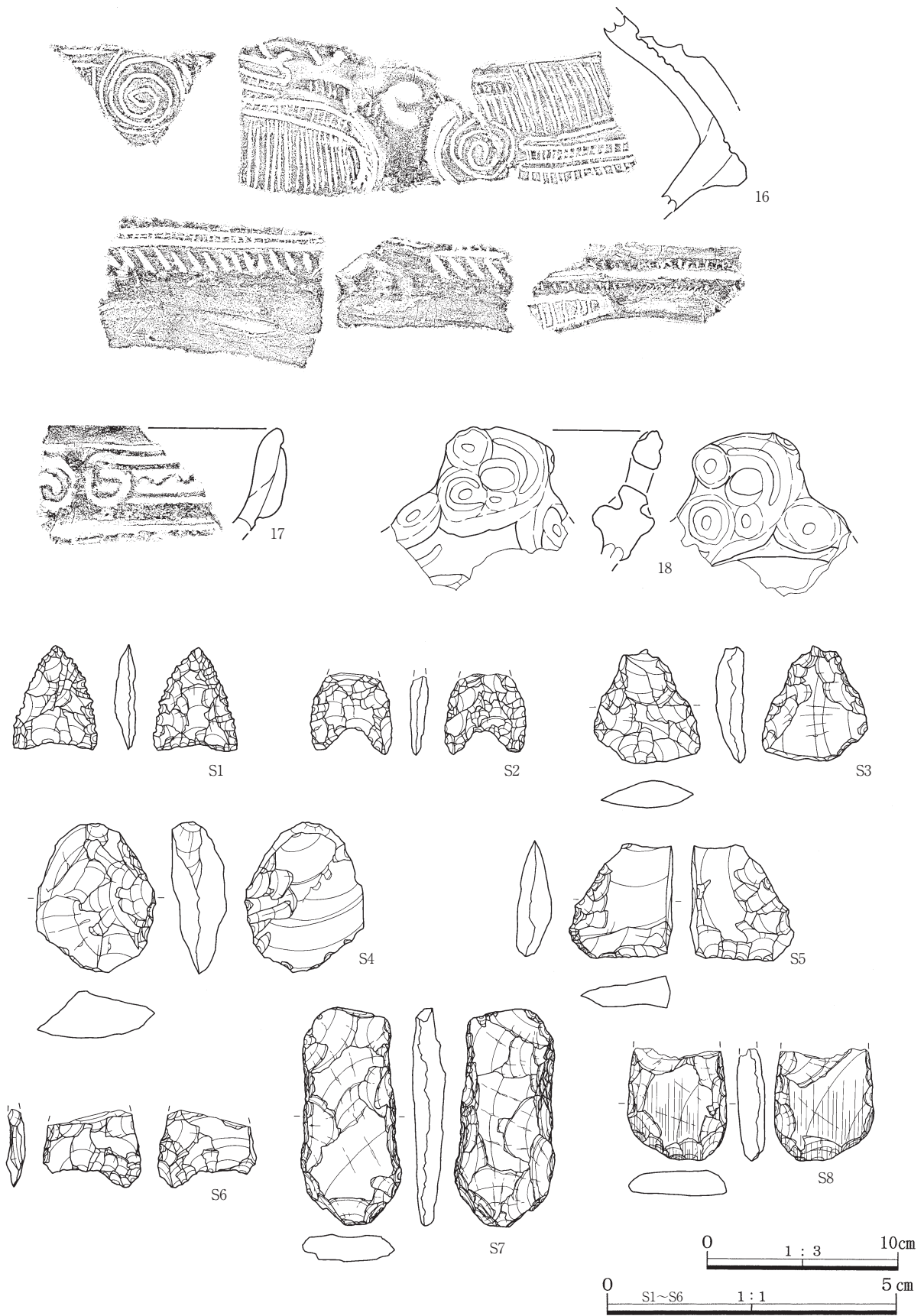
95区6号住床下調査風景



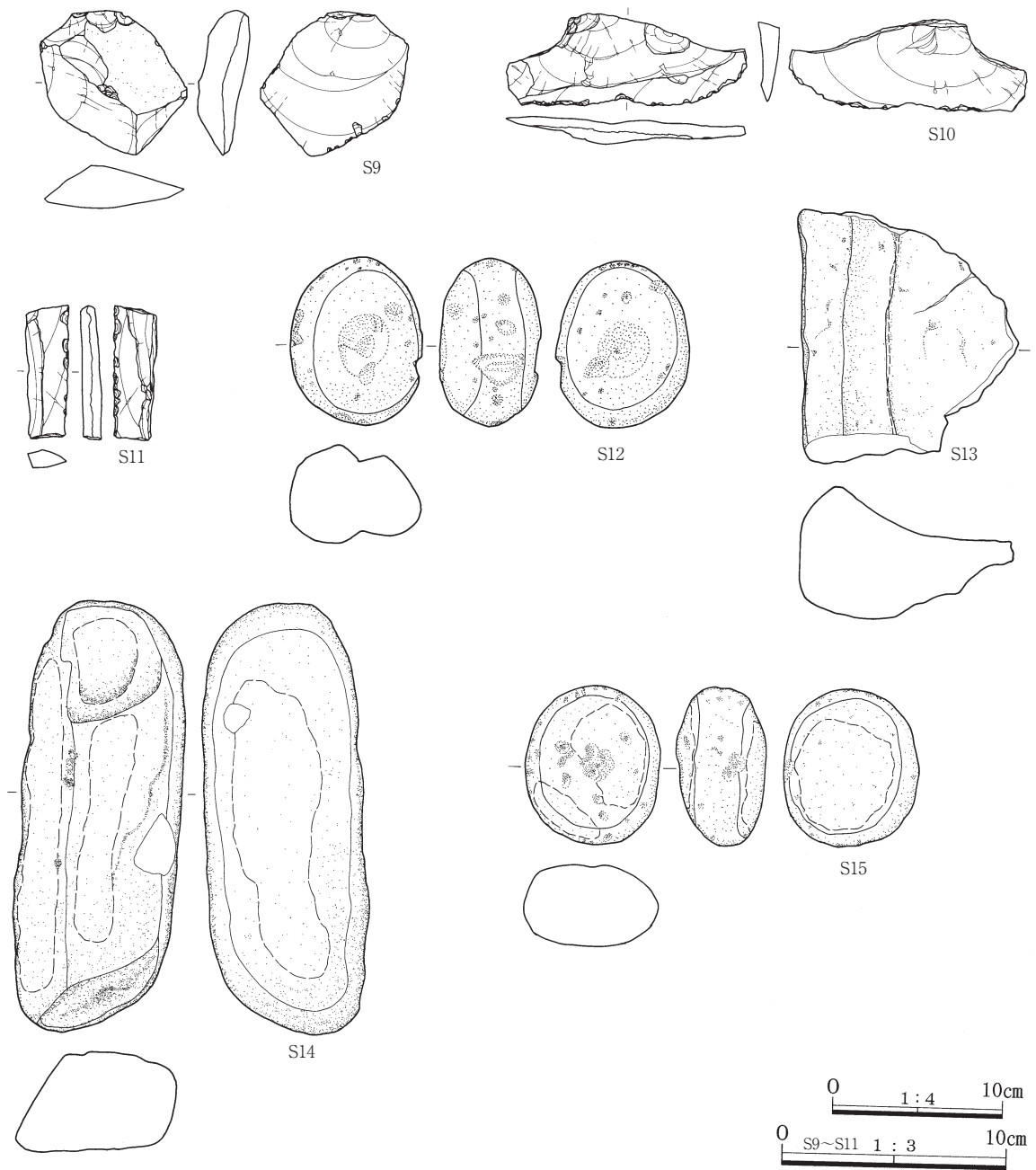
第66図 95区6号住居跡出土遺物(1)



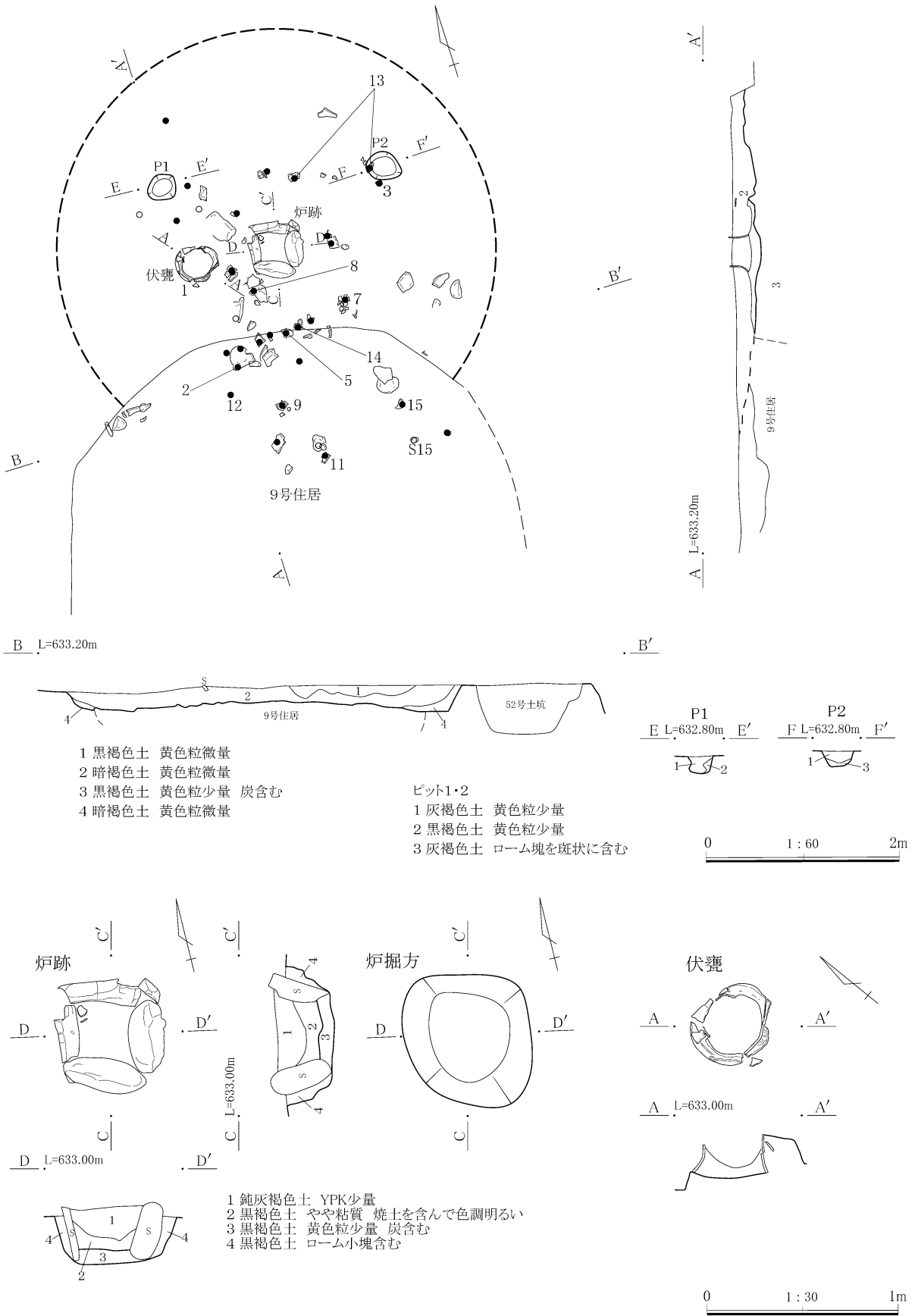
第67図 95区6号住居跡出土遺物(2)



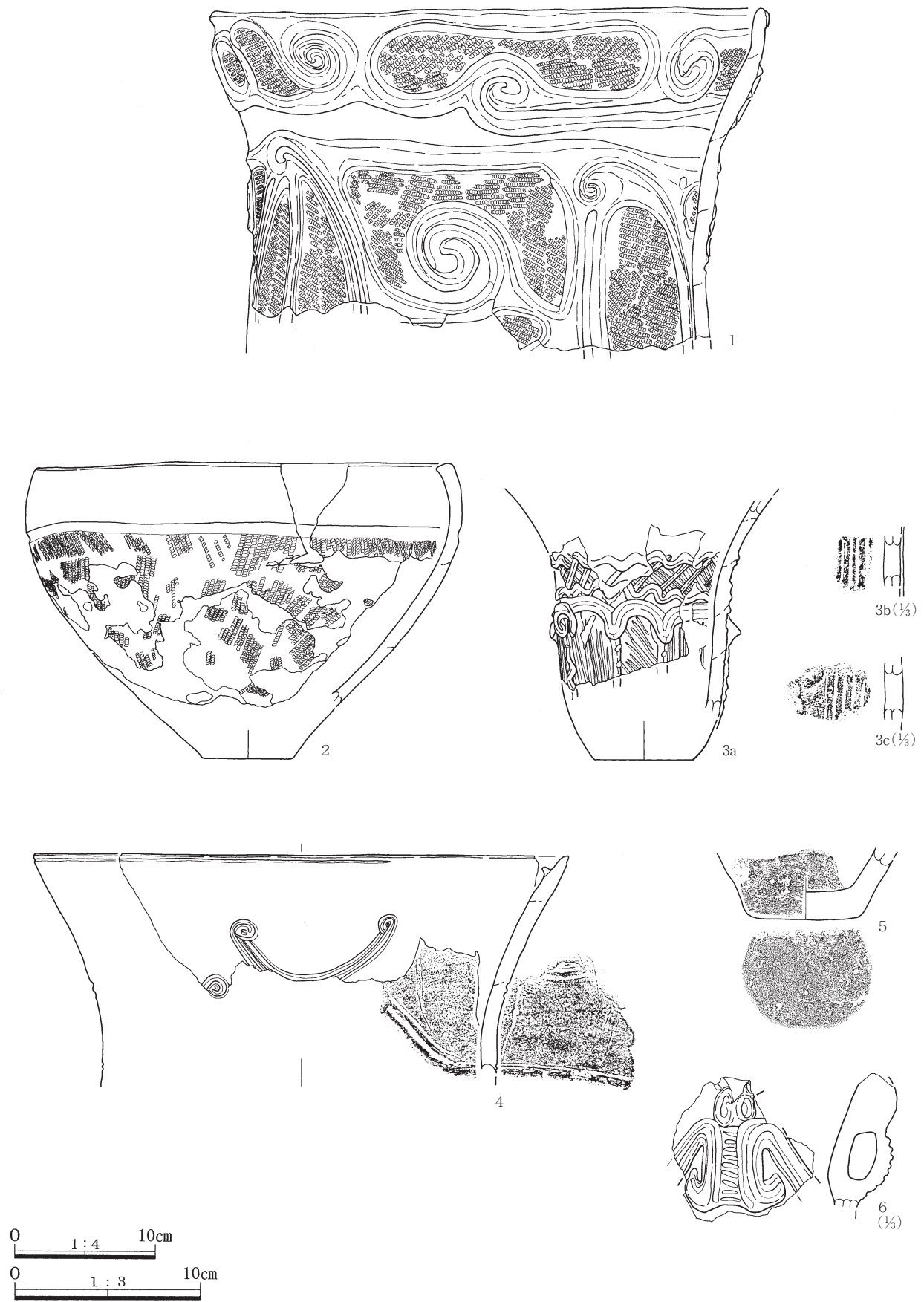
第68図 95区6号住居跡出土遺物(3)



第69図 95区6号住居跡出土遺物（4）



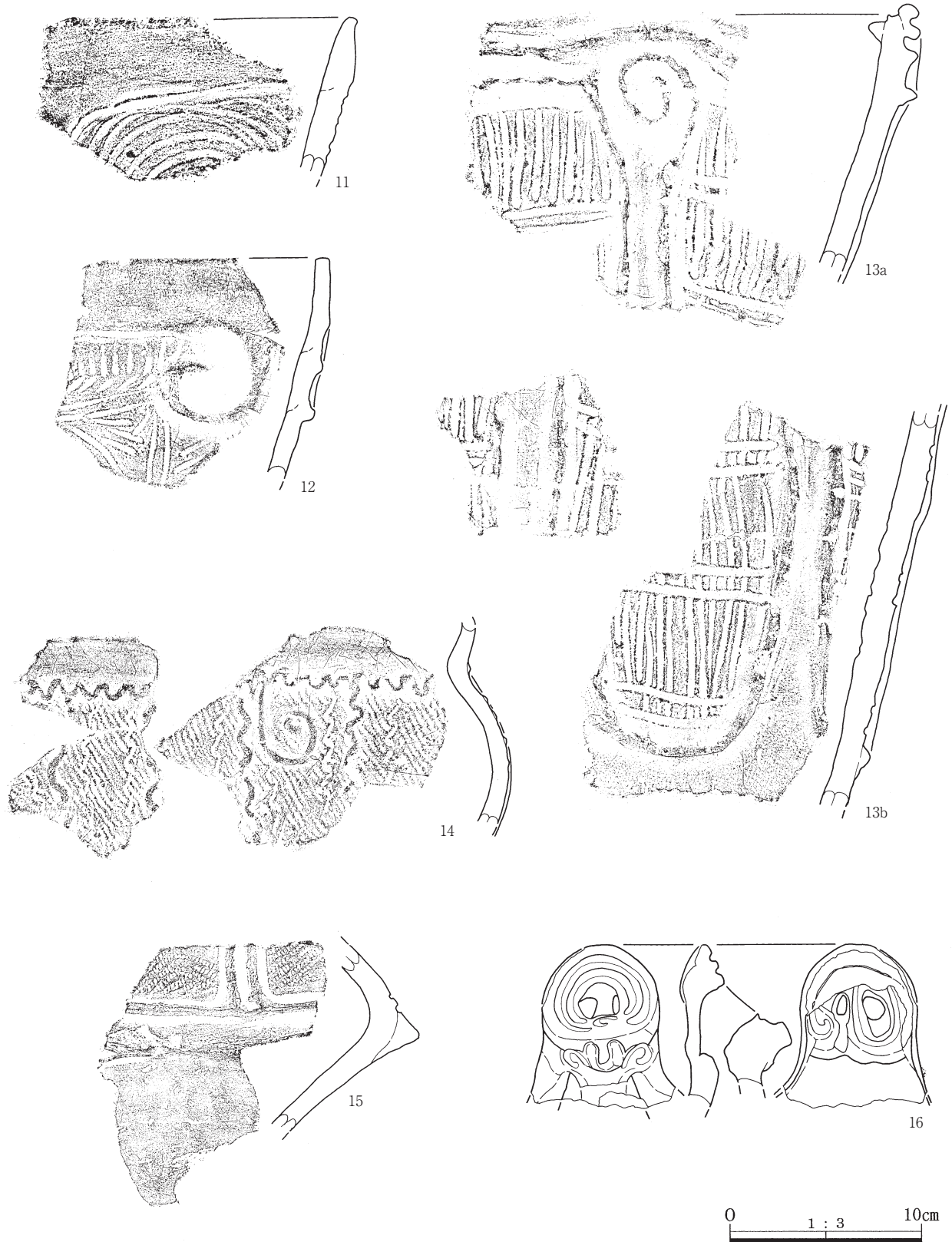
第70図 95区7号住居跡



第71図 95区7号住居跡出土遺物(1)



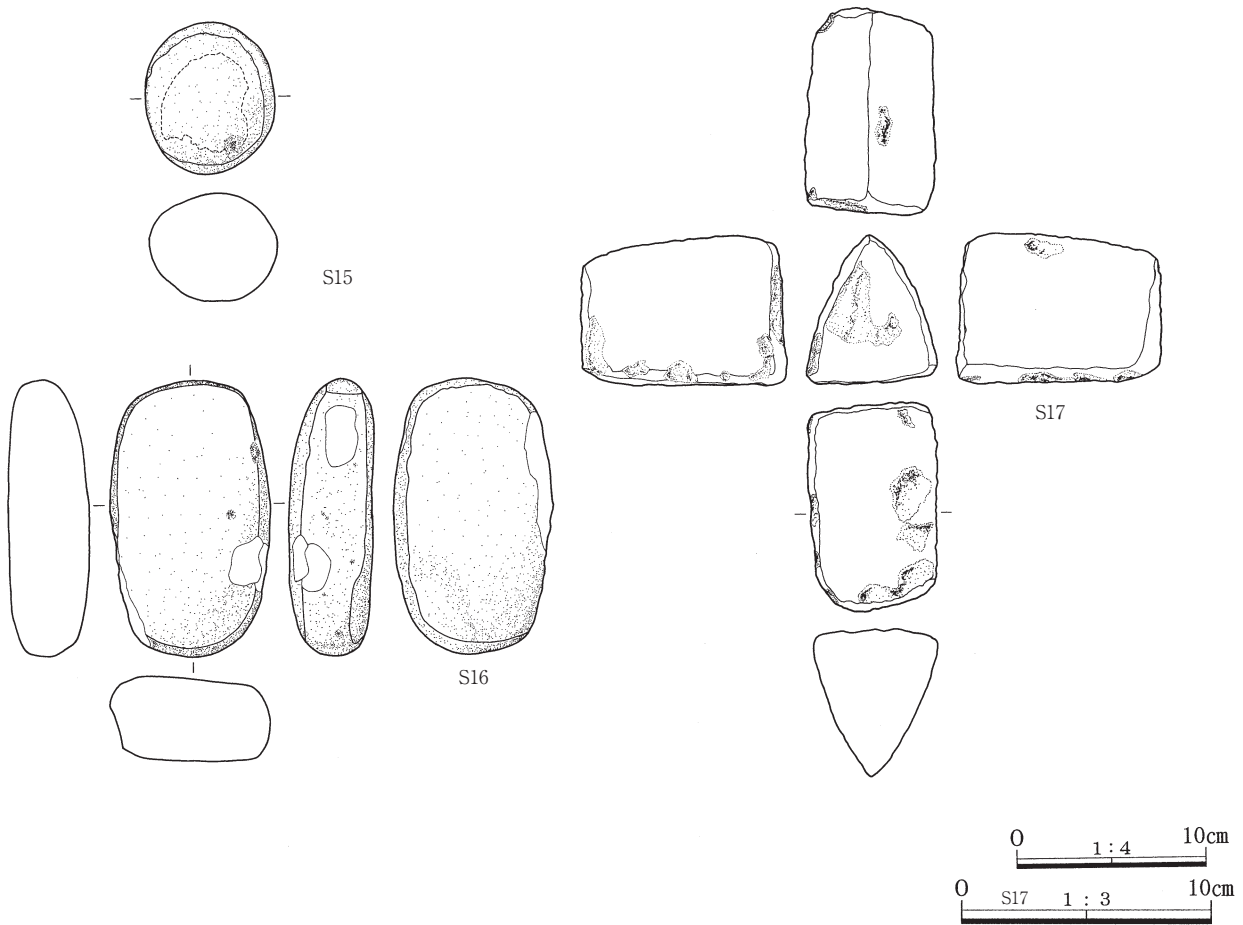
第72図 95区7号住居跡出土遺物(2)



第73図 95区7号住居跡出土遺物(3)



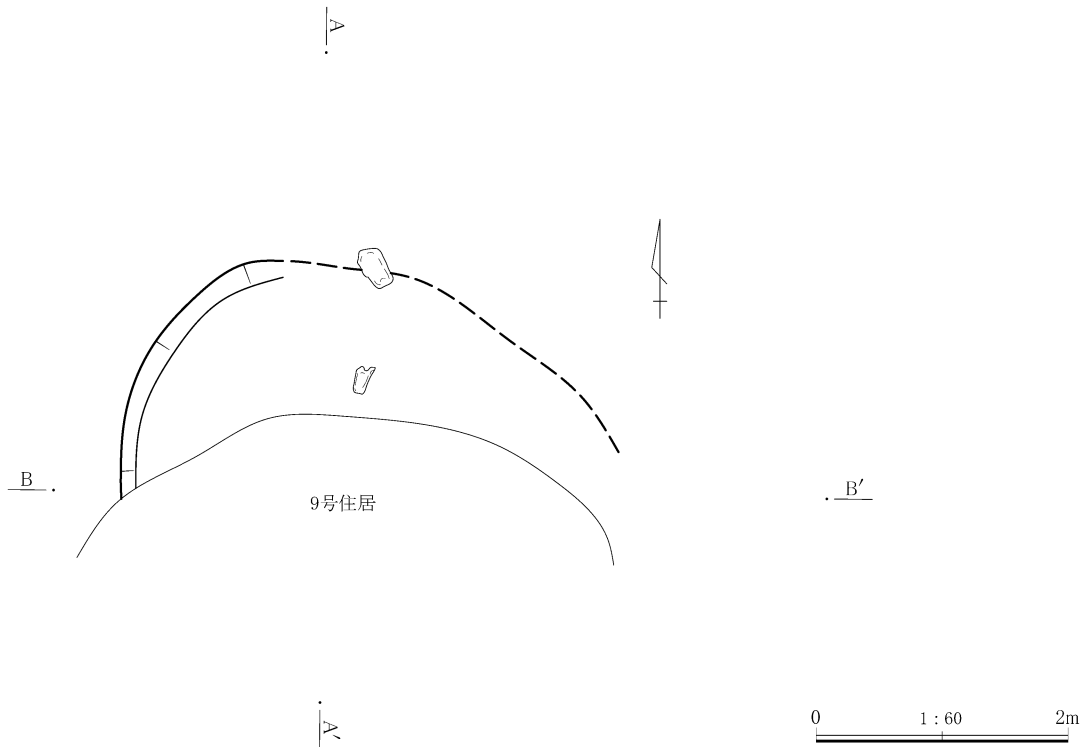
第74図 95区7号住居跡出土遺物(4)



第75図 95区7号住居跡出土遺物（5）

95-7号住居跡

位置 調査区南側中央で調査された。P・Q-22・23グリッドに位置する。緩やかな南傾斜地形にあり、本遺跡環状集落では南側に占地する。住居跡本体の掘り込みが浅いため、床面が漸移層上の黒色土～黒褐色土で留まる。そのため壁の検出が果たせず、炉を中心とした推定範囲を住居として調査した。 **重複** 8号住居跡・9号住居跡と重複して検出された。層位的な判断では本住居跡が一番新しい。また、南東に52号土坑、59号土坑が本住居を切る重複関係を示す。 **形状** 炉と柱穴、遺物分布範囲で径約4.7m程円形の平面形を推定した。壁を検出しえなかったため、深さは不明である。 **方位** 主軸方位は確定できないが、炉方位から概ね北北東を向く。 **床面** 黒褐色土を地床とする。貼床の痕跡もなく、石囲い炉検出面を床と判断し、詳細の把握に努めたが、凹凸も多く判然としない床面であった。床面が黒褐色土に留まるため、壁周溝などは確認できなかった。 **炉** 床面中央に相当する箇所石囲い炉を置く。川原石と板石が用いられ、軸長約60cm程の方形の平面形を呈する小型の炉である。掘り込みの深さは約30cmである。 **柱穴** 2基を特定した。P1・P2とも浅く、柱穴としての妥当性にやや欠けるが、炉を中心とした配置から柱穴として可能性を持たせたい。南側に対応する柱穴が存在するはずであるが、8・9号住居跡の重複のため、黒色土中の色調変化を捉えきれず、検出できなかった。 **伏甕** 炉西側に近接して伏甕を検出した。大型の加曾利E式系の深鉢で体部下半を意図的に欠損していた。逆位口縁部は床面に接し、土層の観察では本住居跡埋土を僅かに切る新旧関係も見られ、住居跡廃絶後の所産として考えられる。先に述べた4号住伏甕も住居廃絶後の可能性



第76図 95区8号住居跡

があり、廃絶住居内祭祀の一つとして本遺跡の伏甕が位置付けられよう。**遺物出土状態** 浅い遺存度の悪い住居跡に比して出土遺物量は多い。特に炉周辺の埋土中に偏る傾向があり、住居埋没時における一括廃棄によるものと思われる。ただし、伏甕（1）を含む出土遺物の一括性は、重複する8・9号住の影響もあり、やや問題がある。

所見 3軒の重複住居のうち、もっとも新しい段階の住居跡として調査されている。ただし黒色土中の掘り込みのため、平面形や壁周溝、柱穴など判然としない要素が多く、その中で伏甕を加える様相は、住居跡の帰属時期を慎重に検討しなければならないだろう。本書ではその他の出土土器が加曾利EⅢ式古段階と踏まえたが、伴出する唐草文系土器との整合性は果たされず、厳密な時期判定に躊躇する。

95-8号住居跡

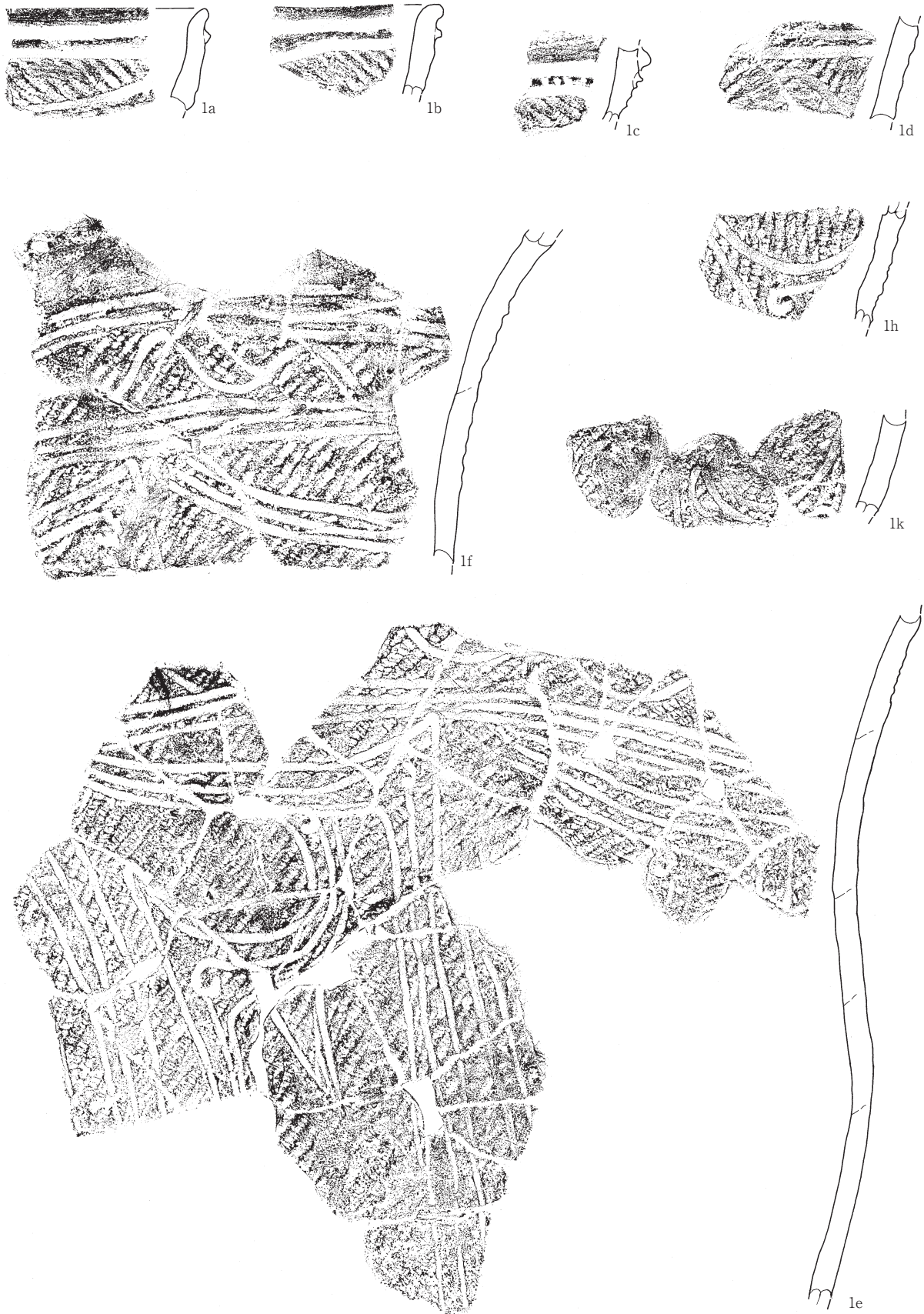
位置 7号住と9号住居跡に挟まれた重複住居跡である。P・Q-22グリッドに位置する。**重複** 新旧関係は調査所見により7号住が最も新しく位置付けられるが、本住居跡と9号住居跡の新旧は不明である。

形状 7号住調査時に新たに西側に壁が検出され、これを本住居跡として位置付けた。西壁のみのため、規模や平面形・方位は判然としない。推定数値であるが、径4m前後の円形プランを呈するものと考えた。

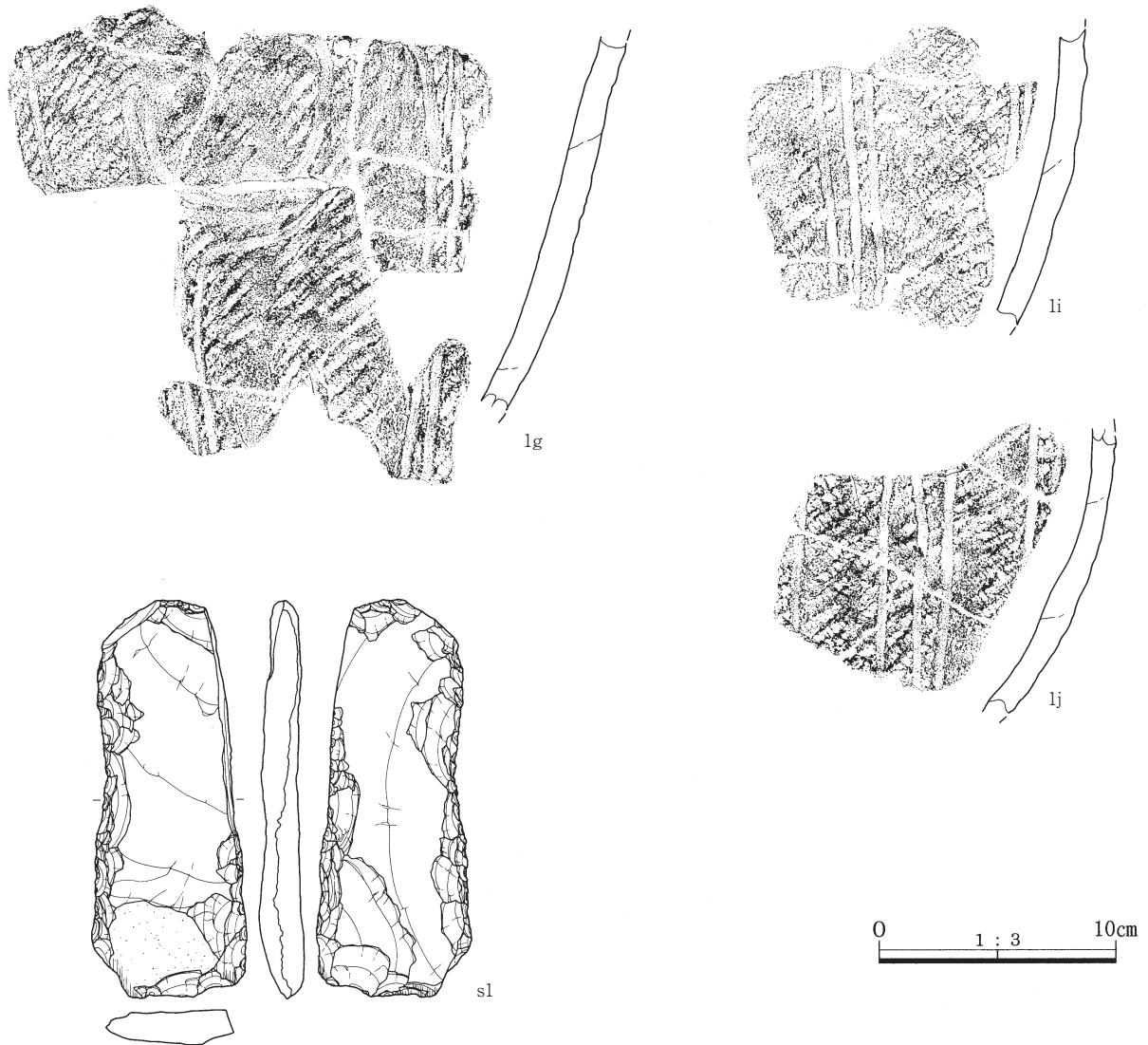
床面 暗褐色土を基調とする地床である。貼床や硬化面は認められなかった。炉・柱穴も検出できなかった。

遺物出土状態 7～9号住に跨って、加曾利EⅡ式新段階の1個体分の深鉢（1）が破片状態で出土している。住居跡帰属が判然としない埋土出土のため、本住居跡出土土器として扱うが厳密な帰属ではない。その他では北壁際で打製石斧（S-1）が出土している。

所見 西壁のみの住居跡把握であり、炉も見られない。9号住居跡との新旧は不明である。時期は中期後葉としたいが、他の2軒との関連も踏まえて、慎重な検討を要する。



第77図 95区8号住居跡出土遺物(1)



第78図 95区8号住居跡出土遺物（2）

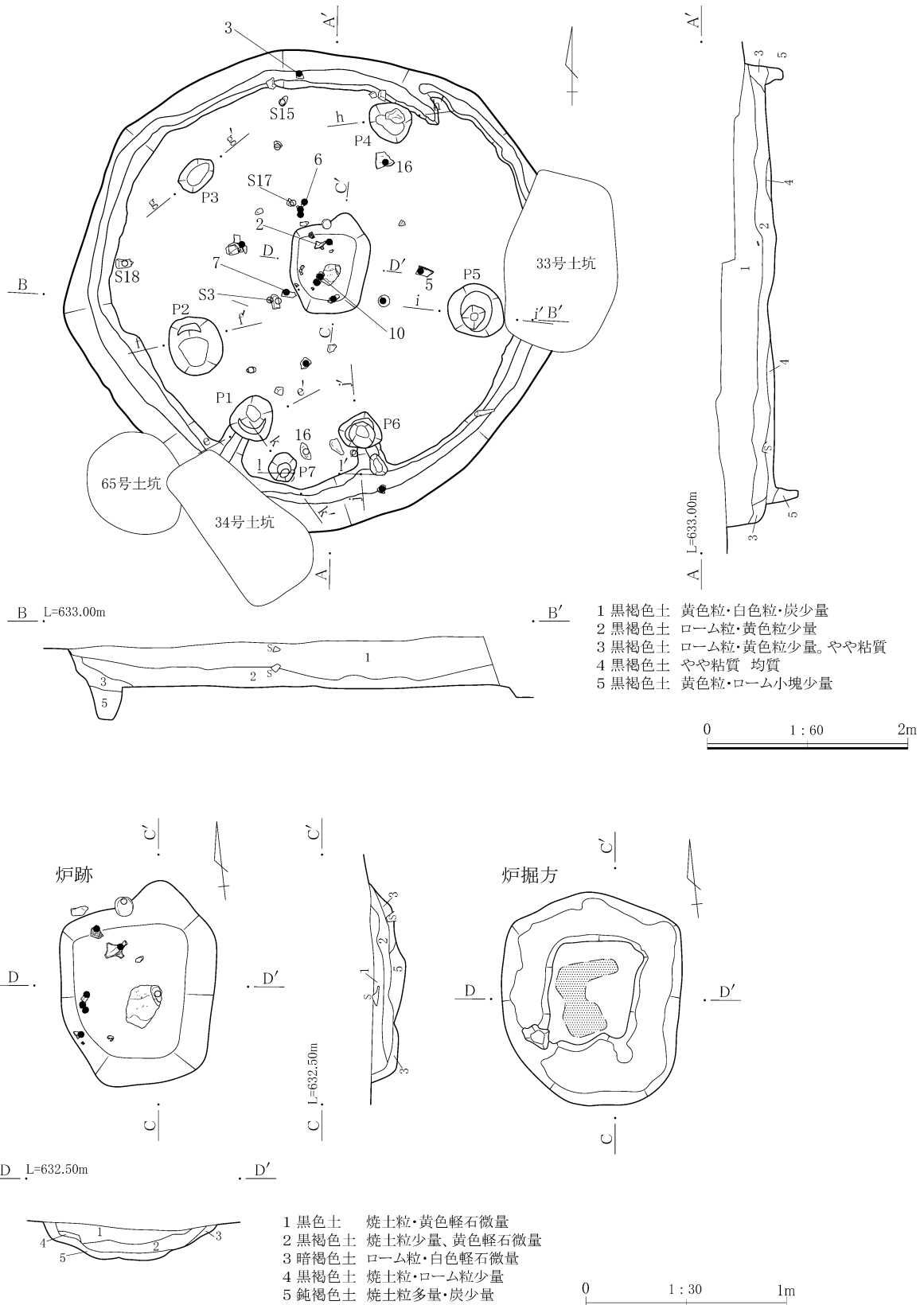
95-9号住居跡

位置 P・Q-21・22グリッドに位置する。調査区南側中央で、周辺は緩やかな南斜面にあり環状集落南端に占地する。**重複** 先に述べた7号住・8号住と重複する。8号住との新旧は不明である。その他では、33号土坑が東壁を34号土坑と66号土坑が南壁を切る。近接する住居跡では、南東に6号住と11号住居跡が、北西に10号住居跡がある。**形状** 径約4.8m程の円形を呈する平面形である。ただし西壁は角を持ち、壁周溝の様相も六角形～七角形の平面形を描く。変形六角形ともいえよう。深さは30cmを超え、良好な遺存度といえよう。**方位** 主軸方位はN-4°-Eでほぼ北を向く。**床面** 黄褐色硬質ロームを地床とする。丁寧な平坦面が築かれ、一部貼床状となり床全面が硬く締められていた。硬化面は炉周辺と西壁・南壁にかけて顕著である。**炉** 床面はほぼ中央に設けられる。不整形形状の地床炉で、長軸を主軸とする。約90×75×20cmを測り、浅い皿状の掘り込みを持つ。焼土は下層に顕著に見られた。土器片が比較的まとまって出土するが、炉に伴う出土状態ではない。また炉の掘り込みは、壁下が一段低くなり、中央は硬く焼土化していた。

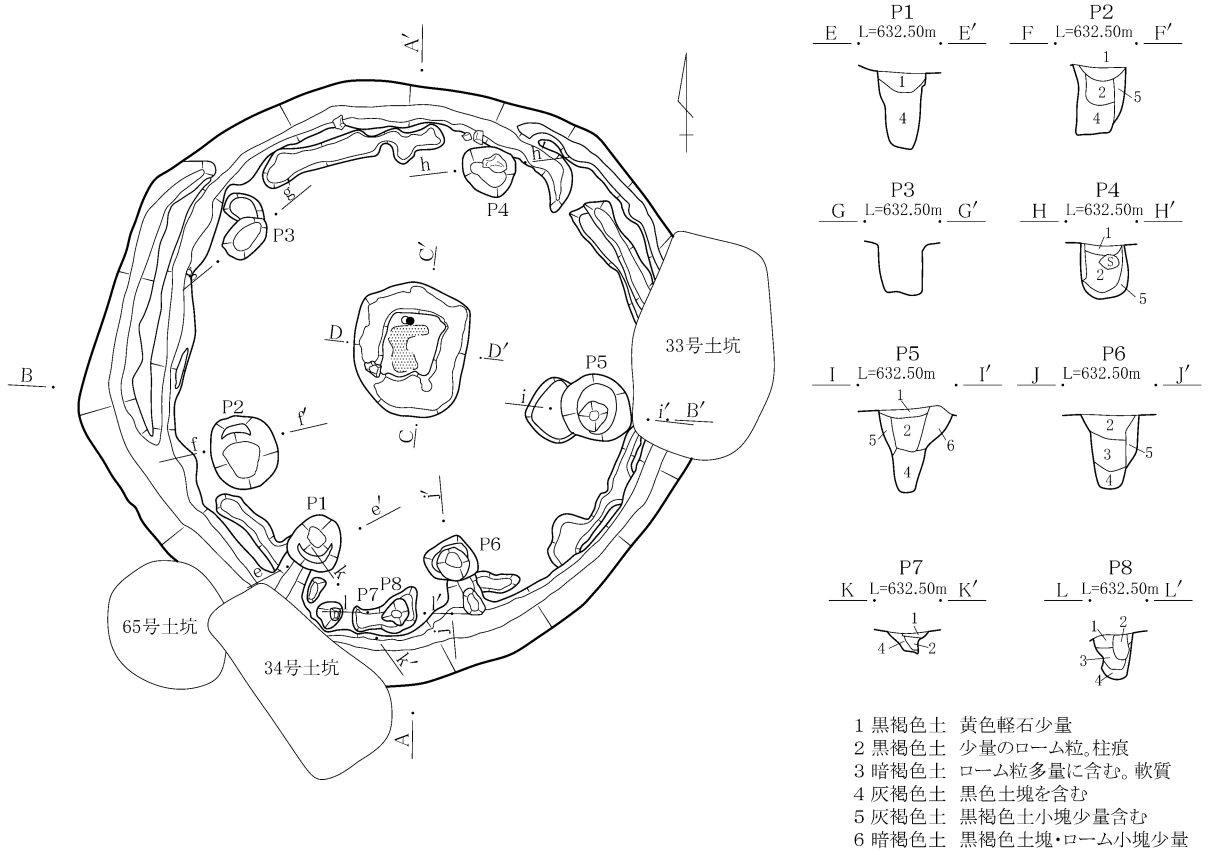
柱穴 配置・規模から6基を柱穴と捉えた。そのうちP2～P5の4基を主柱穴と考え、P1とP6は出入り口施設と兼ねる柱穴と判断した。各柱穴間の距離はP1-P2が約0.8m、P2-P3間が約1.7m、P3-P4間が約2.0m、P4-P5間が約2.0m、P5-P6間が約1.7m、P1-P6間は約1.0mを測る。また、P2-P6間は約1.8mである。出入り口柱穴P1以外は1.7～2.0mの距離を保ち、ある程度の規則性が看取できる。この場合、出入り口部柱穴P6が主柱穴を兼ねた配置として5本柱穴としての位置付けが可能である。尚、P2・P4・P5には柱痕状の土層が観察されている。**壁周溝** 全周する。溝深度は約30cmを測り、各壁と一体化したしっかりした構築を見せる。床下調査では内縁に周溝を検出している。数箇所にて途切れはあるがほぼ全周しており、本住居を拡張住居として把握できた。拡張前の旧住居径は約4mほどの規模である。**出入り口部** 本住居跡の特徴の一つに南壁の出入り口部が挙げられる。P1・P6より「ハ」字状に派生した短い溝が壁周溝に接し、中位にP7・P8が設けられる。南壁には34号土坑が重なり、壁上端の形状が不明だが、緩やかながら突出する様相が看取され、ピット・短溝は南北の住居主軸線上に配されている。埋甕等の埋設施設は見られないが、南壁に設けられた出入り口部施設として位置付けたい。**遺物出土状態**

埋土中より多量の出土土器を見るが、完形個体は無く、破片状態の出土である。1は北壁よりの埋土上層より出土している。7・8号住との重複部分のため、厳密な一括資料ではない。同様に16も上層出土である。埋土中の偏りでは中央部の炉周辺に集中する傾向が見られ、4・10は炉内より出土している。3は北壁際で、5は炉跡東で床直上で出土する。石皿片(S18)は西壁下で、凹み石(S15)は出入り口部で出土する。

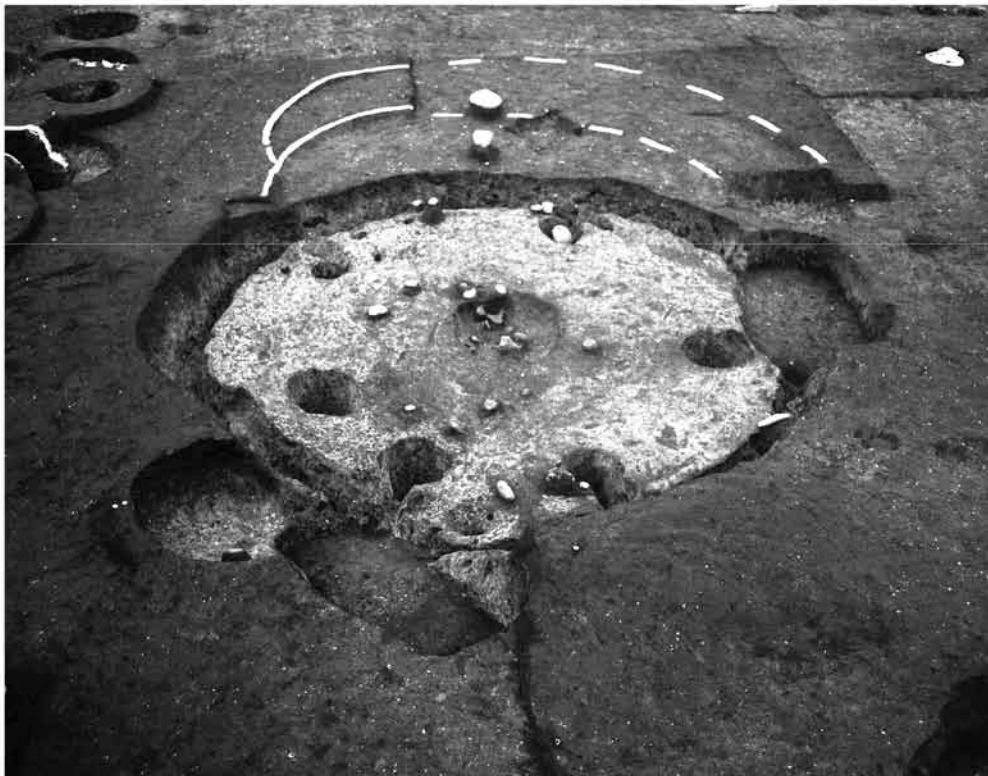
所見 7・8号住との重複関係では、最も古い段階に置きたいが不明部分が多く判然としない。住居跡として資料がまとまるのは本住居跡であり、住居本体の遺存度も極めて良好である。4ないしは5本柱穴で出入り口部を設ける例で、拡張住居でもある。主体となる出土土器の時期が加曽利E I式新段階であるが、前述のように、重複住居の影響もありある程度の時間幅がある出土状況である。故に詳細な時期設定は困難であり、中期後葉段階としておきたい。



第79図 95区9号住居跡(1)

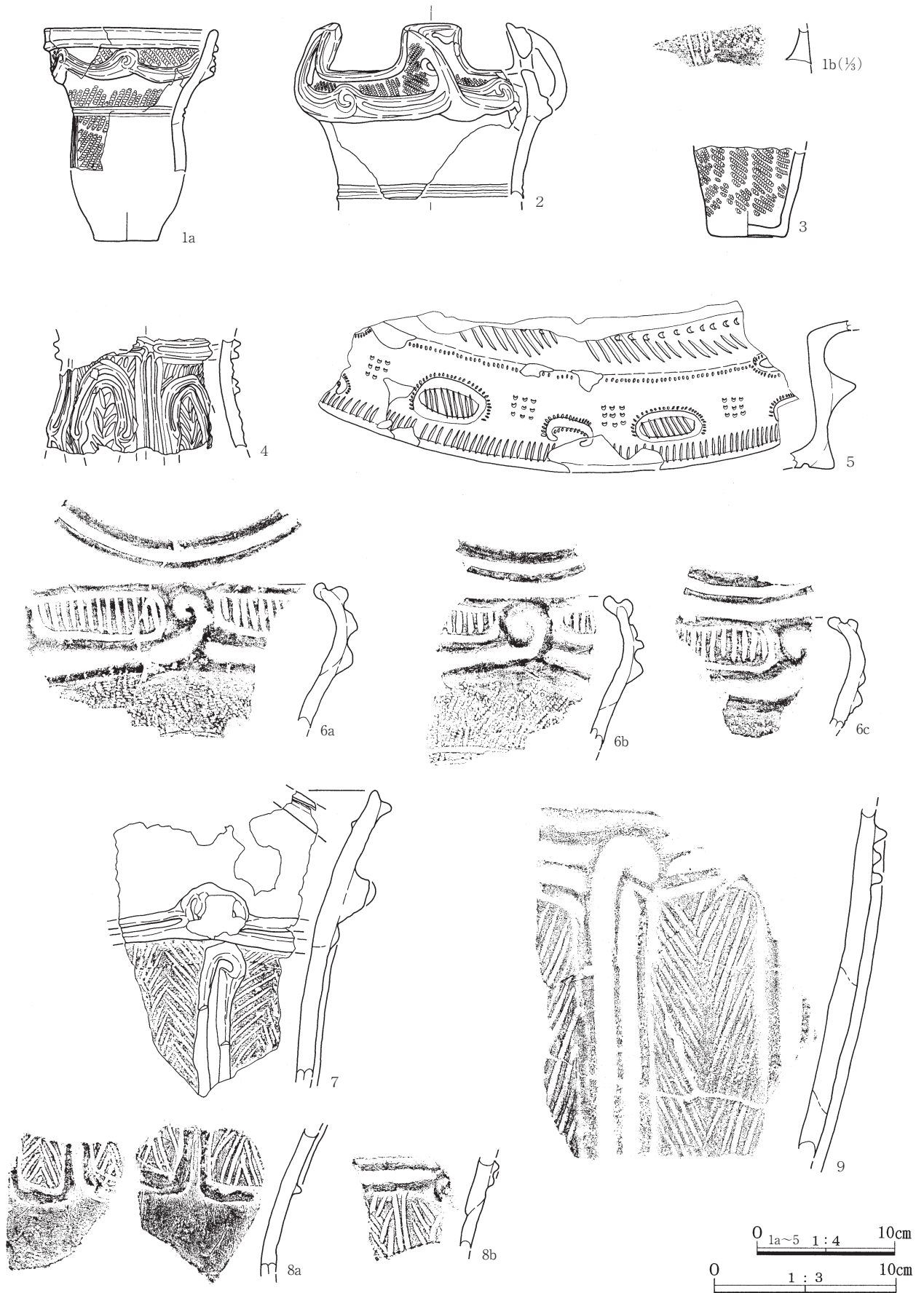


第80図 95区9号住居跡(2)

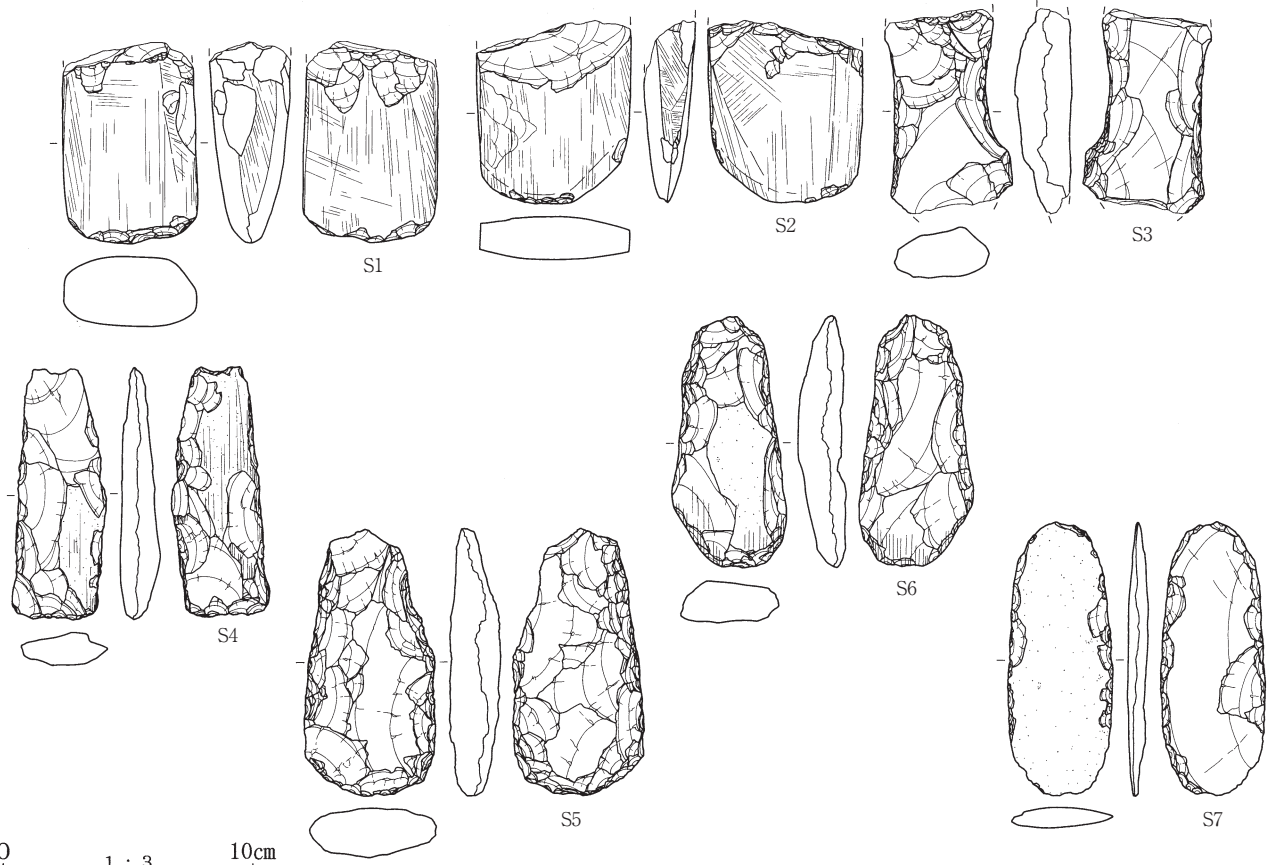
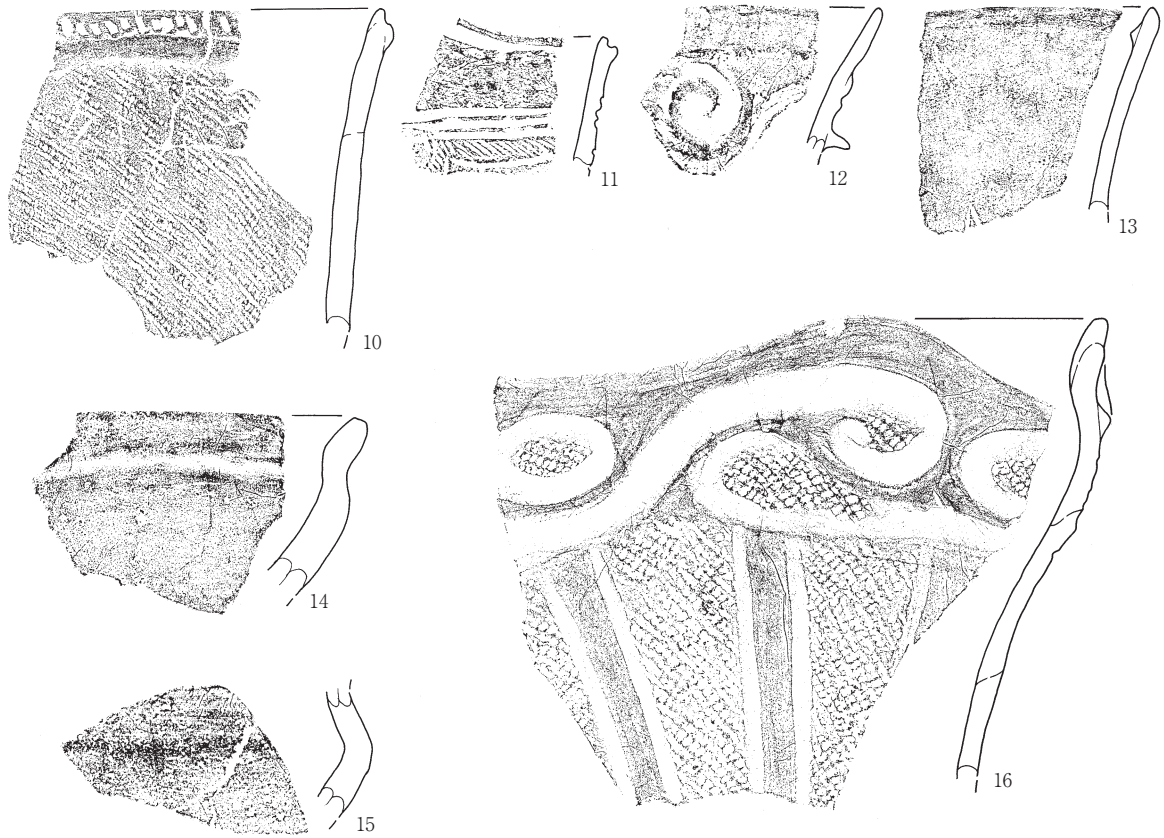


95区9号住全景

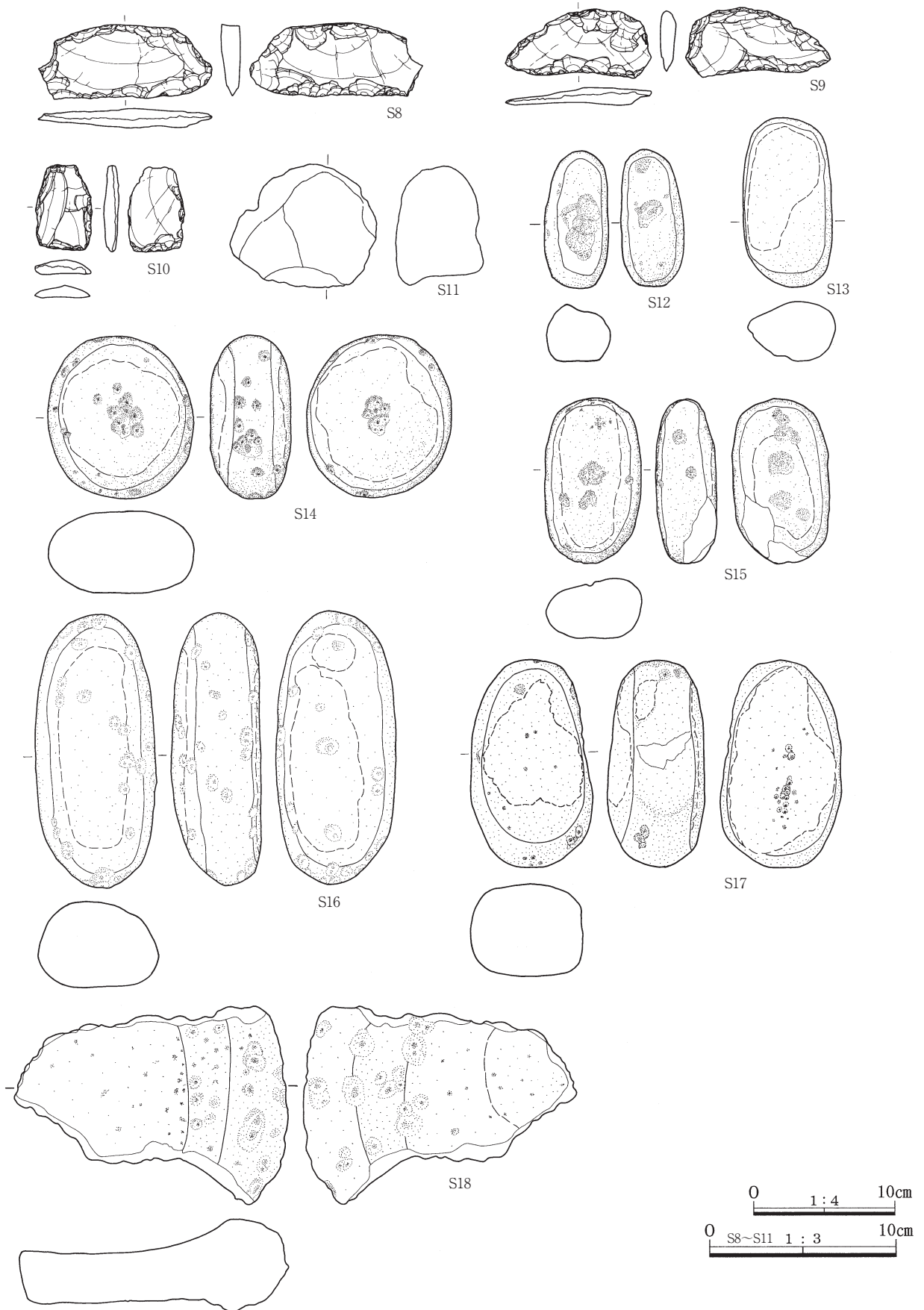
第3節 縄文時代



第81図 95区9号住居跡出土遺物(1)



第82図 95区9号住居跡出土遺物(2)



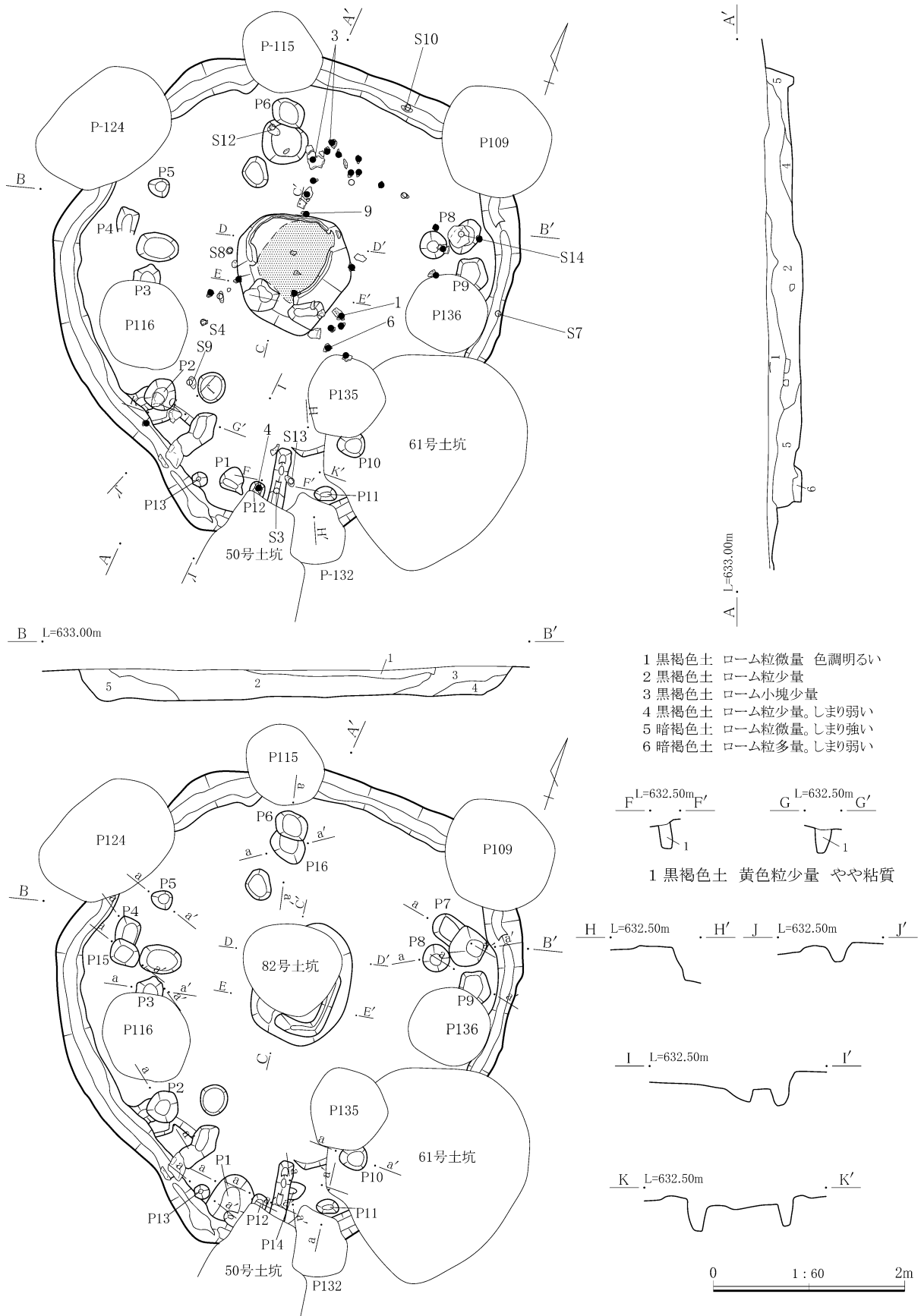
第83図 95区9号住居跡出土遺物(3)

95-10号住居跡

位置 調査区南西で調査された。R・S-22・23グリッドに位置する。南側への緩斜面に立地し、環状集落跡では南側の一団内にある。 **重複** 住居跡との重複は無いが、95区1号建物跡と2号建物跡が重複し、その他82号土坑や61号土坑、50号土坑、6号炉、7号炉等が重なる。近接する住居跡では、北に4号住居跡、東に7～9号住居跡が見られる。 **形状** 五角形を基調とした円形を呈する。平面規模は約5.1×5.0mで、深さは約30cmを測る。尚南側は50号坑と132号ピットが壁を切っているため、全容は把握できないが、出入り口部に付帯する突出状態を見せている。 **方位** 主軸方位は北北西を向く。 **床面** ほぼ平坦面を築くが、北側床がやや段差を持って高く設けられている。軟質ロームを基調とする地床ではあるが、床全面が硬く締められており貼床状となる。硬化面は炉周辺に認められるが、重複遺構の影響で広がり確認できなかった。 **炉** 床面中央に地床炉を設ける。径1.2m程の不整円形を呈し、深さ約20cmの掘り込みを持つ。焼土は上層に顕著に認められた。また、炉底面縁辺は周溝状に凹み、南側は小穴が開く。あるいは炉石などの炉構築材が存在し抜き取られた痕跡とであろうか。出土遺物は土器片や破碎小礫が出土するが、炉に伴う出土状況ではない。尚、本炉には81号土坑が重複するが、焼土層が安定的に確認されることから、本炉が81号土坑を切る新旧関係と把握した。炉構築時の掘り込みとしては深く、住居居住者による土坑掘削ではないようだ。土坑上層の凹みを炉として利用したのであろうか。 **柱穴** P2、(P4・P15)、(P6・P16)、(P8・P7)が柱穴として規模・配置から妥当と思われる。おそらく61号土坑重複部に相応の柱穴を充てられることから、5本柱穴と考えたい。柱痕状の土層はP4、P6、P8に認められた。床下調査で得られたP15やP16の存在から、柱穴は外側へ移動している可能性がある。しかしながら壁周溝に拡張痕跡が見られないことから、

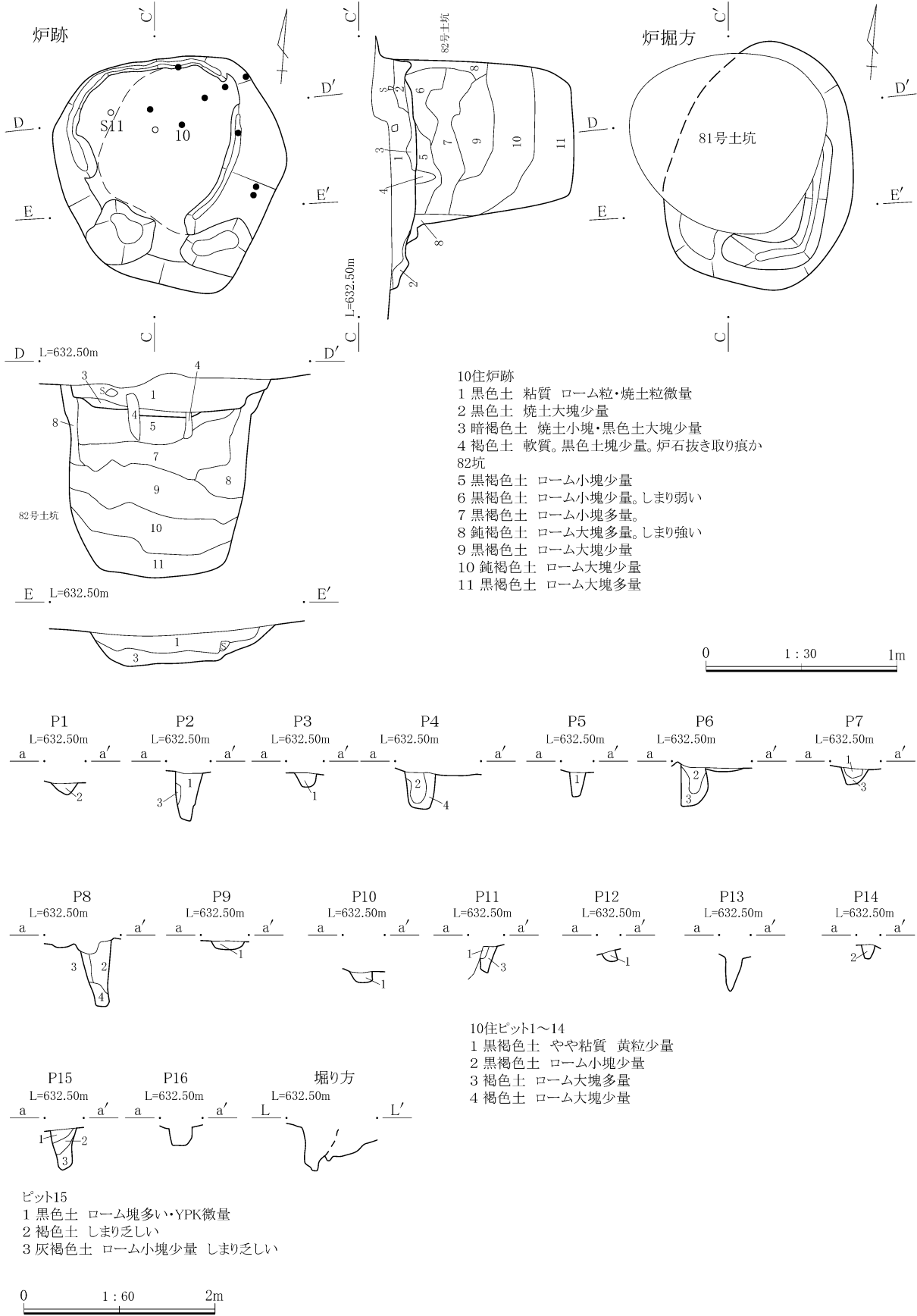


95区10号住遺物出土状態

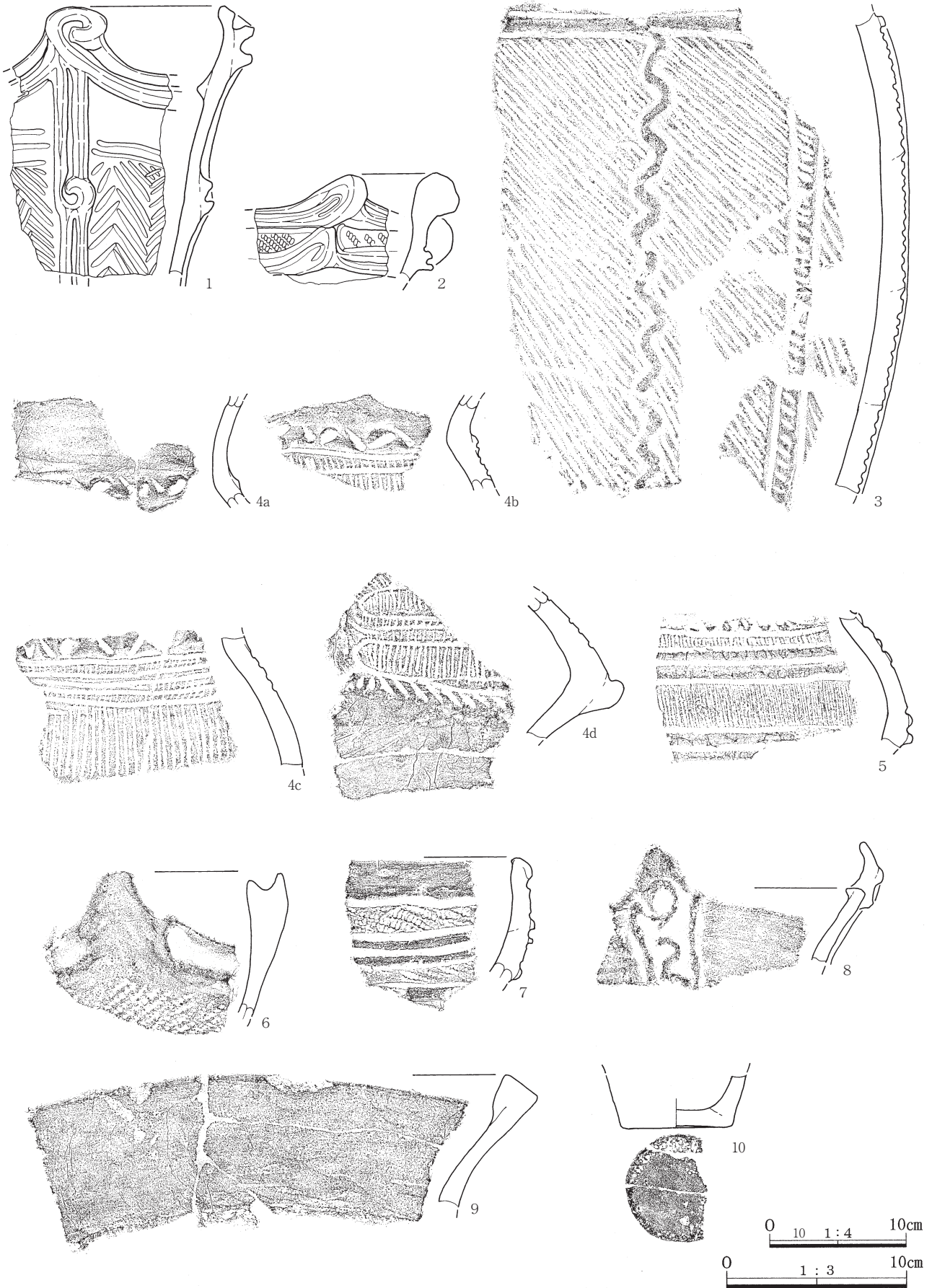


第84図 95区10住居跡 (1)

第3章 検出された遺構と遺物

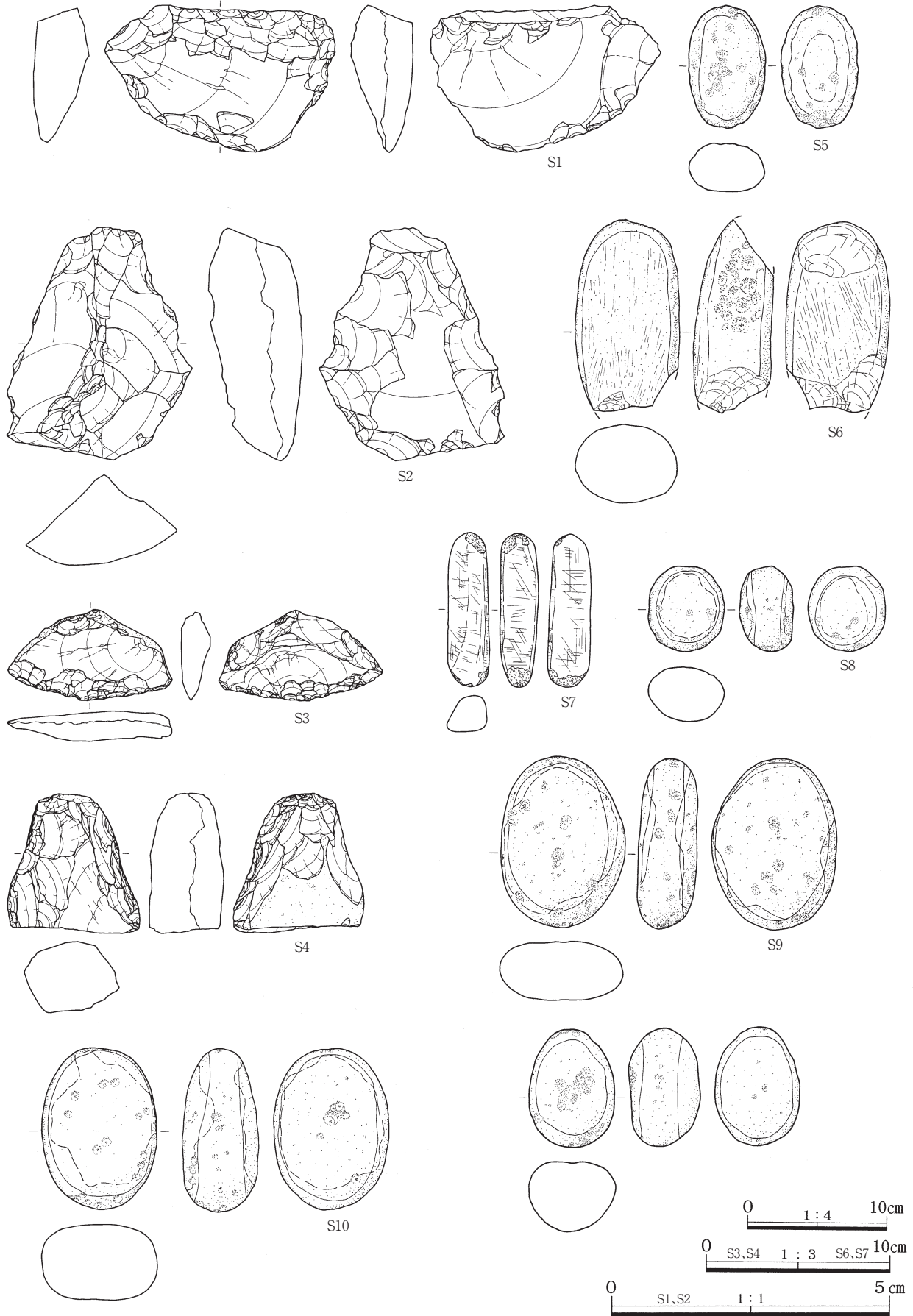


第85図 95区10住居跡 (2)



第86図 95区10住居跡出土遺物 (1)

第3章 検出された遺構と遺物

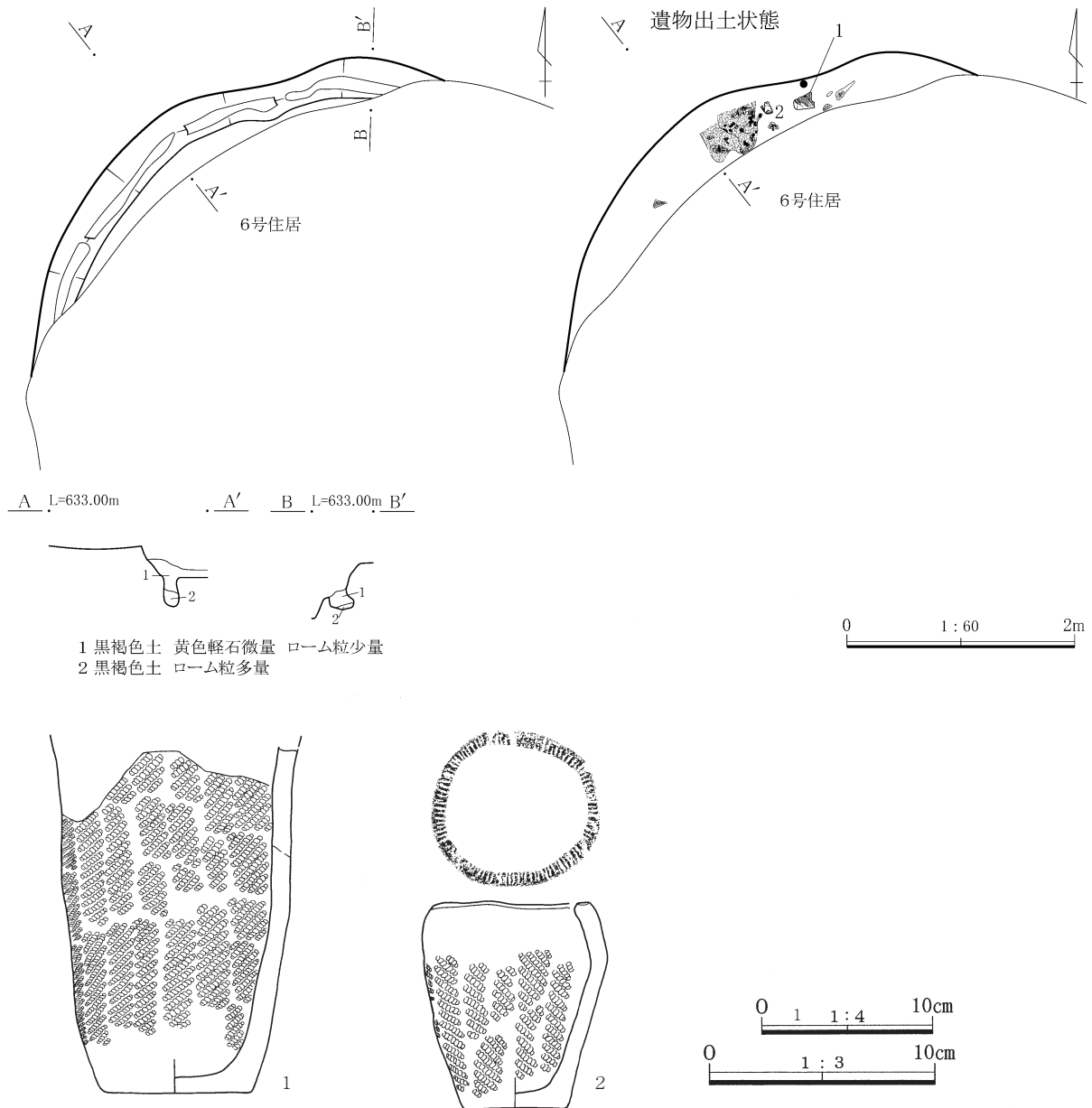


第87図 95区10住居跡出土遺物 (2)



第88図 95区10住居跡出土遺物（3）

柱穴移動-建て替えが住居規模を変えずに行われたと考えたい。**壁周溝** 壁際に沿って全周する。20cm以上の深さで各壁と一体化したつくりで、規格性に富む配置である。柱穴では住居建て替え痕跡が見出せたが、壁周溝は重複・拡張の痕跡はなく、床面規模の変更は行われなかったようだ。**出入口部** 南壁の僅かな突出部を出入口部と考えた。50号坑と132号ピットが重複し、全体像は不明確ではあるが、南北約0.8m、東西約2m程の規模で南壁で検出された。南壁下の床面ではP1とP11に挟まれた間を、短溝が主軸方向へ設けられる。短溝の深さは30cmを超え、強い意図を持たせた施設の痕跡である。**遺物出土状態** 埋土中より破片出土が目立ったが、住居跡遺存度の割りに量的には少なく完形個体や復元個体は無かった。破片は、炉及び周辺にかけて埋土下位出土が目立つ。住居跡中央部にかけての廃棄あるいは流入であろうか。多孔石(S14)は北東部埋土上層より出土しており、居住に伴う例ではなく、これも廃棄・流入によるものと考えられる。**所見** 建物跡や土坑・ピットの重複が著しい住居跡であるが、全体像は良好に確認できた。五角形の平面形に対応するように柱穴が配され、南側壁に明瞭な出入口部を設ける。出土土器は唐草文系土器にやや比重が偏る。おそらく加曾利EⅡ式併行の所産であり、中期後葉としたい。



第89図 95区11号住居跡・出土遺物

95-11号住居跡

位置・重複 6号住居跡北西壁に重複して検出された。O-21・P-20・21グリッドに位置する。6号住調査時に同時に検出されたため、土層の観察も充分ではなく、新旧関係の詳細は不明である。おそらく平面形は円形を呈するものと思われるが、方位・規模・炉・柱穴などは不明である。 **床面** 極僅かに検出された。暗褐色土を基調とする地床である。 **壁周溝** 壁に沿って幅30~40cm程の周溝が検出された。 **遺物出土状態** 北壁際に炭化物とともに深鉢体部下半(1)とミニチュア土器(2)が出土している。焼失住居跡であろうか。

所見 6号住との新旧は不明であるが、おそらく6号住に切られる新旧関係と思われる。平面形も円形を基調とすることからも、中期後葉の所産であろう。

2. 柱穴列（建物跡）

平成14年度の長野原一本松遺跡の調査では、3基の掘立柱建物跡を検出した。縄文時代中期～後期の集落跡では、竪穴住居跡以外に土坑・墓・配石遺構など、様々な施設が混在する。建物跡もその一つで、柱穴列を見だし、建物跡として位置付ける作業が調査段階で必要である。建物跡の性格は、未だ特定できておらず、高床式の建物を想定する例や地面と接して床を設ける、柱建て平地建物を想定する例など様々である。さらに建物規模も軸長10mを超える大型のものから、3～4mの小型の例も多々あり、集落内の建物跡も多様性を帯びる。本遺跡では円形柱穴列も調査されており、不定型な形状の柱穴列や建物跡も存在する可能性は高い。帰属時期に関しても、柱穴のみの検出に留まるため、時期不明となる例が多く、本遺跡の建物跡の多くも詳細な時期判断にまでは至っていない。本書で扱う平成14年度調査における3基の建物跡も、調査段階で、多数の土坑・ピットから、柱痕を持ち柱穴配置の良好な例を抽出し掘立柱建物跡として位置付けた。おそらくは他にも不定形の建物跡や柱穴列が存在する可能性もあるが、確定的な建物跡として集落内施設に加えた次第である。平成14年度調査で確認し得た3基の建物跡に関しても、性格・時期など特定には至らなかったが、例えば、重複遺構との新旧を検証し、ある程度の時間幅は推定できると考え、今後類例を重ねるための資料として報告する。

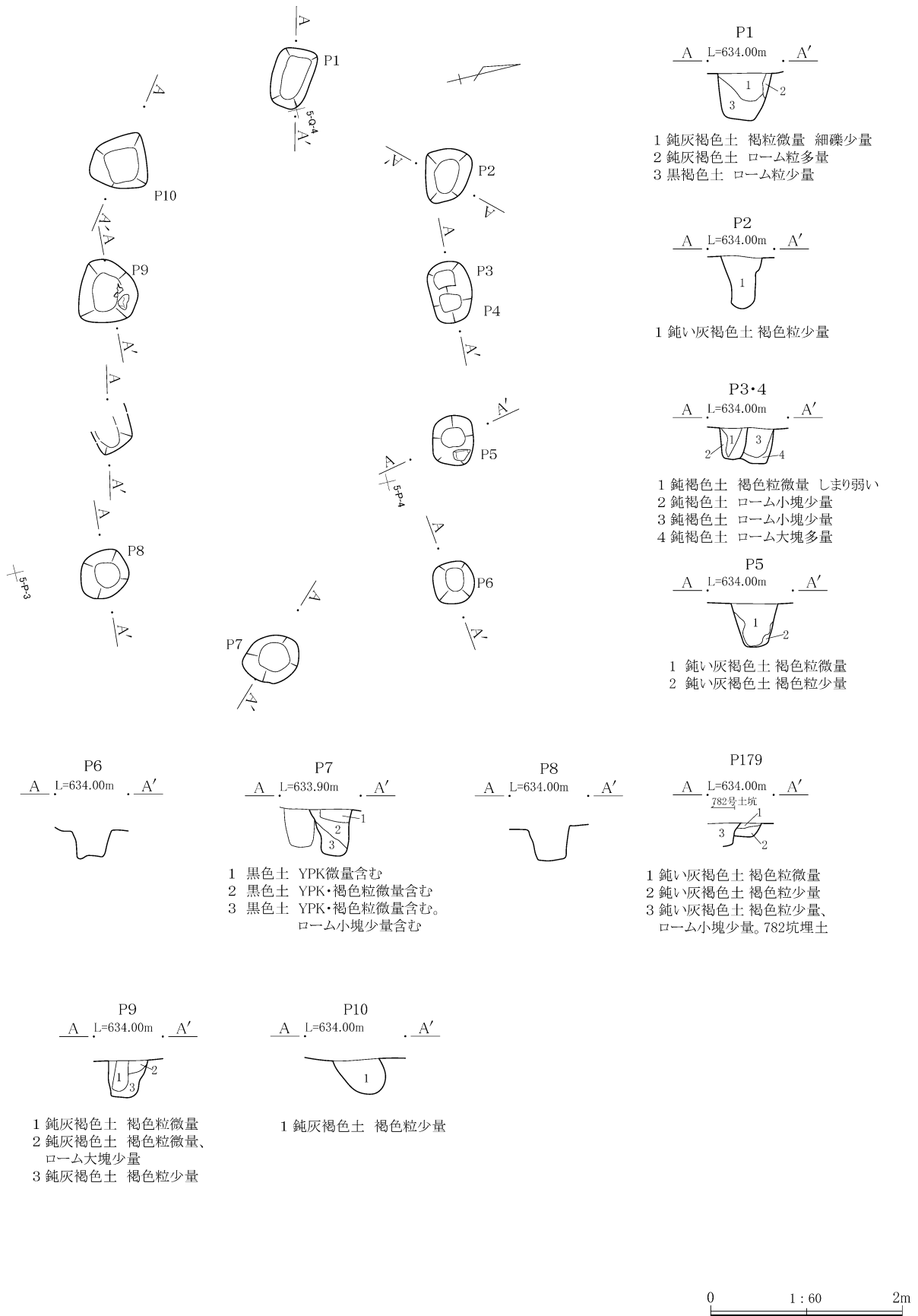
5区1号建物跡

位置 調査区北側で検出した。O～Q-3・4グリッドに位置する。周辺は平坦地形が広がる箇所、南斜面にかけて遺構の密集が始まる地点である。しかしながら、北側へは徐々にではあるが、遺構数は少なくなり、環状集落跡の中央部分へとなる。**重複** 住居跡・土坑・ピットが密集する箇所である。本建物跡東端の柱穴P6は95区58号住居跡内に重なり、P5は766号土坑とP10は762号土坑と重複する。また建物内にも1号竪穴状遺構や765号土坑・768号土坑、9号炉、10号炉などの遺構が重なるように検出されている。**規模・方位** 10基の柱穴からなり、棟持柱を持つ形態である。長軸長約6m、短軸長約3.5mを測り、この種の建物跡とすればやや小型の部類に入る。建物部分長軸は約4.2mで、3間×1間の方形を呈する柱穴配置である。方位はN-73°-Wと西北西を向く。**柱穴** 径約40～60cm、深さ約35～50cm程度の小ピット10基から構成される。長軸方向のピット間の距離は概ね60cm前後で、ある程度の規則性が看取された。柱痕は明瞭な例は見られなかったが、P3及びP9に柱痕状土層を観察した。**その他の施設** 建物跡ほぼ中央に9号炉があり、本建物跡に帰属し得る炉跡として調査を進めたが、同時性を保証する要素が無く、本建物跡の施設からは除外した。今後検討を要するが、10号炉なども群在する箇所であり、確定的な判断はできなかった。**時期** 周辺の住居跡や土坑との重複-新旧関係が判然としないため、確定的ではない。ただ、周辺は堀之内式を出土する土坑が多く、幾つかは本建物跡柱穴が土坑を切る新旧関係を示すため、時期を後期前葉～中葉に求めたい。

95区1号建物跡

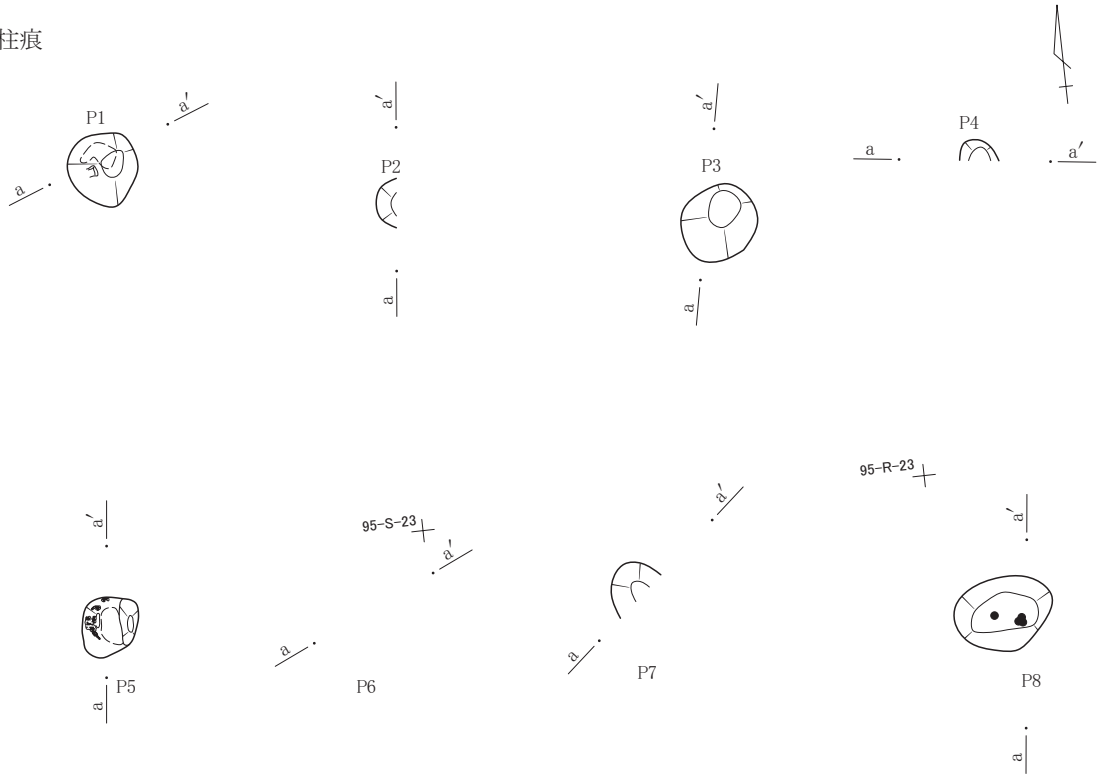
位置 調査区南西で確認した。南側への緩やかな斜面に立地し、住居跡、土坑・ピットが密集する地点であり、環状集落南側の一群の中にある。**重複** 中期住居跡である5区10号住居跡平面形確認時に既に本建物跡柱穴が確認できたため、10号住居を切る重複と捉えられよう。また中期の土器片を出土する61号土坑ともP136が重複し、これも本建物跡が土坑を切る新旧関係を示す。建物跡範囲内でも多くの遺構が密集する。5号炉や6号炉、82号土坑等が群在する。また、95区2号建物跡も本建物跡東で重複関係にあるが、新旧関係は不明

第3章 検出された遺構と遺物

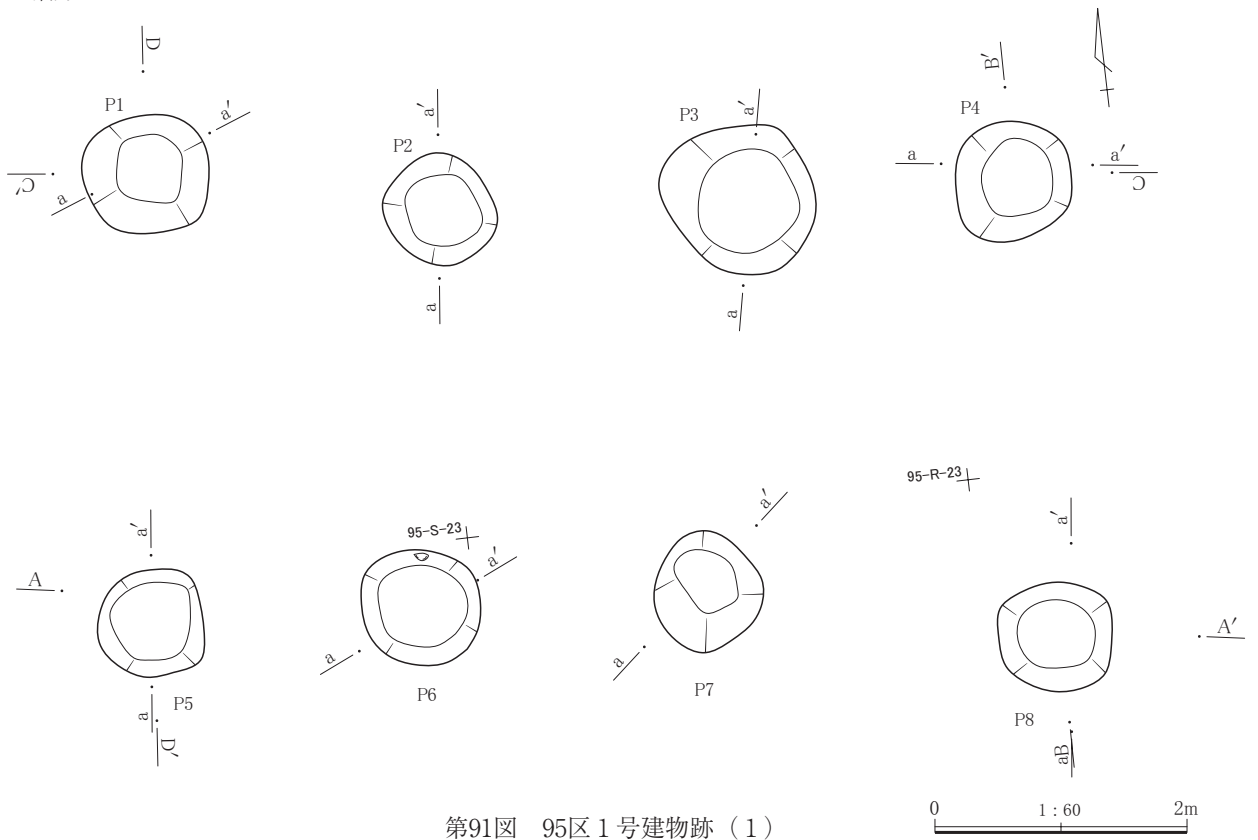


第90図 5区1号建物跡

柱痕

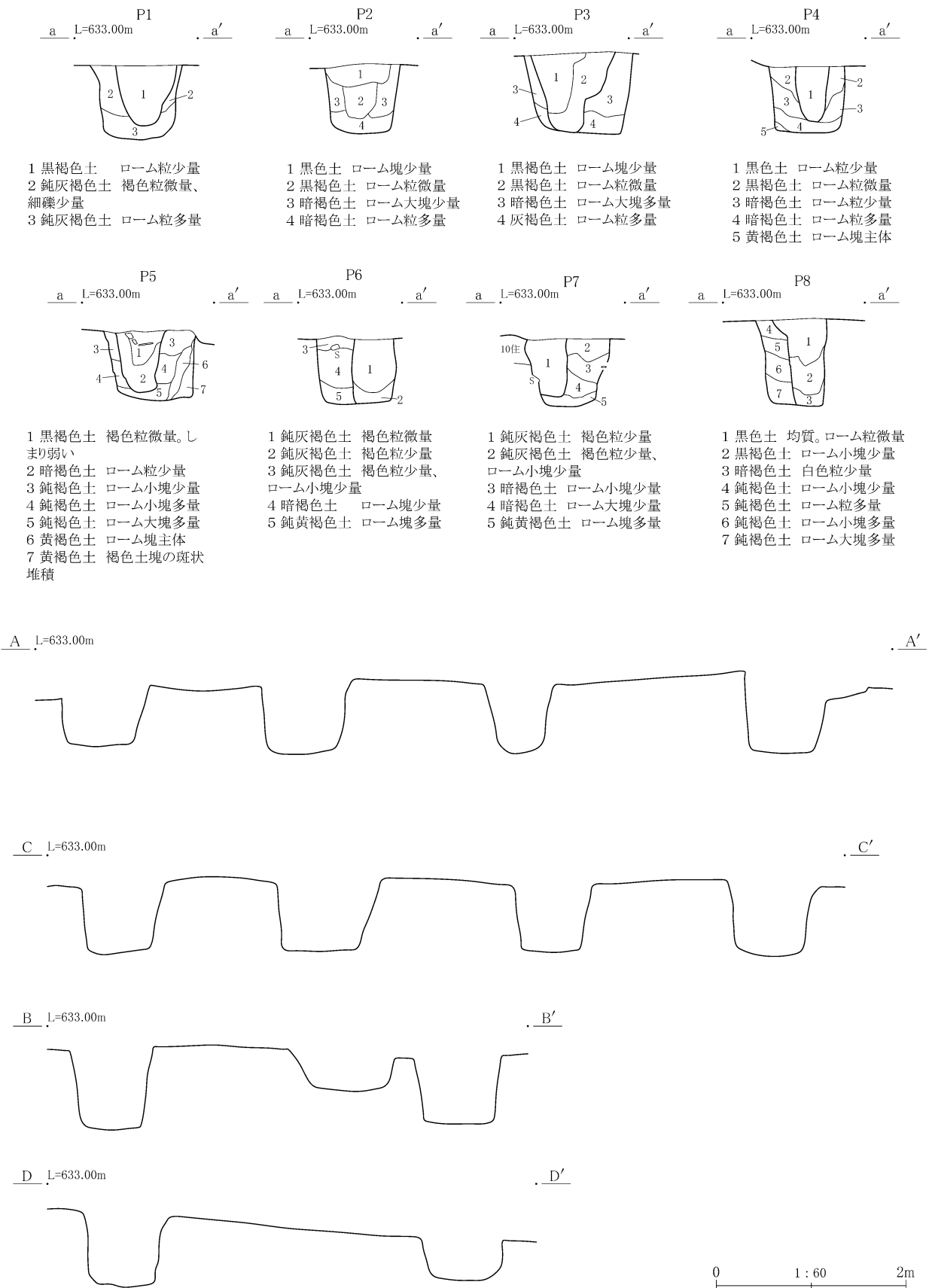


掘方

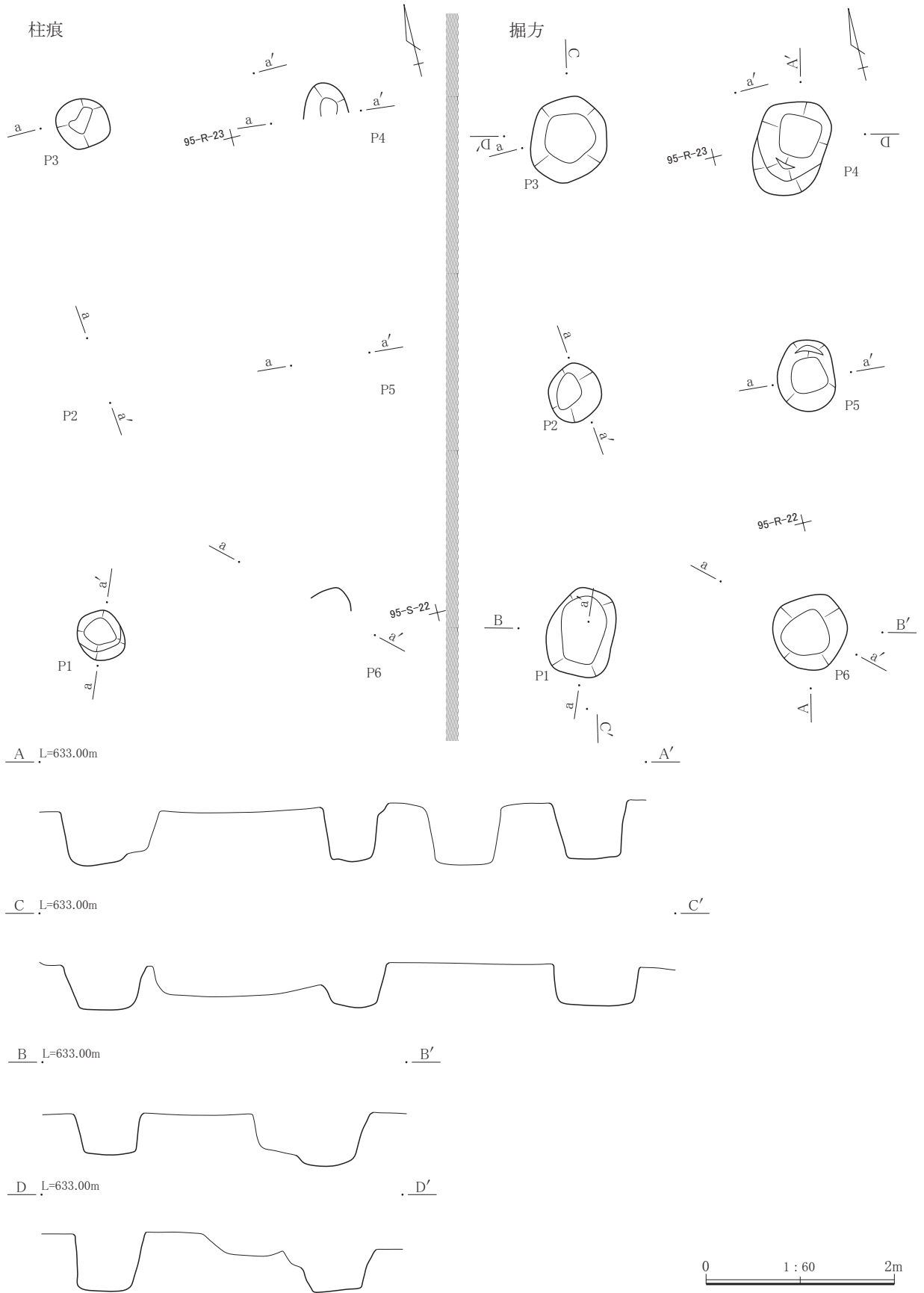


第91図 95区1号建物跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第92図 95区1号建物跡(2)



第93図 95区2号建物跡(1)

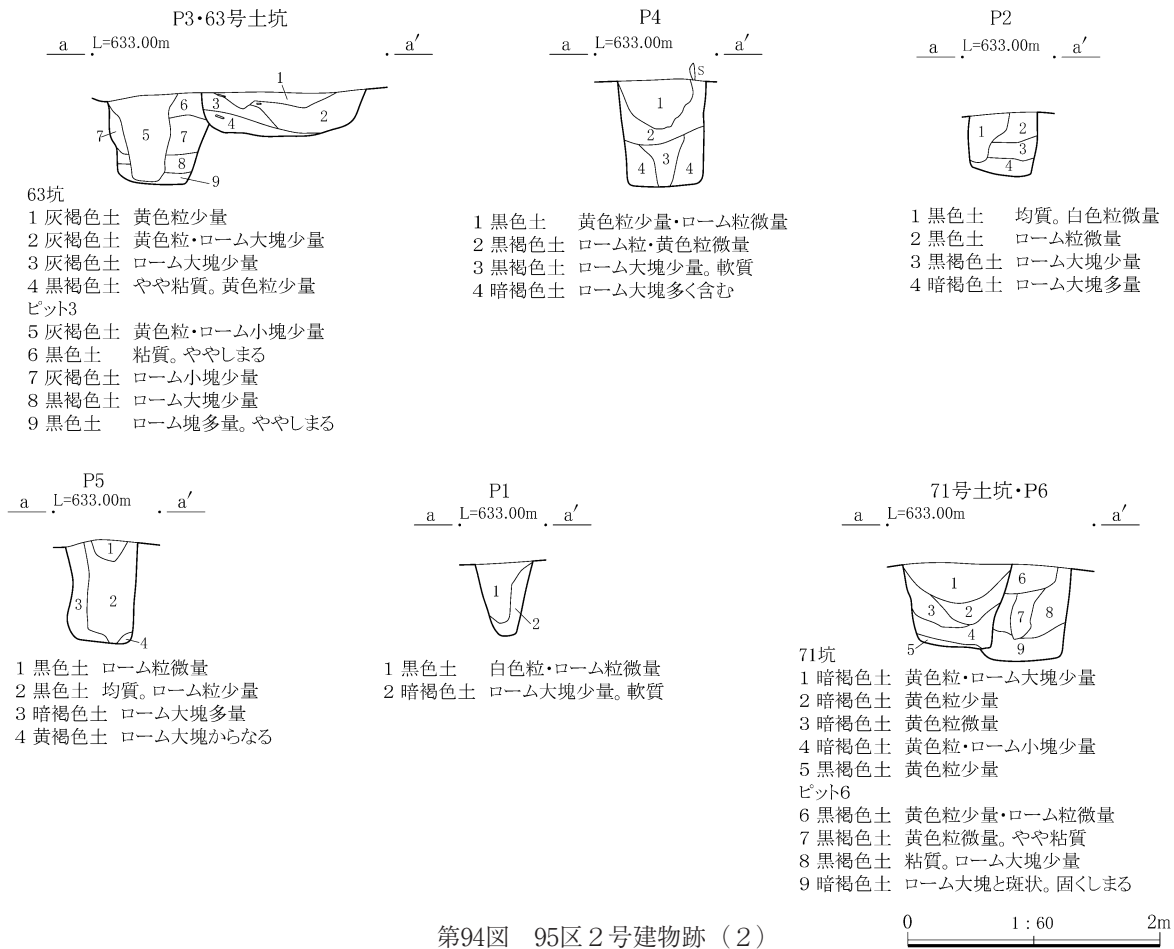
である。**規模・方位** 8基の柱穴からなる。長軸約7m、短軸約3.5m程の3間×1間の方形を呈する柱穴配置である。方位はN-107°-Eを向き、主軸は東南東を向く。**柱穴** 8基の柱穴のうち7基が平面的に柱痕を認めることができ、柱痕先行調査を行った。柱痕の規模は径約40~50cm程で、深さは50~100cmと深い。比較的しっかりした建物が想定できよう。柱穴間の距離は長軸方向で2.5m程の間隔で並び、規格性に富んだ配置を示す。一方、各柱穴の外郭は径90cm前後で深さは1mを超えるしっかりした掘り込みである。**その他の施設** 5号炉と6号炉が建物内で検出されている。調査時より本建物跡の帰属を考えたが、確定的な要素が無く、建物内の施設からは除外した。**時期** 北西隅の柱穴P1(P122)より完形の深鉢が出土している。加曽利EⅣ式である。その他の南東隅の柱穴P5(P98)や南西隅P8(P111)から中期後葉末の土器片が出土している。加曽利EⅡ式を出土する10号住及びEⅢ式を見る61号土坑を切る新旧関係からは整合する。

95区2号建物跡

位置 調査区南西で、1号建物跡東に重複して検出された。Q・R-21~23グリッドに位置する。1号建物跡同様に遺構が密集する緩やかな南斜面に占地する。**重複** 北西隅の柱穴1と北辺柱穴6が10号住居跡を切る重複関係で確認された。1号建物跡とも本建物跡北側で重なる位置関係にあるが、新旧は不明である。また、柱穴1は5号炉と61号土坑に接するが、新旧は不明である。さらに柱穴6は71号土坑と重複するが、調査当初は71号土坑が柱穴6(P138)を切る観察を見たが、その後検討を重ね、柱穴4が新しい所見を加えている。判然とせず、本書では新旧不明としたい。**規模・方位** 6基の柱穴からなり、1間×2間の柱穴配置である。長軸約5.3m、短軸約2.3m程の方形を呈する。長軸方位はN-15°-Eで北北東を向く。南斜面地形に沿う柱穴配置である。**柱穴** 6基の柱穴のうち4基が平面的に柱痕を認めた。柱痕の規模は径約50cm程で、深さは40~80cmを測った。各柱穴間の距離は約2.5m前後を保ち、規格性に富む配置を示していた。柱穴外郭は径60~80cmでしっかりした掘り込みを見せていた。**時期** 北西隅の柱穴としたP3(P136)より中期後葉の口縁部破片が出土するが、10号住との重複から確定的ではない。詳細な時期は不明である。また、明瞭な重複を示す例が10号住との重複のみのため、推定される時間幅は広くなる。10号住を切ることから、中期後葉以降の所産とするが、1号建物跡に近接・重複する位置関係から、あるいは時期も近接する可能性がある。



95区1号建物跡全景（中央は10号住）



第94図 95区2号建物跡(2)

3. 竪穴状遺構・炉跡・集石・埋甕

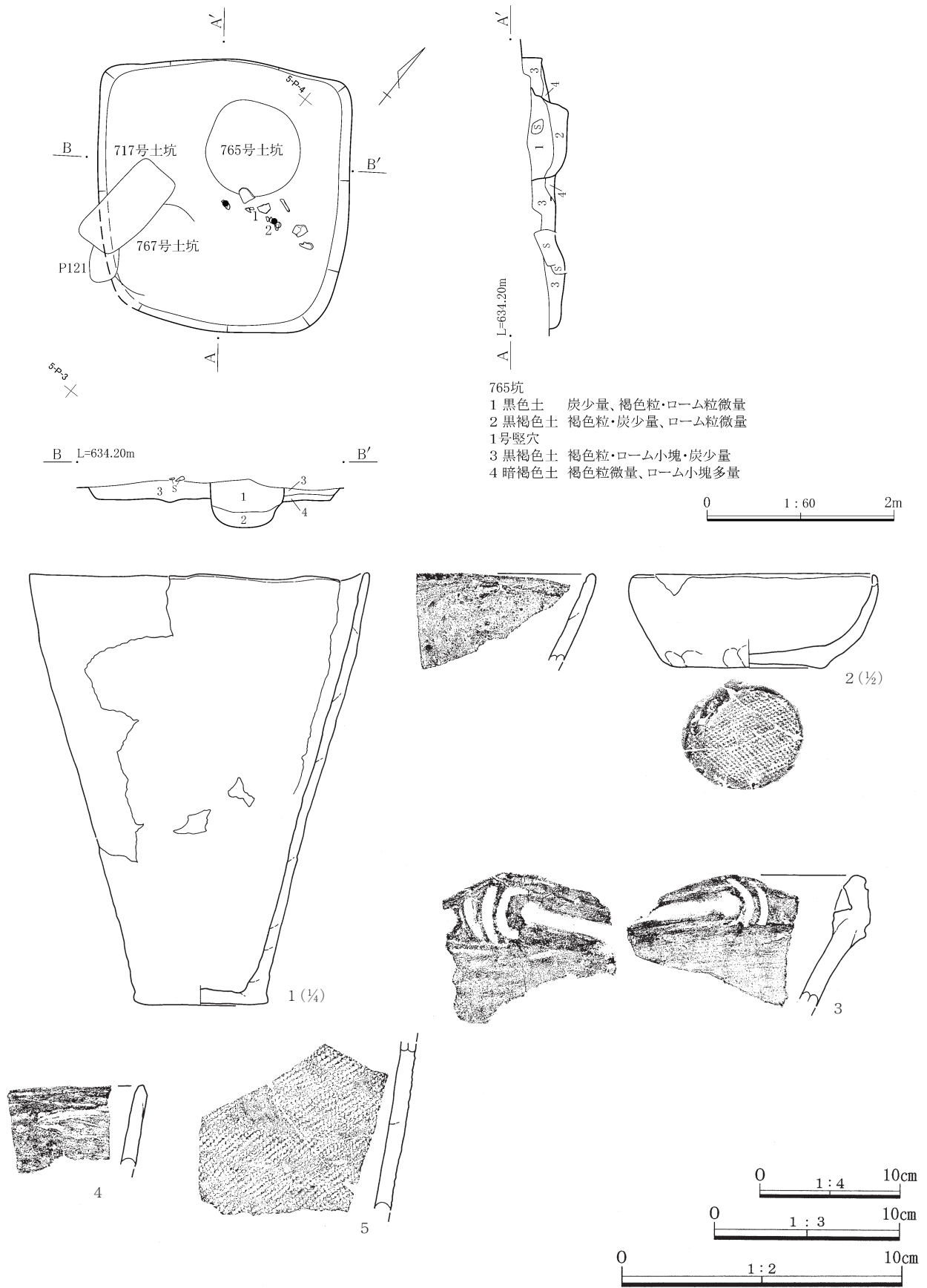
5区1号竪穴状遺構

位置 調査区北側で調査した。平坦地形が広がる箇所で、遺構密度も極めて高い。O・P-3グリッドに位置する。**重複** 5区717号土坑や765号土坑と重複する。また1号建物跡とも重複位置にある。その他にも周辺は9号炉や10号炉、土坑・ピット群が密集しており、本竪穴状遺構もそれらと同時に調査され、住居跡としてではなく、竪穴状の施設として位置付けられた。**規模** 軸長2.9m前後の方形を呈する。深さは20cm程で、底面は平坦ではなく凹凸が顕著である。方位は南北軸を北北西に向ける。**遺物** 底面からやや浮いた状態で半完形の深鉢(1)や鉢(2)などが出土している。**時期** 周辺の遺構からも堀之内1・2式を中心に後期前葉段階の遺物が出土している。本竪穴状遺構も、おそらく後期前葉の所産と捉えたい。

5区9号炉

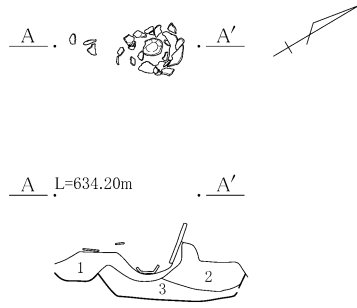
位置・重複 調査区北側のP-3グリッドに位置する。790号土坑を切る重複で調査された。その他に5区1号建物跡、1号竪穴状遺構、717号土坑や766号土坑等、土坑・ピットが群在する中で検出されている。**規模** 約110×90cm程の不整楕円状を呈する。断面形は浅い皿状を呈し、約20cm程の深さを測る。焼土は中層に多く見ることができる。**遺物** 中型の破碎礫を多く出土した。炉石を破壊し廃棄した状態ではなく、周辺の礫を集めた状況に近い。その他では加曾利B1式の破片を見ることができる。**時期・所見** あるいは5区1号建物内の施設の可能性がある。時期は出土土器から後期前葉～中葉としたい。

第3章 検出された遺構と遺物



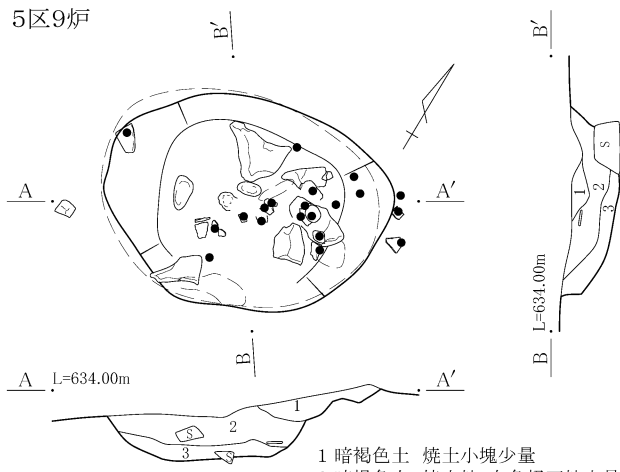
第95図 5区1号堅穴状遺構・出土遺物

5区8埋甕



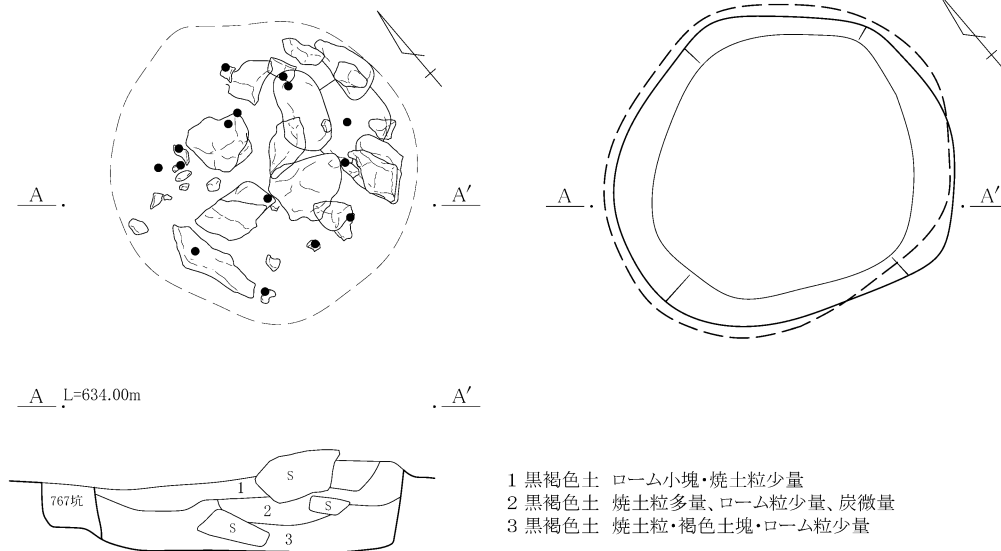
- 1 黒褐色土 黄色軽石粒少量、炭微量
- 2 黒褐色土 ローム粒・黄色軽石粒少量
- 3 暗褐色土 ローム小塊少量

5区9炉



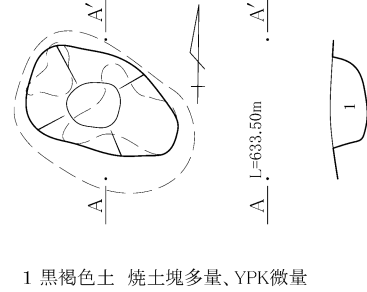
- 1 暗褐色土 焼土小塊少量
- 2 暗褐色土 焼土粒・白色軽石粒少量
- 3 暗褐色土 焼土粒・黒色土塊少量

5区10炉



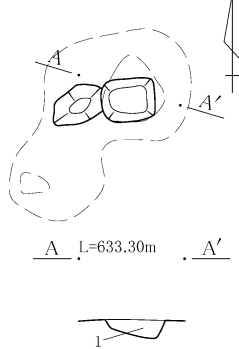
- 1 黒褐色土 ローム小塊・焼土粒少量
- 2 黒褐色土 焼土粒多量、ローム粒少量、炭微量
- 3 黒褐色土 焼土粒・褐色土塊・ローム粒少量

95区1炉



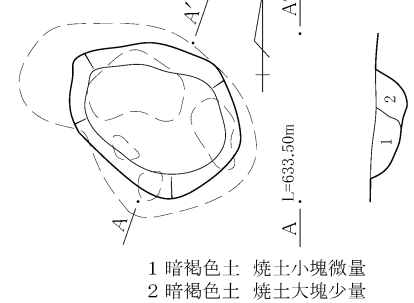
- 1 黒褐色土 焼土塊多量、YPK微量

95区2炉

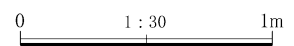


- 1 鈍褐色土 焼土塊少量、YPK微量

95区3炉



- 1 暗褐色土 焼土小塊微量
- 2 暗褐色土 焼土大塊少量



第96図 埋甕・炉跡 (1)

5区10号炉

位置・重複 調査区北側のO・P-3グリッドに位置する。767号土坑と重複し、58号住居跡西に近接する。周辺は9号炉や1号建物跡、1号竪穴状遺構など土坑・ピットが密集する。**規模** 約1.3×1.2mの不整形円形を呈する。深さは約30cm前後で、比較的しっかりした掘り込みである。焼土は上層に偏る傾向である。

遺物 大型の自然石を多く出土した。顕著な被熱痕跡は無いが、炉壁に密着している状態の石もあり、炉石の可能性は高い。炉廃棄時の所産であろうか。その他では堀之内2式段階に比定される土器片が出土している。**時期・所見** 出土遺物から後期前葉と考えたい。1号建物跡内ではあるが、建物範囲南東隅にあたり、1号建物跡の施設とは思われない。周辺の土坑・ピットも規則性を持たないことから、単独の炉と考えた。

95区1号炉

位置 調査区中央西よりで検出した。Q-25グリッドに位置する。4号住居跡が西に近接する。**規模** 約60×40cmの不整形円状を平面形とする。深さ約15cmを測る浅い掘り込みで確認された。焼土は上層にまとまり、焼土塊を2箇所確認できた。**遺物・時期** 遺物の出土は見られなかった。重複遺構もないため時期は不明である。

95区2号炉

位置 調査区中央南西よりで調査された。R-24グリッドに位置する。4号住居が北に近接する。**規模** 約80×30cm程の範囲で焼土が散布していた。下位に小ピット2基が確認されたが、焼土との関連は判然としない。**遺物・時期** 出土遺物もなく、重複する遺構もないため時期不明としたい。

95区3号炉

位置 調査区中央南東よりのO・P-24グリッドに位置する。P106と重複し3号住居跡が東に近接する。**規模** 不整形円状の掘り込みを持ち、上層に焼土がまとまって検出された。掘り込みは約70×50×10cmを測り、浅い皿状の土坑である。周辺には小ピットが多く確認されるため、住居跡炉としての位置付けを試みた。ピット規模・配置ともに妥当な例が無く、単独の焼土一炉と位置付けた。**遺物** 中期土器細片が出土し3点を図示した。**時期** 重複するP106は時期不詳である。出土遺物は中期であるが、細片のため有機的な出土とは思われない。時期は不明である。

95区4号炉

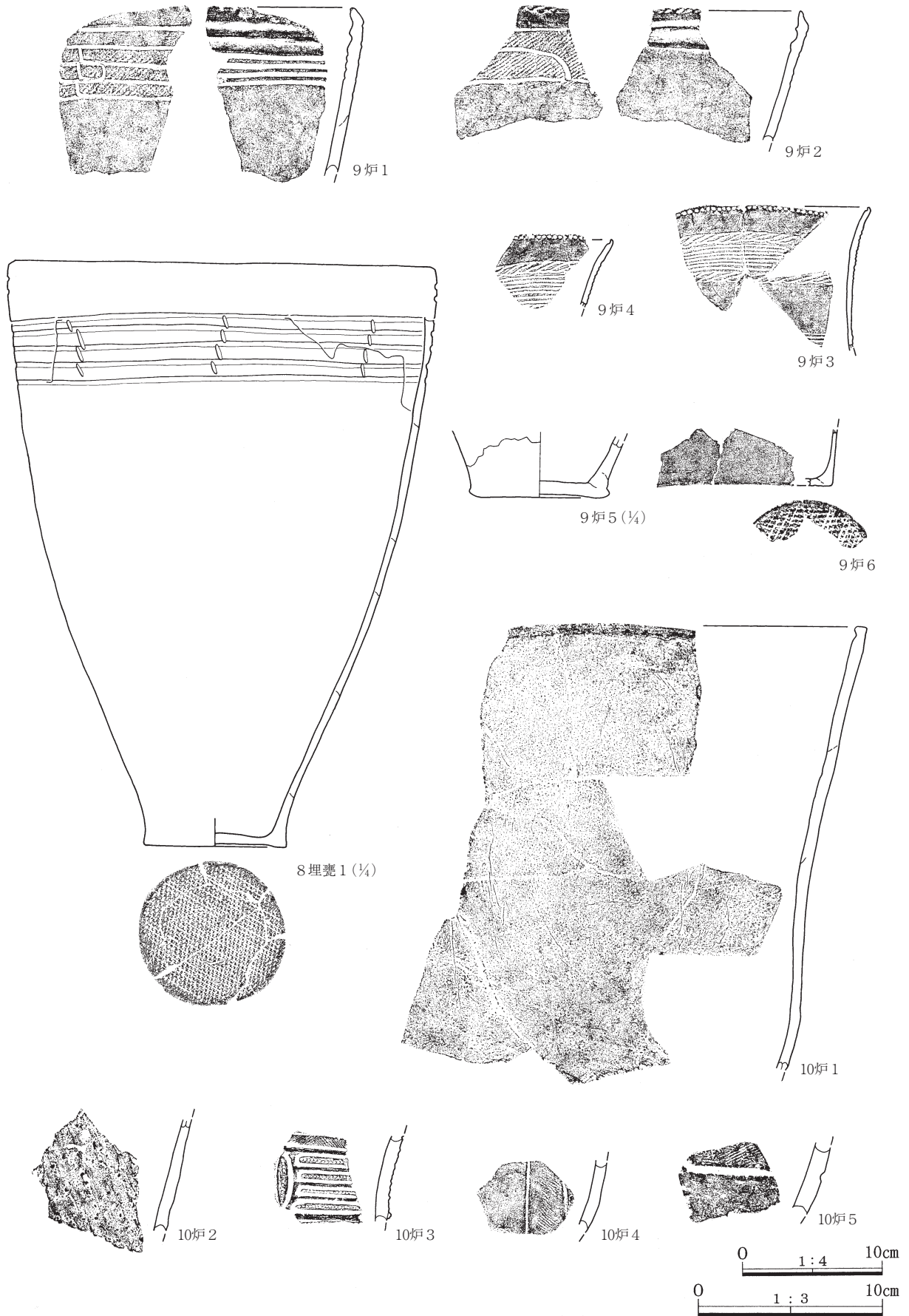
位置 調査区中央東端のM-24グリッドで調査された。調査区域外にかかるため、僅かに拡張調査を果たした炉跡である。周辺の土坑・ピットとの整合性はなく、単独の炉跡として調査した。**規模** 長軸75cm、短軸36cm程の不整形範囲に焼土がまとまる。下位には極めて浅い掘り込みを持つ。**遺物・時期** 出土遺物も・明瞭な重複遺構も無いため時期は不明である。

95区5号炉

位置 調査区南西側で10号住居東壁に接して検出された。Q・R-23に位置する。95区1号建物跡内にあり、2号建物跡北に接する。遺構密度の高い箇所である。本炉も63号土坑の上に乗る重複関係を見せる。また1号建物跡内にあることから、建物内の施設としての位置付けも可能である。**規模** 長軸約132×短軸93cmの不整形円状を呈し、深さ23cm程の浅い皿状の断面形である。焼土は上層にまとまる。**遺物・時期** 埋土中より中期土器片が出土する。細片のため時期特定には至らないが、周辺の遺構は加曾利EⅡ～EⅣ段階を主体とする。本炉跡も中期後葉としたい。

95区6号炉

位置 調査区南西側で10号住居西壁に接して調査された。S-23グリッドに位置する。123・124号ピットと重



第97図 埋甕・炉跡出土遺物 (1)

複する他、1号建物跡内に位置する。建物内施設としての位置付けも可能である。**規模** 焼土範囲は、約93×58cmの不整楕円状を呈する。10cm程度の極めて浅い土坑を掘り込みとするが、底面が強く焼土化していた。**遺物・時期** 出土遺物もなく、重複するピットも遺物を見ていない。時期不詳ではあるが、周辺遺構は中期後葉が多く、本炉跡も当段階における可能性が高い。

95区7号炉

位置 調査区南西で10号住東壁に接して調査された。R-22グリッドに位置し、61号土坑や64号土坑と重複する。また1号建物跡や2号建物跡内に重なる位置であり、両建物跡に帰属する可能性もあるが判然としない。**規模** 長軸長90cm、短軸長50cm程の浅い楕円状土坑に焼土が塊状に堆積する。**遺物・時期** 中期土器細片を数点出土するが、有機的な出土ではなく、時期の特定には至らないが、周辺遺構の在り方から中期後葉の可能性もある。

95区8号炉

位置 調査区南側のQ-21グリッドで調査された。65号土坑上層に焼土が堆積した状態で検出された。9号住南西壁に接し、34号土坑も近接するが、周辺のピット・土坑とも柱穴配置・規模ではなく、住居跡を示唆する炉跡ではない。**規模** 長軸約90cm、短軸約58cm程の楕円状の範囲に焼土が集まる。**遺物・時期** 遺物の出土はなく、34号土坑も中期土器片と思われるが無文の口縁部である。時期不明としたい。

95区9号炉

位置 調査区東南側のN-23グリッドに位置する。単独の検出で、周辺に50～53号ピットがあるが、柱穴配置ではなく、住居跡に伴う例ではない。**規模** 径約20～30cmの不整形範囲で焼土が散布する。小規模な炉跡である。遺物・時期 遺物の出土はなく、時期不明である。

95区10号炉

位置 調査区南端の調査区壁に接して検出された。Q-19グリッドに位置し、周辺は南斜面地形の著しい箇所であり、近接する遺構は希薄である。単独の検出となった。**規模** 調査区壁に掛かるため半截調査に留まる。径60cm前後の不整円形を呈するのであろうか。深さは約30cmを測る土坑上層に焼土が集まる。**遺物・時期** 出土遺物はなく、時期不明である。

95区11号炉

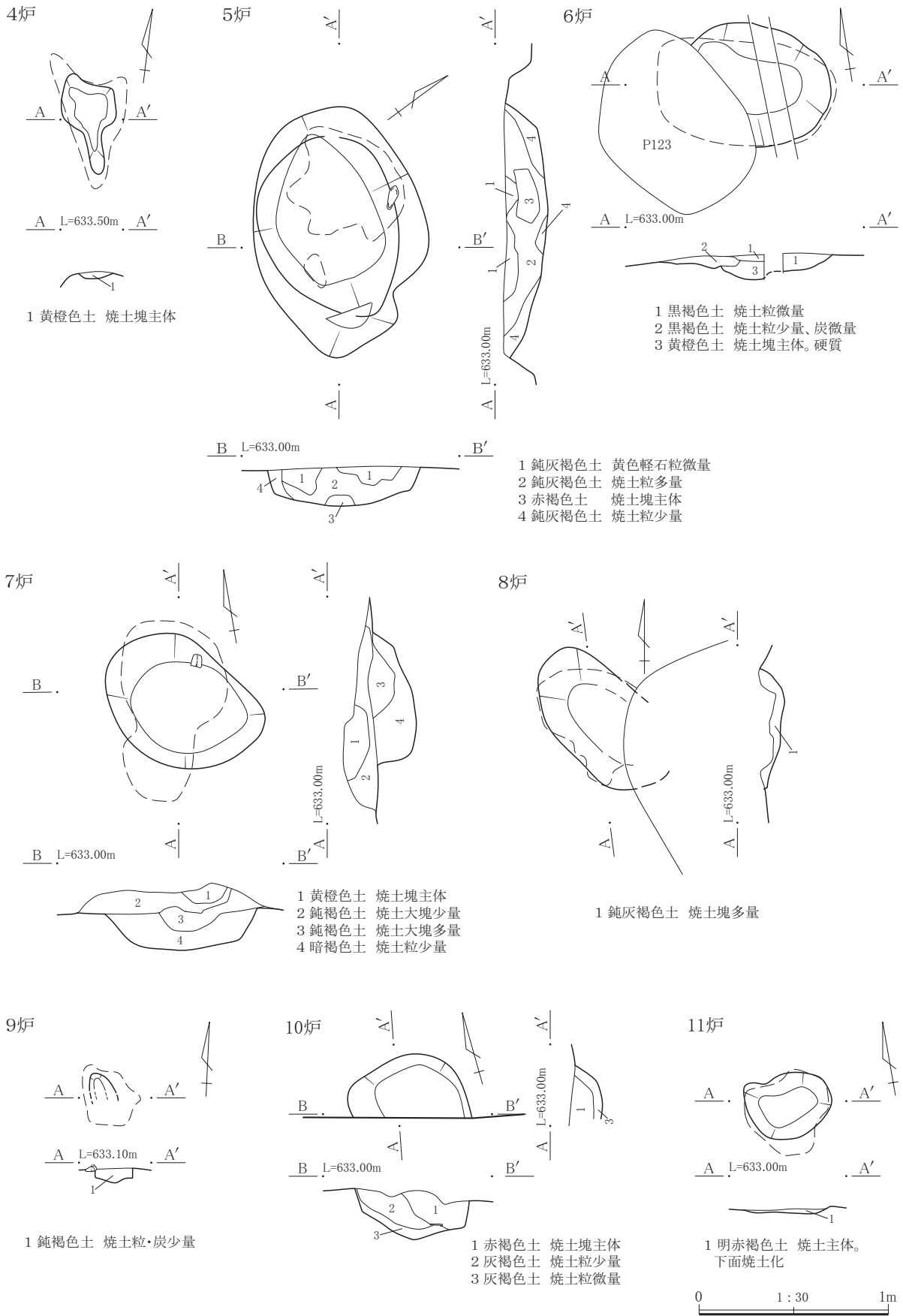
位置 調査区南西端のS-20グリッドに位置する。北西に72号土坑が近接するが、単独の検出である。**規模** 約42×36cmの不整楕円形土坑に焼土が堆積する。極めて浅い土坑で、焼土の堆積は上層に塊状にまとまる。**遺物・時期** 出土土器も見られず、時期不明である。

95区12号炉

位置 調査区南西端のS-19グリッドに位置する。79号土坑上層に乗る。**規模** 径10cm程度の極めて狭い範囲に焼土がまとまる。塊状の確認といってもよい。**遺物・時期** 遺物の出土は見られない。79号土坑からも出土遺物は無く、時期不明である。

95区13号炉

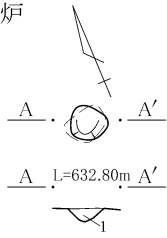
位置 調査区南西端のS-20グリッドに位置する。77号土坑と重複し、北西には75号土坑や76号土坑が近接する。しかし、土坑、ピットの配列は住居跡柱穴を示唆するものではなかった。本炉跡東には自然石が数個出土しており、本炉跡を囲む形態であったことから、石囲い炉としての位置付けを試みたが、掘り込みも無く、石も小型で被熱痕跡も見られなかった。**規模** 径40cm前後の不整円形を呈する。掘り込みも10cm程度で、小規模な炉跡である。焼土も上層に広く散布するが薄い。**遺物・時期** 東側で出土した石に多孔石（13



第98図 炉跡 (2)

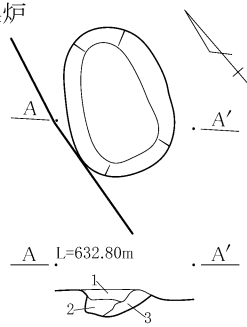
第3章 検出された遺構と遺物

12炉



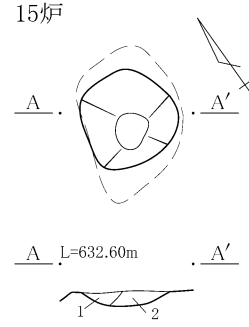
1 黒褐色土 焼土粒多量

14炉



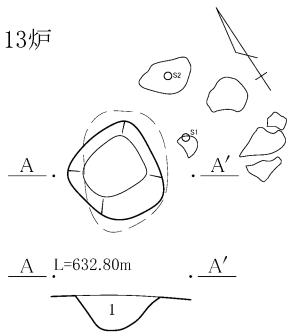
1 黒褐色土 焼土粒・黄色軽石粒微量
2 黒褐色土 焼土粒多量、炭少量
3 黒褐色土 焼土粒多量、黄色軽石粒微量

15炉



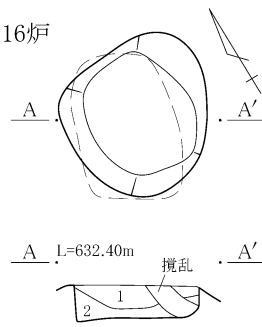
1 黒褐色土 やや粘質。焼土粒少量
2 黒褐色土 焼土多量

13炉



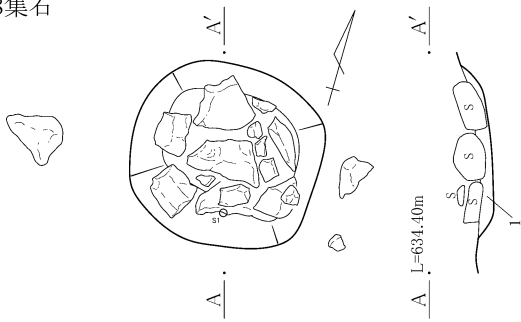
1 褐灰色土 焼土粒多量

16炉



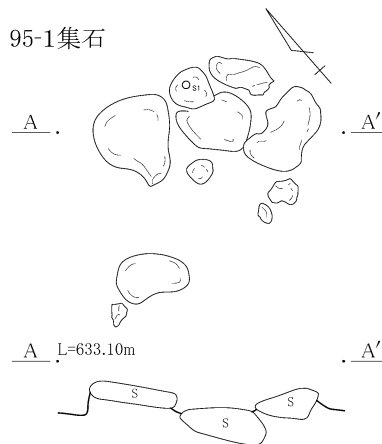
1 黒褐色土 焼土小塊多量、炭少量
2 黒褐色土 均質。黄色軽石粒微量

5-8集石



1 黒褐色土 白色軽石粒・ローム粒少量

95-1集石



0 1 : 30 1m

第99図 炉跡(3)・集石

炉S1)が混在していた。土器の出土はなく、時期は不明である。

95区14号炉

位置 調査区南西端のT-20グリッドで調査された。16号炉と接しており、両者の関連が窺われる。周辺には72号土坑や73号土坑があるが、柱穴配置ではなく住居跡として確定できない。**規模** 約65×43cmの不整楕円状を呈する。深さは浅く12cmを測り底面は浅い皿状となる。焼土は上層にまとまって検出された。**遺物・時期** 出土遺物はなく、時期不明である。

95区15号炉

位置 調査区南西端のT-21グリッドで調査された。単独の検出であり、周辺の遺構も希薄である。**規模** 約60×40cmの範囲に焼土がまとまる。塊に小ピットがあるものの浅く、焼土も薄い堆積である。**遺物・時期** 出土遺物はなく、時期不明である。

95区16号炉

位置 調査区南西端のT-20グリッドで調査された。14号炉と接して検出された。**規模** 径約65×58cmの不整円形を呈する土坑上層に焼土が堆積する。**遺物・時期** 出土遺物はなく、時期不明である。

集石遺構

5区8号集石

位置 調査区北端のQ-6グリッドに位置する。調査区境を北に拡張して調査した。環状集落の中央部分にあたり、遺構密度は少ないが、718号土坑や732号土坑が南に近接する。**規模** 径約72cm程の円形土坑である。深さは浅く約10cm程である。**集石** ローム面においての遺構確認時に集石が確認され、集石遺構として位置付けた。20～30cm大の自然石を主体に土坑底面に集める。角礫が多く敷石や意図的な配置としては捉えられなかった。**遺物・時期** 集石内に多孔石(5-8集-1)が混在していた。土器の出土は無く、時期は不明である。

95区1号集石

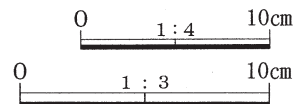
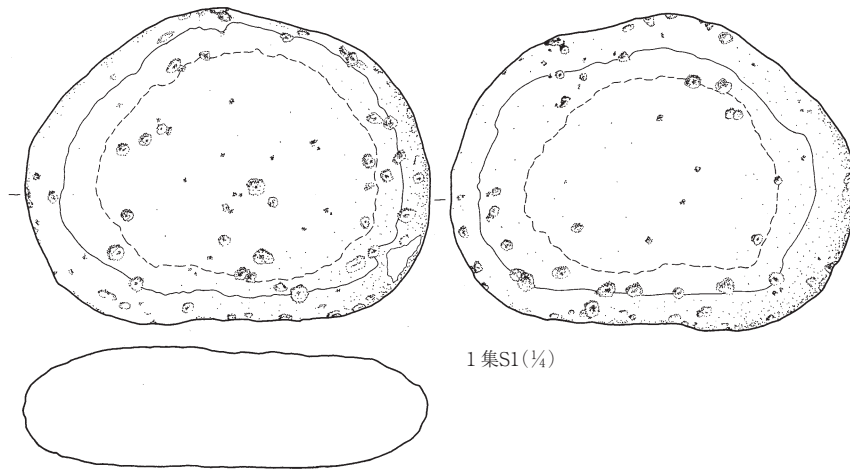
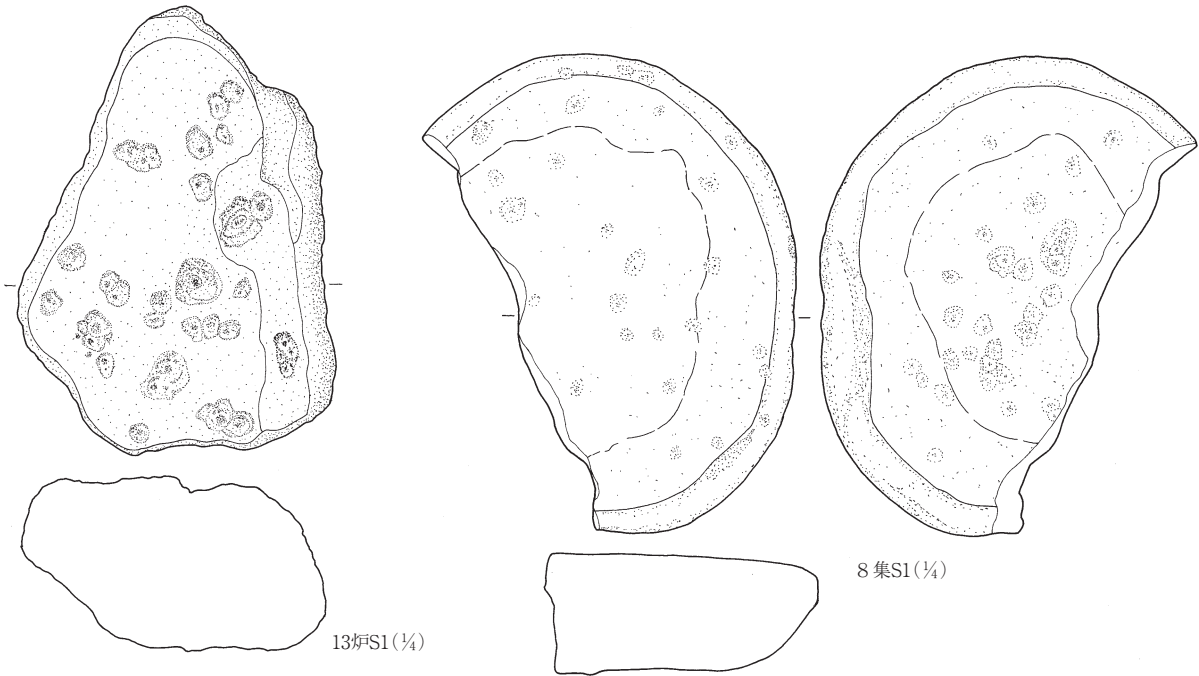
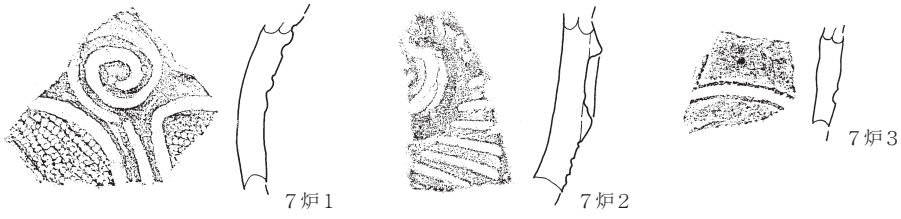
位置 調査区西側のS-24グリッドに位置する。95区4号住居跡の南西にあたり、周辺は土坑・ピットが群在する。重複遺構としては、60号土坑が西に重なるが本集石に切られる新旧を示す。**規模** 長軸約90cm程の楕円状土坑である深さは約20cmを測る。**集石** 上層に集石が集まる。20～40cm大の扁平な自然石を主体であるが、意図的な埋置や敷石ではなく、土坑内への廃棄・流入といった様相を示す。**遺物・時期** 集石内に多孔石(95-1集-1)を混在する。土器の出土は無く、時期は不明である。なお、本集石遺構は56号土坑としても遺物を取り上げられ、石皿1点が土坑出土して掲載されている。編集の勝手である。

埋甕

5区8号埋甕

調査区北側のP-3グリッドに位置する。周辺は平坦面で、遺構密度が極めて高い箇所である。5区1号建物跡や9号炉、768号土坑・769号土坑などが密集する。本例も1号建物跡内で検出された。土器は、781号土坑の上層で出土したが土坑埋設土器ではなく、明らかな単独埋設土器である。その他の出土遺物もなく、僅かな掘り込みを持って埋設されていた。加曽利B1式の深鉢で正位に置かれていたが、口縁部を欠く。意図的な欠損とは捉え難い。いわゆる出入り口埋甕ではなく、単独埋設土器として捉えるべきであるが、1号建物跡や9号炉との関連も視野に入れておきたい。

第3章 検出された遺構と遺物



第100図 炉跡出土遺物 (2)

4. 土坑・ピット

平成14年度の長野原一本松遺跡の調査では多くの土坑を検出した。各区の総数を挙げると5区93基、95区53基、17区33基、18区23基、19区10基である。特に5区・95区は縄文時代中期集落跡の一部にあたり、竪穴住居跡の他に数多くの土坑・ピットからなる集落様相である。居住施設である竪穴住居跡に加えて建物跡や墓壙、あるいは貯蔵穴が多時期にわたり重複した姿である。調査は竪穴住居跡調査と共にこれら土坑・ピットを調査し、建物跡や墓壙などの抽出に努めた。さらに炉跡を中心にした住居跡推定のために土坑・ピット配列を検討する調査を進めた。このように、本遺跡で調査された縄文時代集落跡において、土坑は多くの属性を含み、その性格は多岐にわたる。

本項では、調査された土坑・ピット全てを取り上げず、特徴的な土坑・ピットを選び報告する。その他の土坑・ピットは第3表にあげた計測表を参考にさせていただきたい。

(遺物を出土した土坑・ピット)

5区

628号坑・678～680号坑 調査区北西境で調査された土坑で、628坑は磨石2点、678坑は磨石1点、679坑は磨石1点、中期土器片1点、680坑は軽石製の垂飾未製品を出土する。いずれも埋土中の出土であり、有機的な所産とは捉えられない。

711～716号坑・719号坑 調査第1面めの黒色土中で確認し得た土坑である。711～713坑は円形土坑で、711坑は堀之内2式に比定される土器片を見る。712坑は土器片（堀之内2式）と磨石1点、713坑は土器片（称名寺1式）1点と砥石1点の出土を見る。714坑は風倒木痕との重複の可能性がある。土器片2点（堀之内式）の出土を見た。715坑・716坑・719項は陥穴状土坑である。土器片（堀之内式）が出土するが、伴う例ではない。

721号坑 調査区東側で719号坑と重複して検出された打製石斧1点の出土を見る。

726号坑 陥穴状土坑である。堀之内2式の破片数点を出土する。調査区北東隅にある。

731号坑 集石土坑の一つである。集石の一つである多孔石を図示した。59号住東に近接する。

733号坑 58号住居跡内で重複する。円形で、掘り込みのしっかりした土坑であるが、剥片石器1点を図示するのみである。

740号坑 調査区北東端の浅い楕円状土坑である。底部の他、堀之内2式新段階の破片を図示した。

744号坑・746号坑・747号坑 陥穴状土坑で、土器片数点（堀之内2式）を出土するが、伴う例ではない。

749号坑 58号住西に接する円形土坑である。中期土器片（加曾利EⅡ）と凹み石・磨石を出土する。

754号坑 58号住北に重複する。楕円形状の土坑である。掘り込みもしっかりしており、北側に集石を伴う。土坑内より中期浅鉢破片1点が出土する。上位の集石から磨石3点を図示した。

761号坑 調査区北東の調査区境で716号坑と重複していた。埋土中より、堀之内式の破片数点を見た。

762号坑 1号建物跡南西隅の柱穴と重複している。不整円形の土坑で掘り込みもしっかりしている。坑底面に大型の自然石が置かれる。埋土中より堀之内2式の破片と磨石1点が出土する。

764号坑 ピット状の土坑で、磨石1点を出土する。60号住東で773坑と重複する。

765号坑 1号建物跡内で9号炉・10号炉に近接する。円形でしっかりした掘り込みである。上層より中層にまで、大型の自然石が集まる集石土坑であるが、半完形の堀之内2式と脚付き石皿が共伴する。

768号坑 1号建物跡西端に位置する。8号埋壘が近接する。円形でやや袋状の断面形を示す。大型の角礫

第3章 検出された遺構と遺物

が上層～下層にかけて集まる。土器片（堀之内2式）数点が埋土中より出土する。

775号坑 63号住北西で重複する。中位にやや括れがある楕円状の土坑で掘り込みもしっかりしている。土坑中央やや南側で、堀之内1式の大型深鉢の半欠品が底面より浮いた状態で出土している。

777号坑 小型の方形を呈する土坑。深くしっかりしている。土器片を見るが、堀之内式や加曾利EⅢ式が混在する。

778号坑 58号住P18と重複して調査された。小型の小土坑で中期土器細片を出土する。

779号坑 58号住西側で重複する。不整円形で深い掘り込みである。堀之内1式の細片を1点図示した。

780号坑 58号住中央で重複する。不整楕円形で浅い。称名寺式や堀之内式の破片が混在する。

782号坑 60号住北壁に接する。周辺は遺構が群在する。坑底面よりやや浮いた状態で、多孔石や打製石斧、土器片（堀之内2式新）数点を見る。

784号坑 1号建物跡南西隅柱穴と重複する。小型で不整形の平面形で浅い。堀之内式土器破片1点を見る。

786号坑 64号住中央で重複して調査された。円形で深さは90cmを超える。埋土中位より中期土器片がまとまった状態で出土する。また磨石1点を見る。

789号坑 65号住西側で800坑と重複する。堀之内式破片2点を出土する。土坑ながら柱痕を見る。

790号坑 調査区北側の9号炉下で検出された。大型の自然石とともに堀之内2式段階の深鉢体部上半の出土を見る。

141号ピット 調査区北東で58号住北で調査した。堀之内2式の口縁部小破片を出土する。

150号ピット 1号建物跡南辺を構成する柱穴である。堀之内2式新段階の小型深鉢が出土している。

162号ピット 1号建物跡南東隅の柱穴である。堀之内2式の小破片を出土する。

95区土坑

30～35号土坑 陥穴状土坑である。中期後葉～後期前葉の土器片、石器を出土するが混在と思われる。

36～38号土坑 調査区東端で重複状態で調査した。いずれも浅い皿状の断面形を呈する土坑3基である。中位の37号坑がやや深い。3基の埋土中より中期後葉～後期前葉の土器片が混在して出土している。

40号坑 調査区中央の65号住内で調査した。小型不整円形の土坑で柱痕状土層を見る。埋土下位より土器片（称名寺2式）を出土する。

44号坑 調査区中央やや南寄り検出された。径約1.3～1.5m程の不整円形を呈する。深さは約20cmでやや浅いが、壁の立ち上がりはしっかりしていた。坑底面より称名寺式に比定される深鉢1点と敲き石1点、扁平な自然石1点の出土を見る。

47号坑 調査区東端で単独で検出した円形土坑である。中期土器突起片、後期土器突起片を見る。混在であろう。

48号坑 調査区東南にある95区1号建物跡北東隅の柱穴である。柱痕が認められる。中期土器片2点を図示した。

49号坑 調査区南東寄りで調査した。不整円形を呈し、掘り込みは良好。堀之内1式破片2点を図示した。

51号坑 調査区南東隅で調査した。1.9×0.8m程の方形を呈する。長軸を南北に向ける。土坑底面の南壁寄りに大型の口縁部破片（称名寺式新）を置く。埋土中よりも体部破片が出土している。

52号坑 調査区南の8号住東に近接する。円形の土坑である。口縁部細片（堀之内2式）が出土する。

53号坑 陥穴状土坑である。調査区南東隅にある。中期浅鉢口縁部破片を出土した。

56号坑 集石遺構として位置付けている。多孔石1点の他、完形の石皿1点を追加する。

61号坑 調査区南西で10号住南東部に重複する。他に7号炉や64号坑と重複する。大型の土坑で坑底面も平坦である。中期後葉の土器片が比較的まとまる。

63号坑 調査区南西で10号住西に接して調査された。5号炉の直下にあたる。上層は5号炉としての焼土がまとまる。埋土中より中期土器細片が出土している。

64号坑 61坑を切る新旧で調査された。楕円状の平面形であろうか。後期土器片（堀之内1式）が出土している。

65号坑 調査区南東の9号住南に接する。8号炉下に位置する。磨石1点が出土する。

67号坑 調査区南西で単独で検出された円形土坑である。南壁際で中期浅鉢を出土している。

98号ピット 1号建物跡南東隅の柱穴である。中期後葉末の深鉢片を出土する。

109号ピット 1号建物跡北辺の柱穴である。中期後葉の深鉢片を出土する。

111号ピット 1号建物跡南西隅の柱穴である。中期後葉の深鉢片を出土する。大型の破片で注意を要する。

119号ピット 調査区南東隅に位置する。中期後葉の破片、打製石斧・石鎌を図示した。

122号ピット 1号建物跡北西隅の柱穴である。中期中葉末の大型深鉢をほぼ完形の状態で出土する。

123号ピット 10号住西で6号炉や124号ピットと重複して検出された。中期土器細片を出土した。

136号ピット 2号建物跡北西隅の柱穴である。中期深鉢口縁部破片1点を図示した。

陥穴状土坑

本遺跡では、多くの陥穴状土坑が調査されている。平成14年度の調査でも、総数27基の陥穴状土坑を調査した。殆どが長円形～長楕円形を呈し、深さは1m以上ある例が多い。いわゆる狩猟－ワナ猟に伴う用途を充てるが、対象動物により設置箇所、設置方位に差が認められるという。平成14年度調査では、遺跡全体の陥穴状土坑の傾向は把握できないが、例えば、95区では平坦面にも関わらず、南北方位の長軸を持たせて東西に設置する傾向が見られる。5区においては、南緩斜面に沿った長軸を南北に持つ例の他に長軸を東西に設ける例（30・31号坑）が見受けられる。本遺跡の高標高部である17～19区においても、陥穴状土坑は設置されており、特に18区では16基を調査している。いずれも傾斜を意識し、対象動物の導線に併せた設営と捉えられた。

また、近年の研究の進展に伴い、陥穴状土坑の帰属時期を一概に縄文時代とはせず、平安時代以降－中世に比定する傾向がある。本来ならば、本書においても陥穴状土坑の時期を特定し、分別した掲載をするべきであるが、既報告・未報告の陥穴状土坑との解釈差が生じる恐れがある。ここでは全ての陥穴状土坑を縄文時代の所産として掲載するが、本遺跡が検出した陥穴状土坑全てが揃った段階で、抽出分類を行うべきである。本項では、各区で陥穴状土坑とした土坑を列举し、今後の基礎資料としたい。

5区 716号坑、717号坑、719号坑、726号坑、744号坑、745号坑、746号坑、747号坑

95区 30号坑、31号坑、32号坑、33号坑、34号坑、35号坑、50号坑、53号坑

17区 1号坑、3号坑、4号坑、11号坑

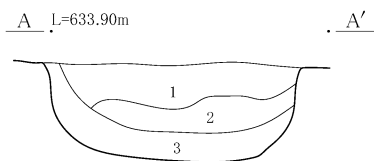
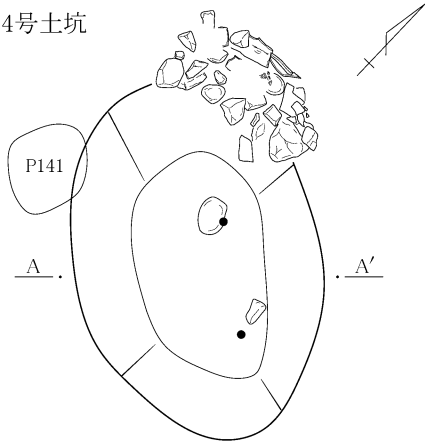
18区 1号坑、5号坑、6号坑、7号坑、8号坑、9号坑、10号坑、11号坑、12号坑、13号坑、14号坑、
15号坑、16号坑、17号坑、18号坑、20号坑

19区 4号坑

このうち、18区で調査した陥穴状土坑は坑底面形状が溝状となる。この形態を縄文時代の所産とし、他の底面形状が方形に近い例を中世とする解釈もある。

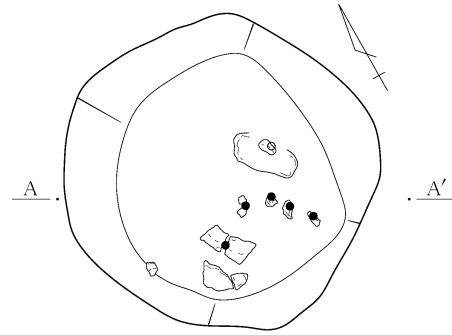
第3章 検出された遺構と遺物

754号土坑

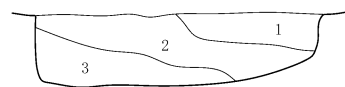


- 754坑
 1 黒褐色土 褐色粒微量・ローム小塊少量
 2 黒褐色土 褐色粒微量・ローム大塊少量
 3 黒褐色土 褐色粒微量

762号土坑

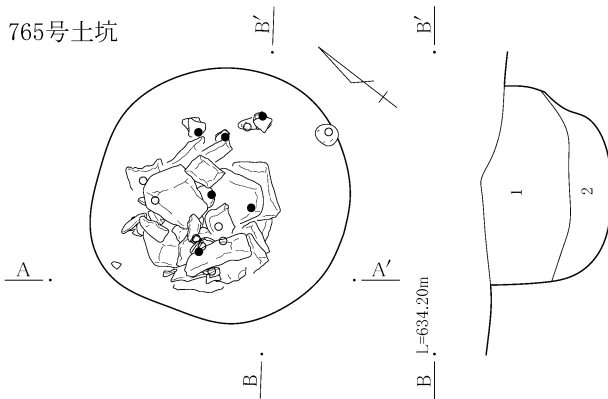


A L=633.90m A'

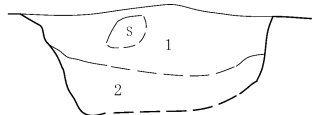


- 762坑
 1 鈍灰褐色土 褐色粒少量・YPK微量
 2 黒褐色土 褐色粒少量・YPK微量
 3 黒色土 ローム塊少量

765号土坑

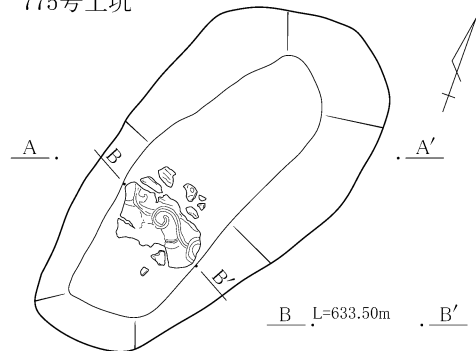


A L=634.20m A'

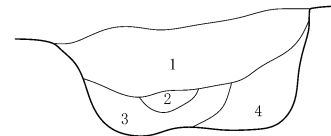


- 765坑
 1 黒色土 均質 褐色粒微量
 2 オリーブ褐色土 やや粘質

775号土坑



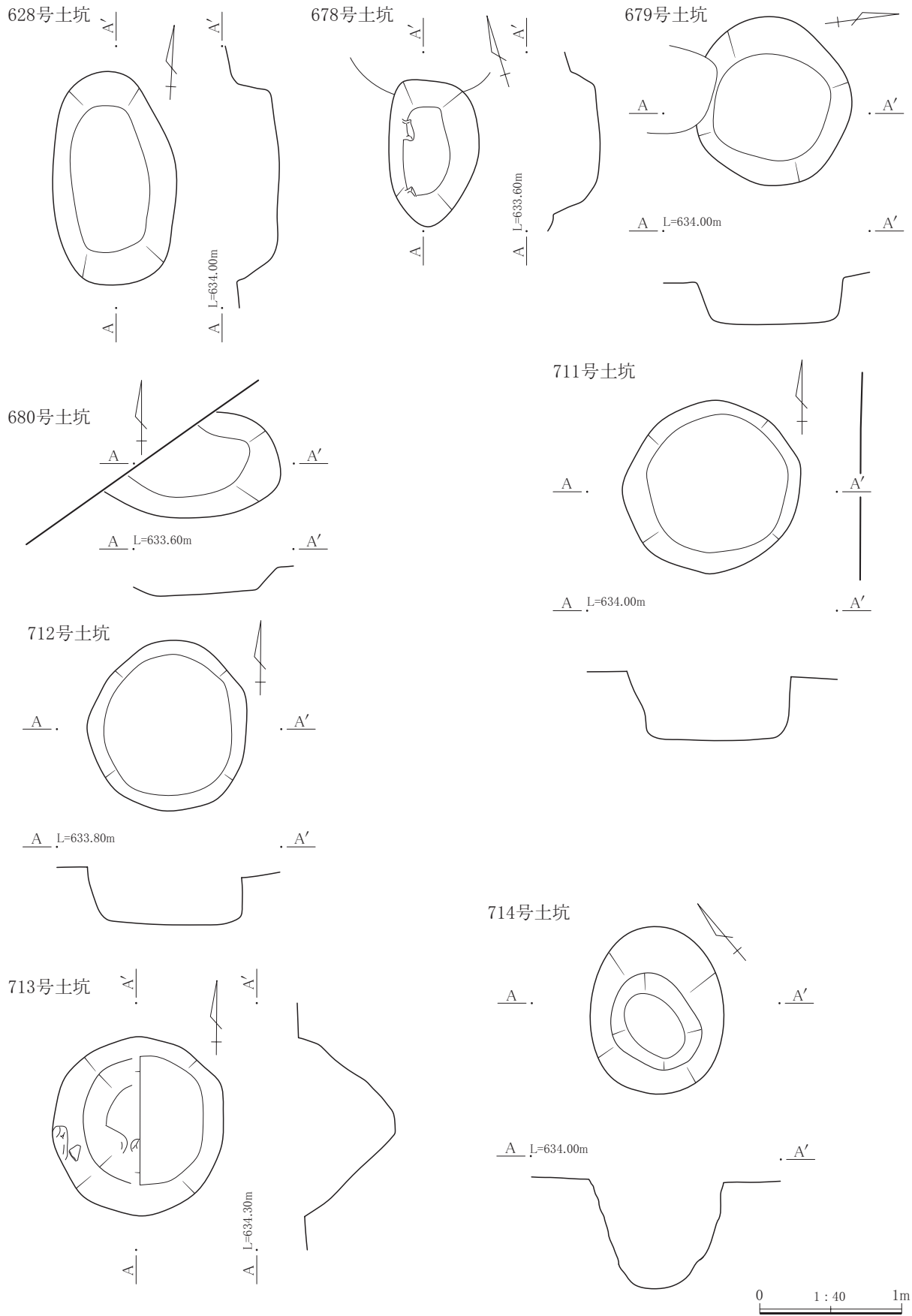
A L=633.90m A'



- 775坑
 1 鈍灰褐色土 褐色粒微量・ローム大塊少量
 2 鈍灰褐色土 褐色粒・ローム小塊少量
 3 鈍灰褐色土 褐色粒微量・ローム大塊多量
 4 鈍灰褐色土 褐色粒微量・ローム大塊少量

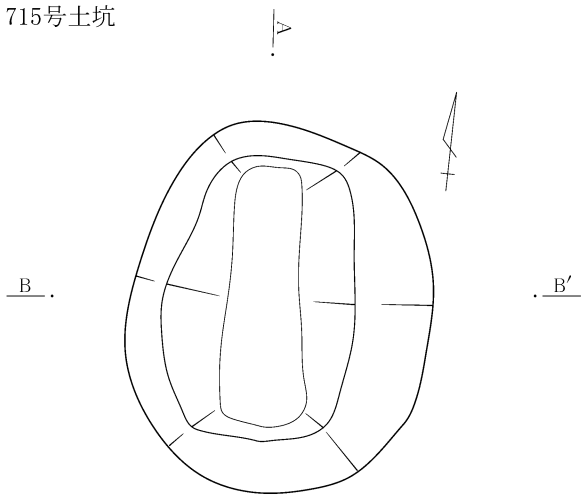
0 1:30 1m

第101図 5区土坑(1)

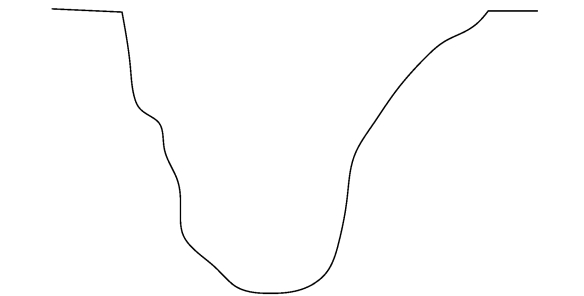


第102図 5区土坑(2)

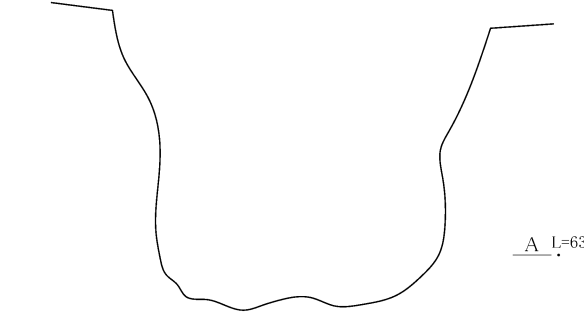
715号土坑



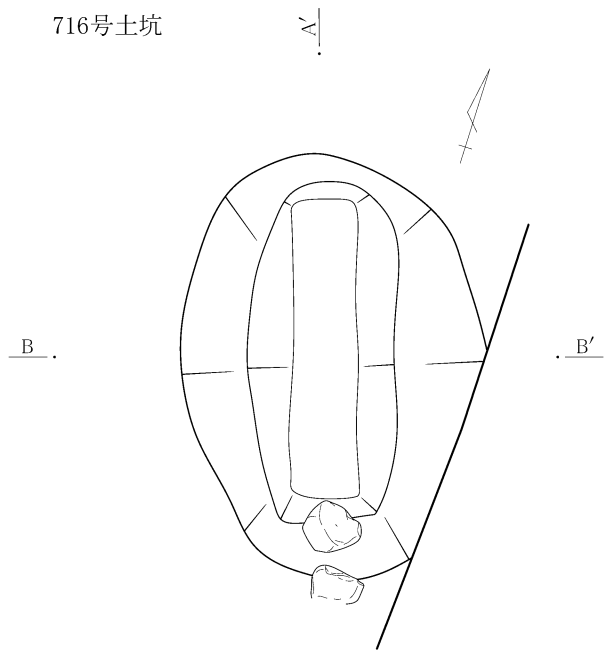
B L=634.00m



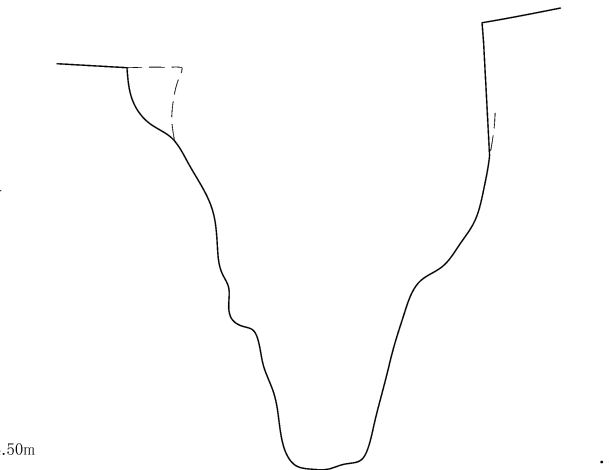
A L=634.00m



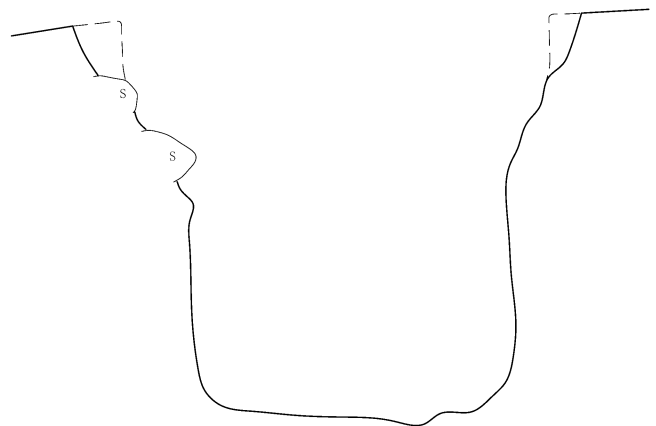
716号土坑



B L=634.50m

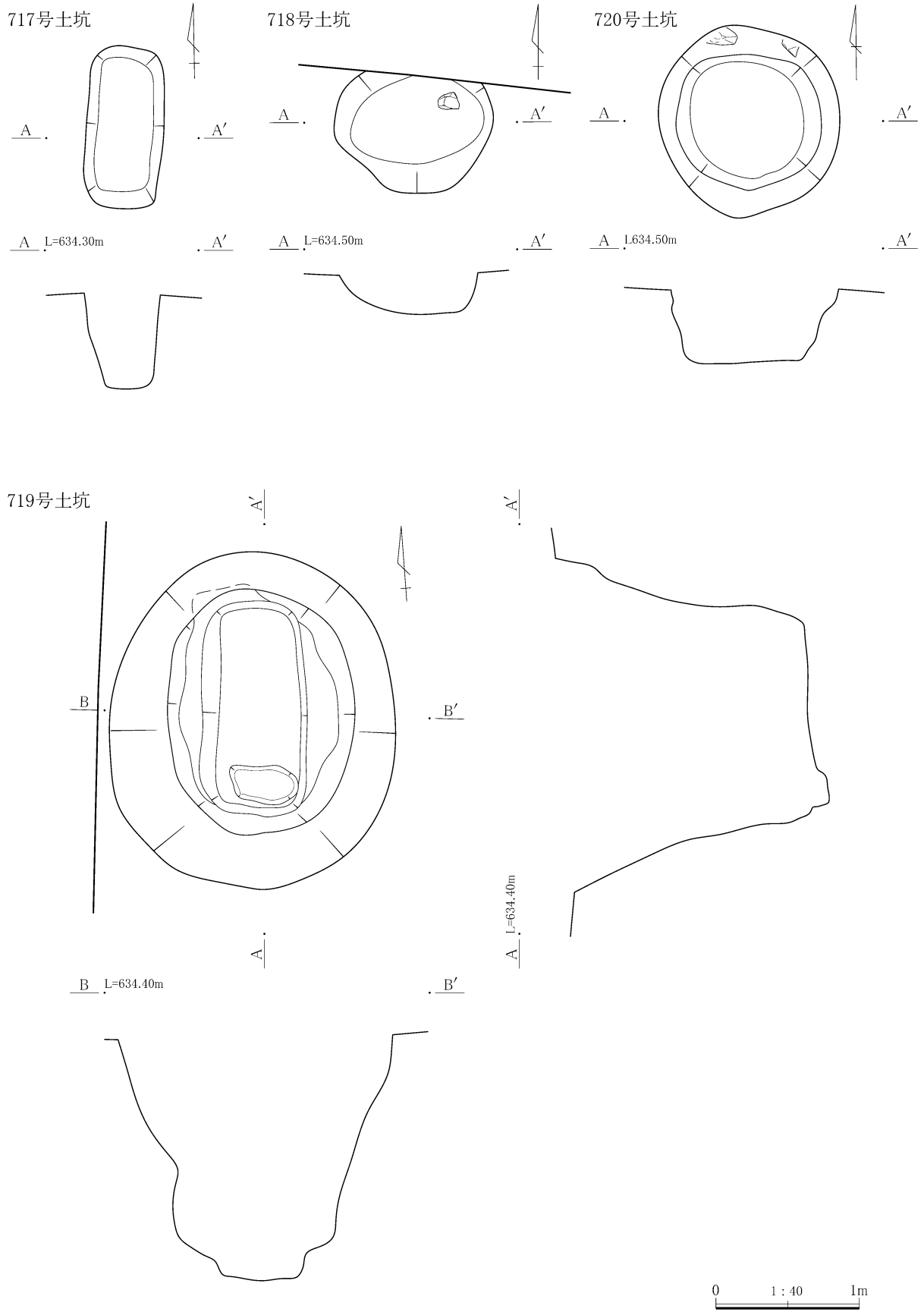


A L=634.50m



0 1:40 1m

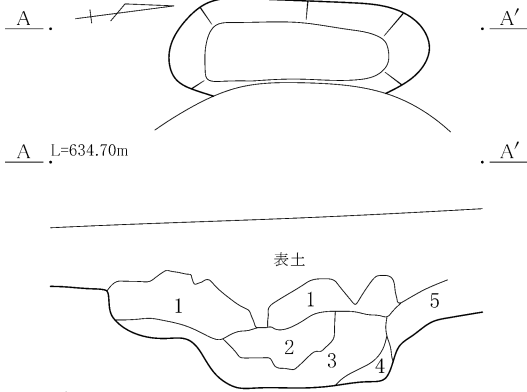
第103図 5区土坑(3)



第104図 5区土坑(4)

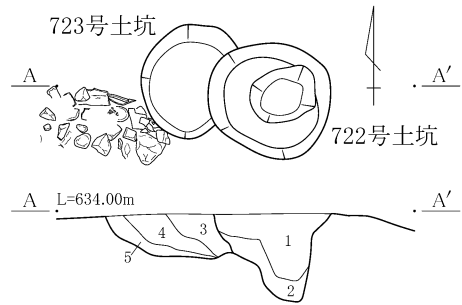
第3章 検出された遺構と遺物

721号土坑



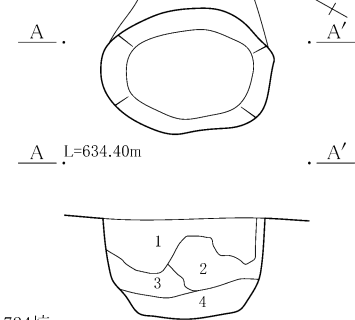
- 721坑
- 1 暗褐色土 YPK微量・小礫・黒褐色土塊少量
 - 2 オリーブ褐色土 YPK・黒褐色土塊少量
 - 3 オリーブ褐色土 YPK・黒褐色土塊少量
 - 4 鈍黄褐色土 ローム粒少量
 - 5 黄褐色土 ローム塊主体

723号土坑



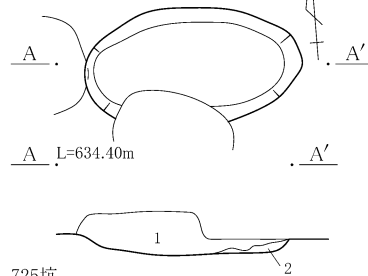
- 722・723坑
- 1 黒色土 YPK微量 均質
 - 2 黒色土 黄色粒少量
 - 3 黒褐色土 ローム小塊少量
 - 4 黒褐色土 ローム大塊
 - 5 黒褐色土 黄色粒少量

724号土坑



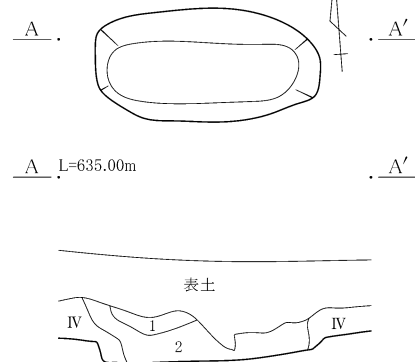
- 724坑
- 1 オリーブ褐色土 YPK少量 黒褐色土小塊少量
 - 2 オリーブ褐色土 YPK少量 ローム大塊少量
 - 3 オリーブ褐色土 YPK少量 ローム小塊少量
 - 4 黒褐色土 YPK少量 ローム小塊少量

725号土坑



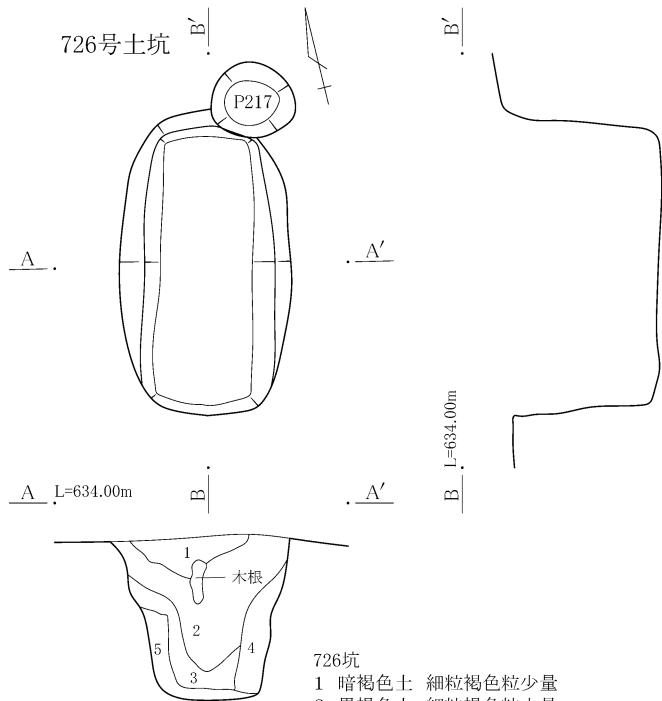
- 725坑
- 1 黒褐色土 ローム粒微量 炭微量
 - 2 鈍黄褐色土 ローム塊・黒褐色土塊多量

727号土坑



- 727坑
- 1 黒褐色土 ローム大塊(攪乱か)
 - 2 黒褐色土 YPK微量 II~IV主体

726号土坑

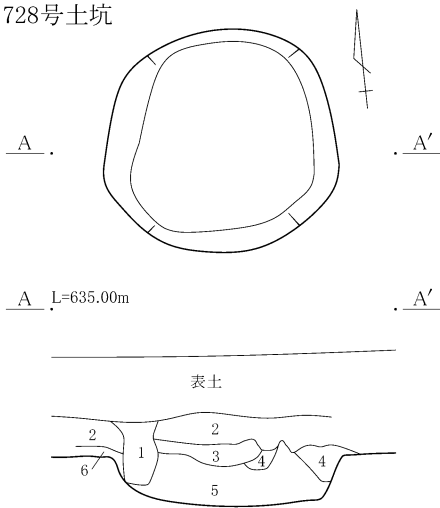


- 726坑
- 1 暗褐色土 細粒褐色粒少量
 - 2 黒褐色土 細粒褐色粒少量
 - 3 黒褐色土 ローム大塊多量
 - 4 黒褐色土 ローム小塊少量
 - 5 黒褐色土 ローム小塊少量

0 1:40 1m

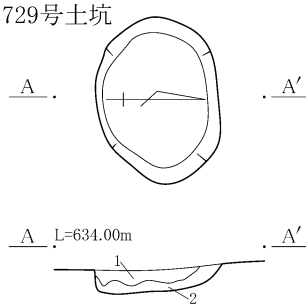
第105図 5区土坑(5)

728号土坑



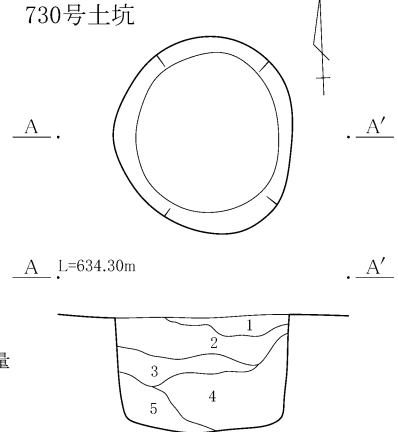
- 728坑
 1 黒色土 白色軽石微量
 2 黒褐色土 ローム粒多量・黒褐色土塊少量
 3 暗褐色土 ローム粒・黒褐色土塊少量 黄色軽石微量
 4 黒褐色土 ローム細粒少量
 5 黒褐色土 ローム粒少量 黄色軽石微量
 6 暗褐色土 ローム粒少量・黄色軽石少量

729号土坑



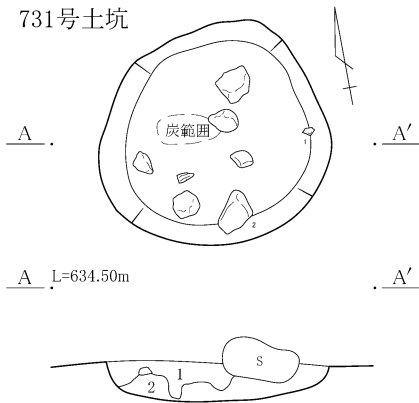
- 729坑
 1 黒褐色土 ローム粒少量・YPK微量
 2 暗褐色土 ローム細粒・黒褐色土塊少量

730号土坑



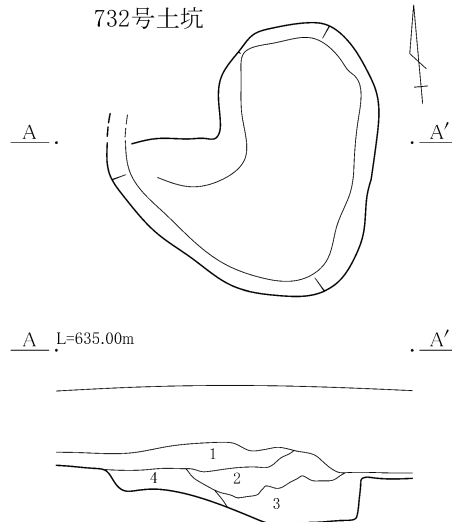
- 730坑
 1 オリーブ褐色土 YPK・白色粒微量
 2 オリーブ褐色土 YPK・白色粒微量・ローム塊少量
 3 オリーブ褐色土 ローム小塊・黒褐色土大塊少量
 4 オリーブ褐色土 YPK微量・ローム小塊少量
 5 黒褐色土 ローム小塊少量

731号土坑



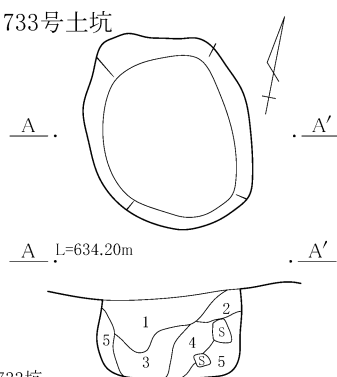
- 731坑
 1 暗褐色土 炭少量
 2 暗褐色土 褐色粒少量・YPK微量

732号土坑



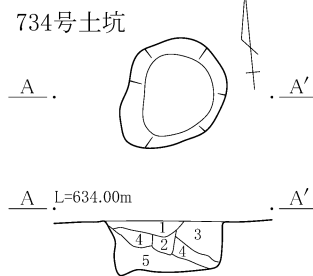
- 732坑
 1 オリーブ褐色土 YPK微量
 2 暗褐色土 YPK微量
 3 暗褐色土 YPK・褐色粒少量
 4 黄褐色土 ローム塊多量

733号土坑



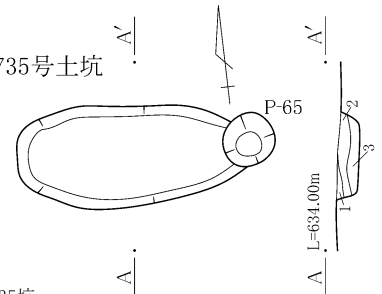
- 733坑
 1 黒褐色土 ローム粒少量・炭・ローム塊微量
 2 暗褐色土 ローム粒少量・炭微量
 3 黒褐色土 ローム塊・炭微量
 4 黒褐色土 ローム粒少量・炭微量
 5 暗褐色土 ローム塊多量・炭微量

734号土坑

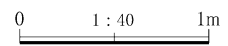


- 734坑
 1 暗褐色土 褐色粒少量
 2 暗褐色土 ローム小塊少量
 3 暗褐色土 ローム小塊少量
 4 暗褐色土 ローム小塊少量
 5 黒褐色土 ローム小塊少量

735号土坑



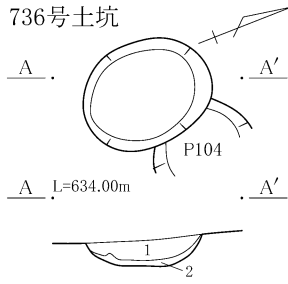
- 735坑
 1 黒褐色土 ローム粒・黄色軽石微量
 2 黒褐色土 ローム粒微量・黄色軽石少量
 3 黒褐色土 ローム粒・黄色軽石少量



第106図 5区土坑(6)

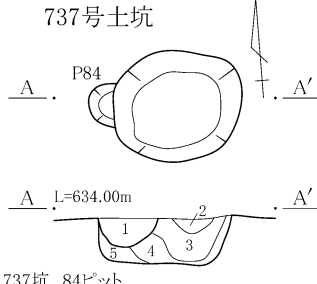
第3章 検出された遺構と遺物

736号土坑



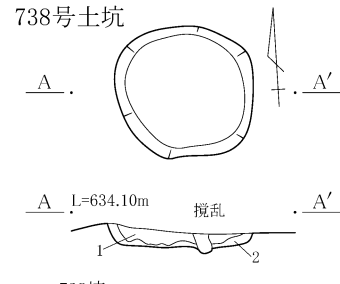
- 736坑
1 黒褐色土 ローム粒微量
2 黒褐色土 ローム塊多量

737号土坑



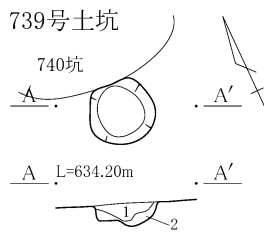
- 737坑 84ピット
1 黒褐色土 ローム粒微量
2 黒褐色土 ローム粒少量
3 黒褐色土 ローム塊少量
4 黒褐色土 ローム塊多量
5 黄褐色土 黒褐色土塊多量

738号土坑



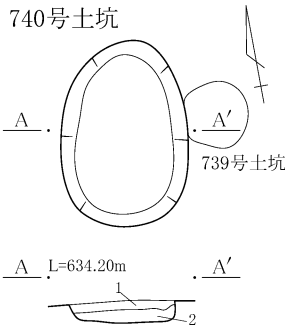
- 738坑
1 黒褐色土 ローム粒微量
2 黒褐色土 ローム塊多量

739号土坑



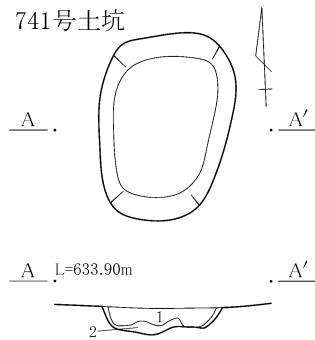
- 739坑
1 暗褐色土 褐色粒微量
2 暗褐色土 ローム小塊少量

740号土坑



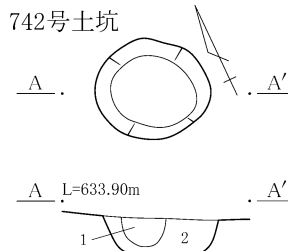
- 740坑
1 黒褐色土 ローム粒微量
2 黒褐色土 ローム塊多量

741号土坑



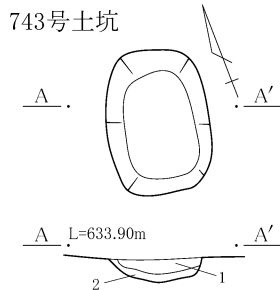
- 741坑
1 黒褐色土 ローム粒微量・黄色軽石少量
2 黒褐色土 ローム細粒多量・黄色軽石微量

742号土坑



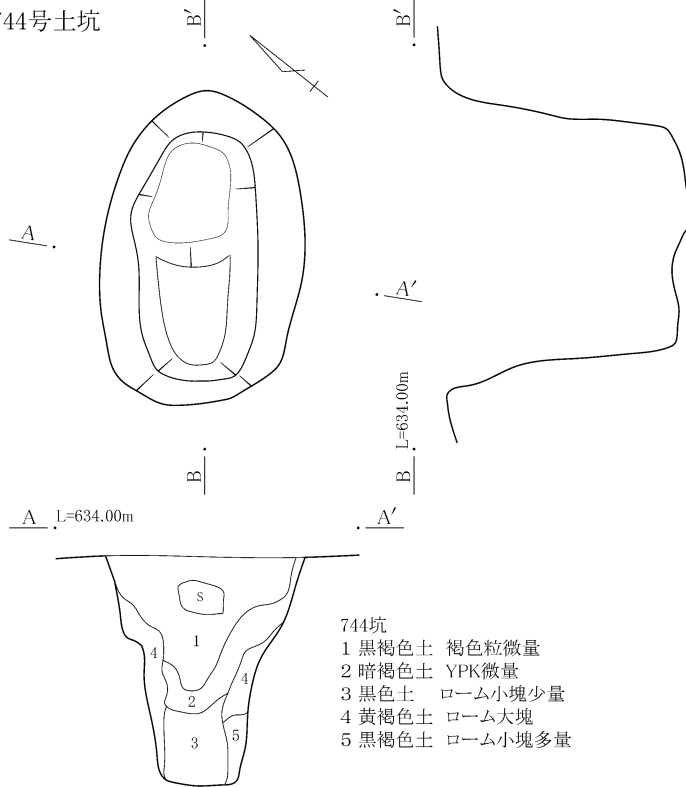
- 742坑
1 黒褐色土 ローム粒多量・炭・黄色軽石微量
2 黒褐色土 ローム粒・黄色軽石少量・炭微量

743号土坑



- 743坑
1 黒褐色土 ローム粒微量 黄色軽石少量
2 黒褐色土 ローム細粒と黒褐色土塊少量 黄色軽石微量

744号土坑

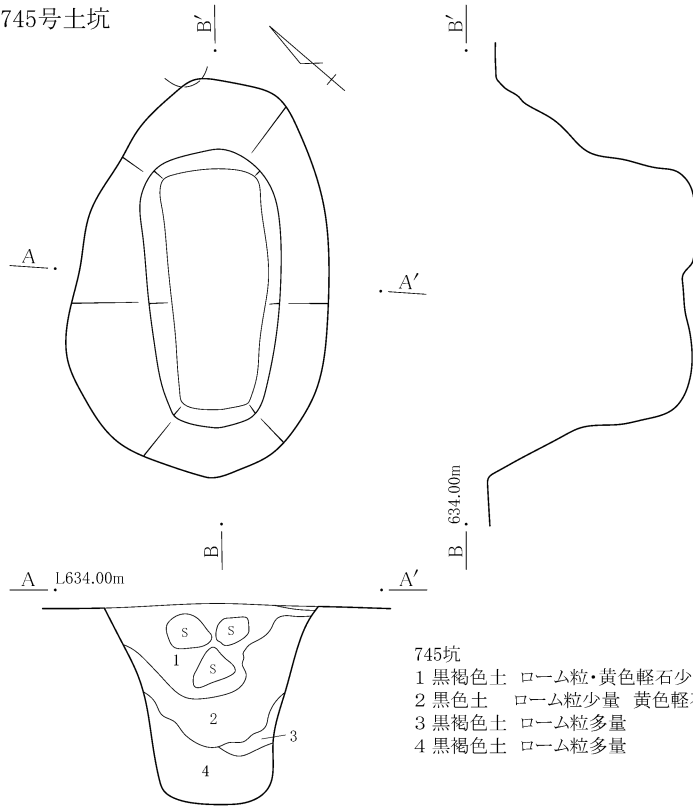


- 744坑
1 黒褐色土 褐色粒微量
2 暗褐色土 YPK微量
3 黒色土 ローム小塊少量
4 黄褐色土 ローム大塊
5 黒褐色土 ローム小塊多量

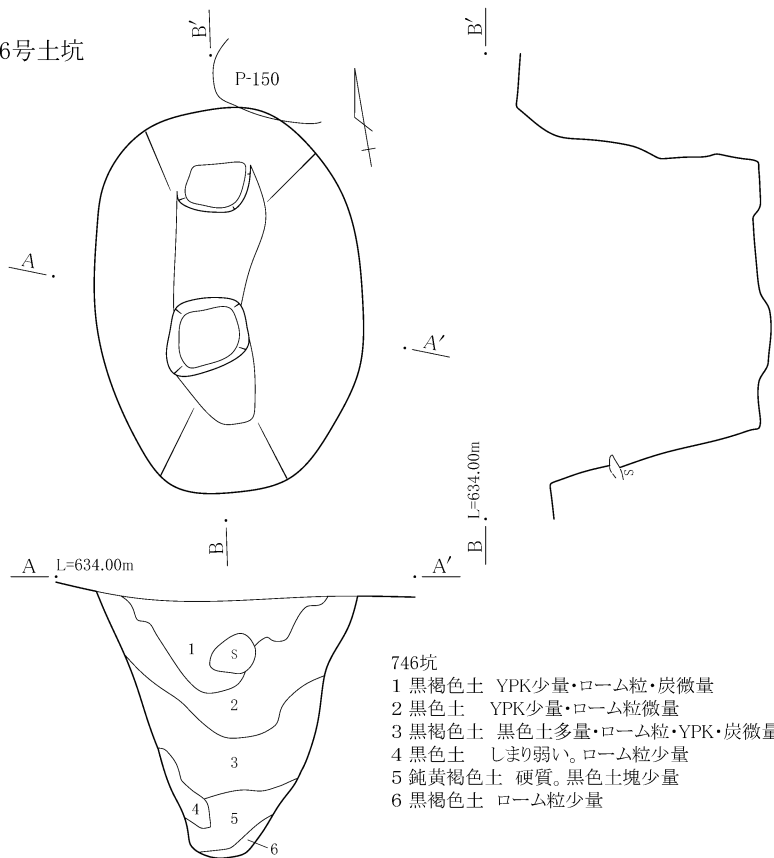
0 1:40 1m

第107図 5区土坑(7)

745号土坑

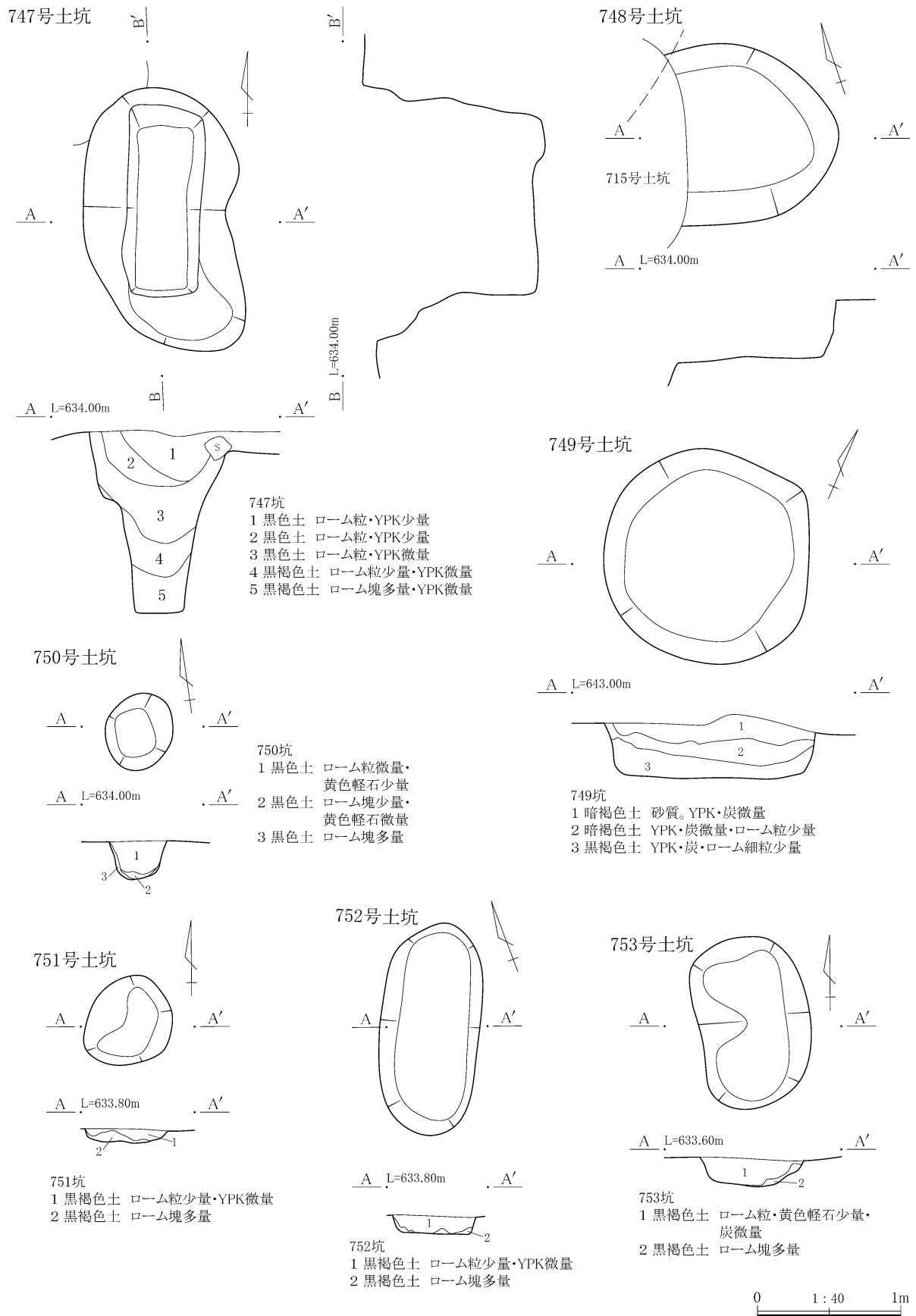


746号土坑



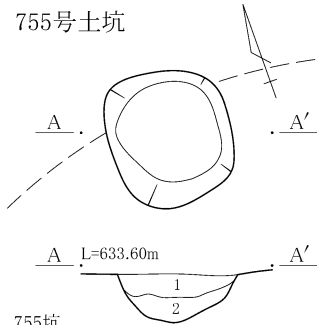
0 1 : 40 1m

第108図 5区土坑(8)



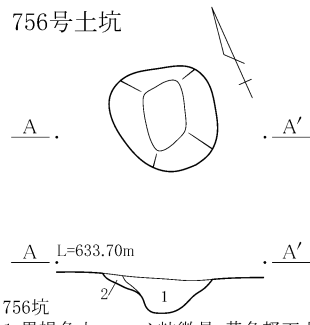
第109図 5区土坑(9)

755号土坑



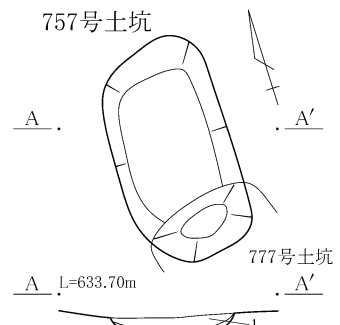
755坑
1 黒褐色土 ローム粒微量・YPK少量
2 灰黄褐色土 ローム粒微量・YPK少量

756号土坑



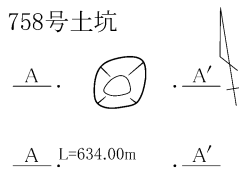
756坑
1 黒褐色土 ローム粒微量・黄色軽石少量
2 黒褐色土 ローム粒・黄色軽石微量

757号土坑



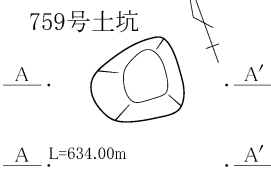
757坑
1 黒褐色土 ローム粒微量・黄色軽石少量
2 灰黄褐色土 ローム粒微量・YPK少量

758号土坑



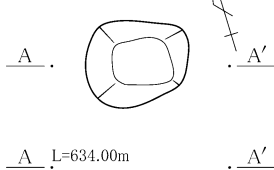
758坑
1 黒褐色土 黄色軽石微量

759号土坑



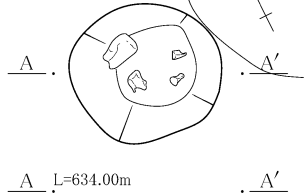
759坑
1 黒褐色土 ローム粒・黄色軽石微量

760号土坑



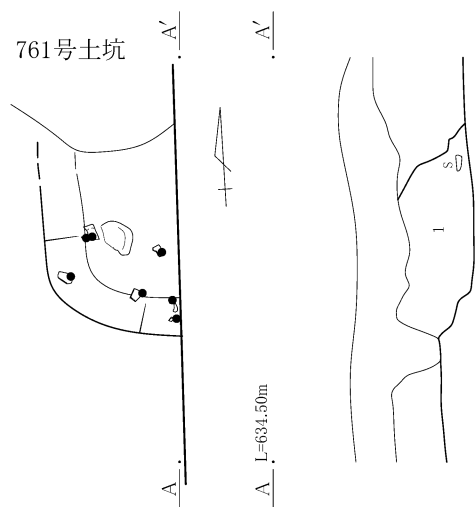
760坑
1 黒褐色土 黄色軽石・ローム粒少量
2 灰黄褐色土 黒褐色土塊少量

763号土坑

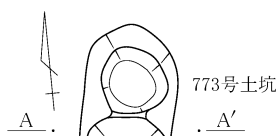


763坑
1 黒褐色土 褐色粒微量・ローム小塊少量
2 黒褐色土 褐色粒微量・ローム大塊少量
3 黒褐色土 褐色粒微量

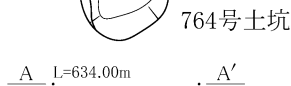
761号土坑



761坑
1 鈍灰褐色土 やや砂質 褐色粒微量

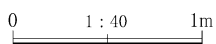


773号土坑

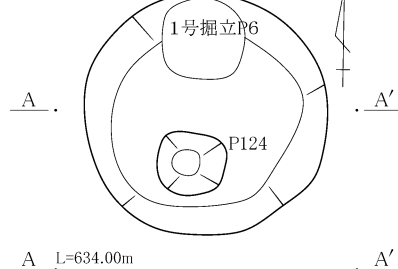


764号土坑

764坑
1 鈍灰褐色土 褐色粒少量・YPK微量
2 黒褐色土 褐色粒少量・YPK微量

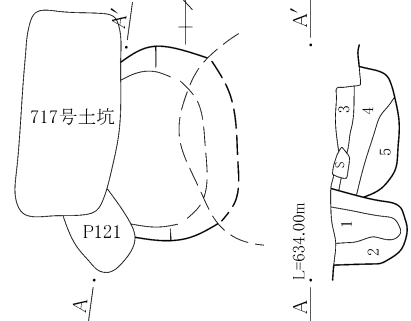


766号土坑



766坑
1 暗褐色土 YPK
2 暗褐色土 YPK微量・ローム小塊・黒色土小塊少量
3 暗褐色土 ローム小塊少量
4 暗褐色土 ローム大塊少量

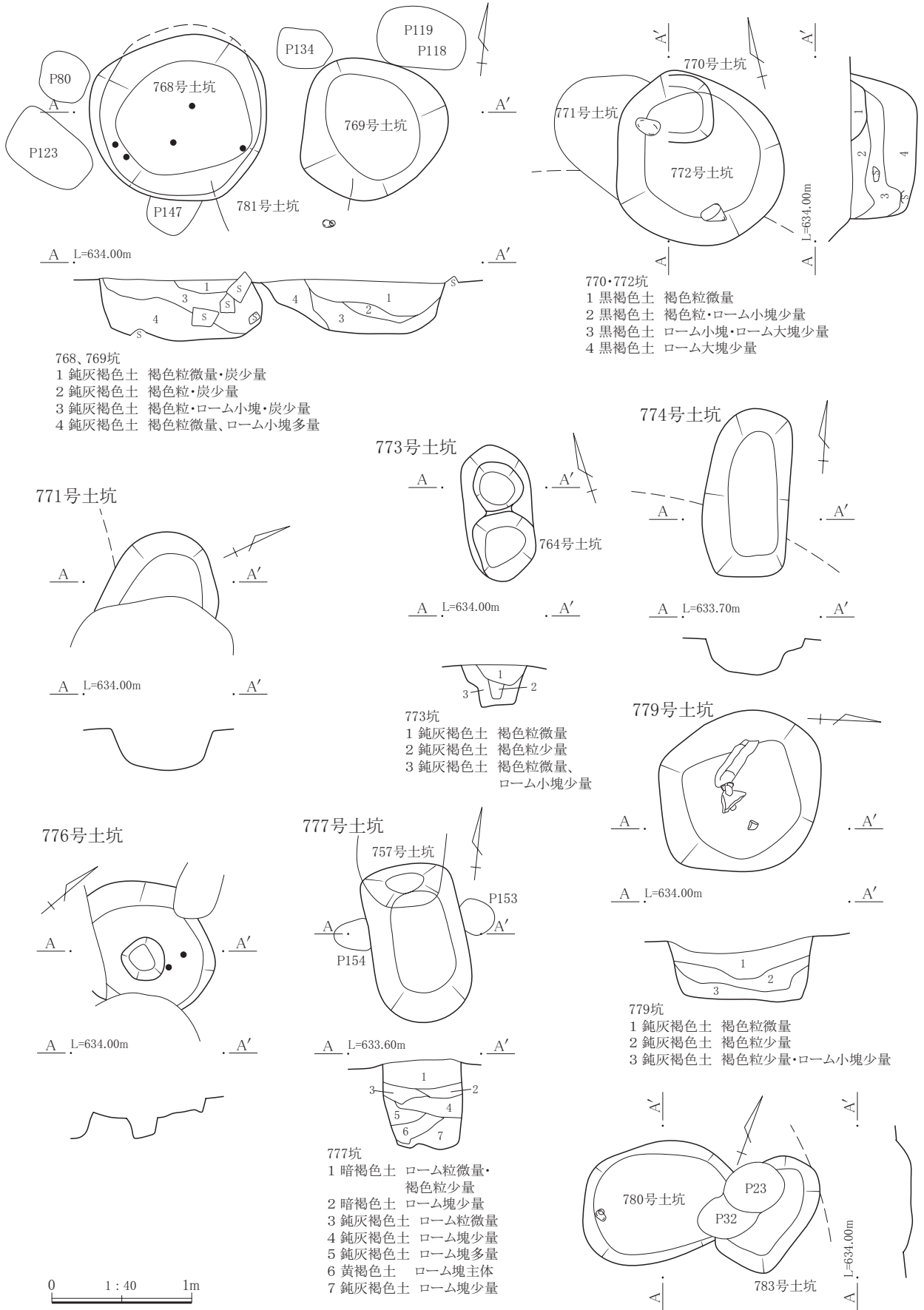
767号土坑



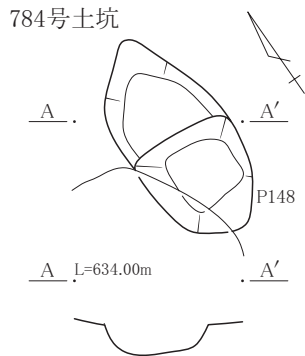
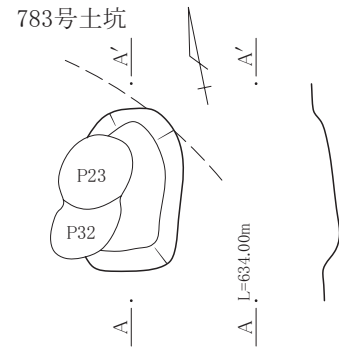
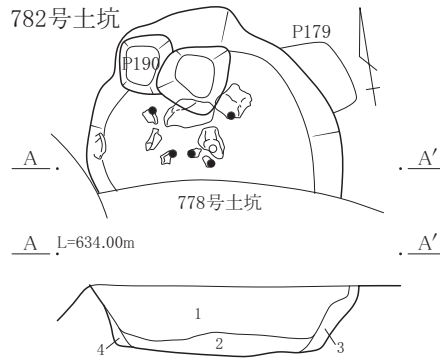
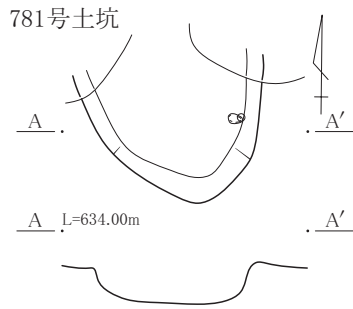
767坑 121ピット
1 黒褐色土 褐色粒微量・柱痕
2 黒褐色土 褐色粒微量・ローム小塊少量
3 鈍灰褐色土 ローム小塊少量・YPK微量
4 鈍灰褐色土 ローム小塊少量・ローム大塊少量
5 鈍灰褐色土 ローム大塊多量

第110図 5区土坑 (10)

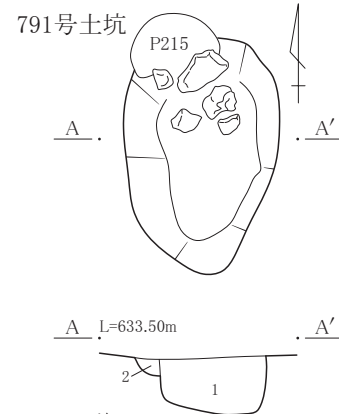
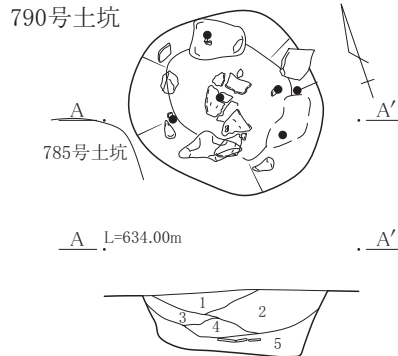
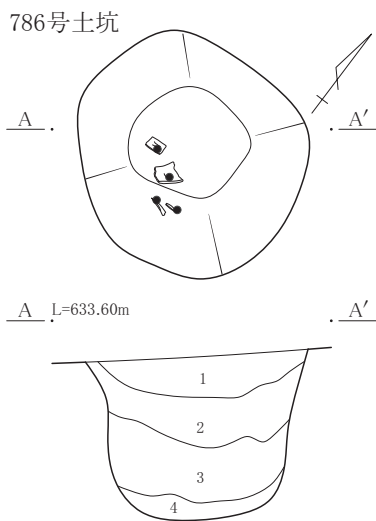
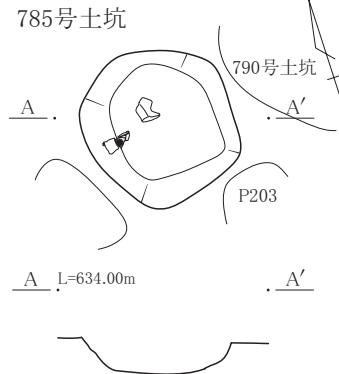
第3章 検出された遺構と遺物



第111図 5区土坑 (11)



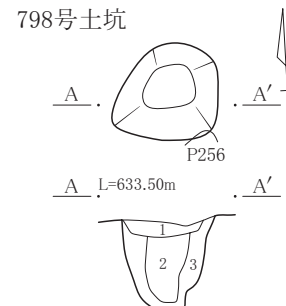
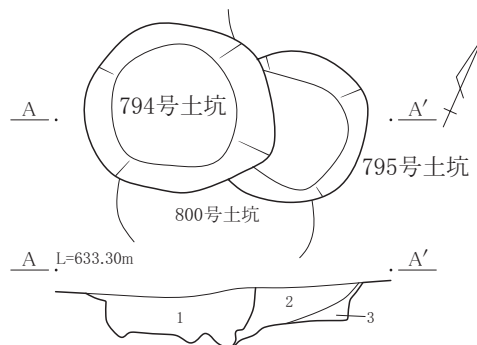
- 782坑
- 1 暗褐色土 白色軽石少量・褐色土粒・炭微量含
 - 2 黒褐色土 白色軽石・炭少量
 - 3 暗褐色土 黄色軽石微量
 - 4 暗褐色土 ローム粒少量含む



- 790坑
- 1 黒褐色土 炭・焼土小塊少量
 - 2 黒褐色土 炭・焼土粒微量
 - 3 黒褐色土 焼土大塊多量
 - 4 黒褐色土 大型の炭含む。焼土小塊少量
 - 5 黒褐色土 ローム小塊少量

- 791坑
- 1 暗褐色土 ローム塊少量
 - 2 黄褐色土 ローム粒多量

- 786坑
- 1 黒褐色土 黄色軽石・白色軽石少量・礫含む
 - 2 黒褐色土 YPK微量
 - 3 黒色土 YPK微量
 - 4 黒褐色土 ローム塊少量



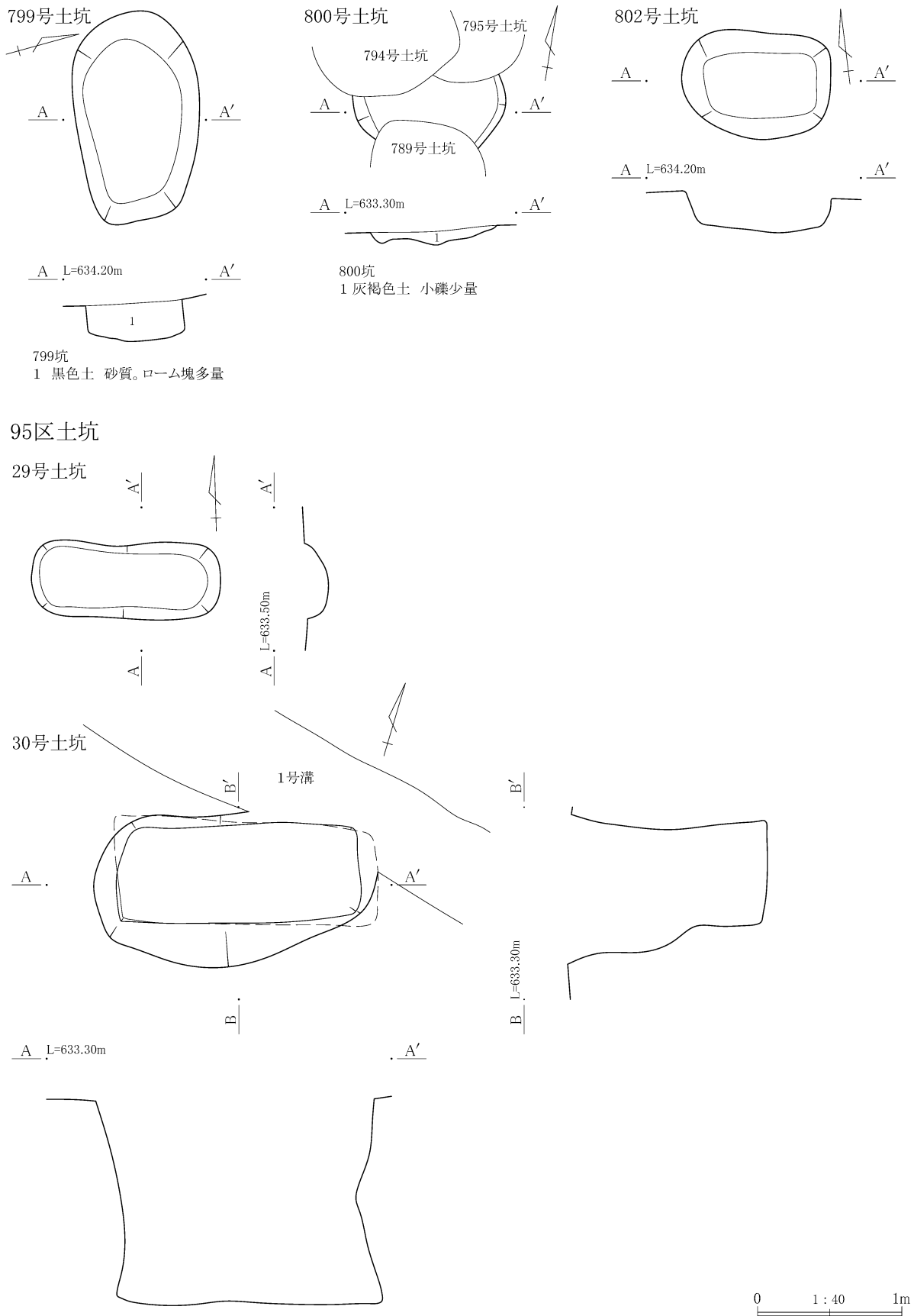
- 794・795坑
- 1 黒褐色土 YPK微量・褐色土粒少量
 - 2 黒褐色土 YPK微量・褐色土粒少量
 - 3 暗褐色土 褐色土粒多量

- 798坑
- 1 黒褐色土 YPK微量 白色軽石・褐色土粒少量
 - 2 暗褐色土 YPK微量 白色軽石少量
 - 3 暗褐色土 ローム塊少量・YPK微量

0 1:40 1m

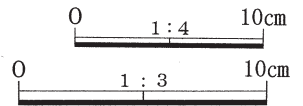
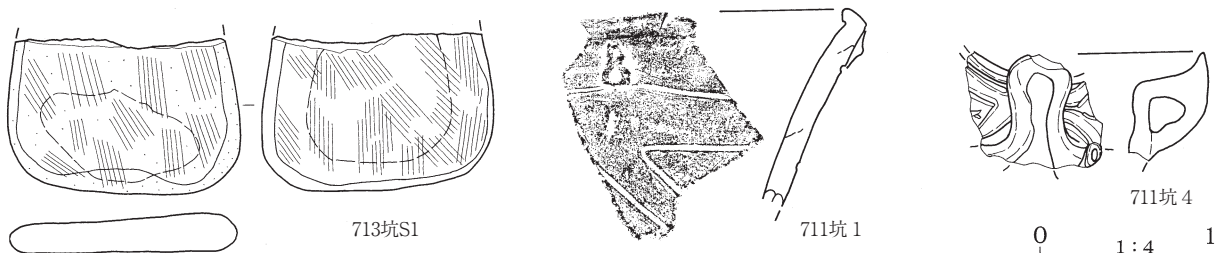
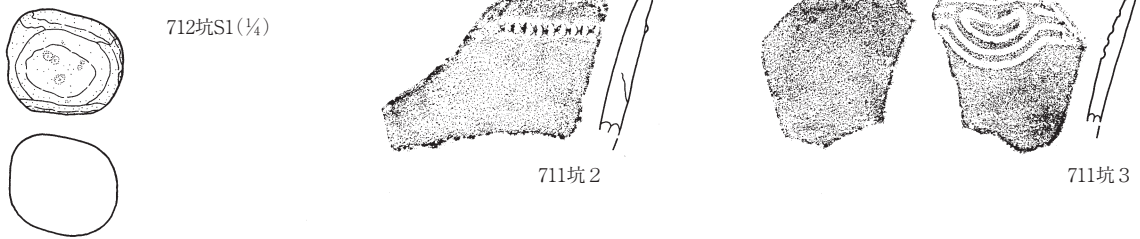
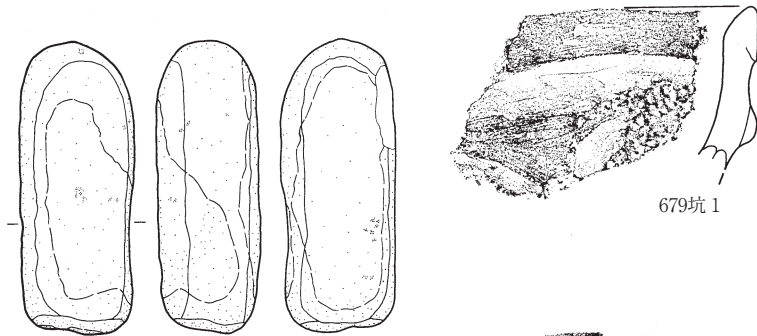
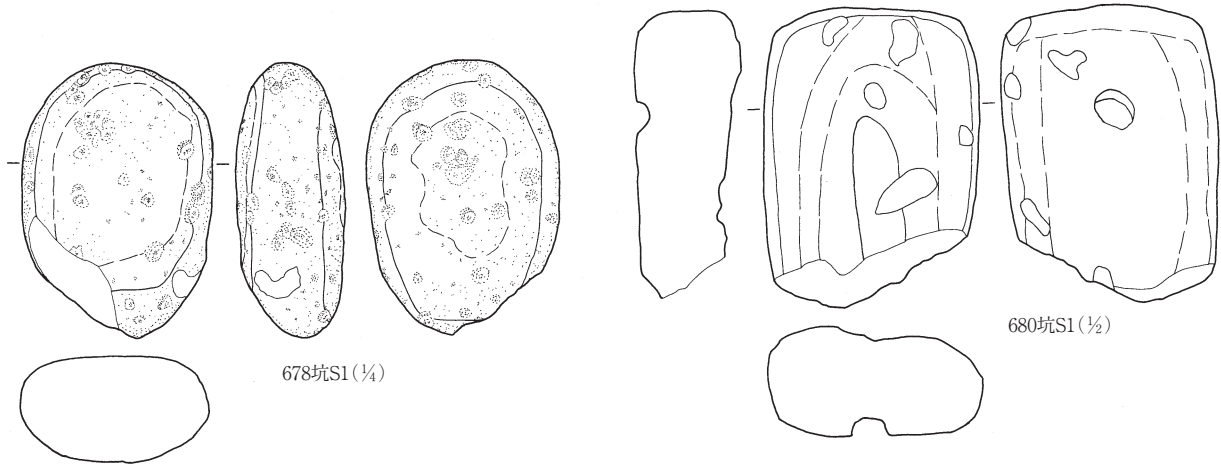
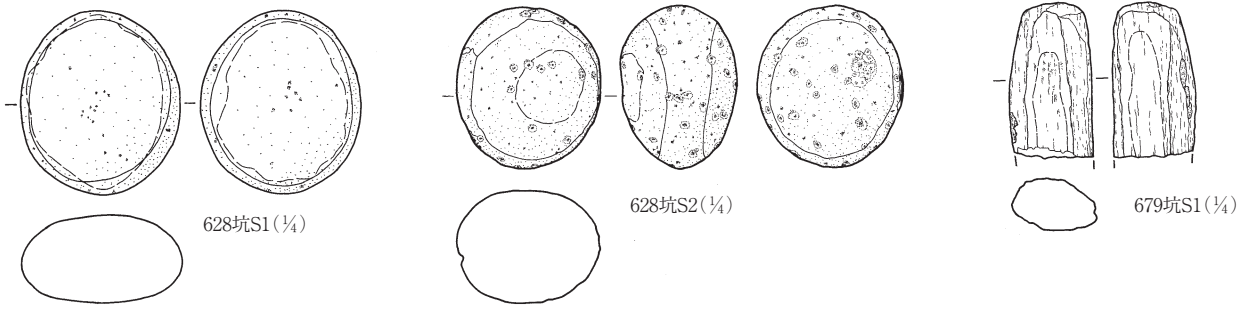
第112図 5区土坑 (12)

第3章 検出された遺構と遺物

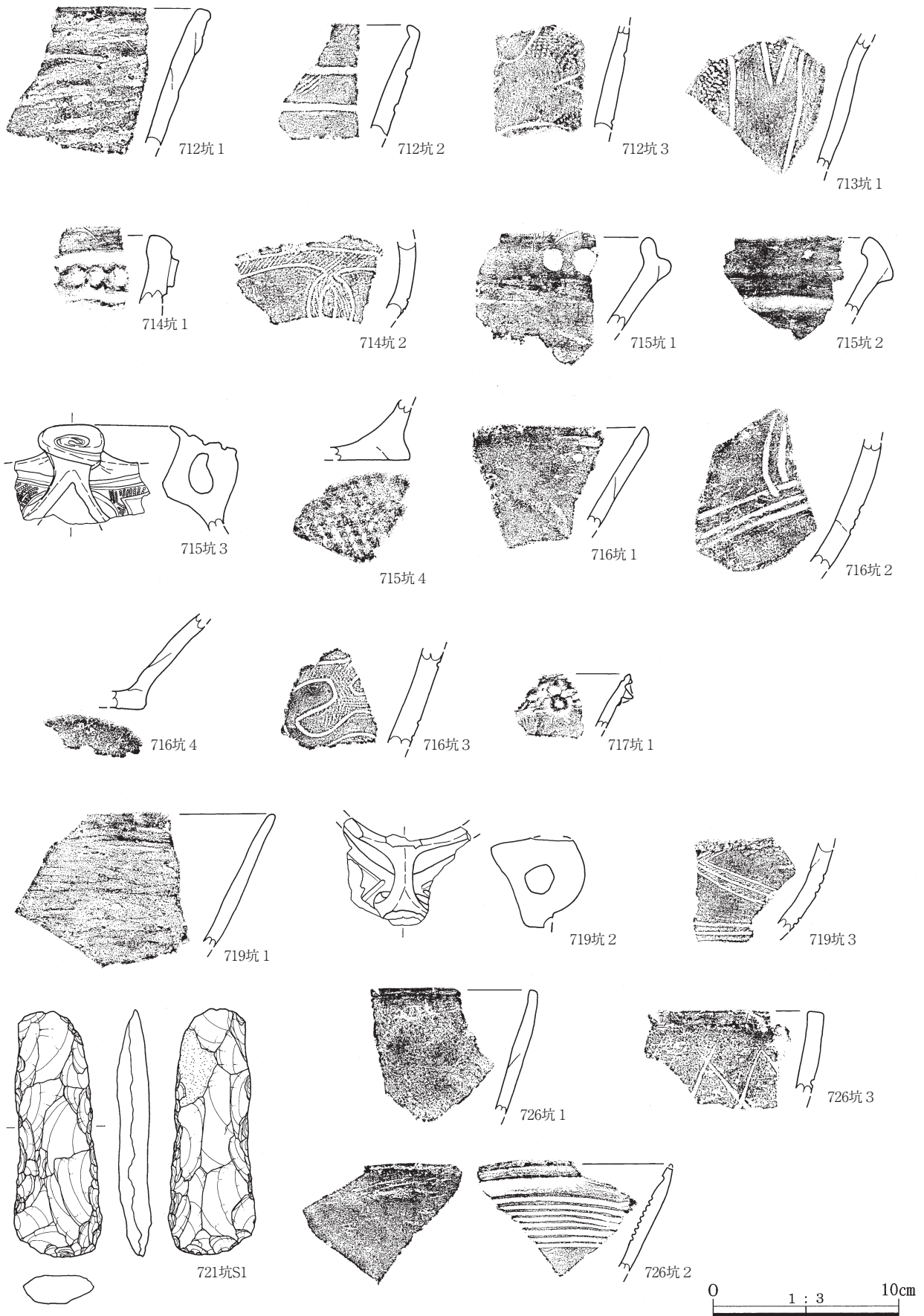


第113図 5区土坑(13)・95区土坑(1)

第3節 縄文時代



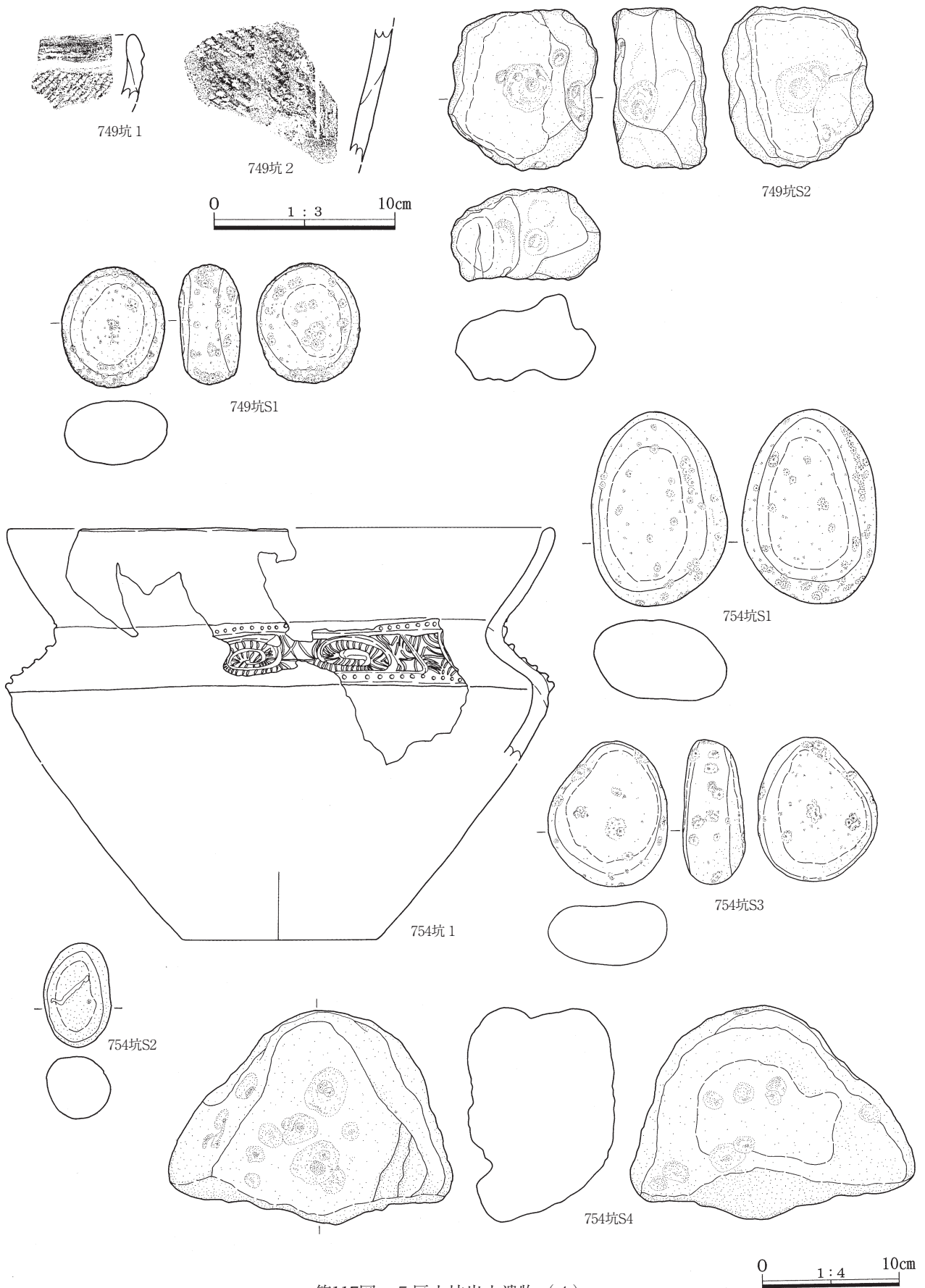
第114図 5区土坑出土遺物(1)



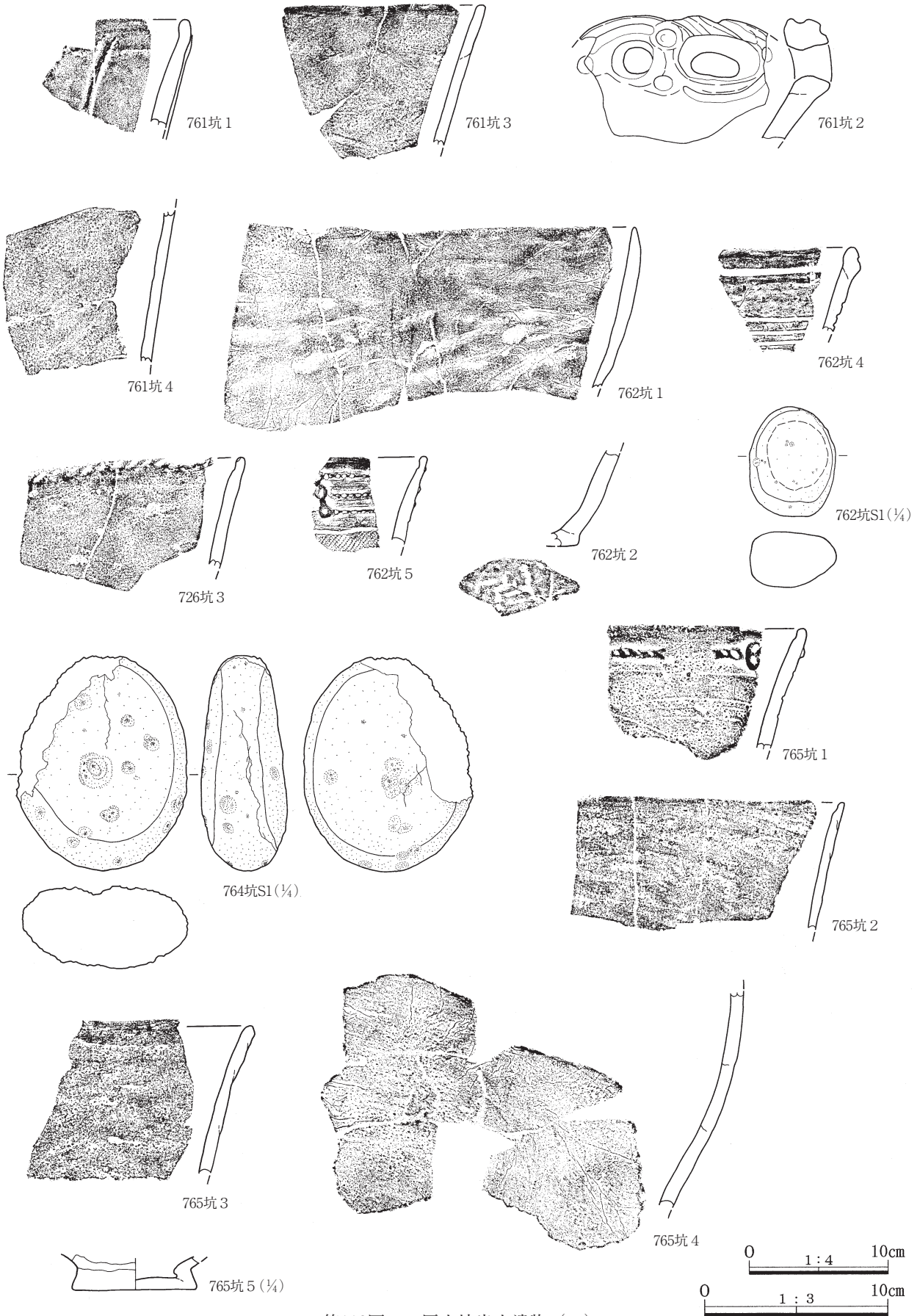
第115図 5区土坑出土遺物(2)



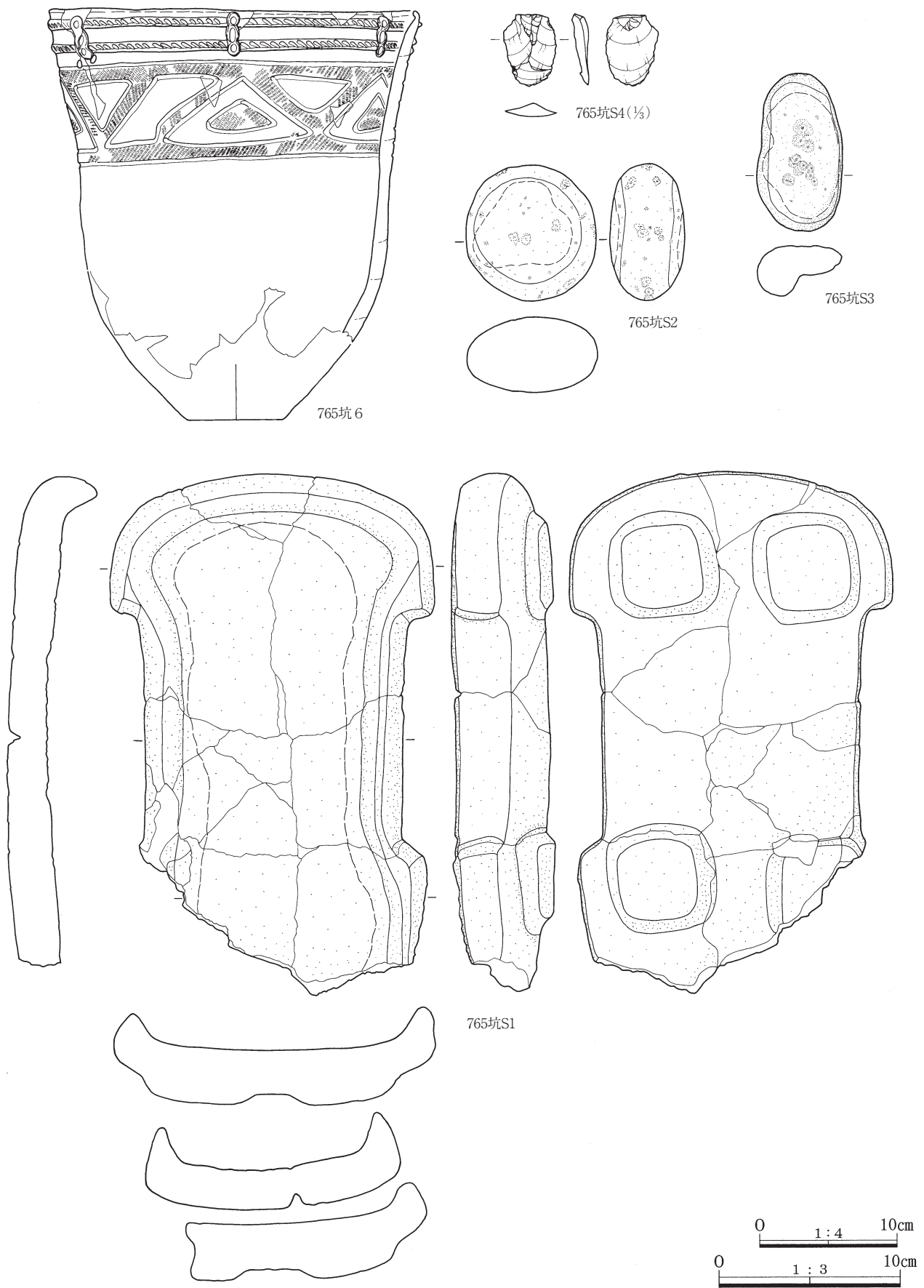
第116図 5区土坑出土遺物 (3)



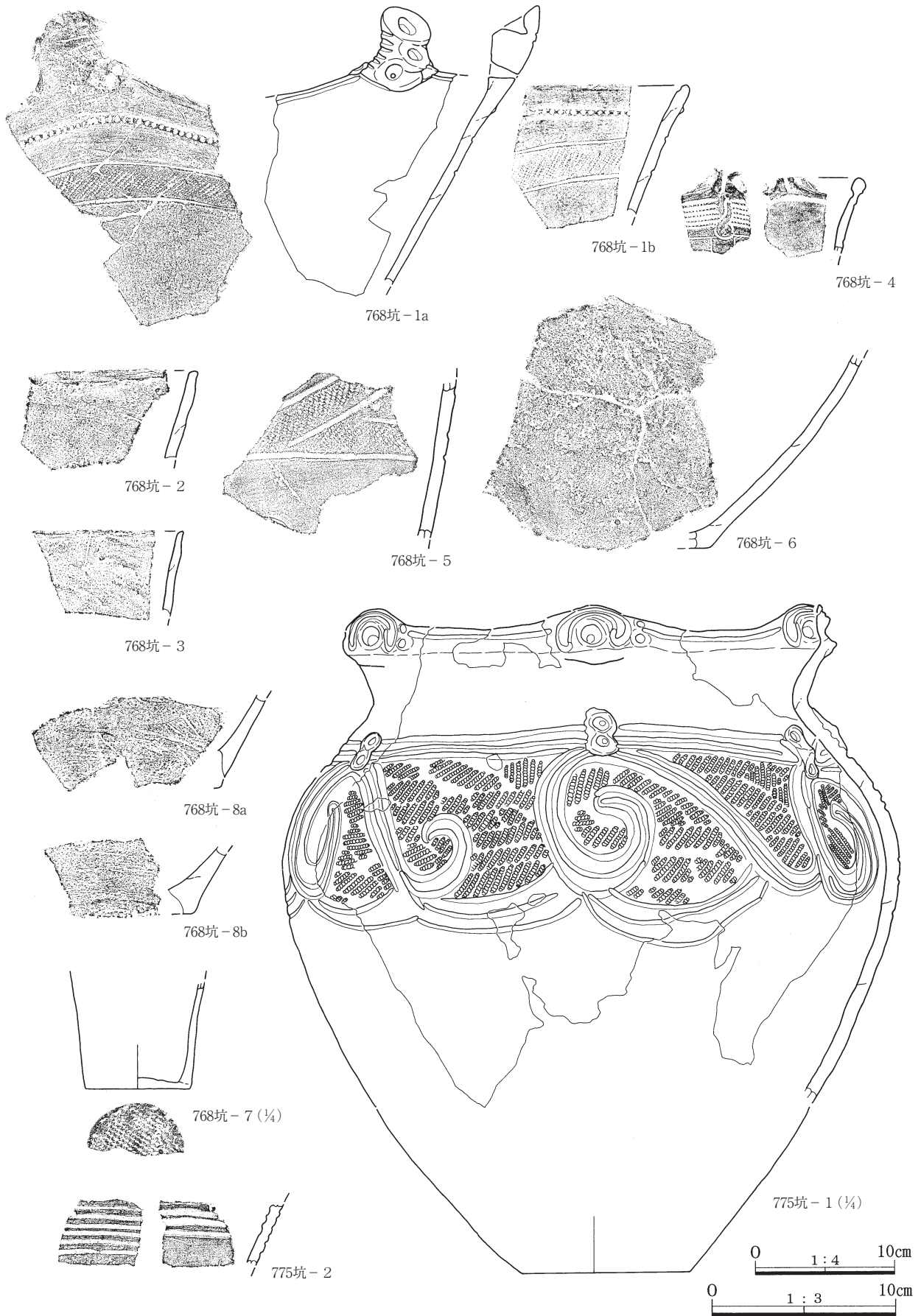
第117図 5区土坑出土遺物(4)



第118図 5区土坑出土遺物(5)

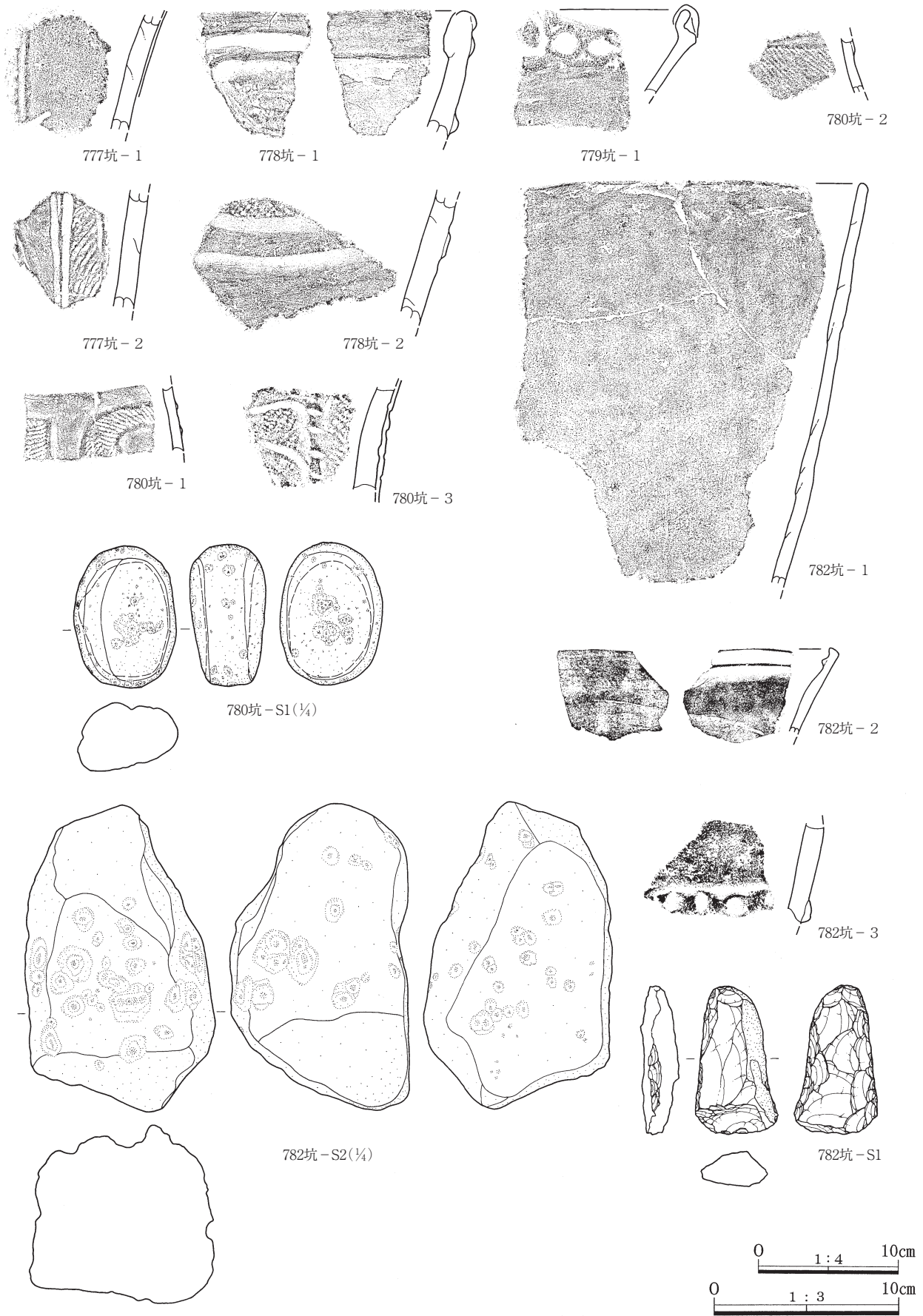


第119図 5区土坑出土遺物(6)

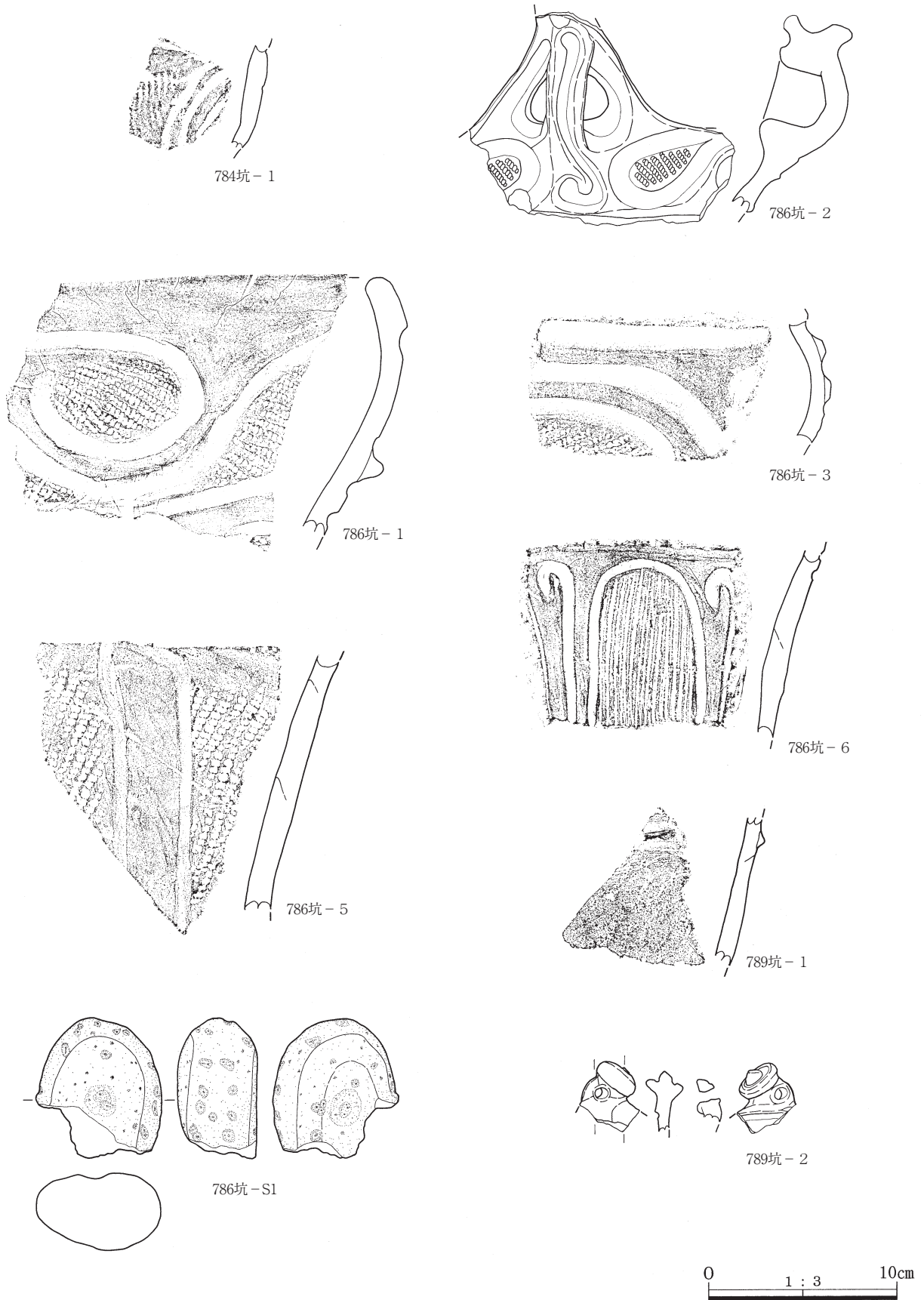


第120図 5区土坑出土遺物(7)

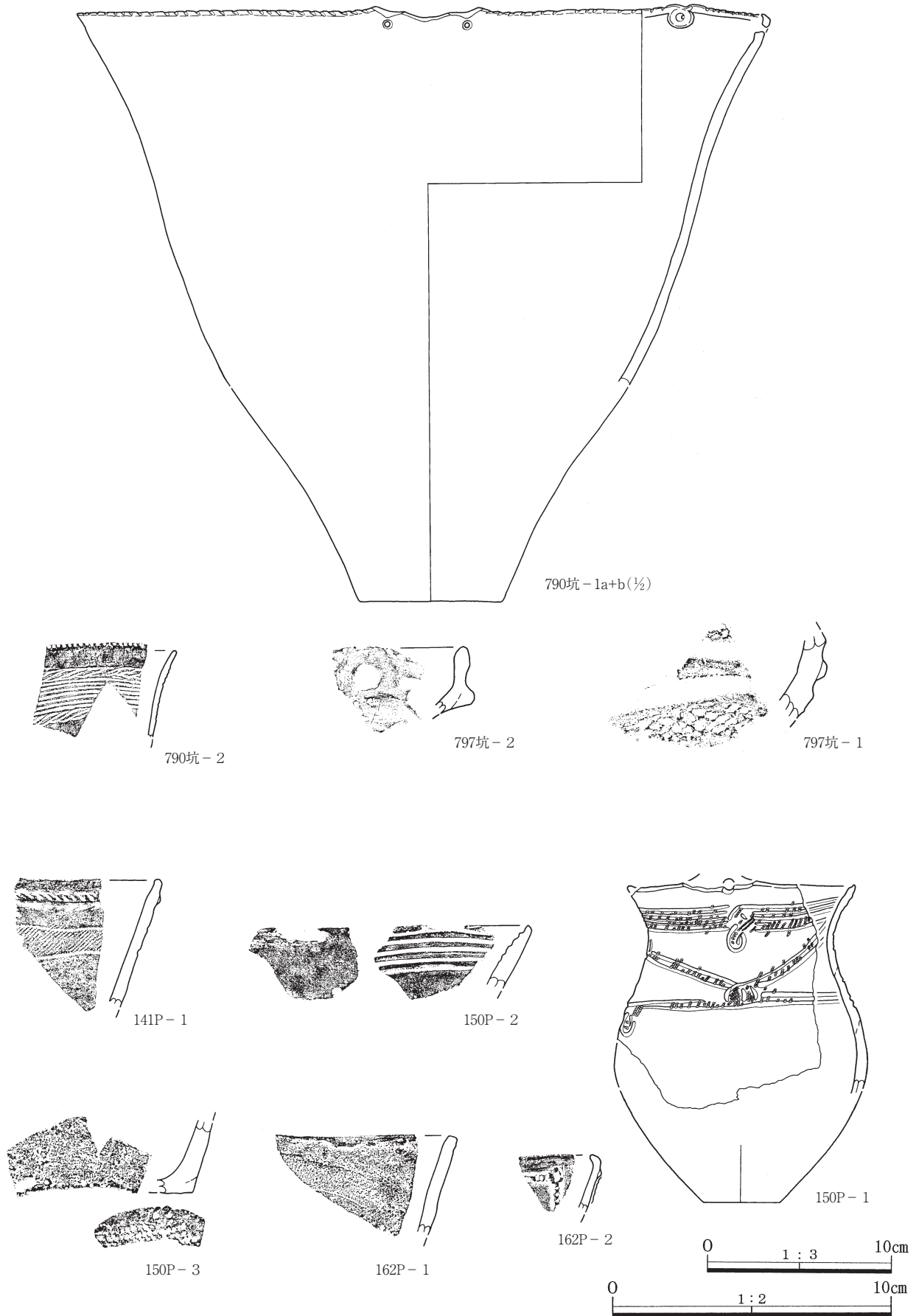
第3章 検出された遺構と遺物



第121図 5区土坑出土遺物(8)

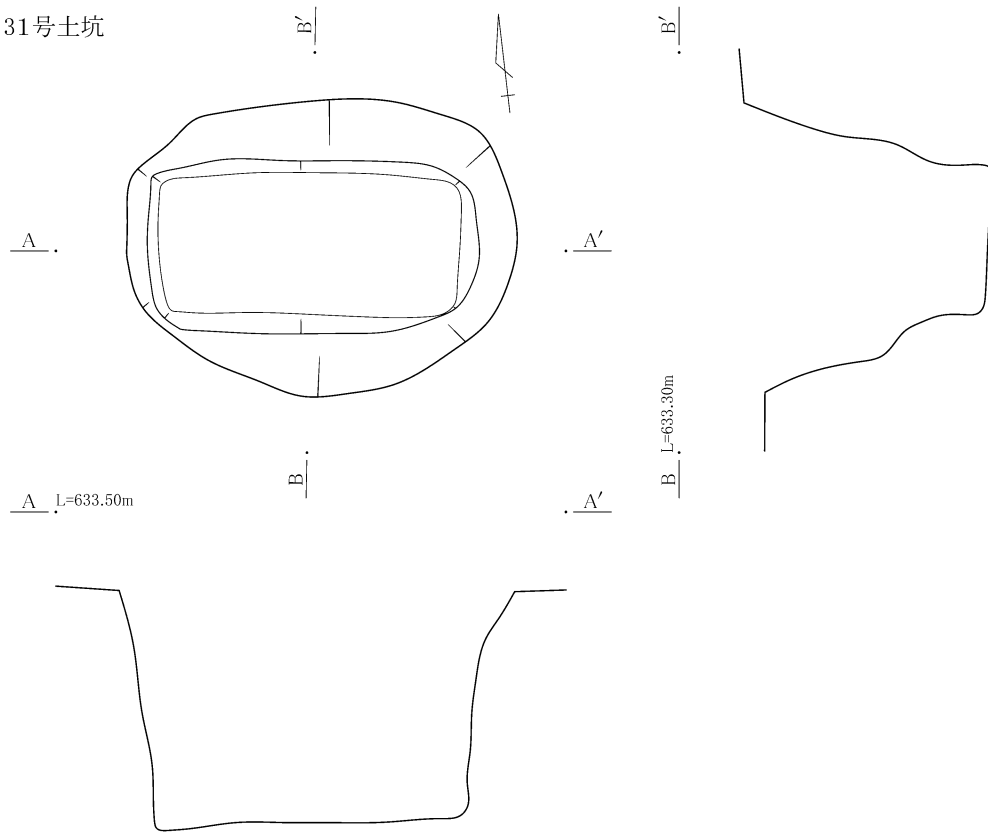


第122図 5区土坑出土遺物(9)

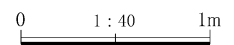
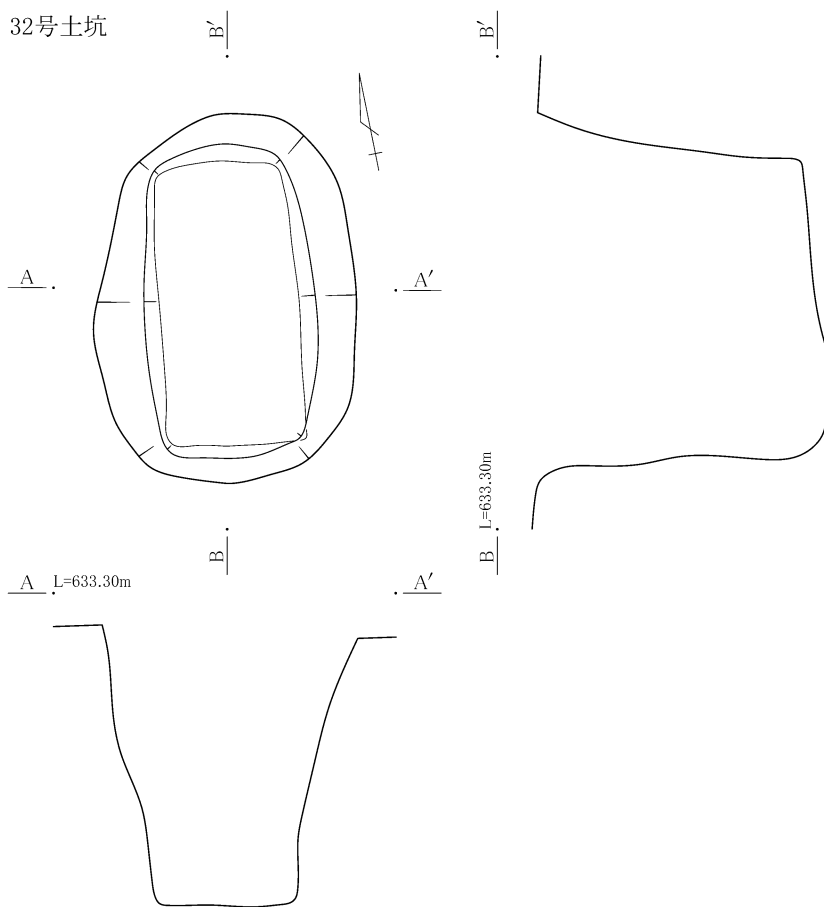


第123図 5区土坑出土遺物(10)・ピット出土遺物

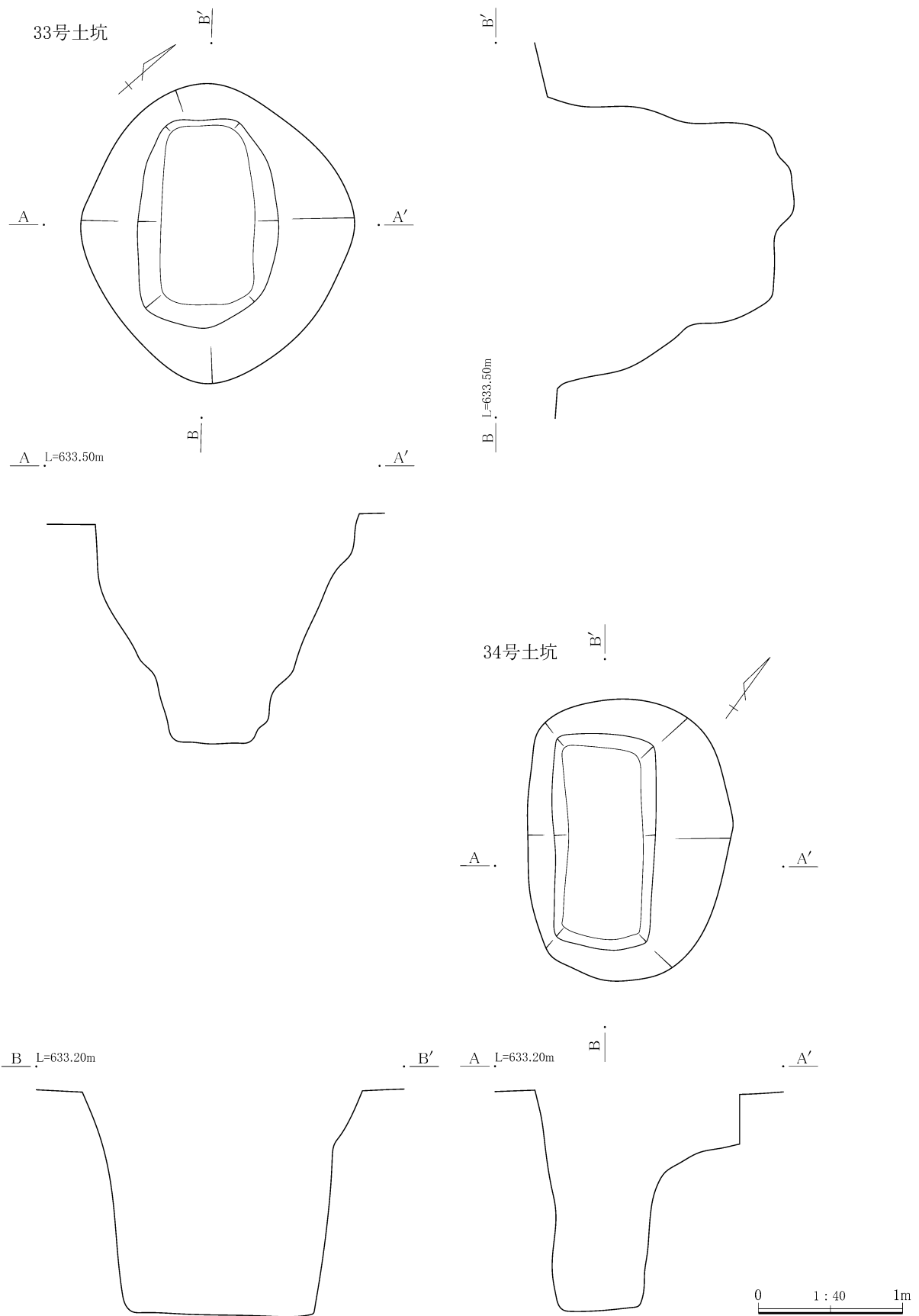
31号土坑



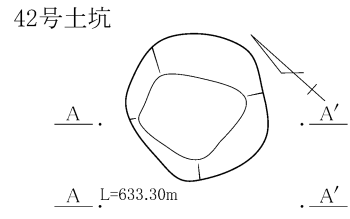
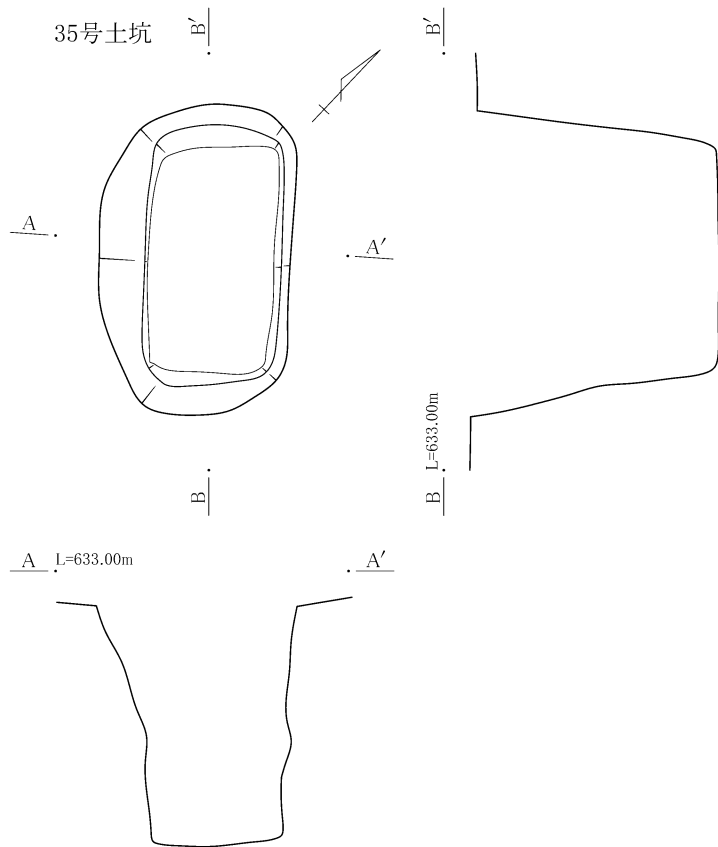
32号土坑



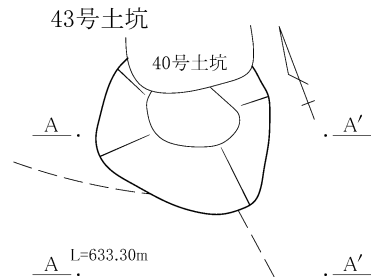
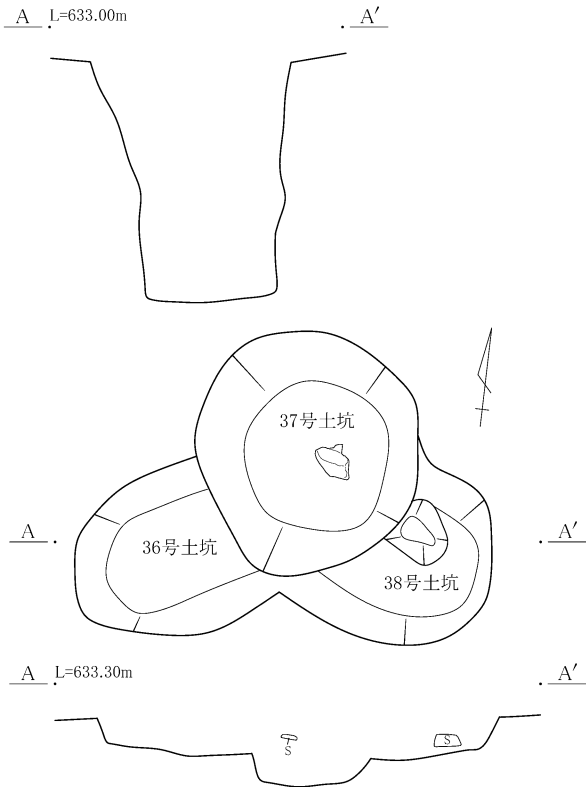
第124図 95区土坑 (2)



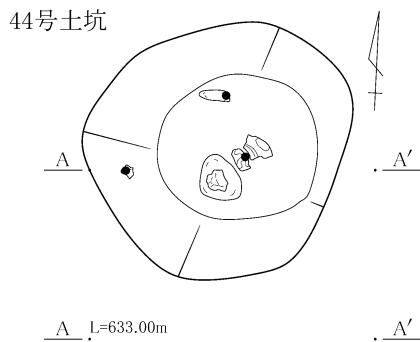
第125図 95区土坑 (3)



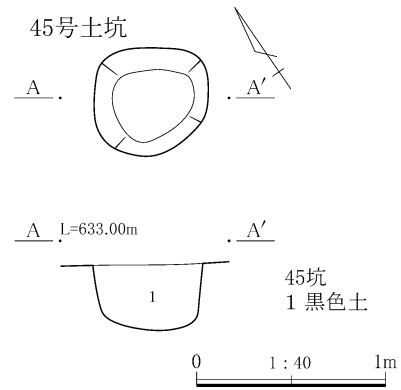
- 42坑
 1 黒褐色土 ローム粒少量・YPK微量
 2 黒色土 褐色土粒微量
 3 黒褐色土 YPK・ローム粒少量
 4 黒褐色土 YPK・ローム土粒微量



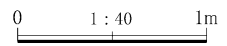
- 43坑
 1 黒褐色土 黄色軽石多量・白色軽石微量
 2 黒褐色土 黄色軽石多量・白色軽石微量・ローム塊多量



- 44坑
 1 黒色土 黄色軽石・ローム粒少量・白色軽石・炭微量
 2 黒色土 黄色軽石微量・ローム粒少量

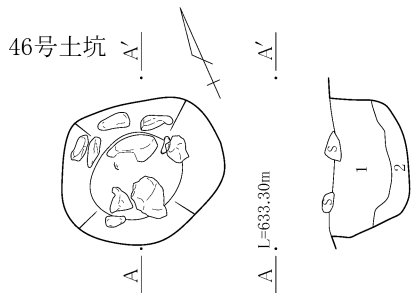


- 45坑
 1 黒色土

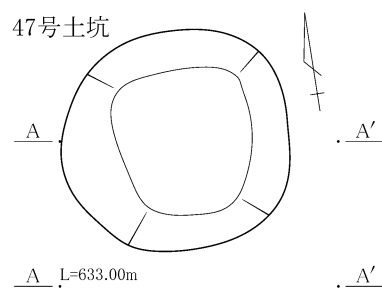


第126図 95区土坑 (4)

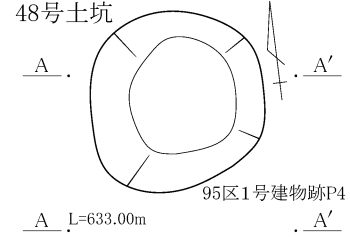
第3章 検出された遺構と遺物



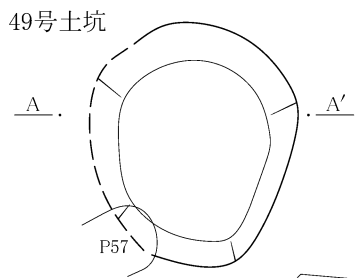
- 46坑
 1 黒褐色土 YPK・褐色粒少量
 2 黒色土 均質。YPK微量



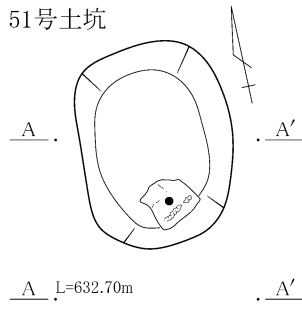
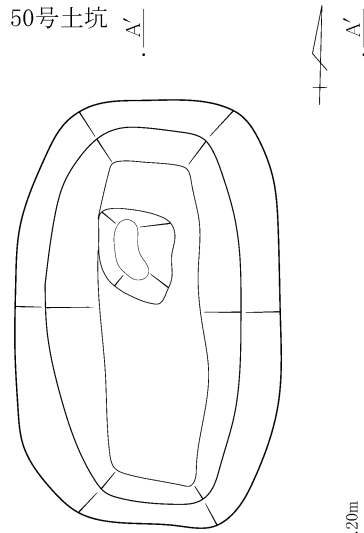
- 47坑
 1 黒褐色土 黄色軽石・ローム粒少量・白色軽石・炭微量
 2 黒褐色土 黄色軽石微量・ローム粒少量



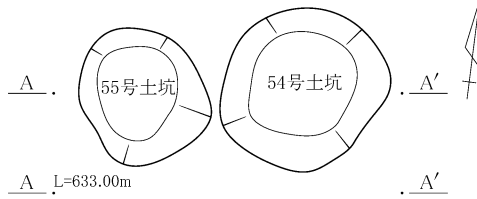
- 48坑
 1 黒褐色土 ローム粒少量
 2 鈍灰褐色土 YPK微量・ローム小塊少量
 3 鈍灰褐色土 YPK微量・ローム大塊少量
 4 黒褐色土 ローム塊・黒褐色土塊互層



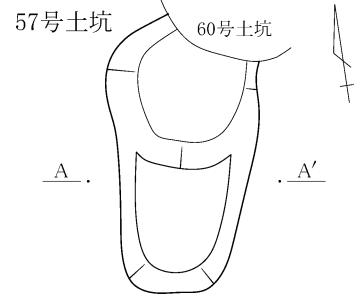
- 49坑
 1 鈍灰褐色土 褐色粒少量・ローム粒多量
 2 鈍灰褐色土 褐色粒少量・ローム大塊多量
 3 鈍灰褐色土 褐色粒・ローム大塊少量
 4 黒褐色土 褐色粒少量



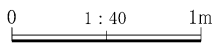
- 51坑
 1 黒褐色土 褐色粒少量
 2 黒褐色土 ローム大塊少量



- 54・55坑
 1 黒褐色土 黄色粒・ローム小塊少量
 2 黒褐色土 黄色粒少量
 3 黒褐色土 黄色粒・ローム大塊少量
 4 黒褐色土 黄色粒微量

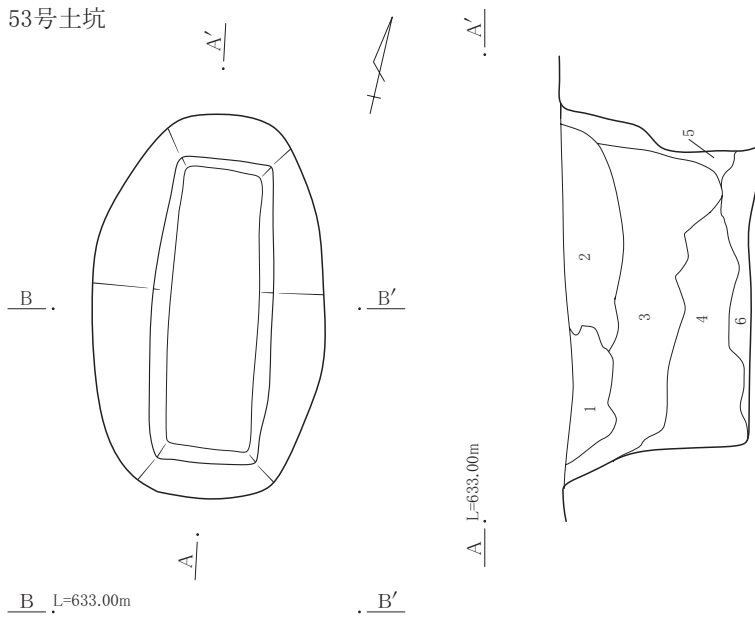


- 57坑
 1 鈍灰褐色土 黄色粒・YPK微量
 2 鈍灰褐色土 黄色粒微量・ローム大塊少量

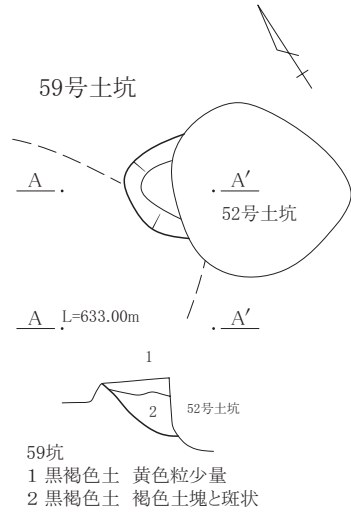


第127図 95区土坑 (5)

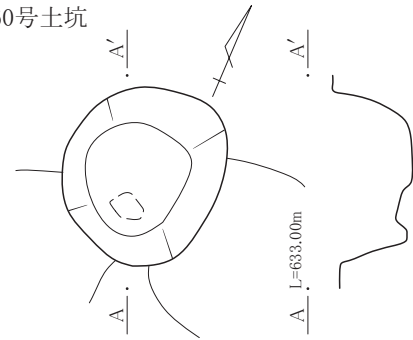
53号土坑



59号土坑



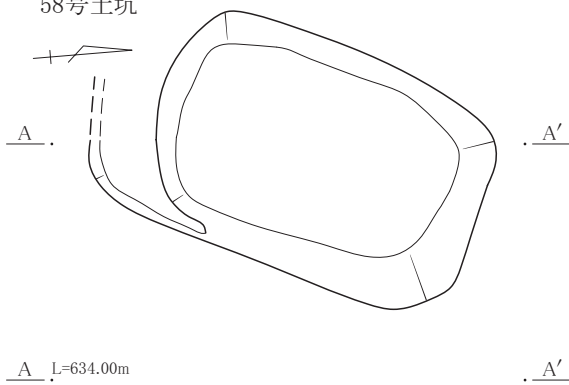
60号土坑



53坑

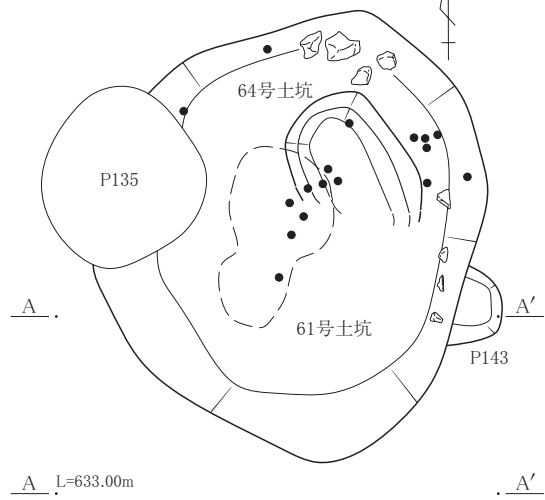
- 1 黒褐色土 黄色軽石・ローム粒少量
- 2 黒褐色土 黄色軽石・ローム粒微量
- 3 黒褐色土 黄色軽石微量・ローム粒少量
- 4 黒褐色土 黄色軽石微量・ローム塊多量
- 5 黒褐色土 黄色軽石微量・ローム塊多量
- 6 黒褐色土 ローム塊多量

58号土坑



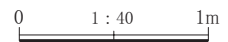
58坑

- 1 黒褐色土 黄色粒・小礫少量
- 2 黒褐色土 やや砂質。黄色粒・ローム塊少量
- 3 鈍灰褐色土 ローム大塊少量
- 4 黒褐色土 やや粘質。黄色粒少量



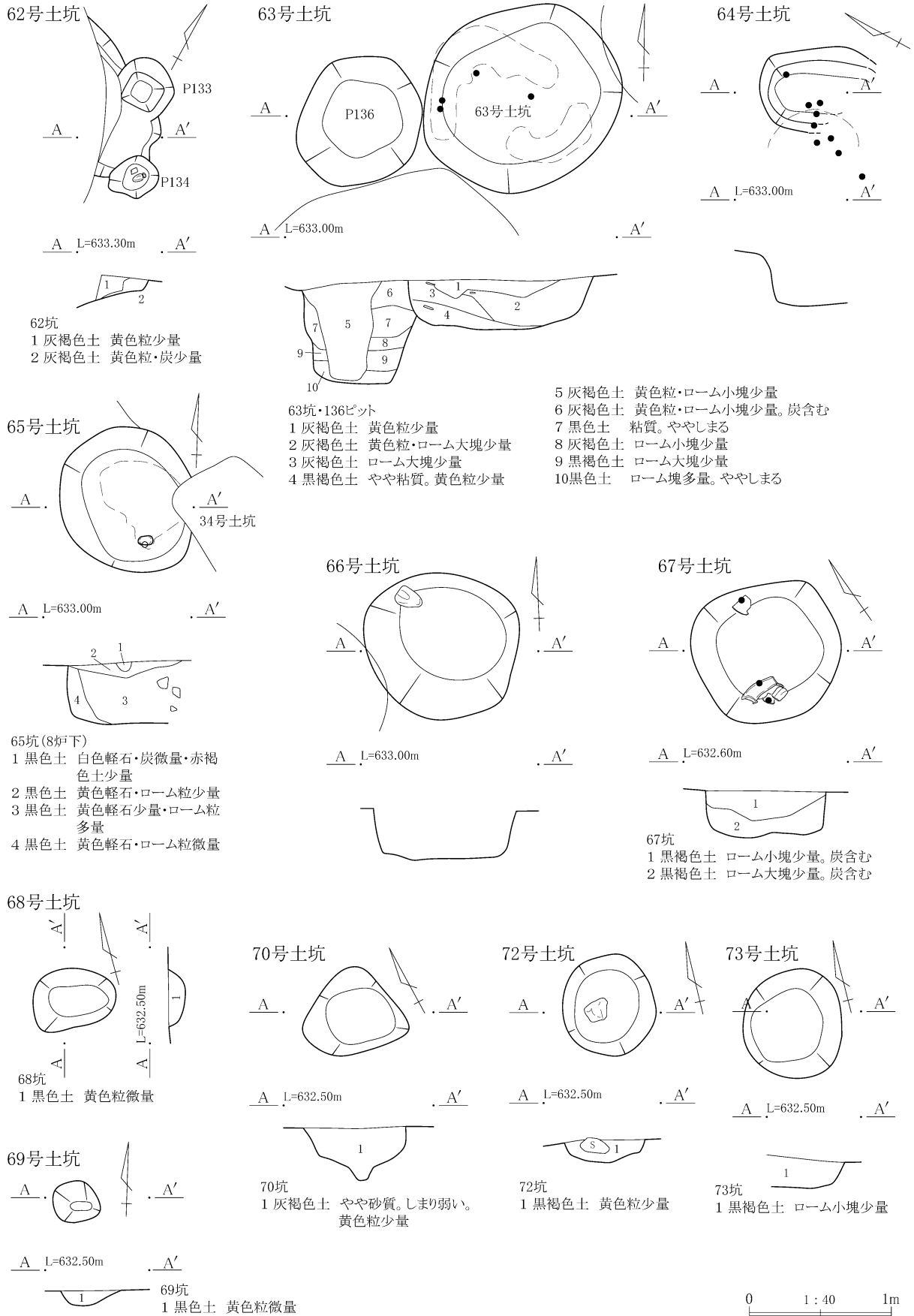
61坑

- 1 黒褐色土 ローム塊少量
- 2 黒褐色土 ローム大塊少量

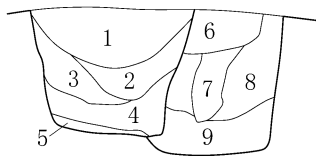
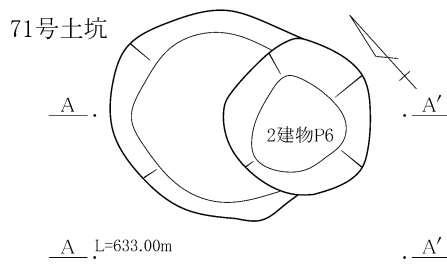


第128図 95区土坑 (6)

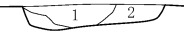
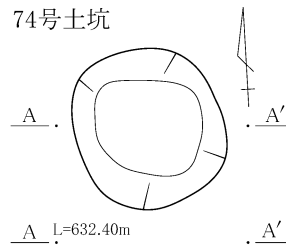
第3章 検出された遺構と遺物



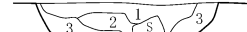
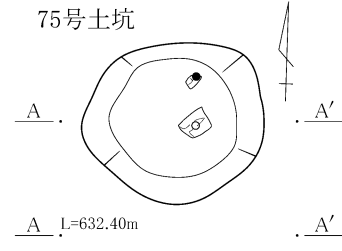
第129図 95区土坑(7)



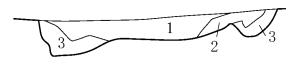
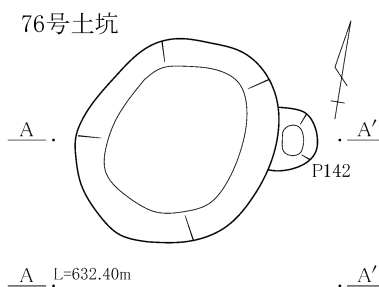
- 71坑
- 1 暗褐色土 黄色粒・ローム大塊少量
 - 2 暗褐色土 黄色粒少量
 - 3 暗褐色土 黄色粒微量
 - 4 暗褐色土 黄色粒・ローム小塊少量
 - 5 黒褐色土 黄色粒少量
 - ピット6
 - 6 黒褐色土 黄色粒少量・ローム粒微量
 - 7 黒褐色土 黄色粒微量。やや粘質
 - 8 黒褐色土 粘質。ローム大塊少量
 - 9 暗褐色土 ローム大塊と斑状。固くしまる



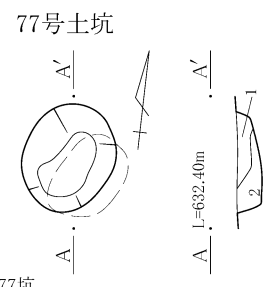
- 74坑
- 1 黒褐色土 黄色粒微量
 - 2 黒褐色土 黄色粒微量・ローム大塊少量



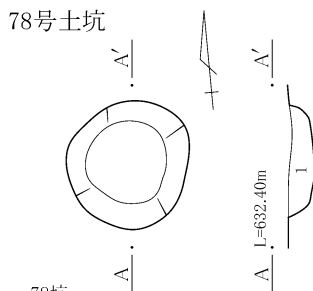
- 75坑
- 1 黒褐色土 ローム小塊少量
 - 2 黒褐色土 ローム小塊少量
 - 3 黒褐色土 ローム大塊少量



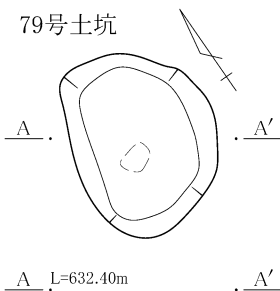
- 76坑 142ピット
- 1 黒褐色土 やや粘質。黄色粒微量
 - 2 黒色土 褐色土塊と斑状を呈す
 - 3 黒褐色土 ローム大塊少量



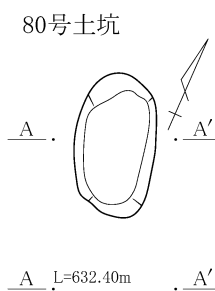
- 77坑
- 1 黒褐色土 黄色粒微量
 - 2 黒色土 褐色土塊と斑状を呈す



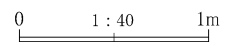
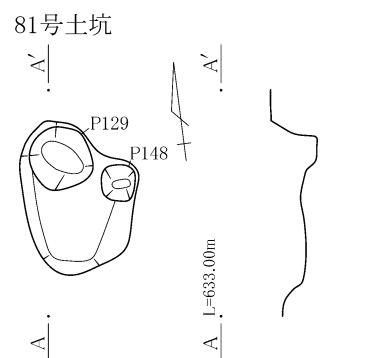
- 78坑
- 1 黒褐色土 黄色粒微量



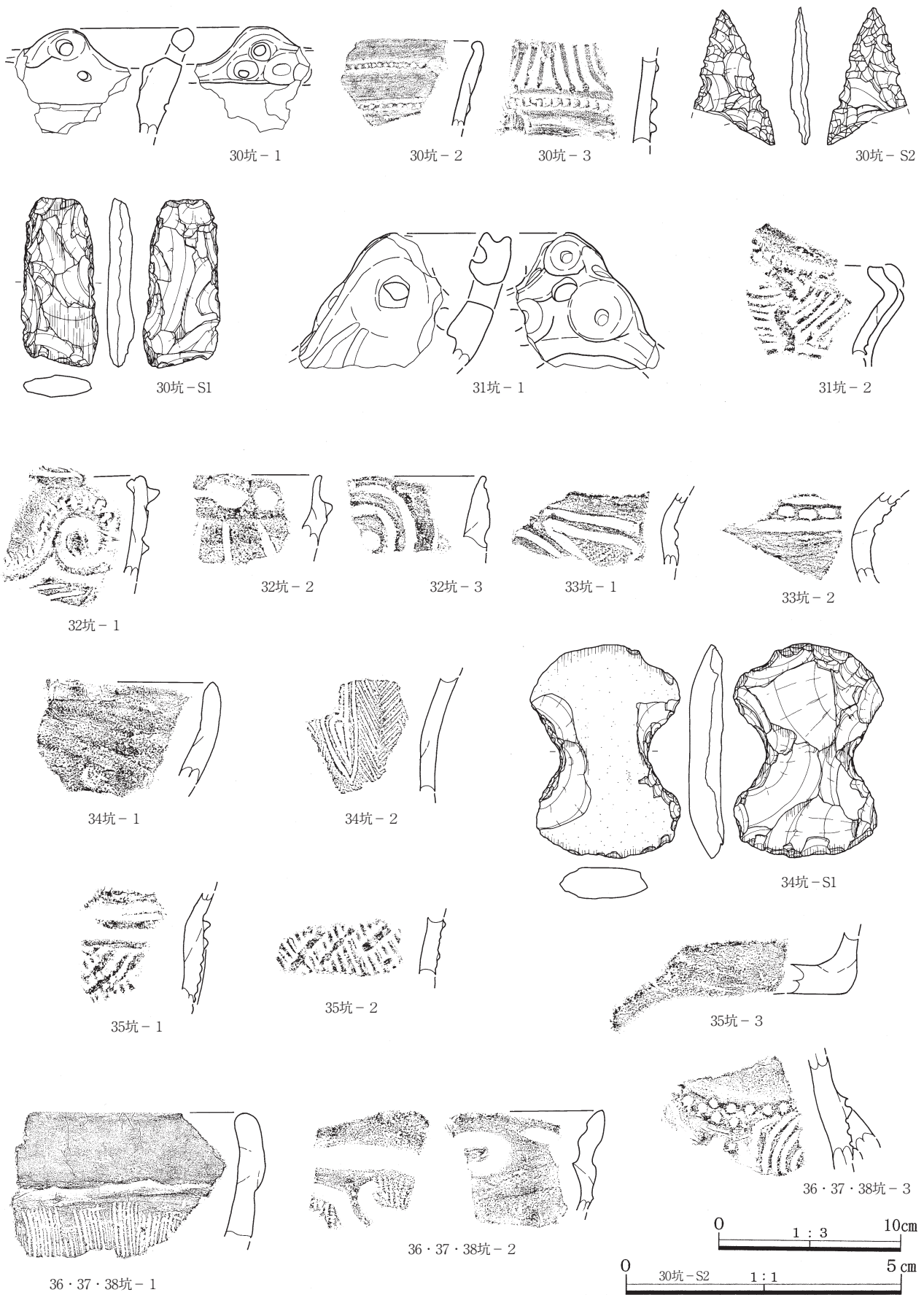
- 79坑
- 1 黒褐色土 黄色粒微量



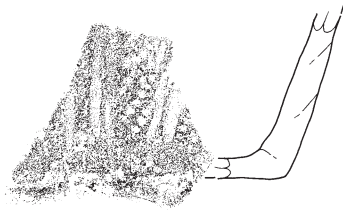
- 80坑
- 1 黒色土 やや粘質
 - 2 黒色土 褐色土塊と斑状を呈す



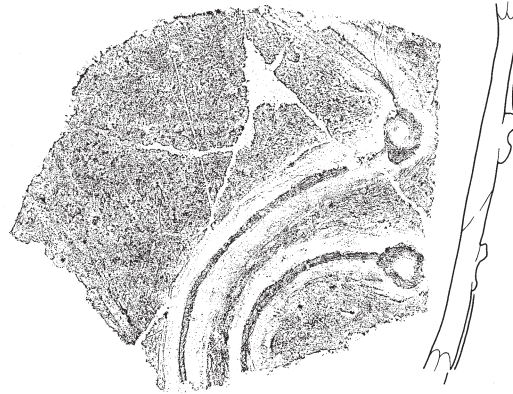
第130図 95区土坑 (8)



第131図 95区土坑出土遺物 (1)



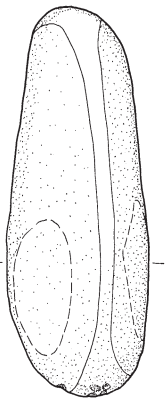
36・37・38坑-4



40坑-1



44坑-1 (1/4)



44坑-S1 (1/4)



47坑-1



47坑-2



48坑-1



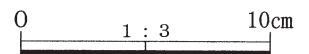
48坑-2



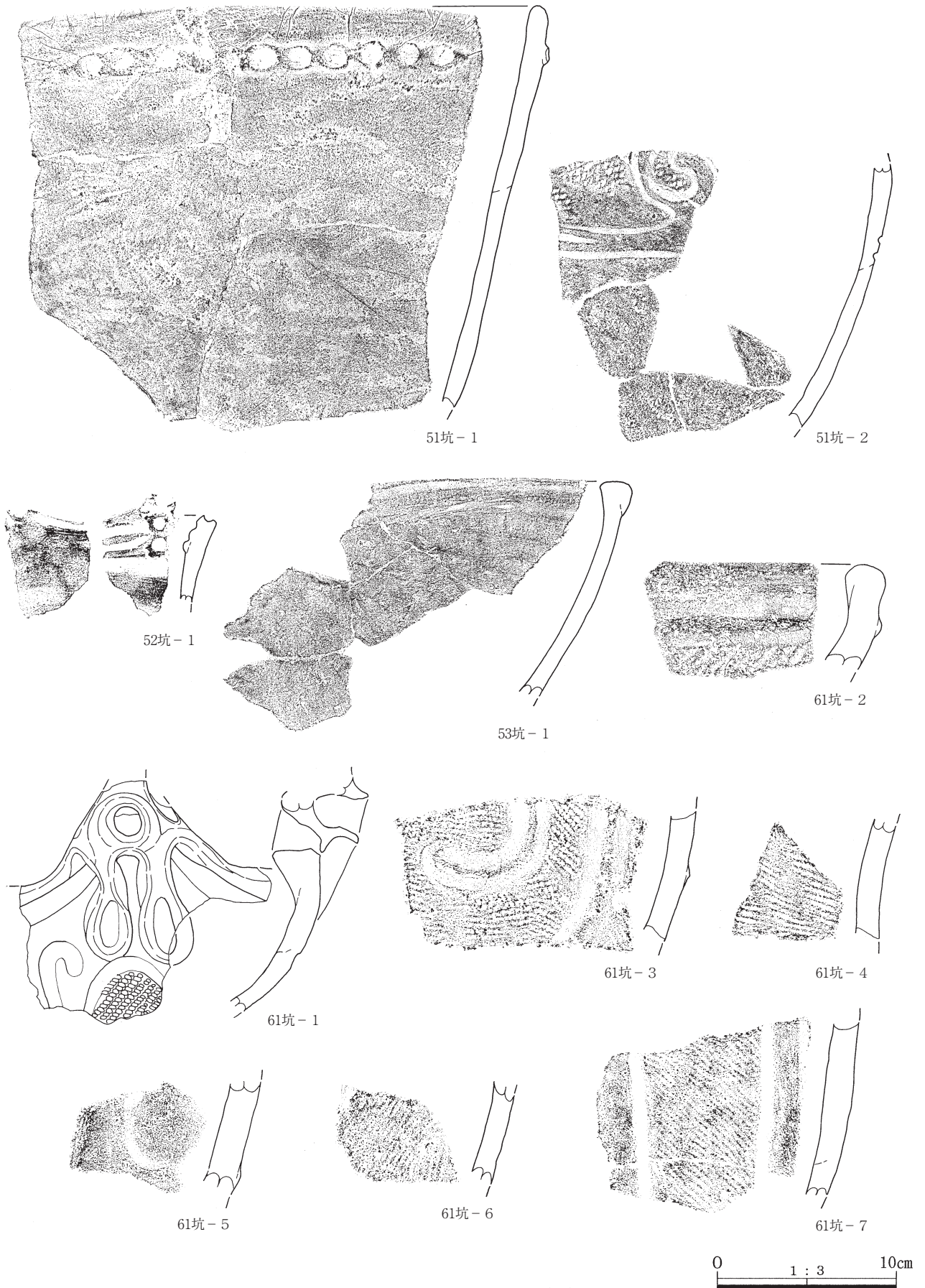
49坑-1



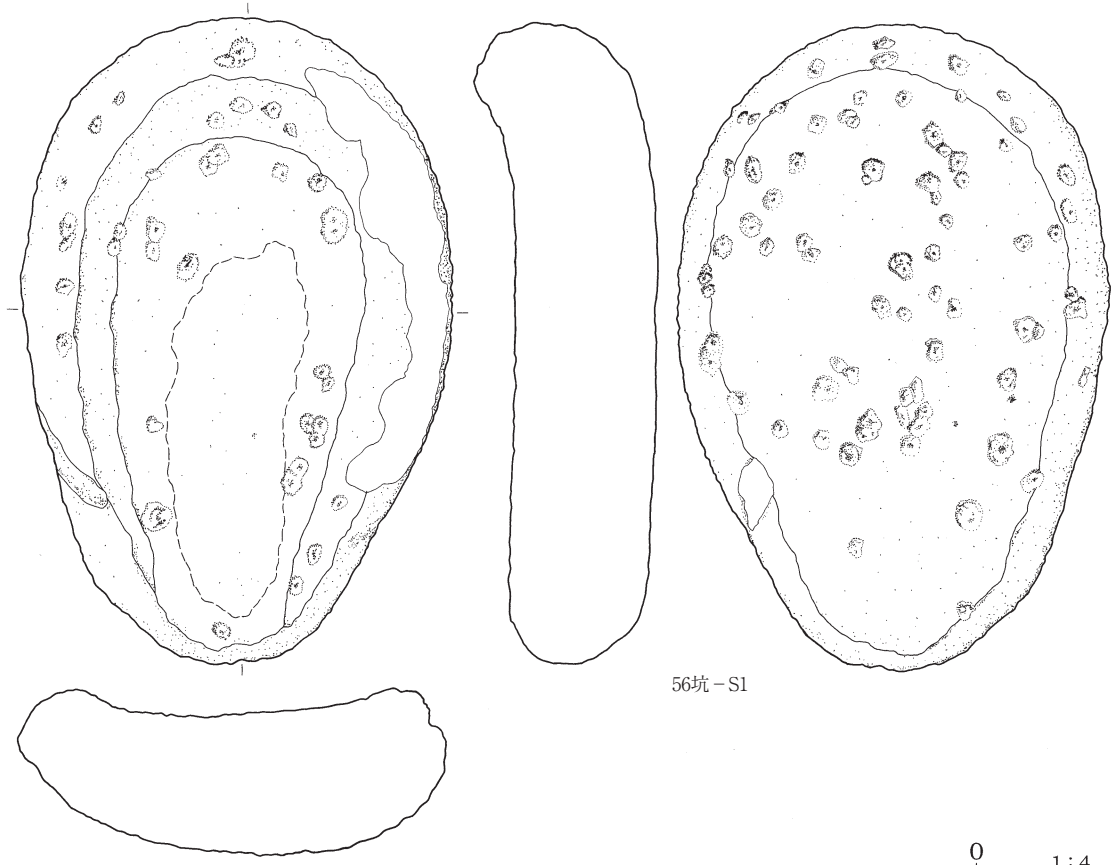
49坑-2



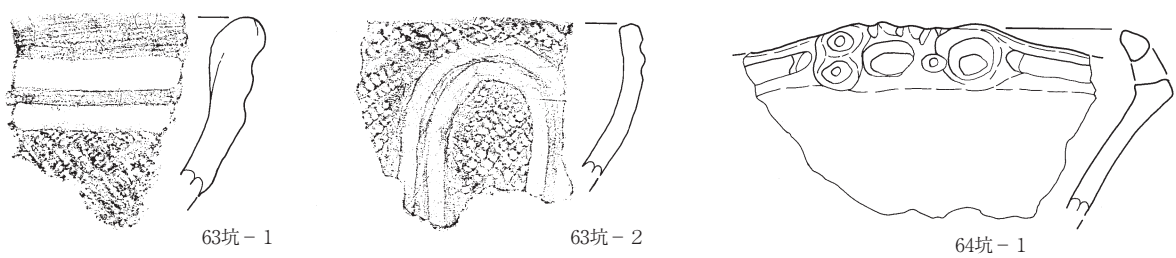
第132図 95区土坑出土遺物 (2)



第133図 95区土坑出土遺物(3)



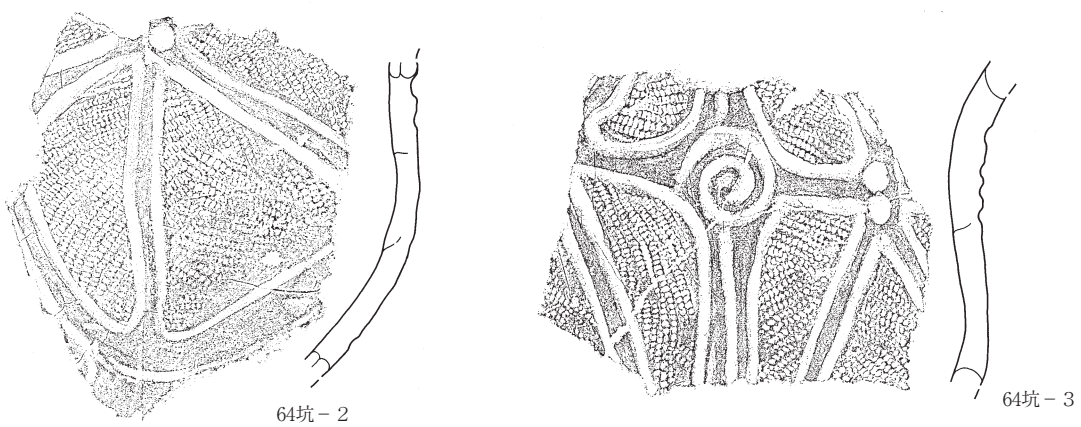
56坑-S1



63坑-1

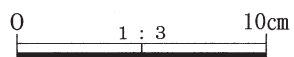
63坑-2

64坑-1

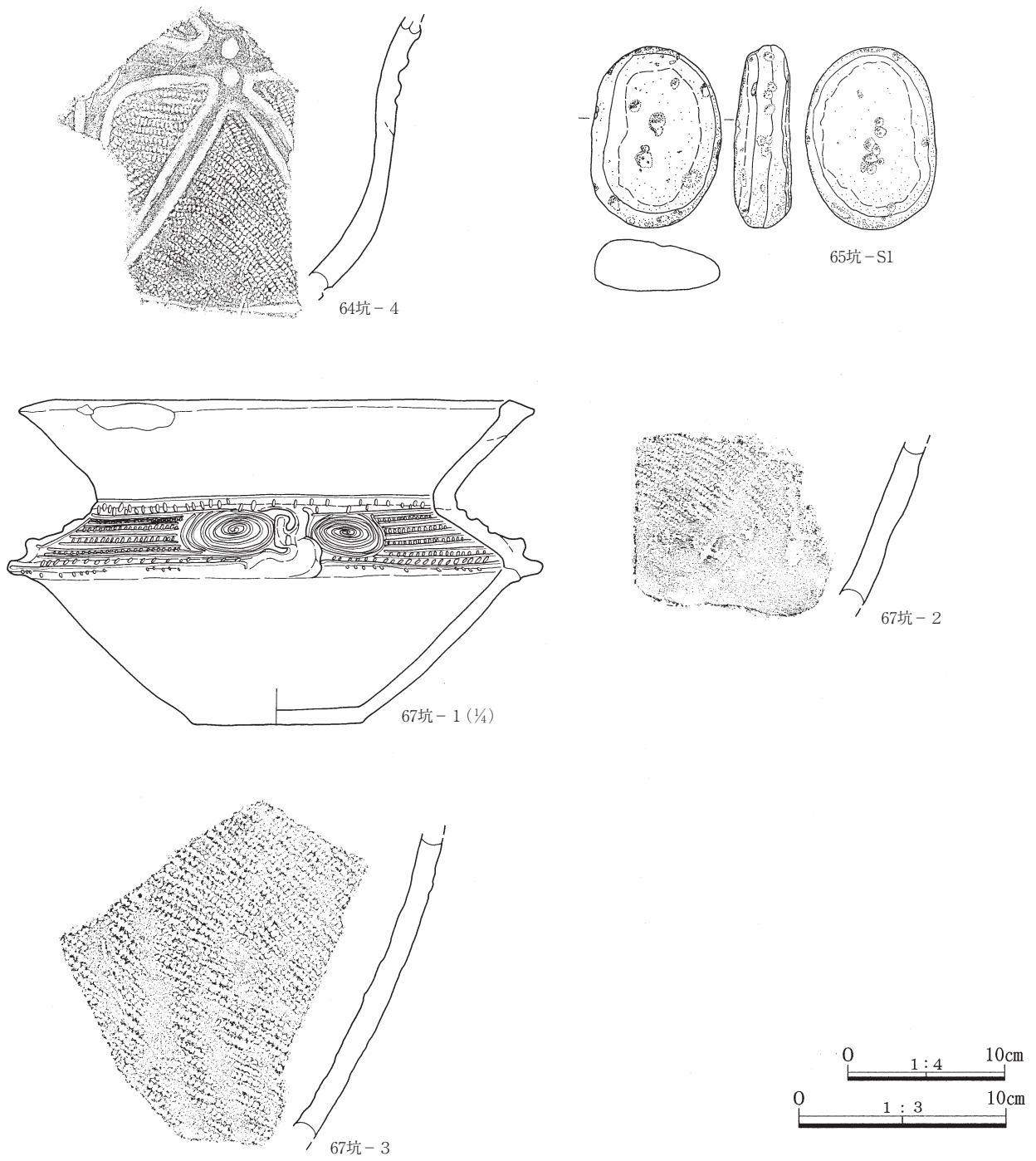


64坑-2

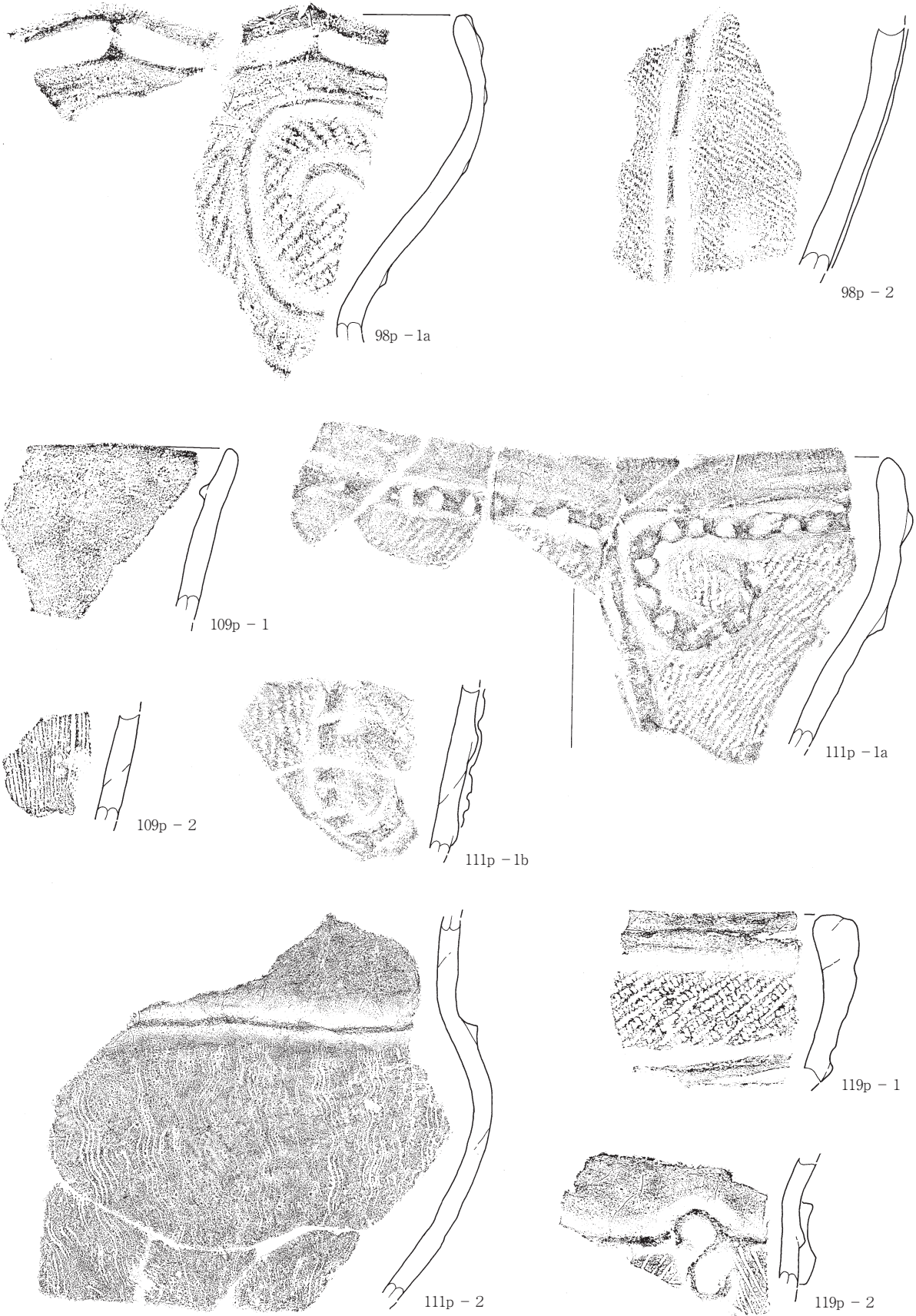
64坑-3



第134図 95区土坑出土遺物(4)

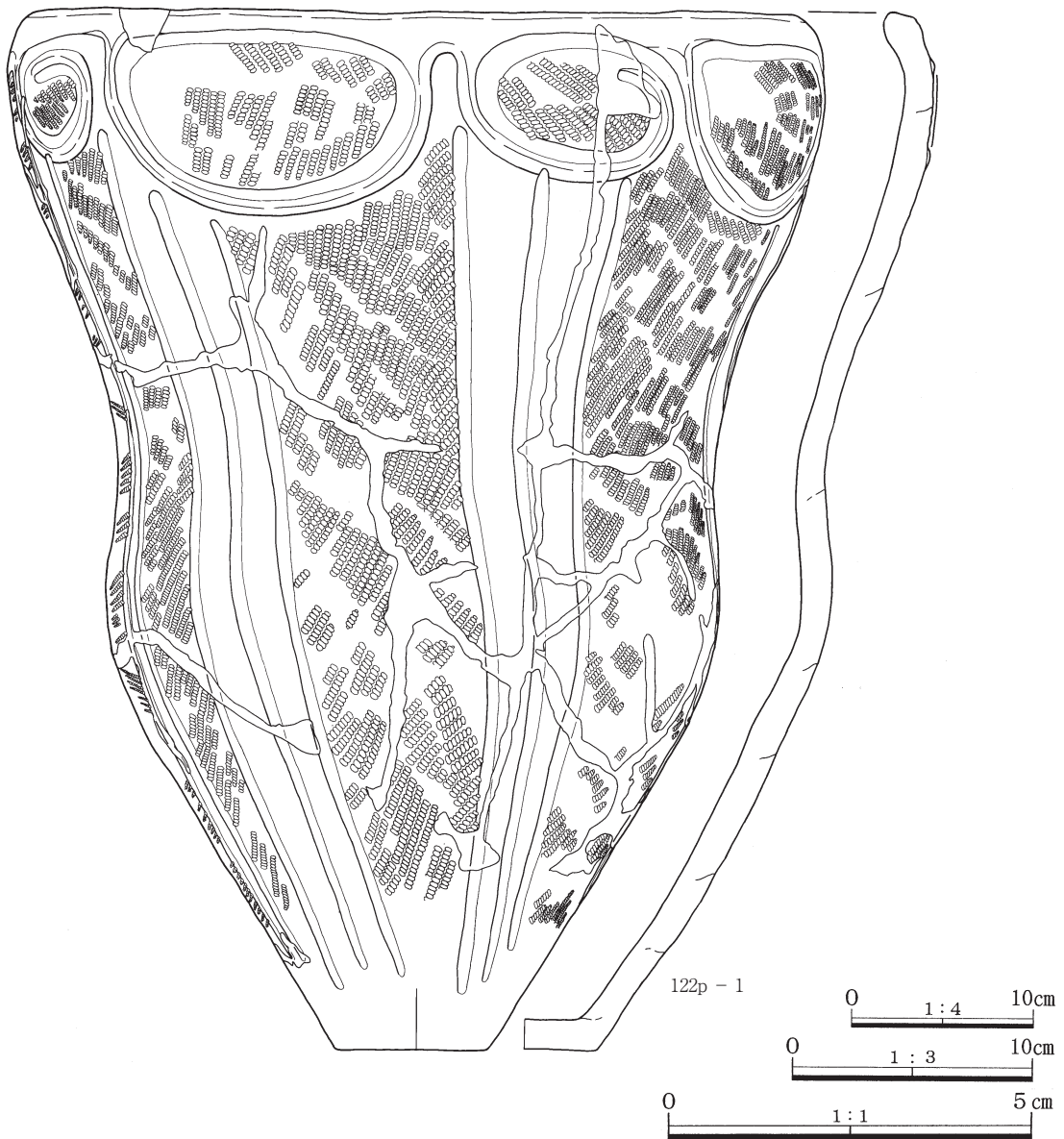
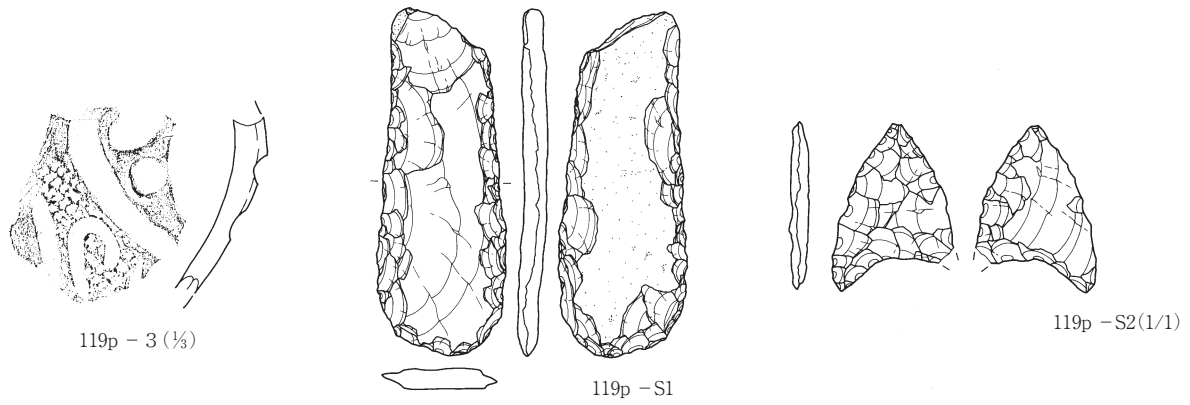


第135図 95区土坑出土遺物 (5)

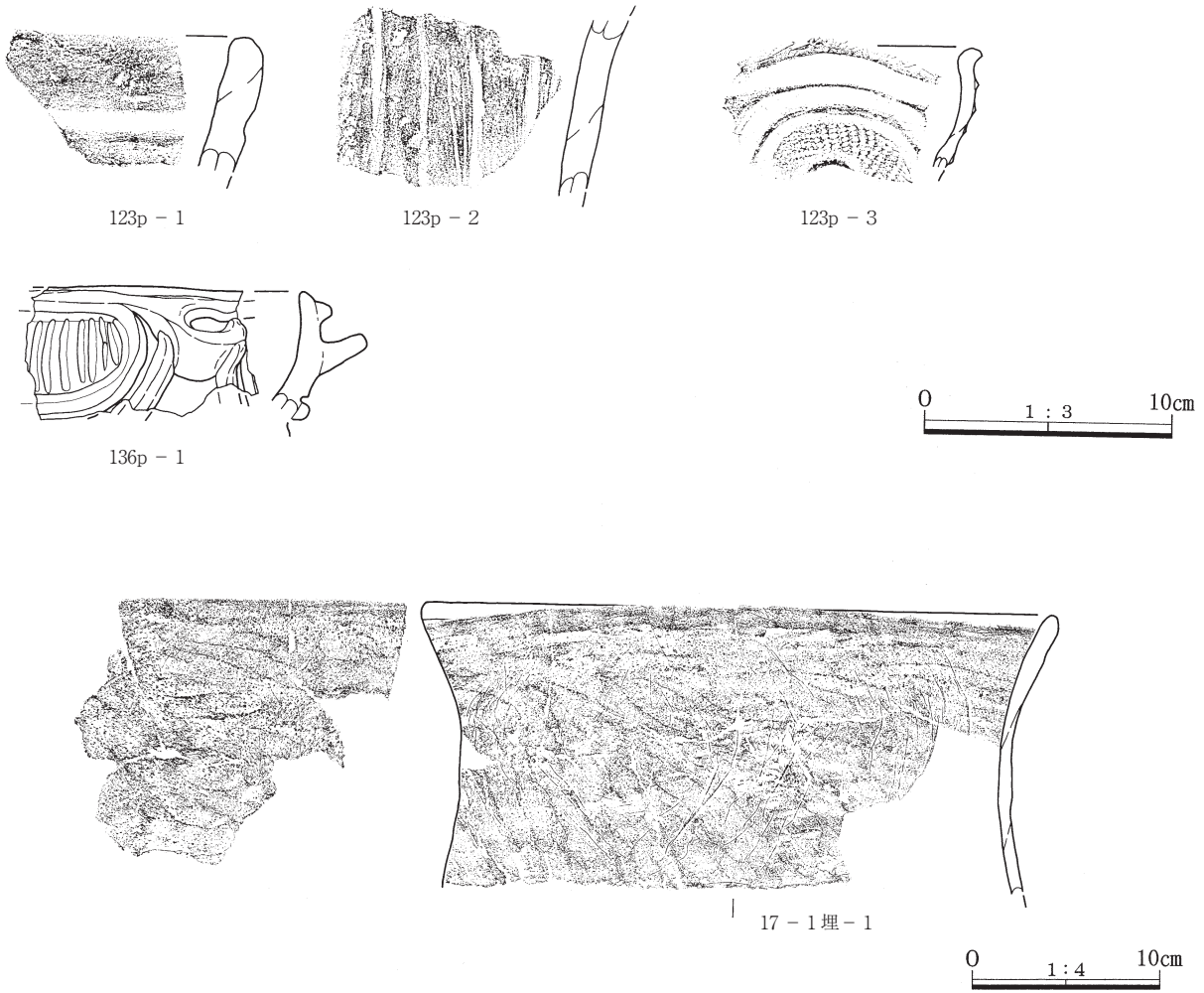


第136図 95区ピット出土遺物(1)

0 1 : 3 10cm



第137図 95区ピット出土遺物 (2)



第138図 95区ピット出土遺物（3）・17区埋設土器

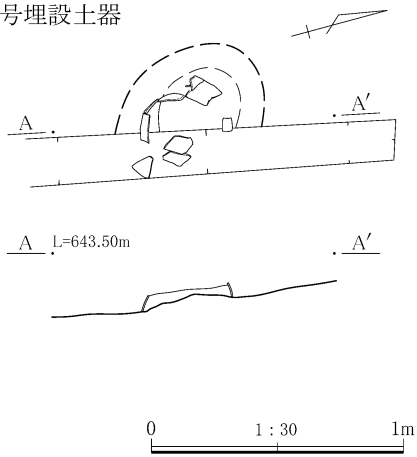
17区埋設土器

17区B-15グリッドで1点のみ出土した土器である。周辺に関連を窺わせる遺構は無く、単独の出土といえよう。口縁部を下にした逆位で出土しており、埋設に伴う掘り込み、焼土・炭化物といった伴出例は無い。口縁部も全周はせず、破片がまとまる傾向が見られた。無文の堀之内式の深鉢であるが、文様要素も無く詳細は不明である。周辺に該期遺構はない。

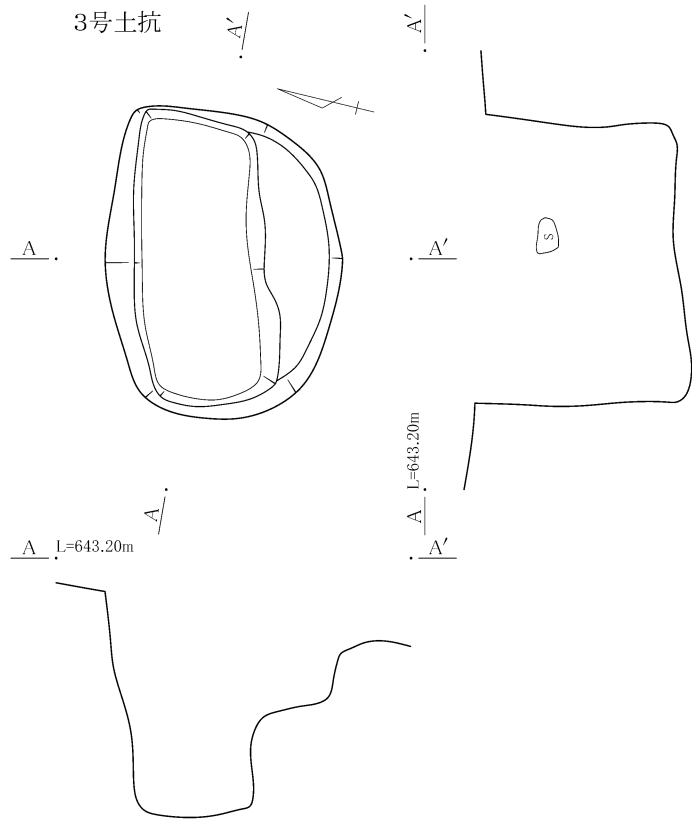
調査時では埋甕として取り上げられているが、いわゆる集落内の埋甕とは考えられず、地点的に散在する埋設土器あるいは斜面包含層の一部に見られる個体がまとまった出土と考えておきたい。

第3章 検出された遺構と遺物

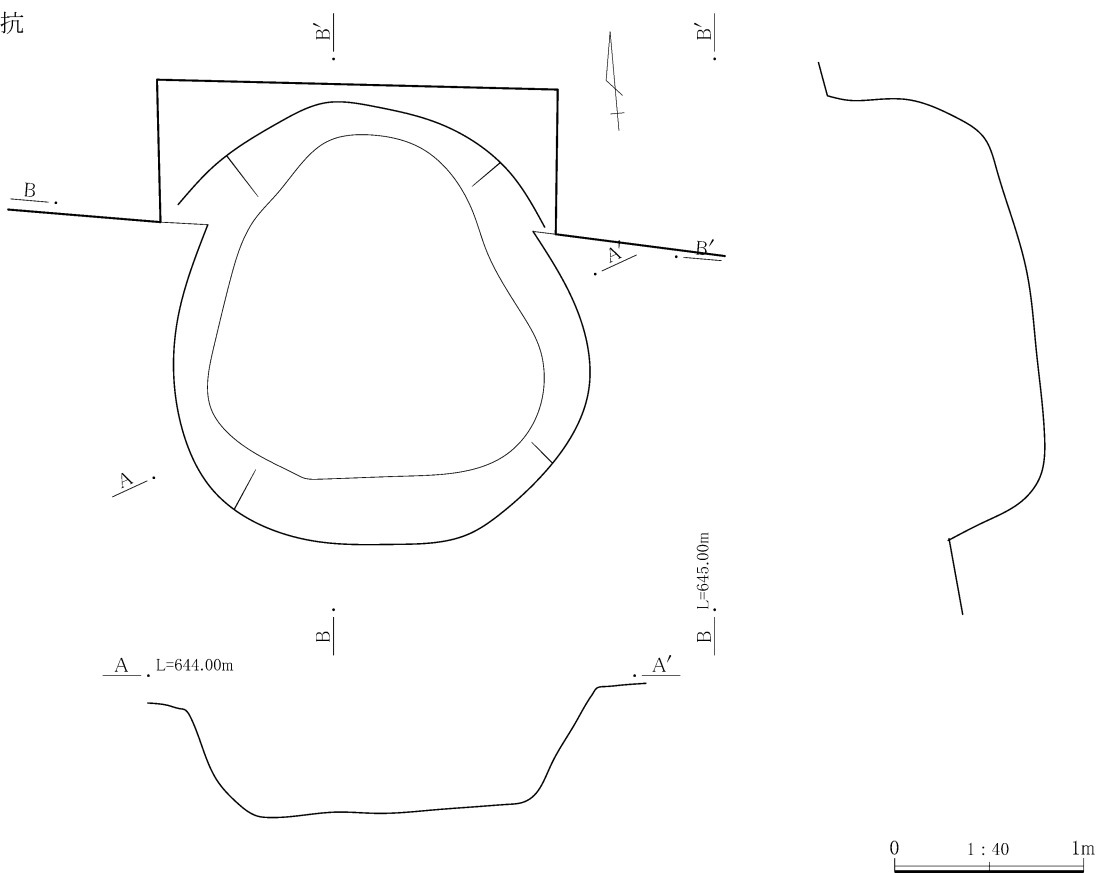
1号埋設土器



3号土坑

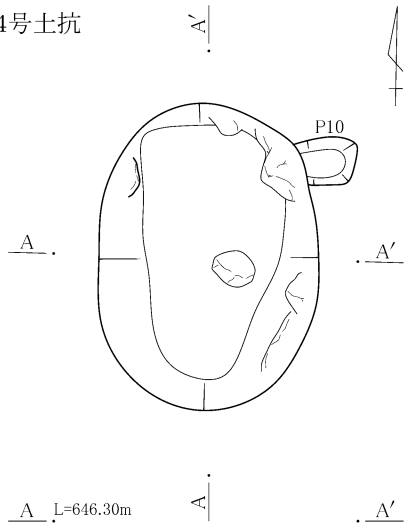


2号土坑

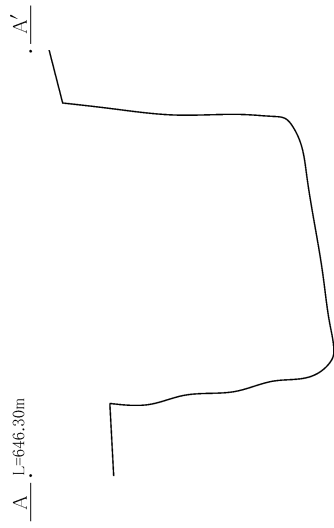


第139図 17区1号埋設土器・土坑(1)

4号土坑

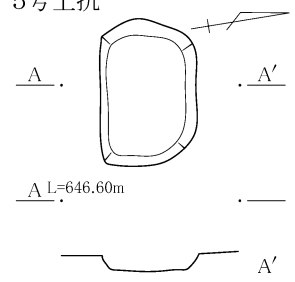


A L=646.30m



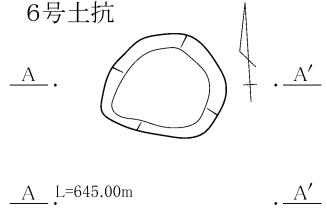
A L=646.30m

5号土坑



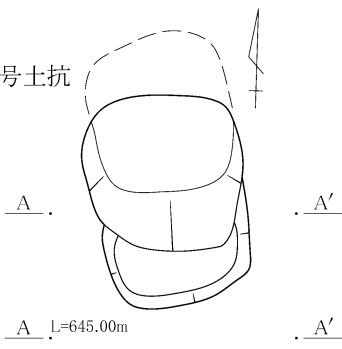
A L=646.60m

6号土坑



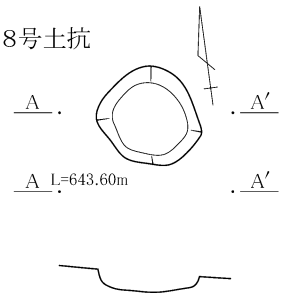
A L=645.00m

7号土坑



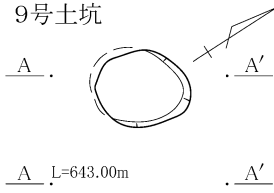
A L=645.00m

8号土坑



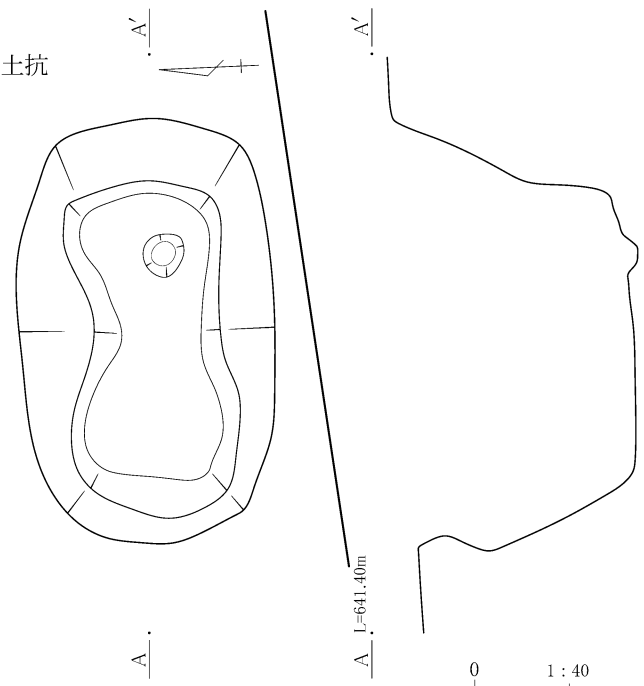
A L=643.60m

9号土坑



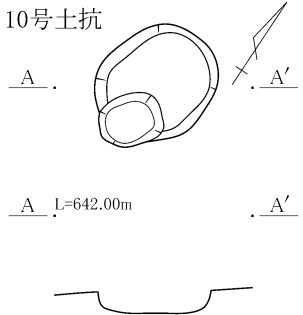
A L=643.00m

11号土坑



A L=641.40m

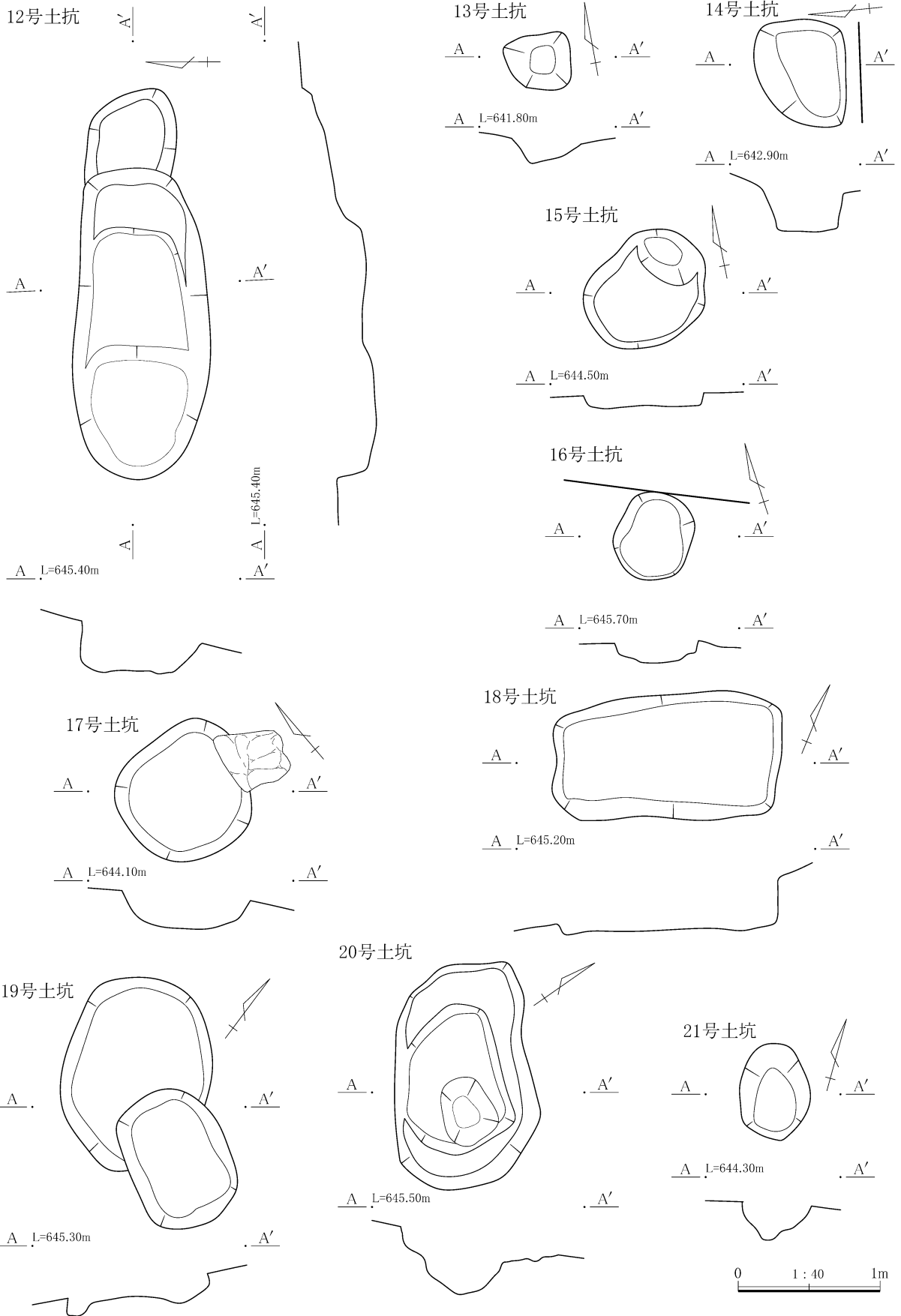
10号土坑



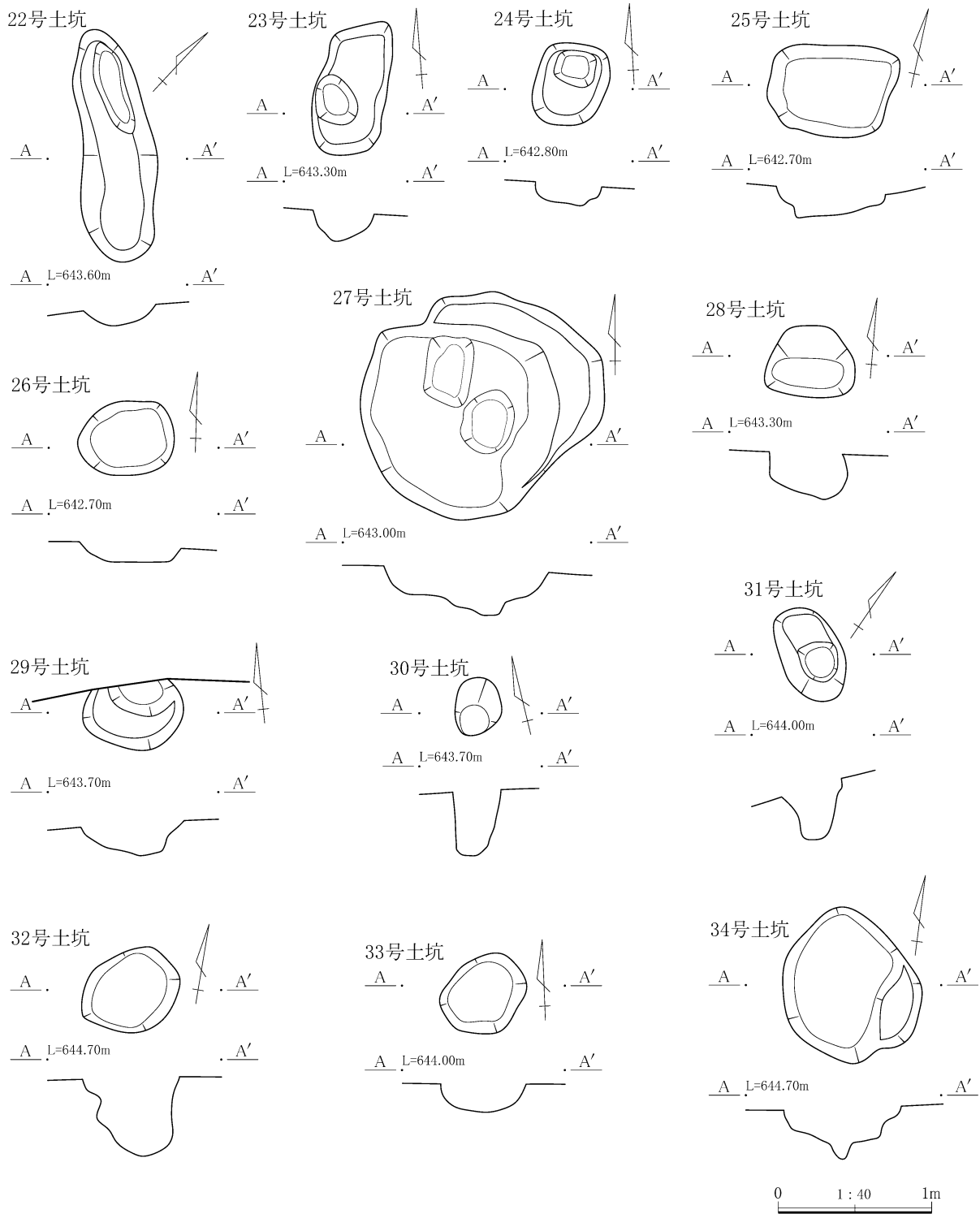
A L=642.00m

0 1:40 1m

第140图 17区土坑(2)

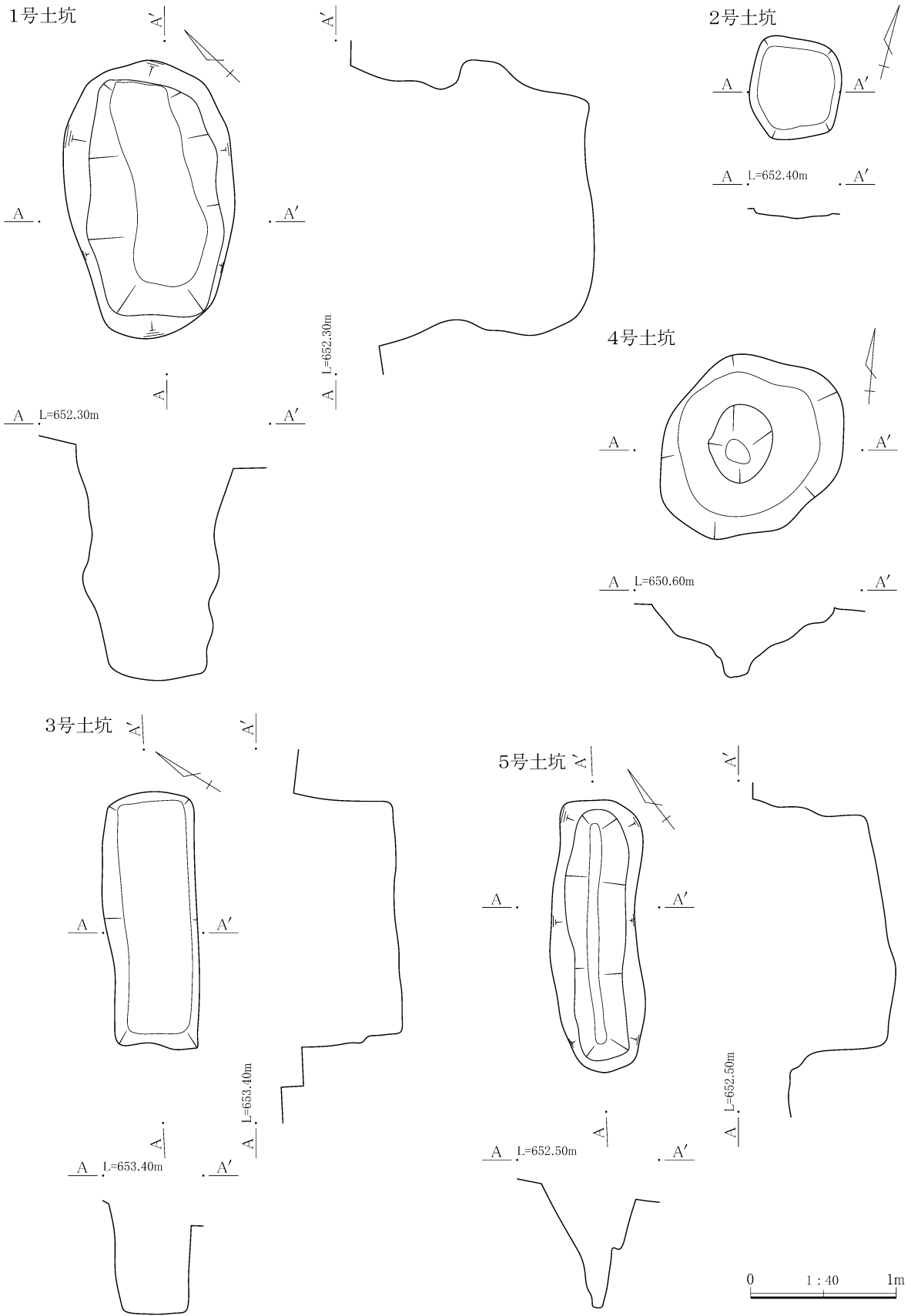


第141図 17区土坑 (3)

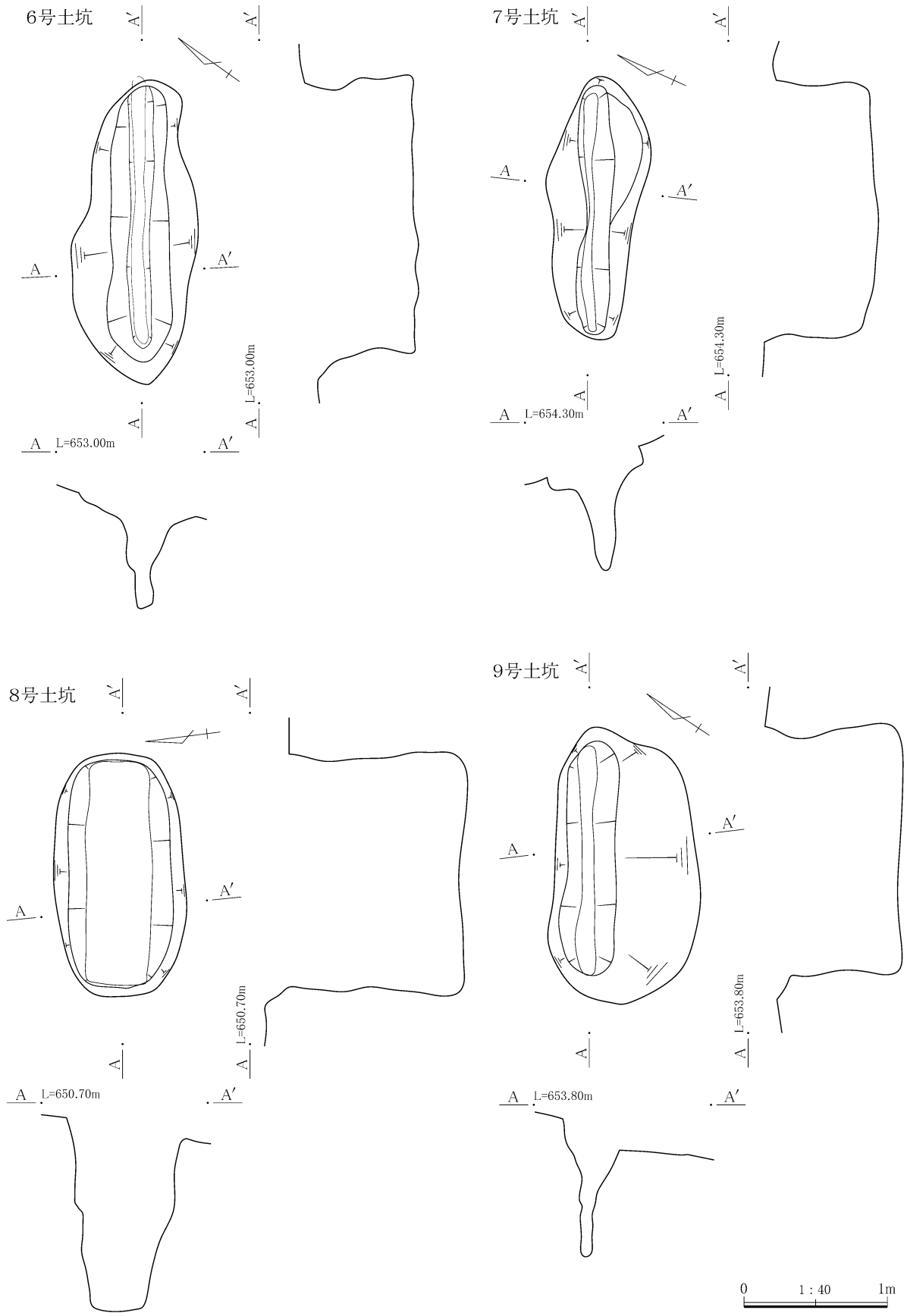


第142図 17区土坑 (4)

第3章 検出された遺構と遺物

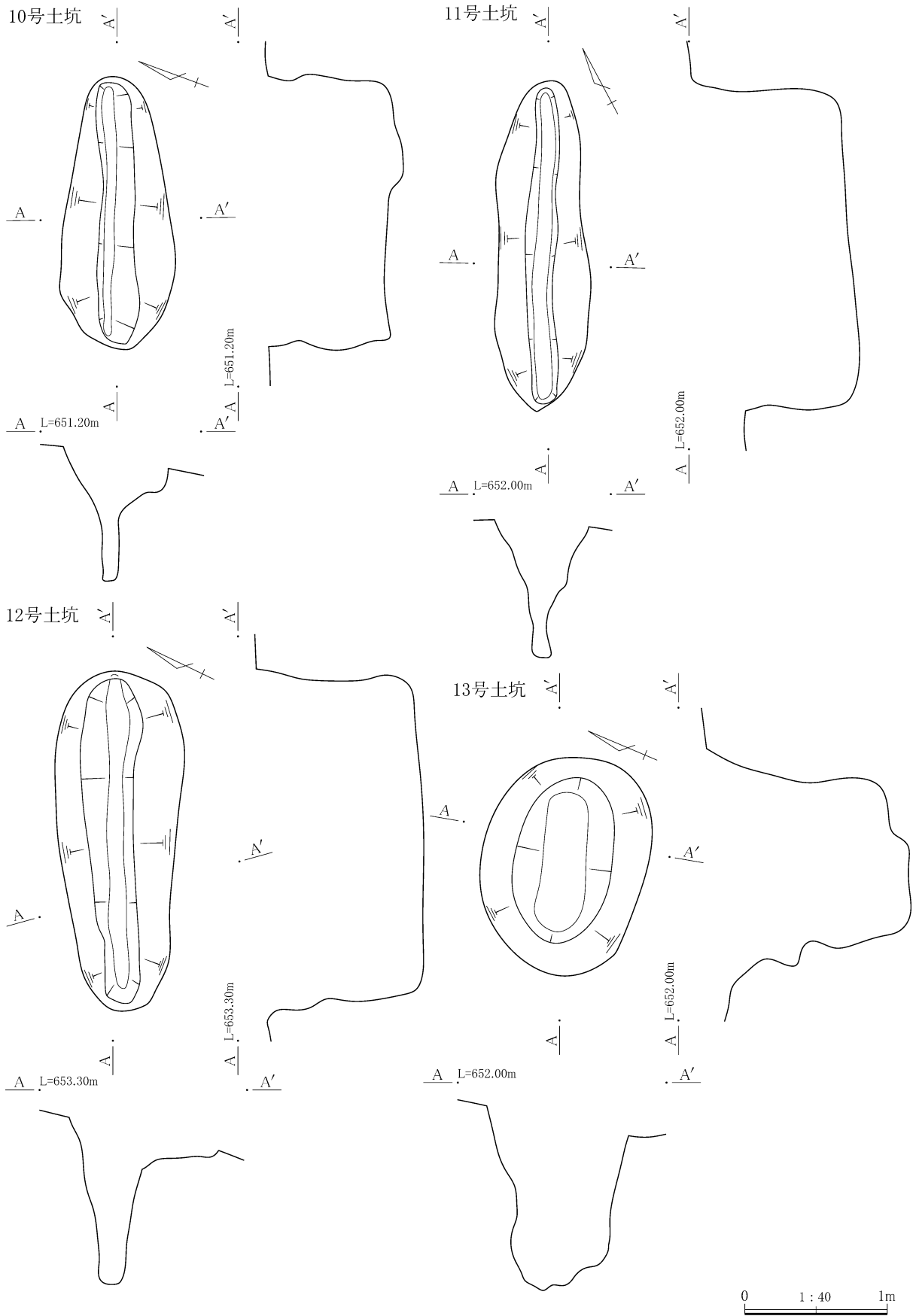


第143図 18区土坑 (1)

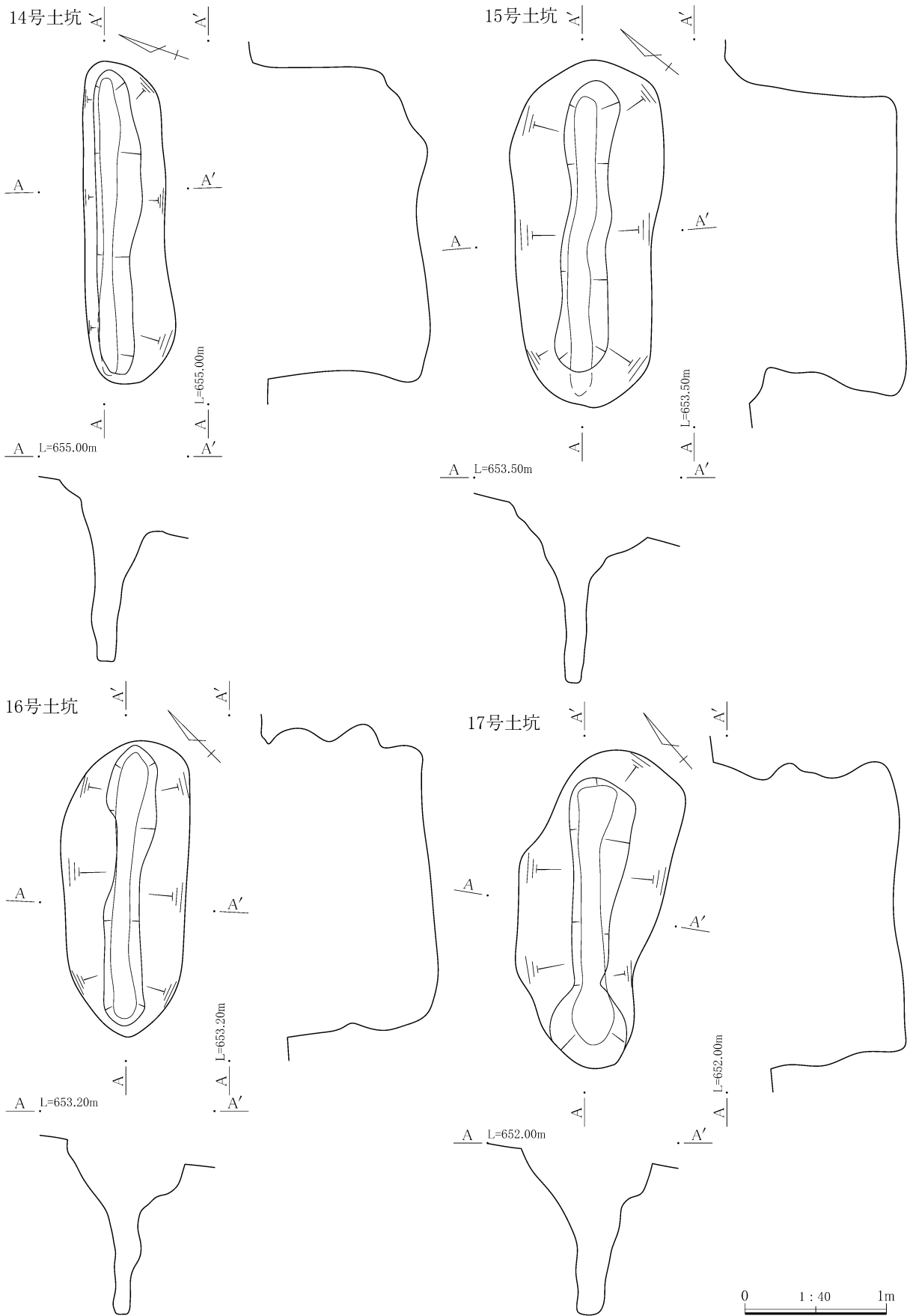


第144図 18区土坑 (2)

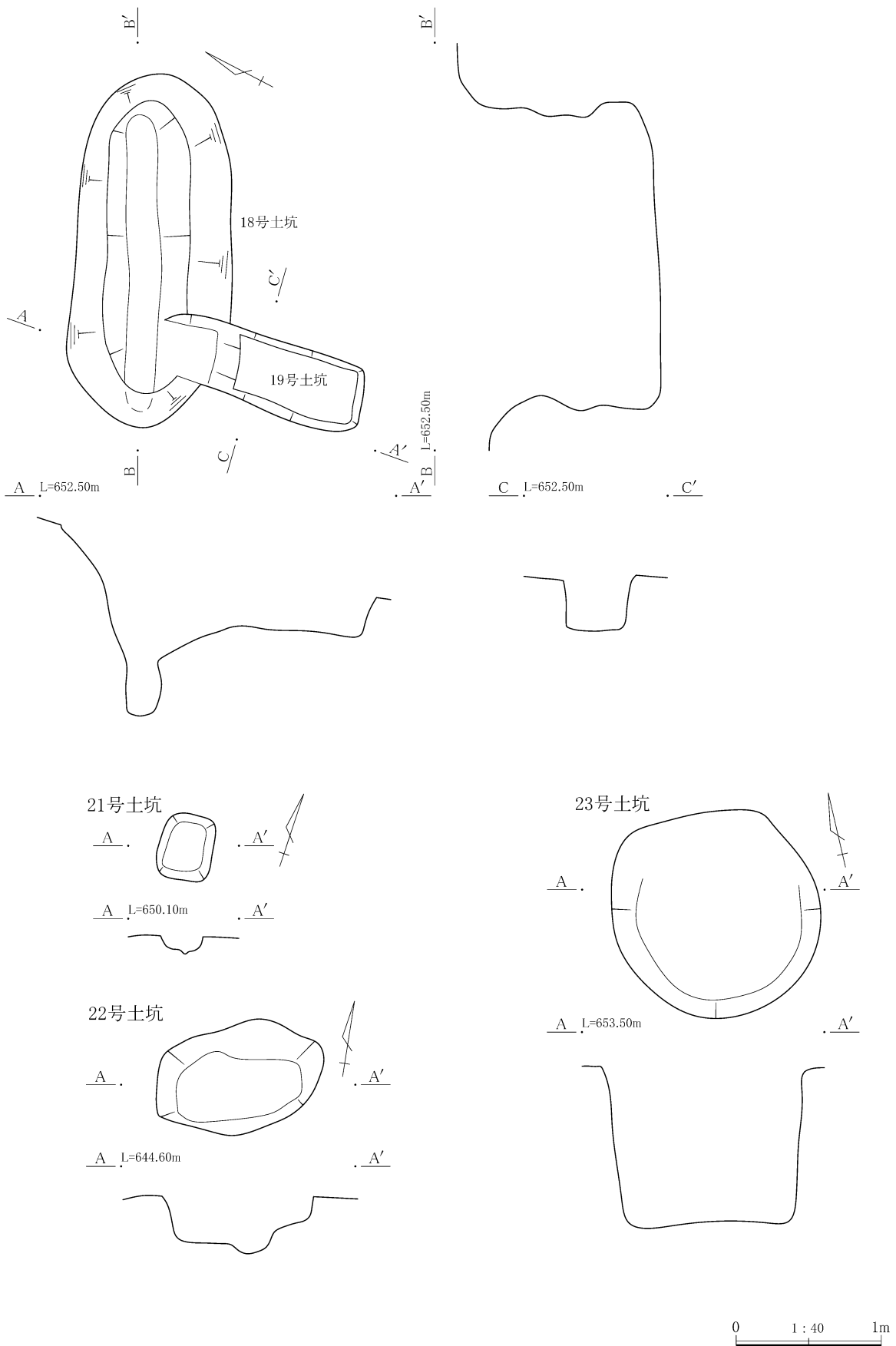
第3章 検出された遺構と遺物



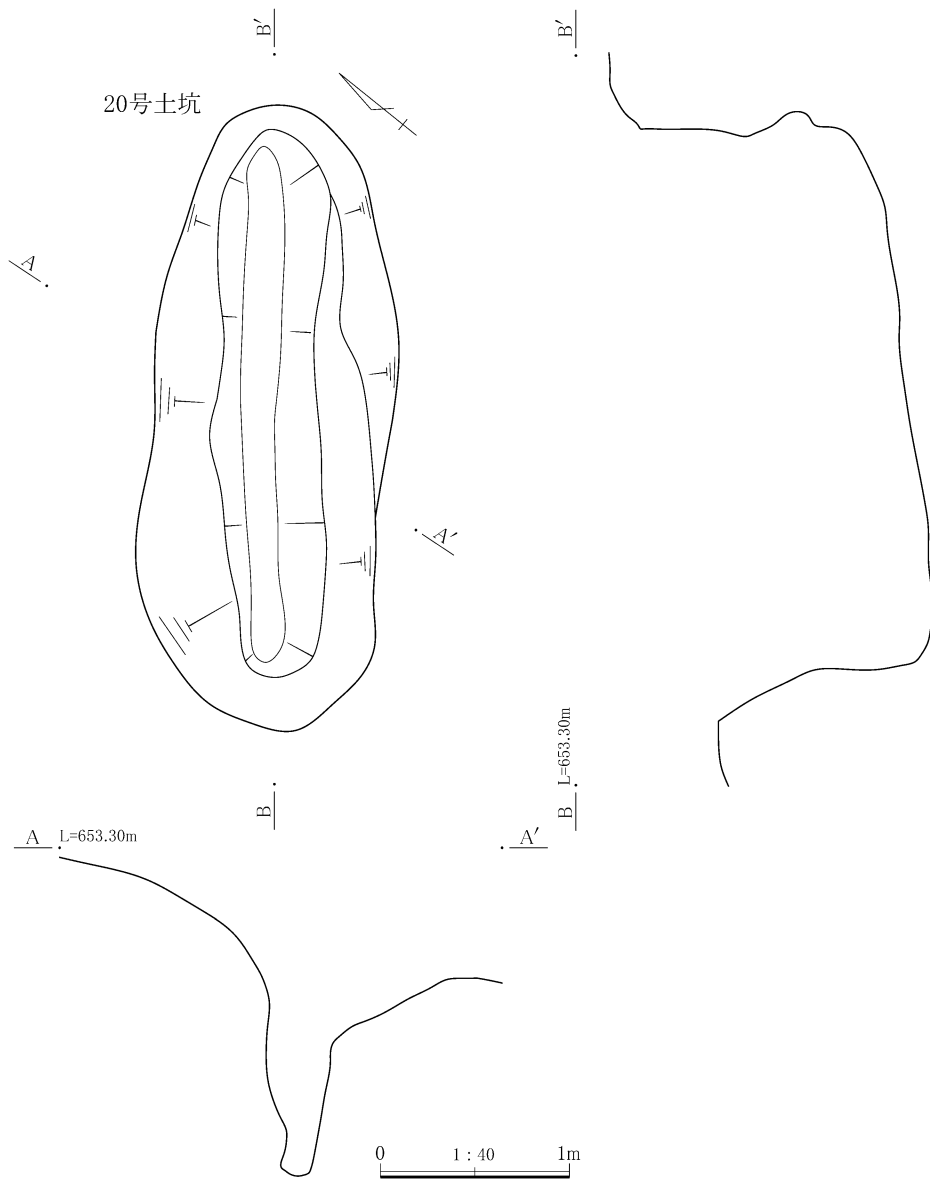
第145図 18区土坑 (3)



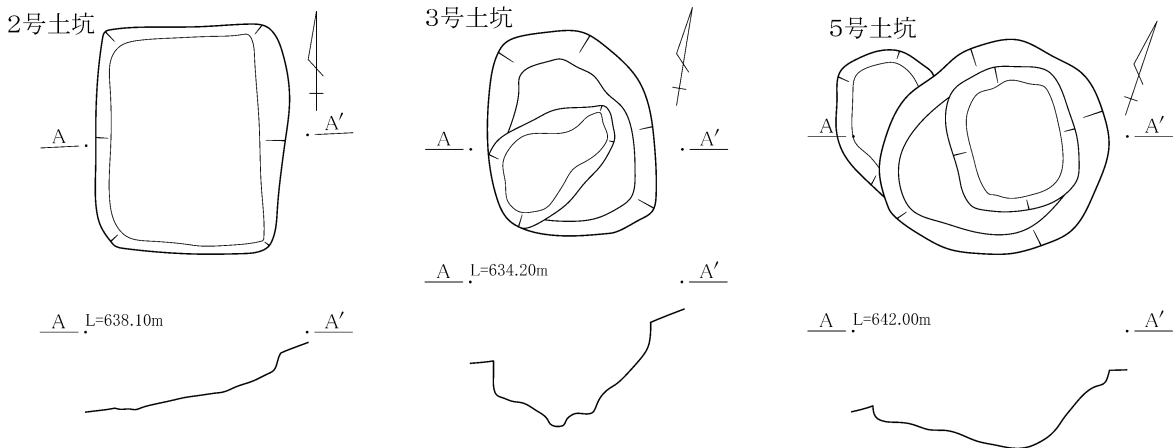
第146図 18区土坑 (4)



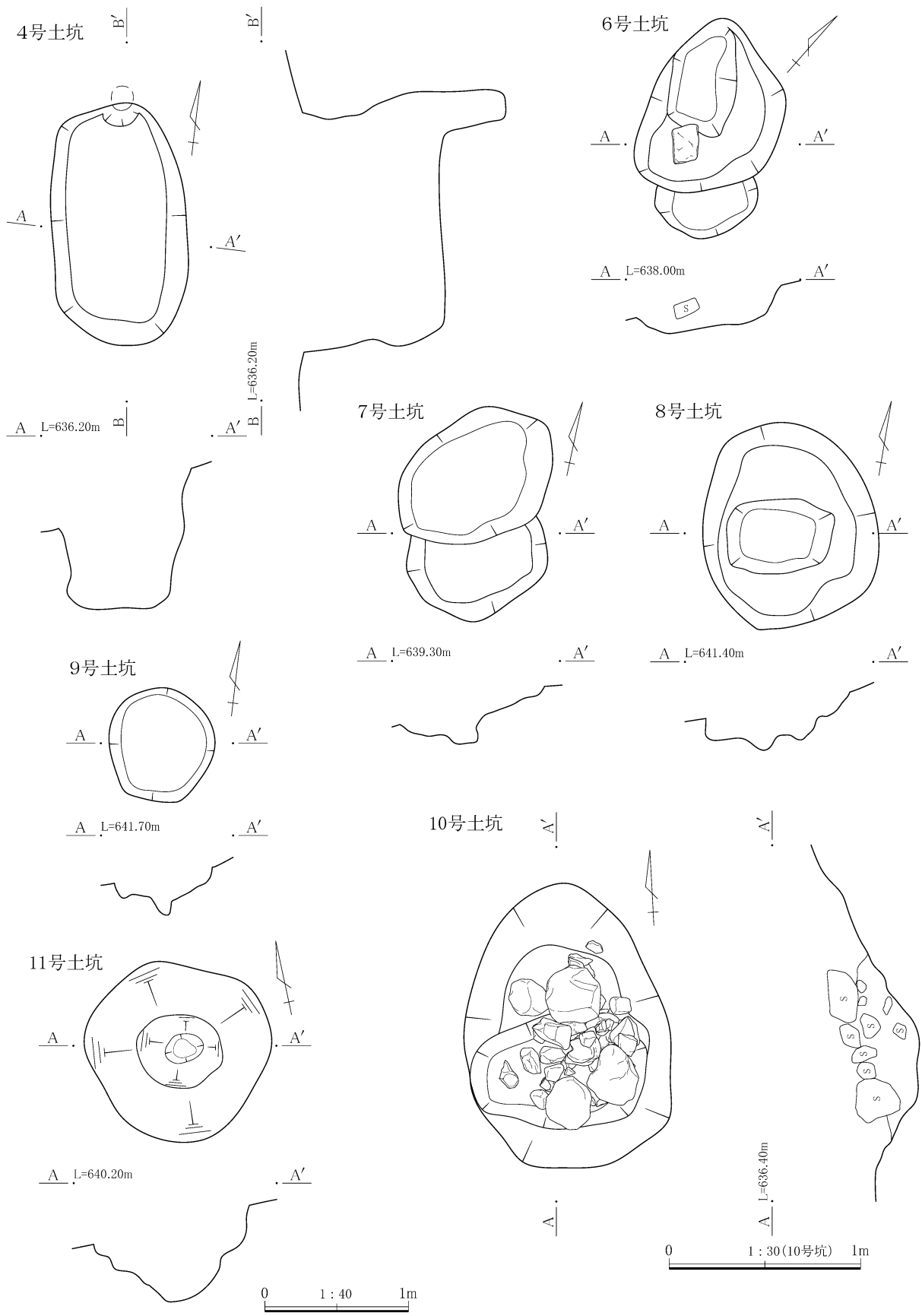
第147図 18区土坑 (5)



19区



第148図 18区土坑(6)・19区土坑(1)



第149図 19区土坑(2)

5. 列石

5区北側で調査した。表土直下の黒色土中の検出である。調査区北東壁のM-4グリッドから東西方向に延びR-3グリッドまで、大型の自然石を主体とした小規模な列石である。距離にして約23m、幅は約2m程である。平安時代住居跡である54号住居跡や陥穴状土坑である717号土坑が重なる。

列石を構成する石は概ね川原石が主体で、板石が少量混在していた。多孔石や石皿といった大型石器の出土も客体的であり列石を構成する出土状態ではない。また、出土土器も完形個体や埋設土器も伴っていない。

出土土器の分布も偏りが見られず、全体的に散漫な出土であり、かつ時間幅のある土器資料であるため、本列石遺構に伴う例とは考えずに、遺構外出土土器として掲載した。主な遺物としたら、遺構外出土土器の5・9～11・16・27・46・47・54・58・61・75・85・92であり、加曾利EⅣ式から堀之内2式新と、かなりの時間幅を見る。後期前葉の資料が多いがこれは5区全体の傾向であり、列石に限るものでもない。

下部遺構も上位の列石に関連する土坑墓や配石墓も見られなかった。しかしながら、列石遺構中央部にあたる箇所は、5区1号建物跡が存在する箇所であり、また周辺は後期前葉～中葉の遺構密集地点でもある。あるいは建物跡を中心とした、列石施設が存在していたのかもしれない。

6. 遺構外出土遺物

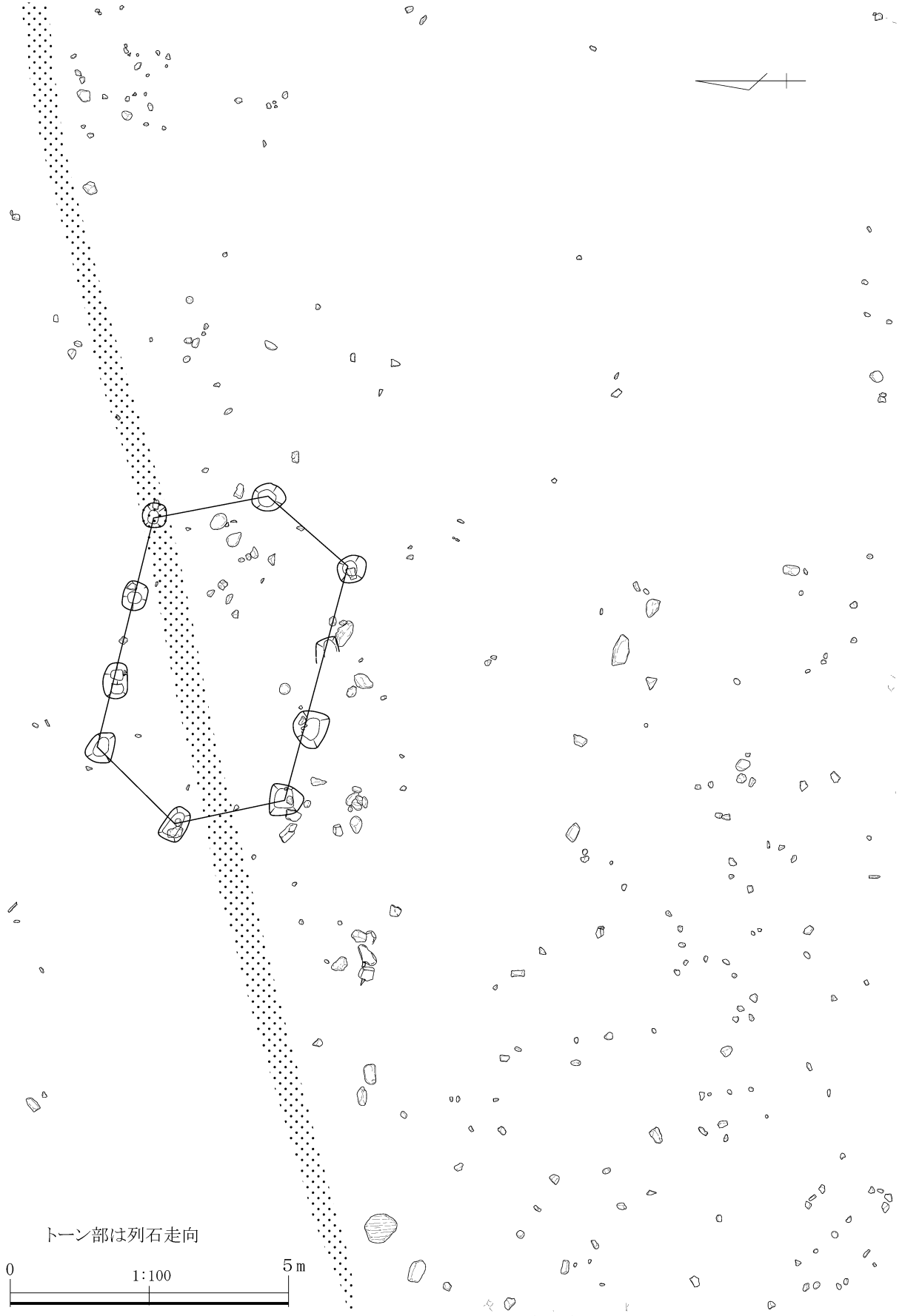
平成14年度の調査は、洪積台地上の調査が主であり、集落に近接する斜面包含層（ステ場）は調査していない。台地上での遺物出土量は多かったが、竪穴住居跡や土坑の調査のため、包含層としての多量の出土遺物は見えていない。例えば先に報告書刊行となった「長野原一本松遺跡（2）」に掲載される96区の斜面包含層遺物は完形土器も多く、ステ場という集落内の一施設として位置付けられよう。

本書で、遺構外出土遺物として扱う資料は、殆どが第1面から第2面の調査を進める際の、遺構確認時の出土遺物である。そのため、殆どの遺物が5区・95区で検出された集落跡とほぼ同時期の所産とみることができ、かつ破片資料が殆どである。本来ならば、各資料に細別分類項目をもって、本遺跡の全体的な傾向を図るべきであるが、集落跡とほぼ同時期であることから、本項では遺物の詳細を記述することは控え、表掲載となった遺物観察表・計測表に譲りたい。

ここでは、主立った遺物に注意を払い、出土地点から、全体的な傾向を把握する。

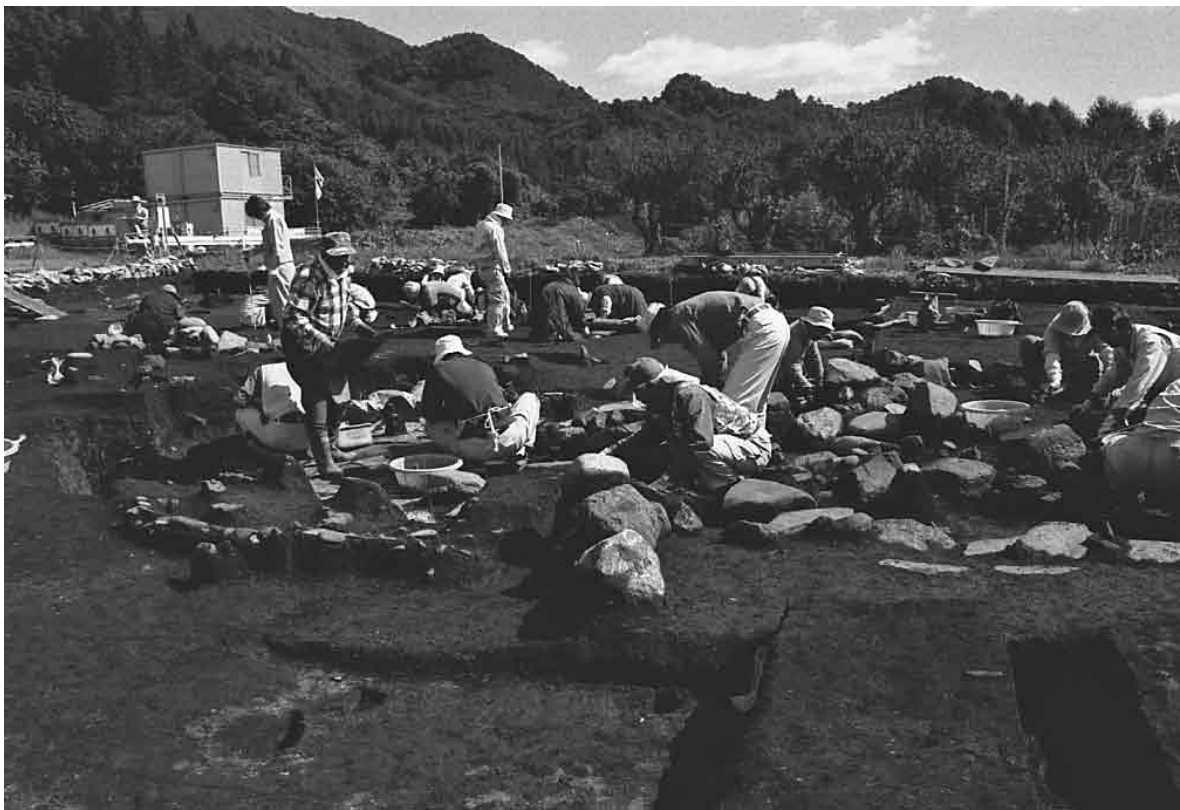
5区は後期土器片が目立つ。その中で中期浅鉢である1は調査区北側のQ-5グリッドで破片ながらまとまった出土を見る。後期初頭の称名寺式もやや客体的な存在である。その中で、9・10はO-3グリッドで58住や67住の存在を示唆した。堀之内式は多く、特徴ある個体を選んだ。17や21・23・30～32・45・57・74・86・90は63号住などが密集するR-2グリッド出土である。18は60号住周辺で、19もP-2グリッドで60号住にあたる。18・19とも堀之内1式の中でもやや特色ある文様構成を呈す。その他では39・40・43・44・55・71・72・79・88等がP-2グリッド出土である。25・59・70・82はP-1グリッド出土であり65号住にあたる。29はS-5グリッドで集落跡から外れる地点である。P-3・P-4グリッドは5区1号建物跡や1号竪穴状遺構、9号炉等が群在し、詳細な時期は確定できないが、後期前葉以降と判断している。遺構外出土土器も46・47・54・85はP-3グリッド、P-4グリッドでは52・59・62・81・83・87・89・94等が出土しており、堀之内2式～加曾利B1段階の土器が目立つ。64はR-4グリッド出土で、遺構密度は少なく、集落域からやや外れる地点である。

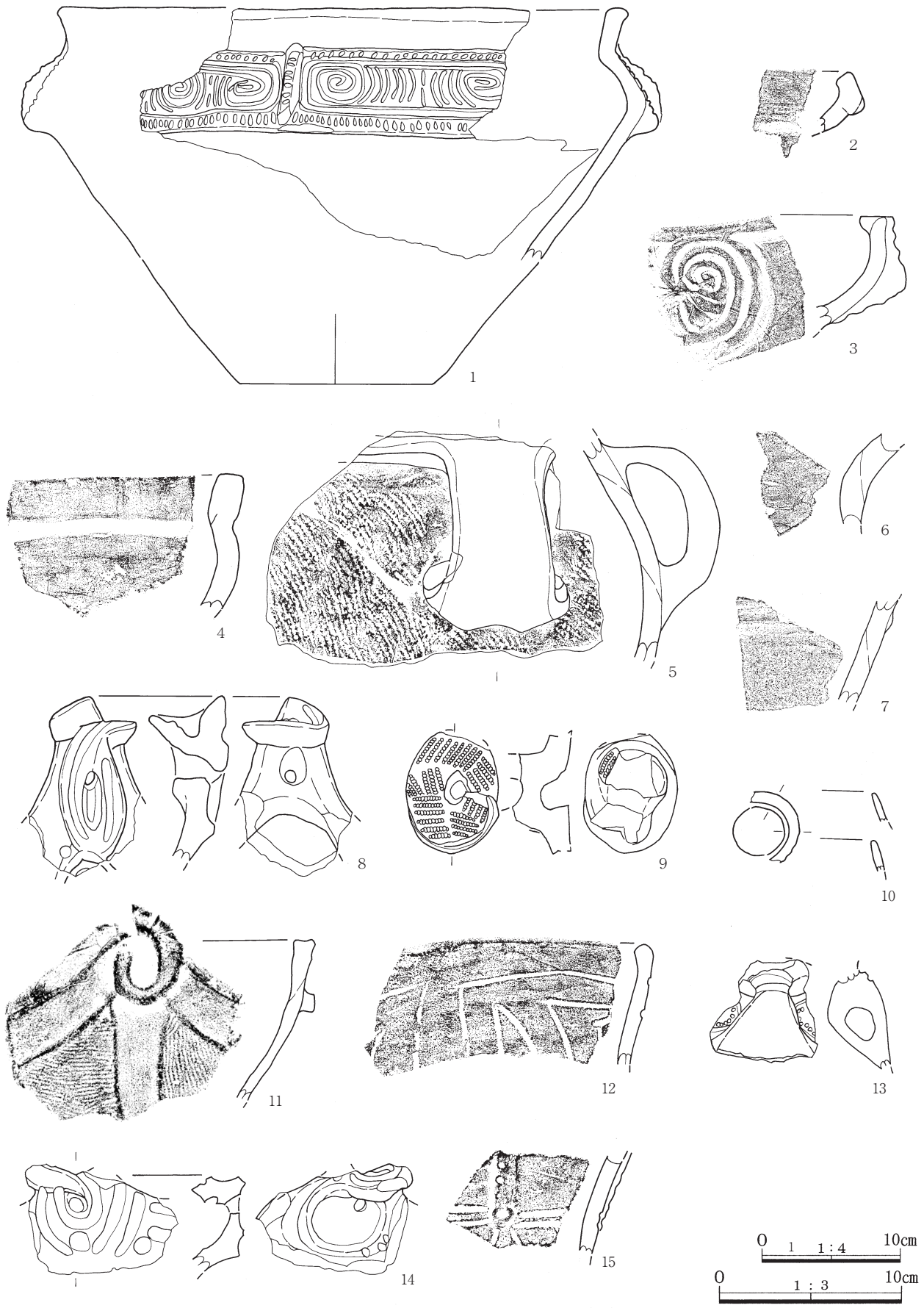
95区は中期の出土が多く、個体や大型の破片、特徴ある破片資料を中心に選んだ。主な土器の出土位置の確認をすると、1の深鉢は、S-21グリッドで、3の小型深鉢はQ-21グリッドで出土している。土坑が散



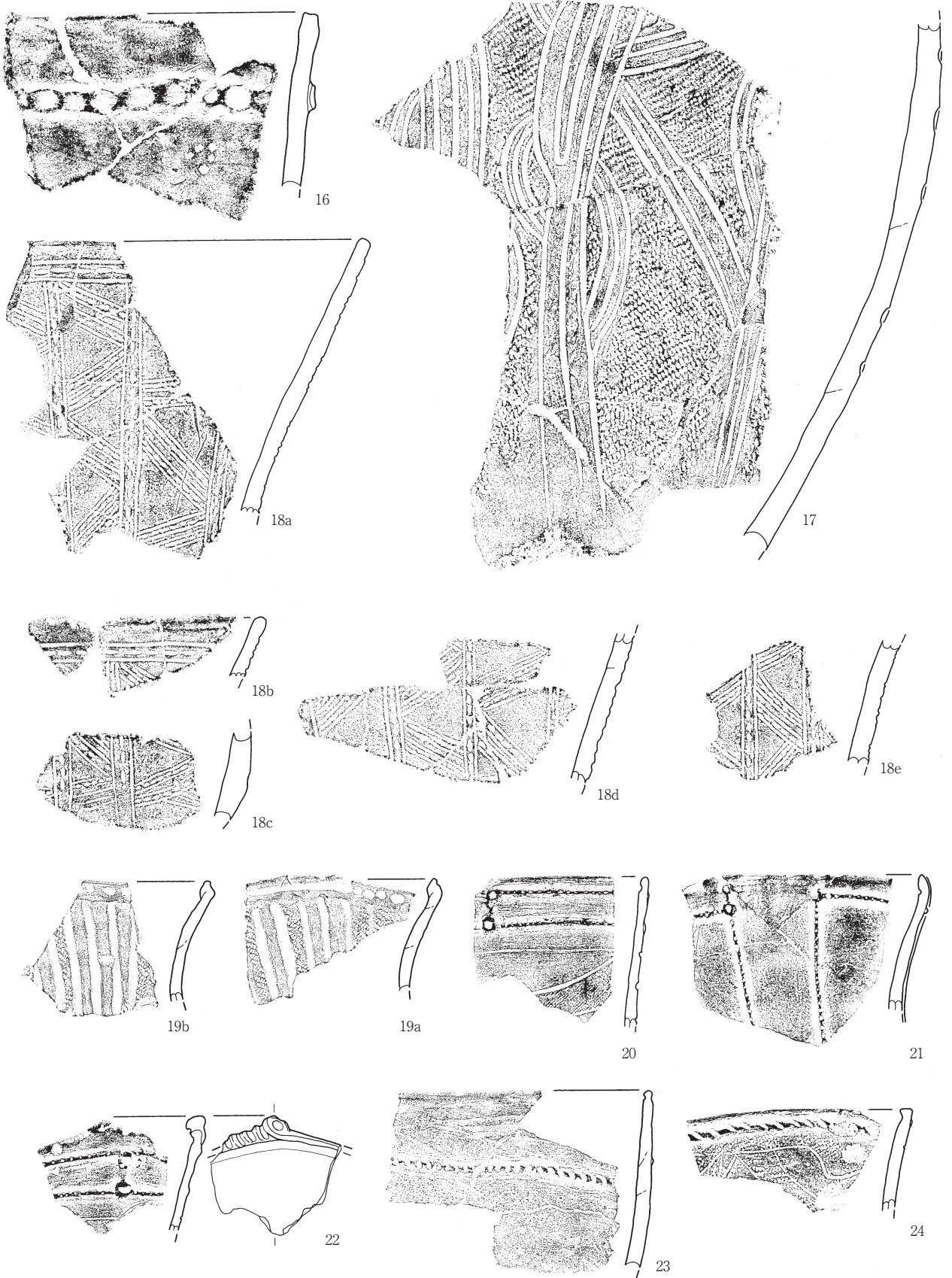
第150図 5区列石及び1号建物跡

在する箇所、遺構に伴う出土状態ではない。斜面包含層の一部にかかるのであろうか。同様に、2・5・10もS-22グリッドでまとまって出土している。10号住に関連する地点ではなく、共伴資料ではないが、斜面包含層出土と考えたい。11に関しては同一個体片が、S-23・24に散らばる。これは、10号住や95区1号建物跡に関わる土器かもしれない。他に同グリッド出土土器は、11・16・28・36が挙げられ、全て中期後葉である。N-20グリッド出土土器も多い。4・9・12・14・17・27・35である。6号住が近接し、南側にも住居跡群が展開することから、中期住居群の上層包含層と見たい。後期土器片も少なからず出土している。称名寺式とした39~41はT-20グリッド周辺で出土しており、中期土器と同様の分布状況を示す。一方堀之内式以降になると、標高が高い23~25列出土となる。これは5区で多く見ることのできた後期敷石住居跡群の影響と思われる。

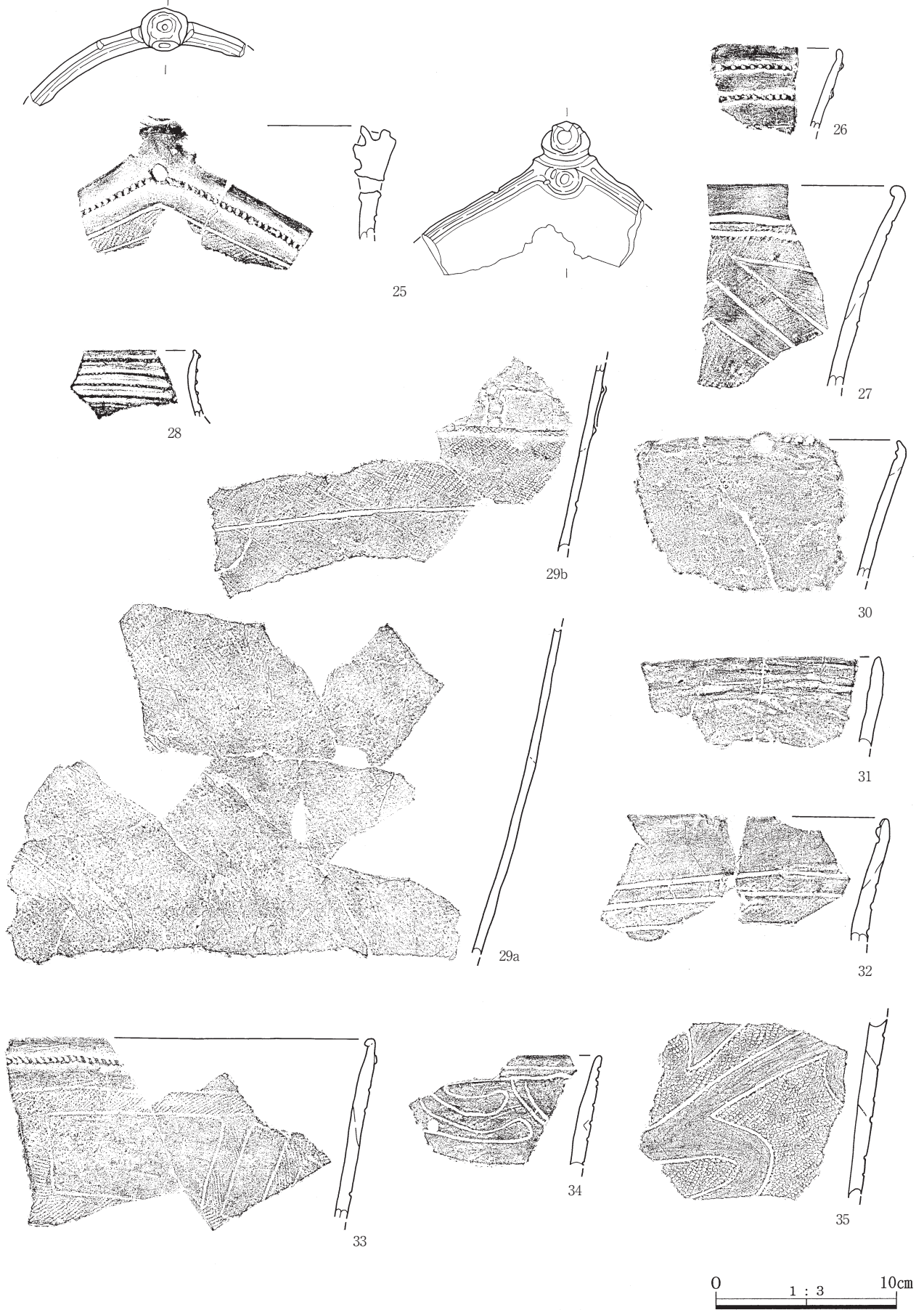




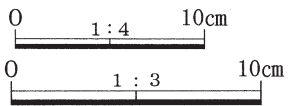
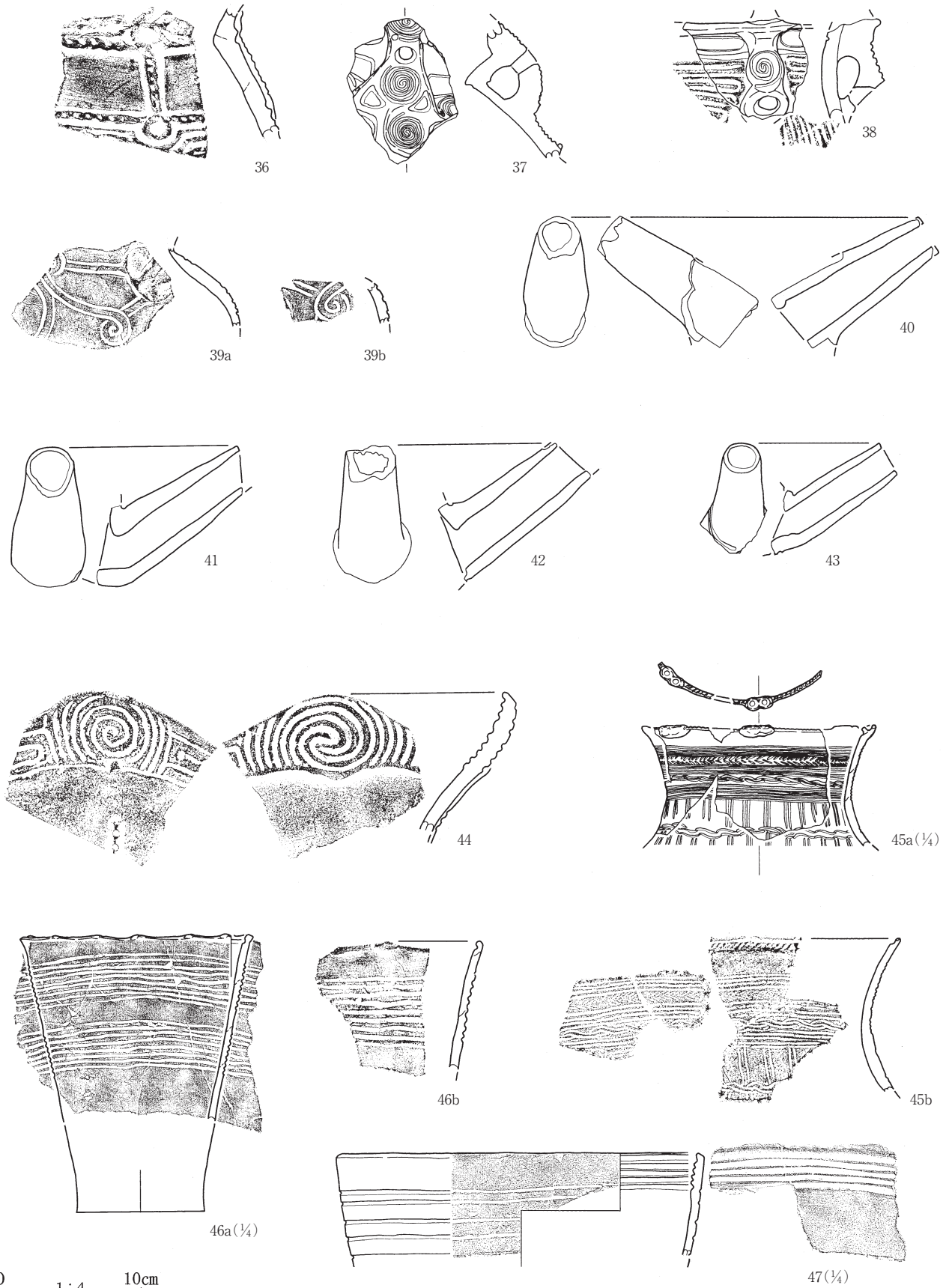
第151図 5区遺構外出土土器(1)



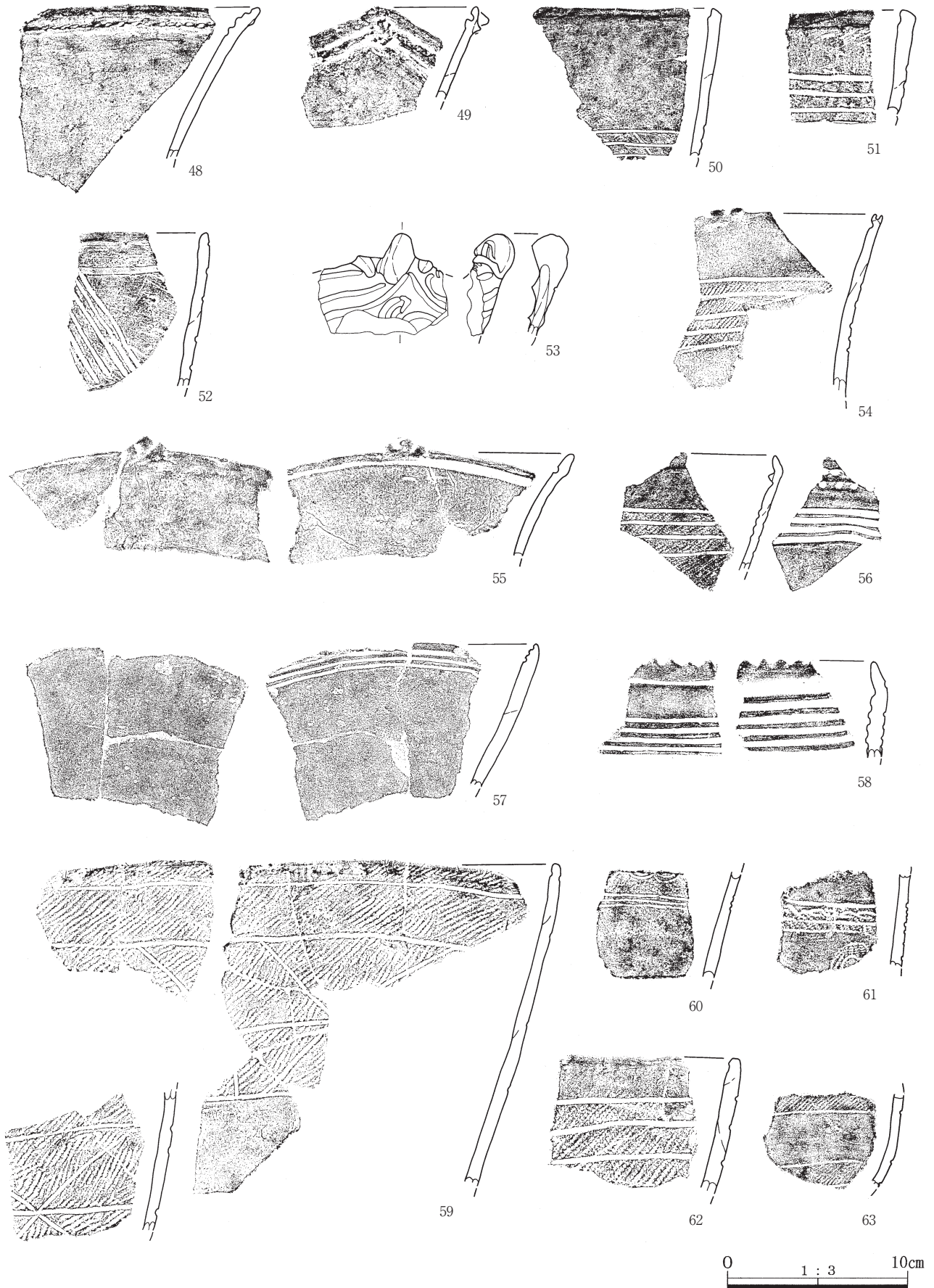
第152図 5区遺構外出土土器(2)



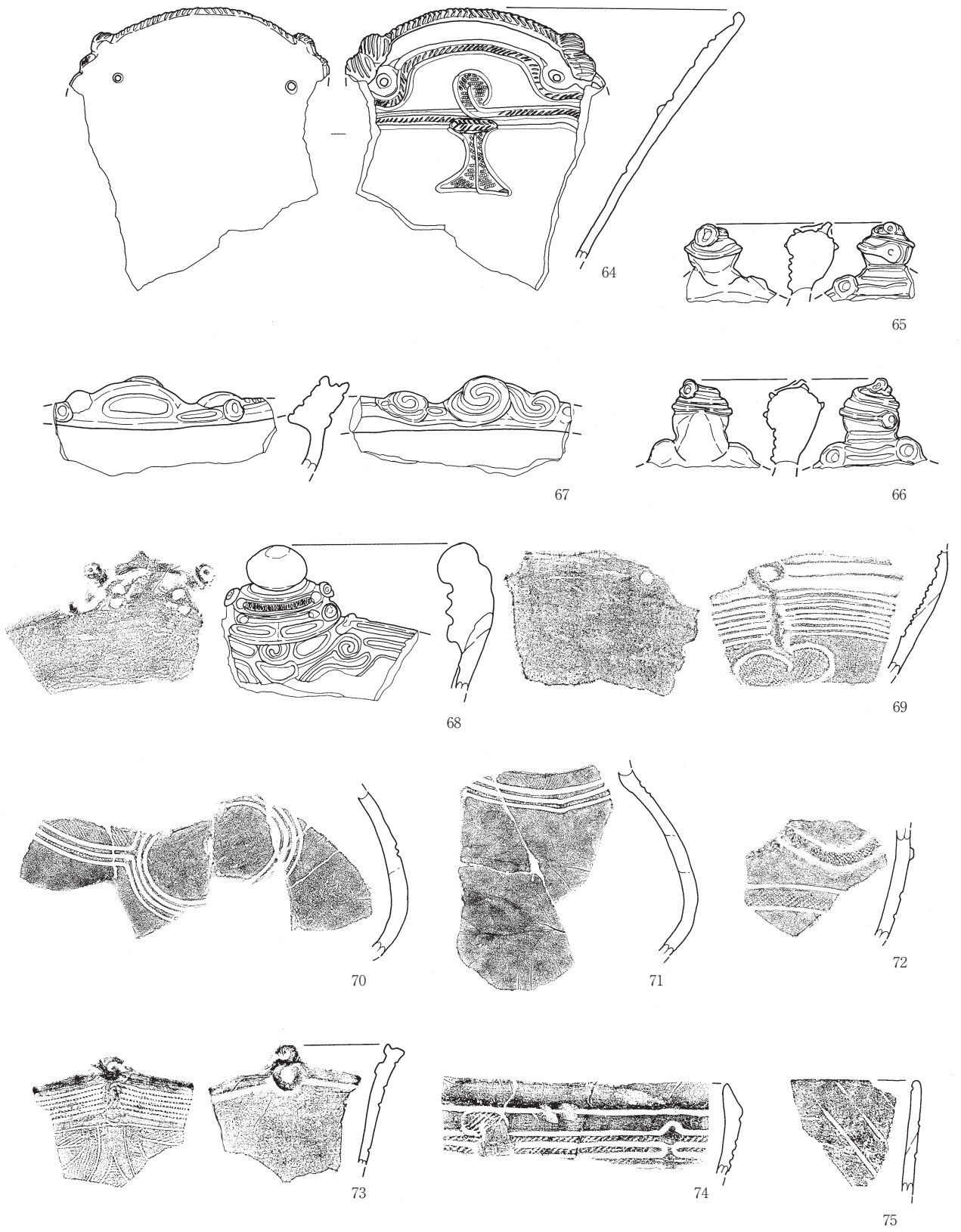
第153図 5区遺構外出土土器(3)



第154図 5区遺構外出土土器(4)

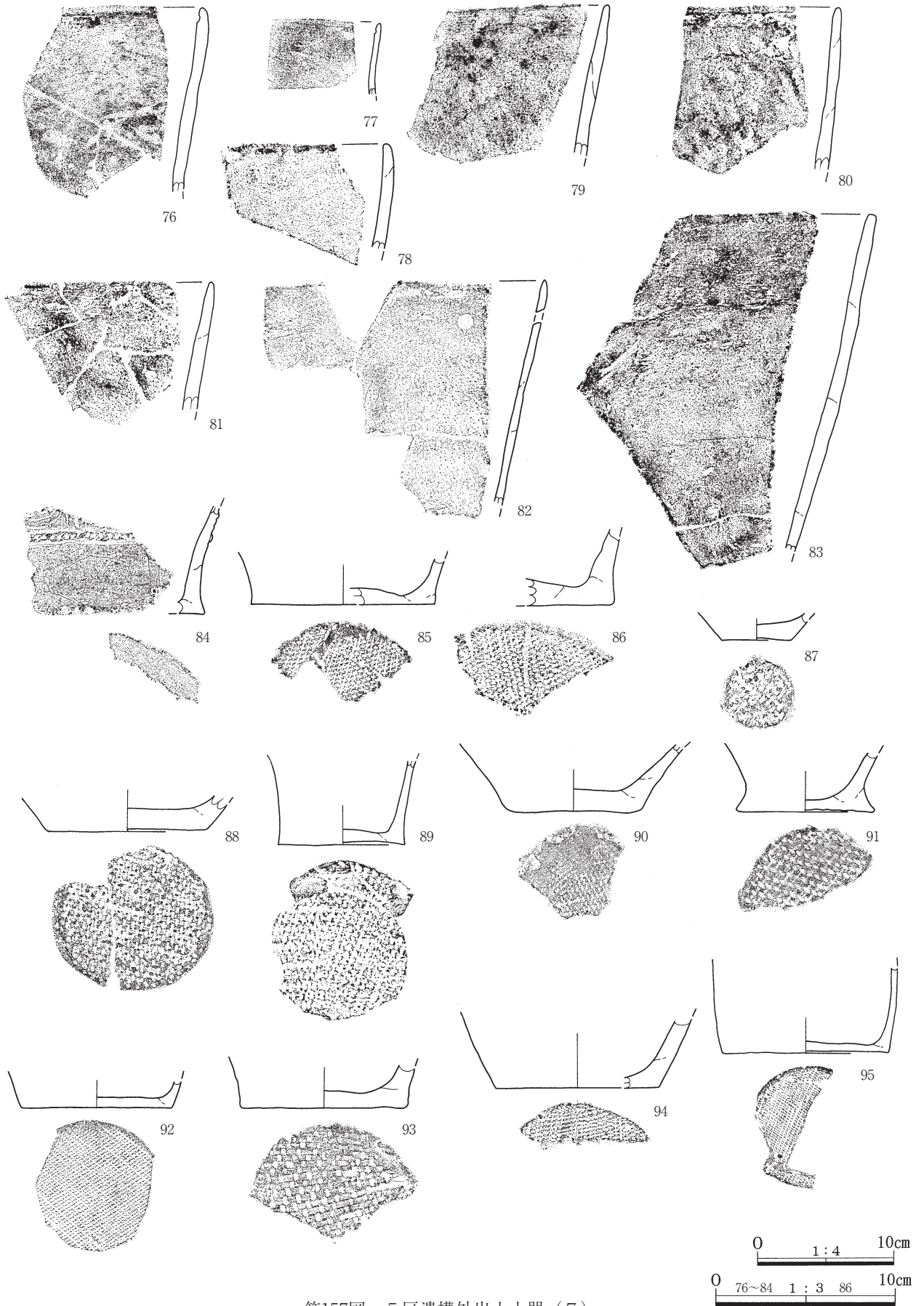


第155図 5区遺構外出土土器(5)

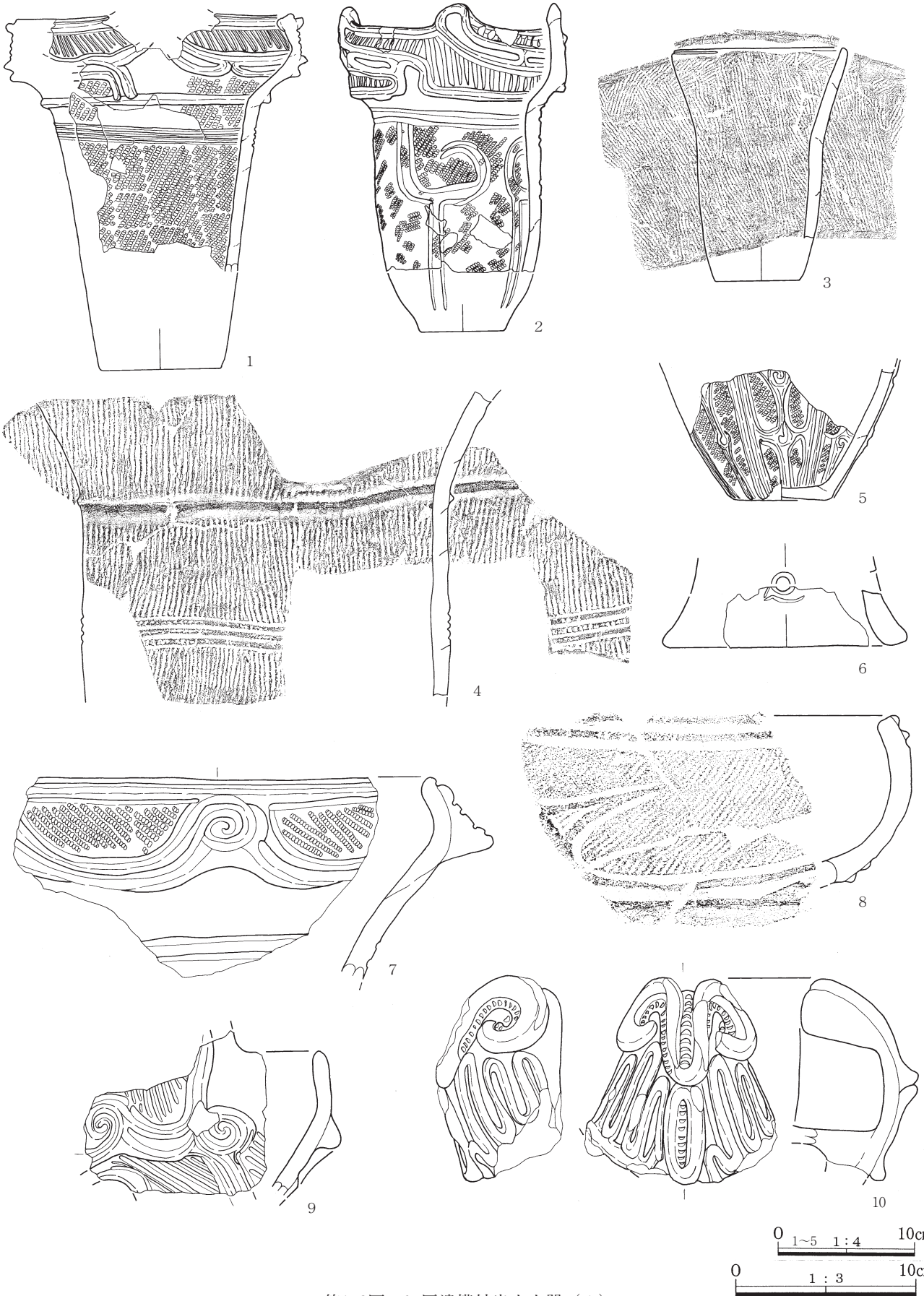


0 1 : 3 10cm

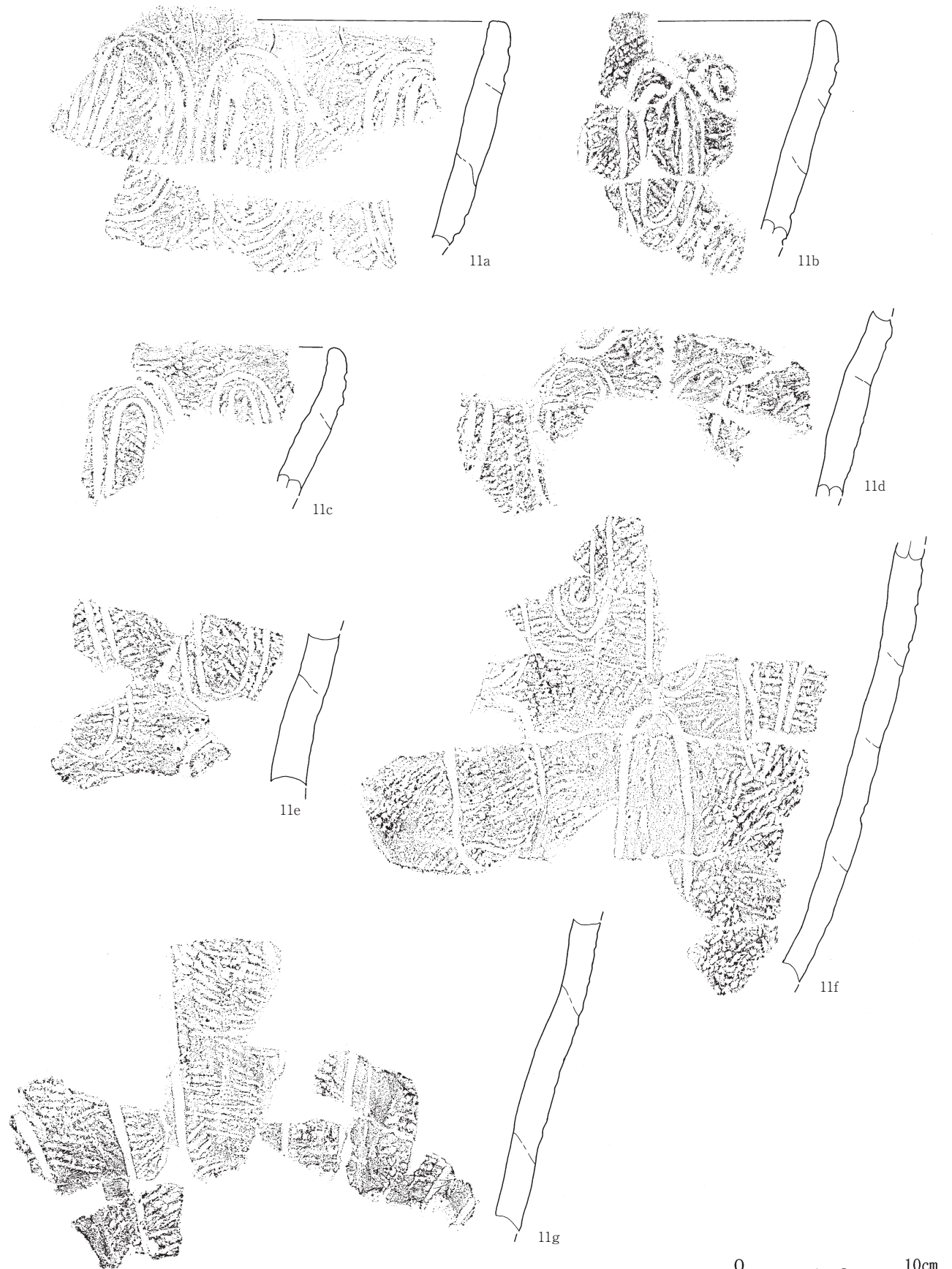
第156図 5区遺構外出土土器(6)



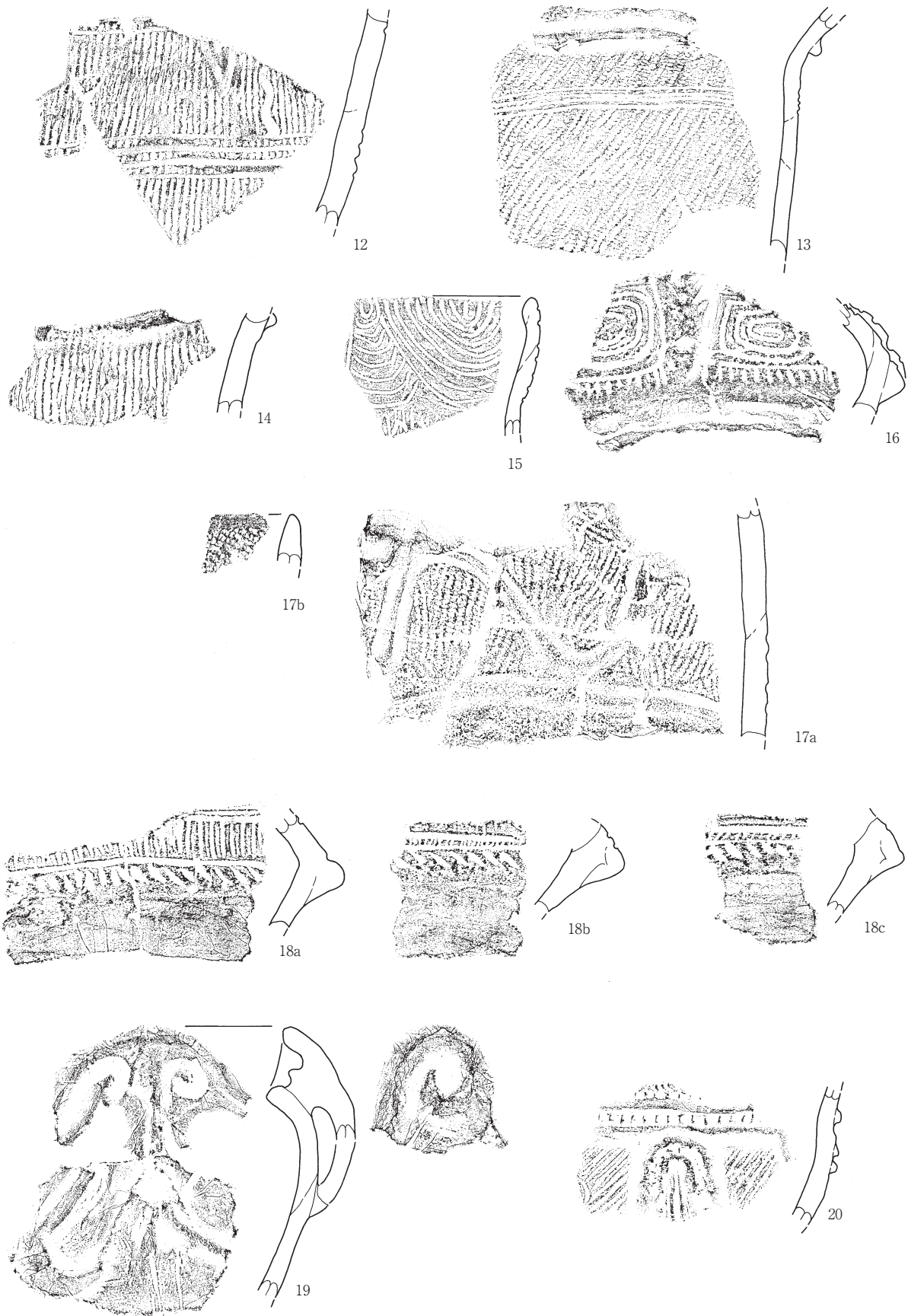
第157図 5区遺構外出土土器(7)



第158図 95区遺構外出土土器(1)

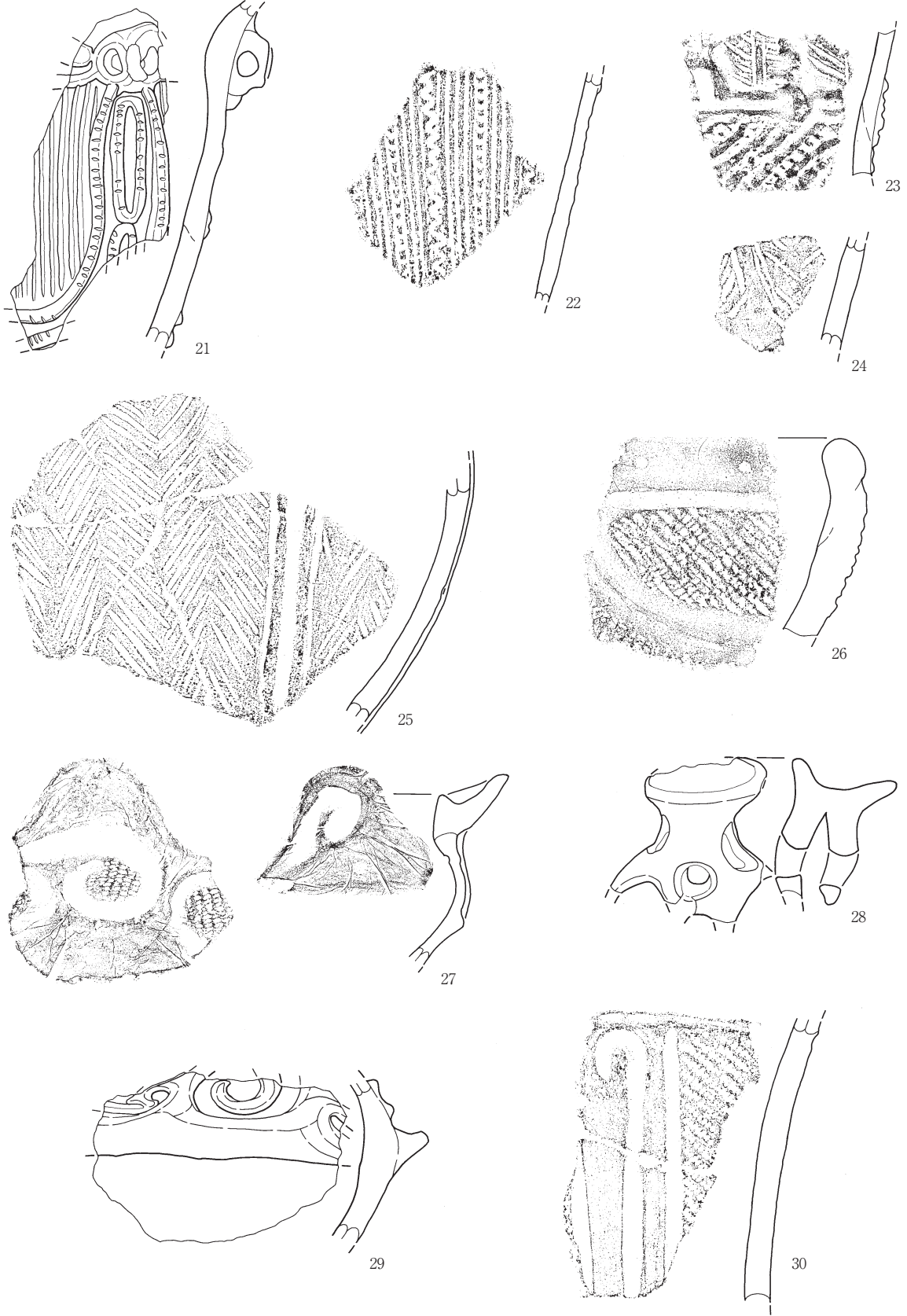


第159図 95区遺構外出土土器(2)



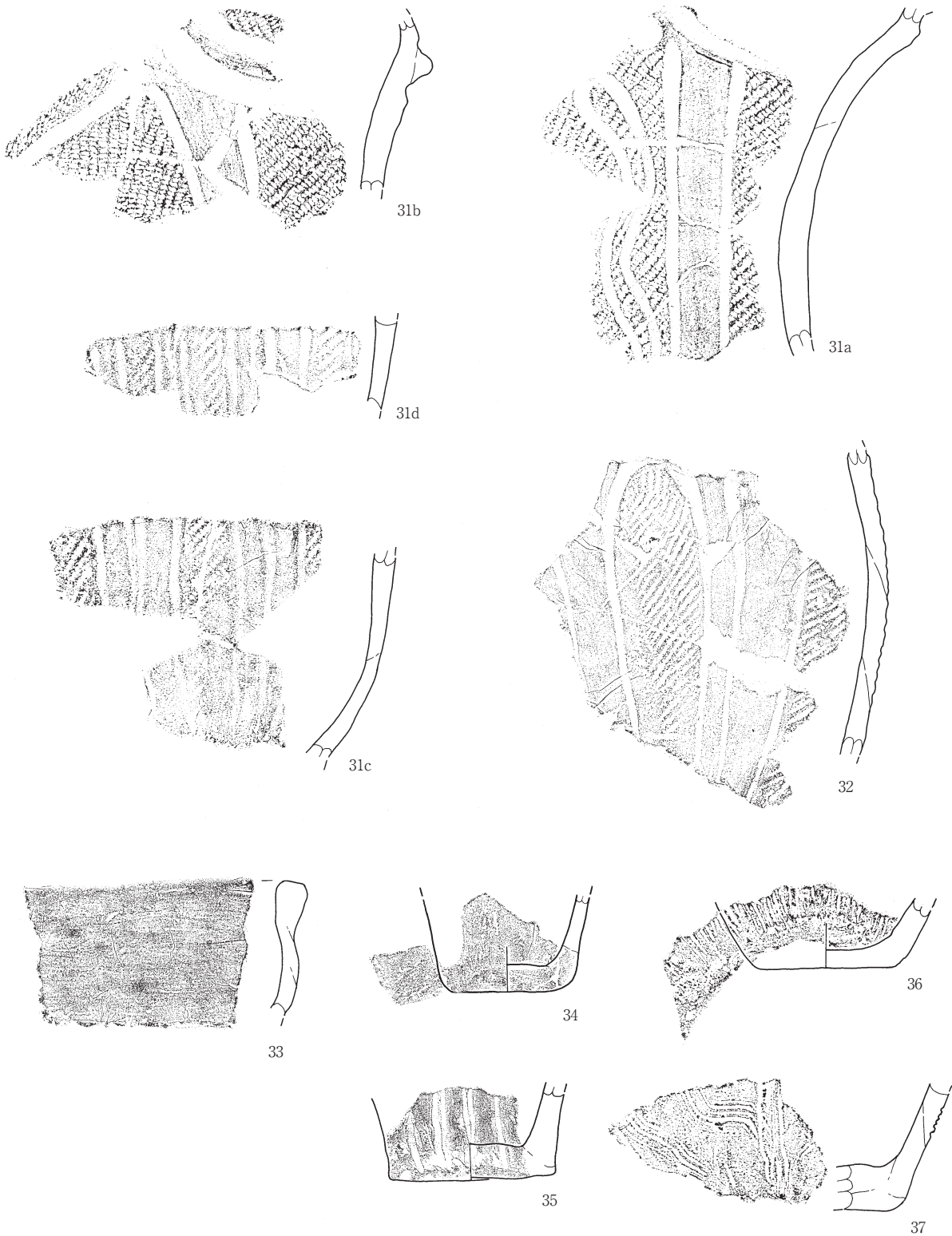
第160図 95区遺構外出土土器(3)

0 1 : 3 10cm



第161図 95区遺構外出土土器(4)

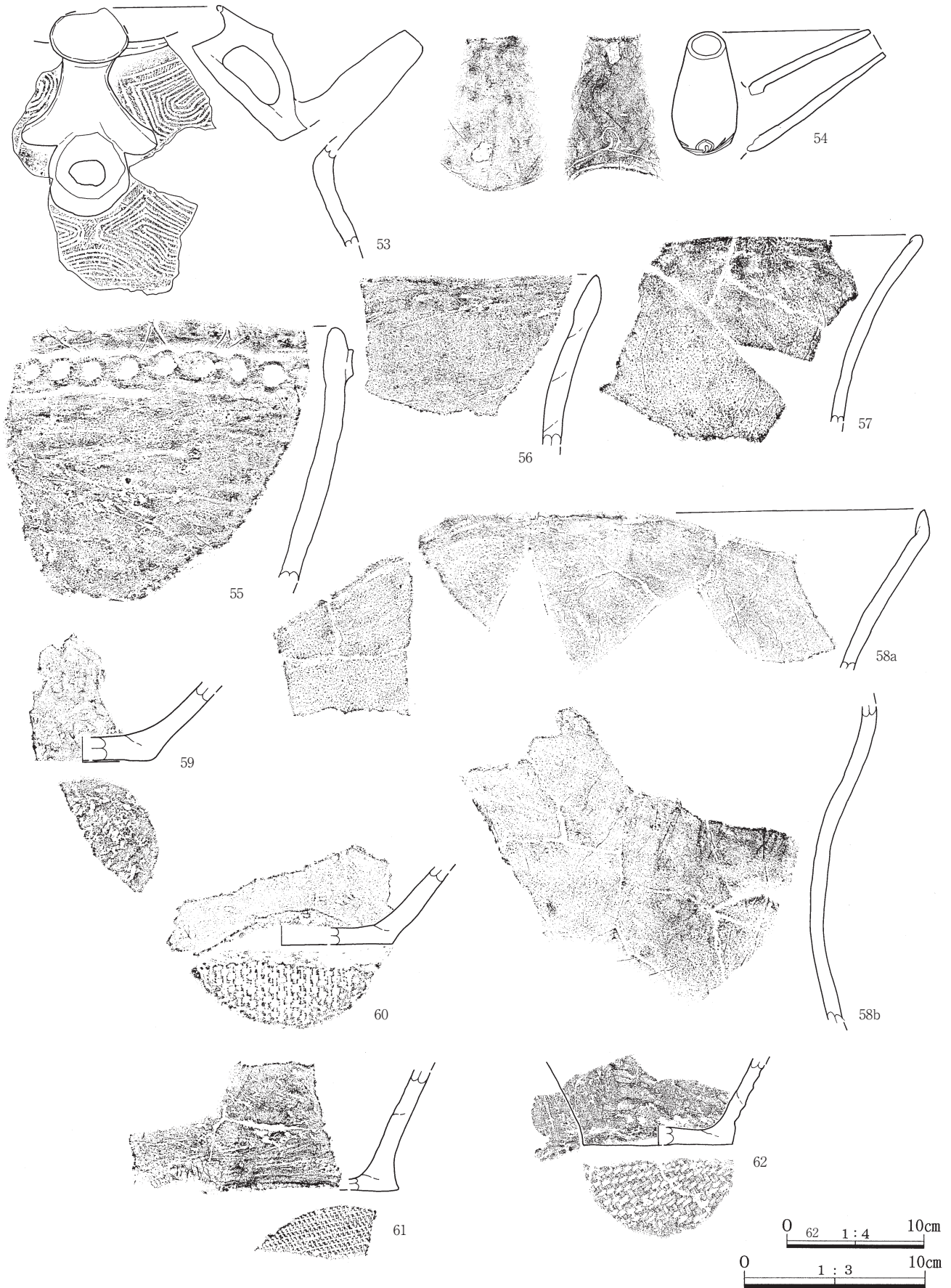
0 1:3 10cm



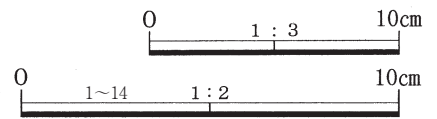
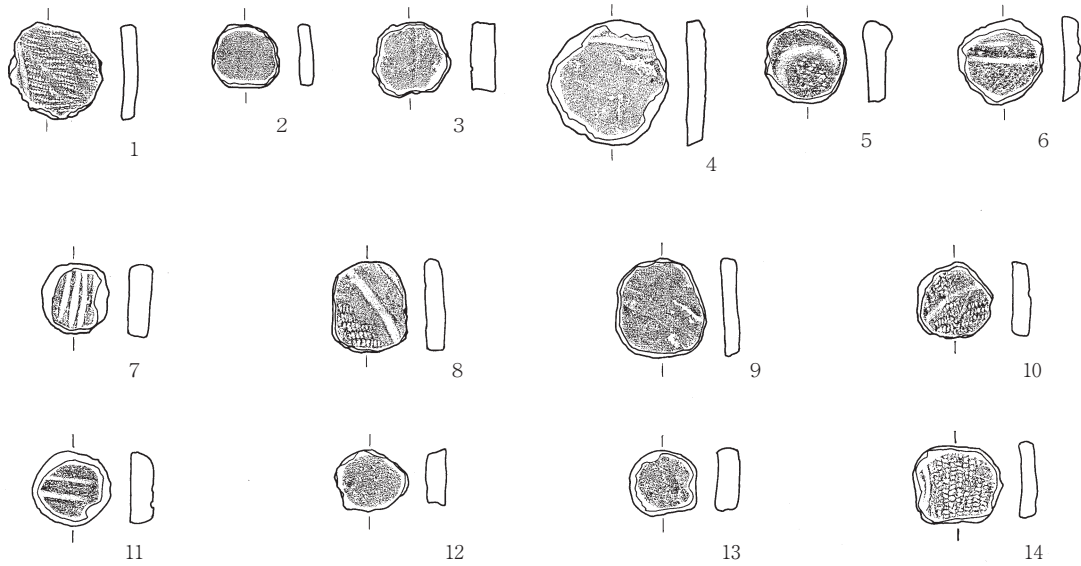
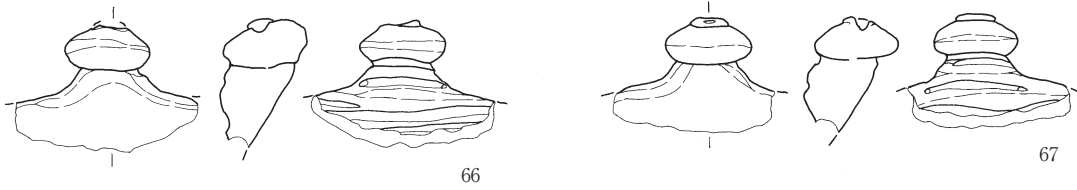
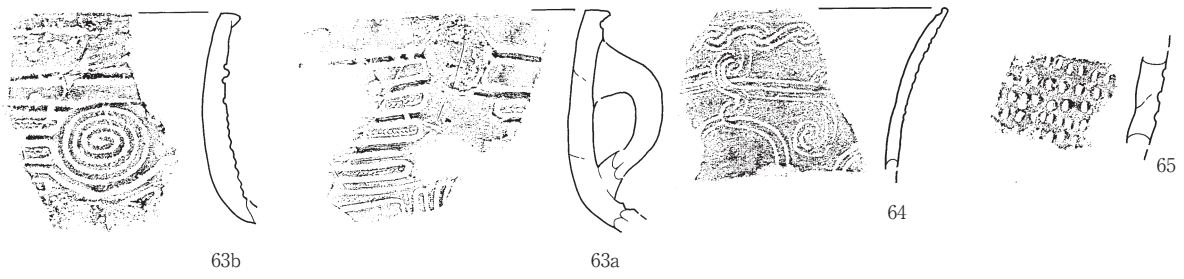
第162図 95区遺構外出土土器 (5)



第163図 95区遺構外出土土器（6）

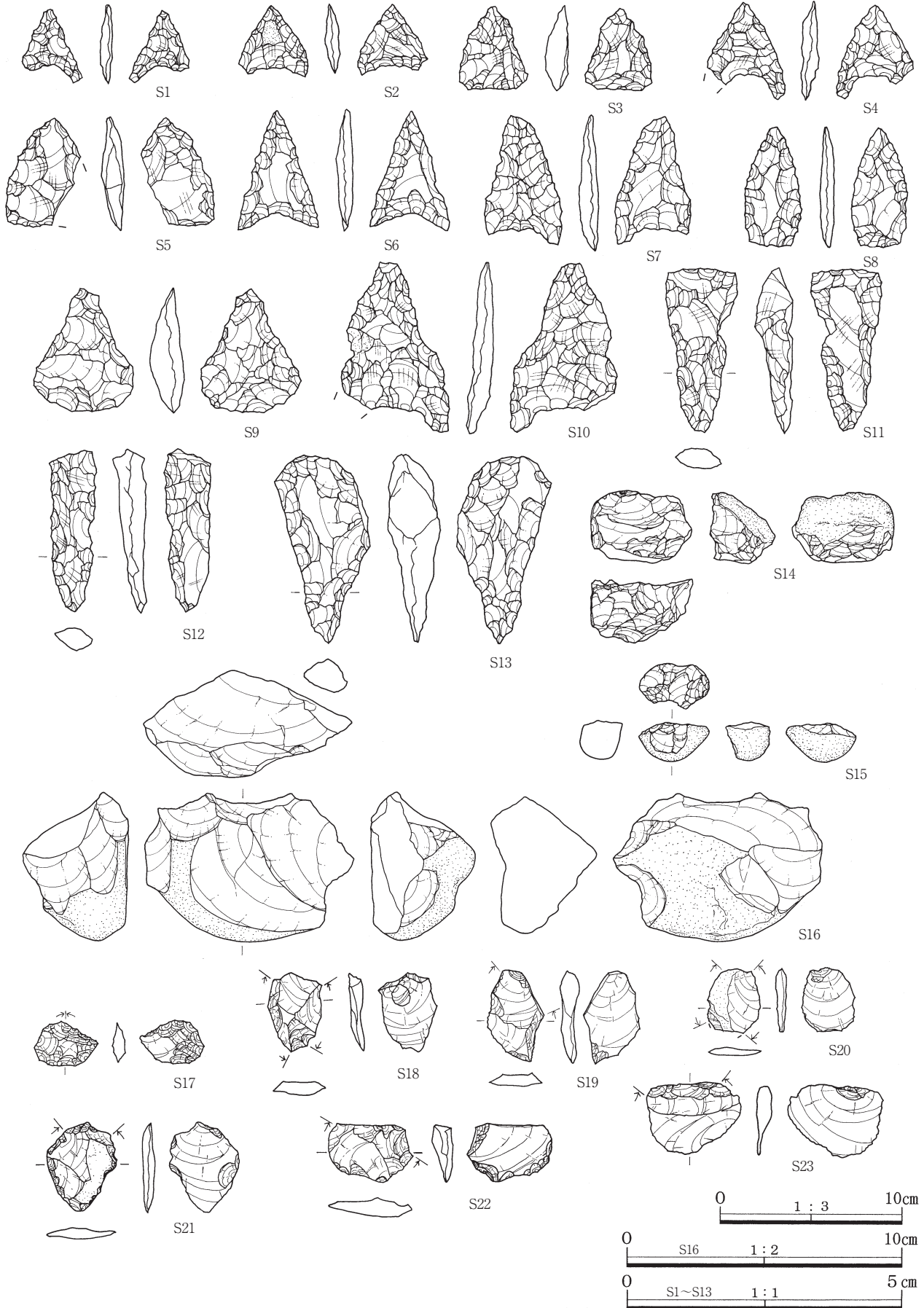


第164図 95区遺構外出土土器 (7)

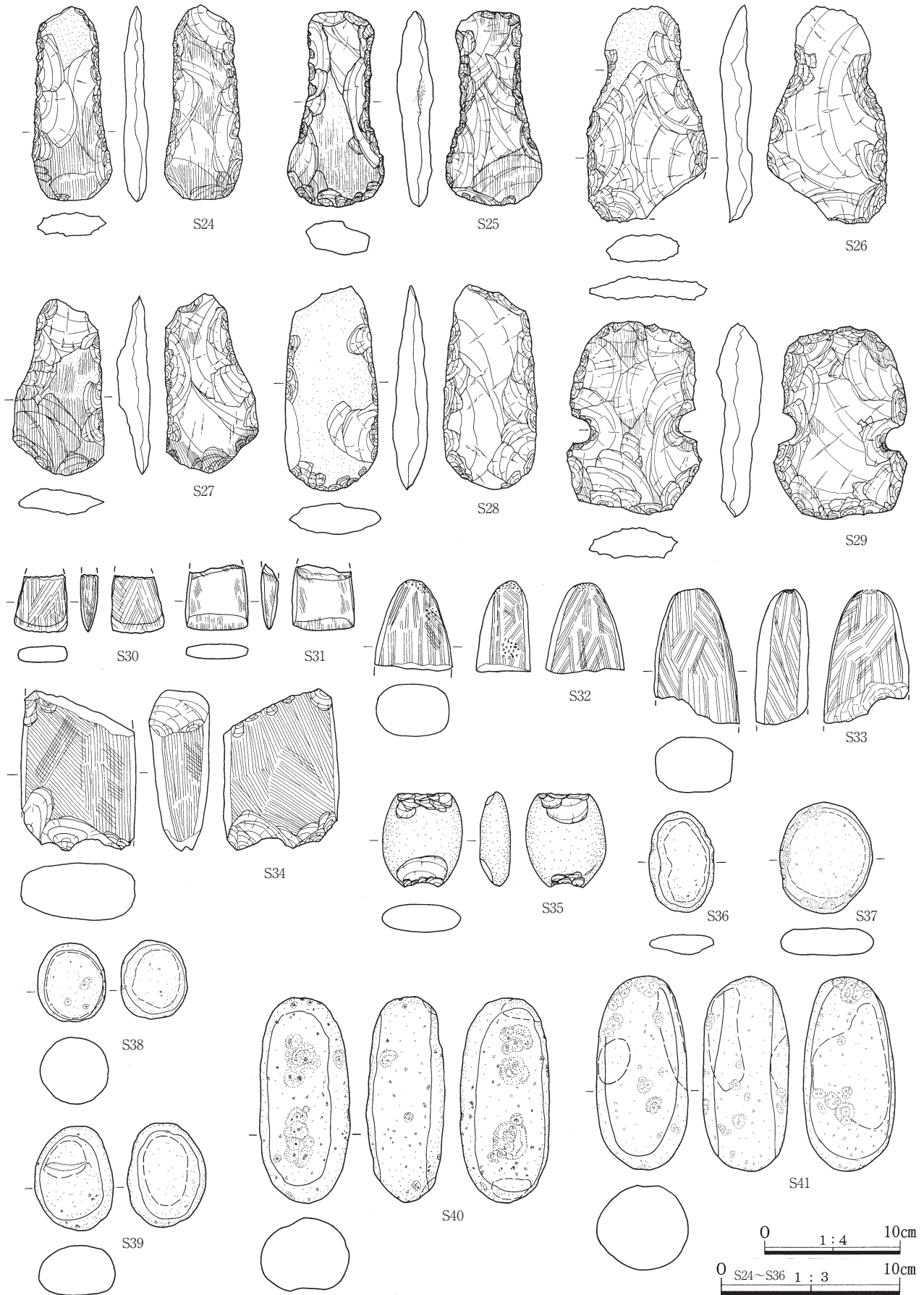


第165図 95区遺構外出土土器(8)・土製円盤

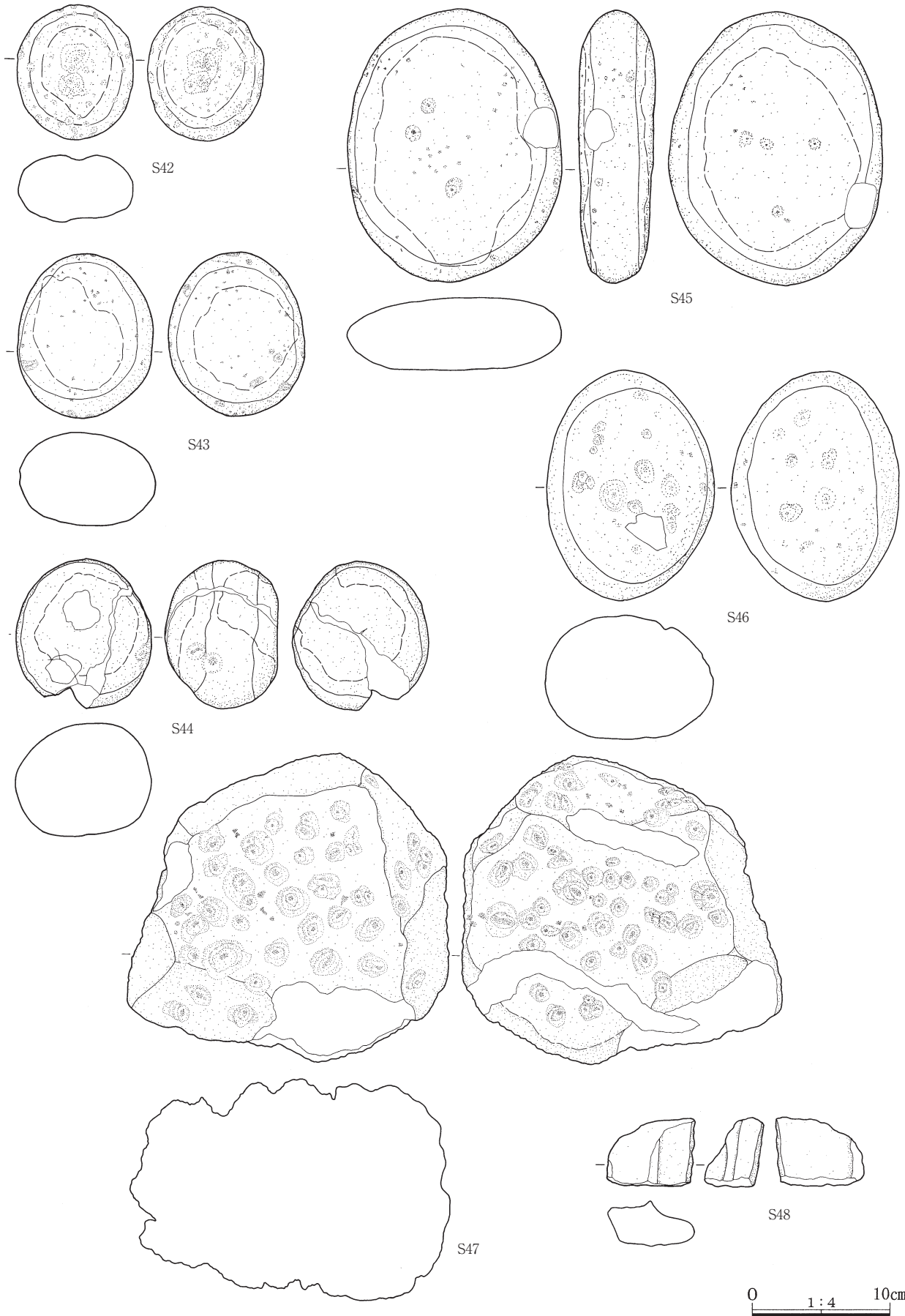
第3節 縄文時代



第166図 5区遺構外出土石器(1)

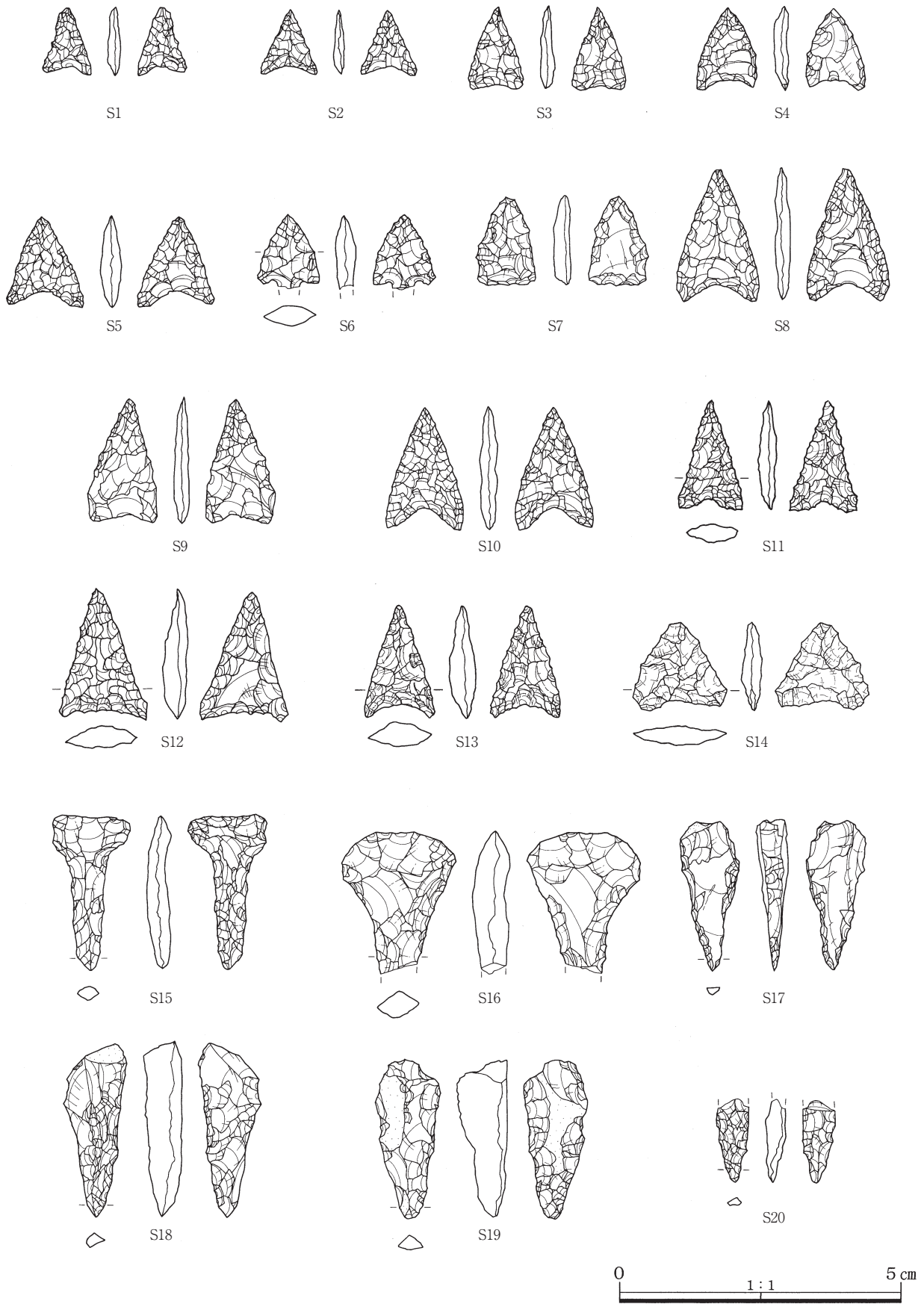


第167図 5区遺構外出土石器(2)



第168図 5区遺構外出土石器(3)

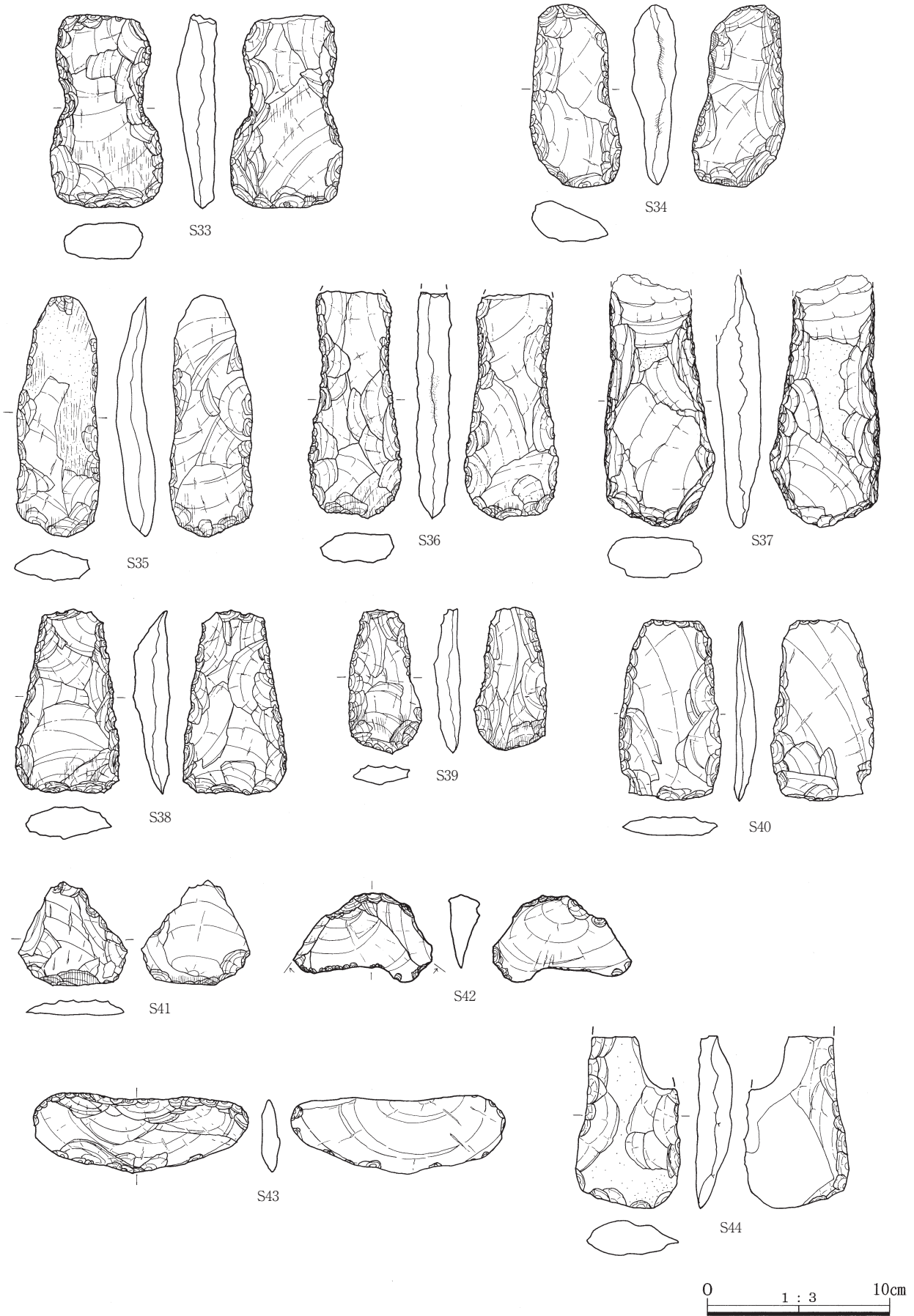
第3章 検出された遺構と遺物



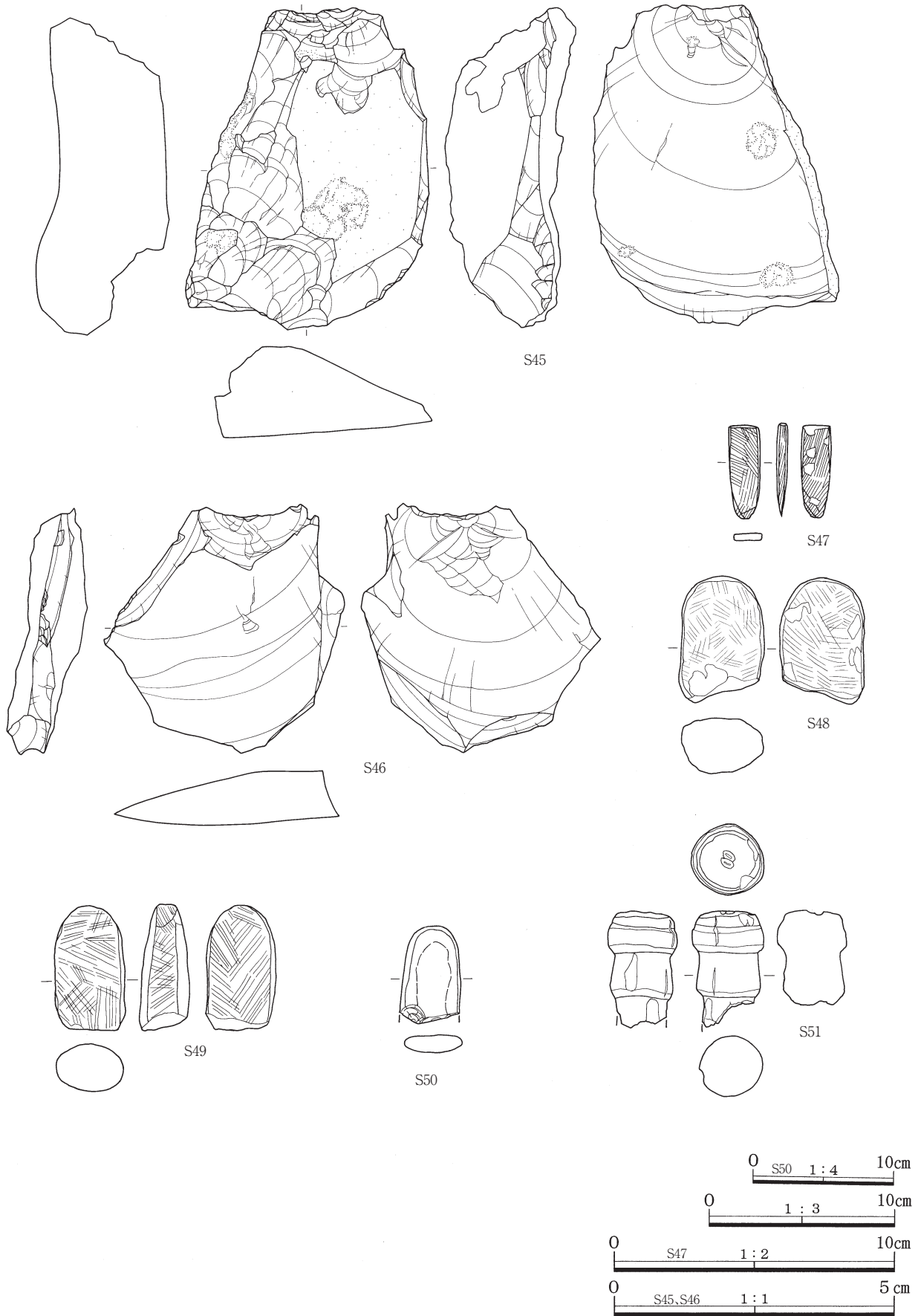
第169図 95区遺構外出土石器 (1)



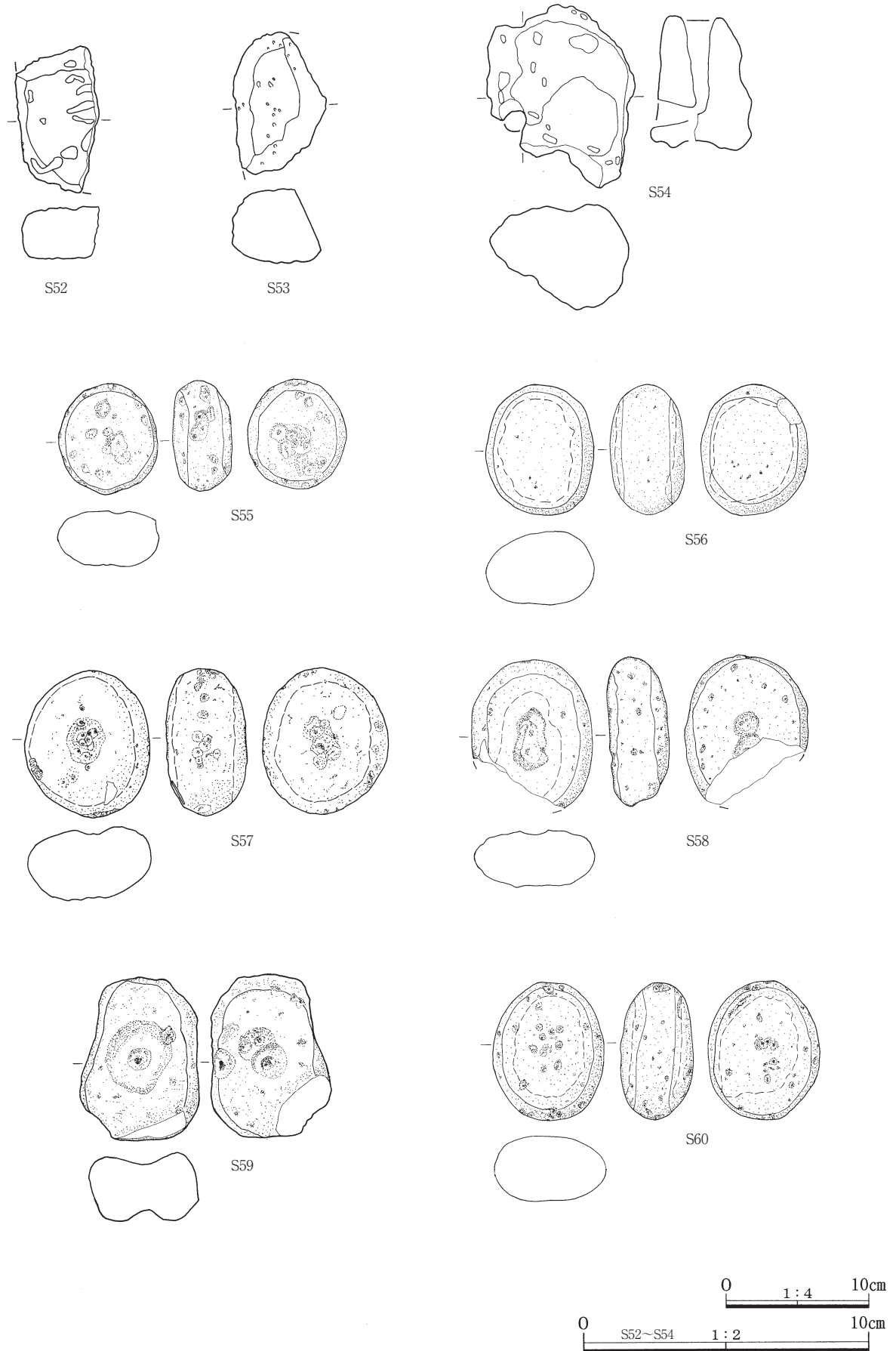
第170図 95区遺構外出土石器(2)



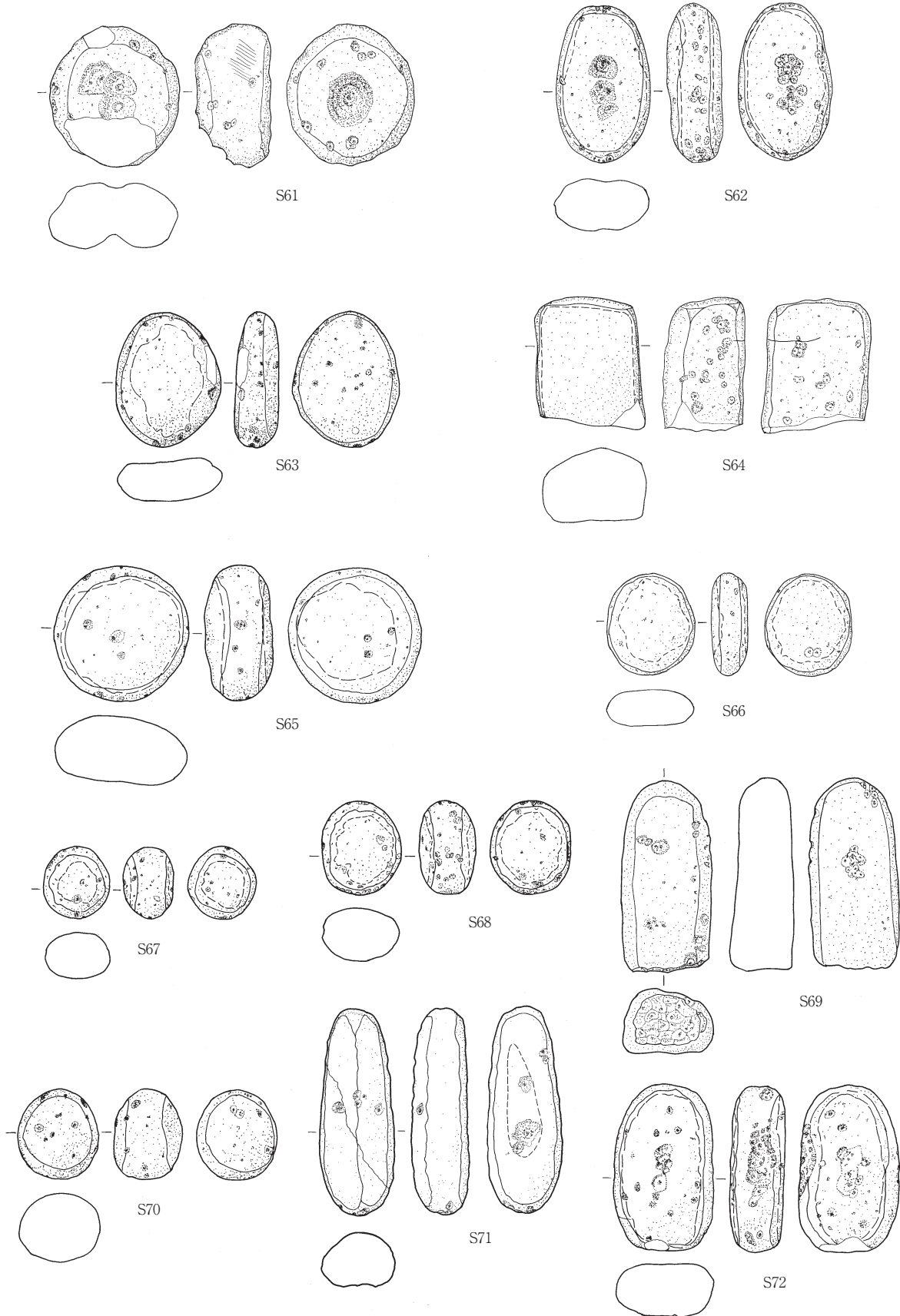
第171図 95区遺構外出土石器 (3)



第172図 95区遺構外出土石器(4)

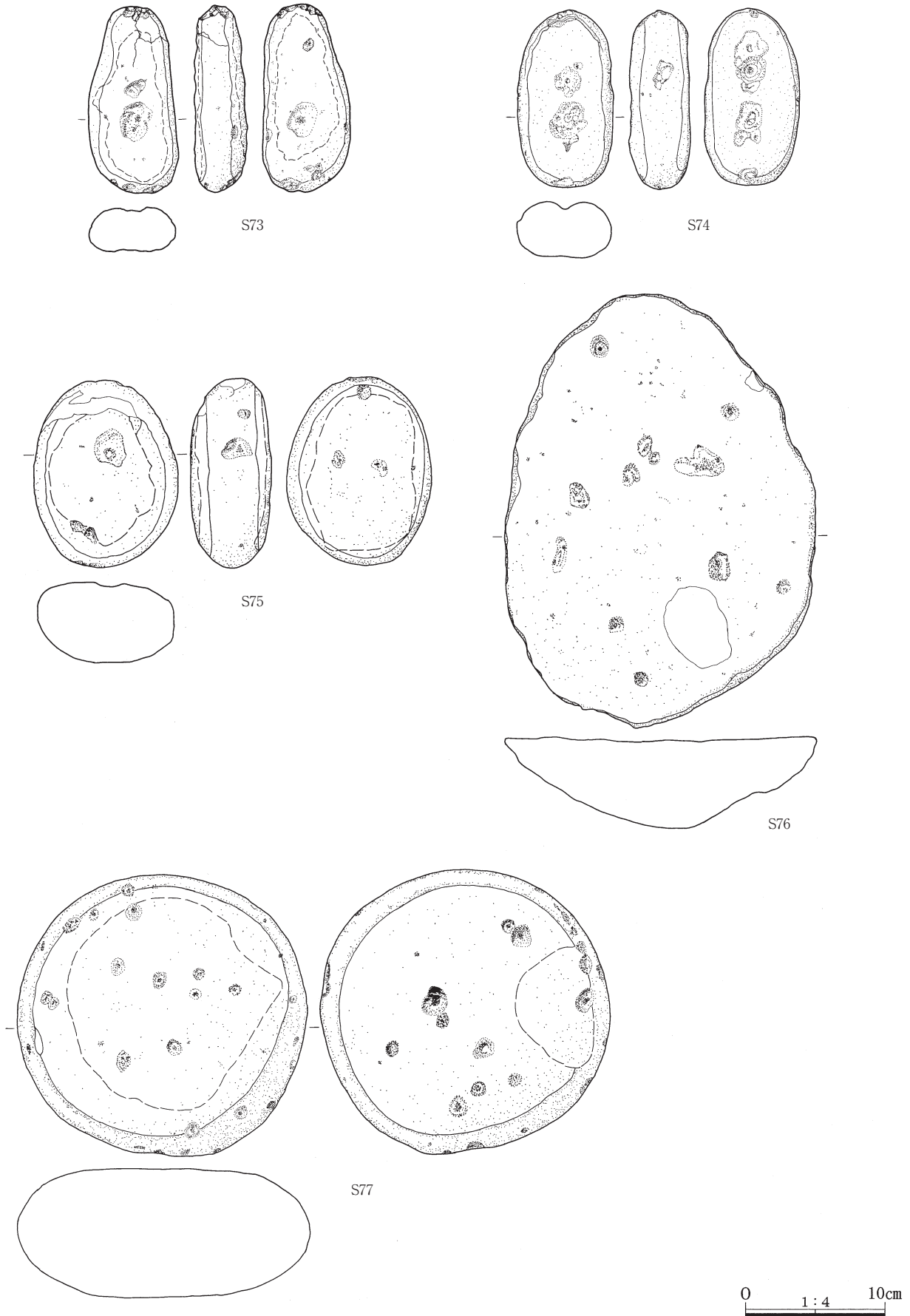


第173図 95区遺構外出土石器（5）



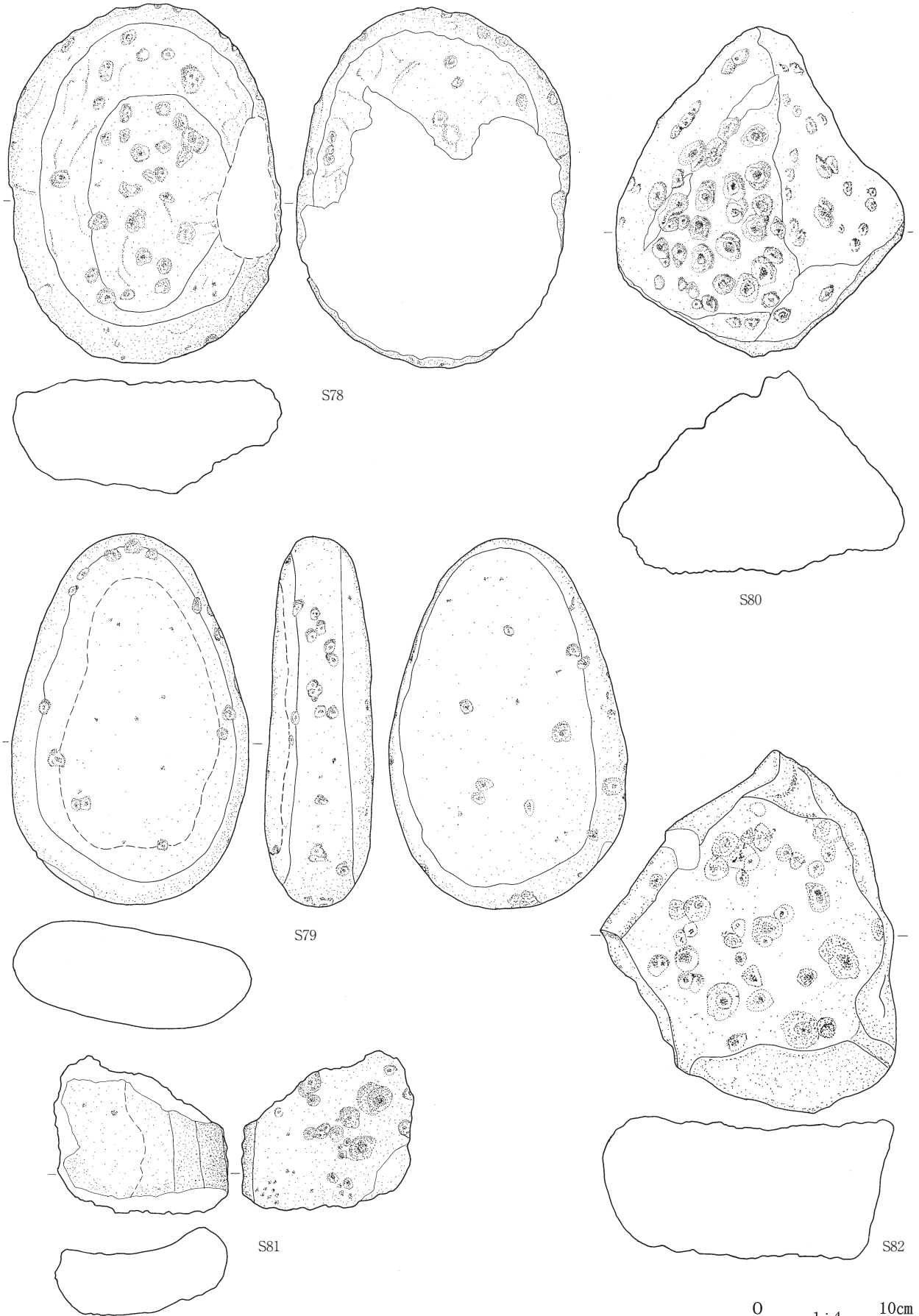
第174図 95区遺構外出土石器 (6)

0 1:4 10cm



第175図 95区遺構外出土石器 (7)

0 1:4 10cm



第176図 95区遺構外出土石器（8）

0 1:4 10cm

第4節 平安時代以降

1 遺構と遺物（住居跡・溝）

本遺跡の調査では、縄文時代遺構確認面である、黄褐色ローム上面で縄文時代集落を検出している。しかしながら、縄文時代集落跡検出面に至る前に、途中の黒色土面で掘削を止め、平安時代住居跡や中世竪穴状遺構などを調査している。先に述べた縄文時代の列石や配石遺構も黒色土面で確認されることが多い。平成14年度の調査でも、5区・95区で調査第1面目として黒色土面の調査を施した。その結果、平安時代の住居跡2軒や、陥穴状土坑10数基、溝状遺構1条を検出した。

ここでは、5区で調査された平安時代住居跡と95区南で検出した95区1号溝、17区1号溝を掲載する。

5区54号住居跡

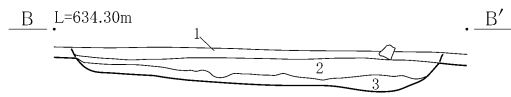
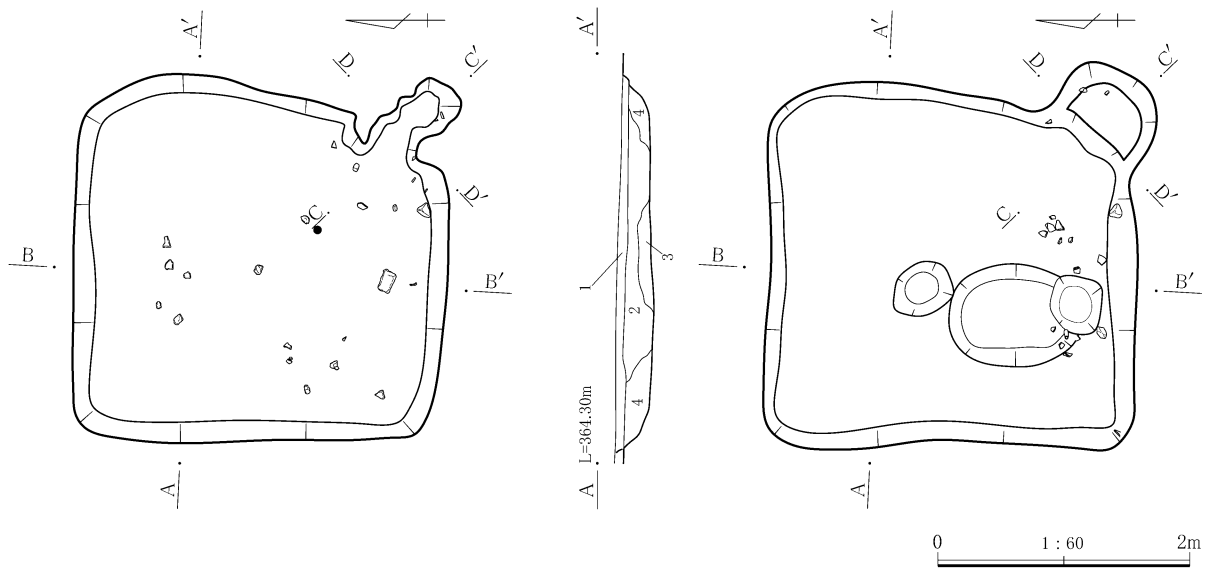
位置 5区北側のO-4グリッドに位置する。**重複** 単独の検出であるが、縄文時代列石を壊している。**規模** 約3.0×2.8mの小型の方形を呈する。深さは12cmを測る。黒色土中での確認のため、土層観察で壁立ち上がりを確認した。その他の壁はやや判然としない。**床面** 黒色土を基調とした貼床である。軟弱でそのため確認が困難であった。**柱穴** 床面では検出し得なかった。床下調査で中央部と南壁際に小穴を検出した。柱穴と判断したい。**カマド** 東南隅に煙道を突出する。南北の壁の湾曲を短い袖としていた。その他のカマド構築材の痕跡は無かった。床下調査ではカマド構築面を見たが、土坑状に広く設けられていた。**床下遺構** 床下調査で中央南西よりに楕円状の床下土坑を検出した。**遺物** 床面上より土器が出土したが全て縄文土器である。時期を特定する資料はなかった。

5区57号住居跡

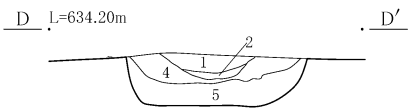
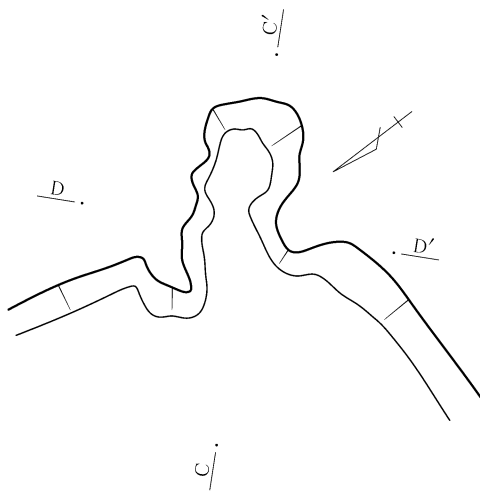
位置 5区北端のN-5グリッドに位置する。調査区境のため北壁は未検出である。**重複** 単独の検出である。54号住が南西約3mに、720号土坑が南西約0.5mに近接する。**規模** 南北軸は推定で約2.5m程であろう。東西軸は約2.8mである。深さは6cm程で極めて浅く、残りが悪い。平面形は方形を呈する。**床面** 黒色土を基調とする貼床である。54号住と同様に確認が困難だった。**柱穴** 床面では確認できず、床下調査で得られたP1を充てたい。**貯蔵穴** 柱穴同様に、床下調査で得たP3を配置上貯蔵穴として判断した。**カマド** 東壁ほぼ中央に設けられていた。使用面調査では、煙道を見ることができなかったが、床下調査の際に緩やかに突出する煙道を確認した。カマド構築材は見られなかったが、煙道部を塞いでいた黒褐色土があるいは天井部等の構築材として想定されよう。**床下遺構** 南壁に接して円形の床下土坑を調査した。**遺物** 本住居跡に帰属し得る出土遺物は無かった。

95区1号溝

位置 95区南東部で検出された。第1面調査で、黒色土調査面である。M~P-20・21グリッドに位置する。**重複** 陥穴状土坑である95区30号土坑と重複する。1号溝が陥穴状土坑を切る新旧である。西端部には陥穴状土坑である32号土坑と34号土坑が近接する。**規模・走向** 西端部より調査区東壁約13m程の走向を確認した。東西方向に向き、西から東へ傾斜する。幅は約60~80cm程である。溝底面は凹凸が多いものの、壁はしっかりした立ち上がりを示す。**遺物・時期** 時期を特定する遺物の出土はない。おそらく中世~近世の所産と思われる。

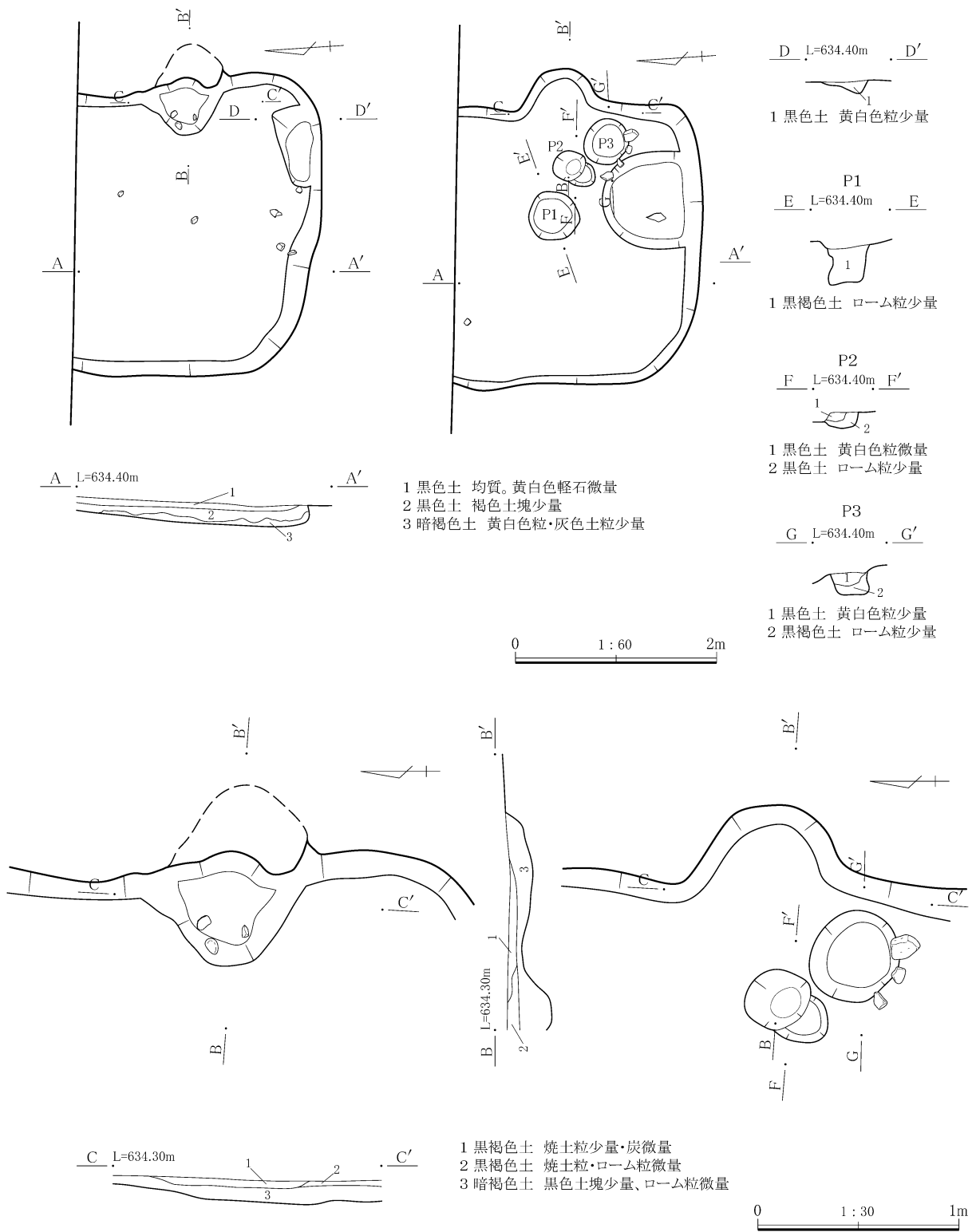


- 1 黒色土 均質。黄白色軽石微量
- 2 黒色土 褐色土粒少量
- 3 黒褐色土 褐色土塊少量・黄白色粒微量
- 4 暗褐色土 黄白色粒・灰色土粒少量



- 1 黒褐色土 焼土粒少量
- 2 暗赤褐色土 焼土塊主体、やや軟質
- 3 黒褐色土 焼土粒微量
- 4 暗褐色土 褐色土塊少量、炭化物微量
- 5 暗褐色土 黒色土塊少量、ローム粒微量

第177図 5区54号住居跡



第178図 5区57号住居跡

17区 1号溝

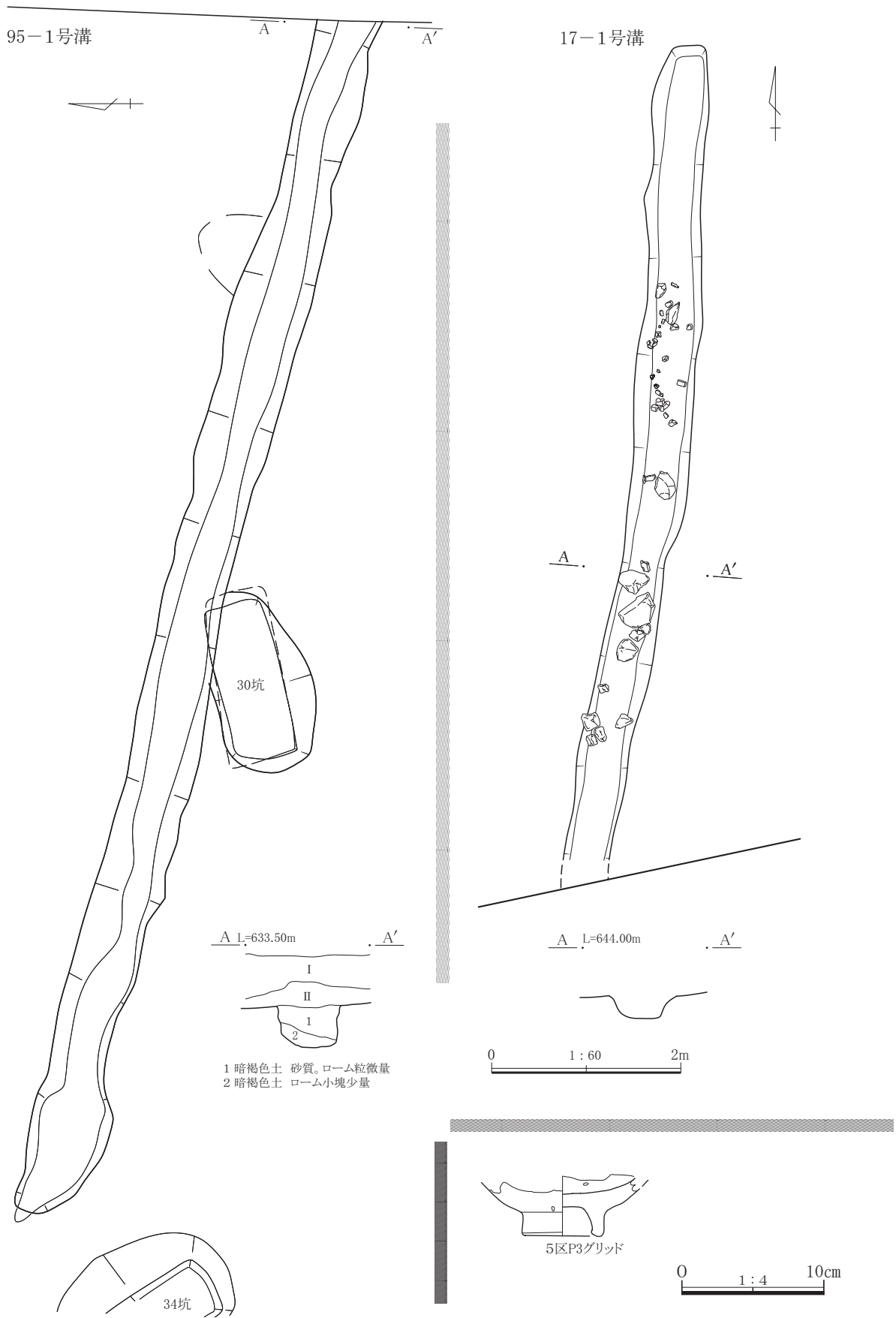
17区東側台地で検出された浅い溝である。おそらく、自然流路に近い性格と思われる。北から南への走向を見せ、極めて浅い断面形を示す。遺物の出土もなく、埋土の特徴も見られないため時期は不明である。



95区 1号溝



17区 1号溝



第179図 95区1号溝・17区1号溝・近世出土遺物

第2表 住居跡計測表

番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
			単位	cm							
5区											
54	O-4	隅丸方形	297×281×12		N-3°-E	カマド、柱穴、床下土坑	なし	平安			
55	平成12年度調査										
56	欠番										
57	N-5	方形	(245)×275×6		N-6°-E	カマド、柱穴、床下土坑	なし	平安			
P1		P2									
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
58	N・O-2~4	柄鏡	(730)×(620)×20		N-4°-W	石囲い炉、柱穴、対ビット	土器片、石鏃等	称名寺			
P1	43×34×38	P2	92×69×71	P4	59×37×32	P5	49×35×20	P6	59×49×50	P7	38×30×46
P9	58×50×70	P10	60×41×12	P12	37×26×17	P13	58×48×69	P14	40×31×32	P15	48×44×39
P16	52×52×54	P18	37×31×39	P19	29×24×29	P20	39×33×52	P21	40×35×22	P22	39×33×39
P24	53×45×74	P35	37×34×24	P36	62×45×52	P164	28×27×14	P166	25×23×21	P185	33×20×16
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
59	Q・R-4・5	推定 円	(553)×(552)×-		-	地床炉、柱穴	なし	不明			
P1	28×26×13	P2	50×50×34	P3	33×28×19	P4	32×29×22	P5	48×43×14	P6	23×23×17
P7	35×33×16	P8	35×30×21	P9	35×32×18	P10	26×25×6	P14	40×31×32	P15	48×44×39
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
60	P・Q-1~3	柄鏡	745×460×33		N-13°-E	石囲い炉、炉内土器	深鉢2、磨石類等	堀之内1			
P1	33×25×63	P2	66×50×65	P3	20×15×37	P4	23×16×66	P5	52×41×63	P6	50×43×64
P7	20×15×41	P8	29×-×16	P9	35×28×65	P10	26×16×47	P11	55×48×72	P12	38×28×63
P13	14×13×48	P14	35×27×30	P15	35×27×30	P16	32×21×24	P17	30×25×9	P18	39×24×24
P19	20×11×42	P20	35×-×50	P218	30×23×-	P220	68×60×-	P221	48×44×-	P222	78×75×-
P223	32×25×-	P232	34×20×-	P234	26×24×-	P235	27×-×22	P236	49×250×-	P237	53×35×25
P238	130×90×-	P246	26×20×-	P249	24×19×-	P250	32×22×-	P251	25×22×-		
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
61	R・S-1・2	楕円	楕円		-	地床炉、出入り口部埋塞	深鉢、軽石製垂飾	加曾利EⅢ			
P1	51×-×37	P2	26×23×11	P3	48×39×10	P4	34×23×19	P5	44×29×43	P6	39×39×13
P7	43×24×24	P8	41×30×12	P9	38×27×13	P10	63×35×-	P11	31×30×15	P12	47×22×29
P13	29×29×10	P14	35×27×16	P15	35×33×19	P16	30×20×14	P17	32×25×16	P18	-×39×18
P19	55×32×-	P20	44×30×41	P21	22×20×10	P22	33×29×13	P23	50×37×27	P24	50×-×23
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
62	Q・R-1・2	柄鏡	(780)×(610)×23		N-17°-E	石囲い炉、石囲い施設	深鉢等	堀之内1			
P1	-×54×23	P2	33×26×18	P3	59×58×39	P4	55×48×39	P5	31×22×19	P6	49×32×41
P7	58×43×41	P8	60×37×31	P9	40×27×12	P10	31×26×21	P11	37×23×8	P12	38×24×14
P13	43×37×11	P14	36×29×16	P15	50×45×58	P16	56×35×18	P17	28×20×20	P18	47×40×47
P19	-×55×43	P20	40×30×12	P21	41×33×33	P26	42×31×34	P131	51×43×54		
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
63	R・S-1・2	円	(593)×(593)×-		-	地床炉、柱穴	土器片1	不明			
P1	43×29×49	P2	51×34×50	P3	38×33×49	P4	59×34×37	P5	45×35×37	P6	54×43×42
P7	64×36×31	P8	51×38×43	P9	44×34×41	P10	55×52×45				
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
64	N-1	円	円		-	柱穴	土器片、磨石等	加曾利EⅢ			
P1	27×17×27	P2	29×20×35	P3	29×25×17	P4	28×27×38	P5	36×31×35	P6	23×21×15
P7	36×29×40										
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
65	5O・P-1・2	柄鏡	(950)×(650)×-		N-8°-W	地床炉、柱穴、対ビット	土器片、石鏃等	堀之内1			
	95O・P-24・25										
P1	34×27×16	P2	29×24×25	P3	33×23×21	P4	35×26×15	P5	35×30×24	P6	24×20×13
P7	34×28×28	P8	31×29×11	P9	53×48×28	P10	44×41×35	P11	-×51×9	P12	87×53×26
P13	51×45×36	P14	37×27×23	P15	42×30×25						
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
66	5R・S-1・2	柄鏡	(810)×(590)×-		-	埋設土器、対ビット	深鉢、磨石	加曾利EⅣ			
	95S-25										
P1	-×48×26	P2	50×46×42	P3	55×49×46	P4	78×71×46	P5	-×60×61	P6	26×24×28
P7	34×31×21	P8	-×37×35								
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
67	N・O-1~3	円形?	(886)×(464)×-		-	-	-	-			
番号	位置	平面形	規模		方位	施設	遺物	時期			
95区											
3	N・O-24・25	円	516×500×26		N-5°-E	地床炉、埋塞、集石施設	深鉢、石鏃、石皿等	加曾利EⅢ			
P1	112×35×23	P2	64×58×34	P3	55×45×64	P5	30×28×16	P6	14×19×12	P7	47×42×53
P8	87×45×60	P9	74×48×42	P10	54×51×43	P11	43×43×41	P12	32×27×41	P13	39×34×33
P14	32×27×21	P15	31×22×22								

第3章 検出された遺構と遺物

番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
			単位 cm										
4	Q-S-24・25	円	593×563×13			N-0°	石囲い炉、埋甕、伏甕			深鉢、石鏝等			加曾利 E II
	P 1	49×36×20	P 2	81×42×15	P 3	40×38×13	P 4	56×45×13	P 5	62×48×7	P 6	65×42×36	
	P 7	32×30×9	P 8	35×31×13	P 9	64×44×31	P 10	31×26×16	P 12	32×29×14	P 13	51×46×14	
	P 14	34×29×15	P 15	42×35×22	P 16	39×31×25	P 17	64×36×25	P 18	40×36×15	P 19	40×38×26	
	P 21	36×26×9	P 22	23×22×14	P 23	35×19×13	P 24	33×26×19	P 25	31×-×15	P 26	50×35×33	
番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
5	M・N-18	円	(358)×(98)×25			-	-			土器片、石鏝等			-
	P 1	67×61×4											
番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
6	O・P-19~21	円	703×627×65			N-3°-W	石囲い炉、出入口施設			深鉢、石鏝等			加曾利 E II
	P 1	-×46×61	P 2	65×37×59	P 3	55×47×66	P 4	55×41×48	P 5	44×38×69	P 6	51×35×57	
	P 7	37×29×51	P 8	49×39×65	P 9	64×47×85	P 10	-×40×34	P 11	52×48×41	P 12	41×25×21	
	P 13	-×30×20	P 14	53×43×37	P 15	44×19×24	P 16	47×22×27	P 17	38×32×44	P 18	38×26×54	
	P 19	22×18×32	P 20	46×36×56	P 21	34×32×48	P 22	36×28×40	P 23	-×36×41	P 24	30×27×33	
	P 25	33×23×30	P 26	33×26×26	P 27	41×28×29	P 28	33×28×48	P 29	41×32×33	P 30	37×33×33	
	P 31	48×18×10	P 33	34×24×43	P 34	66×37×50	P 35	29×21×46	P 36	40×37×65	P 37	40×33×43	
	P 38	28×24×30	P 39	43×26×27	P 40	19×17×23	P 41	23×17×23	P 42	25×22×47	P 43	41×33×43	
	P 44	44×22×39	P 45	54×28×22	P 46	40×30×63	P 47	35×30×22	P 48	35×33×9			
番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
7	P・Q-22・23	円	(460)×(318)×-			-	石囲い炉、伏甕			深鉢、石鏝等			加曾利 E III
	P 1	32×28×18	P 2	38×30×16									
番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
8	P・Q-22		400×(120)×5			-	-			土器片			-
番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
9	P・Q-21・22	円	480×475×34			-	地床炉、出入口部			深鉢、磨斧、打斧等			加曾利 E I
	P 1	44×38×65	P 2	59×52×57	P 3	40×26×42	P 4	44×37×46	P 5	56×53×71	P 6	39×35×59	
	P 7	51×28×28	P 8	19×17×21									
番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
10	R・S-22・23	円	508×495×28			-	地床炉、出入口部			土器片、多孔石等			加曾利 E II
	P 1	-×39×9	P 2	34×32×59	P 3	-×28×11	P 4	-×25×39	P 5	22×19×28	P 6	36×30×43	
	P 7	-×27×20	P 8	40×35×71	P 9	-×36×9	P 10	-×29×18	P 11	22×15×27	P 12	-×16×11	
	P 13	16×15×37	P 14	-×18×19	P 15	33×28×48	P 16	-×38×3					
番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
11	O-21 P-20・21	-	(445)×(55)×22			-	壁周溝			深鉢			加曾利 E II

第3表 建物跡計測値

番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
			単位 cm										
5区													
1建	O-Q-3・4	方形	422×350			N-73°-W	-			-			後期か
	P 1	63×40×43	P 2	58×45×47	P 3	63×44×37	P 5	52×42×46	P 6	44×43×37	P 7	60×50×50	
	P 8	54×47×32	P 9	65×60×46	P 10	60×55×37							
番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
95区													
1建	Q-S-22・23	方形	721×350			N-107°-W	-			P-1より深鉢			中期終末
	P 1	101×96×77	P 2	91×90×69	P 3	125×119×74	P 4	94×92×71	P 5	85×84×44	P 6	97×95×67	
	P 7	88×86×29	P 8	91×87×83									
番号	位置	平面形	規模			方位	施設			遺物			時期
2建	Q-R-21~23	方形	533×232			N-15°-E	-			-			中期か
	P 1	96×73×69	P 2	58×56×50	P 3	90×79×69	P 4	106×74×81	P 5	75×60×79	P 6	80×76×69	

第4表 土坑・ピット計測表

土坑番号	位置	平面形	規模	備考
5区				
628	S-4	楕円形	152×86×32	磨石2
678	S-3	楕円状	102×64×49	
679	S-3	円形	123×112×27	土器片1・磨石1
680	S・T-3	楕円状	102×64×49	軽石1
711	M-1	円形	125×120×50	土器片4
712	N-1	円形	120×112×42	土器片3・磨石1
713	N-3	円形	125×119×54	土器片1・砥石1
714	N-2	不整形	118×93×86	土器片2
715	N-2	楕円状	196×157×153	N-6°-E
716	M-3	楕円状	225×162×224	土器片4
717	P-3	方形	113×55×73	土器片1
718	Q-5	不整形	110×-×38	
719	S-3・4	楕円状	235×198×188	N-6°-W
720	N・O-5	円形	85×77×50	
721	S-3・4	不整形楕円状	137×45×33	打斧1
722	N・O-4	不整形	65×58×42	
723	O-4	不整形	60×50×29	
724	M-5	不整形	92×65×55	
725	M-5	不整形楕円状	115×60×13	
726	M-4	楕円形	163×92×86	土器片3
727	O-5	楕円形	120×60×13	
728	P-5	不整形	127×119×27	
729	P-4	不整形	90×65×15	
730	P-5	円形	104×95×66	
731	P・Q-5・6	円形	123×114×16	多孔石1
732	Q-5・6	不整形	144×140×22	
733	R-4	不整形	111×85×48	加刺1
734	N-5	不整形	65×50×30	
735	N-5	不整形楕円状	120×53×12	
736	N-4	円形	70×56×18	
737	Q-4	不整形	69×60×31	
738	R-4	円形	78×55×17	
739	N-5	円形	36×35×11	
740	N-5	楕円状	97×66×70	土器片4
741	R-3	不整形楕円状	100×70×13	
742	R-3	不整形	62×53×27	
743	R-3	不整形	77×54×90	
744	Q・R-3	楕円状	165×107×126	N-53°-E
745	Q-3	楕円状	212×135×60	
746	P-2・3	楕円状	204×140×28	N-0°-E
747	O・P-2・3	不整形楕円状	191×103×120	N-1°-E
748	N-2	-	-×124×20	
749	N・M-3	円形	152×145×24	凹石・磨石
750	R-3	不整形	55×47×20	
751	S-3	不整形	66×59×8	
752	S-3	楕円形	149×69×14	
753	S-2	不整形	119×78×21	
754	O-4	楕円状	145×95×30	浅鉢1・磨石4
755	R-2	不整形	78×71×20	
756	R-3	不整形	61×55×21	
757	R-2・3	不整形	121×63×31	
758	R-3	不整形	33×26×13	
759	Q-2・3	不整形	50×42×25	
760	Q-3	不整形	53×45×16	
761	M-2・3	-	-×-×80	土器片4
762	Q-3・4	円形	123×121×28	土器片5・磨石1
763	Q-3	円形	81×78×20	

土坑番号	位置	平面形	規模	備考
764	O-2	不整形楕円状	50×47×28	磨石1
765	O・P-3	円形	106×100×-	深鉢1・石皿
766	O-3・4	円形	130×129×27	
767	P-3	-	104×75×17	
768	P-4	不整形	125×115×49	土器片9
769	P-4	不整形	110×102×35	
770	N-4	-	46×-×14	
771	N-4	-	-×79×29	
772	N-4	不整形	129×118×51	
773	O-2	不整形楕円状	50×48×31	
774	R-2・3	不整形	122×62×32	
775	S-2	不整形楕円状	166×83×48	深鉢1
776	P-2・3	-	-×81×41	
777	R-2	不整形	114×68×55	土器片2
778	O-3・4	不整形	56×44×5	土器片2
779	N-3	不整形	125×114×50	土器片1
780	N-3	不整形楕円状	115×85×9	土器片3・磨石1
781	P-3	-	-×93×12	
782	P-2・3	-	133×91×80	土器片3・多孔石
783	N-3	不整形楕円状	85×-×15	
784	P・Q-3	不整形	-×57×-	土器片1
785	P-3	不整形	85×75×12	
786	N-1	不整形	134×117×86	土器片6・磨石1
787	O-1	不整形	85×72×-	65住
788	O-1	不整形	89×75×-	65住
789	P-1	不整形	96×77×-	65住
790	P-3	不整形	105×95×22	深鉢1
791	R・S-2	不整形楕円状	124×82×28	
794	P・Q-1	不整形	100×90×34	
795	P-1	不整形	83×-×15	
796	P-1	不整形	77×71×-	65住
797	P・Q-1	不整形楕円状	79×49×-	65住
798	P-1・2	不整形	62×50×44	
799	S-5	不整形楕円状	145×85×21	
800	P-1	-	104×-×3	
802	N-5	不整形	105×75×24	
95区				
29	R・Q-24	不整形	130×50×14	
30	O-21	不整形	162×90×-	N-71°-W
31	O-19	楕円状	177×95×-	N-90°-W
32	P-21・22	楕円状	195×135×149	土器片3
33	O-22	不整形楕円状	208×190×161	N-49°-E
34	P・Q-21	楕円状	194×136×157	土器片2・打斧
35	S-19・20	不整形	164×101×126	土器片3
36	N・M-25	-	-×90×16	
37	M-25	不整形	127×117×49	
38	M-25	-	-×100×31	
39	O-25	不整形	73×72×-	65住
40	P-25	不整形	67×63×-	65住
42	N-25	不整形	78×74×52	
43	P-25	不整形	91×-×36	
44	Q-24	不整形	140×135×21	深鉢1・敲石1
45	P-24	不整形	60×56×35	
46	P-24・25	不整形	85×76×39	
47	M-23	円形	120×115×33	土器片2
48	Q-23	円形	93×93×71	95-1建物
49	O・P-23	不整形	130×105×43	土器片2
50	R-22	方形	230×145×138	N-0°-E

第3章 検出された遺構と遺物

土坑番号	位置	平面形	規模	備考
51	N-19	不整形	109×80×23	土器片2
52	P-22	不整形	97×84×37	土器片1
53	N-20・21	楕円状	203×123×41	N-13°-E
54	R-24	不整形	86×80×27	
55	S・R-24	不整形	73×61×12	
56	S-24	不整形	100×90×36	石皿1
57	S-24	不整形楕円状	148×63×22	
58	S・T-24	方形	180×120×23	
59	P-22	-	-×50×11	
60	S-24	不整形	95×83×44	
61	R-22・23	不整形	231×194×35	土器片7
62	N-24	不整形	-×-×9	
63	R-23	不整形	134×123×36	土器片2
64	R-22	-	-×53×47	土器片4
65	Q-21	不整形	108×95×41	磨石1
66	Q-23	不整形	110×103×36	
67	S-21	不整形	110×100×31	浅鉢1
68	R-19・20	不整形	61×42×-	
69	R-21	不整形	35×30×12	
70	R-20	不整形	75×59×20	
71	R-21	円形	-×107×63	
72	S-20	円形	71×66×11	
73	T-20	円形	77×70×21	
74	S・T-21	不整形	88×78×13	
75	S-21	不整形	97×86×17	
76	S-21	不整形	116×95×10	
77	S-20	不整形	58×47×17	
78	R・S-20・21	円形	69×63×13	
79	S-19・20	不整形	100×77×13	
80	S-20	楕円状	76×43×10	
81	T-23	不整形	80×56×24	
82	R-23	不整形	102×92×101	
17区				
2	D-15・16	不整形	232×218×75	
3	Q-16	楕円状	164×125×120	
4	S-20	楕円状	163×115×140	
5	T・U-19	方形	77×50×9	
6	S-18	不整形	60×56×6	
7	S-17	不整形	112×83×57	
8	R-16	不整形	53×52×18	
9	S-14	不整形	50×40×35	
10	R-13・14	不整形	73×58×31	
11	O-13	楕円状	225×135×134	
12	O-18	不整形楕円状	273×90×57	
13	P-14	不整形	45×37×18	
14	D-14	不整形	75×65×38	
15	N-17	不整形	90×74×20	
16	M-18	不整形	62×53×31	
17	Q-18	不整形	101×96×41	
18	R-19・20	方形	157×88×27	
19	R-20	不整形	138×100×9	
20	T-18	不整形	159×100×89	
21	G-16	不整形	69×50×28	
22	E-15	溝状	152×43×30	
23	E-15	不整形	93×41×31	
24	E-14	不整形	53×45×27	
25	D-14	不整形	78×56×17	
26	C-14	不整形	62×48×15	

土坑番号	位置	平面形	規模	備考
27	C-15	不整形	161×126×49	
28	C-15	不整形	56×45×30	
29	B-16	不整形	62×-×31	
30	B-16	不整形	36×30×49	
31	A-16	不整形	65×40×35	
32	X-14	不整形	65×51×54	
33	X-13	不整形	58×48×21	
34	X-14	不整形	102×90×31	
18区				
1	L-21・22	楕円状	191×110×167	N-47°-E
2	H-22	不整形	68×61×11	
3	G-24	方形	175×58×84	N-56°-E
4	B-22	不整形	141×113×-	
5	H-22	溝状	188×56×90	N-36°-E
6	I-23	溝状	213×76×111	N-53°-E
7	G-25	溝状	184×57×81	N-67°-E
8	E-20	方形	170×91×136	N-79°-W
9	I-23・24	溝状	195×99×96	N-48°-E
10	G-21	溝状	193×68×85	N-66°-E
11	H-21・22	溝状	233×63×107	N-30°-E
12	J-23	溝状	240×76×117	N-65°-E
13	L-21	楕円状	155×115×150	N-72°-E
14	K-24	溝状	227×57×121	N-65°-E
15	I-23	溝状	246×97×131	N-52°-E
16	I-23	溝状	210×84×120	N-48°-E
17	M-21	溝状	225×101×280	N-39°-E
18	M-21・L-22	溝状	243×109×140	
19	M-21	不整形	-×48×39	N-66°-E
20	M・N-22	溝状	332×125×164	N-48°-E
21	B-21	不整形	45×37×9	
22	A-13	不整形	121×73×45	
23	D-12	不整形	153×142×118	
19区				
2	H-16	方形	120×100×25	
3	K-15・16	不整形	108×88×49	
4	I-16	楕円状	169×94×112	N-5°-E
5	D-16	不整形	125×108×37	
6	G-13	不整形	155×95×37	
7	F・G-15	不整形	123×85×28	
8	D-14	不整形	140×118×39	
9	D-15・16	不整形	79×72×22	
10	I-15・16	不整形楕円状	149×104×53	
11	D-13・E-14	不整形	128×120×55	

ピット	位置	平面形	規模	備考
5区				
23	N-3	不整形	42×36×-	
32	N-3	-	-×30×-	
53	N・O-4	不整形	36×27×41	
54	M-5	-	54×-×1	
55	M・N-5	円形	111×105×59	
56	M-5	円形	53×45×43	
57	M-5	不整形	52×40×19	
58	M-5	円形	65×57×24	
59	M-5	円形	55×52×28	
62	M-4	不整形	38×31×11	
63	M-4	不整形	45×39×26	
64	M-4	円形	25×23×22	
65	N-5	円形	29×26×41	

遺構計測表

ビット	位置	平面形	規模	備考
66	N-5	円形	30×26×9	
67	N-5	円形	44×41×18	
68	N-5	円形	50×48×35	
69	N-4	不整円形	70×54×20	
70	N-4	円形	39×36×21	
71	N-4	円形	23×20×30	
72	N-4	不整円形	67×46×24	
73	O-5	円形	31×25×33	
74	O-5	円形	36×26×13	
75	P-4	円形	56×43×45	
76	P-5	不整円形	37×27×9	
77	P-4	不整円形	32×15×6	
78	P-4	不整円形	31×27×9	
79	P-4	不整円形	32×26×6	
80	Q-4	円形	35×34×10	
81	Q-4	円形	30×28×12	
82	Q-4	円形	45×42×20	
83	Q-4	不整円形	35×27×11	
84	S-1	不整円形	30×24×12	
85	S-1	円形	21×18×14	
87	Q-4	円形	25×25×-	
88	R-4	不整円形	50×45×32	
89	Q-5	不整円形	38×28×10	
91	Q-5	不整円形	35×27×19	
93	Q-4	円形	38×35×6	
95	R-5	不整円形	42×25×12	
96	R-4	円形	29×25×15	
97	S-4	不整円形	45×33×0	
98	R-4	不整円形	38×30×18	
99	R-4	不整円形	32×25×21	
100	R-4	不整円形	70×58×33	
101	R-4	不整円形	46×35×17	
102	O-4	不整円形	42×39×13	
103	N-4	不整円形	48×44×24	
104	N-4	不整円形	56×53×10	
105	P-4	不整円形	33×24×6	
107	R-4	円形	51×47×-	
108	R-5	不整円形	35×27×16	
109	R-4	円形	36×34×12	
111	M-5	不整円形	25×20×22	
112	O・N-3	不整円形	35×27×31	
113	O-4	不整円形	40×29×25	
114	O-3	不整円形	30×25×46	
115	N-3	不整円形	35×25×30	
116	N-3	-	38×-×13	
117	O-4	円形	42×40×27	
118	P-4	不整円形	43×35×36	
119	P-4	円形	33×30×32	
120	Q-3	不整円形	35×30×31	
121	P-3	-	-×31×-	
122	Q-3・4	円形	35×30×11	
123	Q-3・4	不整円形	65×41×46	
124	O-3	円形	40×38×21	
125	Q-3	不整円形	34×28×15	
126	Q-2	不整円形	46×34×23	
127	O-4	円形	38×36×29	
128	Q-2	円形	41×41×48	
129	Q-2	円形	49×45×61	
130	Q-2	不整円形	37×30×37	

ビット	位置	平面形	規模	備考
131	Q-2	不整円形	51×44×-	
134	P-4	不整円形	40×28×8	
135	P-4	円形	53×50×52	
136	O-3	-	46×-×25	
137	N-4	不整円形	57×37×30	
138	O-3	不整円形	70×56×19	
139	O-3	-	39×-×12	
140	N-3	-	46×-×21	
141	O-4	不整円形	37×32×20	土器片1
142	M-3	不整円形	40×35×14	
143	M-3	不整円形	40×37×8	
144	M-2	円形	32×26×26	
145	M-2	不整円形	42×27×27	
146	M-2	不整円形	44×33×26	
147	P-3	-	-×33×34	
148	P・Q-3	不整円形	63×54×37	
149	P-3	不整円形	52×39×17	
150	P-3	不整円形	68×60×37	深鉢1
151	P-4	不整円形	50×39×47	
152	Q-2	円形	34×28×0	土器片2
153	R-2	円形	26×23×22	
154	R-2	円形	25×21×53	
155	R-2	不整円形	64×36×23	
156	R-2	不整円形	55×37×-	
157	R-2	不整円形	46×35×17	
158	R-2	不整円形	44×36×-	
159	R-2	不整円形	40×22×18	
160	R-2	不整円形	58×38×13	
161	R-2	不整円形	39×29×20	
162	O-3	円形	55×50×43	
163	O-2	不整円形	54×44×25	
164	O-2	円形	30×29×-	
165	O-2	不整円形	40×32×13	
166	O-2	円形	28×26×-	
167	O-2	円形	44×40×23	
168	O-2	円形	42×41×26	
169	O-2	-	-×37×26	
170	O-2	不整円形	51×34×44	
171	O-1	円形	38×34×-	
172	O-1・2	不整円形	36×24×-	
173	O-1	不整円形	40×30×-	
174	O-1	不整円形	51×48×29	
175	O-1	円形	25×24×28	
176	O-1	不整円形	39×32×17	
177	O-1	不整円形	35×26×19	
178	P-3	不整円形	46×38×34	
179	P-3	-	-×40×24	
180	O-3	円形	35×29×11	
181	N-2	不整円形	31×22×37	
182	N-2	-	-×36×29	
183	N-2	不整円形	50×42×29	
185	N-2	不整円形	36×23×-	
186	O-2	不整円形	36×26×12	
187	O-2	-	-×29×26	
188	N-1	不整円形	34×24×18	
189	M・N-1	不整円形	46×40×40	
190	P-3	円形	30×28×-	
191	S-1	不整円形	55×47×-	
192	S-1	円形	43×42×36	

第3章 検出された遺構と遺物

ビット	位置	平面形	規模	備考
193・194	S-1	不整円形	80×71×-	
195	S-2	円形	30×22×26	
196	S-2	円形	25×20×23	
197	S-2	不整円形	40×32×29	
198	S-2	不整円形	50×34×-	
199	S-1・2	-	60×-×-	
200	S-1	不整円形	51×38×-	
201	R-1	円形	50×45×-	
202	N-3	不整円形	37×32×19	
203	P-3	不整円形	42×37×15	
204	P-3	円形	31×31×15	
205	N-2	不整円形	34×29×37	
206	N-2	不整円形	35×27×11	
207	N-1	不整円形	33×27×-	
208	S-2	円形	30×27×12	
209	N-1	不整円形	37×26×-	
210	N-1	円形	34×32×-	
211	N-2	不整円形	34×24×-	
212	N-2	不整円形	28×25×15	
213	S-2	不整円形	32×27×31	
214	S-1	円形	76×70×17	
215	R・S-2	-	48×-×-	
216	S-1	不整円形	72×46×15	
217	M-4	不整円形	45×38×22	
218	P-2	円形	33×25×32	
219	O-2	不整円形	38×29×25	
220	P-2	不整円形	74×60×21	
221	P-2	円形	48×45×32	
222	P-2	不整円形	83×76×21	
223	Q-1・2	不整円形	32×25×17	
224	Q-2	不整円形	32×21×16	
225	O-5	不整円形	28×26×9	
226	Q-6	不整円形	33×29×4	
228	Q-6	不整円形	40×35×18	
229	S-3	不整円形	50×48×35	
230	S-3	不整円形	34×27×13	
231	P-1	円形	35×29×16	
232	P-1・2	不整円形	35×21×-	
233	Q-2	円形	22×18×22	
234	Q-2	不整円形	28×24×20	
235	Q-2	-	23×-×20	
236	Q-1	不整円形	48×25×22	
237	Q-1	-	57×-×18	
238	P-1・2	不整円形	132×91×16	
240	S-2	不整円形	53×44×15	
241	S-2	円形	35×33×13	
242	S-2	不整円形	47×32×26	
243	S-2	円形	31×28×19	
244	S-1	不整円形	46×30×16	
245	S-1	円形	37×34×21	
246	Q-1	不整円形	26×20×12	
247	P-1・2	不整円形	22×13×9	
248	P-1・2	円形	19×17×24	
249	P-2	不整円形	26×23×14	
250	P-2	不整円形	32×22×26	
251	P-2	円形	21×15×25	
252	P-1	不整円形	31×26×11	
253	P-1	不整円形	41×25×16	
254	Q-1	不整円形	44×31×18	

ビット	位置	平面形	規模	備考
255	Q-1	円形	25×22×14	
256	P-1	円形	26×21×-	
258	P-1	円形	28×24×18	
95区				
4	N-24	円形	28×23×10	
5	N-25	不整円形	32×28×16	
6	N-25	円形	19×17×12	
7	N-25	不整円形	43×33×30	
8	M-24・25	不整円形	55×46×28	
9	M-25	円形	38×35×31	
10	N-25	不整円形	30×21×17	
11	N-25	不整円形	22×21×7	
12	N-25	円形	50×48×30	
13	N-25	不整円形	42×36×12	
14	O-25	不整円形	48×31×9	
15	O-25	円形	95×89×27	
16	O-25	不整円形	31×23×17	
17	O-25	不整円形	29×25×26	
18	O-25	円形	32×29×11	
19	O-25	不整円形	31×20×25	
20	O-25	不整円形	52×37×14	
21	O-25	円形	23×20×11	
22	O-25	不整円形	64×34×23	
23	O-25	円形	28×28×11	
24	P-25	円形	28×25×14	
25	P-25	不整円形	30×26×12	
26	P-25	円形	25×21×17	
27	P-25	不整円形	43×38×22	
28	P-25	円形	32×32×7	
29	P-25	円形	33×32×16	
30	O-25	円形	32×23×24	
31	O-24	不整円形	36×25×-	
32	O-24	不整円形	40×33×16	
33	P-24	円形	32×32×35	
34	P-24	円形	34×24×12	
35	P-24	不整円形	42×30×-	
36	P-25	不整円形	30×25×12	
37	Q-24	円形	30×30×21	
38	Q-24	不整円形	41×28×19	
39	P-24	円形	45×40×24	
40	P-24	-	35×-×18	
41	P-24	円形	28×27×32	
42	P-24	円形	28×24×10	
43	P-24	円形	30×23×9	
44	P-24	不整円形	58×48×17	
45	N-24	円形	33×31×47	
46	M-24	不整円形	58×50×26	
47	M-24	不整円形	56×44×14	
48	N-23・24	円形	32×30×20	
49	N-23	不整円形	48×37×12	
50	N-23	円形	25×20×28	
51	N-23	不整円形	35×23×14	
52	N-23	不整円形	33×23×12	
53	N-23	円形	35×30×14	
54	O-23	円形	30×28×22	
55	O-23	円形	32×32×25	
56	O-23	不整円形	38×23×16	
57	O-23	不整円形	44×30×30	
58	P-23	円形	50×47×24	

遺構計測表

ビット	位置	平面形	規模	備考
59	Q-23	円形	35×34×13	
60	Q-23	円形	30×26×35	
61	Q-24	円形	28×25×13	
62	Q-23	円形	35×35×20	
63	Q-23	不整円形	60×30×13	
64	M-23	不整円形	93×80×23	
65	N-24	不整円形	48×25×18	
66	Q-24・25	不整円形	50×30×17	
67	Q-25	不整円形	35×28×28	
68	Q-25	円形	24×22×15	
69	Q-25	円形	27×25×17	
70	Q-25	不整円形	41×35×25	
71	Q-25	円形	35×30×15	
72	S-25	不整円形	48×25×30	
73	S-25	-	-×57×11	
74	S-25	不整円形	-×60×15	
75	S-25	円形	25×23×-	
76	S-25	不整円形	60×37×22	
77	S-25	不整円形	48×33×14	
78	S-25	円形	26×23×10	
79	S-25	円形	35×30×25	
80	P-25	不整円形	30×21×17	
81	S-25	円形	35×31×-	
86	S-25	円形	28×22×27	
87	S-25	円形	26×25×12	
88	S-25	円形	24×19×23	
89	S-25	円形	39×35×19	
90	S-25	不整円形	54×35×27	
91	R-25	円形	32×28×25	
92	N-19	-	-×23×58	
93	N-19	不整円形	42×32×21	
94	N-19	円形	24×20×26	
95	N-19	円形	25×22×12	
96	O-19	円形	28×24×24	
97	P-19	不整円形	68×50×20	
98	Q-22	不整円形	98×86×83	土器片2
99	N-19	不整円形	72×43×60	
100	S-24	円形	40×40×28	
101	R-24	-	70×-×16	
102	O-24	不整円形	50×35×34	
103	O-24	円形	35×32×29	
104	O-24	円形	26×24×23	
105	O-24	不整円形	48×35×29	
106	O-24	不整円形	51×40×27	
107	O-23	円形	52×50×22	
108	N-22	不整円形	44×36×34	
109	R-23	円形	75×70×74	土器片2
110	Q-22	不整円形	77×60×79	
111	S-22	円形	91×90×44	土器片2
112	R-24	円形	22×18×10	
113	R-24	円形	30×28×16	
114	R-24	不整円形	50×42×22	
115	S・R-23	不整円形	87×80×69	
116	S-22	不整円形	101×93×67	
117	S-21	不整円形	108×73×81	
118	N・O-21	不整円形	72×58×16	
119	N-20	不整円形	76×63×30	打斧1・石鏝1
120	N-20	不整円形	43×35×10	
121	M-20	不整円形	49×35×26	
122	S-23	不整円形	100×93×73	深鉢1

ビット	位置	平面形	規模	備考
123	S-23	-	-×90×36	土器片3
124	S-23	円形	120×114×51	
125	R-23・24	円形	51×49×31	
126	N-20	-	-×48×12	
127	S-22	不整円形	37×23×90	
128	S・T-23	円形	60×55×16	
129	T-23	円形	30×32×24	
130	S-23	円形	30×29×11	
131	R-23	円形	17×12×19	
132	R-22	不整円形	63×56×50	
133	N-25	-	-×33×34	
134	N-24	円形	30×29×12	
135	R-22	不整円形	97×86×71	
136	R-23	不整円形	90×78×68	土器片1
137	R-21	不整円形	97×70×71	
138	Q・R-21	不整円形	82×77×71	
139	Q-20	不整円形	44×31×22	
140	Q-21	不整円形	52×41×31	
141	Q-21	不整円形	79×41×26	
142	S-21	-	-×32×15	
143	R-22	-	-×40×19	
144	T-25	不整円形	40×35×13	
145	T-20	不整円形	59×45×26	
146	T-23	不整円形	60×35×14	
147	R-23	不整円形	48×36×15	
148	S-23	円形	19×18×17	
149	S-24	円形	35×30×27	
17区				
1	S-21	円形	27×27×29	
2	S-21	円形	28×26×25	
3	S・T-21	不整円形	27×22×24	
4	T-21	不整円形	33×23×17	
5	S-20	円形	28×24×38	
6	R-21	不整円形	21×12×21	
7	R-20	円形	21×17×29	
8	R-20	不整円形	35×27×12	
9	R-20	不整円形	51×29×10	
10	S-20	-	-×25×18	
11	S-20	不整円形	28×23×14	
12	S-20	不整円形	35×27×10	
13	S-20	円形	27×25×27	
14	T-20	不整円形	33×19×17	
15	S-19・20	円形	31×30×21	
16	S-19	不整円形	31×23×16	
17	S-19	円形	27×24×6	
18	S-19	円形	34×33×35	
19	S-18	円形	28×27×7	
20	S-18	円形	34×29×18	
21	S-18	円形	35×35×11	
22	R-19	不整円形	30×20×25	
23	R-19	不整円形	55×45×31	
24	R-18	不整円形	39×25×12	
25	R-18	不整円形	45×38×16	
26	R-15	不整円形	34×21×43	
27	S-15	不整円形	40×35×34	
28	R-14	不整円形	25×17×9	
29	R-14	不整円形	28×20×17	
30	S-13	不整円形	25×18×9	
31	F-14	円形	47×42×17	
32	F-15	不整円形	50×39×18	

第3章 検出された遺構と遺物

ピット	位置	平面形	規模	備考
33	E - 15	不整円形	43×35×25	
34	E - 14	不整円形	54×40×18	
35	E - 14	円形	36×32×34	
36	D - 15	円形	24×21×21	
37	D - 14	円形	29×24×18	
38	D - 14	円形	69×65×25	
39	D - 14	不整円形	34×22×14	
40	E - 14	円形	24×23×11	
41	D - 14	不整円形	45×31×23	
42	C - 14	不整円形	28×22×18	
43	B - 15	不整円形	46×40×22	
44	B - 14	不整円形	36×30×31	
45	B - 15	円形	40×37×7	
46	O - 16	不整円形	45×30×16	
47	O - 17	円形	49×47×13	
48	L - 15	不整円形	53×49×31	
49	N - 16・17	不整円形	51×35×12	
50	X - 13	不整円形	70×27×17	
51	X - 12	円形	35×33×62	
52	C - 17	不整円形	40×29×47	
53	F - 16	不整円形	51×43×20	
54	F - 17	不整円形	60×40×35	
55	H - 18	不整円形	67×40×15	
56	L - 19	不整円形	80×40×28	
57	M - 19・20	不整円形	80×55×21	
58	H - 18	不整円形	71×63×14	
18区				
1	E - 23	円形	33×27×6	
2	D - 22	不整円形	43×38×8	
3	C - 21	不整円形	56×41×8	



第5表 出土土器観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-58住 13図1 PL41	口縁部 張り出し部	①粗 白色粒・石英少 ②良好 ③黒褐色	波状口縁部波頂部。口縁部に沿って細隆線を付し、波頂下小突起より、隆線が分岐派生する懸垂文構成か。無節L縦位充填施文	加曾利EIV
5-58住 13図2 PL41	体部 炉上	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③淡黄色	体部中位。垂下細隆線による懸垂文構成か。施文部縄文はLR縦位充填施文。磨消部は丁寧な撫で	加曾利EIV
5-58住 13図3 PL41	口縁部 連結部 土坑内	①微細 白色粒少 ②良好 ③黒褐色	口縁部突起。楕円状を呈し中に円孔を穿つ。周縁には沈線を施し縦位LRを重ねる。口縁部には円形刺突文と沈線が沿う。無文部・内面は研磨され平滑。内面口縁部下に煤付着	称名寺1
5-58住 13図4 PL41	口縁部 張り出し部	①微細 白色粒少 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部双環状突起。内面孔を穿ち、3方向の貫孔となる。突起外縁は円形刺突文を起点に沈線が縁取る。内面は環状意匠を配し土端に小突起を付す	称名寺1
5-58住 13図5 PL41	体部 連結部床土	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③明黄褐色	体部中位。1本描きの弧状沈線で磨消部と縄文施文部を交互に画す。鋸先状意匠か。縄文はLR斜位充填施文。	称名寺1
5-58住 13図6 PL41	体部 壁外	①粗 石英多・白色粒 ②良好 ③鈍い黄色	1本描き沈線による環状・渦巻状意匠か。やや雑な施文。	堀之内1
5-58住 13図7 PL41	底部 張り出し部	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③明黄褐色	厚手の突出する底部。体部下半は外反気味に開く。底面は撫でにより平滑	中期終末～後期初頭
5-58住 13図8 PL41	体部 埋土	①粗 白色粒・角安少 ②良好 ③黒褐色	体部上半。細沈線充填縄文による幾何学文か。縄文はLR横位充填施文	堀之内2
5-58住 13図9 PL41	体部 張り出し部	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	体部上半。細沈線充填縄文による、弧状区画・帯状区画文が配される。無文部・内面は丁寧な研磨を施す。縄文はLR横位・斜位充填施文	堀之内2
5-58住 13図10 PL41	口縁部 埋土	①微細 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	注口土器。口縁部は短く直立する。口部は内傾し面を持つ。体部は5～6条の細沈線群による弧状・渦巻状意匠を配し、空白部に入り組み状の弧線文を小意匠として描く。	加曾利B1
5-58住 13図11 PL41	体部 床直土	①細 白色粒 ②良好 ③暗褐色	体部下半か。無文で外面は丁寧な縦位撫で、内面は斜位撫でを施す。外面少量煤付着	堀之内2?
5-60住 21図1 PL41	口縁部 炉内	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色	緩やかな波状口縁4単位。頸部小突起を中核とした楕円区画文。体部は懸垂文構成。炉内出土。口縁～頸部加熱による変色	堀之内1
5-60住 21図2 PL41	体部 炉内	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③黄橙色	体部沈線による懸垂文構成下端。円文も施される。炉内逆位出土のため個体下位が加熱により変色	堀之内1
5-60住 21図3 PL41	口縁部 連結部床土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③黒褐色	口縁部無文。頸部円文より1本描き沈線による懸垂文構成か。縄文はLR縦位充填施文	堀之内1
5-60住 21図4 PL42	口縁部 張り出し部	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③灰褐色	口縁部内屈。口縁部下に刺突を連続する横位隆線を巡らし沈線が沿う。体部は沈線充填縄文による幾何学文構成。無文部に渦巻状意匠を配す	堀之内1新
5-60住 21図5 PL42	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	鉢。口唇部肥厚し、小波状突起を付す。3単位か。波頂部下両端に円形刺突文を施し下端より細隆線が垂下する。内面口唇部肥厚部には横位沈線が施され、波頂部に円形刺突文と弧線が配される。内面研磨	堀之内1新
5-60住 21図6 PL42	口縁部 埋土下位	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	鉢。口唇部内傾し小波状突起を付す。3単位か。突起中位に円形刺突文と弧線を施し、横位沈線で突起感を繋ぐ。体部上半には沈線による弧線文が配される。内面口縁部下に弧状隆線が配され、円形刺突文と沈線が重なる。内面研磨、煤付着	堀之内1新
5-60住 21図7 PL42	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③赤褐色	鉢。強く外反する口縁部。口唇部は内屈する。口縁部より細隆線が垂下する。内面研磨	堀之内1新

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-60住 21図8 PL42	口縁部 埋土	①微細 白色粒・雲母微 ②良好 ③黒褐色	口唇部内屈し、円形刺突文と横位沈線を施す。体部は垂下沈線による懸垂文構成か。縄文は縦位LR充填施文	堀之内1新
5-60住 21図9 PL42	口縁部 埋土	①細 白色粒・褐色粒微 ②良好 ③黒褐色	波状突起。波頂部下より幅広の横位凹線と、弧線・円形刺突文が施される。内外面とも丁寧な研磨で平滑	堀之内1
5-60住 21図10 PL42	口縁部 埋土	①細 白色粒多 ②良好 ③褐色	厚手。波状突起。波頂部下に弧線を充て、幅広の横位凹線が施される。内外面とも研磨を加える	堀之内1
5-60住 21図11 PL42	口縁部 埋土	①細 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	上面S字状を呈する筒状突起を口縁部に付す。突起中位に円形刺突文を施し、体部は斜位沈線と縦位沈線を垂下させる。懸垂文構成か。縄文は地文でRL縦位・斜位施文。外面煤付着する	堀之内1
5-60住 22図12 PL42	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	波状口縁か。波頂部に弧線と円文を配し、刺突を加えた隆線が垂下する。内面波頂部に隆線による楕円文と半渦巻文を充て円文と弧状沈線を施す。内外面とも研磨を加える	堀之内1
5-60住 22図13 PL42	口縁部 2ピット	①細 白色粒・雲母少 ②良好 ③黒褐色	波状突起。波頂部に円文と弧線。口縁部下に横位沈線を施す。屈曲部に大柄の刻みを連続させる。突起内面も円文と弧状沈線を施す。内外面とも研磨	堀之内1
5-60住 22図14 PL42	口縁部 張り出し部	①細 白色粒多・石英 ②良好 ③明黄褐色	器面磨滅。波状突起下端を見る。欠損する波頂部より派生する斜位隆線。口唇部は内屈する	堀之内2?
5-60住 22図15 PL42	口縁部 床直上	①粗 白色粒多 ②良好 ③明褐色	厚手で強く外反する。口縁肥厚部に幅広の凹線を巡らす。破片下端に沈線文の痕跡有り。内面も厚く稜状となる	堀之内1
5-60住 22図16 PL42	口縁部 6ピット	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③灰褐色	平縁。口縁部に円文を連続する。体部は垂下沈線による懸垂文構成	堀之内1
5-60住 22図17 PL42	体部 11ピット	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③灰褐色	1本描き沈線による施文部と磨消部。施文部は無節L縦位充填施文	称名寺1
5-60住 22図18・19 PL42	体部 床直上	①粗 石英多・雲母 ②良好 ③明褐色	外反する体部中位。太い沈線を2条一組にした区画文構成。施文部と沈線間無文部は交互配列。施文部はLR充填施文	堀之内1新
5-60住 22図20 PL42	体部 床直上	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い黄橙色	頸部。体部上半より弧状沈線が垂下し横位沈線と接し区画文を配す。区画内は円文と沈線による弧状意匠を充てる。縄文はLR縦位・斜位充填施文	堀之内1
5-60住 22図21 PL42	体部 埋土下位	①粗 白色粒多 ②良好 ③暗褐色	頸部横位沈線と弧状沈線で画された区画上端に円文を配す。屈曲部より弧状沈線が垂下する	堀之内1
5-60住 22図22 PL42	体部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	頸部に円文を横位連続し以下に沈線による長楕円文を配す。体部は斜位沈線文による区画文か。区画隅に弧線を充てる。縄文はLR縦位充填施文	堀之内1新
5-60住 22図23 PL42	体部 埋土	①粗 白色粒・石英少 ②良好 ③鈍い黄褐色	頸部に浅い沈線を巡らす。体部は弧状沈線が垂下し、空白部に斜位LRを施す	堀之内1
5-60住 22図24 PL42	体部 埋土	①粗 雲母・石英 ②良好 ③鈍い黄色	横位低隆帯以下に2条の太い沈線による区画文構成か。施文部と無文部との交互配列。縄文はLR縦位・斜位充填施文	堀之内1新
5-60住 22図25 PL42	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	弧状垂下沈線に対向する渦巻文を充てる。縄文はLR斜位充填施文	堀之内1
5-60住 22図26 PL42	体部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③黄灰色	頸部横位沈線間に刺突文を連続する。体部は縦位沈線と弧状沈線による区画文構成か。区画内は細縄文を充填する	堀之内1

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-60住 22図27 PL42	体部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	頸部横位沈線間に刺突文を施し、8字状貼付文が跨ぐ。体部は貼付文より細隆線が垂下し、垂下沈線と弧状沈線による区画文が割られる。区画内は細縄文LR縦位・斜位充填施文。外面煤付着	堀之内1
5-60住 22図28 PL42	体部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	2条の横位沈線と弧状沈線による区画文か。横位沈線の一方も屈曲し区画化を示唆する。縄文はLR横位・斜位施文	堀之内1
5-60住 22図29 PL42	体部 埋土	①細 白色粒少 ②良好 ③黒褐色	横位沈線以下円形貼付文と渦巻状隆線が付される。	堀之内1
5-60住 22図30 PL42	体部 埋土	①細 白色粒多 ②良好 ③赤褐色	体部下半。縦位沈線と弧状沈線による懸垂文構成下端。縄文はLR縦位充填施文	堀之内1
5-60住 23図31 PL42	体部 張り出し部	①粗 白色粒多 ②良好 ③褐色	体部上半。2・3条の太い沈線による三角形区画文構成。区画内は無文。外器面は平滑	堀之内1新
5-60住 23図32 PL42	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③灰黄褐色	横位隆線以下に弧状隆線を付す。あるいは円形状の意匠か。横位隆線上位には弧状沈線が施される	堀之内1
5-60住 23図33 PL42	体部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い褐色	2条の縦位沈線間を斜位短沈線が充填する。空白部は沈線による弧状意匠あるいは環状意匠か	堀之内1
5-60住 23図34 PL42	体部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	垂下隆線と沈線による懸垂文構成下端。隆線は低位化し刺突のみとなる。外面研磨が加わる	堀之内1
5-60住 23図35 PL42	体部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③暗赤褐色	体部中位か。3～5条の弧状沈線による懸垂文構成下端。無文部は平滑	堀之内1
5-60住 23図36 PL42	体部 埋土	①粗 砂粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	体部上半か。縦位沈線と斜位沈線が施される。沈線は太く沈線間は幅広。	堀之内1
5-60住 23図37 PL42	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③褐色	口唇部尖る。薄手で内外面とも横位削り調整後撫でを加える。指頭圧痕も残る	堀之内
5-60住 23図38 PL42	口縁部 埋土	①細 白色粒・雲母少 ②良好 ③オリーブ黒	口縁部内面浅い横位沈線を施す。外面は無文。内外面とも横位撫で調整。内面は丁寧	堀之内
5-60住 23図39 PL42	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	口縁部内面肥厚。肥厚部に横位沈線を施す。外面は無文。外面微量の煤付着	堀之内1
5-60住 23図40 PL42	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英多 ②良好 ③鈍い赤褐色	口唇部内面に深く横位沈線を施す。外面は無文で平滑	堀之内1
5-60住 23図41・42 PL42	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	直立気味の口縁部形態。内外面とも無文で弱い研磨を施す	堀之内
5-60住 23図43 PL42	口縁部 張り出し部	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	薄手で口唇部尖る。口縁部は直立気味。無文で内外面とも弱い磨き加わる	堀之内
5-60住 24図44 PL43	体部 床直	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い黄褐色	厚手。体部下半。無文で弱い撫で調整を施す。雑な作り	堀之内
5-60住 24図45 PL43	体部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い黄褐色	体部中位。無文で弱い撫でを施す。器面凹凸顕著で雑な作り	堀之内

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-60住 24図46 PL43	口縁部 埋土	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③黒褐色	波状口縁突起。波頂部より分岐垂下する隆帯両脇に環状意匠を配す。突起上端は隆線で画された楕円状小区画が配される。内面は凹文を中央と両脇に配し太い沈線が繋ぐ。体部外面は縦位刺突列と斜位沈線が施される。内面研磨	堀之内1
5-60住 24図47 PL43	口縁部 張り出し部	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③黒褐色	波状口縁突起。波頂部より分岐垂下する隆帯両脇に環状意匠を配す。突起上端は隆線で画された楕円状小区画が配される。内面は凹文を中央と両脇に配し太い沈線が繋ぐ。体部外面は縦位刺突列と斜位沈線が施される。内面研磨	堀之内1
5-60住 24図48 PL43	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③明褐色	捻りを印象する突起。片側は貫孔する。口唇部は凹文を起点とし沈線が施される。凹文は突起各所にも配される	堀之内1
5-60住 24図49 PL43	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	突出する口縁部突起。頂部は環状を呈し、凹文と沈線が施される。隆帯が垂下し突起を分割し、沈線と凹文が空白部を埋める。内面は半渦巻状意匠が配され中位を凹文と沈線が施される。突起下端には凹文と弧線が充てられる。	堀之内1
5-60住 24図50 PL43	体部 床下土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	体部屈折鉢。屈折部と体部上半に沈線を重ねる横位細隆線を付し、円形刺突文を起点に弧状隆線と沈線が配される。おそらく渦巻状意匠か。内面研磨	堀之内1
5-60住 24図51 PL43	体部 埋土	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③浅黄色	注口土器体部。軟質で器面磨滅。屈折部上位に横位沈線を施し体部文様を画す。体部は重沈線による渦巻文・変形区画文が配される。	堀之内1
5-60住 24図52 PL43	注口 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③灰黄色	注口土器注口部。芯材との接合部が顕著	堀之内
5-60住 24図53 PL43	注口 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③灰黄色	注口土器注口部。芯材との接合部が顕著。外面入念な研磨を施す	堀之内
5-60住 24図54 PL43	底部 張り出し部	①粗 白色粒 ②良好 ③明赤褐色	厚手の底部。直立気味の体部立ち上がり。体部は縦位撫で調整。底面に網代痕	堀之内か
5-60住 24図55 PL43	完形 床直	①微細 白色粒 ②良好 ③浅黄色	ミニチュア土器。口縁部小突起に刺突による孔を穿つ。体部は細沈線による縦位波状文を施す	堀之内1
5-60住 24図56 PL43	体部 張り出し部	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	体部下半。薄手の器厚で大型の深鉢か。無文で内外面とも削り調整後撫でを加えるが、器面凹凸が顕著。雑な作り	堀之内
5-60住 24図57 PL43	体部 張り出し部	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い橙色	体部と底部破片2点からなる。薄手で底部径広い大型深鉢。体部～底部とも無文で外面削り調整後下半に撫でを加える。底面網代痕。内面煤付着	堀之内
5-60住 25図58 PL43	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い黄橙色	平縁で口縁部下に横位隆線を巡らす。以下弧状沈線が垂下しおそらく分岐懸垂文構成。縄文はLR斜位充填施文	加曽利EIV
5-60住 25図59 PL43	口縁部 床直上	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③橙色	強く開く口縁部。体部文様は一帯で沈線による施文部と磨消部の弧線状意匠が配される。縄文はLR充填施文	称名寺1
5-60住 25図60 PL43	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い黄橙色	平縁。口縁部内面に1条の横位沈線を施す。外面は沈線充填縄文による磨消部楕円区画文が配される。縄文は横位LR充填施文	堀之内2
5-60住 25図61 PL43	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③赤褐色	平縁。口縁部下に横位沈線を施し以下横位・斜位LRが覆う	堀之内1?
5-60住 25図62 PL43	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③暗灰黄色	欠損する突起脇の口縁部破片。横位細隆線が付され、突起下で弧状隆線が繋ぐ。体部上半に横位沈線が施され、LRが重なる。内面は口唇部沈線が突起脇で止まる。内面黒色研磨	堀之内2
5-60住 25図63 PL43	口縁部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③黒褐色	口唇部内屈。外面は2条の横位細隆線以下横位細沈線を施す	堀之内2

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-60住 25図64 PL43	体部 張り出し部	①細 白色粒・石英多 ②良好 ③暗赤褐色	細沈線と充填縄文による幾何学文構成。縄文はLR。無文部は弱い研磨を加える	堀之内2
5-60住 25図65 PL43	体部 埋土	①細 白色粒多・石英 ②良好 ③黒褐色	体部屈折鉢。屈折部に横位沈線を施し、体部文様帯は細沈線と充填縄文による幾何学構成。縄文はLR	堀之内2
5-60住 25図66 PL43	体部 埋土	①微細 白色粒少 ②良好 ③黒褐色	注口土器か。横位細隆線で画された頸部文様帯に沈線による縦位楕円文と多段の横位楕円文が配される。剥落するが把手の痕跡有り	堀之内2
5-60住 25図67 PL43	口縁部 埋土	①細 白色粒多・石英 ②良好 ③黒褐色	口縁部内外面とも4条の横位沈線を施す。内面施文が整う。	堀之内2新
5-60住 25図68 PL43	口縁部 埋土	①微細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部下に横位沈線を多段に巡らし、LRを重ねる。口唇部内面に横位沈線を施す。内面研磨	堀之内2新
5-60住 25図69 PL43	口縁部 埋土	①緻密 ②良好 ③黒色	外反する体部上半。上位は横位平行沈線と入り組み状弧線文。下位は弧状沈線文が配される。内外面黒色研磨	堀之内2新
5-60住 25図70 PL43	口縁部 埋土	①緻密 ②良好 ③黒褐色	口唇部には刻みを施し、口縁部上端に8字状突起を付す。口縁部下は横位平行沈線と入り組み状弧線文、体部は弧状沈線文と縦位入り組み状弧線文が施される。内外面黒色研磨	堀之内2新
5-60住 25図71 PL43	口縁部 埋土	①緻密 ②良好 ③黒色	口縁部に双環状小突起を付す。突起下に沈線による縦位S字状意匠を配し、横位沈線群が重なる。沈線間は細かな連続刺突が加わる。体部は細沈線と充填縄文による区画文が配される。縄文はLR横位・斜位充填施文。内外面黒色研磨	堀之内2新
5-60住 25図72 PL43	口縁部 埋土	①緻密 白色粒・石英 ②良好 ③黒色	波頂部に鼓状突起を付す。突起中位・突起下に円孔を穿つ。8字・縦位S字状意匠か。口縁部下は横位入り組み状弧線文と平行沈線が施される。口唇部上端に沈線が沿い、突起片側は弧状突起を付設する。内外面黒色研磨	堀之内2新
5-60住 25図73 PL43	体部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③黒色	横位多段の平行沈線に縄文LRが重なる。以下はLR充填施文の帯縄文が配される。内外面黒色研磨	堀之内2新
5-60住 25図74 PL43	口縁部 埋土	①緻密 白色粒・石英 ②良好 ③暗褐色	浅鉢。口唇端部に2条の沈線と細かな刻みを施す。内面施文も沈線と刻みにより剥落する突起下を縁取る。内面研磨	堀之内2新
5-60住 25図75・76 PL43	底部 埋土	①緻密 白色粒・雲母少 ②良好 ③黒色	注口土器体部と底部。体部中位の横位沈線で画され、3条の平行沈線による三角形区画文構成。区画内は渦巻文と入り組み状弧線文が施される	堀之内2新
5-60住 25図77 PL43	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③橙色	口縁部球形突起。頂部より四方に細隆線が貼付される。突起両下端・内面に円文を配すが、内面剥落のため判然としない	堀之内2新
5-60住 25図78 PL43	底部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	コップ状の鉢か。緩やかな内湾気味に立ち上がる。内外面黒色研磨	堀之内2新
5-61住 30図1 PL44	完形 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③灰褐色	口唇部は意図的な欠損。口縁部は低位隆帯による渦巻文と半楕円状区画文を配す。5単位を数える。体部は沈線懸垂文構成で磨消部は丁寧な撫で。施文部は縦位波状沈線とRL縦位充填施文。内面体部下半加熱による変色。煤も微量付着	加曾利EⅢ
5-61住 30図2 PL44	体部 炉内	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部渦巻状意匠と低隆線による区画文構成。体部は沈線による縦位区画文構成で、区画中位に楕円文を配す。縄文はRL縦位充填施文	加曾利EⅢ
5-61住 30図3 PL45	体部～底部 炉南床直上	①粗 白色粒多 ②良好 ③暗赤褐色	2点からなる。2条沈線による体部懸垂文構成。磨消部の幅は狭く、施文部は縦位波状文とRL縦位充填施文	加曾利EⅢ
5-61住 30図4 PL45	口縁部 埋土	①粗 石英・片岩 ②良好 ③鈍い黄褐色	隆帯による口縁部楕円状区画。区画内は沈線を側線とする。体部は2条沈線による懸垂文構成。縄文はRL縦位・斜位充填施文	加曾利EⅢ

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-61住 30図5 PL45	体部 南壁埋土	①粗 片岩・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	隆帯による口縁部楕円状区画。区画内は沈線を側線とする。体部は2条沈線による懸垂文構成。縄文はR L縦位・斜位充填施文	加曾利EⅢ
5-61住 30図6 PL45	体部 北壁埋土	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③暗褐色	口縁部下の低位隆帯による渦巻文と楕円状区画。体部は沈線による懸垂文構成か。縄文はR L斜位充填施文	加曾利EⅢ
5-61住 30図7 PL45	体部 埋甕埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い黄色	頸部に大柄の円文を配す。口縁部は隆帯による楕円状区画。体部は縦位条線が密に施される。口縁部縄文はR L縦位充填施文	加曾利EⅢ
5-61住 30図8 PL45	体部 埋甕埋土	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③暗赤褐色	2条の垂下隆線による体部懸垂文構成。空白部は縦位捺糸文1が施される	加曾利EⅡ新
5-61住 31図9 PL45	体部 炉内	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③橙色	2条の垂下隆線による体部懸垂文構成。施文部は縦位R L縦位充填施文	加曾利EⅢ
5-61住 31図10 PL45	体部 床直上	①細 白色粒 ②良好 ③明赤褐色	体部下半。1条の垂下沈線による懸垂文構成。無節Rが充填施文される	加曾利EⅣ
5-61住 31図11 PL45	体部 埋土下位	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③赤褐色	体部下半。縦位・斜位R Lが覆う。内面平滑	加曾利EⅢ?
5-61住 31図12 PL45	体部 埋土下位	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	頸部の横位沈線と8字状貼付文。体部は沈線による渦巻文と分岐懸垂文が配される。縄文はL R縦位充填施文	堀之内1
5-61住 31図13 PL45	口縁部 埋土	①粗 砂粒多 ②良好 ③赤褐色	平縁。口縁部に1条の沈線を巡らし、以下垂下沈線と縦位波状沈線による懸垂文構成。細縄文R Lを縦位充填施文する	堀之内1
5-61住 31図14 PL45	口縁部 埋土	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色	強く外反する口縁部。無文	堀之内1
5-61住 31図15 PL45	口縁部 埋土	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③明赤褐色	緩やかに外反する口縁部。無文。頸部に横位沈線か	堀之内1
5-61住 31図16 PL45	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③灰褐色	口唇部内面沈線は浅い。口縁部に刺突を施す横位細隆線を巡らす	堀之内2
5-61住 31図17 PL45	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③灰褐色	口唇部内屈する。8字状貼付文以下1条の横位細隆線を巡らし、体部は沈線充填縄文による幾何学文構成	堀之内2
5-61住 31図18 PL45	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③赤褐色	口唇部内屈する。1条の横位細隆線を巡らし、以下沈線充填縄文による意匠文が配される。おそらく8字状貼付文が付される	堀之内2
5-61住 31図19 PL45	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	鉢。体部で屈折する。2条の横位細隆線を8字状貼付文が繋ぐ	堀之内2
5-61住 31図20 PL45	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	柱口土器把手。三角形で渦巻状小突起を頂部に付す。沈線で画された口縁部文様は円形刺突列が沿い、無節縄文が施される	堀之内1
5-61住 31図21 PL45	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③灰褐色	鉢か。口縁部内屈し強く湾曲する。外面円形刺突文下より細隆線が斜位に付される。内面横位隆線に8字状貼付文が付される。口唇部に刻みが施される	堀之内2
5-61住 31図22 PL45	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③灰褐色	口縁部突起上端は8字状。孔は貫通し、突起下に縦位弧線状沈線が連なる。口縁部下には横位沈線群が施され細縄文L Rが重なる	堀之内2新

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-61住 31図23 PL45	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③灰褐色	口唇部内面に沈線。外面は横位沈線上に細縄文LRが横位に施される	堀之内2新
5-61住 31図24 PL45	体部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	体部下半で緩やかに屈折する。屈折部に横位沈線2条が巡る。体部文様は沈線充填縄文による入り組み状意匠が配される	堀之内2新
5-61住 31図25 PL45	口縁部 埋土	①微細 白色粒・角安 ②良好 ③灰褐色	浅鉢。外面無文。口唇部に瘤状小貼付文。内面は横位沈線群が重なる。口縁部に円形の小孔が連なる	堀之内2新
5-61住 31図26 PL45	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部突起。外面は円柱状で渦巻状沈線文を描く。内面及び上端部は円文と沈線文が施される	堀之内2新
5-61住 31図27 PL45	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③赤褐色	小突起。柱状で下端脇に刺突を施した突起を配し、横位橋状となす。横位沈線間を斜位刻みが施される	堀之内2新
5-61住 31図28 PL45	底部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③赤褐色	張り出し底部。底面は平坦で網代痕が残る	堀之内2?
5-62住 36図1 PL46	底部 炉体土器	①粗 白色粒多 ②良好 ③橙色・鈍い褐色	大型の深鉢体部下半。1本描き沈線による懸垂文構成下端。内外面体部下半煤・ヨグレ付着。	称名寺
5-62住 36図2 PL46	口縁部 床直上	①粗 白色粒多 ②良好 ③明赤褐色	注口土器注口部。1本描き沈線により注口部を対象に施文する。RL充填施文か	称名寺1
5-62住 36図3 PL46	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部無文以下に横位細隆線を付す。口唇部内面に強い横位沈線が巡る	堀之内2
5-62住 36図4 PL46	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い黄褐色	口唇部欠損。口縁部下に横位細隆線を2条巡らし、8字状貼付文を付す	堀之内2
5-62住 36図5 PL46	口縁部 埋土	①細 白色粒多 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部に3条の横位細隆線。貼付文の痕跡有り。下位は横位沈線とLR充填縄文。口唇部内面に横位沈線を施す	堀之内2
5-62住 36図6 PL46	口縁部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部僅かに内傾し、口唇端部に刻みを施す。内面は横位沈線が巡る	堀之内2
5-62住 36図7 PL46	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③浅黄橙色	横位沈線と弧状沈線による磨消部弧状意匠か。縄文はRL縦位充填施文	称名寺?
5-62住 36図8 PL46	体部 埋土	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③明褐色	細沈線による紡錘状区画文。区画内はLR充填施文	堀之内2
5-62住 36図9 PL46	注口 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	注口土器注口部。接合部に1条の沈線を施す。外面は丁寧に研磨する	堀之内
5-62住 36図10 PL46	注口 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	注口土器注口部。接合部に1条の沈線を施し、上下に沈線による渦巻状意匠文を施す。内面棒状工具による強い撫でが顕著。外面は研磨	堀之内
5-62住 36図11 PL46	底部 埋土	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	底部突出し張り出す。体部は無文で削り調整後撫でが加わる。底面網代痕	堀之内
5-62住 36図12 PL46	底部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③灰オリーブ色	器面やや磨滅。直立気味の底部形態。底面網代痕	堀之内

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-62住 36図13 PL46	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部球状突起。両端に小突起を付す。頂部に渦沈線による渦巻文。突起下端は横位沈線が施される	堀之内2新
5-62住 36図14 PL46	体部 埋土	①微細 ②良好 ③黒褐色	口縁部突起か。頂部に沈線による巴状意匠が配される。丁寧な研磨を施す	堀之内2新
5-62住 36図15 PL46	口縁部 埋土	①緻密 ②良好 ③黒褐色	口唇端部にクランク状の細沈線文を施し、8字状小突起を付す。口縁部無文部以下は横位沈線と入り組み状弧線文が多段に配される	堀之内2新
5-63住 38図1 PL47	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色	浅鉢。口唇端部に2条の細沈線が沿い沈線間に細かな刻みを施す。口縁部内面施文も同様の沈線を施す	堀之内2新
5-64住 40図1 PL47	口縁部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③褐色	大型の口縁部波状突起を付す。突起下に隆線による渦巻文を配し、楕円状区画文が接す。区画隆線には撫でが沿い、横位RLを充填する。突起下には大柄の円文が強調される。頸部は無文	加曾利EⅢ古
5-64住 40図2 PL47	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③暗褐色	肥厚口唇部直下に幅広の凹線が巡り、以下口縁部区画文が配される。体部は2条の垂下沈線による磨消部の懸垂文構成。縄文は口縁部横位、体部縦位RLが充填される。口縁部に少量煤付着	加曾利EⅢ古
5-64住 40図3 PL47	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③褐色	体部中位。2条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はRL縦位・斜位充填施文。	加曾利EⅢ古
5-64住 40図4a PL47	体部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③鈍い赤褐色	頸部。横位隆帯以下垂下沈線と魚鱗状沈線が連なる。	唐草文系
5-64住 40図4b PL47	体部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い赤褐色	体部中位。垂下沈線による懸垂文構成。空白部は魚鱗状沈線が埋められる	唐草文系
5-64住 40図5a,c 図版	体部 埋土	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③褐色	体部上半。頸部より垂下する低位隆線による懸垂文構成。施文部は縦位条線を充填する。	加曾利EⅢ古
5-64住 40図5b PL47	体部 埋土	①粗 白色粒・褐色粒・石英 ②良好 ③褐色	体部中位。2条と1条の隆線が垂下する懸垂文構成。空白部は縦位条線を充填する	加曾利EⅢ古
5-64住 40図6 PL47	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色	壺形深鉢。強く内湾する肩部に小型の橋状把手を連続する。1箇所欠損するが突起状の例を付す。体部は太い沈線による彫刻的な施文で渦巻文・円文等を配す	加曾利EⅢ古
5-65住 44図1 PL47	体部 埋土下位	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③鈍い橙色	体部下半。横位LRを施す。内面煤付着	堀之内1
5-65住 44図2 PL47	口縁部 埋土下位	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	波状口縁に付される弧状突起。橋状把手で、内面孔とも貫孔する。	堀之内1
5-65住 44図3 PL47	口縁部 埋土下位	①微細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い黄褐色	小波状突起。波頂部に小円文を施し短沈線で半渦巻状意匠を配す。両脇・下端にも小円文を施す。頸部に橋状把手を設ける。外面煤付着	堀之内1
5-65住 44図4 PL47	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③褐色	小波状突起。口縁部に円文と幅広の横位沈線を施す	堀之内1
5-65住 44図5 PL47	体部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③明褐色	体部中位。円形貼付文より隆線が派生する単位文か。外面煤付着	堀之内1
5-65住 44図6 PL47	口縁部 埋土下位	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口唇部尖る。口縁部に横位沈線が2条巡り、体部は斜位に施す。幾何学文構成か	堀之内1新

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-65住 44図7 PL47	体部 埋土下位	①粗 白色粒・片岩 ②良好 ③明褐色	体部下半の横位沈線上位に2条の弧状沈線が接する。区画 文構成か	堀之内1新
5-65住 44図8 PL47	体部 埋土下位	①粗 白色粒・石英・角安 ②良好 ③浅黄色	太めの横位隆線に、押圧を加えた縦位隆線が接する	堀之内1新
5-65住 44図9 PL47	体部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③浅黄橙色	注口土器体部。軟質で器面磨減。重沈線による渦巻文・変 形区画文が配される。	堀之内1
5-65住 44図10 PL47	注口 埋土下位	①細 白色粒・石英 ②良好 ③暗灰黄色	注口土器注口部。内外面とも丁寧な撫でを施す	堀之内1
5-65住 44図11 PL47	体部 埋土下位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	体部下半。無文で内外面とも丁寧な撫で調整を施す。内面 煤付着	堀之内
5-65住 44図12 PL47	底部 埋土下位	①細 白色粒・角安 ②良好 ③黄橙色	張り出し底部。体部は薄手の器厚。底面に網代痕。内面煤 付着	堀之内
5-65住 44図13 PL47	底部 埋土下位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③浅黄橙色	強く開く体部器形。外面は強い削り調整。底面に網代痕。 内面煤付着	堀之内
5-65住 44図14 PL47	底部 埋土下位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③明褐色	体部の開きはやや弱い。外面は強い削り調整。底面に網代 痕	堀之内
5-66住 47図1 PL47	体部 埋設土器	①微細 白色粒 ②良好 ③明黄橙色	波状口縁。口唇部欠損。体部一帯構成で、隆線による分岐 懸垂文が配される、縄文はL R縦位充填施文	加曽利E IV
95-3住 51図1 PL48	口縁部 埋土	①粗 小礫・白色粒多 ②良好 ③赤黒色	キャリバー状深鉢。体部下半は意図的な欠損。口縁部下に 横位凹線が巡る。以下体部一帯構成で、沈線による逆U字 状懸垂文とワラビ手状懸垂文が配される。ワラビ手状懸垂 文は図正面のみに施される。縄文はR L縦位充填施文	加曽利E III
95-3住 51図2 PL48	口縁部 床直上	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③黒褐色	太い沈線による施文。口縁部は渦巻文と半楕円状区画。体 部はワラビ手状波状沈線と逆U字状懸垂文からなる。縄文 はR L縦位・斜位充填施文	加曽利E III
95-3住 51図3 PL48	口縁部 埋土	①細 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	太い沈線による施文か。口縁部は半楕円状区画文。体部は 2条の垂下沈線が看取される。縄文は口縁部横位・体部縦 位R L充填施文	加曽利E III
95-3住 51図4 PL48	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③極暗褐色	口縁部波状突起下に隆帯による渦巻文を配す。口縁部区画 は楕円状で凹線を側線とする。区画内は縦位R Lを施す。 突起内面も渦巻文が配される	加曽利E III
95-3住 51図5 PL48	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③暗褐色	幅広の無文口縁部。以下太い沈線が巡り横位R Lが施され る	加曽利E III
95-3住 51図6 PL48	口縁部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③明褐色	口縁部直下の沈線による逆U字状懸垂文。縄文は縦位L R	加曽利E III
95-3住 51図7 PL48	口縁部 埋土下位	①粗 褐色粒・白色粒 ②良好 ③橙色、褐色	口縁部横位刺突列下低位隆帯による渦巻状区画文か。隆帯 側線は撫で、縄文は横位R R L Lを充填する。内外面煤付 着	加曽利E III
95-3住 51図8 PL48	体部 埋土	①粗 小礫・石英 ②良好 ③鈍い褐色	隆線による口縁部文様帯下端。おそらく渦巻状の意匠か。 撫で状凹線で体部と画し体部は斜位R Lを施す	加曽利E III
95-3住 51図9 PL48	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色	波状突起か。口唇部に無節を施し、以下沈線による渦巻文 が施される	加曽利E III

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-3住 51図10 PL48	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③灰褐色	口唇部に突出する渦巻状突起を付す。以下低位隆帯による楕円状区画文構成と円文が施される	加曾利EⅢ
95-3住 52図11 PL48	体部 炉上	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い褐色	垂下沈線で画された磨消部と施文部。縄文はR L縦位充填施文	加曾利EⅢ
95-3住 52図12 PL48	体部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③褐色	隆帯による口縁部区画下端。区画内は弧状条線を充填する	加曾利EⅢ
95-3住 52図13 PL48	体部 No.30	①粗 雲母・石英・白色粒 ②良好 ③明褐色	隆線によるU字状区画下端より隆線が派生する。区画中位には横位沈線、区画内・空白部には縦位沈線が充填される。	唐草文系
95-3住 52図14 PL48	体部 埋土	①細 雲母・白色粒 ②良好 ③橙色	体部中位の2条の隆線による弧状意匠下端。空白部は矢羽状短沈線が施される	唐草文系
95-3住 52図15 PL48	体部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③浅黄褐色	体部下半2点。垂下沈線で画された磨消部と施文部。施文部は縦位条線と横位短沈線が充てられる	加曾利EⅢ
95-3住 52図16 PL48	口縁部 床直上	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い褐色	浅鉢口縁部か。強く開き内外面とも丁寧な撫でを施す。やや粗雑な作り	中期後葉
95-3住 52図17 PL48	口縁部 埋土	①粗 小礫・石英 ②良好 ③褐灰色	浅鉢口縁部か。無文で口唇部は肥厚し内外面とも丁寧な研磨を加える。	中期後葉
95-3住 52図18a,b PL48	底部,体部 炉内	①粗 褐色粒・角安・白色粒 ②良好 ③明赤褐,鈍橙色	大型の深鉢か。内面体部中位に加熱痕と煤付着。	中期後葉
95-4住 56図1 PL49	口縁部 伏甕	①粗 白色粒 ②良好 ③暗赤褐色	波状突起4単位。突起上端は意図的な欠損。縦位渦巻き文と楕円文による懸垂文構成。斜位短沈線を充填する	唐草文系
95-4住 56図2 PL49	体部 床直上	①粗 石英・白色粒 ②良好 ③橙色	鉢。口縁部下に小型の橋状把手が連続する。体部は大柄の渦巻き文を配す	加曾利EⅢ
95-4住 56図3 PL49	口縁部 北壁埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③赤褐色	尖状小突起を付す小型深鉢。口縁部に渦巻状隆線・弧状隆線を配し2条の垂下隆線が懸垂する。体部空は空bは縦位平行沈線と波状沈線が充てられる	唐草文系
95-4住 56図4 PL49	底部 北壁埋土	①細 白色粒 ②良好 ③赤褐色	2条の垂下沈線による懸垂文構成。縦位矢羽状短沈線を充填する	唐草文系
95-4住 56図5 PL49	口縁部～体部 上半 埋甕	①粗 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	緩やかな波状口縁を呈し、波状突起を付す。5単位を数える。突起下は隆線による渦巻文を配し、横位弧状隆線を繋げ口縁部文様帯とする。下端にも小渦巻文を配す。縄文はL R縦位施文で体部は間隔施文状となる。	加曾利EⅢ古
95-4住 56図6 PL50	底部 埋土下位	①細 白色粒 ②良好 ③明赤褐色	大型の深鉢か。2条一組の太い沈線による懸垂文構成。施文部はR L縦位充填施文。体部下半及び底面は研磨が加わる	加曾利EⅢ
95-4住 56図7 PL50	口縁部 床直	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部は幅広い無文部を持つ。隆帯による楕円状区画文が配される口縁部文様帯。区画内は細沈線が縦位に充填される。体部は弧状沈線による魚鱗状意匠。弧状沈線も見られる	唐草文系
95-4住 56図8 PL50	口縁部 床直	①粗 白色粒・角安少 ②良好 ③褐色	口縁部渦巻文を配した隆帯による区画文。区画内は短沈線が埋める。体部は縦位沈線群による懸垂文構成。中位に渦巻文が配される。空白部は縦位蛇行沈線と弧状短沈線が施される	唐草文系
95-4住 57図9 PL50	体部 床直上	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③黄褐色	体部中位の括れ部。隆線による渦巻文を中核に円形区画が配される。区画内はR L縦位充填施文。隆線側線は沈線	大木9

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-4住 57図10 PL50	体部 埋土	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③鈍い黄褐色	体部上位の湾曲部。隆線による渦巻文を中核に円形区画文が配される。区画内は沈線を側線とし、RL縦位充填施文する	大木9
95-4住 57図11 PL50	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	平縁。口唇部直下に横位隆線を巡らし、2条隆線と蛇行隆線が懸垂する。空白部は斜位沈線が充てられる。内面口縁部器壁剥落	唐草文系
95-4住 57図12a~f PL50	体部 床直上	①粗 石英・白色粒・角安 ②良好 ③暗褐色	多孔質な胎土。軟質感。頸部弧状隆線以下2条垂下沈線による懸垂文構成。空白部は縦位矢羽状短沈線が埋める。内外面微量の煤付着	唐草文系
95-4住 58図13a PL50	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒・褐色粒多 ②良好 ③鈍い黄褐色	やや軟質。口縁部波状突起下に隆線による渦巻文を配し口縁部区画文と連接する。区画内は側線沈線で縦位LRを充填する。体部は横位隆帯下に太い沈線が沿い以下2条の垂下沈線による磨消部の懸垂文構成。縄文はRL縦位充填施文	加曽利EⅢ
95-4住 58図13b PL50	体部 埋土下位	①粗 石英・白色粒・角安 ②良好 ③鈍い褐色	頸部の横位隆線か。側線は撫で。以下横位RLが施される	加曽利EⅢ
95-4住 58図14 PL50	口縁部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③明褐色	口縁部突起部欠損。口縁部文様帯は隆線による横位S字状意匠を配す。側線は太い沈線。縄文はRL斜位施文	加曽利EⅢ
95-4住 58図15 PL50	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③暗褐色	口縁部波状突起下に円形刺突文。低位隆帯による口縁部区画文。区画内は太い沈線を側線とし横位RLを充填する。内面研磨	加曽利EⅢ
95-4住 58図16 PL50	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③明褐色	口縁部に横位沈線を巡らし以下沈線による方形区画状懸垂文構成か。縄文は縦位RL充填施文	加曽利EⅢ
95-4住 58図17 PL50	体部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③明赤褐色	2条の垂下沈線で画された磨消部と縄文施文部による懸垂文構成。磨消幅は狭い。縄文はLR縦位充填施文	加曽利EⅢ
95-4住 58図18 PL50	口縁部 床直上	①粗 白色粒 ②良好 ③黒褐色	無文の口縁部下に太い沈線を巡らし、以下は縦位条線を施す	加曽利EⅢ
95-4住 58図19 PL50	体部 埋土下位	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	隆帯による区画文。太い沈線を側線とし、区画内は無文	加曽利EⅢ
95-4住 58図20 PL50	口縁部 埋土下位	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黄褐色	有孔鐔付土器。鐔を上下に小孔が貫孔する。体部は沈線による弧状・渦巻状の意匠か	加曽利EⅢ
95-4住 58図21 PL50	口縁部 床直	①微細 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部は直立し無文。頸部に2条の隆線を巡らし小型の橋状把手を繋ぐ。	加曽利EⅢ
95-4住 58図22 PL50	口縁部 床直上	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③褐色	口縁部は無文で直立気味。以下に2条の隆線が巡り橋状把手が付されるか	加曽利EⅢ
95-4住 58図23 PL50	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	体部中位。低位隆帯と太い沈線による大柄の渦巻文を配す。内外面とも平滑で丁寧な作り	加曽利EⅢ
95-4住 58図24 PL51	口縁部 床直	①粗 石英多・白色粒 ②良好 ③赤褐色	無文の深鉢口縁部。口唇部肥厚し、頸部は緩やかに外反する。	加曽利EⅢ
95-4住 58図25 PL51	口縁部 床直上	①粗 白色粒多 ②良好 ③浅黄色	口唇部粗雑な作り。頸部に僅かに横位細隆線が看取される	加曽利EⅣ?
95-4住 59図26 PL51	底部 床直	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③明褐色	2条の垂下沈線による懸垂文構成下端。施文部は縦位条線が充填される。磨消部・底面研磨により平滑	加曽利EⅢ

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-4住 59図27 PL51	底部 床直上	①細 白色粒 ②良好 ③浅黄色	2条の垂下沈線による懸垂文構成下端。施文部はR L縦位充填施文か。磨消部・底面は平滑	加曾利 E III
95-4住 59図28 PL51	底部 埋土	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③淡黄色	器面摩滅。垂下沈線による懸垂文構成下端か。縄文はR L縦位充填施文	加曾利 E III
95-4住 59図29 PL51	底部 床直	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③灰褐色	大型の深鉢か。外底面器壁剥落著しい。体部内面微量の煤付着	中期後葉
95-4住 59図30 PL51	底部 床直	①細 角安・色粒 ②良好 ③橙色	2条の垂下沈線による懸垂文構成。浅い縦位条線を充填する	加曾利 E III
95-5住 62図1 PL51	口縁部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③褐色	隆線による渦巻状意匠。やや扁平な印象を得る。頸部は2条の縦位隆線で体部を区画する。口縁部区画内は沈線を側線とし横位R Lを施す	加曾利 E II 新
95-5住 62図2 PL51	体部 埋土	①粗 雲母多・石英 ②良好 ③赤褐色	あるいは台付状の器形か。体部下半に横位隆線を付し2条の縦位隆線で体部を区画する。空白部は縦位・斜位沈線が埋められる	唐草文系
95-5住 62図3 PL51	体部 埋土	①粗 雲母多・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	2条隆線による懸垂文構成か。空白部は縦位矢羽状沈線を施す	唐草文系
95-5住 62図4 PL51	体部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③赤褐色	2条隆線による頸部分割と体部懸垂文構成。隆線間は刺突文を施す。体部空白部は縦位矢羽状短沈線施文後縦位平行沈線で再区画する	唐草文系
95-5住 62図5 PL51	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③赤褐色	有孔鍔付土器。突出する鍔上下を小孔が貫孔する。無文で内外面とも丁寧な研磨を施す	中期後葉
95-6住 66図1 PL52	口縁部 床直上	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③黒褐色	内縁は強く突出。横位隆線で画された口唇部施文域は刺突文が連続する。頸部は幅広の無文で、体部は蛇行隆線で画され以下斜位平行沈線と斜位隆線による格子目状文が充てられる	曾利系
95-6住 66図2 PL52	口縁部 埋土	①細 白色粒多 ②良好 ③鈍い橙色	大型の浅鉢。口唇部は肥厚し突出する。内外面とも丁寧な研磨を施す。外面赤彩残る。あるいは半渦巻状意匠を描くか	加曾利 E II
95-6住 66図3 PL52	体部下 埋土	①粗 雲母・白色粒多 ②良好 ③暗赤褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。5単位を数える。空白部は縦位沈線を充填する。内面及び外底面丁寧な撫でを施す	唐草文系
95-6住 66図4 PL52	底部 南壁埋土	①粗 小礫少・白色粒 ②良好 ③褐色	小型の深鉢。横位沈線以下は体部懸垂文構成。施文は内皮使用の半截竹管による平行沈線とR L縦位充填施文。底面は平滑で白色付着物を見る。内底面煤付着	加曾利 E II
95-6住 66図5 PL52	口縁~体部上 床直	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③暗赤褐色	大型の深鉢。口縁部は無文で大きく開く。頸部に横位隆線と横位蛇行文を伏し体部は2条~3条の隆線による方形の単位文が配される。空白部は縦位平行沈線と同一工具による連続刺突文が埋められる	曾利 I ?
95-6住 66図6 PL53	底部 南壁際埋土下位	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い橙色	垂下隆線による懸垂文構成。沈線を側線とする。縄文はR L縦位充填施文。底面に木葉痕	加曾利 E II
95-6住 66図7 PL53	底部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③褐色	無文の体部下半。丁寧な撫でにより平滑。底面に煤付着	中期後葉
95-6住 66図8 PL53	底部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③明褐色	2条の垂下隆線による懸垂文構成。縄文はR L縦位充填施文	加曾利 E II
95-6住 67図9 PL53	口縁部 床直上	①粗 雲母多・白色粒 ②良好 ③暗褐色	波状突起波頂部欠損。頸部の2条隆線と突起を渦巻文を下端とした大型橋状把手で繋ぐ。頸部隆線以下は沈線を加えた隆帯による懸垂文構成か。空白部は縦位矢羽状沈線が埋められる	唐草文系

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-6住 67図10 PL53	口縁部 炉内	①細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部渦巻状突起より頸部渦巻状突起へ2条隆線が繋ぐ。口縁部文様帯は横位渦巻状隆線が配され、空白部は縦位・斜位短沈線が充てられる。体部は縦位LRが施される	加曾利E II
95-6住 67図11 PL53	体部 埋土	①粗 石英多・白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	体部上位。隆線による渦巻文を中核に2条隆線が横位・縦位に派生する。沈線を側線とする	加曾利E II
95-6住 67図12 PL53	体部 6ピット	①粗 石英多・白色粒 ②良好 ③明赤褐色	2条の隆線による弧状あるいは渦巻状意匠か。縄文は充填施文でLR縦位	加曾利E II新
95-6住 67図13 PL53	体部 No.28ピット	①粗 石英多・白色粒 ②良好 ③黒褐色	1条の頸部隆線で画される口縁部。頸部無紋部は幅広で、横位沈線群で体部と画す。体部文様は横位波状沈線文が施される。地文は斜位LR	加曾利E II
95-6住 67図14 PL53	体部 5ピット	①粗 石英多・白色粒 ②良好 ③橙色	内皮使用の垂下沈線による体部懸垂文構成。空白部は平行沈線による大柄の渦巻文を配す。地文は縦位LR	加曾利E II
95-6住 67図15 PL53	口縁部 埋土	①粗 小礫・角安 ②良好 ③橙色	浅鉢。小径で外面に赤彩残る。内外面丁寧な撫で調整	加曾利E II
95-6住 68図16 PL53	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③暗赤褐色	浅鉢。交互刻みを付す横位隆帯以下高隆帯による楕円状区画。区画内は沈線による渦巻文や縦位短沈線、截痕状の横位沈線が施される	加曾利E II
95-6住 68図17 PL53	口縁部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③明褐色	口縁部渦巻状突起を中核に横位連続交互刺突文が施される	加曾利E I
95-6住 68図18 PL53	口縁部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③橙色	口縁部突起。単孔を穿つ。突起外縁に、刺突文を中位にした円文を配し、弧線文を施す。	称名寺2
95-7住 71図1 PL54	口縁部 伏甕	①粗 小礫・白色粒多 ②良好 ③黒褐色	体部下半は意図的な欠損。やや器形変化に乏しい。口縁部文様帯は隆帯による渦巻文と楕円状・不整形区画。頸部無紋部を設け体部は2条隆線による分岐懸垂文か。渦巻文や垂下隆線も配される。縄文はLR充填施文	加曾利E III古
95-7住 71図2 PL54	口縁部 埋土下位	①粗 石英・白色粒多 ②良好 ③橙色	鉢か。内湾する口縁部下に横位沈線を巡らす。以下体部は横位・斜位RLが覆う。外面器壁剥落著しい	加曾利E III
95-7住 71図3a~c PL54	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③明黄褐色	横位蛇行隆線で画された体部上半は斜位短沈線と細隆線による格子目状の文様帯。下半は渦巻文とV字状突起より垂下した隆線による懸垂文構成。空白部は平行沈線を縦位・斜位に充填する。体部文様単位は3単位を数える	曾利系
95-7住 71図4 PL54	口縁部 埋土	①粗 白色粒多・雲母 ②良好 ③暗赤褐色	平縁で内縁突出する。口縁部は強く外傾し、区画文を配さず、内皮平行沈線による渦巻文を両端に配した弧状意匠が配される。	唐草文系
95-7住 71図5 PL54	底部 埋土下位	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色	厚手の底部。体部下半～底面丁寧な撫で調整を施し平滑	加曾利E III
95-7住 71図6 PL54	体部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③橙色	口縁下突起。沈線を重ねた隆帯による双環状突起で貫孔する。上位には小型の双環状突起を付す。突起中位には横位短沈線が充填される。	唐草文系
95-7住 72図7 PL55	口縁部 床直上	①粗 小礫・白色粒多 ②良好 ③褐色	口縁部突起欠損。低位隆帯による渦巻文を配し他は沈線による施文。口縁部は楕円状区画を配し、体部は2条垂下沈線による懸垂文構成。縄文はRL縦位充填施文	加曾利E III
95-7住 72図8 PL55	体部 埋土下位	①粗 白色粒多 ②良好 ③橙色	2条の垂下沈線による施文部と無文部の懸垂構成。縄文はRL縦位充填施文。	加曾利E III
95-7住 72図9 PL55	口縁部 埋土下位	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	波頂部欠損。口縁部は2条隆線による渦巻文と半楕円状区画文を配す。頸部に横位沈線と刺突列を施す。縄文はRL斜位充填施文。内面内湾部に煤微量付着	加曾利E III

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-7住 72図10a,b PL55	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部内湾。口唇部に刺突文を連続し、以下に幅広の凹線が巡る。体部は沈線による逆U字状意匠が配される。縄文は口縁部横位・体部縦位RLが施される。内外面煤付着	加曾利EⅢ
95-7住 73図11 PL55	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部低位隆帯による楕円状区画。区画内は横位弧状沈線文を充填する。口縁部に煤付着	唐草文系
95-7住 73図12 PL55	口縁部 埋土下位	①粗 石英多・白色粒・角安 ②良好 ③極暗赤褐色	口縁部隆帯による渦巻文。他は沈線施文で垂下沈線による懸垂文構成。充填文は口縁部縦位短沈線、体部は縦位矢羽状沈線	唐草文系
95-7住 73図13a,b PL55	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒・雲母多 ②良好 ③明赤褐色	口縁部～体部破片5点からなる。平縁で口縁部に隆線による渦巻状意匠を配す。渦巻文下端より2条の隆線が垂下し、体部下半でU字状区画となる。区画内は横位沈線で小区画され縦位短沈線を充填する	唐草文系
95-7住 73図14 PL55	口縁部 床直上	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③赤褐色	口縁部欠損。体部地文にLR結束縄文を縦位に施す。頸部に横位蛇行細隆線を付し、縦位蛇行細隆線と渦巻文を貼付する。	曾利系
95-7住 73図15 PL55	体部 床直上	①粗 小礫・片岩・白色粒 ②良好 ③暗褐色	浅鉢か。口縁部文様帯は低位隆線による方形状区画文か。区画内は沈線が沿い横位・縦位LRを充填する	加曾利EⅢ古
95-7住 73図16 PL55	口縁部 埋土	①粗 石英多・白色粒・雲母 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部環状突起。内面2孔と下端孔と貫孔する中空状の突起。突起外縁は2条の沈線が沿い下端は小渦巻文が配される。口唇部には小渦巻文より沈線が派生する。	称名寺2
95-8住 77図1a~f,h,k 78図1g,l,j PL56	口縁部 埋土	①粗 白色粒多・石英多 ②良好 ③鈍い黄褐色	10数点からなる。口縁部破片が少量のため全容は判然としない。口縁部は隆線による半楕円状区画か。区画内側線は沈線。頸部無文部を経て体部は幅広の横位沈線で画され、垂下沈線による懸垂文構成。上半は連弧文が充てられ、体部中位は剣先状意匠等が配される。縄文は地文で口縁部は横位、体部は縦位RLが施される	加曾利EⅡ新
95-9住 81図1a,b PL56	口縁部 埋土	①細 白色粒少 ②良好 ③橙色	小型の深鉢。口唇部に横位隆線が巡る。口縁部文様帯は渦巻状突起を中核とした隆線楕円状区画文が配される。おそらく6単位か。体部は横位平行沈線以下縦位沈線による懸垂文構成か。地文縄文は縦位RL。内面は研磨のため平滑	加曾利EⅠ新
95-9住 81図2 PL56	口縁部 炉	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③明褐色	2点からなる。口縁部突起は強く突出し口唇部端部には沈線が施される。斜位隆線による橋状把手が設けられる。突起中位は貫孔する。波底部には、2条隆線による渦巻文を配す。区画内は沈線を側線とし横位・縦位RLを施す。体部は2条の沈線で画される。内面に煤付着	加曾利EⅠ新
95-9住 81図3 PL56	底部 埋土下位	①粗 白色粒 ②良好 ③暗赤褐色	小型の深鉢底部。縦位LR縄文が覆う。内底面に微量の煤付着	中期後葉か
95-9住 81図4 PL56	体部 埋土	①粗 雲母多・白色粒 ②良好 ③暗赤褐色	やや内湾気味の体部器形。上位に2条の横位隆線を付し体部を2条隆線で区画する。区画中位に逆U字状意匠を配し、沈線を側線とする。空白部は矢羽状短沈線を充てる	曾利系
95-9住 81図5 PL56	体部 埋土下位	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	大型の浅鉢か。特異な器形。おそらく体部内傾部。中位に鏝状の突出部を設ける。鏝上位は円形刺突文と斜位沈線が連続する。鏝下位は沈線による楕円もんと単位化した刺突文群が配される。屈曲部も鏝状に突出し縦位短沈線と下位に横位沈線を施す	曾利系?
95-9住 81図6a,b,c PL57	口縁部 埋土	①細 白色粒少 ②良好 ③橙色	口縁部渦巻文構成。口唇部端部に沈線を施す。口縁部区画内は沈線を側線とし、縦位短沈線を充填する。体部は横位沈線で画され、RLを縦位・斜位に施す。内外面に煤付着	加曾利EⅠ新
95-9住 81図7 PL57	口縁部 床直上	①粗 雲母多・白色粒 ②良好 ③黒褐色	波状口縁。内稜が突出する。口唇部は2条の隆線が沿い、頸部の突起からも同隆線が横位・縦位に派生する。縦位隆線上端は渦巻状。体部空白部は縦位矢羽状短沈線が埋める	唐草文系
95-9住 81図8a,b PL57	体部 埋土	①細 雲母多・白色粒 ②良好 ③暗褐色	3点からなる。横位2条隆線以下体部文様は隆線による方形状の区画が配される。沈線を側線とし、矢羽状短沈線を充填する	唐草文系
95-9住 81図9 PL57	体部 埋土	①粗 雲母多・白色粒 ②良好 ③暗褐色	体部上半。3条の横位隆線に渦巻文が接し、隆線による体部懸垂文を呈す。空白部は縦位矢羽状短沈線が充てられる	唐草文系

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-9住 82図10 PL57	口縁部 炉内	①粗 白色粒 ②良好 ③鈍い赤褐色	円筒状の小型深鉢。口縁部は内傾し深い刺突文を連続させる。体部は縦位LRが覆う。内外面煤付着	加曾利E I 新
95-9住 82図11 PL57	口縁部 炉内	①粗 砂粒・白色粒 ②良好 ③黒褐色	波状口縁。口唇部に1条の沈線を乗せる。口縁部無文部以下は横位沈線で画され、弧状沈線による小区画文が配される。区画内は斜位短沈線を充填する。円形状突起剥落痕跡有り	唐草文系
95-9住 82図12 PL57	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部下の渦巻文と区画文の一端。薄手の器厚で小型の深鉢か。内面丁寧な研磨。外面煤付着	唐草文系
95-9住 82図13 PL57	口縁部 埋土	①粗 白色粒・雲母 ②良好 ③赤褐色	幅広の無文口縁部破片。下端に沈線による剣先状意匠端部を見る。内稜は低位隆線からなる	唐草文系
95-9住 82図14 PL57	口縁部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	厚手の浅鉢。口縁部外傾し体部上半に湾曲を持つ。無文で器面磨減するが赤彩僅かに残る	中期後葉
95-9住 82図15 PL57	体部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③浅黄褐色	浅鉢体部屈曲部。僅かに赤彩が残る。	中期後葉
95-9住 82図16 PL57	口縁部 埋土上位	①細 白色粒・石英多 ②良好 ③明褐色	緩やかな波状口縁。波頂部下に隆帯による渦巻文を配し、口縁部区画文と連接する。区画内側線は凹線。体部は2条の垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縄文はLR縦位充填施文	加曾利E III
95-10住 86図1 PL58	口縁部 床直上	①粗 白色粒・雲母・石英 ②良好 ③鈍い橙色	波頂部に渦巻状突起を付す。口唇部は2条の隆線からなり、突起下より渦巻文を付設する2条の隆線が懸垂する。体部は上半に横位沈線を施し縦位矢羽状沈線を充填する	唐草文系
95-10住 86図2 PL58	口縁部 埋土	①細 白色粒多・角安 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部渦巻状突起直下にも渦巻状突起を付す。口縁部区画内は沈線を側線とし、横位RLを施す。頸部隆線には沈線が重なる。内面煤付着	加曾利E II
95-10住 86図3 PL58	体部 埋土下位	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③鈍い褐色	体部上半に横位隆線を付し、刻みを付す垂下隆線と蛇行隆線を懸垂させる。沈線を側線とし、空白部には斜位沈線を施す	唐草文系
95-10住 86図4a~d PL58	体部 埋土	①粗 白色粒・石英少 ②良好 ③暗褐色、橙色	浅鉢。4点。頸部の隆帯には大柄の交互刺突文。以下横位沈線間を刻みが施され、体部中位は楕円区画内に縦位沈線を充填する。屈曲部隆帯には斜位刻みを連続させる	唐草文系
95-10住 86図5 PL58	体部 床直上	①細 白色粒多 ②良好 ③鈍い褐色	浅鉢。上位隆線には交互刺突文が施される。以下横位沈線と刻み、2条の横位隆帯と縦位沈線が施される。内面横位研磨で黒色を呈す	唐草文系
95-10住 86図6 PL58	口縁部 床直上	①細 白色粒多 ②良好 ③褐色	扁平な嘴状突起を口縁部に付す。口縁部は横位隆線が巡り、体部は縦位RLが施される。内面煤付着	加曾利E II
95-10住 86図7 PL58	口縁部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	平縁。2条の隆線で画された口縁部区画文か。頸部隆線の間は狭い。側線は沈線で横位RLを施す	加曾利E II
95-10住 86図8 PL58	口縁部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③灰褐色	平縁で波状小突起を付す。突起直下に渦巻文を配し、両端より2条の隆線が垂下し中位に縦位蛇行隆線を付す。口縁部の一部は加熱のため発泡化	加曾利E II
95-10住 86図9 PL58	口縁部 埋土下位	①細 白色粒・石英 ②良好 ③褐色	浅鉢。口縁部内面肥厚する。内面丁寧な研磨を施す	加曾利E II
95-10住 86図10 PL58	口縁部 炉内	①細 白色粒・雲母 ②良好 ③褐色	小径ながら丁寧な作り。外面丁寧な撫で調整。底面も平滑ながら、網代痕が残る	中期後葉
95-11住 89図1 PL58	体部~底部 壁周溝内	①粗 雲母・石英・白色粒多 ②良好 ③赤褐色	体部中位で緩やかに外反する。縦位・斜位RLが器面を覆う。底面は撫でにより平滑	中期後葉か
95-11住 89図2 PL58	完形 壁周溝内	①細 白色粒・角安 ②良好 ③黄褐色	ミニチュア土器。口唇部に刻みを施し、体部は縦位LRが覆う。内面器壁剥落著しい	中期後葉か

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-1 豎 95図1a PL59	約 1/2 底面	①微細 白色粒・石英 ②良好 ③黒色	緩やかな波状口縁か。無文だが薄手で丁寧な作り。内面口縁部沈線は浅い。内外面とも煤付着。底面に網代痕残る	堀之内 2
5-1 豎 95図 2 PL59	約 1/2 底面	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	鉢。無文で口縁部は内湾し底径は広い。外面調整は削りのみ、内面は撫で。底面に網代痕	堀之内 2
5-1 豎 95図 3 PL59	口縁部 埋土	①細 白色粒多 ②良好 ③明黄褐色	波状突起。円文と横位沈線、弧線が施される。内面も同様の施文	堀之内 1
5-1 豎 95図 4 PL59	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③暗褐色	口唇部僅かに内屈する。内外面に浅い沈線を施す。内面平滑	堀之内 2
5-1 豎 95図 5 PL59	体部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③極暗赤褐色	体部中位。横位・斜位 L R が覆う	堀之内 2
5-9 炉 97図 9 炉 1 PL59	口縁部 埋土下位	①細 白色粒少 ②良好 ③黒褐色	口縁部内屈し、以下横位沈線が多段に重なり区切り文を施す。縄文は横位 L R。内面も内稜を持ち以下に横位沈線群を施す	加曾利 B 1
5-9 炉 97図 9 炉 2 PL59	口縁部 埋土下位	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部内屈し口唇部に刻みを施す。横位沈線で画された文様帯内は弧状沈線文が描かれ、横位 L R が充填施文される。内面内稜鋭い	堀之内 2 新
5-9 炉 97図 9 炉 3 PL59	口縁部 埋土	①緻密 ②良好 ③黒色	口唇部は細かな刻みを付し鋸歯状となす。口縁部無文以下横位弧線文と斜位沈線、横位沈線が施される。内外面黒色研磨	堀之内 2 新
5-9 炉 97図 9 炉 4 PL59	口縁部 埋土	①緻密 ②良好 ③黒褐色	3 と同一個体か	堀之内 2 新
5-9 炉 97図 9 炉 5 PL59	底部 埋土下位	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③明赤褐色	張り出し底部。体部は縦位撫で。内面に煤付着。5区178ピットと接合	堀之内
5-9 炉 97図 9 炉 6 PL59	底部 埋土	①緻密 ②良好 ③黒褐色	筒状を呈す。あるいは鉢か。無文で外面は丁寧な研磨を施す。	堀之内 2 新
5-8 埋 97図 8 埋 1 PL59	口縁部下～底 部約 2/3 底部	①細 白色粒・角安 ②良好 ③浅黄褐色	口縁部欠損。底部はやや張り出し底。口縁部下に横位沈線を数段配す。沈線間には区切り文を施し他は無文。外面体部上半・内面体部下半煤付着	加曾利 B 1
5-10 炉 97図10 炉 1 PL59	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	薄手。口縁部は角頭状をなし体部下半で緩やかに膨らむ。口唇部内面に横位沈線を巡らす。無文で削り調整後撫でを加える。	堀之内？
5-10 炉 97図10 炉 2 PL59	体部 埋土下位	①細 白色粒多 ②良好 ③黒色	薄手で堅緻な焼成。無文で撫で調整が明瞭に残る	堀之内？
5-10 炉 97図10 炉 3 PL59	体部 埋土下位	①微細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄色	注口土器か。横位細隆線で画された頸部文様帯に沈線による縦位楕円文と多段の横位楕円文が配される。上位には浅い斜位沈線文を施す。60 住に同一個体破片	堀之内 2 新
5-10 炉 97図10 炉 4 PL59	体部 埋土	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③明褐色	縦位沈線と充填縄文縦位 L R	堀之内 2
5-10 炉 97図10 炉 5 PL59	体部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③明黄褐色	横位沈線と充填縄文横位 L R	堀之内 2
95-3 炉 100図3 炉 1 PL59	体部 埋土	①細 白色粒・角安少 ②良好 ③鈍い黄褐色	頸部破片。横位沈線と円文以下弧状沈線が派生する。	堀之内 1
95-3 炉 100図3 炉 2 PL59	体部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	頸部破片。2 条の隆線が弧状に付される。口縁部区画下端か	加曾利 E II ?

遺物観察表

図・番号 図版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-3 炉 100図3炉3 PL59	体部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③暗褐色	剥落するが隆線による剣先状意匠の痕跡。縦位矢羽状短沈線を施す	唐草文系
95-5 炉 100図5炉1 PL59	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③褐色	2条の沈線による懸垂文構成。磨消部と施文部の交互配列。縄文はR L縦位充填施文	加曾利 E III
95-7 炉 100図7炉1 PL59	体部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	頸部湾曲部に沈線による渦巻文を配し、2・3条の太い沈線が派生する。縄文はL R縦位・斜位施文	堀之内 1 新
95-7 炉 100図7炉2 PL59	体部 埋土	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③褐色	隆線による渦巻文。側線は沈線。短沈線が周縁を埋める	唐草文系
95-7 炉 100図7炉3 PL59	体部 埋土	①細 白色粒・石英多 ②良好 ③鈍い黄褐色	1本描き沈線による弧状意匠。他は無文	称名寺 2
5-679坑 114図679坑1 PL60	口縁部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③暗赤褐色	口縁部隆帯による渦巻文区画。側線は撫で。縄文は横位R L充填施文	加曾利 E III
5-711坑 114図711坑1 PL60	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③褐灰色	口唇部内屈。口縁部に8字状貼付文を付し直下に沈線による幾何学文構成が配される	堀之内 2
5-711坑 114図711坑2 PL60	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	口縁部に刻みを付す横位隆線を付す。他は無文	堀之内 2
5-711坑 114図711坑3 PL60	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③灰黄褐色	外面無文。内面施文は小型の円文と沈線による意匠文が配される。	堀之内 2
5-711坑 114図711坑4 PL60	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③橙色	注口土器把手。橋状把手で下端両脇に円形小貼付文を付す。口縁部文様は沈線による装飾か	堀之内 2
5-712坑 115図712坑1 PL60	口縁部 埋土	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部角頭状。無文で斜位・横位撫で調整痕が顕著に残る	堀之内 2
5-712坑 115図712坑2 PL60	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③明褐色	口唇部内屈。外面横位沈線に画された充填縄文。無節L横位施文か	堀之内 2
5-712坑 115図712坑3 PL60	体部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	体部中位。細沈線と充填縄文区画による弧状意匠文か。縄文はL R	堀之内 2
5-713坑 115図713坑1 PL60	体部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い橙色	1本描き沈線による施文部と磨消部。施文部はR L縦位充填施文。内面煤付着	称名寺 1
5-714坑 115図714坑1 PL60	口縁部 埋土	①粗 白色粒・石英少 ②良好 ③鈍い黄褐色	口唇部直下より押圧を加えた横位隆帯を付す	堀之内
5-714坑 115図714坑2 PL60	体部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒色	注口土器体部。湾曲部を横位細沈線と充填縄文で画す。上位には縦位楕円状意匠を配す。空白部は無文だが丁寧な撫で調整を施す	堀之内 2
5-715坑 115図715坑1 PL60	口縁部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③暗赤褐色	口縁部内屈し円文を配す。以下は無文か。内外面丁寧な研磨を施す	堀之内 1
5-715坑 115図715坑2 PL60	口縁部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③暗赤褐色	口縁部内屈する。内外面研磨。1と同一個体か	堀之内 1
5-715坑 115図715坑3 PL60	口縁部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い褐色	注口土器。口縁部橋状把手。把手上端は渦巻状意匠を配す。口縁部は細沈線と充填縄文による区画文構成か。縄文はL R	堀之内 1 新

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-715坑 115図715坑4 PL60	底部 埋土	①粗 白色粒・石英少 ②良好 ③橙色	軟質。器面磨減。張り出し底部で底面網代痕残る	堀之内
5-716坑 115図716坑1 PL60	口縁部 埋土	①粗 石英・褐色粒 ②良好 ③橙色	口唇部尖る。薄手で無文。外面削り調整後撫で、内面も撫でが及ぶが凹凸が残る	堀之内
5-716坑 115図716坑2 PL60	体部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い橙色	3条の横位沈線以下体部弧状沈線が施される。外面煤付着	堀之内1
5-716坑 115図716坑3 PL60	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色	やや厚手の体部。細沈線と充填縄文による弧状意匠文区画。縄文はL R	堀之内2
5-716坑 115図716坑4 PL60	底部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	体部下半強く開き、削り調整後撫でを加える。無文。底面も撫で	堀之内
5-717坑 115図717坑1 PL60	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③橙色	口唇部尖り、直下に8字状貼付文を付し、1条の横位隆線が巡る。内面浅い横位沈線を施す。	堀之内2
5-719坑 115図719坑1 PL60	口縁部 埋土	①細 白色粒・褐色粒 ②良好 ③鈍い褐色	口唇部は尖り気味で口縁部僅かに折り返す。無文で斜位撫で調整痕跡が残る	堀之内2
5-719坑 115図719坑2 PL60	体部 埋土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③褐灰色	注口土器。口縁部橋状把手。把手頂部は剥落し上位に把手が延長する。口縁部屈曲に1条の沈線を施す。下位は区画文構成か。外面は丁寧な研磨を加える	堀之内2
5-719坑 115図719坑3 PL60	体部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	鉢か。横位平行沈線以下3条の斜位沈線が施され、細縄文L Rが重なる。	堀之内2
5-726坑 115図726坑1 PL60	口縁部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口唇部角頭状。無文だが縄文施文の痕跡が残る	堀之内2新
5-726坑 115図726坑2 PL60	口縁部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	口唇部角頭。沈線による斜位格子目文が施される	堀之内2新
5-726坑 115図726坑3 PL60	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③褐灰色	浅鉢。口唇部欠損。内稜は鋭い。横位平行沈線群が施される	堀之内2新
5-740坑 116図740坑1 PL60	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部下の横位沈線群と区切り文。内稜は鋭く以下横位沈線が多段に施される	堀之内2新
5-740坑 116図740坑2 PL60	体部 埋土	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③褐灰色	体部下半を細沈線と充填縄文で画す。上位は区画文構成か。縄文は横位L R	堀之内2新
5-740坑 116図740坑3 PL60	体部 埋土	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③橙色	頸部。幅広の横位沈線を3条巡らす	堀之内1
5-740坑 116図740坑4 PL60	底部 埋土	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③鈍い黄褐色	張り出し底部。体部は平滑な研磨。底面網代痕	堀之内
5-744坑 116図744坑1 PL60	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	浅鉢。口唇部内傾し小突起を付す。2条の沈線が沿い沈線間に細かな刻みを施す。口縁部内面沈線群も施される。外面は無文	堀之内2新
5-744坑 116図744坑2 PL60	口縁部 埋土	①微細 白色粒・石英少 ②良好 ③鈍い黄褐色	無文口縁部以下に横位沈線を施す。内面は口唇部に瘤状小突起を付し、口縁部横位沈線群を重ねる	堀之内2新
5-744坑 116図744坑3 PL60	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	体部下半。1条の横位細沈線で体部文様を画し、細沈線による格子目文を充填する	堀之内2新

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-746坑 116図746坑1 PL61	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い褐色	緩やかな波状口縁か。突起の痕跡もあり。無文で少量の煤が付着する	堀之内?
5-746坑 116図746坑2 PL61	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	緩やかな波状口縁か。突起の痕跡もあり。無文で少量の煤が付着する	堀之内?
5-746坑 116図746坑3 PL61	底部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③暗赤褐色	底部突出しやや不安定な座り。外面縦位研磨。内面も研磨が施され黒色を呈す	中期後葉
5-747坑 116図747坑1 PL61	体部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色	2条の弧状隆線が付される。側線は浅い沈線が施される。外面煤付着	堀之内1?
5-747坑 116図747坑2 PL61	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	小型深鉢あるいは注口土器体部か。細隆線による弧状意匠を上下に配し、空白部に細隆線による剣先意匠が加わる。外面丁寧な研磨、内面は雑な縦位研磨	堀之内1
5-747坑 116図747坑3 PL61	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	双環状突起。内面孔と3方向の貫孔。突起上端は突出し円文を施す。突起下端に横位沈線を施す	加曾利B1
5-749坑 117図749坑1 PL61	口縁部 埋土	①細 白色粒多・角安 ②良好 ③黒褐色	口縁部直下に横位沈線を巡らし、以下縦位RLを施す	加曾利EIII
5-749坑 117図749坑2 PL61	体部 埋土	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③赤褐色	縦位沈線による体部懸垂文構成。無節Lを縦位に施す	加曾利EII
5-754坑 117図754坑1 PL61	口縁部 No.5,10	①粗 白色粒多 ②良好 ③橙色	浅鉢。口縁部は強く外傾し無文。頸部隆帯以下体部上半に文様帯を持つ。隆帯には円形刺突文が連続し文様帯内は隆線による渦巻文が対向する。隆線には短沈線が沿い、空白部には細沈線による弧状・矢羽状文が施される。外面体部下半に煤付着	加曾利EII
5-761坑 118図761坑1 PL61	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口唇部内面肥厚。外面口唇部下より細隆線が斜位に付される。	堀之内2
5-761坑 118図761坑2 PL61	口縁部 埋土	①粗 白色粒多・褐色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	双孔の口縁部突起。上端は捻りを加えた効果。突起外縁及び上端に円文と弧状沈線を施す	堀之内1
5-761坑 118図761坑3 PL61	口縁部 埋土	①細 白色粒・雲母少 ②良好 ③鈍い黄橙色	薄手で無文の口縁部。内外面とも丁寧な撫で調整で平滑	堀之内
5-761坑 118図761坑4 PL61	体部 埋土	①細 白色粒・雲母少 ②良好 ③鈍い黄橙色	3と同一個体か。内面器壁剥落。外面は平滑	堀之内
5-762坑 118図762坑1 PL61	口縁部 No.2	①細 白色粒・褐色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部内湾気味。口唇部は尖る。全体に凹凸が多い。粗雑な作り。外面煤付着	堀之内
5-762坑 118図762坑2 PL61	底部 No.5,6	①細 白色粒・褐色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	1と同一個体の底部か。僅かに突出気味。底面に網代痕	堀之内
5-762坑 118図762坑3 PL61	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③明黄褐色	口唇部内面に刻みを施し、横位沈線が巡る	堀之内2
5-762坑 118図762坑4 PL61	口縁部 埋土	①粗 石英多 ②良好 ③黒褐色	口縁部僅かに肥厚し横位沈線を施す。以下横位沈線が多段に配される	堀之内2
5-762坑 118図762坑5 PL61	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	口唇部内屈し横位沈線を施す。外面は横位細隆線を3条付し8字状貼付文が跨ぐ。以下は横位沈線と充填縄文。縄文は横位RL	堀之内2

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-765坑 118図765坑2 PL61	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③黒褐色	薄手で口唇部尖る。緩やかな波状部を有す。口唇部内面に横位沈線。無文で外面の撫で調整顕著	堀之内2
5-765坑 118図765坑3 PL61	口縁部 埋土下位	①細 白色粒多・角安 ②良好 ③鈍い黄褐色	無文で外面撫で調整により平滑	堀之内
5-765坑 118図765坑4 PL61	体部 底面	①粗 白色粒多・石英・雲母 ②良好 ③鈍い黄褐色	体部下半。無文で外面に縦位研磨が加わる	堀之内
5-765坑 118図765坑5 PL61	底部 埋土下位	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い黄褐色	注口土器底部か。厚手で張り出しは強く突出し、体部も開く。底面撫で、煤付着	堀之内
5-765坑 119図765坑6 PL62	口縁部 3/4	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部2条の横位隆線と8字状貼付文。以下は沈線充填縄文による幾何学文構成。8字状貼付文下に補修孔を穿つ。口縁部内面に煤付着	堀之内2
5-768坑 120図768坑1 PL62	口縁部 埋土上位	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	波状口縁頂部に突起を付す。突起外面磨減。口縁部に刻みを付す横位細隆線を付し、以下に横位沈線とLR充填施文の帯縄文が設けられる。突起内面は環状意匠を縦位に配し、横位沈線で片側を装飾する。下位環状意匠は貫孔する。口縁部内面に横位沈線が施される	堀之内2新
5-768坑 120図768坑2 PL62	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③灰褐色	無文。削り調整を施すが、口縁部に指頭圧痕が残る。口唇端部は研磨	堀之内2新
5-768坑 120図768坑3 PL62	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③灰褐色	無文。薄手で口唇部は角頭状。外面斜位撫で調整を残す	堀之内2新
5-768坑 120図768坑4 PL62	口縁部 埋土	①緻密 ②良好 ③灰褐色	口縁部に双環状小突起を付す。突起下に沈線による縦位S字状意匠を配し、横位沈線群が重なる。沈線間は細かな連続刺突が加わる。体部は細沈線と充填縄文による区画文か。縄文はLR横位充填施文。	堀之内2新
5-768坑 120図768坑5 PL62	体部 埋土下位	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	体部上半。垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縄文は縦位RL充填施文。	加曾利EⅢ
5-768坑 120図768坑6 PL62	底部 埋土下位	①細 白色粒多・角安 ②良好 ③浅黄色	内湾気味の体部下半。無文。外器面剥落多い	堀之内
5-768坑 120図768坑7 PL62	底部 埋土上位	①緻密 ②良好 ③黒褐色	筒状を呈す。あるいは鉢か。無文で外面は丁寧な研磨を施す。底面に網代痕。内面煤付着	堀之内2新
5-768坑 120図768坑ab PL62	底部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③赤褐色	強く開く体部下半。外面強い削り調整後撫でを施す	堀之内2新
5-775坑 120図775坑1 PL63	口縁部 埋土下位	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③鈍い赤褐色	甕状深鉢。波状突起を付し円文と弧線文を施す。3単位か。口縁部は横位沈線を施す。頸部屈曲部に3条の横位沈線が巡り8字状貼付文を重ねる。貼付文直下より沈線による大柄の渦巻文が配され、下端を横位弧状沈線が繋ぐ。縄文は横位・斜位RLを充填する	堀之内2古
5-775坑 120図775坑2	体部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	内外面とも横位沈線群を施す。黒色研磨	堀之内2新
5-777坑 121図777坑1 PL62	体部 埋土	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③灰褐色	斜位細隆線を付す	堀之内?

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-777坑 121図777坑2 PL62	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③灰褐色	2条の垂下沈線で画された施文部と磨消部。無節R縦位充填施文	加曾利EⅢ
5-778坑 121図778坑1 PL62	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③灰白色	口縁部隆帯による区画文構成。区画内側線は撫で、無節Lを斜位に充填する	加曾利EⅢ
5-778坑 121図778坑2 PL62	体部 埋土下位	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部下位の隆帯区画文下端。側線は幅広の沈線。横位LRを充填する	加曾利EⅢ
5-779坑 121図779坑1 PL62	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部は内屈し、捻りを加えた粘土紐による突起を付し、円文を連続させる。口縁部は加熱による発泡化する	堀之内1
5-780坑 121図780坑1 PL62	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③赤褐色	2条の細隆線による弧状・渦巻状意匠か。隆線間はRLを充填する	称名寺1
5-780坑 121図780坑2 PL62	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③灰褐色	横位細隆線以下RL縄文を施す。1と同一個体か	称名寺1
5-780坑 121図780坑3 PL62	体部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	刻みを付す垂下隆線。弧状沈線と縦位・横位RLが施される	堀之内1
5-782坑 121図782坑1 PL63	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③黒褐色	無文で外面は縦位研磨が加わる。内面は弱い撫で調整。輪積み痕が残る。外面煤付着	堀之内2新
5-782坑 121図782坑2 PL63	口縁部 埋土下位	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	無文。内面内稜鋭い。内外面黒色研磨	堀之内2新
5-782坑 121図782坑3 PL63	体部 埋土	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③赤褐色	口縁部楕円状区画文下端。隆帯側線は凹線。縄文はRRLL斜位施文	堀之内2新
5-784坑 122図784坑1 PL63	体部 埋土	①粗 白色粒多・褐色粒 ②良好 ③黒褐色	弧状の2条沈線とLR斜位充填施文。内面調整がやや雑で、袋状の器種の可能性もある	堀之内1
5-786坑 122図786坑1 PL63	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	口縁部内湾し、低位隆帯による楕円状区画文構成。側線は凹線。縄文はRL斜位充填施文	加曾利EⅢ
5-786坑 122図786坑2 PL63	口縁部 埋土	①粗 白色粒・石英・雲母 ②良好 ③暗赤褐色	突出する中空状の突起。縦位S字状隆帯が橋状把手となる。口縁部区画側線は撫で。縄文は横位LR充填施文	大木9
5-786坑 122図786坑3 PL63	体部 埋土	①粗 白色粒・雲母末 ②良好 ③暗赤褐色	口縁部楕円状区画文下端。隆帯側線は凹線。縄文はRRLL斜位施文	加曾利EⅢ
5-786坑 122図786坑5 PL63	体部 埋土下位	①細 白色粒 ②良好 ③褐灰色	体部上半。垂下沈線で画された磨消部懸垂文構成。縄文は縦位RL充填施文。	加曾利EⅢ
5-786坑 122図786坑6 PL63	体部 埋土下位	①細 白色粒・石英 ②良好 ③明褐色	体部上半。横位沈線以下沈線による逆U字状懸垂文とワラビ手状懸垂文。縦位条線を充填する	加曾利EⅢ
5-789坑 122図789坑1 PL64	体部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③黒褐色	体部上半。横位細隆線を付す。他は無文	加曾利EⅣ
5-789坑 122図789坑2 PL64	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③橙色	口縁部突起。上面環状で斜位に傾く。突起下には小孔を穿つ	堀之内2新
5-790坑 123図790坑1a,b PL64	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い黄褐色	緩やかな双波状口縁。3単位を推定する。口唇部には刻みを付し、波頂部は内屈し円孔を穿つ。内面は円形貼付文。体部は無文で撫で・研磨調整。内面に煤付着	堀之内2新

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-790坑 123図790坑2 PL64	口縁部 埋土	①緻密 ②良好 ③黒褐色	口唇部は細かな刻みを付し鋸歯状となす。口縁部無文以下斜位短沈線、横位沈線が多段に施される。内外面黒色研磨。内面煤付着	堀之内2新
5-797坑 123図797坑1 PL64	体部 埋土	①粗 片岩少・白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	器面磨減。内面剥落多い。横位隆帯と縄文R R L L斜位施文。	加曾利EⅢ
5-797坑 123図797坑2 PL64	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部内屈し波状突起を付す。隆帯による円文を配す。横位沈線が口縁部に沿う。内外面研磨	堀之内1
5-141P 123図141P1 PL64	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部に1条の横位細隆線が付され、以下横位沈線と充填縄文。LR横位	堀之内2
5-150P 123図150P1 PL64	口縁部～体部 埋土上位	①緻密 白色粒微 ②良好 ③黒色	緩やかな波状口縁。波頂部下に円孔を設け、以下対弧状沈線文を縦位に配し、横位沈線群が接す。体部は2条の横位沈線で画され、対弧状沈線の中核に斜位沈線が施される。内外面黒色研磨	堀之内2新
5-150P 123図150P2 PL64	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③オリーブ褐色	浅鉢。口唇部は尖り、内面に横位沈線群が施される。平滑な研磨を加える	堀之内2新
5-150P 123図150P3 PL64	底部 No. 1	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	緩やかに外傾する体部。底面に網代痕	堀之内?
5-162P 123図162P1 PL64	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	口唇部角頭状。無文で削り調整を施す。口唇部に入念な研磨を加える	堀之内?
5-162P 123図162P2 PL64	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③黄褐色	口唇部内屈。口縁部下に横位細隆線と8字状貼付文を付す。	堀之内2
95-30坑 131図30坑1 PL64	口縁部 埋土	①粗 少礫・白色粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部波状突起。片側は捻り状か。波頂部及び斜位に円孔を穿つ。口縁部には横位沈線を施す。破片下端には斜位沈線が看取される	堀之内1
95-30坑 131図30坑2 PL64	口縁部 埋土	①細 白色粒・角安 ②良好 ③橙色	口唇部内屈。口縁部2条の横位隆線を貼付し、8字状貼付文が跨ぐ	堀之内2
95-30坑 131図30坑3 PL64	底部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③橙色	2条の横位隆線による分帯か。隆線間には連続刺突文。上位は細隆線の貼付を縦位弧状に付す。下位は垂下隆線が見られる	唐草文系
95-31坑 131図31坑1 PL64	口縁部 埋土	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状口縁波頂部突起。突起中位に円孔を貫孔する。突起片端より斜位沈線が派生する。内面及び突起側面は円文を配す	堀之内1
95-31坑 131図31坑2 PL64	口縁部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③暗赤褐色	緩やかな波状口縁。口縁部は内屈し、縦位短沈線を連続させる。円形刺突文を施し、下端より蛇行隆線が垂下する。頸部に横位沈線が巡り、斜位・弧状沈線を充填する。	唐草文系
95-32坑 131図32坑1 PL64	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③暗赤褐色	波状口縁。口唇部内屈し沈線を施す。口縁部に隆線による渦巻文を配し刻みが載痕状に沿う。側線は沈線。体部は斜位沈線が施される。	唐草文系
95-32坑 131図32坑2 PL64	口縁部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③橙色	口縁部に円文を連続させ横位沈線を施す。体部は縦位沈線による懸垂文構成か	堀之内1
95-32坑 131図32坑3 PL64	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③明赤褐色	緩やかな波状突起。太い沈線による渦巻状意匠を配す	堀之内1
95-33坑 131図33坑1 PL64	体部 埋土	①細 白色粒・角安少 ②良好 ③鈍い橙色	頸部破片。2条の沈線と充填縄文による区画文構成か。縄文は横位LR	堀之内1新
95-33坑 131図33坑2 PL64	体部 埋土	①細 白色粒・角安少 ②良好 ③鈍い黄褐色	頸部破片。2条の横位沈線間を連続刺突文が施される	堀之内1

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-34坑 131図34坑2 PLなし	体部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③黒褐色	口縁部やや内湾気味で無文。口唇部は凹凸がある	中期後葉
95-34坑 131図34坑1 PL64	口縁部 埋土	①粗 雲母多・石英少 ②良好 ③鈍い褐色	体部中位か。2条の沈線による縦位剣先状意匠。空白部は短沈線が縦位矢羽状に充填する	唐草文系
95-35坑 131図35坑1 PL64	体部 埋土	①粗 雲母多・白色粒 ②良好 ③橙色	2条の横位隆線以下斜位平行沈線と斜位細隆線貼付による格子目状文	曾利系
95-35坑 131図35坑2 PL64	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③赤褐色	体部。斜位沈線と斜位細隆線による格子目状文	曾利系
95-35坑 131図35坑3 PL64	底部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③明赤褐色	直立気味の体部下半。弱い撫で調整を施す。	中期後葉
95-36~38坑 131図36~38坑1 PL64	口縁部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部若干内湾し平縁。肥厚口縁部は無文で以下縦位条線が施される。肥厚部及び内面丁寧な研磨を施す	加曾利EⅢ
95-36~38坑 131図36~38坑2 PL64	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	波状突起。波頂部下に隆線による渦巻文。側線は凹線。縄文はRL斜位充填施文。突起内面は凹線による渦巻文が施される	加曾利EⅢ
95-36~38坑 131図36~38坑3 PL64	体部 埋土	①粗 白色粒多 ②良好 ③褐色	円形刺突を施す横位隆線に橋状把手を付す。空白部は弧状沈線を充填する	曾利系
95-36~38坑 132図36~38坑4 PL64	底部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③橙色	薄手の底部。2条の垂下沈線による懸垂文構成。縄文はRRL縦位充填施文	加曾利EⅢ
95-40坑 132図40坑1 PL65	体部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③黒褐色	体部中位。円形貼付文を中核に弧状隆線が派生する。外面雑な研磨	称名寺
95-44坑 132図44坑1 PL65	口縁部~体部 底面	①細 白色粒 ②良好 ③橙色	波状口縁、口縁部隆線に円形刺突文が沿う。体部文様帯は3単位で磨消部による単位文化が果たされる。施文部縄文はLR充填施文。内面口縁部に煤付着	称名寺
95-47坑 132図47坑1 PL65	口縁部 埋土	①粗 白色粒 ②良好 ③黒褐色	波状口縁波頂部突起。沈線による渦巻文を配し。口唇部は凹文と横位沈線を施す。突起上端は細隆線と沈線による双渦巻状意匠が充てられる。内面突起下に凹文を施す	堀之内1
95-47坑 132図47坑2 PL65	口縁部 埋土	①細 白色粒・石英 ②良好 ③暗赤褐色	波頂部突起。上端は沈線による渦巻文。隆線が垂下し斜位短沈線が縦位に連続する	唐草文系
95-48坑 132図48坑1 PL65	体部 埋土	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③明褐色	2条の垂下沈線による懸垂文構成か。空白部は縦位矢羽状短沈線を施す	唐草文系
95-48坑 132図48坑2 PL65	体部 埋土	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	縦位矢羽状短沈線と弧状沈線が施される	唐草文系
95-49坑 132図49坑1 PL65	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色	波状口縁。小円文と縦位短沈線で口縁部文様帯を画し、沈線による楕円状区画が配される。区画内は凹文と横位沈線を施す	堀之内1
95-49坑 132図49坑2 PL65	体部 埋土	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③鈍い褐色	2条沈線による渦巻状・弧状意匠か。空白部は弧状短沈線を施す	堀之内1
95-51坑 133図51坑1 PL65	口縁部 埋土上位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	平縁。口縁部下は押圧を加える低位隆帯が巡る。体部は無文。内外面とも撫で調整を施すが凹凸が顕著。外面体部上半に煤付着	称名寺
95-51坑 133図51坑2 PL65	体部 埋土	①粗 白色粒多・片岩 ②良好 ③鈍い褐色	体部下半。横位沈線で画す。体部文様は1本描き沈線による渦巻状意匠か。内外面煤付着	称名寺

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-52坑 133図52坑1 PL65	口縁部 埋土	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	波状口縁か。波頂部円形突起欠損。口唇端部に沈線を施す。内面肥厚部に8字状貼付文と横位沈線を施す	堀之内2
95-53坑 133図53坑1 PL65	口縁部 埋土	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③鈍い褐色	浅鉢。口縁部内外面肥厚する。内面研磨のため平滑。外面斜位撫で調整痕残る	中期後葉
95-61坑 133図61坑1 PL65	口縁部 埋土下位	①粗 小礫・白色粒・石英 ②良好 ③橙色	波状口縁波頂部突起。内外面とも円孔を中心として、多方向からの貫孔で扁平ながらも中空状をなす。体部は幅広沈線による逆U字状区画と蕨手状沈線文が施される。縄文は縦位RLを施す	大木9
95-61坑 133図61坑2 PL65	口縁部 埋土	①粗 白色粒多 石英 ②良好 ③黄褐色	口唇部肥厚する。口縁部下に横位凹線と横位隆線。口縁部楕円状区画か。側線は撫で、縄文はRL縦位充填施文	加曽利EⅢ
95-61坑 133図61坑3 PL65	体部 埋土上位	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③黒褐色、浅黄色	体部中位。隆線による大柄の渦巻文。側線は凹線。縄文はLR充填施文	加曽利EⅢ
95-61坑 133図61坑4 PL65	体部 埋土上位	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③浅黄橙色	体部。縦位LRが施される	加曽利EⅢ
95-61坑 133図61坑5 PL65	体部 埋土上位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③赤褐色	体部中位。低位隆線による弧状意匠・渦巻状意匠か	加曽利EⅢ
95-61坑 133図61坑6 PL65	体部 埋土下位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③黄褐色	縦位RLが施される。器面磨滅	加曽利EⅢ
95-61坑 133図61坑7 PL65	体部 埋土下位	①粗 白色粒・石英・角安 ②良好 ③鈍い黄橙色	2条の垂下沈線による磨消部懸垂文。縄文はLR縦位充填施文	加曽利EⅢ
95-63坑 134図63坑1 PL65	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部内面肥厚。口縁部下に横位幅広沈線を施す。下位の沈線は区画文であろう。縄文は横位RL充填施文	加曽利EⅢ
95-63坑 134図63坑2 PL65	口縁部 埋土下位	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部内湾する。2条の幅広沈線による逆U字状区画文か。縄文は口唇部横位、以下は縦位RLを施す。内面煤付着	加曽利EⅢ
95-64坑 134図64坑1 PL65	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	2孔を設ける口縁部突起。片側上端は捻り状の意匠と縦位8字状意匠。口縁部に横位凹線と円文が施される。外面に煤付着	堀之内1新
95-64坑 134図64坑2 PL65	体部 埋土下位	①粗 白色粒・石英・角安 ②良好 ③橙色	体部中位。2・3条の太い沈線による区画文構成。沈線による渦巻文や円文を配す。区画内は縦位LR充填施文	堀之内1新
95-64坑 134図64坑3 PL65	体部 埋土下位	①粗 白色粒・石英・角安 ②良好 ③黒褐色	体部中位。2・3条の太い沈線による区画文構成。沈線による渦巻文や円文を配す。区画内は縦位LR充填施文	堀之内1新
95-64坑 135図64坑4 PL65	体部 埋土下位	①粗 白色粒・石英・角安 ②良好 ③橙色	体部中位。2・3条の太い沈線による区画文構成。沈線による渦巻文や円文を配す。区画内は縦位LR充填施文	堀之内1新
95-67坑 135図67坑1 PL66	口縁部 埋土下位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③赤褐色	浅鉢。体部上半の文様帯は2条の隆線と半渦巻状突起で4単位に区画される。区画内は沈線による渦巻文と横位平行沈線と截痕状の刻みが充てられる	加曽利EⅡ
95-67坑 135図67坑2 PL66	体部 埋土上位	①粗 石英多・雲母多 ②良好 ③暗褐色	体部中位。縦位LRが覆う	加曽利EⅡか
95-67坑 135図67坑3 PL66	体部 埋土下位	①粗 白色粒 ②良好 ③暗赤灰色	体部下半。縦位LRが施される。下端は撫でにより平滑	加曽利EⅡか
95-98P 136図98P1a PL66	口縁部 埋土上位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③橙色	口縁部内湾し幅狭の文様帯を持つ。隆線による狭区画。体部は隆線による大柄の渦巻文が配される。破片下端に隆線の端部があり、上下2帯構成か。縄文はRL縦位・横位充填施文	加曽利EⅣ

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-98P 136図98P2 PL66	体部 埋土上位	①粗 白色粒多・石英・角安 ②良好 ③橙色	体部中位。細隆線による懸垂文構成か。側線は撫で。縄文は縦位RLが施される	加曽利EIV
95-109P 136図109P1 PL66	口縁部 埋土	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③黒褐色	無文の口縁部。内面に隆線による内稜を付す。外面煤付着	唐草文系
95-109P 136図109P2 PL66	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③褐色	体部中位。縦位条線が施される	加曽利EIII
95-111P 136図111P1 PL66	口縁部 埋土上位	①粗 小礫・白色粒多 ②良好 ③橙色	口縁部下に押圧を加える横位隆帯を付し、渦巻文と垂下隆帯を派生する。縄文は縦位・斜位RL充填施文	加曽利EIII併行
95-111P 136図111P2 PL66	体部 埋土上位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③明褐色	体部上半。頸部隆線以下5・6条単位の縦位波状条線が施される。外器面の一部加熱により変色	加曽利EIII
95-119P 136図119P1 PL66	口縁部 埋土	①粗 小礫・白色粒多 ②良好 ③褐色	口縁部肥厚。凹線と頸部隆帯による楕円状区画か。区画側線は凹線。縄文は横位LR充填施文	加曽利EIII
95-119P 136図119P2 PL66	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③褐色	頸部隆線に縦位S字文が設けられ下端より隆線が垂下する。空白部は縦位矢羽状沈線が充てられる	曾利系
95-119P 137図119P3 PL66	体部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③褐色	体部上半。低位隆帯による口縁部区画下端。側線は凹線。円文を配し、ワラビ手状懸垂文も施される。縄文はLLR R縦位施文	加曽利EIII
95-122P 137図122P1 PL67	完形 埋土上位	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③橙色	大型のキャリパー状深鉢。口縁部は細隆線による楕円状区画文配列。区画内側線は凹線。体部文様帯は3条の沈線による懸垂文構成。縄文はRL充填施文。器面磨滅。一部脆弱な残存	加曽利EIII
95-123P 138図123P1 PL66	口縁部 埋土	①粗 白色粒多・角安・石英 ②良好 ③橙色	無文の口縁部下に横位凹線を施す	加曽利EIII
95-123P 138図123P2 PL66	体部 埋土	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③橙色	垂下沈線による磨消部懸垂文構成。縄文は縦位RL充填施文	加曽利EIII
95-123P 138図123P3 PL66	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③褐色	波状口縁。波頂部に隆線による大柄の渦巻文が配される。側線は凹線。縄文はRL充填施文	加曽利EIII
95-136P 138図136P1 PL66	口縁部 埋土	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い褐色	口縁部に円筒状突起を付し、2条隆線による区画文を配す。区画内側線は沈線。縦位短沈線を充填する。口唇部は2条隆線が接し中位が沈線状となる	加曽利EIII
17-1埋 138図1埋1 PL68	口縁部 A-14・埋設	①粗 白色粒・石英・褐色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	口唇部は若干内傾し、口縁部は外反気味。無文で削り調整が施されるが、口縁部は輪積み撫で調整が残る。	堀之内2新
5-G 151図1 PL68	口縁部 Q-5	①粗 少礫・白色粒・角安 ②良好 ③鈍い黄橙色	浅鉢。口縁部は開く。刻みを施す横位平行沈線と体部屈曲部で分帯される。縦位隆帯で区画され、区画内は沈線による渦巻文と弧線文が配される。	加曽利EII
5-G 151図2 PL68	口縁部 表土	①粗 白色粒 ②良好 ③暗褐色	浅鉢口縁部小破片。赤彩僅かに残る。内外面とも丁寧な研磨	中期後葉
5-G 151図3 PL68	口縁部 R-2	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部渦巻状突起。中実である。口縁部は内湾し、口唇部に平坦面を持つ。突起は口縁部文様帯中位に付される。	加曽利EII
5-G 151図4 PL68	口縁部 表土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い橙色	浅鉢。口縁部肥厚し、赤彩残る。内外面とも丁寧な撫で調整を施す	中期後葉
5-G 151図5,6,7 PL68	体部 Q-3	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	大型の両耳壺か。横位隆線に橋状把手が付し、縦位LRが施される。内面煤付着。6・7は口縁部下の外反部か。同一個体と考えた	加曽利EIV

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-G 151図8 PL68	口縁部 Q-2	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③鈍い橙色	波頂部突起。上端は渦巻状意匠で縦位楕円状意匠が接す。楕円状意匠上端孔が内面孔と貫通する。突起外縁は沈線が沿い、下端より斜位隆線が派生する	称名寺1
5-G 151図9 PL68	口縁部 O-3	①粗 少礫・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部突起。の字状の縦位楕円形を呈し中位に孔を設ける。内面は剥落するが嘴状・環状の突起が付される。縄文はLR充填施文	称名寺1
5-G 151図10 PL68	土製品 N-4	①細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い黄橙色	土製腕輪か。小型品で実用には適さない。外面は撫で調整を施す	称名寺段階か
5-G 151図11 PL68	口縁部 O-3	①細 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	波状口縁波頂部に環状突起を配す。口縁部に沿って細隆線が付され、突起下端より細隆線が2条懸垂する。縄文はRL充填施文	称名寺1
5-G 151図12 PL68	口縁部 S-2	①細 白色粒・雲母少 ②良好 ③鈍い褐色	平縁で口縁部内面僅かに突出する。体部は1本描き沈線2条による意匠文が配される。区画内は刺突列点文を充填する	称名寺2
5-G 151図13 PL68	体部 R-1	①細 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	注口土器把手。幅広の三角形を呈す橋状把手。上位に横位沈線を施す。口縁部には細沈線による区画文が配され、刺突文が沿う。LR細縄文を充填する	堀之内1
5-G 151図14 PL68	口縁部 P-2	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③鈍い黄橙色	上端渦巻状突起。下端に孔を穿ち周縁を弧状沈線や円文が施される。口縁部は横位沈線が沿う。内面は隆線による環状意匠が配され入念な研磨が加わる	堀之内1
5-G 151図15 PL69	体部 O-2	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	頸部破片。8字状貼付文下端に2条の横位沈線が接し、斜位沈線が派生する	堀之内1新
5-G 152図16 PL69	口縁部 R-3,S-2	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③赤褐色	口唇部角頭状。口縁無文部下に押圧を加えた横位隆線が巡る。	堀之内
5-G 152図17 PL69	体部 R-2	①粗 白色粒多・褐色粒 ②良好 ③鈍い赤褐色	体部中位～下半。3条の縦位沈線による懸垂文構成。縦位弧線文が接続し、縦位RLが施される	堀之内1
5-G 152図18a~e PL69	口縁部 P,Q-1	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③灰黄褐色	直線的に開く体部上半。2条の横位沈線間を刺突文が充填する。2条沈線による懸垂文構成で、空白部は斜位沈線が埋める。下半は屈曲する器形か	堀之内1
5-G 152図19a,b PL69	口縁部 P-2	①微細 白色粒 ②良好 ③灰褐色	口唇部内屈し円文と沈線を配す。体部は沈線による懸垂文構成か。縄文は縦位LR充填施文。口唇部丁寧な研磨。内面口唇部に煤付着	堀之内1新
5-G 152図20 PL69	口縁部 Q-2	①微細 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	口縁部下に2条の横位細隆線を付す。以下沈線と充填縄文による区画文構成か。縄文はLR充填施文。内外面研磨。外面口縁部に煤付着	堀之内2
5-G 152図21 PL69	口縁部 R-2	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	口縁部下の横位隆線と8字状貼付文。おそらく低位突起が付される。貼付文下端より垂下隆線が派生する。口唇部は内屈する	堀之内2
5-G 152図22 PL69	口縁部 Q-1	①微細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い褐色	緩やかな波状口縁。小突起を付し、口縁部は横位隆線と8字状貼付文。口唇部は内屈する。	堀之内2
5-G 152図23 PL69	口縁部 R-2	①細 白色粒多 ②良好 ③鈍い橙色	口縁部破片2点。薄手で口縁部下に刻みを施した1条の横位隆線が巡る。体部は無文か。内面口縁部沈線は浅い	堀之内2
5-G 152図24 PL69	口縁部 P-4	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄橙色	口唇部内面僅かに突出。口縁部下に横位隆線以下細沈線と充填縄文による区画文構成。縄文はLR。突起剥落痕跡有り	堀之内2
5-G 153図25 PL69	口縁部 P-1	①細 白色粒 ②良好 ③褐色	波状口縁波頂部に球状突起を付す。突起下位に内面円文の孔と貫孔する。口縁部に細隆線が沿い、以下沈線と充填縄文による带状区画が配される。突起上端には8字状貼付文。口唇部には沈線が施される	堀之内2
5-G 153図26 PL69	口縁部	①細 白色粒多・石英・角安 ②良好 ③暗褐色	口唇部内屈強い。口縁部に2条の横位細隆線を付す。破片下端に横位沈線を看取するが判然としない	堀之内2

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-G 153図27 PL69	口縁部 Q-3	①細 白色粒・石英・角安 ②良好 ③明赤褐色	口唇部内屈。口縁部下に横位沈線。以下沈線と充填縄文による幾何学文構成。縄文は無節L	堀之内2
5-G 153図28 PL69	口縁部	①微細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部直立し横位細隆線を4条付す。以下横位沈線を施す。内面横位沈線。	堀之内2
5-G 153図29a,b PL69	体部 S-5	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	2点からなる。2条の横位隆線を8字状貼付文が跨ぐ。以下横位沈線が1条巡り、横位LRを充填する	堀之内2
5-G-30 153図30 PL69	口縁部 R-2	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	平縁で口唇部を内面に突出させ。口唇部に刻みを施す。外面は無文で、内面口縁部肥厚部中位と下端に横位沈線が巡る	堀之内2
5-G 153図31 PL69	口縁部 R-2	①粗 少礫・白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	無文。口縁部横位撫で調整残る。内面は斜位撫で調整を施す	堀之内2
5-G 153図32 PL69	口縁部 R-2	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に横位沈線を数条配す。内面口唇部は肥厚し横位沈線を重ねる	堀之内2
5-G 153図33 PL69	口縁部 P-4	①微細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部下に横位隆線が巡り以下細沈線と充填縄文による区画文構成。縄文はLR。口唇部内屈する。内外面に煤付着	堀之内2
5-G 153図34 PL69	口縁部 Q-2	①細 白色粒 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部下に浅い横位沈線を施す。以下体部は沈線による弧状意匠が配される。破片左下端の孔は未貫通の補修孔か	堀之内2
5-G 153図35 PL69	体部 O-4	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	体部中位。細沈線と充填縄文による弧線状区画意匠。縄文はLR	堀之内2
5-G 154図36 PL69	体部 表採	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③鈍い褐色	頸部破片。横位隆線を8字状貼付文が跨ぐ。隆線には沈線が沿う。体部は横位沈線が施される。外面空白部は研磨を施す	堀之内2
5-G 154図37 PL69	体部 Q-1	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③暗赤褐色	注口土器口縁部。橋状把手を付設する。上下に沈線による渦巻文を配し、中位に孔を穿つ。側面は凹文を沈線が繋ぐ。突起両下端に沈線による三角文が施され、直下にも渦巻文が接する。口縁部文様は浅い沈線が沿う。	堀之内2
5-G 154図38 PL69	口縁部 P-4	①微細 白色粒少 ②良好 ③明黄褐色	注口土器口縁部。口唇部に浅い沈線。渦巻文を配する把手を付設する。把手下位は孔を穿つ。口縁部は楕円状区画が充てられ、横位細隆線で画された頸部文様帯に沈線による縦位楕円文と多段の横位楕円文が配される。把手上端の突起は欠損。把手・口縁部は丁寧な研磨を施す	堀之内2
5-G 154図39 PL69	体部 P-2	①微細 白色粒・石英少 ②良好 ③黒褐色	注口土器体部。体部上半は2条の横位沈線が巡り、弧状渦巻文が接続する。把手剥落痕跡有り。外面研磨	堀之内2
5-G 154図40 PL69	注口 P-2	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	注口土器注口部。先端部剥落。中位より外皮が剥落した状態。外面縦位研磨。内面撫で調整	堀之内
5-G 154図41 PL69	注口 表採	①微細 白色粒 ②良好 ③明赤褐色	注口土器注口部。外面丁寧な撫で調整。内面も弱い撫でが及ぶ	堀之内
5-G 154図42 PL69	注口 Q-2	①微細 白色粒 ②良好 ③灰黄褐色	注口土器注口部。先端部欠損。接合部に沈線を施す。外面丁寧な撫で調整。内面は弱い撫で	堀之内
5-G 154図43 PL69	注口 P-2	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	注口土器注口部。小型で接合部に細隆線と沈線を施す。外面丁寧な研磨。内面撫で	堀之内
5-G 154図44 PL69	口縁部 P-2	①細 白色粒・石英 ②良好 ③灰黄色	鉢か。内外面とも波頂部に沈線による渦巻文を配す。外面渦巻文直下より細隆線が垂下する。内面に煤付着	堀之内2

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-G 154図45a,b PL70	口縁部 S-2,R-2	①微細 白色粒微量 ②良好 ③オリープ黒色・鈍い褐色	口唇上端部に8字状貼付。頸部は横位平行沈線間を矢羽状沈線や横位弧線文が充てられる。体部は縦位平行沈線と横位弧線文が施される	堀之内2新
5-G 154図46a,b PL70	口縁部 P-3	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	筒状の器形。口唇部に小突起連続する。小突起は交互の押圧を加えた上面形態。体部は横位沈線群を多段に配す。内外面研磨	堀之内2新
5-G 154図47 PL70	口縁部 P-3	①細 白色粒・片岩少 ②良好 ③黒褐色	口縁部無文部以下に横位沈線を多段に施文する。沈線間は無文。内面口縁部横位沈線群が施される	堀之内2新
5-G 155図48 PL70	口縁部 P-2	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③灰黄褐色	外反気味に開く口縁部。口縁部下に押圧を加える細隆線を巡らす。以下は無文。内面口縁部には4条の横位沈線が強く施文される	堀之内2
5-G 155図49 PL70	口縁部 P-2	①微細 白色粒少 ②良好 ③黒褐色	波状口縁。波頂部は双波状とし、直下に瘤状小突起を付す。突起より細隆線が口縁に沿う。内面双波状部両端に円形刺突文を加える。内面に多量の煤付着	堀之内2
5-G 155図50 PL70	口縁部 P-3	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口唇部内面鋭く内稜状に沈線を施す。口縁部無文部以下は横位沈線が数段重なる。沈線間は無文。内外面丁寧な研磨を施す	堀之内2
5-G 155図51 PL70	口縁部 P-2	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③黒褐色	口唇部内面はやや太い沈線が巡る。口縁部無文部下は横位沈線が数段施される。沈線間は無文	堀之内2
5-G 155図52 PL70	口縁部 P-4	①粗 白色粒多 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部内面横位沈線弱く凹線状。外面口唇部直下に浅い横位沈線が巡り、斜位沈線群を施す	堀之内2新
5-G 155図53 PL70	口縁部 Q-5	①微細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部に瘤状突起を付す。両下端にも小突起を配す。突起下より弧状沈線が派生し、空白部には弧線状意匠が施される。口唇部に刻み、内面は内稜を付す	堀之内2新
5-G 155図54 PL70	口縁部 P-3	①細 白色粒・石英 ②良好 ③褐色	口唇部に小8字状突起と刻みを施す。口縁部無文部以下横位沈線が多段に配され、横位LRが重なる	堀之内2新
5-G 155図55 PL70	口縁部 P-2	①微細 白色粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部に小突起を付す。外面は無文で、内面沈線は鋭く巡る	堀之内2新
5-G 155図56 PL70	口縁部 表土	①細 白色粒多・石英 ②良好 ③黒褐色	口縁部内屈。横位LR施文後4条の横位沈線を施す。口縁部内屈部に刺突文を連続し、体部内面は4条の横位沈線が巡る。内面研磨のため平滑	堀之内2新
5-G 155図57 PL70	口縁部 R-2	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	浅鉢。外面無文。内面は口縁部下の横位沈線群が施される。内面丁寧な研磨	堀之内2新
5-G 155図58 PL70	口縁部 Q-3	①細 白色粒・石英 ②良好 ③橙色	口縁部内屈。鋸歯状の口唇部を呈し、内外面とも横位沈線群を配す。	堀之内2新
5-G 155図59 PL70	口縁部 P-1	① ②良好 ③黒褐色	口唇部下に横位沈線。体部は横位沈線で分帯される。縦位沈線で小区画され対向斜位沈線が施される。縄文は横位LR。口唇端部にまで縄文は及び内面口縁部横位沈線も施される	堀之内2新
5-G 155図59 PL70	体部 P-4	①微細 白色粒 ②良好 ③褐色	体部破片。体部は横位沈線で分帯され対向斜位沈線が施される。縄文はLR。内面丁寧な研磨を施す	堀之内2新
5-G 155図60 PL70	体部 表採	①微細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	筒状の体部下半。横位沈線で体部文様帯を画し、上位に横位入り組み状弧線文を施す	堀之内2新
5-G 155図61 PL70	体部 Q-3	①細 白色粒・石英 ②良好 ③明褐色	横位沈線と横位弧状入り組み文。弧状意匠も配される。縄文はLR充填施文	堀之内2新

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-G 155図62 PL70	口縁部 P-4	①粗 白色粒多 ②良好 ③褐灰色	口唇部内面横位沈線を施す。口縁部無文部以下横位沈線を多段に施文し、横位LRを重ねる	堀之内2新
5-G 155図63 PL70	体部 Q-2	①微細 白色粒少 ②良好 ③鈍い褐色	細沈線と充填縄文による帯縄文を2帯配す。横位LR	堀之内2新
5-G 156図64 PL70	口縁部 R-4	①緻密 ②良好 ③黒褐色	浅鉢口縁部突起。半円状の突起で両脇に瘤状突起を付し、下位に貫孔する。突起内面文様は極めて精緻に施される。中位の沈線と画された意匠文内縄文はLR充填施文である。内面研磨	堀之内2新
5-G 156図65, 66 PL70	口縁部 R4.S-2	①緻密 ②良好 ③黒褐色	口縁部球状突起。頂部より派生した隆線が渦巻状に下垂する。突起下内面は横位沈線が施され、突起両下端に円文を配す。	堀之内2新
5-G 156図67 PL70	口縁部 Q-1	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色	浅鉢。外面半円、内面渦巻状意匠を配した突起を付す。半円状突起外縁は沈線が施される。口唇部には狭楕円文が沈線で描かれ、円形貼付文も付される。内面は渦巻文が接続し、口唇部には楕円文や円文が配される	堀之内2新
5-G 156図68 PL70	口縁部 表採	①細 白色粒・石英 ②良好 ③褐灰色	浅鉢。球状突起を付し内面施文が著しい。突起両下端に渦巻文を配し、隆線で繋ぐ。隆線間は細かな刻みを施し、小孔を穿つ。口唇部には2条の細沈線が沿い、以下沈線による渦巻文や弧線状意匠が配される。内面器壁一部が剥落する	堀之内2新
5-G 156図69 PL70	口縁部 S-2	①細 白色粒・角安 ②良好 ③黄灰色	浅鉢。口唇部は欠損。内面環状意匠中核孔は貫孔する。2条の内稜以下横位沈線群が突起下垂隆線を挟んで施される。体部は沈線によるの字意匠が配される。縄文はLR充填。	堀之内2新
5-G 156図70,71 PL70	体部 P-1,P-2	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	注口土器体部。頸部に斜位細密沈線を施し、体部は沈線による大柄の楕円文を配す。横位平行沈線も派生し、沈線間に細かな刺突文を連続させる。外面黒色研磨	堀之内2新
5-G 156図72 PL71	体部 P-2	①細 白色粒・角安 ②良好 ③橙色	注口土器か。突起あるいは注口部剥落痕跡有り。弧状隆帯が付され、横位沈線と充填縄文による帯縄文。外面研磨	堀之内2新
5-G 156図73 PL71	口縁部	①緻密 ②良好 ③黒色	口縁部に渦巻状小突起を付す。突起下に沈線による縦位S字状意匠を配し、横位沈線群が重なる。沈線間は細かな連続刺突が加わる。体部は細沈線と充填縄文による区画文が配される。縄文はLR横位・斜位充填施文。内外面黒色研磨。5区60住に同一個体有り	堀之内2新
5-G 156図74 PL71	口縁部 R-2	①微細 白色粒・石英少 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部内湾。無文部以下横位沈線が巡り、の字文・横位沈線が施される。横位LRを充填する	加曽利B2
5-G 156図75 PL71	口縁部 N-4	①細 白色粒 ②良好 ③灰黄色	口縁部内面沈線は鋭い。外面は斜位沈線を施す	加曽利B2
5-G 157図76 PL71	口縁部 Q-5	①細 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	内面口縁部横位沈線が巡る。外面は無文で煤が付着する	堀之内2
5-G 157図77 PL71	口縁部 Q-2	①微細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	外面は無文。内面口縁部横位沈線は浅く巡る	堀之内2
5-G 157図78 PL71	口縁部 表採	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い橙色	薄手の器厚で無文	堀之内2
5-G 157図79 PL71	口縁部 P-2	①微細 白色粒・石英少 ②良好 ③黒褐色	口唇部尖る。無文で内外面とも弱い撫で調整を施す。内面微量の煤付着	堀之内?
5-G 157図80 PL71	口縁部 Q-1	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	薄手の器厚。口唇部は尖り、雑な作り。外面撫で調整を施すも凹凸が顕著。内面平滑な撫で	堀之内2
5-G 157図81 PL71	口縁部 P-4	①粗 白色粒多 ②良好 ③赤褐色	無文で外器面磨減。内面撫で調整を施す	堀之内?

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
5-G 157図82 PL71	口縁部 P-1	①微細 白色粒・石少 ②良好 ③黒褐色	口唇部尖る。無文で内面は丁寧な撫で調整を施す。口縁部下に補修孔	堀之内2新
5-G 157図83 PL71	口縁部 P-4	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③橙色	口唇部尖る。無文で内外面撫で調整ながら内面凹凸が残る。薄手の器厚	堀之内?
5-G 157図84 PL71	底部 表探	①細 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	張り出し底部。体部下半に刺突を施す横位細隆線を付し、体部文様帯を画す。剥落するが縦位隆線も看取され、おそらく方形の区画文が配される。区画内は細沈線文が充てられる	堀之内2
5-G 157図85 PL71	底部 P-3	①細 雲母多・白色粒 ②良好 ③赤褐色	直立気味の体部下半。底面に網代痕	堀之内
5-G 157図86 PL71	底部 R-2	①粗 白色粒・石英・角安 ②良好 ③橙色	僅かに張り出す。内底面肥厚。外底面に網代痕	堀之内
5-G 157図87 PL71	底部 P-4	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	鉢か。内面の研磨は入念。内底面に段を持つ。底面網代痕	堀之内2新
5-G 157図88 PL71	底部 P-2	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③鈍い黄橙色	大型深鉢底部。体部は強く開く。底面網代痕	堀之内
5-G 157図89 PL71	底部 P-4	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③鈍い橙色	張り出し底部。体部は直立気味。内底面は肥厚する。外底面には網代痕	堀之内
5-G 157図90 PL71	底部 R-2	①細 白色粒・石英 ②良好 ③橙色	強く開く体部下半。縦位研磨を施す。底面網代痕	堀之内
5-G 157図91 PL71	底部 O-1	①細 白色粒・石英 ②良好 ③橙色	底部突出し、体部は強く開く。内外面撫で調整	堀之内
5-G 157図92 PL71	底部 Q-3	①細 白色粒・雲母少 ②良好 ③鈍い褐色	やや直立気味の体部。底部は薄手で底面に網代痕。内面体部下半及び外底面に煤付着	堀之内
5-G 157図93 PL71	底部 Q-2	①粗 白色粒多・褐色粒 ②良好 ③鈍い橙色	大型の深鉢底部。直立気味の体部。底面は網代痕。白色物付着	堀之内
5-G 157図94 PL71	底部 P-4	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③橙色	大型の深鉢底部。体部は強く開く。底面網代痕	堀之内
5-G 157図95 PL71	底部 P-2	①緻密 白色粒微量 ②良好 ③黒褐色	筒状の器形。あるいは鉢か。僅かに内湾気味の体部下半。無文だが内外面とも黒色研磨。底面に網代痕。	堀之内2新
95-G 158図1 PL71	口縁部 S-21	①細 雲母多・石英・白色粒 ②良好 ③褐色	小型の深鉢。口唇部に沈線を施す。口縁部文様帯下端は2条隆線による楕円状区画接続で画される。区画下端より2条隆線がクランク状に短く垂下し頸部隆線に接す。体部は上半の横位平行沈線で画される。口縁部区画内は沈線を側線とし、斜位短沈線を充填する。頸部及び体部縄文は地文で縦位RLを施す	加曾利E I 新
95-G 158図2 PL71	ほぼ完形 S-22	①粗 雲母・白色粒多 ②良好 ③暗赤褐色	口唇部端部に沈線。口縁部4単位突起より2条隆線がクランク状に頸部突起に繋ぐ。口縁部区画内は縦位短沈線を充填する。体部は1本描きの沈線の施文で渦巻状懸垂文を4単位配す。地文は縦位RL。内外面に煤が付着する	加曾利E I 新
95-G 158図3 PL72	口縁部 Q-21	①細 雲母・白色粒 ②良好 ③褐色	小型の深鉢。口唇部に浅い沈線を巡らす。以下横位・斜位LR縄文が施される	中期後葉
95-G 158図4 PL72	体部 N-20	①粗 白色粒多 ②良好 ③褐色	口頸部は強く開く。体部上半に横位隆線を巡らし、体部中位に内皮使用の平行沈線を4条施す。地文は撚糸文1	加曾利E II

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-G 158図5 PL72	底部 S-22	①粗 小礫多・白色粒 ②良好 ③明赤褐色	小渦巻文を付す細隆線による懸垂文構成。底部際にまで達する。隆線には沈線が沿い、空白部にはR Lが縦位充填施文される	大木9
95-G 158図6 PL72	体部 R-23	①粗 白色粒多 ②良好 ③明褐色	器台か。中位に円孔を設け、周縁は細沈線が施される。単位は不明	加曾利E II併行
95-G 158図7 PL72	口縁部 S-20	①細 白色粒多・黒色粒 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部内湾し、口縁部文様帯下端に渦巻状突起を設ける。口唇端部には1条の沈線が沿い、口縁部区画は2条隆線による半楕円状区画。区画内側線は沈線、縄文は横位L R充填施文。頸部無文帯を持ち体部は2条の横位沈線で画される。外面少量の煤付着	加曾利E II
95-G 158図8 PL72	口縁部 T-20	①粗 白色粒多・角安 ②良好 ③オリーブ黒色	2条隆線による口縁部楕円状区画文。隆線の一部は剣先状意匠となり区画内に突出する。区画内側線は沈線。縄文は横位L R充填施文	加曾利E II
95-G 158図9 PL72	体部 N-20	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③黒褐色	波状突起下の連接する横位渦巻状意匠。隆帯には沈線が重なり空白部には斜位短沈線を充填する。波頂部には円孔が設けられる	唐草文系
95-G 158図10 PL72	口縁部 S-22	①粗 白色粒・雲母多 ②良好 ③赤褐色	大型の双渦巻文を配した中空状突起。突起背面は三角形を呈す。突起側面は隆線による蛇行文、突起下端は縦位楕円文が貼付される。側線は連続刺突文を施す。	唐草文系
95-G 159図11a~g PL72	口縁部 S-22,23,24	①粗 白色粒 ②良好 ③明褐色	体部上半。隆帯による口縁部区画下端。側線は幅広沈線、縄文は斜位L R。体部は2条の沈線に画された磨消部懸垂文構成。施文部は縦位R L充填縄文で2条の蛇行垂下沈線が施される	加曾利E III
95-G 160図12 PL72	体部 N-20	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③褐色	4と同一個体片か。体部中位に平行沈線を4条施す。上位文様帯には剣先状意匠が充てられる。地文は捺糸文1	加曾利E II
95-G 160図13 PL72	体部 R-22	①細 雲母多・石英・白色粒 ②良好 ③明赤褐色	体部上半。横位隆線が巡り、以下3条の平行沈線で体部を画す。縄文は地文でR L縦位施文。内面下半に煤付着	加曾利E II
95-G 160図14 PL72	頸部 N-20	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③褐色	4と同一個体片か。緩やかな波状隆線を付す。おそらく口縁部下の破片。地文は捺糸文1	加曾利E II
95-G 160図15 PL72	口縁部 S-21	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色	口唇部内面折り返す。口縁部は緩やかに内湾し沈線による連弧状意匠を配列する。体部は縦位沈線が施される	加曾利E II
95-G 160図16 PL72	口頸部 S-22	①粗 少礫・白色粒・角安 ②良好 ③鈍い橙色	浅鉢。体部屈曲部の刻みを付す横位隆帯で画される。縦位隆帯で区画され、区画内は沈線による渦巻文が配される。5区遺構外に同一個体有り	加曾利E II
95-G 160図17a,b PL73	体部 N-20	①粗 白色粒多・石英 ②良好 ③鈍い黄褐色	体部上半か。2条の幅広沈線で分帯し、沈線による連弧状意匠を配す。縄文は地文でR L縦位・斜位施文。器面磨減	加曾利E II
95-G 160図18 PL73	体部 R-23,S-23	①細 白色粒少 ②良好 ③鈍い赤褐色	浅鉢。3点からなる。体部屈曲部に斜位刻みを連続し上位は横位沈線で画された間を縦位沈線・斜位刻みが充填される。	加曾利E II
95-G 160図19 PL73	口縁部 S-21	①粗 白色粒多 ②良好 ③黒褐色	突出する波状突起。橋状把手で。上端両脇に沈線渦巻文を施す。口縁部は隆線による楕円状区画で把手下端より2条の沈線が懸垂する。口唇部には沈線が沿い、突起内面も隆線による渦巻文が配される	加曾利E II
95-G 160図20 PL73	体部 S-21	①粗 雲母多・石英 ②良好 ③褐色	体部上位に2条の横位隆線が巡り、逆U字状懸垂文が接す。隆線間には刻みが連続する。空白部は内皮面斜位平行沈線を充填する。横位隆線上位には刺突文が沿う	唐草文系
95-G 161図21 PL73	体部 O-22	①粗 白色粒・石英少 ②良好 ③褐色	体部上位。双環状突起を中核に横位隆線、縦位隆線が派生する。縦位隆線は刻みを付し体部下半で逆U字状となる。突起下端には縦位楕円状文も配される。空白部は縦位沈線が埋められる	唐草文系
95-G 161図22 PL73	体部 Q-22	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③褐色	半截竹管反転施文の蛇行沈線文による懸垂文構成。内皮面平行沈線や縦位連続刺突文を縦位に充填する。内面体部下半煤多量に付着	唐草文系

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-G 161図23 PL73	体部 S-21	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③褐色	体部中位。2条の隆線で分帯され、上位は蛇行隆線等で区画される。区画内は縦位平行沈線と斜位短沈線で充填する。下位は斜位沈線に斜位隆線が貼付され格子目文が配される	唐草文系
95-G 161図24 PL73	体部 表土	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③褐色	2条の垂下沈線による懸垂文構成か。空白部は縦位矢羽状短沈線が施される。内面煤付着	唐草文系
95-G 161図25 PL73	体部 P-21	①粗 雲母多・石英 ②良好 ③明赤褐色	2条の隆線による懸垂文構成か。空白部は広く縦位矢羽状短沈線が施される	唐草文系
95-G 161図26 PL73	体部 表土	①粗 小礫・白色粒・角安 ②良好 ③鈍い橙色	平縁。口縁部文様帯は細隆線による楕円状区画配列。区画側線は凹線と撫で。縄文は口縁部は横位、体部は縦位R L充填施文	加曽利E III
95-G 161図27 PL73	口縁部 N-20	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い赤褐色	波状突起を付す口縁部。突起は強く外傾する。突起下に隆線による渦巻文を配し、楕円状区画を配す。区画側線は凹線、縄文はR L充填施文。突起内面も渦巻文を配す。内面口縁部に煤付着	加曽利E III
95-G 161図28 PL73	突起 S-22	①粗 小礫・白色粒 ②良好 ③明黄色	中空状突起。上面は広く環状を呈す。正面と内面の円孔の他側面、側面下からの孔も設けられる。器面磨滅	加曽利E III
95-G 161図29 PL73	口縁部 R-24	①粗 白色粒・角安多 ②良好 ③橙色	浅鉢。頸部破片。屈曲部隆帯突出し隆線による渦巻文を配す。渦巻文両下端も小渦巻文が付され横位沈線が派生する。	加曽利E III
95-G 161図30 PL73	体部 P-23	①細 白色粒多 ②良好 ③鈍い黄褐色	体部上半。垂下沈線とワラビ手状垂下沈線による懸垂文構成。縄文はR L縦位充填施文	加曽利E III
95-G 162図31a,b PL73	体部 P-22,23	①粗 少礫・白色粒・石英少 ②良好 ③明褐色	口縁部～体部下半7点からなる。口縁部下より体部中位に3条の沈線による縦位楕円文が配される。下半は縦位沈線による懸垂文構成か。地文縄文でL R縦位・斜位施文を主とする。内面器壁剥落多い。	加曽利E II
95-G 162図31c,d PL73	体部 N-24	①細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い褐色	体部破片2点。垂下沈線による懸垂文構成。縄文は縦位R L充填施文。内面体部下半に煤付着	加曽利E III
95-G 162図32 PL73	体部 Q-22	①細 白色粒 ②良好 ③明褐色	体部。沈線による逆U字状懸垂文。縄文はR L縦位充填施文	加曽利E III
95-G 162図33 PL73	口縁部 S-20	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③鈍い橙色	浅鉢。口縁部は肥厚し、体部は内湾する。無文で内外面撫で調整を施し平滑	加曽利E II
95-G 162図34 PL73	底部 N-20	①粗 白色粒・石英少 ②良好 ③明赤褐色	4点からなり2点を図示した。体部は外反気味に立ち上がり、下半は撫で調整。横位沈線と斜位沈線が看取されるが判然としない。底部内面多量の煤付着	唐草文系
95-G 162図35 PL73	底部 S-22	①粗 白色粒 ②良好 ③赤褐色	大型の深鉢底部。沈線による懸垂文構成。磨消部が配列する。	加曽利E III
95-G 162図36 PL73	底部 Q-22	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③褐色	大型の深鉢底部。縦位条線が密に施文される懸垂文構成。底面器壁薄く剥落する	加曽利E III
95-G 163図37 PL73	底部 Q-19	①粗 白色粒・石英少 ②良好 ③赤褐色	底部小径で厚手。やや不安定な作り。縦位平行沈線による懸垂文構成。空白部は6条の条線が蛇行斜位施文される。	加曽利E II 併行
95-G 163図38 PL73	口縁部 T-20	①粗 小礫・白色粒・雲母少 ②良好 ③鈍い黄褐色	緩やかな波状口縁。波頂部より2条の沈線による斜位渦巻文が配される。波底部には2条の沈線が懸垂する。沈線間には列点刺突文が施される	称名寺2
95-G 163図39 PL73	体部 R-20	①微細 白色粒少 ②良好 ③鈍い黄褐色	小型のミニチュア状深鉢体部下半か。縦位沈線や逆U字状区画による懸垂文構成。円形刺突文も施される。縄文は縦位R L充填施文	称名寺

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-G 163図40 PL73	体部 T-20	①細 白色粒少 ②良好 ③褐灰色	体部中位。1本描き沈線による弧状区画文と斜位沈線。施文部は列点刺突文が施される	称名寺2
95-G 163図41 PL73	底部 O-25	①粗 褐色粒多・白色粒・角安 ②良好 ③明褐色	体部下半。沈線による巴状渦卷文と弧状意匠。縄文はLR充填施文	称名寺2
95-G 163図42 PL73	口縁部 M-23	①細 白色粒 ②良好 ③褐灰色	無文の口縁部下に横位沈線を施し円形貼付文を付す。体部は沈線による区画意匠か。横位LRを充填する。内外面とも煤付着	堀之内1古
95-G 163図43 PL74	口縁部 N-23	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い赤褐色	口縁部に捻り状突起を付し下端は楕円状の孔を穿つ。口縁部は円文と横位沈線を施す。内面丁寧な研磨を施す	堀之内1
95-G 163図44 PL74	口縁部 R-20	①粗 白色粒 ②良好 ③黒褐色	直立する口縁部に波状突起を付す。渦卷文・弧線文を配し、円文と横位沈線が施される。内外面とも丁寧な研磨を施す	堀之内1
95-G 163図45 PL74	口縁部 Q-22	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部小突起を付す。突起両端に円文を配し横位沈線を口縁部に沿う。内面研磨	堀之内1
95-G 163図46 PL74	口縁部 R-22	①粗 白色粒 ②良好 ③鈍い黄橙色	外反する口頸部。口縁部は僅かに内屈し、内面肥厚する。口縁部に2条の横位沈線を施し、沈線間は刺突文を連続させる	堀之内1
95-G 163図47 PL74	口縁部 Q-25	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	口縁部内屈する。刻みを施す横位隆帯を付し上位には幅広沈線が沿う。	堀之内1
95-G 163図48 PL74	体部 P-23	①粗 白色粒・石英多 ②良好 ③明赤褐色	頸部破片。縦位把手状の突起を付す。貫孔はしない。突起側面・下端に小円文を配し、体部は弧線文を施す	堀之内1
95-G 163図49 PL74	口縁部 N-25	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③黒褐色	口唇部の一部は波状に内屈し、端部に刻みを施す。口縁部2条の横位細隆線に8字状貼付文を付す。体部は2~3条の沈線による変形区画文が配される	堀之内2新
95-G 163図50 PL74	口縁部 R-20	①細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い黄橙色	口縁部に小突起を付し円文を配し、小円文と横位沈線を施す。口頸部は刻みを付す縦位隆線を垂下させる。口唇部内面煤付着	堀之内1
95-G 163図51 PL74	体部 O-24	①細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い黄褐色	頸部破片。2条の横位細隆線を8字状貼付文が跨ぐ。隆線間は沈線を側線とし研磨を加える。体部は貼付文下端に弧線文を施す	堀之内1新?
95-G 164図52 PL74	口縁部 O-24	①細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	波状口縁。波頂部は僅かに内湾。外面無文で、内面は波頂部下に沈線渦卷文が配される。内外面研磨	堀之内1
95-G 164図53 PL74	口縁部 T-22,23	①細 白色粒・石英・角安 ②良好 ③鈍い黄褐色	大型の注口土器。注口部上位に大型の把手を設ける。把手上端は円盤状の突起を付す。体部は細沈線群による重弧状意匠や方形状意匠を配す。縄文はRL充填施文	堀之内2
95-G 164図54 PL74	注口 P-24	①微細 白色粒少 ②良好 ③黒褐色	注口土器注口部。接続部に浅い沈線との字意匠を配す。外面研磨により平滑。内面撫では弱く粘土帯が残る	加曾利B2
95-G 164図55 PL74	口縁部 P-22	①粗 白色粒・褐色粒多 ②良好 ③橙色	小波状口縁を呈す。不揃いな感があるが意図的な口縁部形状。口縁部下に押圧を加える横位隆帯が巡る。体部は内外面とも弱い撫で調整を加えるが凹凸が残る	堀之内?
95-G 164図56 PL74	口縁部 O-25	①粗 白色粒・石英・角安 ②良好 ③褐色	緩やかな波状口縁を呈す。薄い内稜を設ける。無文で内外面とも弱い撫でを施す	堀之内1
95-G 164図57 PL74	口縁部 S-23	①微細 白色粒少 ②良好 ③鈍い褐色	口唇部内屈。外面は無文で器面磨滅する	堀之内2
95-G 164図58 PL74	口縁部 S-23	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③暗褐色	口縁~体部下半5点からなる。2点を図示した。小波状突起を付す無文の深鉢で、口唇部内面は横位隆線を付す。内外面とも撫で調整。外面に少量の煤付着	堀之内?

第3章 検出された遺構と遺物

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-G 164図57 PL74	口縁部 S-23	①微細 白色粒少 ②良好 ③鈍い褐色	口唇部内屈。外面は無文で器面磨減する	堀之内2
95-G 164図58 PL74	口縁部 S-23	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③暗褐色	口縁～体部下半5点からなる。2点を図示した。小波状突起を付す無文の深鉢で、口唇部内面は横位隆線を付す。内外面とも撫で調整。外面に少量の煤付着	堀之内?
95-G 164図59 PL74	底部 O-23	①細 白色粒・角安少 ②良好 ③鈍い橙色	体部は強く開く。内外面丁寧な研磨を施す。底面に網代痕	堀之内
95-G 164図60 PL74	底部 S-21	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③浅黄橙色	強く開く体部下半。外面撫で調整。底面網代痕	堀之内
95-G 164図61 PL74	底部 M-24,N-24	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③赤褐色	張り出し底部。体部は内外面とも研磨で平滑。外面少量煤付着。底面網代痕。	堀之内
95-G 164図62 PL74	底部 Q-25	①粗 白色粒・角安少 ②良好 ③鈍い橙色	大型の深鉢底部。端部は僅かに張り出す。外面は削り調整後弱い撫で調整。凹凸が残る。底面網代痕	堀之内
95-G 165図63 PL74	口縁部 S-24	①微細 白色粒少 ②良好 ③黒褐色	注口土器口縁～体部破片、2点からなる。剥落するが把手を付す。口縁部は無文で、以下は横位隆線で頸部文様帯を分帯し沈線による多段の横位楕円文が配される。楕円文中位に細かな刺突文を施す。把手反対面は沈線による渦巻文が配されるようだ。体部上半は弧状沈線文や方形区画文が見られる。	堀之内2
95-G 165図64 PL74	口縁部 P-25	①微細 白色粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部内面横位沈線。横位平行沈線で分帯され、上位は横位弧線入り組み文、下位は弧線文や渦巻文が配される。縦位S字状意匠が上下を連結する。	堀之内2新
95-G 165図65 PL74	体部 N-23	①粗 白色粒・角安 ②良好 ③橙色	細かな横位刺突文が密に施される。	三十稲場か
95-G 165図66 PL74	口縁部 O-25	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部球状突起。上端にも小突起を付す。突起下内面は横位沈線を施す。両端には円形刺突文を配す。体部内面も横位沈線群が施される	堀之内2新
95-G 165図67 PL74	口縁部 O-24	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い黄褐色	口縁部球状突起。上端にも小突起を付す。突起下内面は横位沈線を施す。両端には円形刺突文を配す。体部内面も横位沈線群が施される	堀之内2新
5-円 165図円1 PL74	土製円盤 60住南	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③鈍い橙色	5.0 × 4.8 × 0.6。体部中位か。沈線と充填縄文LR。周縁は打ち欠きで整形	加曽利EIV?
5-円 165図円2 PL74	土製円盤 60住北	①細 白色粒 ②良好 ③灰褐色	3.6 × 3.3 × 0.5。部位不明。無文。撫でにより平滑な器面。周縁は研磨整形	堀之内か
5-円 165図円3 PL74	土製円盤 60住	①粗 白色粒・褐色粒 ②良好 ③褐色	4.2 × 3.8 × 0.9。体部中位か。沈線が看取される。おそらく磨消部。周縁は打ち欠き整形後一部研磨整形が加わる	加曽利EIII
5-円 165図円4 PL74	土製円盤 60住	①細 白色粒・角安 ②良好 ③暗褐色	6.4 × 6.1 × 1.0。体部上半か。横位沈線と弧線文が看取される。周縁は研磨整形	堀之内1
5-円 165図円5 PL74	土製円盤 61住	①細 白色粒・石英少 ②良好 ③黒褐色	4.0 × 4.0 × 1.0。口縁部隆帯と区画文。周縁は研磨整形	加曽利EIII
5-円 165図円6 PL74	土製円盤 67住炉	①細 白色粒 ②良好 ③鈍い橙色	4.5 × 4.2 × 0.7。体部上半。横位隆線以下の沈線と縄文施文部。周縁は研磨整形	堀之内2
95-円 165図円7 PL74	土製円盤 3号炉	①細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い褐色	3.5 × 3.2 × 0.9。体部。縦位沈線ないしは弧状沈線か。周縁は打ち欠き整形	曾利系

遺物観察表

図・番号 図 版	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 の 特 徴 等	備 考
95-円 165図円8 PL74	土製円盤 3号炉	①細 白色粒・褐色粒 ②良好 ③鈍い橙色	4.8 × 3.8 × 0.7。体部中位。2条の弧状沈線と充填縄文LR。周縁は研磨整形で方形を呈す	加曾利EⅢ
95-円 165図円9 PL74	土製円盤 68ピット	①細 白色粒・石英 ②良好 ③灰褐色	5.0 × 4.6 × 0.7。体部中位か。無文で撫で調整を施す。周縁は打ち欠き整形。	堀之内1?
95-円 165図円10 PL74	土製円盤 P-24	①細 白色粒・石英 ②良好 ③黒褐色	3.8 × 3.6 × 0.6。体部中位。1本描きの弧状沈線と縦位RL。周縁は打ち欠き整形	称名寺
95-円 165図円11 PL74	土製円盤 表採	①粗 白色粒・石英 ②良好 ③暗褐色	3.9 × 3.8 × 1.2。体部中位。2条の沈線と斜位沈線。周縁は研磨整形	曾利系
95-円 165図円12 PL74	土製円盤 S-21	①粗 白色粒 ②良好 ③灰褐色	3.6 × 3.0 × 0.7。体部中位か。無文で丁寧な撫で調整を施す。周縁は打ち欠き整形	堀之内1?
95-円 165図円13 PL74	土製円盤 N-23	①細 白色粒・角安 ②良好 ③鈍い橙色	3.4 × 3.3 × 0.9。体部中位か。無文で器面は磨滅する。周縁は研磨整形	時期不明
95-円 165図円14 PL74	土製円盤 R-20	①細 白色粒・角安少 ②良好 ③黒褐色	4.5 × 3.9 × 0.7。体部中位。弧状沈線とLR縄文。周縁は打ち欠き整形後上下を研磨整形	堀之内1
5-G 179図	P-3	①緻密 ②良好 ③灰オリーブ色	肥前陶器具器手碗か。	近世



第3章 検出された遺構と遺物

第6表 石器計測表

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出 土 位 置 等
13図S1 PL41 石鏃	長: (1.5) 幅: (1.2)	厚: 0.3 重: (0.3) g	黒曜石 完形	埋土	
13図S2 PL41 石鏃	長: 1.6 幅: 1.3	厚: 0.35 重: 0.4g	黒曜石 完形	埋土	
13図S3 PL41 石鏃	長: 2.6 幅: 1.5	厚: 0.4 重: 1.1g	チャート 完形	埋土	
13図S4 PL41 石鏃	長: 2.3 幅: 1.5	厚: 0.4 重: 1.1g	黒曜石 完形	埋土	
14図S5 PL41 石鏃	長: (2.9) 幅: (1.3)	厚: 0.75 重: (2.0) g	チャート 脚部欠損	埋土	
14図S6 PL41 石鏃	長: (1.7) 幅: (1.9)	厚: 0.4 重: (0.5) g	流紋岩 脚部欠損	石鏃か 埋土	
14図S7 PL41 石鏃	長: (2.1) 幅: (1.5)	厚: 0.5 重: (1.5) g	黒曜石 脚部欠損	埋土	
14図S8 PL41 使用痕剥片	長: 1.55 幅: 2.9	厚: 0.4 重: 1.3g	黒色頁岩 完形	埋土	
14図S9 PL41 打製石斧	長: 12.1 幅: 4.7	厚: 1.3 重: 80g	粗粒安山岩 完形	床直上	
14図S10 PL41 打製石斧	長: (6.95) 幅: (4.5)	厚: 1.5 重: (60) g	細粒安山岩 下半欠損	炉	
14図S11 PL41 磨石類	長: 4.2 幅: 4.2	厚: 3.4 重: 80g	粗粒安山岩 完形	25ピット	
14図S12 PL41 磨石類、凹石	長: 12.4 幅: 8.1	厚: 3.6 重: 860g	粗粒安山岩 完形	床直上	
14図S13 PL41 磨石類	長: 10.9 幅: 8.0	厚: 5.2 重: 970g	粗粒安山岩 完形	埋土	
14図S14 PL41 石皿	長: 11.8 幅: 9.7	厚: 7.1 重: 930g	多孔質安山岩 破片	床直上	
5-58-9 石鏃未製品	長: (1.7) 幅: (0.8)	厚: 0.5 重: (0.3) g	黒曜石 完形	PL41 埋土	
26図S1 PL44 石鏃	長: 1.9 幅: (1.1)	厚: 0.7 重: (1.1) g	黒曜石 脚部欠損	埋土	
26図S2 PL44 石鏃	長: (2.1) 幅: 1.9	厚: 0.4 重: (1.3) g	チャート 先端部欠損	埋土	
26図S3 PL44 石鏃	長: 2.15 幅: 1.8	厚: 0.3 重: 0.9g	黒曜石 先端部欠損	埋土	
26図S4 PL44 使用痕剥片	長: 3.9 幅: 2.4	厚: 0.9 重: 7.0g	流紋岩 完形	対ピット	
26図S5 PL44 使用痕剥片	長: 5.2 幅: 3.3	厚: 0.9 重: 16.7g	流紋岩 完形	埋土	
26図S6 PL44 使用痕剥片	長: 4.3 幅: 7.25	厚: 0.85 重: 30g	頁岩 完形	炉内	
26図S7 PL44 使用痕剥片	長: 4.2 幅: 2.3	厚: 1.0 重: 8.2g	流紋岩 完形	埋土	
26図S8 PL44 加工痕剥片	長: 7.8 幅: 10.9	厚: 1.8 重: 120g	黒色頁岩 完形	埋土下位	
26図S9 PL44 素材剥片	長: 4.0 幅: 2.1	厚: 1.3 重: 8.5g	黒曜石 完形	埋土	
26図S10 PL44 磨製石斧	長: (3.7) 幅: (3.2)	厚: 1.8 重: (26.3) g	蛇紋岩 胴部のみ	埋土	
26図S11 PL44 磨製石斧	長: (6.0) 幅: (3.4)	厚: 1.6 重: (60) g	輝緑岩 刀部欠損	埋土	
26図S12 PL44 磨石か	長: (5.1) 幅: (4.4)	厚: 2 重: (90) g	粗粒安山岩 胴部のみ	磨製石斧状 埋土	

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出 土 位 置 等
26図S13 PL44 石棒	長: (4.4) 幅: 8.5	厚: (5.1) 重: (260) g	点紋緑泥片岩	埋土	
26図S14 PL44 光沢石	長: 1.4 幅: 1.0	厚: 0.6 重: 1.1g	チャート	埋土	
27図S15 PL44 磨石類、凹石	長: 13.0 幅: 9.3	厚: 5.7 重: 840g	粗粒安山岩 破片	列石	
27図S16 PL44 磨石類、凹石	長: 11.8 幅: 8.8	厚: 4.5 重: 670g	粗粒安山岩 完形	張り出し部	
27図S17 PL44 磨石類、凹石	長: 10.7 幅: 11.7	厚: 4.2 重: 570g	粗粒安山岩 完形	張り出し部	
27図S18 PL44 磨石類	長: 14.8 幅: 7.6	厚: 3.4 重: 710g	粗粒安山岩 完形	床直	
27図S19 PL44 磨石類、台石	長: 16.8 幅: 15.0	厚: 6.3 重: 2.3kg	粗粒安山岩 完形	床直	
27図S20 PL44 磨石類	長: 12.6 幅: 6.2	厚: 3.3 重: 430g	粗粒安山岩 完形	埋土	
27図S21 PL44 磨石類	長: 9.5 幅: 4.1	厚: 3.9 重: 250g	粗粒安山岩 完形	埋土	
27図S22 PL44 多孔石	長: 23.9 幅: 16.95	厚: 10.7 重: 3.9kg	粗粒安山岩 完形	西壁外	
32図S1 PL45 石鏃	長: 1.9 幅: 1.0	厚: 0.3 重: 0.3g	黒曜石 完形	埋土	
32図S2 PL45 使用痕剥片	長: 2.4 幅: 4.1	厚: 0.9 重: 6.3g	流紋岩 完形	埋土	
32図S3 PL45 打製石斧	長: (7.7) 幅: 5.1	厚: 2.0 重: (100) g	黒色頁岩 下半欠損	埋土	
32図S4 PL45 素材剥片	長: 4.0 幅: 1.9	厚: 1.5 重: 11.8g	黒曜石 完形	埋土	
32図S5 PL45 磨石類	長: (6.5) 幅: 3.6	厚: 1.6 重: (70) g	粗粒安山岩 上半欠損	埋土	
32図S6 PL45 磨石類	長: 7.5 幅: 4.8	厚: 2.1 重: 130g	粗粒安山岩 完形	埋土	
32図S7 PL45 磨石類	長: 7.7 幅: 5.2	厚: 2.0 重: 130g	粗粒安山岩 完形	埋土	
32図S8 PL46 磨石類	長: 7.7 幅: 6.6	厚: 5.4 重: 300g	多孔質安山岩 完形	埋土	
32図S9 PL46 磨石類	長: 9.0 幅: 8.6	厚: 2.2 重: 300g	細粒安山岩 完形	床直	
32図S10 PL46 磨石類	長: 10.9 幅: 8.0	厚: 5.0 重: 670g	粗粒安山岩 完形	東壁外	
32図S11 PL46 磨石類、凹石	長: 15.0 幅: 6.9	厚: 4.5 重: 440g	細粒安山岩 完形	床直上	
32図S12 PL46 磨製石斧	長: (8.5) 幅: 4.6	厚: 2.15 重: (150) g	輝緑岩 頭部欠損	埋土	
32図S13 PL46 磨石類	長: 10.2 幅: 6.4	厚: 6.4 重: 630g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
33図S14 PL46 凹石	長: 11.2 幅: 12.0	厚: 6.7 重: 500g	多孔質安山岩 完形	埋土	
33図S15 PL46 磨石類	長: 20.7 幅: 13.1	厚: 5.9 重: 1.9kg	粗粒安山岩 完形	P3上	
33図S16 PL46 凹石	長: 14.6 幅: 10.7	厚: 5.6 重: 640g	多孔質安山岩 完形	埋土下位	
33図S17 PL46 垂飾	長: 11.6 幅: 7.1	厚: 3.9 重: 83.9g	軽石 ほぼ完形	埋土下位	

遺物観察表

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出 土 位 置 等
36図S1 PL46 石鏃	長: (1.8) 幅: (1.4)	厚: 0.3 重: (0.6) g	流紋岩 先端・脚部欠	埋土	
36図S2 PL46 加工痕剥片	長: 3.0 幅: (2.8)	厚: 0.6 重: (6.7) g	チャート 一部欠損	炉内	
36図S3 PL46 使用痕剥片	長: 3.3 幅: 3.9	厚: 0.6 重: 6.6g	流紋岩 完形	埋土	
37図S4 PL46 使用痕剥片	長: 3.05 幅: 1.55	厚: 0.6 重: 2.0g	黒曜石 完形	埋土	
37図S5 PL46 磨石類	長: 11.6 幅: 10.0	厚: 7.7 重: 1.3kg	粗粒安山岩 完形	18ピット	
41図S1 PL47 磨製石斧	長: 8.7 幅: 3.6	厚: 1.6 重: 90g	はんれい岩 完形	東壁際	
41図S2 PL47 打製石斧	長: 9.8 幅: 5.2	厚: 1.65 重: 100g	粗粒安山岩 完形	埋土	
45図S1 PL47 石鏃	長: 1.6 幅: (1.15)	厚: 0.3 重: (0.3) g	黒曜石 脚部欠損	埋土	
45図S2 PL47 搔器	長: (2.0) 幅: 2.4	厚: 0.5 重: (2.8) g	蛋白石 上半欠損	埋土	
45図S3 PL47 磨石類	長: 10.5 幅: 5.1	厚: 4.5 重: 450g	粗粒安山岩 完形	S7 埋土下位	
45図S4 PL47 磨石類、凹石	長: (10.7) 幅: 6.4	厚: 3.6 重: (340) g	粗粒安山岩 上下端欠損	S15 埋土下位	
45図S5 PL47 石皿	長: (18.9) 幅: (9.0)	厚: (5.5) 重: (270) g	多孔質安山岩 破片	埋土下位	
45図S6 PL47 磨石類	長: 12.2 幅: 10.0	厚: 7.5 重: 1.3kg	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
47図S1 PL47 磨石類	長: 12.3 幅: 7.0	厚: 3.3 重: 410g	粗粒安山岩 完形	床直	
47図S2 PL47 磨石類	長: 10.2 幅: 7.7	厚: 3.7 重: 400g	粗粒安山岩 完形	床直上	
52図S1 PL48 石鏃	長: 2.9 幅: 1.6	厚: 0.4 重: 0.9g	黒曜石 脚部欠損	埋土	
52図S2 PL48 石鏃	長: 2.4 幅: 1.5	厚: 0.3 重: 0.9g	黒曜石 脚部欠損	埋土	
52図S3 PL48 石鏃	長: 2.7 幅: 0.9	厚: 0.6 重: 1.3g	黒曜石 完形	埋土	
53図S4 PL48 加工痕剥片	長: 1.6 幅: 2.5	厚: 0.5 重: 1.0g	黒曜石 完形	埋土	
53図S5 PL48 石鏃	長: 2.75 幅: 1.95	厚: 0.95 重: 4.8g	黒曜石 完形	埋土	
53図S6 PL48 打製石斧	長: 10.3 幅: 4.9	厚: 1.5 重: 100g	細粒安山岩 完形	埋土下位	
53図S7 PL48 打製石斧	長: (6.5) 幅: 5.3	厚: 1.7 重: (90) g	細粒安山岩 下半欠損	埋土	
53図S8 PL48 打製石斧	長: 7.3 幅: 4.1	厚: 1.1 重: 40g	細粒安山岩 下半欠損	埋土下位	
53図S9 PL49 垂飾	長: 5.5 幅: 4.1	厚: 1.6 重: 14g	軽石 完形	S4 埋土	
53図S10 PL49 磨石類、凹石	長: 10.7 幅: 7.0	厚: 3.8 重: 440g	粗粒安山岩 完形	床直	
53図S11 PL49 石皿	長: (25.7) 幅: (19.3)	厚: 8.95 重: (4.3) kg	点紋緑泥片岩 下半欠損	南壁外	
53図S12 PL49 多孔石	長: 22.0 幅: 18.9	厚: 17.5 重: 6.8kg	粗粒安山岩 完形	床直上	
59図S1 PL51 石鏃	長: 1.8 幅: 1.3	厚: 0.2 重: 0.3g	黒曜石 完形	埋土	

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出 土 位 置 等
59図S2 PL51 石鏃	長: (1.15) 幅: 1.6	厚: - 重: (0.4) g	黒曜石 上半欠損	埋土	
59図S3 PL51 石鏃	長: (1.6) 幅: (1.05)	厚: 0.3 重: (0.3) g	黒曜石 下半欠損	埋土	
59図S4 PL51 石鏃	長: 2.6 幅: 0.9	厚: 0.4 重: 0.7g	黒曜石 約1/2欠損	埋土	
59図S5 PL51 石鏃	長: 2.4 幅: 2.1	厚: 0.55 重: 2.2g	黒曜石 完形	埋土	
59図S6 PL51 石鏃	長: 1.75 幅: 0.9	厚: 0.4 重: 0.5g	黒曜石 完形	埋土	
59図S7 PL51 石鏃未製品か	長: 1.4 幅: 1.1	厚: 0.45 重: 0.6g	黒曜石 完形	埋土	
59図S8 PL51 石鏃	長: (1.7) 幅: (1.4)	厚: 0.25 重: (0.4) g	黒曜石 先端・脚部欠	埋土	
59図S9 PL51 石鏃	長: 1.7 幅: 0.65	厚: - 重: 0.3g	黒曜石 完形	埋土	
59図S10 PL51 打製石斧	長: 11.9 幅: 4.1	厚: 1.3 重: 80g	黒色頁岩 完形	床直上	
59図S11 PL51 打製石斧	長: 10.1 幅: 4.9	厚: 1.8 重: 110g	細粒安山岩 完形	埋土下位	
59図S12 PL51 打製石斧	長: (7.3) 幅: 4.6	厚: 1.8 重: (80) g	細粒安山岩 上半欠損	埋土	
59図S13 PL51 打製石斧	長: (9.7) 幅: 6.3	厚: 1.4 重: (80) g	粗粒安山岩 頭部欠損	床直上	
59図S14 PL51 打製石斧	長: (9.3) 幅: 4.3	厚: 2.1 重: (120) g	細粒安山岩 刃部欠損	炉内	
59図S15 PL51 打製石斧	長: (8.3) 幅: 5.3	厚: 2.2 重: (120) g	細粒安山岩 下半欠損	埋土	
60図S16 PL51 磨石類	長: 6.0 幅: 5.4	厚: 4.4 重: 160g	粗粒安山岩 完形	埋土	
60図S17 PL51 磨石類	長: 6.6 幅: 5.9	厚: 5.3 重: 290g	粗粒安山岩 完形	埋土	
60図S18 PL51 磨石類	長: 8.2 幅: 4.6	厚: 4.4 重: 260g	粗粒安山岩 完形	埋土	
60図S19 PL51 磨石類	長: 7.0 幅: 5.7	厚: 3.4 重: 200g	粗粒安山岩 完形	埋土	
60図S20 PL51 磨石類	長: 10.9 幅: 7.5	厚: 3.9 重: 500g	粗粒安山岩 完形	埋土	
60図S21 PL51 磨石類	長: 8.2 幅: 6.9	厚: 6.6 重: 540g	花崗岩 完形	床直	
60図S22 PL51 磨石類、凹石	長: 11.0 幅: 5.4	厚: 4.8 重: 430g	粗粒安山岩 完形	埋土	
60図S23 PL51 磨石類	長: 21.3 幅: 13.4	厚: 10.1 重: 3.7g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
60図S24 PL51 磨石類	長: 14.9 幅: 7.2	厚: 4.6 重: 750g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
60図S25 PL51 垂飾	長: (6.1) 幅: 4.6	厚: 2.5 重: (22.5) g	軽石 上半欠損	再利用か 埋土	
60図S26 PL51 磨石類	長: 13.6 幅: 7.1	厚: 6.2 重: 800g	粗粒安山岩 完形	床直上	
60図S27 PL51 磨石類	長: 15.4 幅: 13.2	厚: 12.05 重: 3.5g	花崗岩 完形	床直上	
62図S1 PL51 石鏃	長: (2.4) 幅: (1.6)	厚: 0.5 重: (1.5) g	黒色安山岩 先端部欠損	埋土	
62図S2 PL51 石鏃	長: 2.7 幅: 1.3	厚: 0.85 重: 1.9g	黒曜石 完形	埋土	

第3章 検出された遺構と遺物

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出 土 位 置 等	
62図S3 PL51 打製石斧	長： 幅：	10.9 5.7	厚： 重：	1.6 120g	細粒安山岩 完形	埋土
68図S1 PL53 石鏃	長： 幅：	1.8 1.5	厚： 重：	0.35 0.8g	黒曜石 完形	埋土
68図S2 PL53 石鏃	長： 幅：	(1.4) 1.4	厚： 重：	0.3 (0.6) g	黒曜石 先端部欠損	埋土
68図S3 PL53 石鏃	長： 幅：	2.0 1.85	厚： 重：	0.5 1.6g	黒曜石 完形	埋土
68図S4 PL53 加工痕剥片	長： 幅：	2.6 2.05	厚： 重：	0.95 4.1g	黒曜石 完形	埋土
68図S5 PL53 石鏃未製品	長： 幅：	2.0 1.8	厚： 重：	0.6 2.0g	黒曜石 完形	埋土
68図S6 PL53 石鏃	長： 幅：	(1.35) 1.7	厚： 重：	0.3 (0.6) g	黒曜石 上半欠損	埋土
68図S7 PL53 打製石斧	長： 幅：	11.2 5.1	厚： 重：	1.7 120g	細粒安山岩 完形	埋土
68図S8 PL53 打製石斧	長： 幅：	(5.7) 5.1	厚： 重：	1.4 (60) g	細粒安山岩 上半欠損	埋土
69図S9 PL53 使用痕剥片	長： 幅：	6.3 6.4	厚： 重：	1.9 70g	黒色安山岩 完形	埋土
69図S10 PL53 加工痕剥片	長： 幅：	10.5 4.0	厚： 重：	0.9 40g	黒色安山岩 完形	埋土
69図S11 PL53 使用痕剥片	長： 幅：	5.9 1.9	厚： 重：	0.8 13g	細粒安山岩 完形	埋土
69図S12 PL53 磨石類、凹石	長： 幅：	9.9 7.8	厚： 重：	5.8 480g	粗粒安山岩 完形	埋土
69図S13 PL53 石皿	長： 幅：	(15.0) (13.1)	厚： 重：	7.3 (1.6) kg	粗粒安山岩 破片	埋土
69図S14 PL53 磨石類、台石	長： 幅：	25.4 10.0	厚： 重：	5.9 2.6kg	粗粒安山岩 完形	埋土
69図S15 PL53 磨石類	長： 幅：	9.4 7.9	厚： 重：	5.2 550g	粗粒安山岩 完形	埋土
74図S1 PL55 石鏃	長： 幅：	2.45 1.7	厚： 重：	0.35 0.6g	黒曜石 完形	埋土
74図S2 PL55 石鏃	長： 幅：	1.6 1.3	厚： 重：	0.35 0.6g	黒曜石 完形	埋土
74図S3 PL55 石鏃	長： 幅：	2.2 1.65	厚： 重：	0.3 0.7g	黒色頁岩 完形	埋土
74図S4 PL55 石鏃	長： 幅：	(1.4) 1.6	厚： 重：	0.3 (0.5) g	黒曜石 先端部欠損	埋土
74図S5 PL55 石鏃	長： 幅：	(1.8) (1.4)	厚： 重：	0.4 (0.8) g	黒曜石 上半・脚部欠損	埋土
74図S6 PL55 石鏃	長： 幅：	(1.2) 1.4	厚： 重：	0.3 (0.4) g	黒曜石 上半欠損	埋土
74図S7 PL55 加工痕剥片	長： 幅：	2.75 3.5	厚： 重：	1.15 5.7g	硬質頁岩 完形	埋土
74図S8 PL55 磨製石斧	長： 幅：	(9.4) 5.2	厚： 重：	2.6 (230) g	はんれい岩 頭部欠損	埋土
74図S9 PL55 打製石斧	長： 幅：	(11.8) 5.5	厚： 重：	2.9 (210) g	粗粒安山岩 頭部欠損	埋土
74図S10 PL55 打製石斧	長： 幅：	11.0 5.5	厚： 重：	2.1 120g	粗粒安山岩 完形	埋土
74図S11 PL55 打製石斧	長： 幅：	10.7 4.1	厚： 重：	1.3 60g	黒色安山岩 完形	埋土
74図S12 PL55 打製石斧	長： 幅：	9.2 4.9	厚： 重：	1.5 90g	粗粒安山岩 完形	埋土

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出 土 位 置 等	
74図S13 PL55 打製石斧	長： 幅：	8.1 4.3	厚： 重：	1.5 70g	黒色頁岩 完形	埋土
74図S14 PL55 打製石斧	長： 幅：	8.5 3.8	厚： 重：	0.9 40g	黒色頁岩 完形	埋土
75図S15 PL55 磨石類	長： 幅：	8.0 6.8	厚： 重：	5.7 440g	粗粒安山岩 完形	埋土下位
75図S16 PL55 磨石類	長： 幅：	14.7 (8.4)	厚： 重：	4.3 (970) g	粗粒安山岩 完形	埋土
75図S17 PL55 石冠	長： 幅：	8.15 5.1	厚： 重：	5.9 370g	粗粒安山岩 完形	埋土
78図S1 PL56 打製石斧	長： 幅：	16.5 6.5	厚： 重：	1.8 230g	粗粒安山岩 完形	埋土
82図S1 PL57 磨製石斧	長： 幅：	(8.0) 5.2	厚： 重：	3.3 (250) g	はんれい岩 上半欠損	埋土
82図S2 PL57 磨製石斧	長： 幅：	(7.2) 6.1	厚： 重：	1.9 (130) g	蛇紋岩 上半欠損	埋土
82図S3 PL57 打製石斧	長： 幅：	(8.1) 4.8	厚： 重：	2.2 (90) g	細粒安山岩 胴部のみ	床直上
82図S4 PL57 打製石斧	長： 幅：	9.9 3.5	厚： 重：	1.6 60g	黒色頁岩 完形	周溝
82図S5 PL57 打製石斧	長： 幅：	10.5 5.2	厚： 重：	2.0 120g	粗粒安山岩 完形	埋土
82図S6 PL57 打製石斧	長： 幅：	9.9 4.5	厚： 重：	1.7 90g	粗粒安山岩 完形	埋土
82図S7 PL57 打製石斧	長： 幅：	10.8 4.1	厚： 重：	0.8 44g	粗粒安山岩 完形	埋土
83図S8 PL57 搔器	長： 幅：	3.8 9.1	厚： 重：	1.0 40g	粗粒安山岩 完形	埋土
83図S9 PL57 搔器	長： 幅：	3.7 7.7	厚： 重：	0.8 23g	黒色頁岩 完形	埋土
83図S10 PL57 搔器	長： 幅：	4.5 3.0	厚： 重：	0.8 19g	黒色頁岩 完形	埋土
83図S11 PL57 軽石製品	長： 幅：	6.5 7.9	厚： 重：	4.7 75.2g	軽石 完形	埋土
83図S12 PL57 磨石類、凹石	長： 幅：	9.7 4.5	厚： 重：	4.0 190g	粗粒安山岩 完形	埋土
83図S13 PL57 磨石類	長： 幅：	12.0 6.3	厚： 重：	4.3 510g	粗粒安山岩 完形	埋土
83図S14 PL57 磨石類、凹石	長： 幅：	11.5 10.3	厚： 重：	5.8 940g	粗粒安山岩 完形	埋土
83図S15 PL57 磨石類、凹石	長： 幅：	11.7 7.0	厚： 重：	4.4 490g	粗粒安山岩 完形	床直
83図S16 PL57 磨石類、凹石	長： 幅：	19.3 8.6	厚： 重：	6.3 1.6kg	粗粒安山岩 完形	床直上
83図S17 PL57 磨石類、凹石	長： 幅：	14.7 8.3	厚： 重：	6.8 1.4kg	粗粒安山岩 完形	埋土下位
83図S18 PL57 石皿	長： 幅：	(19.2) (13.9)	厚： 重：	6.6 (1.5) kg	多孔質安山岩 破片	S5 床直上
87図S1 PL58 使用痕剥片	長： 幅：	2.6 4.1	厚： 重：	1.15 1.1g	チャート 完形	埋土
87図S2 PL58 加工痕剥片	長： 幅：	4.2 3.3	厚： 重：	1.7 13g	硬質頁岩 完形	埋土
87図S3 PL58 加工痕剥片	長： 幅：	4.8 8.8	厚： 重：	1.5 70g	黒色安山岩 完形	小溝内
87図S4 PL58 打製石斧	長： 幅：	7.5 7.0	厚： 重：	3.9 270g	粗粒安山岩 完形	床直上

遺物観察表

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出土位置等
87図S5 PL58 磨石類	長: 8.8 幅: 5.6	厚: 3.5 重: 200g	粗粒安山岩 完形	埋土	
87図S6 PL58 磨石類	長: (10.3) 幅: 5.6	厚: 4.2 重: (360) g	はんれい岩 端部欠損	炉内	
87図S7 PL58 磨石類	長: 8.2 幅: 2.3	厚: 2.0 重: 65g	粗粒安山岩 完形	床直	
87図S8 PL58 磨石類	長: 6.1 幅: 5.5	厚: 4.9 重: 200g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
87図S9 PL58 磨石類	長: 12.2 幅: 8.9	厚: 4.3 重: 690g	粗粒安山岩 完形	床直上	
87図S10 PL58 磨石類	長: 11.6 幅: 8.3	厚: 5.5 重: 810g	花崗岩 完形	埋土下位	
87図S11 PL58 磨石類	長: 8.5 幅: 6.2	厚: 5.2 重: 350g	粗粒安山岩 完形	床直	
88図S12 PL58 磨石類、凹石	長: 13.4 幅: 7.4	厚: 4.4 重: 610g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
88図S13 PL58 磨石類	長: 16.7 幅: 9.3	厚: 4.85 重: 1.2kg	粗粒安山岩 完形	床直	
88図S14 PL58 多孔石	長: 31.1 幅: 23.5	厚: 2.20 重: 14.2kg	粗粒安山岩 完形	床直上	
100図13炉S1 PL59 多孔石	長: 23.2 幅: 16.2	厚: 10.4 重: 4.9kg	粗粒安山岩 完形	S2 埋土	
100図8集S1 PL60 台石	長: 25.4 幅: (19.9)	厚: 6.4 重: (4.4) kg	粗粒安山岩 約2/3残存	埋土	
100図1集S1 PL60 磨石	長: 21.3 幅: 16.5	厚: 6.3 重: 3.9kg	花崗岩 完形	埋土	
114図628坑S1PL60 磨石類	長: 9.7 幅: 8.4	厚: 4.6 重: 580g	粗粒安山岩 完形	埋土	
114図628坑S2PL60 磨石類	長: 8.5 幅: 7.6	厚: 6.2 重: 540g	粗粒安山岩 完形	埋土	
114図679坑S1PL60 磨石類	長: (8.2) 幅: 4.4	厚: 2.8 重: (190) g	雲母石英片岩 完形	埋土	
114図678坑S1PL60 磨石類、凹石	長: 14.6 幅: 10.1	厚: 5.9 重: 1.1kg	粗粒安山岩 完形	埋土	
114図680坑S1PL60 垂飾か	長: (7.8) 幅: 5.6	厚: 2.9 重: (92.3) g	軽石 下半欠損	埋土	
114図712坑S1PL60 磨石類	長: 15.4 幅: 6.1	厚: 5.5 重: 930g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
114図713坑S1PL60 磨石類、砥石	長: (6.0) 幅: 9.0	厚: 1.6 重: (160) g	細粒砂岩 上半欠損	埋土	
115図721坑S1PL60 打製石斧	長: 13.0 幅: 4.7	厚: 1.7 重: 130g	黒色頁岩 完形	埋土	
116図731坑S1PL60 多孔石	長: 22.1 幅: 15.3	厚: 9.7 重: 2.5kg	多孔質安山岩 完形	埋土下位	
116図733坑S1PL60 加工痕剥片	長: 5.5 幅: 2.9	厚: 0.8 重: 11g	流紋岩 完形	埋土	
117図749坑S1PL61 磨石類、凹石	長: 8.8 幅: 7.5	厚: 4.7 重: 466g	粗粒安山岩 完形	埋土	
117図749坑S2PL61 多孔石	長: 11.7 幅: 11.0	厚: 6.7 重: 700g	多孔質安山岩 完形	埋土	
117図754坑S1PL61 磨石類	長: (14.1) 幅: (9.3)	厚: 5.7 重: (1.2) kg	粗粒安山岩 完形	底面	

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出土位置等
117図754坑S2PL61 磨石類	長: 7.6 幅: 4.9	厚: 4.5 重: 212g	粗粒安山岩 完形	埋土	
117図754坑S3PL61 磨石類	長: 10.6 幅: 8.7	厚: 4.7 重: 621g	粗粒安山岩 完形	土坑北	
117図754坑S4PL61 多孔石	長: 15.6 幅: 20.7	厚: 10.3 重: 4.4kg	粗粒安山岩 完形	土坑北	
118図762坑S1PL61 磨石類	長: 7.9 幅: 6.2	厚: 4.1 重: 292g	粗粒安山岩 完形	底面	
118図764坑S1PL61 磨石類、凹石	長: 15.5 幅: 12.3	厚: 6.1 重: 1.4kg	粗粒安山岩 一部欠損	埋土下位	
119図765坑S1PL61 石皿	長: (37.8) 幅: 23.4	厚: 29.0 重: (4.5) kg	粗粒安山岩 下端部欠損	埋土下位	
119図765坑S2PL61 磨石類	長: 9.9 幅: 9.5	厚: 5.5 重: 710g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
119図765坑S3PL61 磨石類	長: 11.4 幅: 6.2	厚: 3.6 重: 370g	花崗岩 完形	埋土下位	
119図765坑S4PL62 使用痕剥片	長: 3.9 幅: 2.85	厚: 0.8 重: 7g	流紋岩 完形	埋土	
121図780坑S1PL62 磨石、凹石	長: 10.1 幅: 7.3	厚: 5.4 重: 470g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
121図782坑S1PL63 打製石斧	長: 7.9 幅: 4.4	厚: 1.9 重: 80g	細粒安山岩 完形	埋土	
121図782坑S2PL63 多孔石	長: 16.9 幅: 13.3	厚: 12.7 重: 3.1kg	多孔質安山岩 完形	埋土下位	
122図786坑S1PL63 磨石類、凹石	長: (9.8) 幅: 8.8	厚: 5.6 重: (580) g	粗粒安山岩 下半欠損	埋土	
131図30坑S1 PL64 打製石斧	長: 9.1 幅: 4.1	厚: 1.5 重: 60g	黒色頁岩 完形	埋土	
131図30坑S2 PL64 石鏃	長: (2.5) 幅: 1.5	厚: 0.3 重: (0.6) g	流紋岩 脚部欠損	埋土	
131図34坑S1 PL64 打製石斧	長: 11.5 幅: 8.1	厚: 1.8 重: 200g	黒色頁岩 完形	埋土	
132図44坑S1 PL65 磨石類	長: 20.6 幅: 7.5	厚: 6.3 重: 1.3kg	粗粒安山岩 完形	底面	
134図56坑S1 PL65 石皿	長: 34.2 幅: 22.9	厚: 9.8 重: 9.5kg	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
135図65坑S1 PL66 磨石類	長: 11.5 幅: 8.1	厚: 3.6 重: 550g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
95-122土-S1 磨石類、凹石	長: 10.7 幅: 8.2	厚: 5.0 重: 640g	粗粒安山岩 完形	埋土	
95-124土-S1 磨石類	長: 10.0 幅: 8.15	厚: 4.65 重: 510g	粗粒安山岩 完形	埋土下位	
137図119P S1PL66 打製石斧	長: 13.7 幅: 5.1	厚: 1.0 重: 80g	粗粒安山岩 完形	埋土	
137図119P S2PL66 石鏃	長: 2.2 幅: 1.6	厚: 0.25 重: 0.7g	細粒安山岩 脚部欠損	埋土	
166図S1 PL75 石鏃	長: 1.3 幅: 1.1	厚: 0.2 重: 0.2g	黒曜石 完形	R-1	
166図S2 PL75 石鏃	長: 1.3 幅: 1.2	厚: 0.25 重: 0.3g	黒曜石 完形	O-3	
166図S3 PL75 石鏃	長: 1.5 幅: 1.2	厚: 0.4 重: 0.7g	黒曜石 完形	Q-2	
166図S4 PL75 石鏃	長: 1.7 幅: (1.4)	厚: 0.3 重: (0.5) g	黒曜石 脚部欠損	R-1	

第3章 検出された遺構と遺物

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm		石材 残存	備考 出土位置等
166図S5 PL75 石鏃	長: 2.0 幅: (1.4)	厚: 0.4 重: (0.8) g	黒曜石 完形	P-2
166図S6 PL75 石鏃	長: 2.2 幅: 1.5	厚: 0.3 重: 0.6g	流紋岩 完形	O-2
166図S7 PL75 石鏃	長: 2.3 幅: 1.4	厚: 0.35 重: 1.0g	チャート 完形	Q-1
166図S8 PL75 石鏃	長: 2.2 幅: 1.1	厚: 0.3 重: 0.7g	チャート 完形	O-3
166図S9 PL75 石鏃	長: 2.25 幅: 1.8	厚: 0.6 重: 1.9g	流紋岩 完形	R-2
166図S10 PL75 石鏃	長: 3.1 幅: (2.0)	厚: 0.4 重: (1.7) g	黒曜石 脚部欠損	S-1
166図S11 PL75 石鏃	長: (1.3) 幅: (1.1)	厚: 0.3 重: (0.5) g	黒曜石 完形	R-1
166図S12 PL75 石鏃	長: 2.9 幅: 0.9	厚: 0.6 重: 1.4g	チャート 完形	O-3
166図S13 PL75 石鏃	長: 3.4 幅: 1.7	厚: 1.0 重: 4.2g	流紋岩 完形	P-3
166図S14 PL75 石核	長: (3.9) 幅: 5.5	厚: 3.6 重: (90) g	チャート 完形	S-1
166図S15 PL75 石核	長: 2.1 幅: 3.8	厚: 2.4 重: 20g	チャート Q-2完形	Q-4
166図S16 PL75 石核	長: 8.1 幅: 11.3	厚: 5.7 重: 480g	細粒安山岩 完形	P-1
166図S17 PL75 石鏃未製品	長: 2.3 幅: 3.6	厚: 0.7 重: 6g	黒色頁岩 完形	表採
166図S18 PL75 使用痕剥片	長: 4.3 幅: 3.1	厚: 0.8 重: 9g	流紋岩 完形	表採
166図S19 PL75 石鏃	長: 5.0 幅: 3.1	厚: 1.1 重: 10g	流紋岩 完形	P-4
166図S20 PL75 加工痕剥片	長: 3.5 幅: 2.9	厚: 0.6 重: 5g	流紋岩 完形	Q-1
166図S21 PL75 使用痕剥片	長: 4.8 幅: 3.7	厚: 0.7 重: 10g	黒色安山岩 完形	表採
166図S22 PL75 石鏃か	長: 2.8 幅: 4.5	厚: 1.1 重: 18g	流紋岩 先端部欠損	R-3
166図S23 PL75 使用痕剥片	長: 4.0 幅: 5.1	厚: 0.8 重: 13g	流紋岩 完形	表採
167図S24 PL75 打製石斧	長: 10.6 幅: 4.4	厚: 1.3 重: 70g	黒色頁岩 完形	R-2
167図S25 PL75 打製石斧	長: 10.7 幅: 5.2	厚: 1.7 重: 110g	黒色頁岩 完形	
167図S26 PL75 打製石斧	長: 11.9 幅: 6.6	厚: 1.7 重: 120g	粗粒安山岩 完形	O-1
167図S27 PL75 打製石斧	長: 9.7 幅: 4.9	厚: 1.5 重: 80g	細粒安山岩 完形	表採
167図S28 PL75 打製石斧	長: 11.2 幅: 5.1	厚: 1.9 重: 120g	粗粒安山岩 完形	表採
167図S29 PL75 打製石斧	長: 10.5 幅: 7.3	厚: 1.2 重: 180g	黒色頁岩 完形	S-1
167図S30 PL75 磨製石斧	長: (4.1) 幅: 2.9	厚: 1.0 重: (16) g	頁岩 上半欠損	表採
167図S31 PL75 磨製石斧	長: (3.3) 幅: 3.3	厚: 0.8 重: (21) g	蛇紋岩 上半欠損	O-1
167図S32 PL75 磨製石斧	長: (5.0) 幅: 4.2	厚: 2.8 重: (102) g	はんれい岩 下半欠損	O-1

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm		石材 残存	備考 出土位置等
167図S33 PL75 磨製石斧	長: (8.7) 幅: 6.2	厚: 2.9 重: (170) g	はんれい岩? 下半欠損	N-4S2
167図S34 PL75 磨製石斧	長: (8.7) 幅: 6.2	厚: 3.2 重: (320) g	蛇紋岩 胴部残存	表採
167図S35 PL75 石鏃	長: 5.2 幅: 4.3	厚: 1.7 重: 57g	頁岩 完形	Q-2
167図S36 PL75 磨石類	長: 5.4 幅: 3.5	厚: 1.1 重: 40g	点紋緑泥片岩 完形	S-1
167図S37 PL75 磨石類	長: 8.2 幅: 6.8	厚: 2.0 重: 170g	粗粒安山岩 完形	R-1
167図S38 PL75 磨石類	長: 5.8 幅: 4.9	厚: 4.9 重: 210g	粗粒安山岩 完形	表採
167図S39 PL75 磨石類	長: 7.6 幅: 5.7	厚: 3.7 重: 230g	粗粒安山岩 完形	54住
167図S40 PL75 磨石類、凹石	長: 15.0 幅: 6.6	厚: 5.8 重: 800g	粗粒安山岩 完形	R-2
167図S41 PL75 磨石類	長: 14.2 幅: 6.7	厚: 6.6 重: 880g	粗粒安山岩 完形	Q-4
168図S42 PL75 磨石類、凹石	長: 9.7 幅: 8.3	厚: 4.9 重: 600g	粗粒安山岩 完形	表採
168図S43 PL75 磨石類	長: 11.9 幅: 9.8	厚: 6.8 重: 1.2kg	粗粒安山岩 完形	R-1
168図S44 PL75 磨石類	長: 10.6 幅: 9.8	厚: 8.1 重: 1.1kg	粗粒安山岩 完形	S-1.2
168図S45 PL75 台石	長: 19.7 幅: 15.4	厚: 5.5 重: 2.5kg	粗粒安山岩 完形	R-4
168図S46 PL75 多孔石	長: 16.6 幅: 12.1	厚: 8.8 重: 2.4kg	粗粒安山岩 完形	表採
168図S47 PL75 多孔石	長: 22.3 幅: 23.1	厚: 16.0 重: 6.7kg	多孔質安山岩 完形	P-1S4
168図S48 PL75 石皿	長: (5.0) 幅: (6.4)	厚: 4.2 重: (90) g	多孔質安山岩 完形	P-2S5
169図S1 PL76 石鏃	長: 1.2 幅: 0.9	厚: 0.2 重: 0.2g	黒曜石 完形	T-20
169図S2 PL76 石鏃	長: 1.1 幅: 1.0	厚: 0.2 重: 0.1g	黒曜石 完形	S-22
169図S3 PL76 石鏃	長: 1.5 幅: 1.0	厚: 0.3 重: 0.2g	黒曜石 完形	Q-21
169図S4 PL76 石鏃	長: 1.5 幅: 1.1	厚: 0.3 重: 0.4g	黒曜石 完形	S-21
169図S5 PL76 石鏃	長: 1.6 幅: 1.4	厚: 0.35 重: 0.5g	黒曜石 完形	S-22
169図S6 PL76 石鏃	長: 1.3 幅: 1.1	厚: 0.35 重: 0.4g	黒曜石 完形	N-20
169図S7 PL76 石鏃	長: 1.6 幅: 1.1	厚: 0.3 重: 0.4g	流紋岩 完形	Q-22
169図S8 PL76 石鏃	長: 2.4 幅: 1.45	厚: 0.25 重: 0.8g	黒曜石 完形	S-21
169図S9 PL76 石鏃	長: 2.3 幅: 1.2	厚: 0.25 重: 0.6g	黒曜石 完形	R-23
169図S10 PL76 石鏃	長: 2.2 幅: 1.4	厚: 0.3 重: 0.6g	黒曜石 完形	S-20
169図S11 PL76 石鏃	長: 2.1 幅: 1.1	厚: 0.25 重: 0.4g	完形 チャート	P-22
169図S12 PL76 石鏃	長: 2.3 幅: 1.6	厚: 0.4 重: 0.9g	完形 チャート	R-24

遺物観察表

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出 土 位 置 等
169図S13 PL76 石鏃	長: 2.0 幅: 1.2	厚: 0.45 重: 0.7g	完形 チャート	O-25	
169図S14 PL76 石鏃	長: 1.6 幅: 1.6	厚: 0.35 重: 0.6g	完形 黒色安山岩	N-20	
169図S15 PL76 石鏃	長: 2.7 幅: 1.4	厚: 0.4 重: 1.0g	チャート 完形	R-20	
169図S16 PL76 石鏃	長: (2.5) 幅: 2.0	厚: 0.65 重: (2.7) g	流紋岩 先端部欠損	R-21	
169図S17 PL76 石鏃	長: 2.65 幅: 1.1	厚: 0.6 重: 1.4g	チャート 完形	O-24	
169図S18 PL76 石鏃	長: 3.05 幅: 1.1	厚: 0.7 重: 1.8g	黒曜石 完形	N-23	
169図S19 PL76 石鏃	長: 2.8 幅: 1.15	厚: 0.9 重: 2.1g	黒曜石 完形	T-20	
169図S20 PL76 石鏃	長: (1.45) 幅: 0.6	厚: 0.35 重: (0.2) g	黒曜石 基部欠損	Q-19	
170図S21 PL76 石鏃	長: 2.2 幅: 1.8	厚: 0.6 重: 2.0g	黒曜石 完形	R-21	
170図S22 PL76 搔器	長: 1.6 幅: 2.5	厚: 0.55 重: 2.7g	黒曜石 完形	S-22	
170図S23 PL76 加工痕剥片	長: 2.8 幅: 1.5	厚: 0.55 重: 1.7g	黒曜石 完形	O-25	
170図S24 PL76 搔器	長: 1.1 幅: 2.3	厚: 0.7 重: 1.8g	黒曜石 完形	P-22	
170図S25 PL76 使用痕剥片	長: 2.8 幅: 1.7	厚: 0.4 重: 1.6g	黒曜石 完形	M-19	
170図S26 PL76 石匙未製品	長: 5.5 幅: 3.3	厚: 1.3 重: 16g	流紋岩 完形	R-23	
170図S27 PL76 搔器	長: 5.9 幅: 3.3	厚: 0.9 重: 19g	蛋白石 完形	P-25	
170図S28 PL76 打製石斧	長: 11.7 幅: 5.4	厚: 2.1 重: 160g	細粒安山岩 完形	M-25	
170図S29 PL76 打製石斧	長: 10.9 幅: 4.7	厚: 1.5 重: 90g	粗粒安山岩 完形	O-22	
170図S30 PL76 打製石斧	長: 19.1 幅: 5.6	厚: 2.5 重: 240g	粗粒安山岩 完形	R-23	
170図S31 PL76 打製石斧	長: 12.8 幅: 5.6	厚: 2.7 重: 150g	粗粒安山岩 完形	O-24	
170図S32 PL76 打製石斧	長: 10.7 幅: 5.0	厚: 2.1 重: 120g	細粒安山岩 完形	O-20	
171図S33 PL76 打製石斧	長: 10.9 幅: 6.0	厚: 2.1 重: 180g	粗粒安山岩 完形	M-25	
171図S34 PL76 打製石斧	長: 9.8 幅: 2.4	厚: 2.2 重: 120g	細粒安山岩 完形	N-22	
171図S35 PL76 打製石斧	長: 13.0 幅: 4.5	厚: 1.7 重: 130g	灰色安山岩 完形	R-23	
171図S36 PL76 打製石斧	長: 12.2 幅: 5.0	厚: 1.9 重: 140g	粗粒安山岩 頭部欠損	N-20	
171図S37 PL76 打製石斧	長: (13.6) 幅: 5.9	厚: 2.3 重: (200) g	粗粒安山岩 頭部欠損	M-25S2	
171図S38 PL76 打製石斧	長: 10.0 幅: 5.3	厚: 1.7 重: 110g	黒色頁岩	R-24	
171図S39 PL76 打製石斧	長: 7.7 幅: 3.4	厚: 1.1 重: 40g	黒色頁岩 完形	P-19	
171図S40 PL76 打製石斧	長: 9.7 幅: 5.3	厚: 1.3 重: 80g	細粒安山岩 完形	P-23	

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出 土 位 置 等
171図S41 PL76 使用痕剥片	長: 5.5 幅: 5.3	厚: 0.9 重: 40g	黒色頁岩 完形	P-23	
171図S42 PL76 使用痕剥片	長: 4.7 幅: 7.5	厚: 1.7 重: 40g	硬質頁岩 完形	R-22	
171図S43 PL76 加工痕剥片	長: 4.3 幅: 11.6	厚: 3.9 重: 50g	頁岩 完形	T-20	
171図S44 打製石斧	長: 9.3 幅: 5.2	厚: 2.0 重: 115g	粗粒安山岩 上半欠損	S-21	
172図S45 PL76 素材剥片	長: 5.7 幅: 4.3	厚: 2.2 重: 46.5g	黒曜石 完形	M-19	
172図S46 PL76 剥片	長: 4.4 幅: 4.3	厚: 1.0 重: 17.7g	黒曜石 完形	P-22	
172図S47 PL76 磨製石斧	長: 3.3 幅: 1.1	厚: 0.3 重: 2.5g	蛇紋岩 完形	R-21	
172図S48 PL76 磨製石斧	長: (6.8) 幅: 4.5	厚: 2.9 重: (150) g	蛇紋岩 完形	N-24	
172図S49 PL76 磨製石斧	長: (6.7) 幅: 3.8	厚: 2.5 重: (130) g	はんれい岩 完形	M-24	
172図S50 PL76 磨石類	長: (7.0) 幅: 4.3	厚: 1.4 重: (60) g	砂岩 下半欠損	S-23	
172図S51 PL76 石棒	長: (6.2) 幅: 3.8	厚: 3.2 重: (120) g	点紋緑泥片岩 頭部のみ残存	O-24	
173図S52 PL76 軽石製品	長: (5.2) 幅: (2.9)	厚: 1.8 重: (10.1) g	軽石 完形	N-20	
173図S53 PL76 軽石製品	長: (4.9) 幅: (3.2)	厚: 2.6 重: (18.3) g	白色凝灰岩 完形	P-19	
173図S54 PL76 軽石製品	長: (6.4) 幅: 5.1	厚: 3.8 重: (22.5) g	軽石 完形	Q-23	
173図S55 PL77 磨石類、凹石	長: 7.8 幅: 7.0	厚: 4.2 重: 280g	粗粒安山岩 完形	N-20	
173図S56 PL77 磨石類	長: 9.2 幅: 7.6	厚: 5.3 重: 520g	粗粒安山岩 完形	R-23	
173図S57 PL77 磨石類、凹石	長: 10.3 幅: 8.8	厚: 5.7 重: 630g	粗粒安山岩 完形	T-20	
173図S58 PL77 磨石類、凹石	長: (10.4) 幅: 8.6	厚: 4.2 重: (470) g	粗粒安山岩 一部欠損	N-24	
173図S59 PL77 凹石	長: 10.5 幅: 8.4	厚: 4.8 重: 500g	粗粒安山岩 完形	N-23	
173図S60 PL77 磨石類	長: 9.6 幅: 7.8	厚: 5.0 重: 520g	粗粒安山岩 完形	M-20	
174図S61 PL77 磨石類、凹石	長: 9.9 幅: 8.9	厚: 5.3 重: 450g	粗粒安山岩 一部欠損	P-25	
174図S62 PL77 磨石類、凹石	長: 10.8 幅: 6.5	厚: 3.8 重: 420g	粗粒安山岩 完形	T-20	
174図S63 PL77 磨石類	長: 9.4 幅: 7.2	厚: 3.0 重: 260g	粗粒安山岩 完形	N-23	
174図S64 PL77 磨石類	長: (9.2) 幅: 7.4	厚: 5.7 重: (500) g	多孔質安山岩 完形	P-24	
174図S65 PL77 磨石類	長: 9.3 幅: 9.2	厚: 4.8 重: 190g	粗粒安山岩 完形	O-22	
174図S66 PL77 磨石類	長: 7.0 幅: 6.1	厚: 2.5 重: 150g	細粒安山岩 完形	P-25	
174図S67 PL77 磨石類	長: 5.0 幅: 4.5	厚: 3.2 重: 100g	粗粒安山岩 完形	P-22	
174図S68 PL77 磨石類	長: 6.5 幅: 5.4	厚: 3.6 重: 180g	粗粒安山岩 完形	O-22	

第3章 検出された遺構と遺物

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石材 残存	備考 出土位置等
174図S69 PL77 磨石類、敲き石	長：13.2 幅：6.1	厚：4.5 重：620g	粗粒安山岩 完形	表採	
174図S70 PL77 磨石類	長：6.2 幅：5.6	厚：4.7 重：220g	流紋岩 完形	P-24	
174図S71 PL77 磨石類、敲き石	長：14.2 幅：5.6	厚：3.9 重：360g	粗粒安山岩 完形	R-23	
174図S72 PL77 磨石類、凹石	長：11.5 幅：6.9	厚：3.8 重：510g	流紋岩か 完形	O-21	
175図S73 PL77 磨石類、凹石	長：13.4 幅：6.2	厚：3.1 重：430g	粗粒安山岩 完形	R-21	
175図S74 PL77 磨石類、凹石	長：12.7 幅：6.9	厚：4.4 重：550g	粗粒安山岩 完形	N-25	
175図S75 PL77 磨石類、凹石	長：13.5 幅：10.4	厚：5.8 重：12kg	粗粒安山岩 完形	R-25	
175図S76 PL77 磨石	長：31.1 幅：22.3	厚：6.5 重：49kg	粗粒安山岩 完形	S-25	
175図S77 PL77 磨石	長：20.3 幅：20.8	厚：9.2 重：6.1kg	粗粒安山岩 完形	N-24	
176図S78 PL77 石皿	長：25.8 幅：19.7	厚：8.1 重：4.6kg	粗粒安山岩 完形	表採	
176図S79 PL77 台石	長：26.7 幅：17.1	厚：7.8 重：5.5kg	粗粒安山岩 完形	Q-25	
176図S80 PL77 多孔石	長：23.5 幅：16.9	厚：15.1 重：6.1kg	粗粒安山岩 完形	N-23	
176図S81 PL77 石皿	長：(11.4) 幅：(12.4)	厚：6.4 重：(810) g	粗粒安山岩 破片	表採	
176図S82 PL77 多孔石	長：26.2 幅：21.5	厚：10.3 重：6.3kg	粗粒安山岩 完形	O-25	
5-G-58 石皿	長：- 幅：-	厚：- 重：-	多孔質安山岩 65住と接合	O-3	
5-G-3 石鏃	長：(1.9) 幅：(1.9)	厚：0.6 重：(2.1) g	黒曜石 先端部欠損	PL78 O-2	
5-G-4 石鏃	長：3.0 幅：1.3	厚：0.7 重：1.9g	黒曜石 完形	PL78 P-4	
5-G-6 石鏃	長：(2.1) 幅：(1.4)	厚：0.3 重：(0.6) g	黒曜石 先端部・脚部欠損	PL78 R-3	
5-G-9 石鏃	長：(1.2) 幅：(1.0)	厚：0.2 重：(0.3) g	黒曜石 下半欠損	PL78 O-1	
5-G-10 石鏃	長：(1.0) 幅：(1.2)	厚：0.3 重：(0.3) g	黒曜石 先端・下半欠損	PL78 S-1	
5-G-12 石鏃	長：(1.2) 幅：(1.8)	厚：0.2 重：(0.4) g	黒曜石 破片	PL78 R-2	
5-G-14 石鏃	長：(1.2) 幅：(0.6)	厚：0.2 重：(0.1) g	黒曜石 破片	PL78 S-2	
5-G-17 石鏃	長：(1.7) 幅：1.7	厚：0.6 重：(1.6) g	蛋白石 先端部欠損	PL78 R-1	
5-G-19 石鏃	長：2.3 幅：2.0	厚：0.3 重：1.5g	黒色安山岩 完形	PL78 O-1	
5-G-20 石鏃	長：2.3 幅：1.5	厚：0.3 重：0.8	黒色安山岩 完形	PL78 Q-3	
5-G-21 石鏃	長：1.6 幅：1.4	厚：0.2 重：0.3g	黒色頁岩 完形	PL78 S-1	
5-G-24 石鏃	長：1.7 幅：1.3	厚：0.3 重：0.6g	チャート 完形	PL78 R-2	
5-G-25 石鏃	長：1.7 幅：1.5	厚：0.5 重：1.1g	流紋岩 完形	PL78 N-5	

図番号 器種	計測値()推定値 単位はcm			石材 残存	備考 出土位置等
5-G-26 石鏃	長：2.4 幅：1.2	厚：0.9 重：2.4g	流紋岩 脚部欠損	PL78 P-2	
5-G-27 石鏃	長：2.3 幅：1.4	厚：0.3 重：0.8g	黒色安山岩 脚部欠損	PL78 Q-2	
5-G-28 石鏃	長：1.7 幅：1.5	厚：0.5 重：1.1g	チャート 脚部欠損	PL78 R-1	
5-G-29 石鏃	長：1.5 幅：0.9	厚：0.3 重：0.3g	チャート 脚部欠損	PL78 O-2	
5-G-31 加工痕剥片	長：1.7 幅：1.3	厚：0.4 重：1.0g	チャート 完形	PL78 P-1	
5-G-32 使用痕剥片	長：(1.0) 幅：(1.6)	厚：0.3 重：(0.4) g	黒曜石 完形	PL78 R-2	
5-G-33 使用痕剥片	長：(1.5) 幅：(1.1)	厚：0.5 重：(0.7) g	黒曜石 完形	PL78 P-4	
5-G-34 加工痕剥片	長：(1.2) 幅：(0.9)	厚：0.2 重：(0.2) g	黒曜石 完形	PL78 S-1	
5-G-35 加工痕剥片	長：(1.2) 幅：(1.2)	厚：0.2 重：(0.2) g	黒曜石 完形	PL78 表採	
5-G-36 使用痕剥片	長：4.2 幅：3.3	厚：1.1 重：12.2g	流紋岩 完形	PL78 O-3	
5-G-37 光沢石	長：2.4 幅：1.3	厚：0.9 重：3.9g	チャート 完形	PL78 O-1	
95-G-24 石鏃	長：(1.6) 幅：1.6	厚：0.2 重：(0.5) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 O-22	
95-G-27 石鏃	長：1.7 幅：1.4	厚：0.3 重：0.9g	黒曜石 完形	PL78 P-25	
95-G-28 石鏃	長：1.9 幅：1.3	厚：0.4 重：0.7g	黒曜石 完形	PL78 P-24	
95-G-30 石鏃	長：2.1 幅：1.6	厚：0.3 重：0.5g	チャート 完形	PL78 N-20	
95-G-34 石鏃	長：1.6 幅：1.4	厚：0.2 重：0.4g	流紋岩 完形	PL78 P-23	
95-G-35 石鏃	長：2.4 幅：(1.1)	厚：0.3 重：(0.4) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 T-20	
95-G-36 石鏃	長：2.1 幅：1.1	厚：0.4 重：0.9g	チャート	PL78 S-21	
95-G-41 石鏃	長：1.5 幅：1.2	厚：0.3 重：0.5g	チャート 完形	PL78 N-20	
95-G-43 石鏃	長：1.7 幅：1.3	厚：0.4 重：0.5g	黒曜石 完形	PL78 Q-23	
95-G-44 石鏃	長：(1.8) 幅：1.7	厚：0.5 重：(1.2) g	黒曜石 先端部欠損	PL78 P-24	
95-G-45 石鏃	長：(1.6) 幅：(1.6)	厚：0.4 重：(0.9) g	黒曜石 先端部欠損	PL78 R-21	
95-G-47 石鏃	長：(1.4) 幅：1.4	厚：0.4 重：(0.6) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 M-19	
95-G-48 搔器	長：(1.2) 幅：(1.3)	厚：0.4 重：(0.7) g	黒曜石 完形	PL78 M-25	
95-G-49 石鏃	長：(1.2) 幅：1.7	厚：0.3 重：(0.4) g	黒曜石 破片	PL78 O-20	
95-G-50 石鏃	長：(2.1) 幅：(1.5)	厚：0.4 重：(1.1) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 R-23	
95-G-52 石鏃	長：(1.6) 幅：(1.2)	厚：0.3 重：(0.6) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 S-21	
95-G-53 石鏃	長：(1.2) 幅：1.5	厚：0.3 重：(0.6) g	黒曜石 上半欠損	PL78 T-20	

遺物観察表

図 番号 器 種	計測値 () 推定値 単位はcm			石 材 残 存	備 考 出土位置等
	長	幅	厚 重		
95-G-54 石鏃	長： (2.0) 幅： (1.4)	厚： 0.3 重： (0.7) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 N-24	
95-G-55 石鏃	長： 2.0 幅： 1.4	厚： 0.6 重： 1.6g	チャート 完形	PL78 M-20	
95-G-58 石鏃	長： (2.2) 幅： (1.5)	厚： 0.4 重： (1.1) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 P-24	
95-G-59 石鏃	長： (1.1) 幅： (1.6)	厚： 0.4 重： (0.7) g	黒曜石 上半欠損	PL78 S-21	
95-G-60 石鏃	長： (1.0) 幅： (1.4)	厚： 0.4 重： (0.5) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 R-21	
95-G-61 石鏃	長： (1.3) 幅： (1.5)	厚： 0.4 重： (0.7) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 P-25	
95-G-62 石鏃	長： (1.4) 幅： (1.7)	厚： 0.5 重： (0.8) g	黒曜石 下半欠損	PL78 R-20	
95-G-63 石鏃	長： 1.7 幅： 1.6	厚： 0.3 重： 0.4g	チャート 完形	PL78 表採	
95-G-64 石鏃	長： (1.5) 幅： (1.4)	厚： 0.4 重： (0.5) g	黒曜石 破片	PL78 O-22	
95-G-68 使用痕剥片	長： (2.6) 幅： (1.4)	厚： 0.6 重： (1.5) g	黒曜石 完形	PL78 O-20	
95-G-70 石鏃	長： (1.4) 幅： (1.5)	厚： 0.3 重： (0.6) g	黒曜石 上半欠損	PL78 S-21	
95-G-71 石鏃	長： (1.5) 幅： (1.1)	厚： 0.5 重： (0.7) g	黒曜石 脚部欠損	PL78 P-24	
95-G-73 石鏃	長： 1.7 幅： 0.9	厚： 0.5 重： 0.7g	黒曜石 完形	PL78 P-23	
95-G-74 石鏃	長： 2.3 幅： 1.5	厚： 0.3 重： 1.3g	黒色安山岩 先端部・脚部欠	PL78 S-21	
95-G-76 加工痕剥片	長： (1.7) 幅： (1.7)	厚： 0.5 重： (1.2) g	黒曜石 完形	PL78 P-22	
95-G-79 石鏃	長： (1.2) 幅： (1.2)	厚： 0.3 重： (0.4) g	黒曜石 先端部・脚部欠	PL78 N-23	
95-G-80 石鏃未製品	長： (1.4) 幅： (1.3)	厚： 0.3 重： (0.5) g	黒曜石 完形	PL78 M-19	
95-G-81 石鏃	長： (1.8) 幅： (1.3)	厚： 0.4 重： (0.6) g	チャート 脚部欠損	PL78 P-19	
95-G-82 石鏃未製品	長： (1.5) 幅： (2.2)	厚： 0.5 重： (1.0) g	黒曜石 完形	PL78 N-20	
95-G-83 装飾品剥片	長： (2.4) 幅： (0.9)	厚： 0.5 重： (1.0) g	ろう石 完形	PL78 O-22	
95-G-91 光沢石	長： 4.8 幅： 1.5	厚： 1.0 重： 10.1g	頁岩 完形	PL78 O-25	
95-G-92 光沢石	長： 1.2 幅： 0.8	厚： 0.6 重： 1.1g	チャート 完形	PL78 N-23	
95-G-93 光沢石	長： 1.6 幅： 1.1	厚： 0.6 重： 1.4g	チャート 完形	PL78 Q-19	

第4章 分析とまとめ

第1節 群馬県長野原一本松遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

関東地方北西部吾妻川流域に分布する中期更新世以降に形成された地層の中には、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、いわゆるローム層中にテフラが認められた長野原一本松遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、重鉱物分析や屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、第1地点（17区U-17）および第2地点の2地点である。

2. 土層層序

(1) 第1地点（17区U-17）

第1地点（17区U-17）では、下位より橙色軽石混じりの褐色泥流堆積物（層厚51cm以上、軽石の最大径33mm、礫の最大径347mm）、灰色軽石混じりで若干黄色がかった褐色土（層厚26cm、軽石の最大径17mm）、白色軽石に富み灰色軽石も含む褐色土（層厚15cm、白色軽石の最大径27mm、灰色軽石の最大径23mm）、褐色土（層厚8cm）、成層したテフラ層（層厚20.9cm以上）が認められる（図1）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より黄灰色粗粒火山灰層（層厚0.3cm）、紫褐色細粒火山灰層（層厚2cm）、褐色細粒火山灰層（層厚3cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚0.6cm）、黄白色軽石層（層厚15cm以上）からなる。

(2) 第2地点

第2地点では、下位より褐色土（層厚23cm以上）、白色軽石や灰色軽石を含む褐色土（層厚18cm、白色軽石の最大径21mm、灰色軽石の最大径27mm）白色軽石に富む褐色土（層厚12cm、軽石の最大径28mm）、褐色土（層厚13cm）、褐色粘質土（層厚6cm）、黄白色軽石混じり灰色砂層（層厚7cm、軽石の最大径9mm）、黄白色軽石混じり褐色土（層厚4cm、軽石の最大径軽石の最大径18mm）、成層したテフラ層（層厚102.5cm）褐色砂質土（層厚5cm）、成層したテフラ層（層厚1.4cm）、褐色土（層厚10cm以上）が認められる（図2）。

これらのうち、下位の成層したテフラ層は、下位より粒度が良く揃った桃灰色粗粒火山灰層（層厚4cm）、黄灰色細粒火山灰層（層厚2cm）、紫褐色細粒火山灰層（層厚4cm）、成層した黄灰色細粒火山灰層（層厚3cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚0.5cm）、黄白色軽石層（層厚88cm以上、軽石の最大径57mm、石質岩片の最大径21mm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）からなる。また上位の成層したテフラ層は、下位より黄色砂質細粒火山灰層（層厚1cm）、桃褐色細粒火山灰層（層厚0.4cm）からなる。

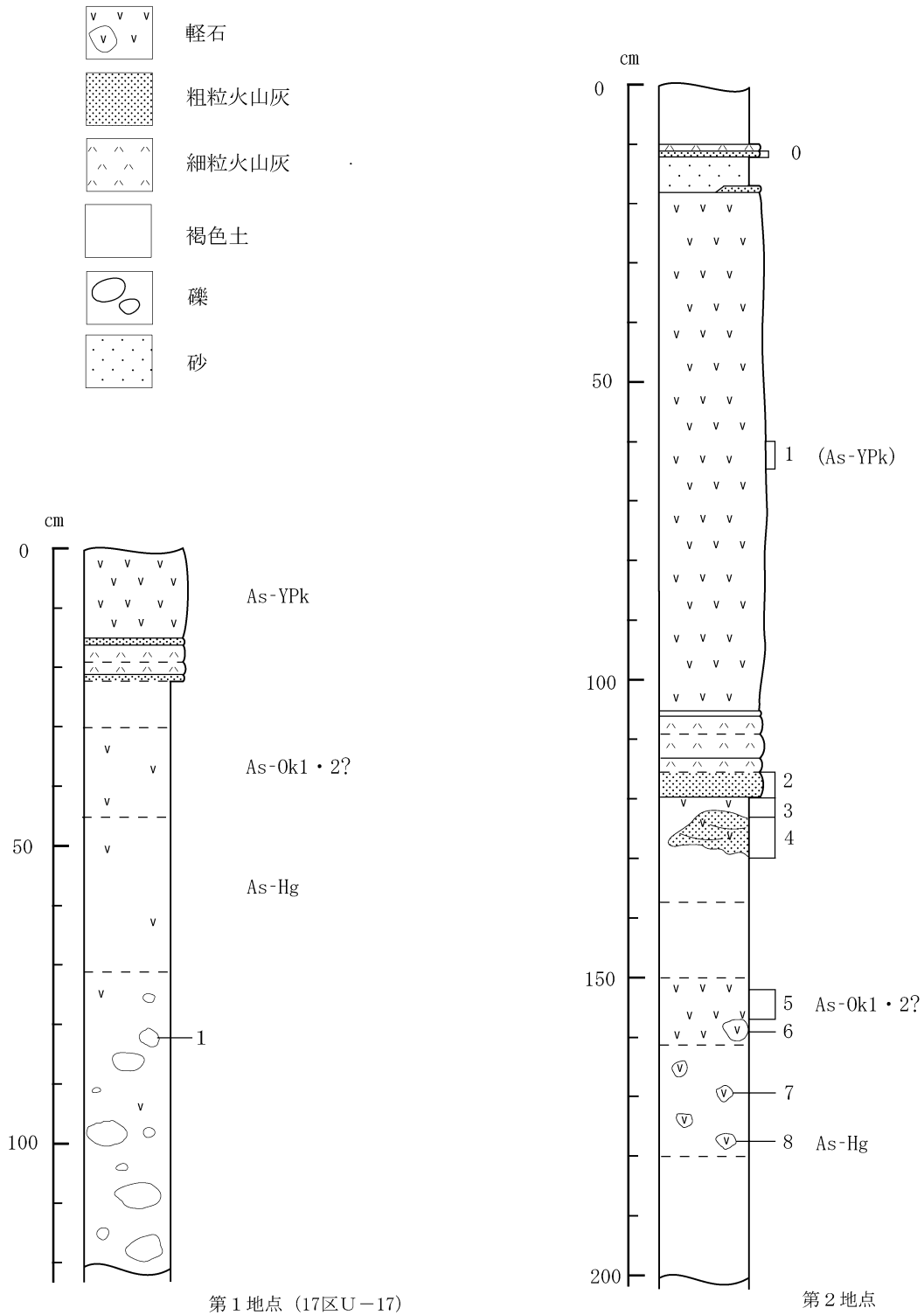


図1 第1地点 (17区U-17) ・第2地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

第4章 分析とまとめ

3. 重鉍物組成分析

(1) 分析資料と分析方法

第2地点の試料8～6、試料4、試料1の5点について、重鉍物組成分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 2) 80℃で高温乾燥。
- 3) 分析篩により1/4 - 1/8mmの粒子を篩別
- 4) 偏光顕微鏡下で重鉍物250粒子を観察し、重鉍物組成を求める

(2) 分析結果

重鉍物組成分析の結果をダイヤグラムにして図3に、またその内訳を表1に示す。各試料の重鉍物の組合せは、量が多い順に次の通りである。

- 試料1： 斜方輝石 (42.8%)、磁鉄鉍 (40.4%)、単斜輝石 (16.0%)
試料4： 斜方輝石 (57.2%)、磁鉄鉍 (33.2%)、単斜輝石 (8.0%)
試料6： 斜方輝石 (49.2%)、磁鉄鉍 (40.4%)、単斜輝石 (8.4%)、角閃石 (0.8%)
試料7： 斜方輝石 (53.6%)、磁鉄鉍 (31.2%)、単斜輝石 (12.8%)、角閃石 (1.2%)
試料8： 磁鉄鉍 (48.4%)、斜方輝石 (33.2%)、角閃石 (9.6%)、単斜輝石 (7.2%)

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

指標テフラとの同定を行うために、第1地点 (17区U-17) および第2地点において採取された10点について、温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) により、テフラ粒子の屈折率測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。第1地点の試料1に含まれる火山ガラス (n) の屈折率は1.516-1.521である。重鉍物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められ、斜方輝石 (γ) の屈折率は、1.705-1.710である。

第2地点の試料8に含まれる斜方輝石 (γ) と角閃石 (n_2) の屈折率は、1.703-1.709と1.674-1.677である。試料7に含まれる火山ガラス (n) の屈折率は1.501-1.505 (model range:1.502-1.504) である。また斜方輝石 (γ) の屈折率は1.703-1.708である。試料6に含まれる火山ガラス (n) の屈折率は1.501-1.505 (model range:1.502-1.504) である。また斜方輝石 (γ) の屈折率は1.704-1.709である。

第2地点の試料5に含まれる火山ガラス (n) の屈折率は1.501-1.502である。重鉍物としては斜方輝石や単斜輝石が認められ、斜方輝石 (γ) の屈折率は1.704-1.709である。試料4に含まれる火山ガラス (n) の屈折率は、1.501-1.504である。また、斜方輝石 (γ) の屈折率は1.707-1.711である。試料3に含まれる火山ガラス (n) の屈折率は1.501-1.504である。重鉍物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められ、斜方輝石 (γ) の屈折率は1.707-1.711である。試料2に含まれる火山ガラス (n) の屈折率は1.502-1.503である。重鉍物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められ、斜方輝石 (γ) の屈折率は1.707-1.711である。試料1に含まれる火山ガラス (n) の屈折率は1.502-1.504である。重鉍物としては、斜方輝石や単斜輝石が認められ、斜方輝石 (γ) の屈折率は1.707-1.711である。さらに試料0には、重鉍物として斜方輝石や単斜輝石が認められ、斜方輝石 (γ) の屈折率は1.707-1.711である。

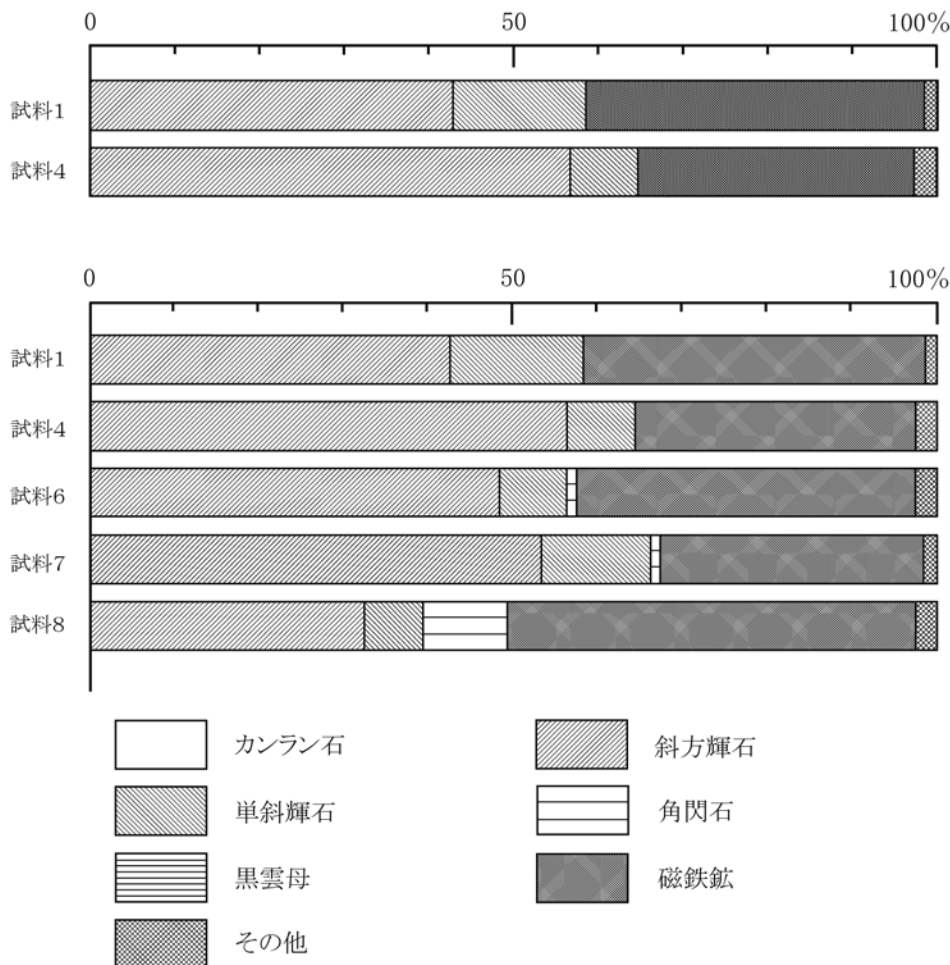


図2 重鉱物組成ダイアグラム

表1 重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合計
2	1	0	107	40	0	0	101	2	250
	4	0	143	20	0	0	83	4	250
	6	0	123	21	2	0	101	3	250
	7	0	134	32	3	0	78	3	250
	8	0	83	18	24	0	121	4	250

数字は粒子数ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石，bi：黒雲母，mt：磁鉄鉱認。

表2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)	角閃石 (n 2)
1	1	1.516-1.521	opx>cpx	1.705-1.710	-
2	0	-	opx>cpx	1.707-1.711	-
2	1	1.502-1.504	opx>cpx	1.707-1.711	-
2	2	1.502-1.503	opx>cpx	1.707-1.711	-
2	3	1.501-1.504	opx>cpx	1.707-1.711	-
2	4	1.501-1.504	opx>cpx	1.707-1.711	-
2	5	1.501-1.502	opx>cpx	1.704-1.709	-
2	6	1.501-1.505 (1.502-1.504)	opx>cpx, (ho)	1.704-1.709	-
2	7	1.501-1.505 (1.502-1.504)	opx>cpx, (ho)	1.703-1.708	-
2	8	-	opx>cpx, ho	1.703-1.709	1.674-1.677

屈折率の測定法は，温度一定型屈折率測定法(新井，1972，1993)。()：model range. opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石。重鉱物の () は量の少ないことを示す。

第4章 分析とまとめ

5. 考察－指標テフラとの同定

第1地点の試料1の軽石については、その岩相や重鉱物の組合せさらに斜方輝石の屈折率などから、約1.9～2.4万年前^{*1}に浅間火山灰から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 1996, 未公表資料）の上部の可能性が高い。第2地点の資料8の輝石については、重鉱物の組合せや斜方輝石や角閃石の屈折率などから、約1.8万年前に浅間火山から噴出した浅間萩生軽石（As-Hg, 早田, 1995）に由来すると考えられる。資料7～5に含まれるテフラ粒子は、軽石の岩相、火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから約1.6～1.7万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石（As-Ok1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996）および浅間大窪沢第2軽石（As-Ok2, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996）あるいはこれらに関係したテフラに由来する可能性が考えられる。

試料4および試料3に含まれる軽石は、その特徴とくに斜方輝石の屈折率から、約1.3～1.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出したと考えられている浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1962）に由来する可能性が高い。従って試料4の砂層は、As-YPの噴火の際に発生した火山泥流堆積物の可能性が考えられる。また試料2以上のテフラについては、層相や重鉱物の組合せ、火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、浅間草津黄色軽石（As-YPk, 新井 1962, 町田・新井, 1992）に同定される。以上のことから、As-YPとAs-YPkの堆積間には、若干の時間間隙があった可能性も考えられる。

6. まとめ

長野原一本松遺跡において、地質調査、重鉱物組成分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group, 約1.9～2.4万年前^{*1}）の上部、浅間萩生軽石（As-Hg, 約1.8万年前）、浅間大窪沢第1軽石（As-Ok1, 約1.6～1.7万年前^{*1}）あるいは浅間大窪沢第2軽石（As-Ok2, 約1.6万年前^{*1}）、浅間草津黄色軽石（As-YPk）などの指標テフラやそれに由来するテフラ粒子を検出することができた。

*1 放射性炭素（¹⁴C）年代

文献

- 新井房夫（1962）関東盆地に北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, p.1-179
- 新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法－研究対象別分析法」, p.138-148
- 町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276 p.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）浅間火山, 黒班～前掛期のテフラ層序. 日本第四紀学会講演要旨集, no. 14, p.69-70
- 早田 勉（1995）テフラからさぐる浅間山の活動史. 御代田町誌自然編, p.22-46
- 早田 勉（1996）関東地方～東北地方南部の指標テフラの諸特徴－特に御岳第1テフラより上位のテフラについて－. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

第2節 長野原一本松遺跡住居跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

ここでは、縄文時代後期の柄鏡形の敷石住居5区60号住居(61試料)と、中世の4区5号竪穴状遺構(56試料)から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。

2. 方法

採取された炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡で予察し、この段階で同定できない試料は材の3断面(横断面・接線断面・放射断面)を走査電子顕微鏡で拡大し材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、接線断面と放射断面は剃刀を各方向に当てはじくように割り、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子(株)製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

3. 結果

5区60号住居(縄文時代後期):表1

61試料のうち、Pit6からは推定直径が1cmほどの細いタケ亜科(いわゆる竹)が検出されたが、それ以外の60点はすべてクリであった。

4区5号竪穴遺構(中世):表2・3

56試料からは、クリが30点で最も多く、次にカツラ11点、ニレ属3点、コナラ節1点、散孔材1点、タケ亜科とその匍匐茎?が6点、単子葉の茎と葉が各1点、樹皮2点であった。クリは遺構の広範囲から出土し、カツラは中央部から集中して検出され、ニレ属は北西部から検出された。クリは出土点数が多いが、出土状況からもこの遺構の主要部全般に利用されていたようである。

材組織記載

コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版1 1a-1c (4区5号T15)

年輪の始めに中型の管孔が配列し急または徐々に径を減じ、晩材部では薄壁・角形で小型の管孔が火炎状・放射方向に配列する環孔材。管孔配列はクリに似るが、広放射組織があることからコナラ節と同定される。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。落葉広葉樹林の主要構成種で、二次林の主要樹種でもある。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版1 2a-2c (4区5号T6)

年輪の始めに中型~大型の管孔が数層配列し徐々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単穿孔、放射組織は単列同性のみである。

クリは暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木で、特に集落周辺地に多く生育する。

ニレ属 *Ulmus* ニレ科 図版1 3a-3c (4区5号T56)

年輪の始めに大型の管孔が1~2層配列し、その後はやや小型~小型の管孔が複数集合して塊状・斜状に分布する環孔材。道管の穿孔は単穿孔、小道管の内腔にらせん肥厚がある。放射組織は同性、1~5細胞幅

第4章 分析とまとめ

の紡錘形、大型の結晶細胞は軸方向に数個が連なる。

ニレ属は北地の温帯に多いハルニレ・オヒョウ、暖帯の荒地や川岸に普通に見られるアキニレがあり、いずれも落葉高木となる。

カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb.et Zucc. カツラ科 図版2 4a-4c (4区5号T 54)

小型の多角形の管孔が年輪内に密在し、管孔の占有面積が多い散孔材。道管の壁孔はまばらな交互状～階段状、穿孔は横棒数が非常に多い階段穿孔、内腔に水平のチロースがある。放射組織は異性、主に2細胞幅である。

カツラは北海道から九州の暖帯から温帯の溪谷に生育する落葉高木である。材は均質でやや軽軟、割裂性・切削性は良く、狂いは少ないが保存性はあまり良くない。

散孔材 diffuse-porous wood A 図版2 5a-5c (4区5号T 16)

直径が0.6cm、芯持ち丸木、2年輪ほどの若齢の材であった。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管にらせん肥厚が見られた。放射組織は異性、1～2細胞幅、細胞高は高い。若齢部の材であることから、種の特徴的形質が発現されていない可能性があり、対応する分類群も不明であった。

タケ亜科 Gramineae subfam. Bambusoideae イネ科 図版2 6 (5区60号Pit6) 7 (4区5号T 25)
図版3 9 (4区5号T 18) 10 (4区5号T 19)

厚みがありやや硬質で、茎の中心部は中空である。維管束は不整中心柱で多数あり、維管束鞘が発達している。茎の外周に位置する維管束鞘は特に厚く発達し、厚壁の繊維細胞だけの塊も島状に密在し、茎を強く支持している。このような形質からイネ科のタケとササ類を含むタケ亜科であり、特に維管束鞘が発達していることからいわゆる竹類に対応するが、種類は特定できない。

4区5号T 18とT 19は、節部の2～3箇所から枝あるいは根が出芽している。節の一箇所から出芽するのではなく2～3箇所から出芽しているため、根元に近い部分の茎ではないかと思われる。

単子葉類の茎 Monocotyledoneae stem 図版2 8 (4区5号T 3)

直径0.35cmほどの細い茎で、節があり中心部は中空であった。維管束が散在する不整中心柱であるが、維管束鞘の発達は貧弱である。ススキ属に類似するが、このように径の細い単子葉類は多いので断定はできなかった。

単子葉類の葉 Monocotyledoneae leaf 図版3 11a-11c (4区5号T 12)

出土状況は、交差して積み重なる状態であり、屋根か壁に使われていた可能性がある。気孔が分布している事から葉であり、平行脈である事から単子葉類であることが判る。葉の表面には、複数の型の珪酸体があるで、葉の裏面は平滑であった。原生のイネの葉（いわゆるイネ藁）と比較して見たが（図版3 12a-12c）、当試料の葉にはイネの葉とはやや異なる珪酸体が多く見られるように思えるが、十分な基礎知識を持ち合わせていないので、比較写真を掲載するに留めた。

4. まとめ

縄文時代後期と中世の異なる2時期においても、当遺跡ではクリ材が建築材として多用されていたことが判った。ただし中世ではクリのほか、カツラ・ニレ属・コナラ節の広葉樹材が検出され、縄文時代後期ほどには、クリ一辺倒の樹種利用ではなくなったようである。しかし、中世の遺構におけるクリ以外の樹種の検出は、縄文時代に比べ中世の生活様式が複雑になっていた事ことから室内に置ける家具的な用途で利用していた可能性も類推される。

第2節 長野原一本松遺跡住居跡出土炭化材の樹種同定

表1 長野原一本松遺跡5区60号住居跡

出土炭化材樹種同定結果(縄文時代後期の柄鏡型住居)

試料No.	樹種	試料	樹種
1	クリ	32	クリ
2	クリ	33	クリ
3	クリ	34	クリ
4	クリ	¹⁴ C 試料: PLD-2371	
5	クリ	35	クリ
6	クリ	36	クリ
7	クリ	37	クリ
8	クリ	38	クリ
9	クリ	39	クリ
10	クリ	40	クリ
11	クリ	41	クリ
12	クリ	42	クリ
13	クリ	43	クリ
14	クリ	44	クリ
15	クリ	45	クリ
16	クリ	46	クリ

試料No.	樹種	試料	樹種
17	クリ	47	クリ
18	クリ	48	クリ
19	クリ	49	クリ
20	クリ	50	クリ
21	クリ	53	クリ
22	クリ	54	クリ
23	クリ	55	クリ
24	クリ	56	クリ
25	クリ	57	クリ
26	クリ	58	クリ
27	クリ	59	クリ
28	クリ	60	クリ
29	クリ	61	クリ
30	クリ	Pit6	タケ亜科
31	クリ	Pit13	クリ

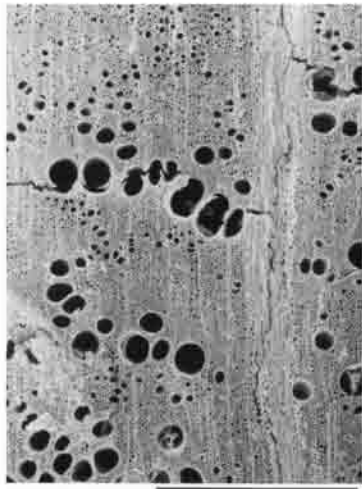
表3 長野原一本松遺跡遺構別の検出樹種比較

樹種	遺構 時期	4区5号							合計	
		5区60号	中世							
		縄文後期	柱・壁部材	板・板か	板か柱	柱か	丸柱・丸柱	棒材・棒材		丸棒材
コナラ節							1		1	
クリ		60	12	1		7	10		90	
カツラ			7			2	2		11	
ニレ属						1		2	3	
散孔材								1	1	
タケ亜科		1					1	3	5	
タケ亜科(匍匐茎?)								2	2	
単子葉 茎								1	1	
単子葉 葉								1	1	
樹皮						2			2	
合計		61	19	1	2	10	13	3	8	117

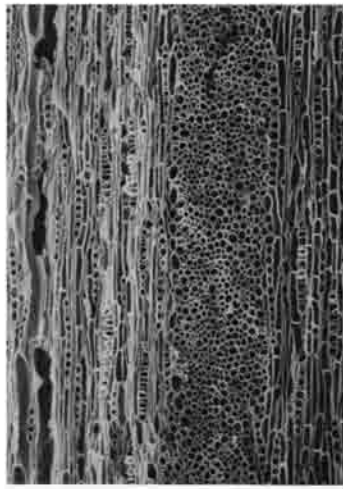
第4章 分析とまとめ

表2 長野原一本松遺跡4区5号竪穴遺構出土炭化材樹種同定結果

試料No.	種類	樹種	長さ	幅	厚さ	径	推定径	木取り	備考
T1	丸柱	クリ	7.0			5.2	10.4	芯持ち	柱穴上に位置。床直でない。 14C 試料：PLD-2372
T2	草木材	タケ亜科	5.0			0.7 ~ 0.9		芯持ち	中空。表面に堅筋。
T3	草木類	単子葉類 茎	不定			0.35			草の茎か。屋根か壁か。
T4	棒材	クリ	6.8	4.0	3.6			榎目	
T5	棒材	クリ	7.4	2.7	2.5			榎目	
T6	棒材	クリ	8.6	2.5	1.3			榎目	T7・T9 と同一か
T7	棒材	クリ	9.6	2.7	1.8			榎目	T6・T9 と同一か
T8	板か	クリ	5	3.5	1.9			板目	
T9	棒材	クリ	9.5	5.6	1.9			榎目	T6・T7 と同一か
T10	丸柱か	クリ	11.5	8.3		4.5	9.0	芯持ち	
T11	板か	クリ	7.3	6.4	1.5			板目	下部に T12 付着
T12	草木類	単子葉類 葉?	—						草の茎か。交差する。屋根か壁か。
T13	棒材	クリ	4.8	3.4	2.4			榎目	
T14	板か	クリ	3.7	4.0	1.2			板目	
T15	丸棒材	コナラ節	3.6			1.3	2.6	芯持ち	
T16	草木材	散孔材	2.1			0.6		芯持ち	
T17	丸柱	クリ	27.0			2.5	5.0	芯持ち	
T18	草木材	タケ亜科 (匍匐径?)	2.7			0.9		芯持ち	節の2ヶ所に枝 or 根痕あり、篠竹?
T19	草木材	タケ亜科 (匍匐径?)	1.3			0.9		芯持ち	節の3ヶ所に枝 or 根痕あり、篠竹?
T20	草木材	タケ亜科	1.4			1.0		芯持ち	篠竹?
T21	棒材か	クリ	13.0	3.2	1.5			榎目	
T22	棒材	クリ	5.7	3.4	2.4			榎目	
T23	棒材	クリ	4.2	2.2	1.7			榎目	
T24	棒材	クリ	2.0	2.3	2.2			榎目	
T25	棒材	タケ亜科	11.7			3.5 ~ 4.0		芯持ち	竹
T26	丸柱?	ニレ属	8.0			2.7	5.4	芯持ち	
T27	丸柱か	クリ	9.2			3.2	6.4	芯持ち	
T28	板	クリ	25.0	12.5	3.0			板目	
T29	丸柱	クリ	16.0			6.2	12.4	芯持ち	
T30	丸棒材	ニレ属	8.0			3.2		芯持ち	
T31	板か	クリ	6.5	5.3	4			榎目	
T32	丸柱	クリ	2.3			4.2	9.0	芯持ち	
T33	板か	クリ	8.0	5.8	2.8			板目	
T34	板	カツラ	5.9	3.4	2.5			榎目	
T35	棒材	カツラ	8.3	3.0	2.2			榎目	
T36	板	カツラ	5.8	5.2	2.0			板目	
T37	柱か	カツラ	4.0	5.0	2.7			芯持ちか板目	
T38	板か	カツラ	6.5	4.7	2.1			榎目	
T39	板か	カツラ	5.0	4.4	1.5			板目	木目密
T40	板	カツラ	6.4	5.7	1.5			榎目	
T41	板か	クリ	10.5	8.0	2.7			榎目	
T42	板か	カツラ	5.5	4.8	2.7			榎目	木目密
T43	板か	クリ	8.5	5.4	1.5			榎目	木目密
T44	板	クリ	6.6	4.2	1.0			榎目	
T45	棒材	カツラ	6.1	2.5	1.4			榎目	
T46	丸柱	クリ	8.0			7.9		芯持ち	T 15 と同一。端部裁断面あり。
T47	樹皮か	樹皮	7.8	3.5	0.5				丸柱の樹皮か
T48	草木材	タケ亜科	17.8			1.5		芯持ち	篠竹?
T49	板	クリ	12.6	8.0	2			板目	
T50	板か	クリ	6.0	4.6	2.7			榎目	
T51	丸柱	樹皮	36.3			8.5		芯持ち	樹皮つき。端部裁断面。
T52	板か	クリ	7.8	6.5	1.5			板目	
T53	柱か	カツラ	6.0	2.9	0.5			板目	柱の外側か
T54	板か	カツラ	7.5	4.5	2.3			榎目	
T55	板か柱	クリ	4.0		3.0			榎目	
T56	丸棒材	ニレ属	2.4			1.5	3.0	芯持ち	



1a コナラ節 (横断面)
4区5号T15 bar : 0.5mm



1b コナラ節 (接線断面)
4区5号T15 bar : 0.1mm



1c コナラ節 (放射断面)
4区5号T15 bar : 0.1mm



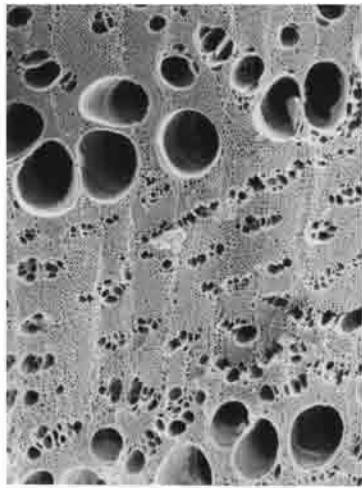
2a クリ (横断面)
4区5号T6 bar : 1.0mm



2b クリ (接線断面)
4区5号T6 bar : 0.1mm



2c クリ (放射断面)
4区5号T6 bar : 0.1mm



3a ニレ属 (横断面)
4区5号T56 bar : 0.5mm

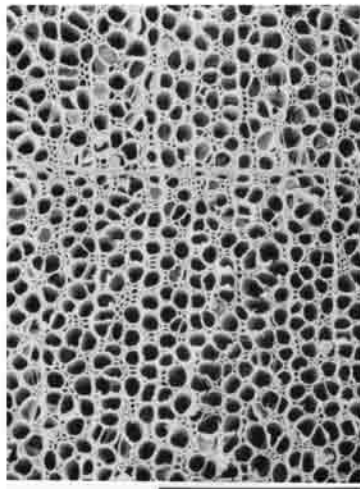


3b ニレ属 (接線断面)
4区5号T56 bar : 0.1mm



3c ニレ属 (放射断面)
4区5号T56 bar : 0.1mm

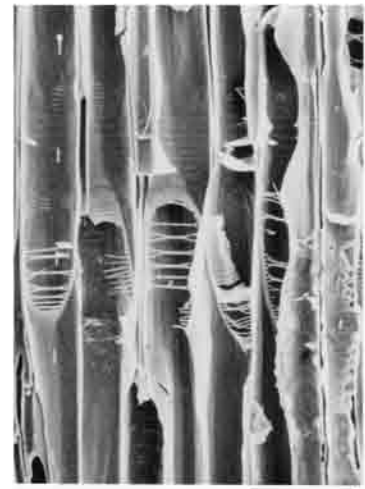
図版1 長野原一本松遺跡住居跡 (5区60号・4区5号) 出土炭化材樹種 (1)



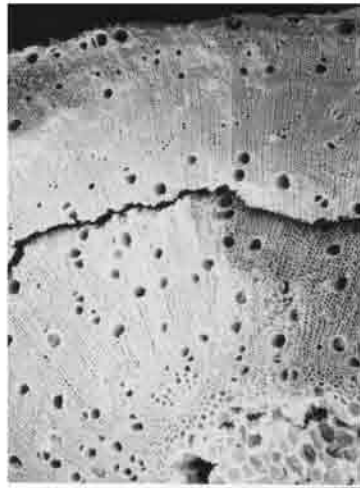
4a カツラ (横断面)
4区5号T54 bar : 0.5mm



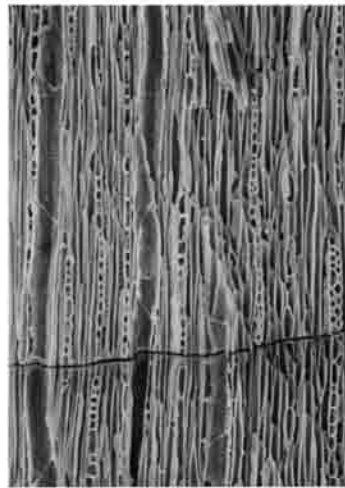
4b カツラ (接線断面)
4区5号T54 bar : 0.1mm



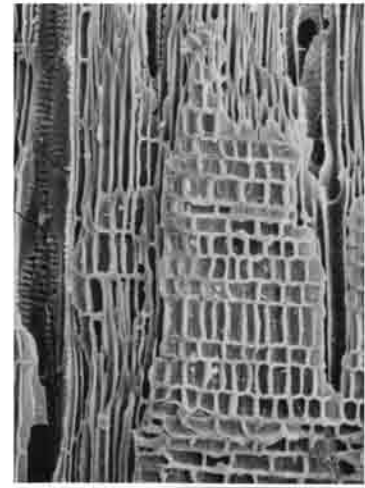
4c カツラ (放射断面)
4区5号T54 bar : 0.1mm



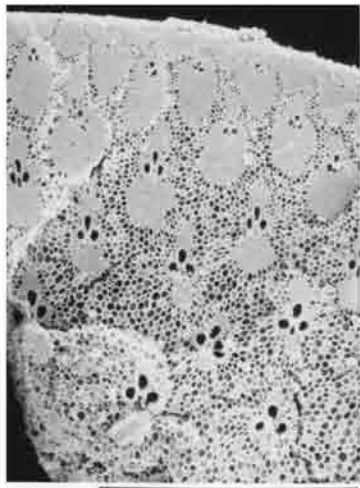
5a 散孔材 (横断面)
4区5号T16 bar : 0.5mm



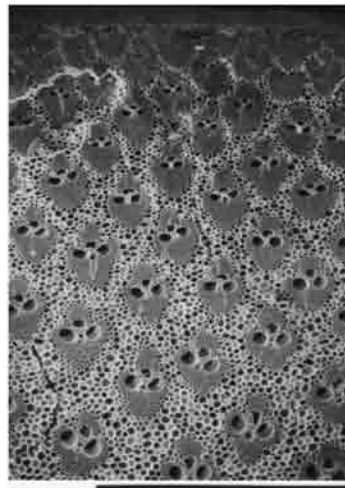
5b 散孔材 (接線断面)
4区5号T16 bar : 0.1mm



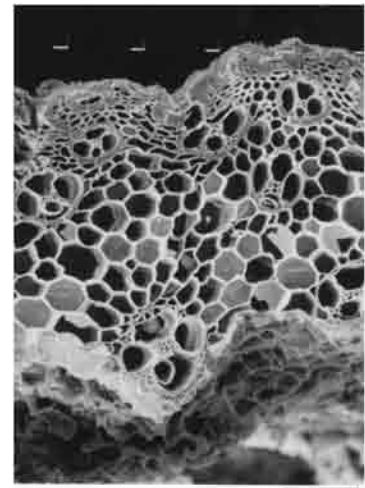
5c 散孔材 (放射断面)
4区5号T16 bar : 0.1mm



6 タケ亜科 (横断面)
5区60号Pit6 bar : 0.5mm



7 タケ亜科 (横断面)
4区5号T25 bar : 0.5mm



8 単子葉類 (横断面)
4区5号T3 bar : 0.5mm

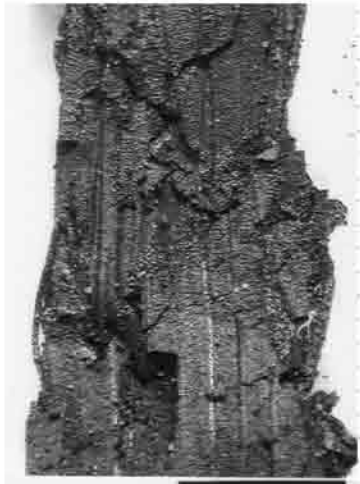
図版2 長野原一本松遺跡住居跡 (5区60号・4区5号) 出土炭化材樹種 (2)



9 タケ亜科 葡萄茎? (概観)
4区5号T18 bar: 5mm



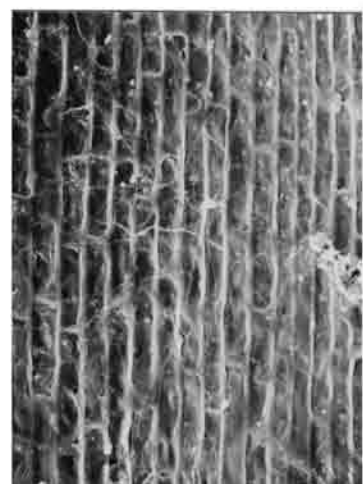
10 タケ亜科 葡萄茎? (概観)
4区5号T19 bar: 10mm



11a 単子葉類 葉? (概観)
4区5号T12 bar: 2mm



11b 単子葉類 葉? (表面)
4区5号T12 bar: 0.1mm



11c 単子葉類 葉? (裏面)
4区5号T12 bar: 0.1mm



12a 原生イネの葉 (横断面)
bar: 2mm



12b 原生イネの葉 (表面)
bar: 0.1mm



12c 原生イネの葉 (裏面)
bar: 0.1mm

図版1 長野原一本松遺跡住居跡 (5区60号・4区5号) 出土炭化材樹種 (3)

第3節 長野原一本松遺跡から出土した炭化種実

新山雅広 (パレオ・ラボ)

1. 試料

炭化種実の検討は、縄文時代後期の5区60号住居および中世（詳細時期は不明）の4区5号竪穴より出土した試料について行った。試料は、床面から出土した炭化種実を一括で取上げたものであり、5区60号住居は1試料（No.51）、4区5号竪穴はタッパーが1試料と袋が7試料である。なお、タッパー中の炭化種実の一部は、放射性炭素年代測定（AMS法）の試料として用いられた。

2. 出土した炭化種実

1) 5区60号住居

No.51の炭化種実2個体は、いずれもオニグルミ炭化核破片であった。大きさは、いずれも1cm台の小さな破片である。

2) 4区5号竪穴

同定されたのは、オニグルミ炭化核およびスモモ炭化核であった。各試料の炭化種実の一覧を第1表にまとめたが、オニグルミについては、完形のもの、縫合線に沿って半分に割れたもの（半割）、1/2以下の細かな破片の状態に分けて示した。また、完形に換算したおよその推定個数を試料ごとに合計の欄に示した。なお、袋試料については、便宜的に1～5の通し番号を付した。ただし、炭化種実を含んでいなかった2試料は、番号を付けず、一覧表からも省いた。この2試料のうち、1試料は炭化材を4片含んでおり、もう1試料は灰？試料であった。以下に、各試料の炭化種実について記載する。

第1表 炭化種実出土一覧表 数字は個数を示す。※：年代測定に使用

分類群・部位・状態\試料名		タッパー	袋1	袋2	袋3	袋4	袋5
オニグルミ	炭化核	完形	1				1
	半割	6		1	1		2
	破片	4※	9	1	2	4	多数
	合計	5	1未満	1未満	1未満	1未満	2
スモモ	炭化核	半割	1				

タッパー：オニグルミ炭化核とスモモ炭化核が含まれていた。オニグルミ炭化核は、完形が1個、半割が6個、破片が4個であり、全体では完形に換算して5個分か5個にやや満たない程度と推定される。半割は、6個のうち3個は、種子が残存していた。破片は、細かな破片が3個と1/4程度のものが1個であった。なお、1/4程度のものは、半割になったもの下半部であるが、これを放射性炭素年代測定（AMS法）の試料に用いた。その結果、¹⁴C年代で535±40yrBP、最も確率の高い1σ暦年代範囲でcal BC 1,395 - 1,430であった。スモモ炭化核は、半割が1個であった。

袋1：オニグルミ炭化核の細かな破片が9個であり、全体でも1/2～3/4個と推定され、完形1個分に満たない。

袋2：オニグルミ炭化核の半割が1個と細かな破片が1個であった。半割は種子が残存していた。破片は

頂部の部分であった。

袋3：オニグルミ炭化核の半割が1個と細かな破片が2個であった。半割は種子が残存していた。破片は、非常に細かな破片であり、全体でもおよそ1/2個分である。

袋4：オニグルミ炭化核の細かな破片が4個であり、全体でも1/2～3/4個と推定され、完形1個分に満たない。

袋5：オニグルミ炭化核の完形が1個、半割が2個、破片が多数であった。半割は種子が残存していた。破片は、極めて細かな破片が多数あり、計数不能であった。完形の一方の側面は、欠損箇所があり、半割も状態が悪く、欠損部分が認められた。破片は、この欠損部分や更に細かくなったものであると推定される。

3. 考察

縄文時代後期の5区60号住居（No.51）では、オニグルミ炭化核破片が2個体出土した。破片であること、また住居址から出土していることから、出土核は利用後の残滓である可能性が高いと考えられる。

一方、中世の4区5号竪穴では、試料全体でオニグルミ炭化核が完形に換算しておよそ10個分とスモモ炭化核が1/2個（半割）出土した。オニグルミ炭化核の状態は、完形が2個、半割が10個と破片であった。半割は、多くのが種子（子葉）を残存しており、堆積物中の圧力などによって縫合線に沿って割れたものと推定される。破片は、完形や半割のものに欠損部分が認められるものがあるので、それに由来するものを含むと考えられる。以上のことから、出土核は、元は完形の状態で埋積しており、食用などに利用される前であったと考えられる。つまり、4区5号竪穴においてオニグルミの貯蔵が行われていた可能性が高い。また、僅かながらスモモ炭化核が含まれていた理由は分からないが、中の種子（仁）が利用されていたのかも知れない。

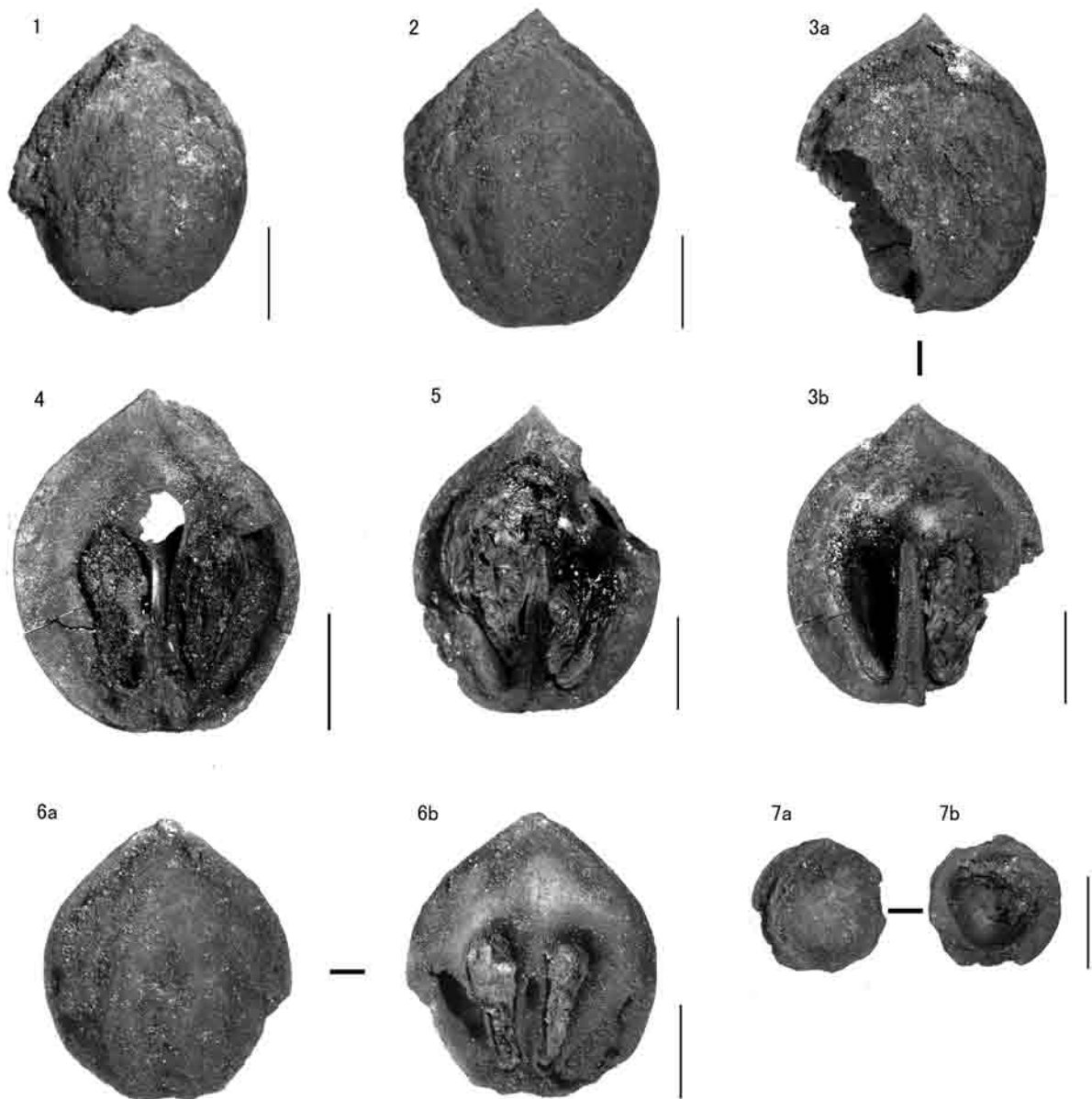
4. 形態記載

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 炭化核

完形のもの、側面観は卵形～卵円形、先端は鋭頭、上面観はやや扁平で楕円形。表面には、明瞭な1本の縫合線が縦に走り、不規則な縦筋があるが、4区5号竪穴の出土核は、全般に表面が磨耗してややボロボロしており、筋は明瞭ではない。一見したところ、打撃（利用）痕やげっ歯類による食害痕かと思われるものもあるが、このようにやや状態が悪いため、明らかではない。4区5号竪穴出土のオニグルミ核の特徴は、縫合線に沿って半分に割れたものの内部に種子（子葉）が残存していることである。表面の状態の割りに、種子の保存状態は良好であるが、種子が残存することは、珍しいと思われる。このことから、出土核は、食用などに利用される前であったと言える。

スモモ *Prunus salicina* Lindl. 炭化核

核はやや扁平な卵円形。下端には臍があり、一方の側面には縫合線が発達する。表面は比較的滑らかでウメやモモのような明瞭な穴、溝といった窪みは見られない。



図版1 炭化した炭化種実 (スケールは1cm)

1. オニグルミ、炭化核(完形)、タッパー 2. オニグルミ、炭化核(完形)、袋5 3. オニグルミ、炭化核(半割)、タッパー
4. オニグルミ、炭化核(半割)、タッパー 5. オニグルミ、炭化核(半割)、タッパー 6. オニグルミ、炭化核(半割)、袋2
7. スモモ、炭化核、タッパー

第4節 放射性炭素年代測定

山形 秀樹 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

長野原一本松遺跡より検出された炭化種子および炭化材の加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を実施した。

2. 試料と方法

試料は、4区5号竪穴遺構より採取した炭化核 (オニグルミ) 1点、同じく4区5号竪穴遺構より採取した炭化材 (クリ) 1点、5区60号住居址より採取した炭化材 (クリ) 1点、の併せて3点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨 (グラファイト) に調整した後、加速器質量分析計 (AMS) にて測定した。測定した ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。

3. 結果

表1に、各試料の同位体分別効果の補正值 (基準値 - 25.0%)、同位体分別効果による測定誤差を補正した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代を示す。

^{14}C 年代値 (yrBP) の算出は、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、計数値の標準偏差 σ に基づいて算出し、標準偏差 (One sigma) に相当する年代である。これは、試料の ^{14}C 年代が、その ^{14}C 年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年) を較正し、より正確な年代を求めるために、 ^{14}C 年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と ^{14}C 年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて ^{14}C 年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代を算出する。

^{14}C 年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3 (CALIB 3.0のバージョンアップ版) を使用した。なお、暦年代較正值は ^{14}C 年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、 1σ 暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその 1σ 暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。 1σ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

4. 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した 1σ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

第4章 分析とまとめ

引用文献

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代、p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

表 1. 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{CPDB}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 σ 暦年代範囲
PLD-2313 (AMS)	炭化核 (オニグルミ) 4区5号竪穴遺構	- 29.5	535 \pm 40	cal AD 1,410	cal AD 1,330 - 1,340 (18.4%) cal AD 1,395 - 1,430 (81.6%)
PLD-2371 (AMS)	炭化材 (クリ) 5区 60号住居址	- 25.9	3,755 \pm 30	cal BC 2,195 cal BC 2,170 cal BC 2,145	cal BC 2,205 - 2,135 (84.5%) cal BC 2,080 - 2,060 (11.7%)
PLD-2372 (AMS)	炭化材 (クリ) 4区 5号竪穴遺構	- 24.6	555 \pm 25	cal AD 1,405	cal AD 1,330 - 1,345 (38.1%) cal AD 1,395 - 1,415 (61.9%)

第5節 まとめにかえて

長野原一本松遺跡は、縄文時代中期後葉から後期前葉にかけて営まれた環状集落跡である。用地・工程の都合上、分割調査となり、年度毎に調査地点が変わり、集落跡全体像が臚氣に把握できたのは平成15・16年度の調査を経てからである。平成14年度の発掘調査は5区・95区の一部及び、17区～19区が対象であり、5区・95区が集落跡の中核部分にあたるとはいえ、環状集落の南群を垣間見たに過ぎない。本報告書編集に際しても、環状集落跡全体観を意識しつつも、あくまで個々の住居跡等遺構単位の報告を主眼とした。環状集落跡を構成する多様な施設として、各遺構を位置付ける作業は、後の報告書に委ねることになる。

平成14年度の本遺跡の発掘調査で検出した遺構は、5区で得られた平安時代住居跡2軒と95区1溝、17区1溝、各区の陥穴状土坑以外はほぼ縄文時代の所産といえよう。内訳を各区でまとめると、5区堅穴住居跡10軒・建物跡1棟・炉跡2・埋甕1基・土坑93基（陥穴状土坑8基）・ピット多数。95区では、堅穴住居跡9軒・建物跡2棟・炉跡2基・土坑53基（陥穴状土坑8基）・ピット多数。17区は埋設土器1基・土坑33基（陥穴状土坑4基）、18区土坑2基（陥穴状土坑16基）、19区土坑10基が主な検出遺構である。

このうち、5区の堅穴住居跡は主に後期初頭～前葉段階であり、95区は中期後葉の住居跡群が偏る傾向がある。標高の高低差による居住変化と見ることもできるが、中期集落規模と後期集落規模の変化と見るのが妥当であろう。台地全面に拡大した中期集落跡が、後期に至るとやや縮小・後退し、分散化した結果であろうか。この様相は集落跡の全貌が明らかになる、後刊の報告書に期待したい。

その中で、5区で調査した後期住居跡は柄鏡形を呈する例が多く、特に5区60号住居跡は良好な全面敷石を呈する例である。60号住は、炉体土器の時期から堀之内1式後半段階の所産と思われ、周辺の柄鏡形敷石住居跡と比して、やや新しい様相を示す。本文中でも述べたが、住居部分の敷石は安山岩の板石が主体で、張り出し部は川原石を使った円礫を多用していた。住居部敷石は炉を中心とした放射状に置かれ、張り出し部は主軸に沿った直線を基調とした敷石方法を示すように、石材と敷石方法に明瞭な差を見ることができた。住居部分と張り出し部分の機能・用途の差と考えられよう。特に張り出し部の3方の壁は2～3段の積み石がなされ、平面的な住居部分に比して、極めて立体的な景観を示す。張り出し部が特殊な意識化の元に構築されたのであろうか。上段の面は生活面に近いレベルと考えられ、上屋を想定したとしても、強調された張り出し部は居住とは異質の空間である。一方の住居部分は板石による平坦面が築かれる。中央の炉は本文中では石囲い炉としたが、敷石面との高低差は無く、立位の石による囲堯形態ではないことから、敷石炉という呼称が相応しいだろう。

さて、炉を中核とした放射状敷石の縁辺には炭化材が出土している。焼失住居跡として位置付けたが、炭化材の分布は壁内縁に集中し、主要な建築材は見られなかった。上屋除去後の焼失であろうか。あるいは、柱材等は炭化が及ばなかった可能性もある。壁内縁の炭化材の集中は、壁際の施設が想定できよう。炭化材と壁の間は30cm以上あり、直接的な壁の補強材とは考えられない。炭化材は敷石外縁に沿っており、特に北壁際は直線的に検出されている。さらに立位の炭化材も見られることから、壁を巡る「棚・ベンチ」状の施設及び壁補強材として位置付けておきたい。炭化材と共に出土した小礫は、下部の補強材に充てられたものと考えた。

次に、60号住の特徴の一つとして、住居部と張り出し部との連結部から東西に派生する小規模な列石が挙げられよう。敷石住居跡に列石が付設する類例は近年増加しており、横壁中村遺跡や南蛇井増光寺遺跡でも同様な例が調査されている。複数の敷石住居跡を連結する走向も報告されているが、本遺跡60号住の場合は単独の検出となっている。この列石が上屋内部に入るのかは不明であるが、住居部分壁外南西部に小礫が集中し、住居跡上屋外縁部をこの小礫集中部一周堤礫に推定すると、列石は上屋内部に含まれる復元案も可能である。張り出し部の上屋を住居部分と一体化するか、住居部分とは別個の上屋構造を想定するべきか、更

に検討を要するが、列石端部までを上屋外縁と考えると、直径7 m以上の大型住居跡の復元案となる。先に述べた、炭化材から導いた棚状施設を併せると、住居部分は壁を巡る幅70cm程の棚状施設と、敷石部分の2段の生活空間が想定される。このように、5区60号住のみでも検討課題は多く、5区で得られた後期住居跡群を含めると、かなり複雑な集落様相が想像できる。本書に掲載した後期遺構・遺物のみならず、他地点の後期遺構を含めて、資料増加に伴い分析を重ねなければならないだろう。

さて、95区を中心に検出された中期住居跡は円形を基調としており、壁周溝を持つ典型的な形態である。これら円形竪穴住居跡に見ることのできた、様々な住居内施設の中で、南側壁に設けられた「出入口施設」が各中期住居跡に良好に観察された。ここでは、平成14年度調査で検出した中期住居跡の中で、出入口施設に注目して、まとめのかわりとしたい。尚、本稿挿図中の遺構図は全て1/80に、土器実測図は1/8に統一した。

長野原一本松遺跡中期出入口施設について

1. 中期出入口施設（平成14年度調査から）

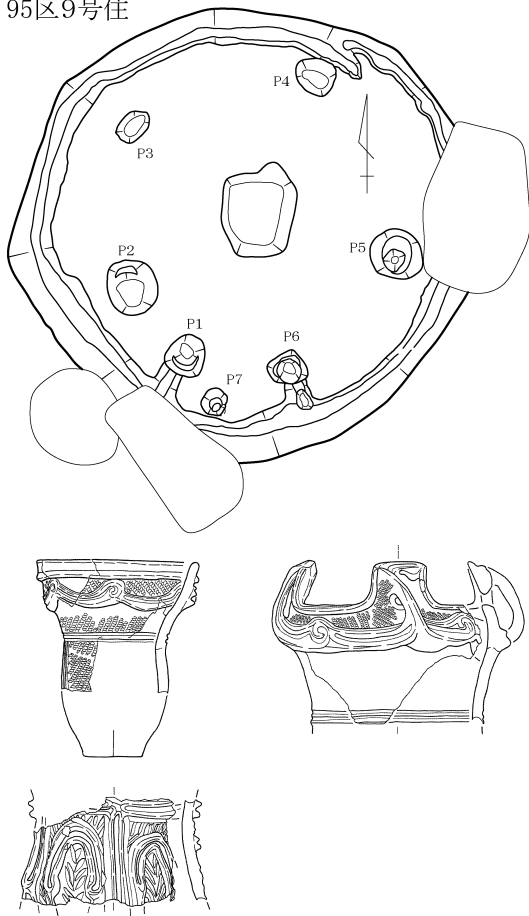
平成14年度の本遺跡調査では、95区と5区で中期住居跡が調査されている。特に95区の南斜面では、中期住居跡が良好に検出されており、環状集落跡の南群の一角を占める在り方を示す。特に住居跡本体の遺存度は、床面への掘り込みがローム層へ達しており、床面上の施設の痕跡は容易に把握し得た。反面、斜面地形のため、重複住居跡との新旧は、判別が困難であり、例えば7～9号住居跡や6・11号住居跡などの重複関係は発掘所見を併せて、今後の検討を重ねなければならない。このような発掘条件の中、5区61号住居跡、95区3・4・6・9・10号住居跡は床面上に様々な施設の痕跡を有し、特に南壁周辺に設けられる「出入口施設」と捉えられる遺構は注目されよう。これらの出入口施設は、長野県域で多くの類例が報告されており、長野県に近接する本遺跡の立地条件からも、中期住居跡における出入口施設の存在を抽出する作業は、本遺跡の地域性を具体化することになる。ここでは、遺存度の良好な上記各住居跡の南壁際に注意を向け、長野原一本松遺跡における中期出入口施設を考えてみたい。長野原一本松遺跡の報告は今後も冊数を重ね、膨大な資料が蓄積となる。これらの資料が出揃った段階で、本分析も試みられるべきではあるが、覚書という形で試みる次第である。

本遺跡は中期後葉から後期前葉にかけての集落遺跡である。遺構密度は高く、住居跡・土坑が密集する様相を示している。重複遺構も多く、住居跡全体像が良好に把握できる例は極めて少ない。床面上の施設も、検出された土坑・ピットの帰属を当該住居跡としての位置付けが可能か、常に検討を要する状況である。まして、出入口施設は下記のように小ピットや小溝、埋甕などを判断基準とするため、住居跡壁際に良好に出入口施設が残存する住居は極めて少ない。全ての住居跡に出入口は存在していたのであろうが、その痕跡を床面上に留める例は少なく、明瞭な例（例えば出入口部埋甕）を中心に抽出した。

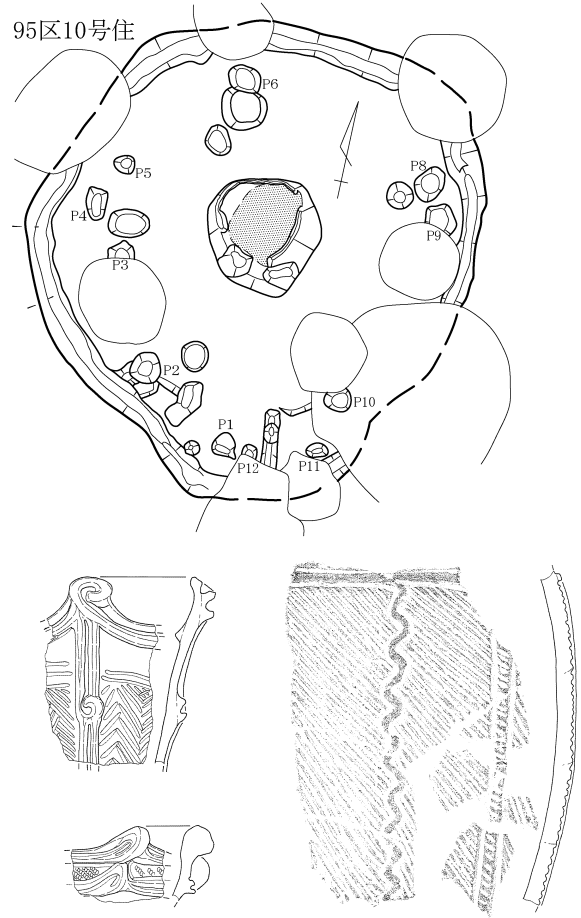
平成14年度調査で検出した中期住居跡のうち、各住居跡に見られる出入口施設の特徴を列記してみよう。

- a. 南側壁際に小ピットが集中し、特に2基の柱穴を中心に「ハ」字状に小溝を設ける例
- b. 南側壁際に小ピットが群在し、小溝を1～2条設ける痕跡。小溝を設けない例もある。
- c. 南側壁際に埋甕を設ける例
 - a) 95区9号住が相当しよう（図1左上）。南側に対称的に配されたピット1とピット6より小溝がハ字状に派生し壁周溝に接する。中位の開くピット7も出入口施設を構築する柱穴と捉えられ、ピット1・6・7による柱と、ハ字状小溝による遮蔽施設が出入口施設として位置付けられる。その他の柱穴は配置のやや不規則な4本柱穴を示すが、ピット6を加えると等間隔の五角形となる。住居跡平面形も入り口部を意識した変則的な六角形であり、炉を含めた主軸線上に乗る出入口施設と見ることができよう。出土土器は加曽利E I式新段階に比定され、本遺跡集落跡内でも古手の一群である。
 - b) 95区10号住（図1右上）と6号住（図1下）からこのタイプを考えてみた。いわゆる間仕切り溝とも

95区9号住



95区10号住



95区6号住

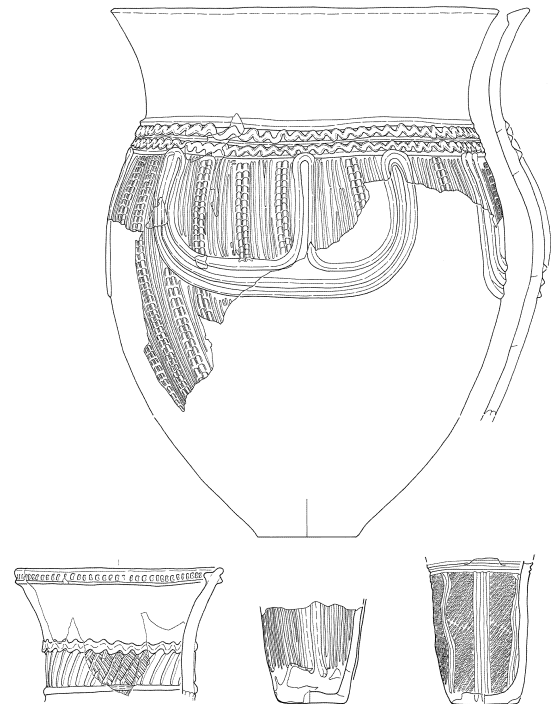
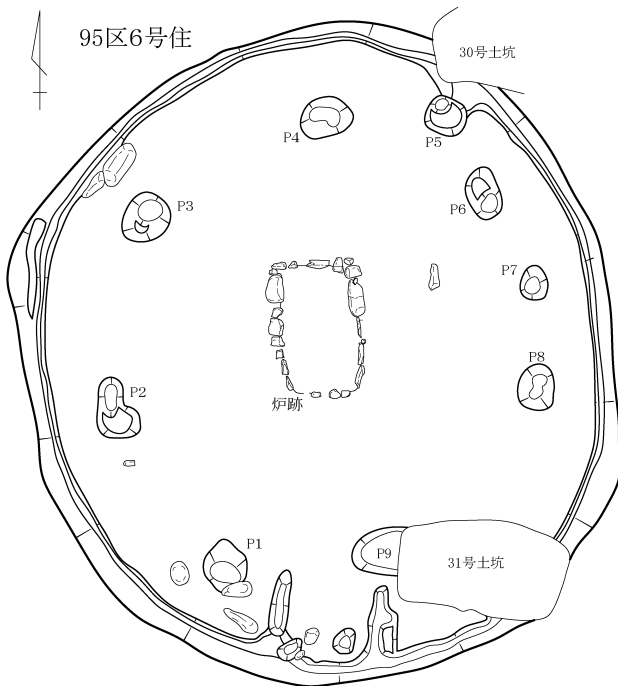
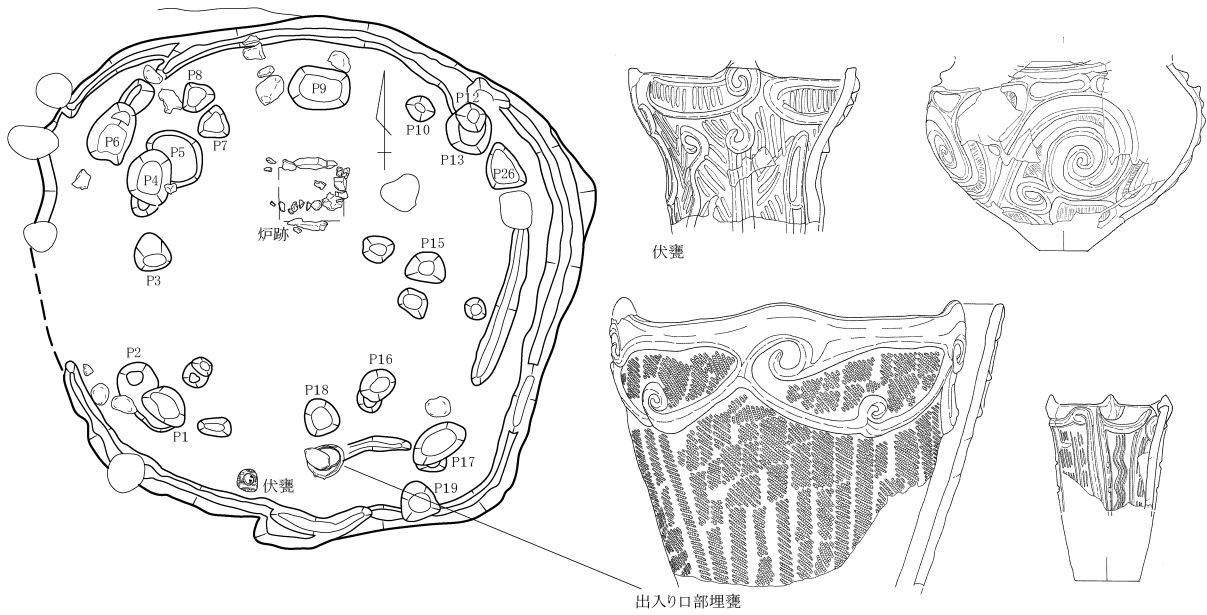
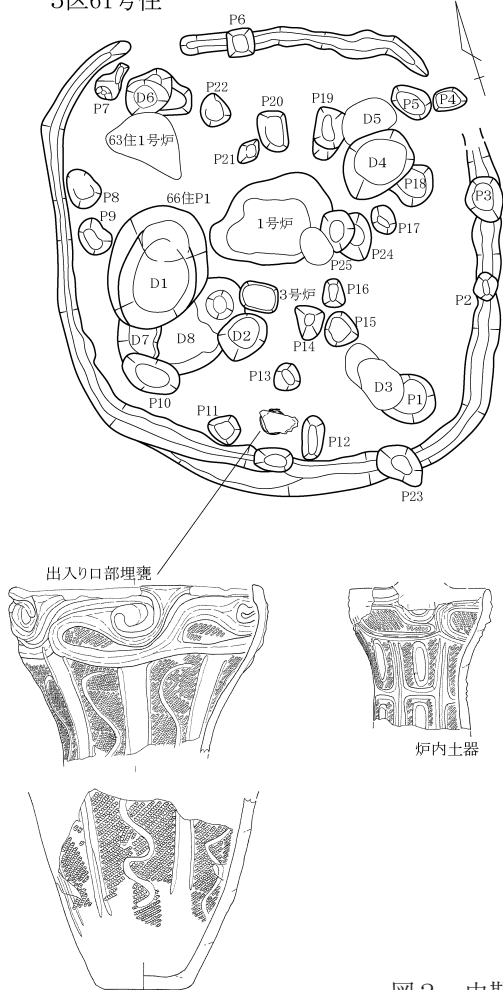


図1 中期で入り口施設を持つ住居跡(1)

95区4号住



5区61号住



95区3号住

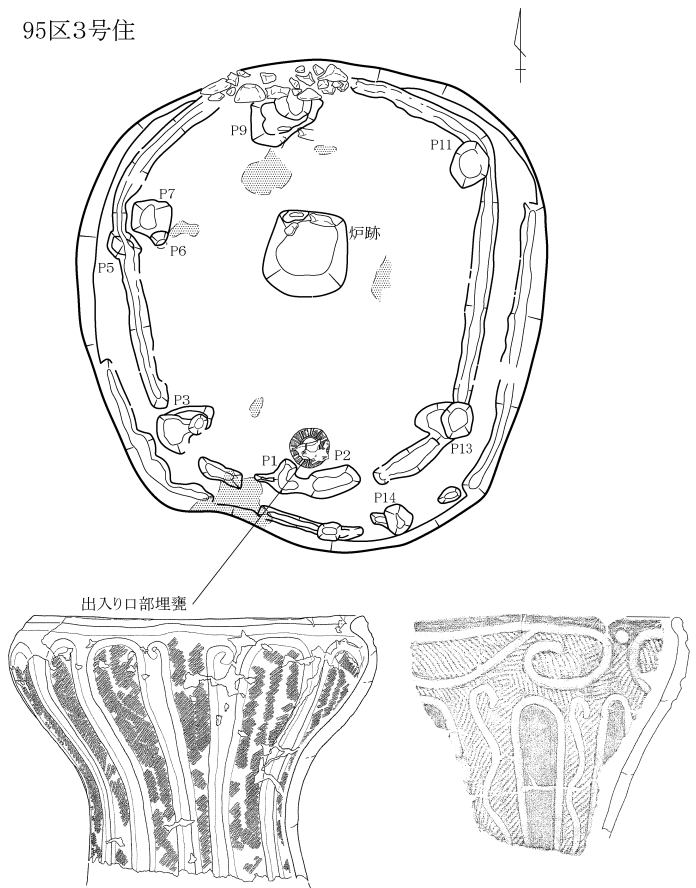


図2 中期で入り口施設を持つ住居跡(2)

いえる小溝が長軸方向に伸び、周辺に小ピットが開けられる。10号住は南壁が突出しており（破線編者）、1条の小溝が主軸方向に設けられる。周辺にはピット1・10・11などの小ピットが配されており、小溝ともに入出口部構築物が想定されよう。また、ピット2東にある小ピットも南側が壁周溝に接しており、小溝と同様の様相が観察される。あるいはこれも加えて八字状小溝と見做し、9号住と同様の施設とみることもできよう。さらに、小溝及び小ピットがある突出部は、住居床面としても、微差ではあるが高くなっている。一方の6号住は、長軸を主軸とする楕円状を呈する住居である。南壁に2条の小溝が主軸に平行し、中位に小ピットが設けられる。小溝2条は平行する遮蔽施設として見ることもできよう。中位の小ピットは、階段状施設の痕跡であろうか。床下調査に至っては、ピット11やピット27・29などが群在しており、ピット1とピット9の間に入念な出入り口施設構築が想定できよう。10号住・6号住とも唐草文系古段階併行の土器を中心に加曾利EⅡ式が伴出しており、当地域における両土器群の混在がピークとなる段階といえよう。

c) 南壁際に埋甕を持つ住居跡として、95区4号住、5区61号住、95区3号住を挙げた(図2)。3軒とも埋甕上に扁平な自然石を置く。4号住は(図2上)、五角形の平面形で南側壁辺が僅かに乱れる。近接する柱穴と壁周溝の在り方から拡張住居として位置付けられよう。埋甕は拡張前の壁周溝に掛かる形で検出されており、拡張後の所産と見ることができよう。安定的な奥壁柱穴であるピット9と炉跡を結ぶ主軸線上に乗る逆位埋甕である。埋甕は加曾利EⅢ式古段階の深鉢で、伏甕等に唐草文系土器が出土している。5区61号住(図2左下)は後期住居跡との重複により、土坑・ピットが多数床面に認められる。その中で、南壁際のピット11・12の間に埋甕を見ることができる。住居跡の平面形は方形を呈するが、南壁際に95区4号住と同様に乱れを見ることができ、埋甕・ピット11・12等とともに出入り口施設として位置付けられよう。ピット12は楕円状の平面形を呈し、あるいは小溝と同様の遮蔽施設の存在も想定しておきたい。埋甕は加曾利EⅢ式で正位に埋設されていた。95区3号住(図2右下)は4号住と近似の住居といえよう。重複・近接する柱穴と壁周溝の在り方は拡張住居跡であり、平面形も五角形を基調とし、南側壁は緩やかながら湾曲が乱れている。埋甕は南壁際の拡張前壁周溝の内縁に設けられており、あるいは拡張前より設けられた例かもしれない。小溝・小ピットなど出入り口構築物を示唆する遺構は見られなかったが、北壁奥の集石施設及び安定的な奥壁柱穴ピット9-炉跡を結ぶ主軸線上に乗る出入り口部埋甕と位置付けられる。自然石を上位に置き、逆位埋設されていた。体部下半を欠いた加曾利EⅢ式土器である。その他の出土土器も加曾利EⅢ式が多く、唐草文系土器はやや客体的な存在になるようだ。

以上のように、平成14年度調査の中期住居跡出入り口施設を概観したが、全てが南側壁に設けられた例であり、本遺跡で調査された環状集落跡の内縁部(広場空間)を向くものではない。これは南側傾斜という地形的な理由が優先された結果と見ることができよう。また、出入り口部埋甕が定着する例が比較的良好に見られ、特に加曾利EⅢ式段階に集中する傾向を見ることができる。前段階の加曾利EⅠ・EⅡ式古段階では、出入り口施設に埋甕が設けられてはおらず、EⅡ式新段階～EⅢ式段階に出入り口部埋甕が設けられるようだ。この段階は、唐草文系土器群と加曾利EⅢ式土器が共伴する段階であり、長野地域の出入り口部埋甕施設が、当地域にも定着した時期と見ておきたい。ただし、他の遺跡-例えば坪井Ⅱ遺跡SI05等(富田2000)では埋甕を持たない出入り口施設を有する住居跡もあり、この段階の住居跡全てに出入り口部埋甕が設けられる訳ではない。

ここまでは、本報告書で扱った平成14年度調査における中期出入り口施設を概観したが、次項では、既報告の『長野原一本松遺跡(1)・(2)』から出入り口施設-特に出入り口部埋甕と目される資料を見てみよう。

2. 出入り口部埋甕について（平成6年度～11年度調査から）

屋内埋甕には多様な位置付けが想定されるが、本節では、長野原一本松遺跡における住居内埋甕に注目し、その多くを出入り口部埋甕と判断して集めた。このうち残存状態が比較的良好で、竪穴住居跡として範囲が確定するものを幾つか選び、本遺跡における出入り口部埋甕の様相を把握してみたい。尚、埋甕に関しては、既に多くの研究が蓄積されており、出入り口部埋甕の用途や機能に関しては、編者の浅薄な知識では到底及ばない論題である。ここでは、本遺跡の出入り口部埋甕を概観し、本遺跡の傾向を提示しておきたい。

a) 唐草文系土器の出入り口部埋甕

5区30号住と5区25号住に唐草文系土器が出入り口部埋甕として出土している（図3上）。

30号住は円形の平面形を呈し、北壁直下に埋甕を見る。口縁部と底部を欠いた唐草文系土器（3）で、床面よりやや突出する状態で正位に埋設されており、「踏む」行為を想定する出入り口部埋甕とは趣を異にする。しかしながら、埋甕両脇には小ピットが対で開けられ、出入り口施設としての可能性を高める。主軸線上にも一致する出土位置であり、ここでは出入り口部埋甕として位置付けるが、あるいは前述の95区3号住北壁奥の集石遺構のような、奥壁施設の可能性もある。注意を要しよう。共伴資料として、炉内土器1（加曾利EⅡ）、2（枅倉式の変容形）が出土しており、色彩に富んだ異系統土器群の共伴を示す。

25号住も北壁奥に埋設された唐草文系土器（1）による出入り口部埋甕を見ることができる。これも、30号住と同様に北壁直下であり、奥壁施設としての可能性を残すが、25号住埋甕は上位に扁平な自然石を置くことから、出入り口部埋甕として考えておきたい。住居跡平面形は南側壁を20号住に切られ判然としないが、五角形～六角形を呈するようだ。南壁が壊されているため、南側に出入り口施設が存在した可能性も念頭におかなければならないだろう。共伴資料としては3等の唐草文系土器が主体だが、炉体土器は加曾利EⅢ式の深鉢体部下半（2）である。

b) 加曾利EⅢ式土器の出入り口部埋甕

前述の平成14年度調査分の出入り口部埋甕は全て加曾利EⅢ式土器であり、本遺跡の出入り口部埋甕の主体は加曾利EⅢ式土器といえよう。（図3下・図4）

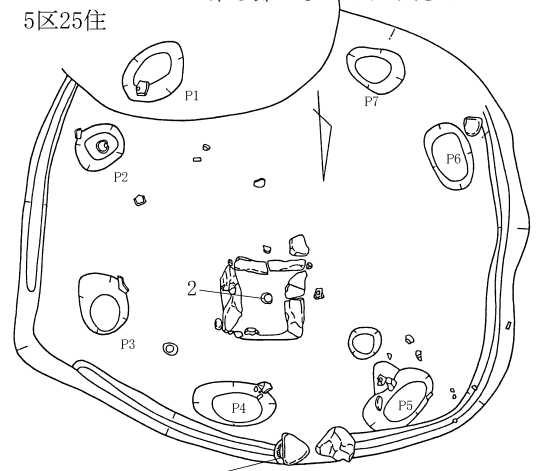
5区26号住は主軸に沿って2基の出入り口部埋甕が検出されている。2基とも正位に埋設されている。内縁の壁周溝が、内側の埋甕（2）に近接しており、そのことから拡張に伴う埋甕新設行為が想起されるが、2基の埋甕の間には敷石が置かれ、敷石住居跡としての位置付けも可能である。東側には小溝が主軸に平行しており、遮蔽施設を持つ出入り口部左右空間と見ることもできる。敷石住居前駆段階の住居形態であろうか。出土土器3も埋甕2の上位に重なるように出土した加曾利EⅢ式であり、一括性は高い。北半は年度違いで調査されており、出土土器など住居跡の全体像が揃ってから再度検討しなければならないだろう。

5区7号住も、出入り口部埋甕を2基抽出した住居である。1は南壁直下に正位で埋設されていたのに対し、2は南壁外での出土であり、厳密には2個体の同時性は保証できない。ただ、2個体とも加曾利EⅢ式であり、時間差は大きくない。2の出土位置は上屋に掛かる範囲であり、あるいは壁外の埋甕として例外的な存在かもしれない。出入り口部埋甕1は壁奥の柱穴（P1）と炉跡を延長する主軸線に乗り、当該住居跡の出入り口施設として確定できよう。1の加曾利EⅢ式は口縁部文様帯を省略した形態であろうか、変容を加えた文様構成である。

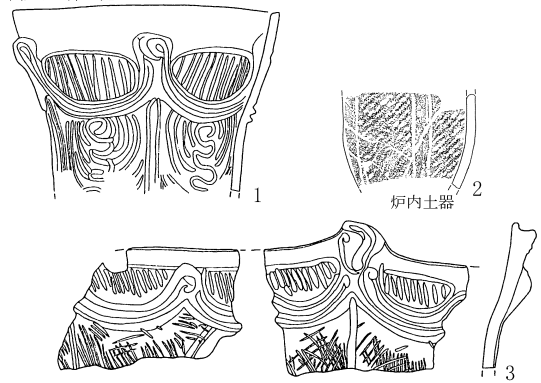
6区5号住の平面形は不整形を呈するが、南側壁の残存状態が良くなく、全容は判然としない。柱穴配置から、円形を基調とした方形プランと考えられよう。石囲い炉2基を持ち、南側の推定壁際に埋甕1基が確認されている。加曾利EⅢ式で、逆位埋設の例である。石囲い炉2基を通す主軸線上にも重なり、出入り口部埋甕と判断できる。残念ながら、その他のピットや壁周溝が検出できなかったため、埋甕1基のみで出入り口部を想定した。その他の出土土器も加曾利EⅢ式が主体を占めており、この段階の唐草文系土器の客体性が窺われよう。

第5節 まとめにかえて

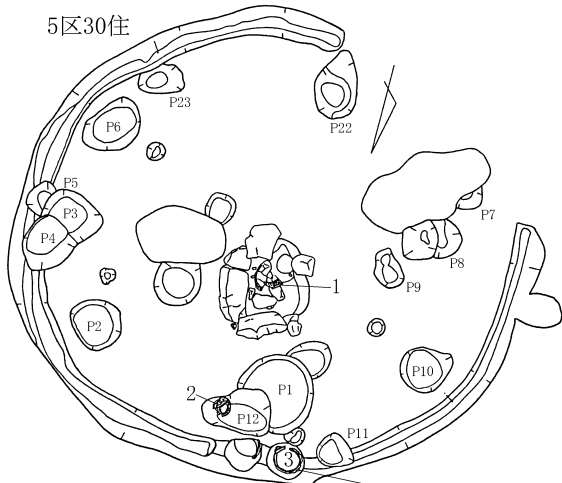
5区25住



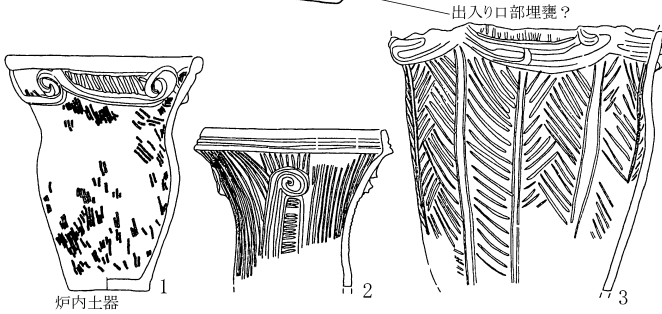
出入口部埋塞?



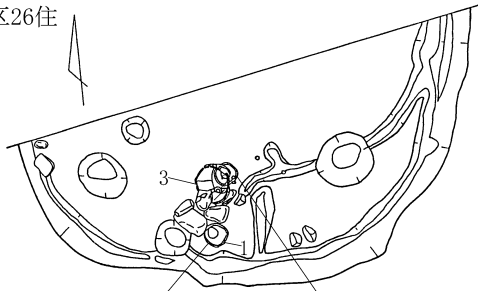
5区30住



出入口部埋塞?

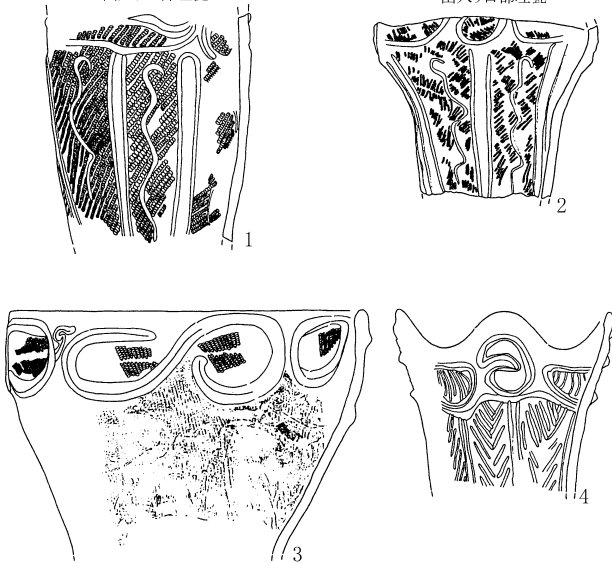


5区26住

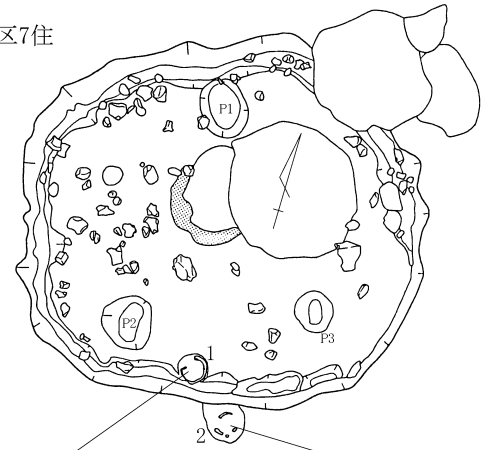


出入口部埋塞

出入口部埋塞



5区7住



出入口部埋塞

出入口部埋塞

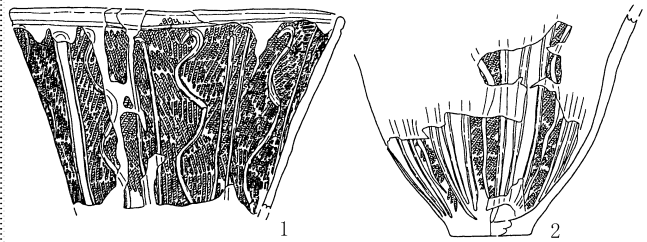
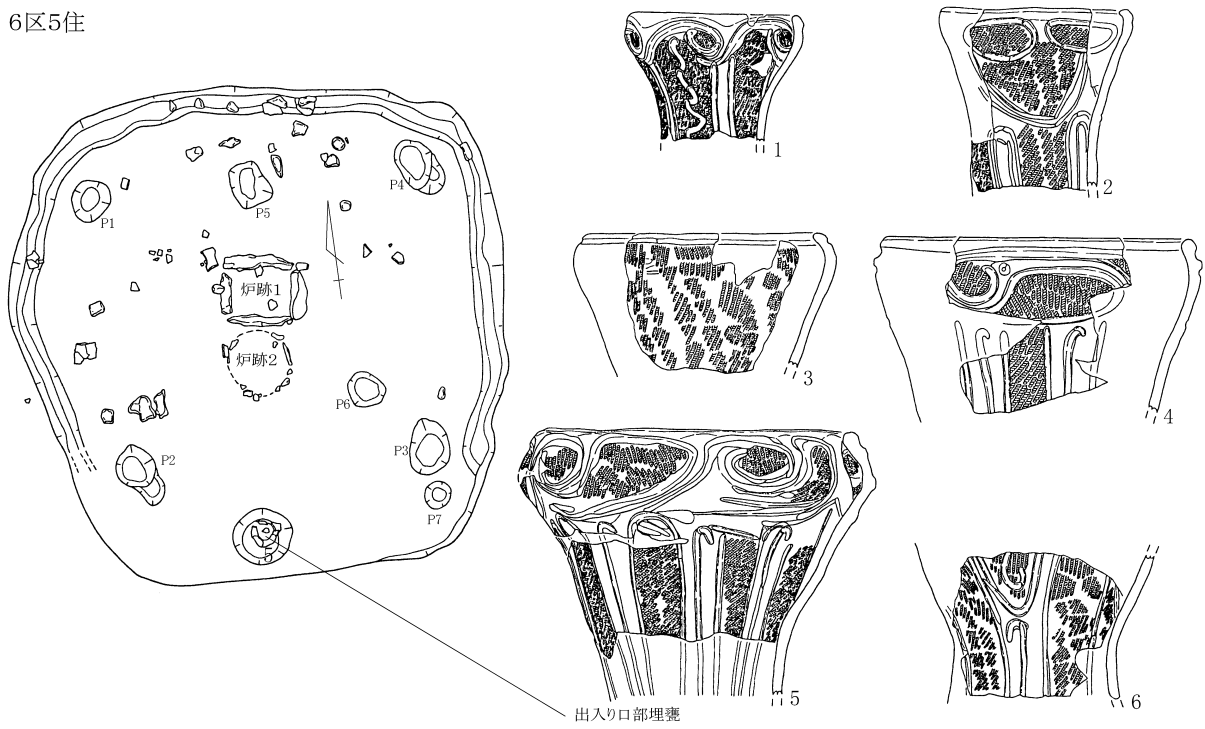
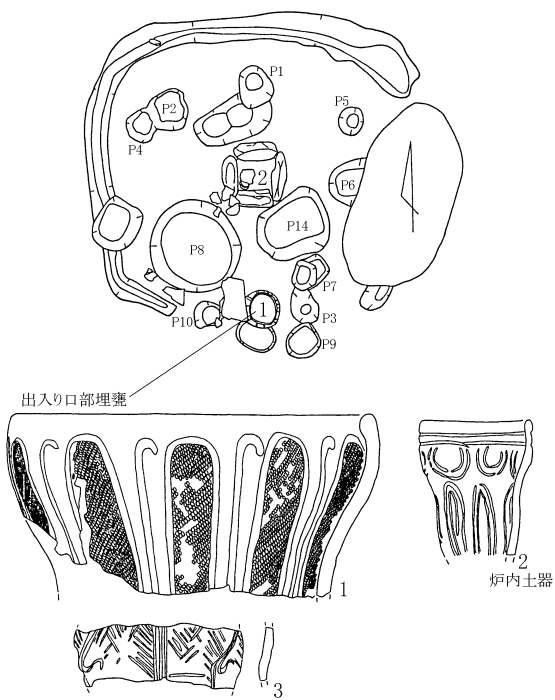


図3 中期出入口施設(埋塞)を持つ住居跡(3)

6区5住



5区33住



5区1住

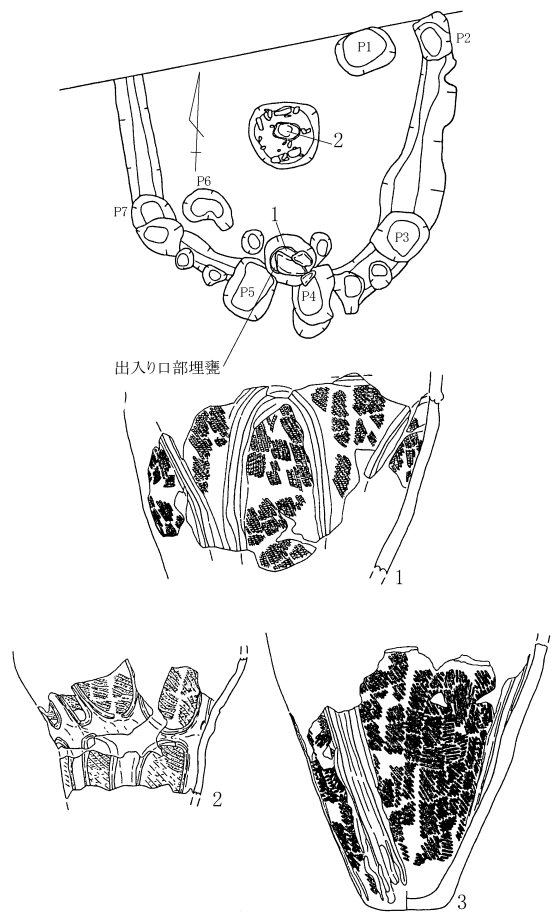


図4 中期出入り口施設（埋塞）を持つ住居跡（4）

5区33号住は敷石住居跡の可能性が高い。出入り口部埋甕として加曾利EⅢ式が逆位に埋設されるが、埋甕脇には大型の扁平な板石が敷かれる。また、西側の壁周溝が途切れることから、敷石と併せて、出入り口部というより、張り出し部が突出する連結部の様相に近似する。報告書でも張り出し部の存在を予想されている。

5区1号住は敷石住居跡であろう。住居跡北側は現道のため調査が及ばなかったが、平面形は楕円状を呈するものと思われる。ピット4・5を対ピットとし、連結部埋甕として1・3を正位で埋設する。上位に自然石が蓋石状に置かれるが、その他の敷石は見られない。埋甕は、調査時に同一個体と見たが、整理時に別個体と判断されている。炉土器(2)と併せて加曾利EⅣ式土器である。

以上のように、本報告書及び既刊報告書による長野原一本松遺跡の出入り口部埋甕を集めてみた。紙数の都合上、既刊報告書からの抜粋は限られた資料となり、この他にも出入り口部埋甕が見られる住居跡が報告されている。さらに、未報告住居跡にも多数の同様な資料が存在しており、本遺跡資料としても全容を網羅しておらず、今回の集成分析では確定的な傾向は提示できなかった。本遺跡の資料整理が全て整った際に再度分析すべき課題である。

今回集めた本遺跡の出入り口部埋甕をみると、加曾利EⅢ式土器に偏る傾向がある。出土土器組成とすれば唐草文系土器との共伴が多く見られ、埋甕埋設時の選択に際して、唐草文系土器が選ばれる可能性もあるにもかかわらず、加曾利EⅢ式土器を選択する傾向は、重視しなければならない。一つの要因としては、6-5号住などにみる、加曾利EⅢ式土器主体の土器組成を示す住居跡の存在から、加曾利EⅢ式土器への組成傾斜が観測されることであろう。また、埋甕設置位置も加曾利EⅢ式土器は南側に設けられ、唐草文系土器は北側へ埋設される。唐草文系土器は2例のみであるが、土器の系統差が埋置位置へ反映した現象と見ることができ。

埋甕選択に際する加曾利EⅢ式土器への偏重、設置位置選択においても系統差を意識しており、異系統土器が混在する住居跡にしても、土器を使用した施設-出入り口部埋甕に関しては、強い選択意識が働いたものと考え。

3. まとめと今後の課題

長野原一本松遺跡の整理報告作業は、まだ途中段階である。今回扱った課題は、資料が揃った段階で試みるべきであろう。しかしながら、本書で扱った平成14年度調査における中期後葉の住居跡群は、極めて残存状態が良く、编者としても、何等かの考えを巡らせてみたいという資料であった。中期出入り口施設として、南側壁に設けられた小ピットや溝、埋甕を対象にして、分析を試みた次第であるが、今後本遺跡の報告書が重なるに従い、修正を余儀なくされる分析となろう。今回はあくまでも集成と覚書程度としてご容赦願いたい。また、周辺の遺跡-例えば坪井Ⅱ遺跡や横壁中村遺跡の事例も加えて、当地域の特色を提示しなければならない。紙数と時間の都合上、長野原一本松遺跡の既報告資料に留まった分析になり、残念である。

本遺跡の加曾利EⅠ式・EⅡ式古段階では、出入り口施設は、95区9号住や6号住にある「ハ」字状小溝や2条の平行する小溝に見るように、遮蔽施設が存在し、小ピットの群在からも、入念な出入り口部構築が指向されていたものと捉えられる。出土土器を見ると、既に唐草文系土器との共伴が定着した様相を示しており、当地域における長野県域の強い土器文化伝播が把握されよう。

加曾利EⅡ式新段階から加曾利EⅢ式古段階にかけて、長野県域に多く見られる埋甕を埋設する出入り口施設が本遺跡に浸透し、出入り口部埋甕として定着したのであろう。5区61号住や95区3号住・4号住に顕著であった下半部を欠いた深鉢を埋設し、蓋石状に扁平な自然石を埋甕上に置く傾向がある。ただ、5-30号住や5-25号住にあるような、北壁直下の唐草文系土器による出入り口部埋甕は、奥壁祭祀遺構との関連もあり、慎重に考えるべきと自問したい。しかしながら、「土器埋設行為」に土器の系統差が意識され、土

第4章 分析とまとめ

器本体への選択や埋設位置の選択に反映する現象は興味深い。異系統土器群共存の中での系統差が意識された一行為と判断したい。

更に、土器組成が加曽利EⅢ式に比重が高まる中、出入り口部埋甕への選択は加曽利EⅢ式に偏る結果となる。5区7号住や26号住・30号住があたる。この加曽利E式土器選択の傾向はそのまま敷石住居に継続され、連結部埋甕にも加曽利EⅢ式やEⅣ式が埋設されることになる。5区33号住や5区1号住がこれにあたる。もちろん、この出入り口部埋甕の変化が、そのまま敷石住居跡への発生や変化とは直結しないだろう。ただし、出入り口部埋甕を上位で塞ぐ扁平な自然石の在り方を見ると、出入り口部における敷石行為の端緒とも捉えられ、後の敷石住居への変化の一端とも考えられよう。例えば、加曽利EⅢ式段階の5-26号住では2基の埋甕周辺に敷石がなされ、5-33号住居跡は板石を埋甕に接して置いている。さらに5-1号住は加曽利EⅣ式の埋甕上位に蓋石状に自然石が塞ぐ。このように、出入り口部埋甕周辺は敷石行為が行われる範囲であり、敷石住居へと変化する際の重要な基点となった可能性がある。出入り口が遮蔽施設やピットによって、ある程度の空間が定まり、住居によっては壁が突出する例も見られる(95区10住等)。その後出入り口部埋甕と扁平な蓋石の浸透により、その周辺に何等かの基点が意識されるようになる。この段階で、出入り口空間である埋甕周辺が広く取られ(あるいは拡張され)、数個の敷石による出入り口部下面の強調が果たしたのではないか(5区26号住等)。注意しなければならないのは、この現象が張り出し部への突出とは一概には言えず、多くの要素が介在し敷石住居への変化が達成したものと考えなければならない。

また、本遺跡の傾向を見ると、唐草文系土器と加曽利E式との組成変化の変化に伴い、出入り口部の変化も活発化するようだ。長野地域の土器文化圏にあって、加曽利E式との活発な交渉は、すまいの変化にも関与したのであろうか。この課題に関しては、整理作業の蓄積を待って、土器の変容を加えて改めて取り組みたい課題である。

極めて、雑駁に本遺跡の中期出入り口施設を考えてみた。整理途中の覚書であり、出土土器の詳細な変化を加えた分析ではない。当地域における該期土器組成の変化は既に富田氏によって指摘されており(富田2000)、この組成変化を追証する形で出入り口部の変化を捉えてみた。無論、土器の変化と住まいの変化が常に連動するとは限らず、様々な複雑な要素が絡み合う。さらに、各地域で報告されている中期出入り口施設の様々な諸例はこの限りではなく、多くの要素が混在する在り方を示している。本遺跡の事例のみで、該期住居施設の様相は把握できないだろう。前にも述べたように、周辺遺跡の資料も加えて、更に詳細な分析が必要である。

住居内には多くの施設が存在し、縄文人の生活と安全を支えている。施設の一つが欠けたとしても生活は成り立たないのである。今回は、中期出入り口施設を通して、その生活を垣間見ようとしたが、編者の力量が及ばず、詳細な分析が不十分なまま、生活ぶりの一端も捉えられなかった。反省する次第である。

稿末になってしまったが、本稿のみならず本遺跡の様々な整理作業にあたり、八ッ場ダム調査事務所整理グループの職員の方々には、多大なる御協力・御指導をいただいた。記して感謝したい。(敬称略 順不同)

石田 真 小野和之 黒沢照弘 篠原正洋 須田正久 中沢 悟 藤巻幸男 諸田康成

引用文献

富田孝彦 2000 『坪井Ⅱ遺跡』 長野原町教育委員会

諸田康成 2002 『長野原一本松遺跡(1)』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

小野和之 2007 『長野原一本松遺跡(2)』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

本稿及び本文中において、長野地域の土器群である曾利式や「郷土式」などをまとめて唐草文系土器として記述している。本来ならば、混乱のない呼称を用いるべきであるが、検討する時間的余裕もなく、やむなく唐草文系土器として報告した。唐草文系土器は、適当な呼称ではなく、今後は群別・類別呼称を含めて再検討したい。

発掘調査報告書抄録

書名ふりがな	ながのはらいっぼんまついせきかっこよん
書名	長野原一本松遺跡（4）
副書名	ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	24
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	441
編著者名	山口逸弘
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20080328
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ながのはらいっぼんまついせき
遺跡名	長野原一本松遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざながのはらあざいっぼんまつ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字一本松
市町村コード	1024
遺跡番号	0063
北緯（日本測地系）	363241
東経（日本測地系）	1383914
北緯（世界測地系）	363252
東経（世界測地系）	1383902
調査期間	20020401-20030331
調査面積	6400㎡
調査原因	ダム建設工事に伴う代替地造成工事
種別	集落
主な時代	縄文 / 平安
遺跡概要	集落 - 縄文時代 - 住居19+柱穴列3+炉9+土坑群+配石+包含層 - 土器+石器/平安時代 - 住居2+土坑
特記事項	縄文時代中期～後期の環状集落の一部。良好な柄鏡形敷石住居跡を掲載する。
要約	縄文時代中期後葉と後期初頭～前葉にかけての環状集落。本冊は南側の住居群の一部を中心に報告した。中期の住居跡は円形～六角形の平面形を示し、南壁に出入り口施設を設ける形態を見る。また、北壁に石組み施設を設ける例も1軒見られた。後期集落跡は柄鏡形敷石住居跡群が近接する様相を呈し、60号住居跡は全面敷石を呈し、炭化材を壁際に巡らす良好な状態を示す。出土土器も信州系の資料や新潟地域の土器群が見られ、本遺跡の地理的な条件を具体化する。石器は石鏃・石錐が目立ち、軽石製品も加わる。

写真図版





長野原一本松遺跡遠景(西から)



平成14年度5区・95区調査範囲(白線内) 撮影は平成6年



5区58号住居跡全景



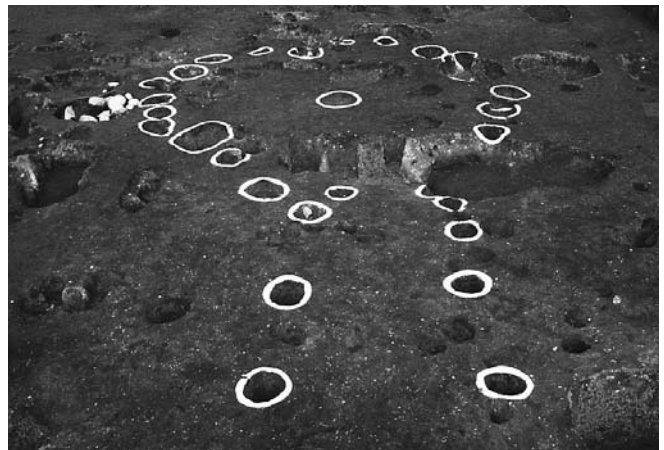
5区58号住居跡炉跡



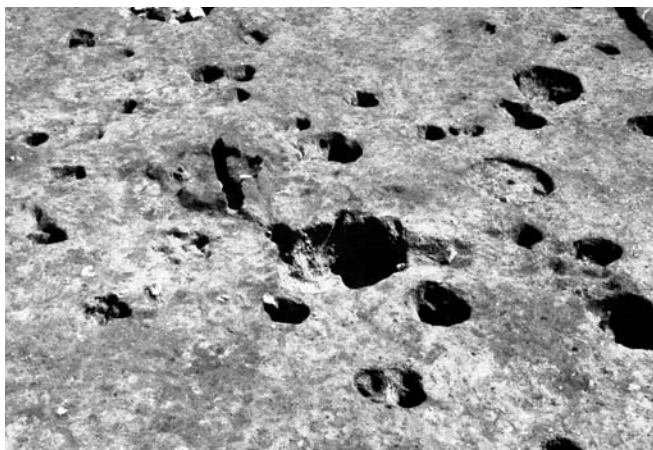
5区58号住居跡北西部



5区58号住居跡土層



5区58号住居跡全景



5区59号住居跡全景



5区59号住居跡炉跡



5区60号住居跡全景

全面敷石住居跡である。住居部は板石で、張り出し部は川原石で敷石がなされる。張り出し部壁は積み石による石垣状で、極めて立体的な構築である。また、住居部分の壁から距離を置いて炭化材が沿う。壁際の木材施設一例えば柵状施設等が想定できよう。炉内からは2個体の深鉢が出土している。時期は堀之内1式である。



5区60号住居跡住居部敷石状況



5区60号住居跡張り出し部敷石状況



5区60号住居跡張り出し部敷石状況



5区60号住居跡張り出し部敷石状況



5区60号住居跡連結部敷石状況



5区60号住居跡連結部敷石状況



5区60号住居跡炭化材出土状況



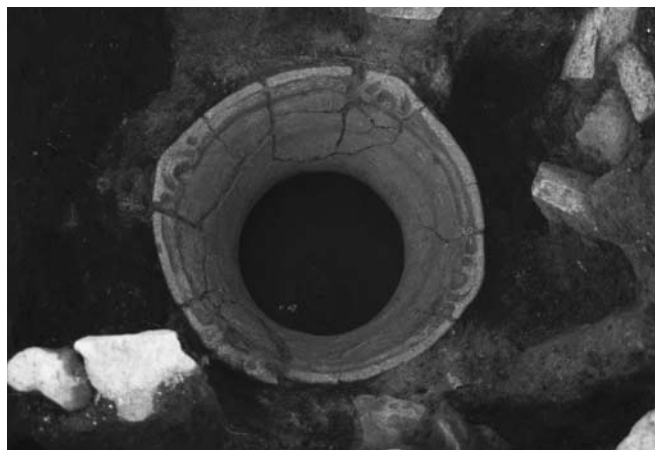
5区60号住居跡炭化材出土状況



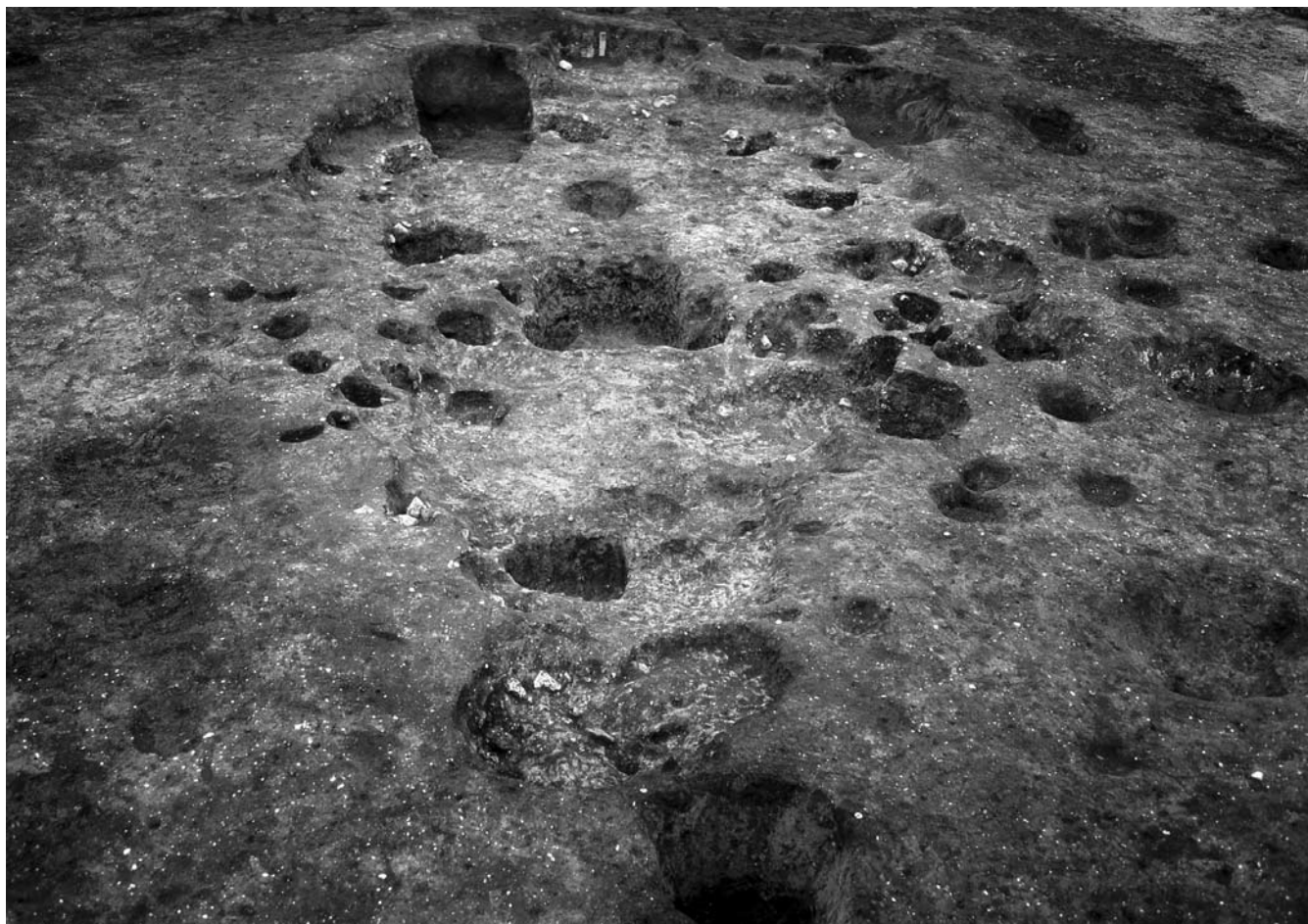
5区60号住居跡炉内埋設土器(上位)



5区60号住居跡炉内埋設土器(上・下位)



5区60号住居跡炉内埋設土器(下位)



5区60号住居跡床下状況



5区61号住居跡全景



5区61号住居跡1号炉



5区61号住居跡2号炉



5区61号住居跡埋甕



5区61号住居跡床下



5区62号住居跡全景



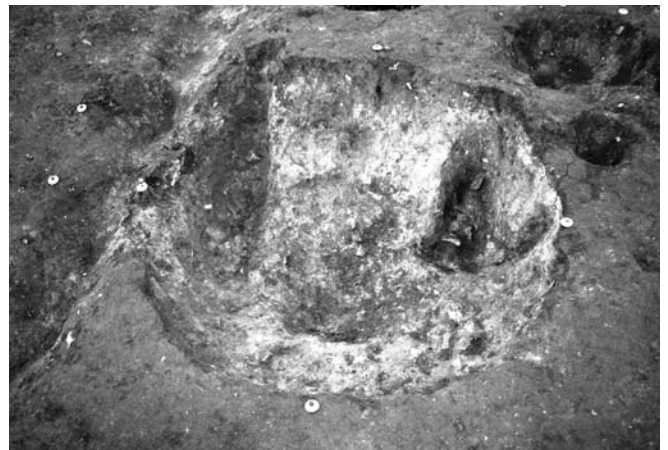
5区62号住居跡炉跡



5区62号住居跡炉内埋設土器



5区62号住居跡連結部石囲い施設



5区62号住居跡炉掘り込み



5区63号住居跡全景



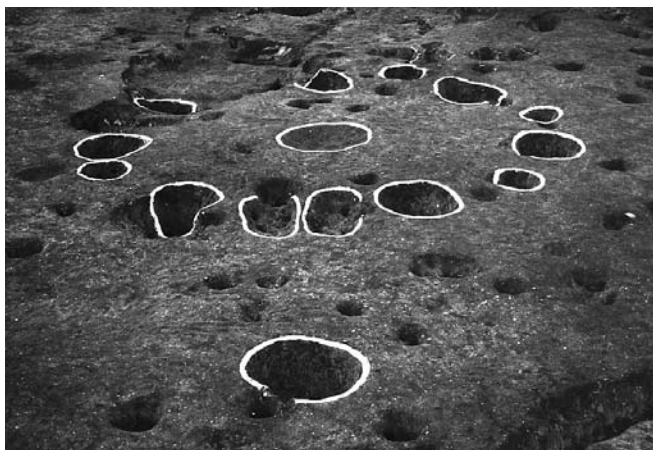
5区63号住居跡炉跡



5区64号住居跡全景



5区64号住居跡遺物出土状況



5区65号住居跡全景



5区65号住居跡炉跡



5区66号住居跡全景



5区66号住居跡埋設土器



95区3号住居跡全景



95区3号住居跡集石施設



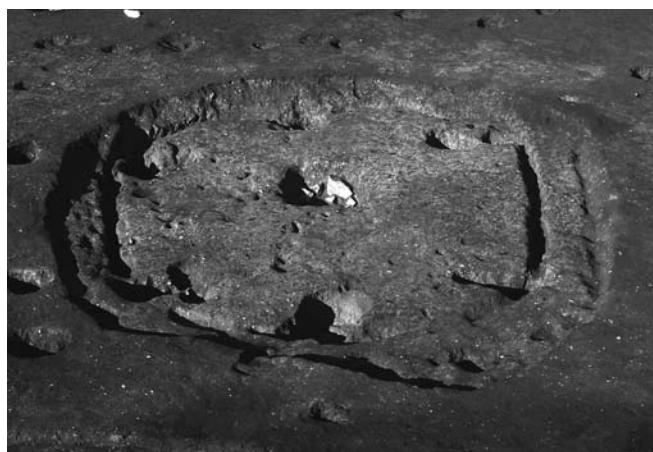
95区3号住居跡埋甕



95区3号住居跡炉跡



95区3号住居跡炭化材出土状況



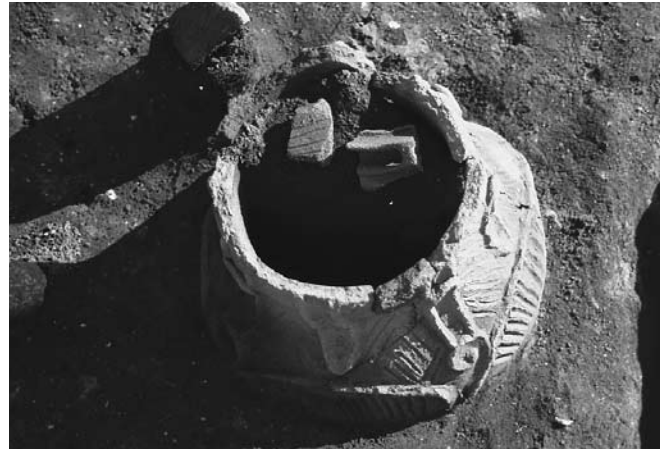
95区3号住居跡床下全景



95区4号住居跡全景



95区4号住居跡埋甕上位の石



95区4号住居跡伏甕



95区4号住居跡炉跡



95区4号住居跡埋甕



95区4号住居跡遺物出土状況



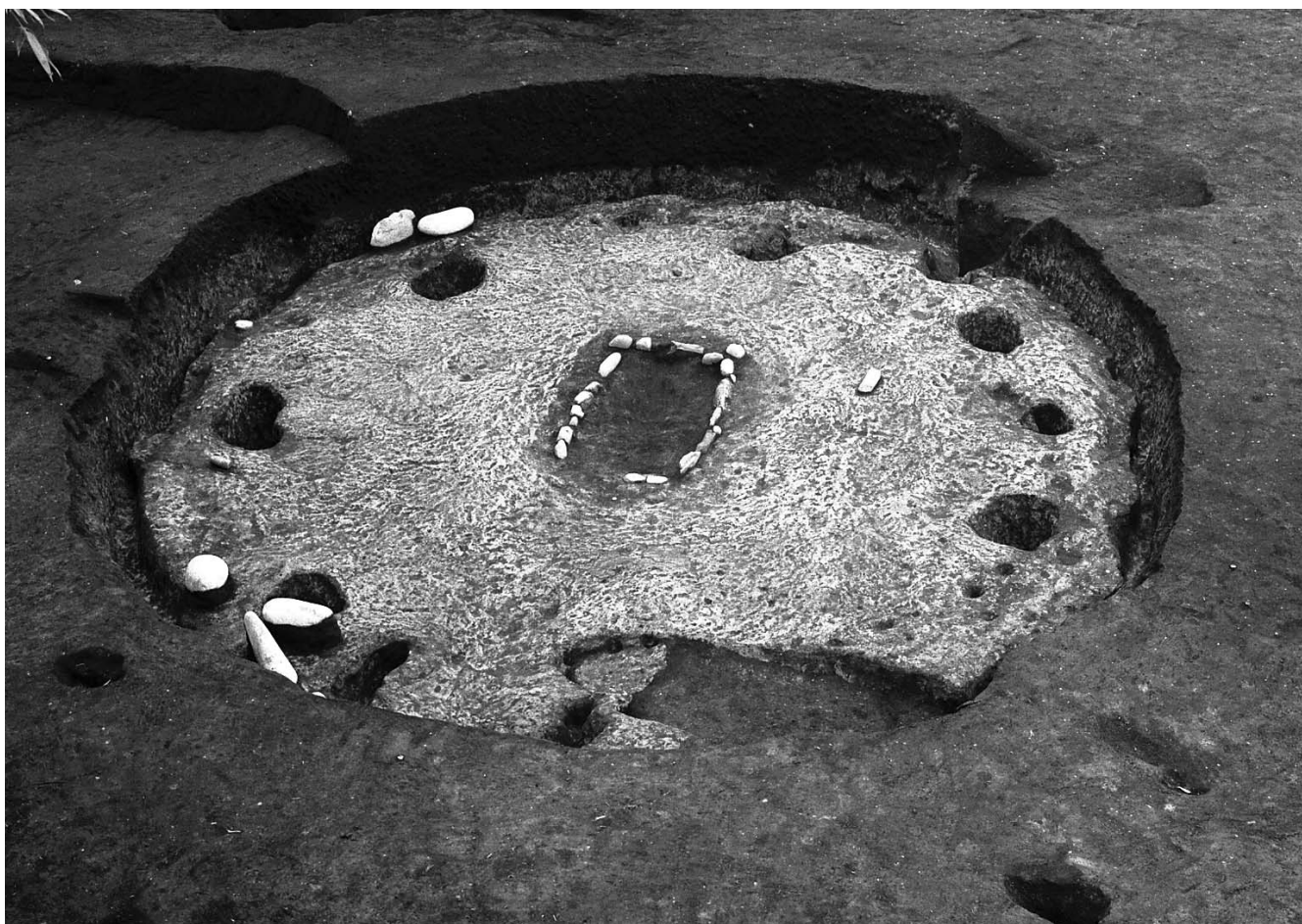
95区4号住居跡遺物出土状況



95区4号住居跡遺物出土状況



95区5号住居跡全景



95区6号住居跡全景



95区6号住居跡炉と出入口部



95区6号住居跡炉跡



95区6号住居跡遺物出土状況



95区6号住居跡遺物出土状況



95区6号住居跡遺物出土状況



95区6号住居跡床下



95区6号住居跡床下炉周辺



95区6号住居跡床下入り口部周辺



95区6号住居跡炉調査風景



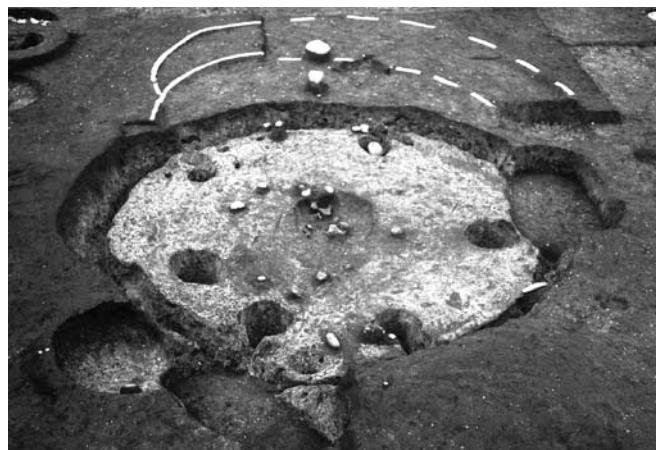
95区7号住居跡全景



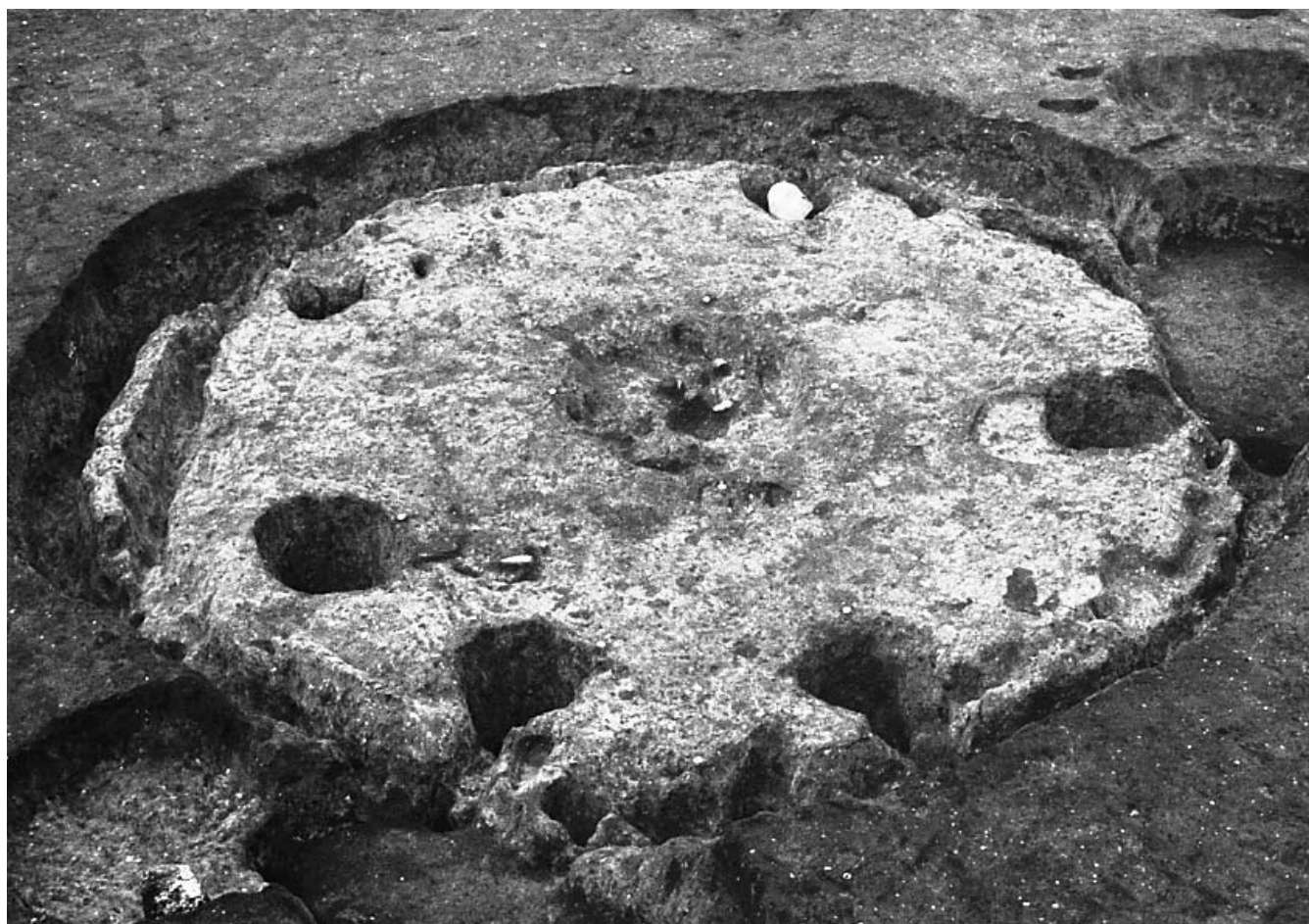
95区7号住居跡炉跡



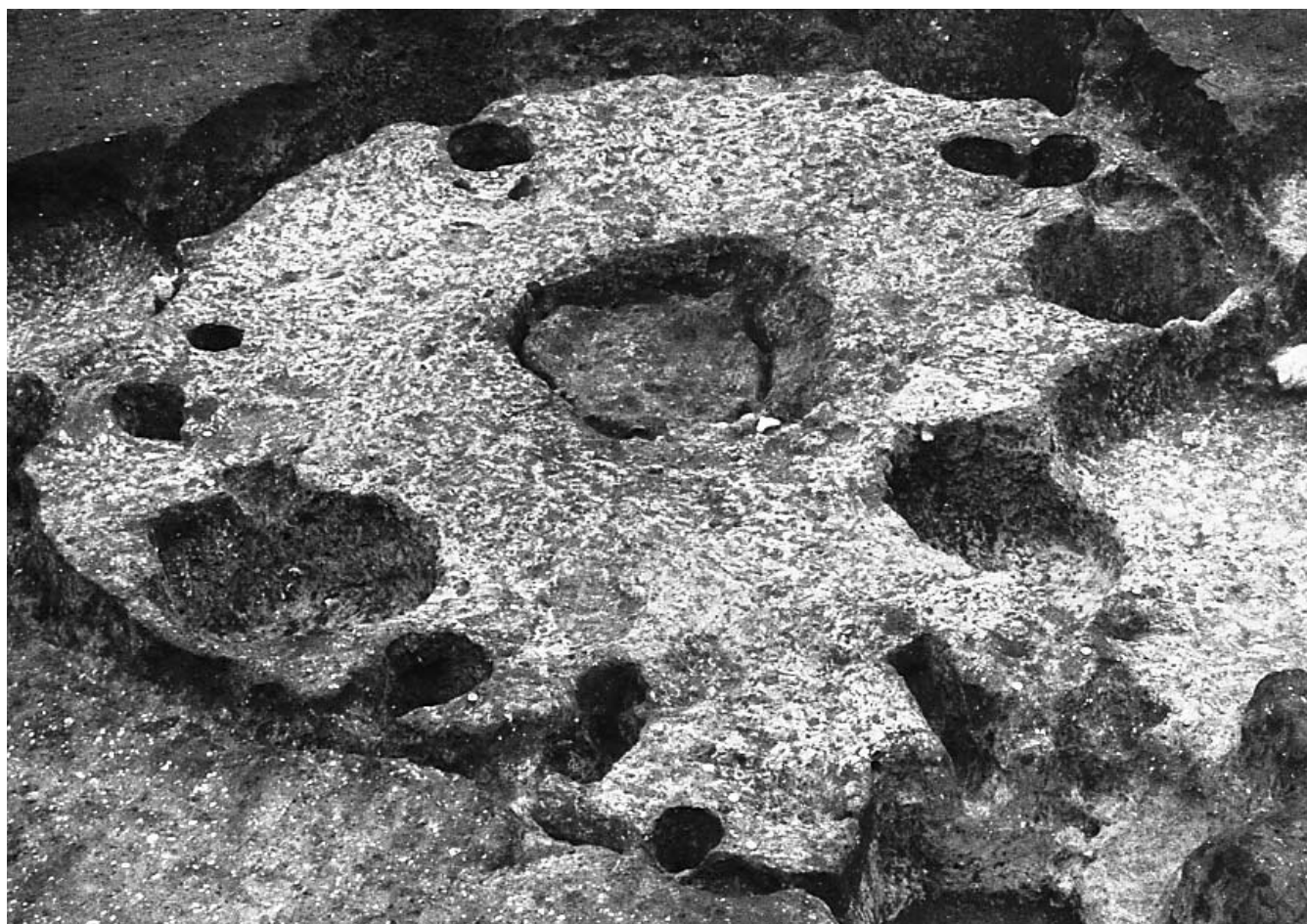
95区7号住居跡伏甕



95区7~9号住居跡全景



95区9号住居跡床下全景



95区10号住居跡全景



95区10号住居跡炉跡



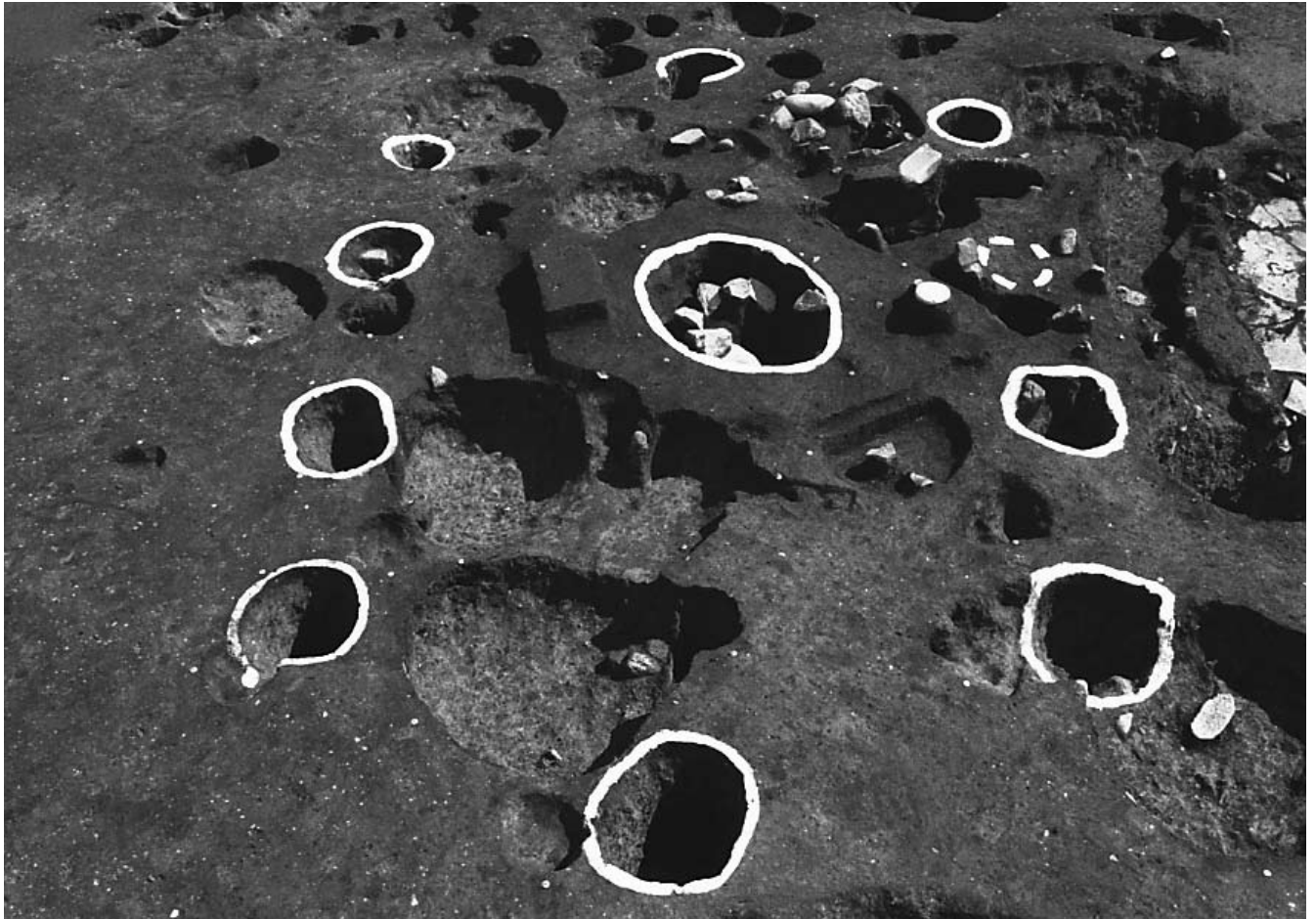
95区10号住居跡床下



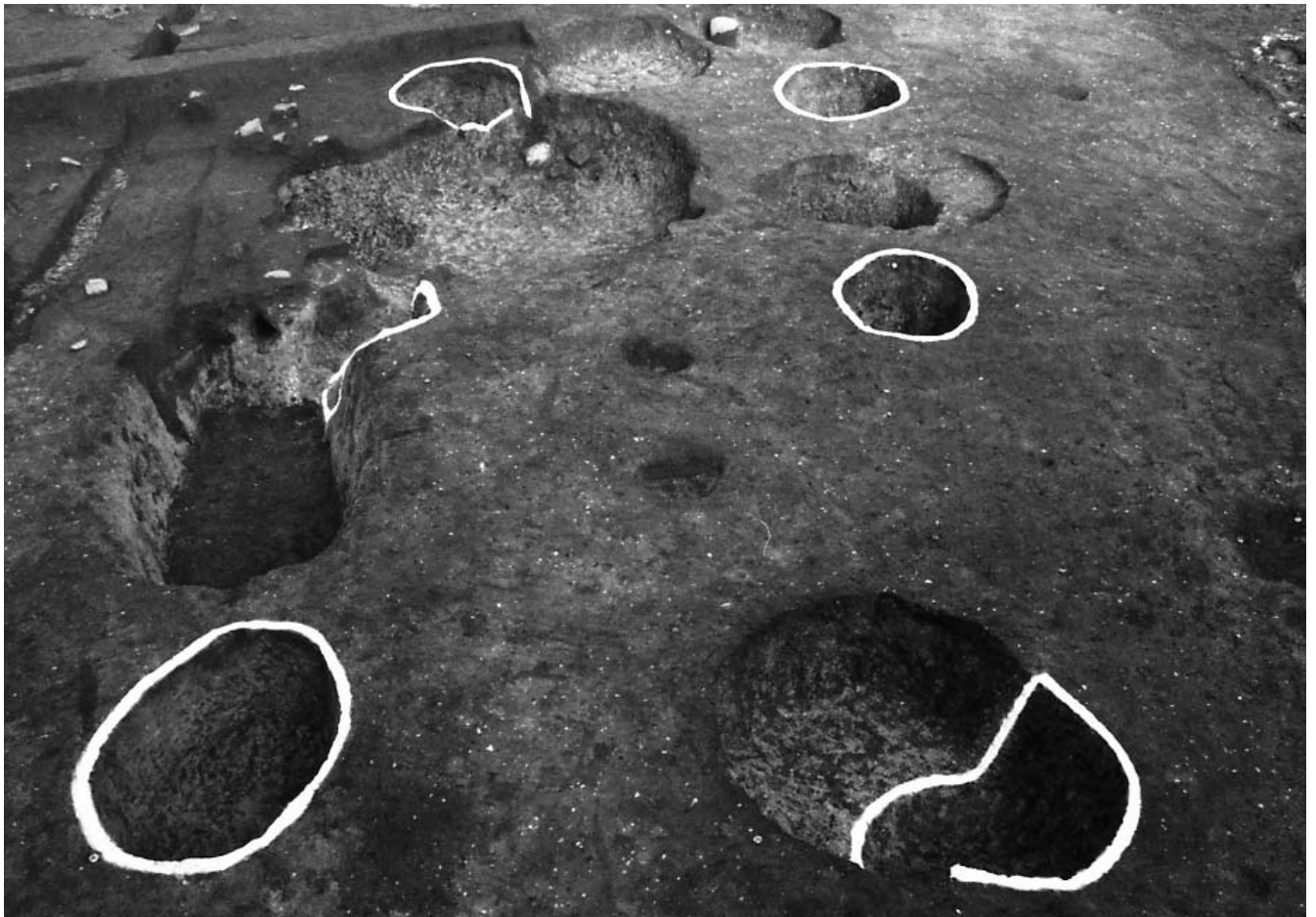
95区10号住居跡出入口部



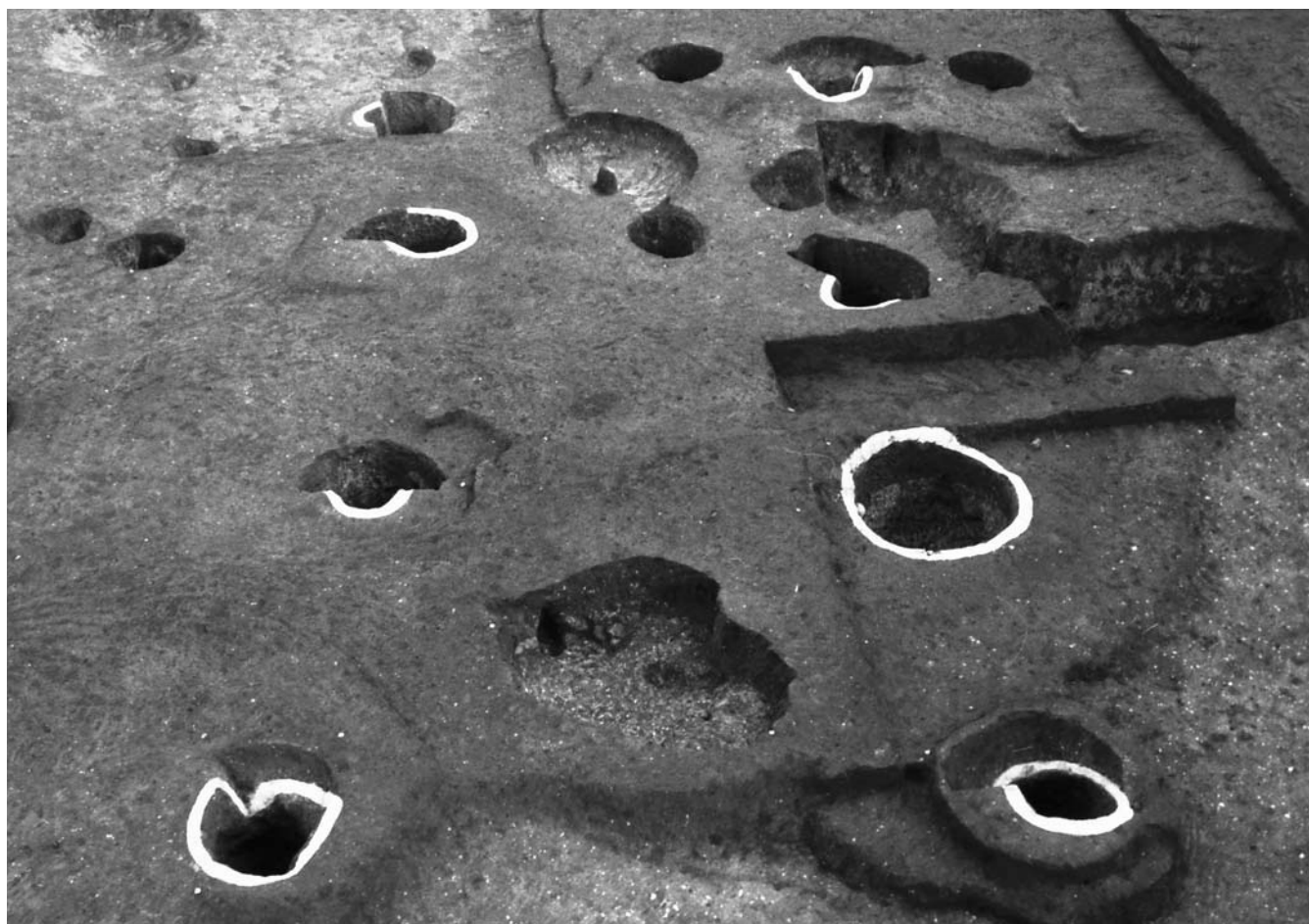
95区11号住居跡遺物出土状況



5区1号建物跡



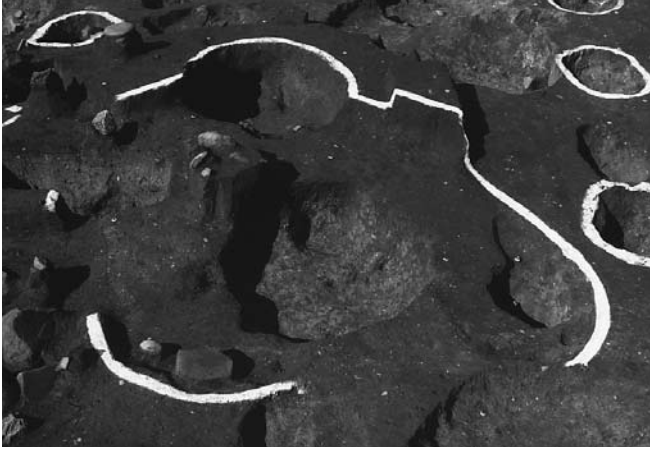
95区2号建物跡



95区1号建物跡(柱痕)



95区1号建物跡完掘



5区1号竖穴状遺構



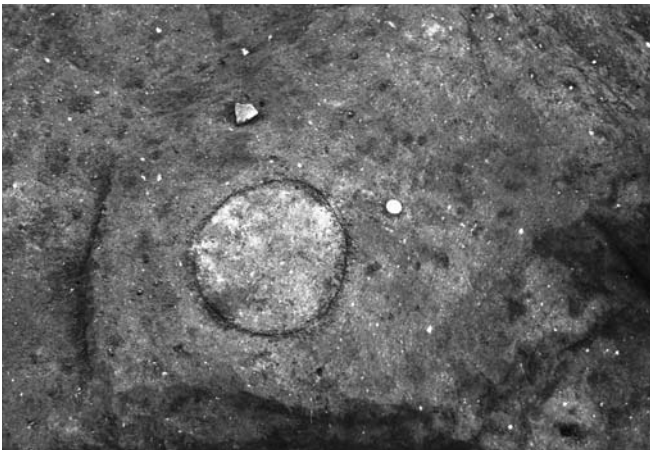
5区9号炉跡



5区10号炉跡



95区1号炉跡



95区2号炉跡



95区3号炉跡



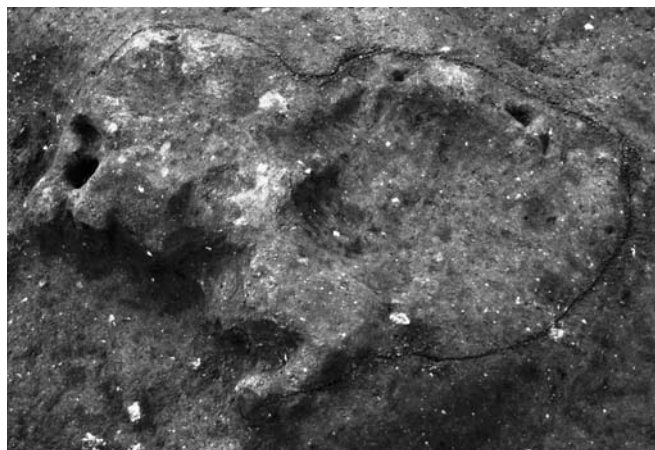
95区4号炉跡



95区5号炉跡



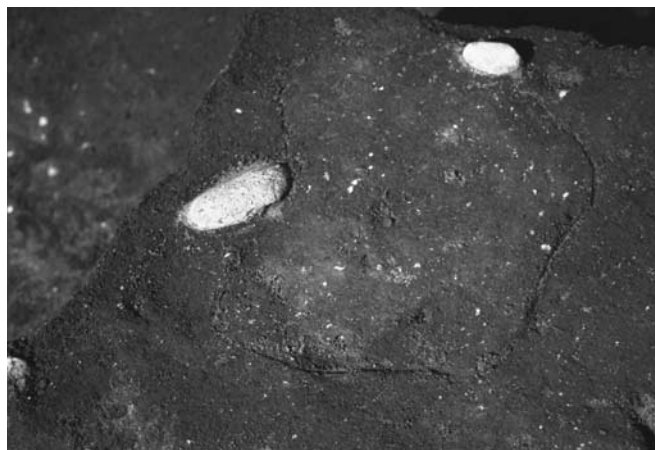
95区6号炉迹



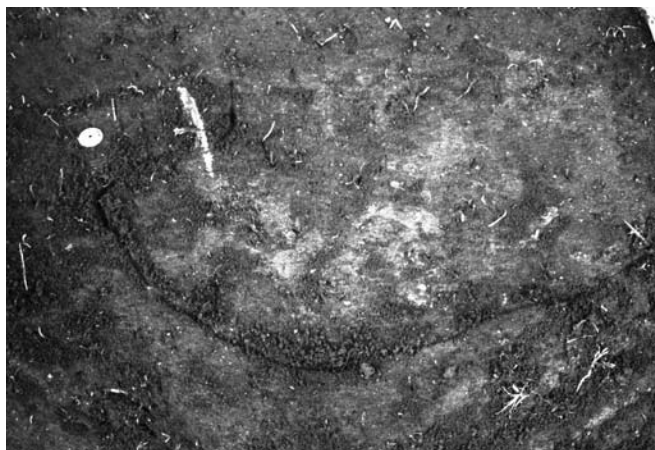
95区7号炉迹



95区8号炉迹



95区9号炉迹



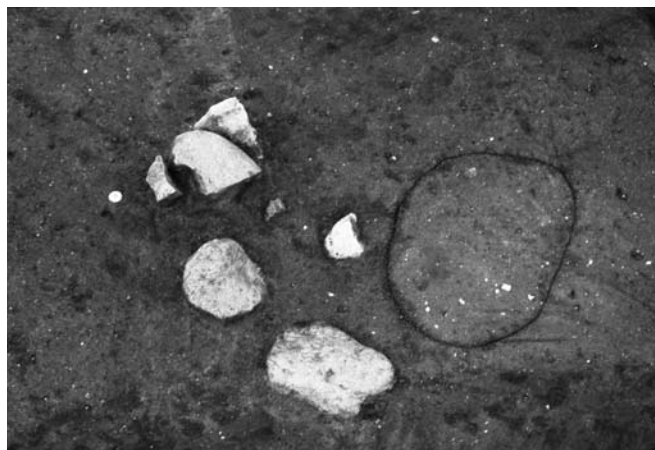
95区10号炉迹



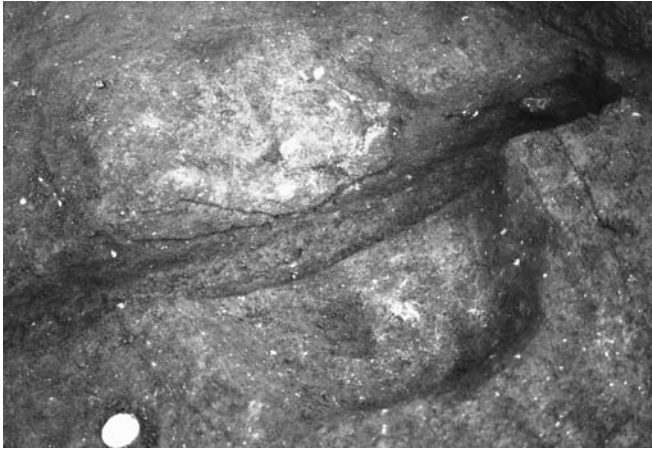
95区11号炉迹



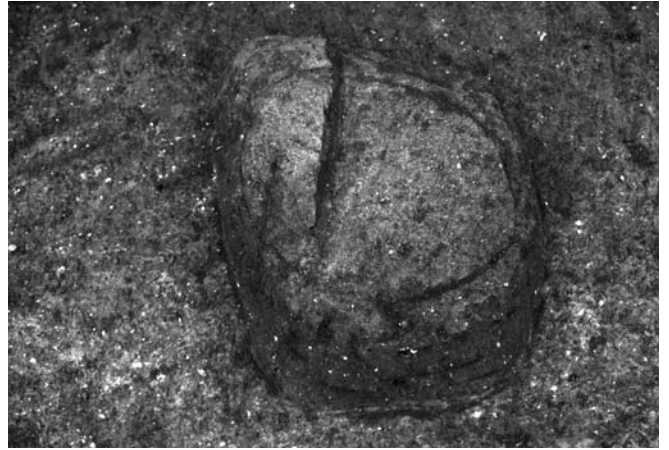
95区12号炉迹



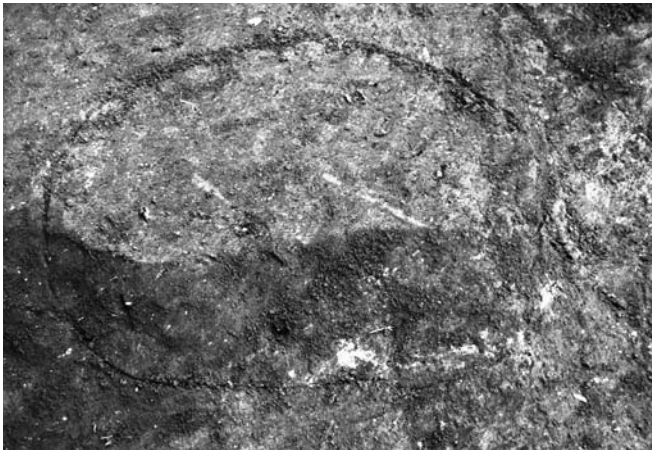
95区13号炉迹



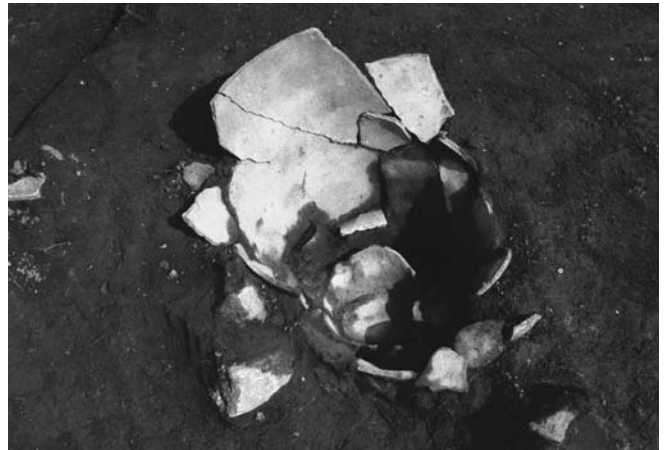
95区14号炉迹



95区15号炉迹



95区16号炉迹



5区8号埋甕



5区8号集石



95区1号集石



5区754号土坑



5区754号土坑



5区762号土坑



5区765号土坑



5区755号土坑



95区44号土坑



95区44号土坑



95区51号土坑



95区67号土坑



5区628号土坑



5区678号土坑



5区679号土坑



5区680号土坑



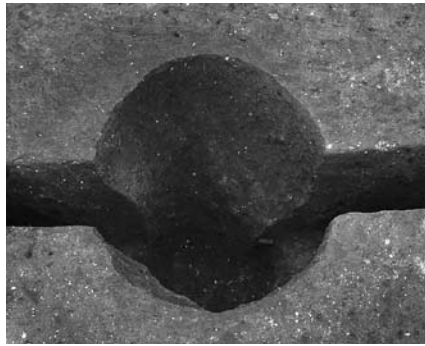
5区711号土坑



5区712号土坑



5区713号土坑



5区714号土坑



5区715号土坑



5区716号土坑



5区717号土坑



5区718号土坑



5区719号土坑



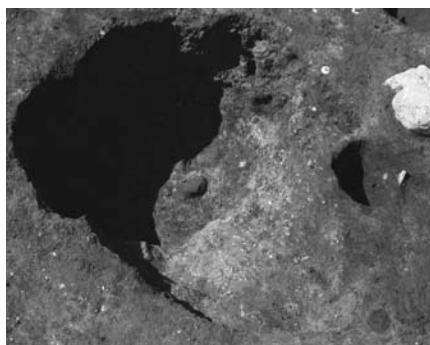
5区720号土坑



5区721·722号土坑



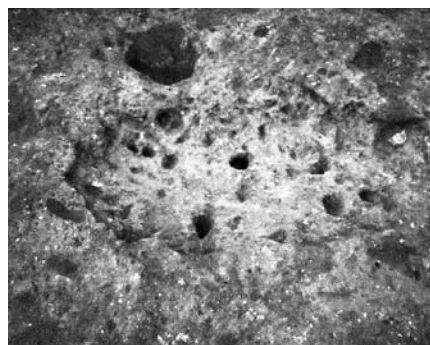
5区722·723坑号土坑



5区724号土坑



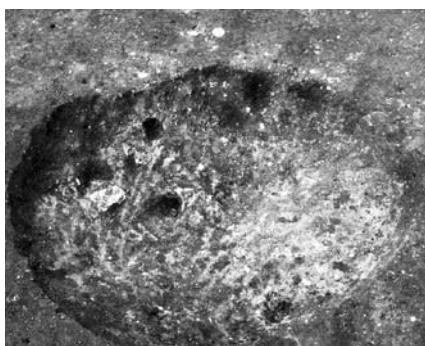
5区726号土坑



5区727号土坑



5区728号土坑



5区729号土坑



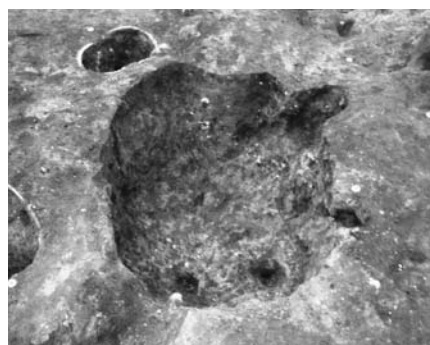
5区730号土坑



5区731号土坑



5区732号土坑



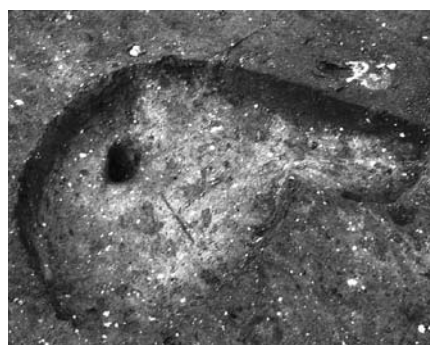
5区733号土坑



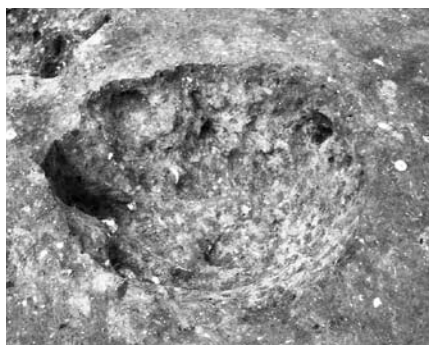
5区734号土坑



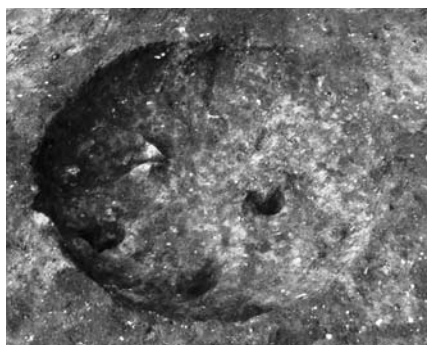
5区735号土坑



5区736号土坑



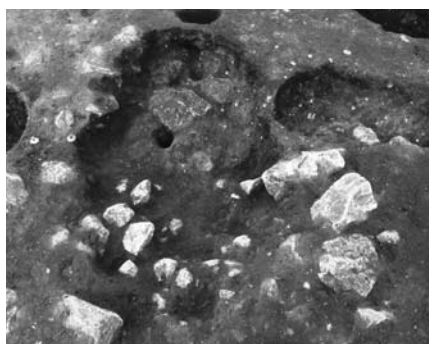
5区737号土坑



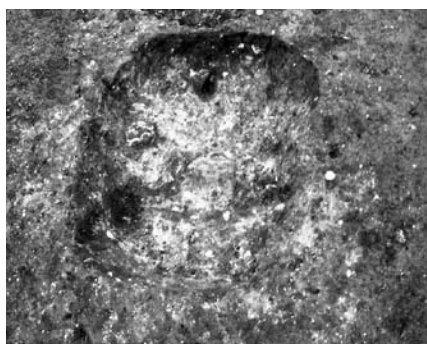
5区738号土坑



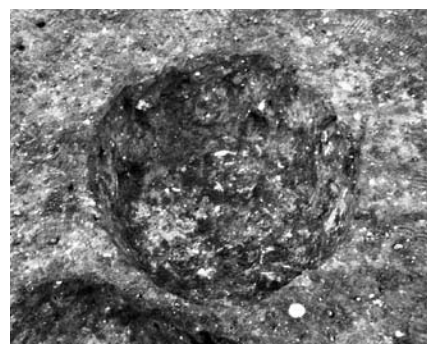
5区739号土坑



5区740号土坑



5区741号土坑



5区742号土坑



5区743号土坑



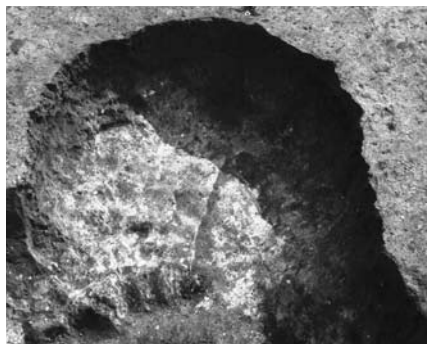
5区746号土坑



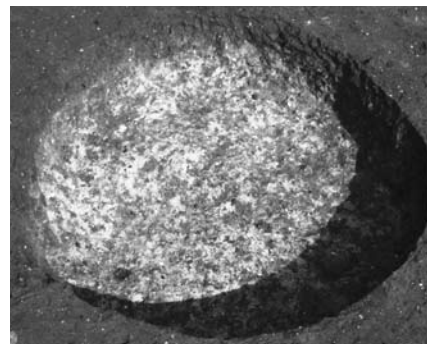
5区747号土坑



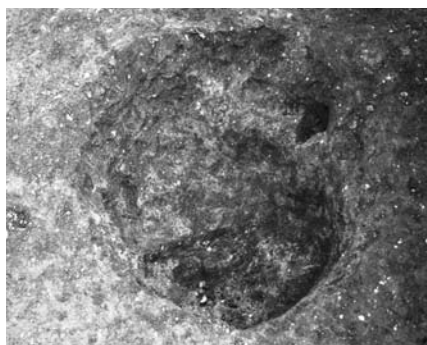
5区745号土坑



5区748号土坑



5区749号土坑



5区750号土坑



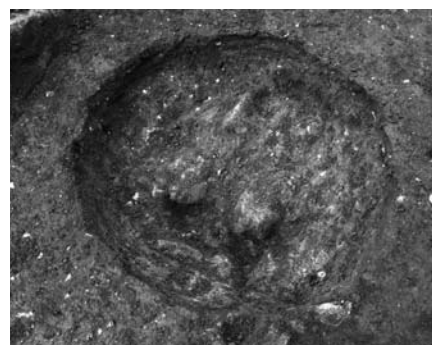
5区751号土坑



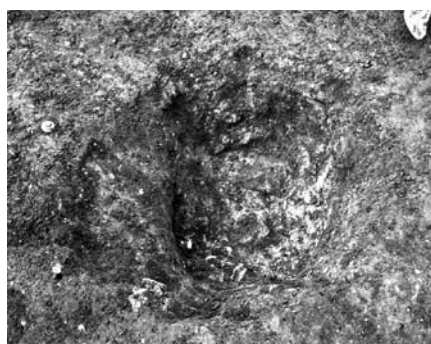
5区752号土坑



5区753号土坑



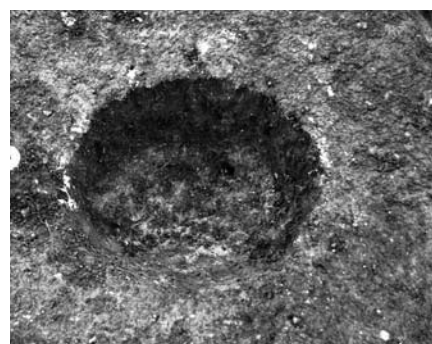
5区755号土坑



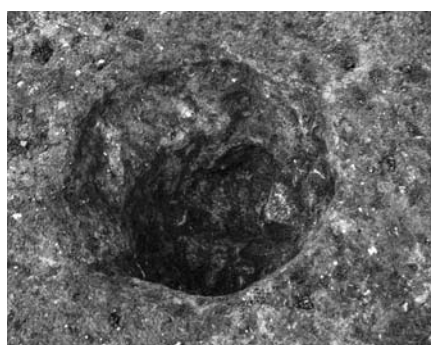
5区756号土坑



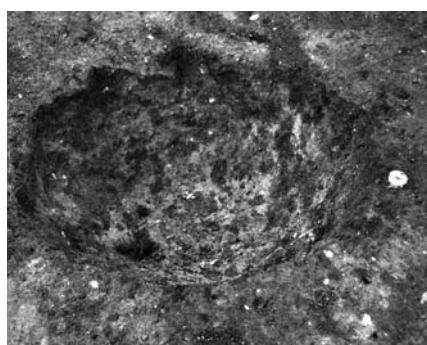
5区757号土坑



5区758号土坑



5区759号土坑



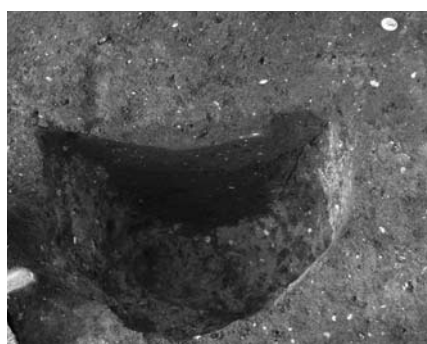
5区760号土坑



5区761号土坑



5区763号土坑



5区764号土坑



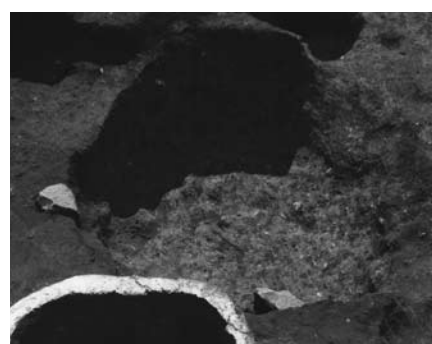
5区766号土坑



5区767号土坑



5区768号土坑



5区769号土坑



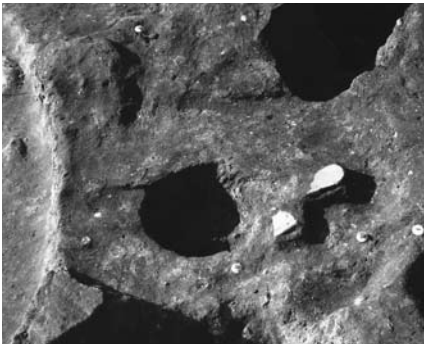
5区770·772号土坑



5区773号土坑



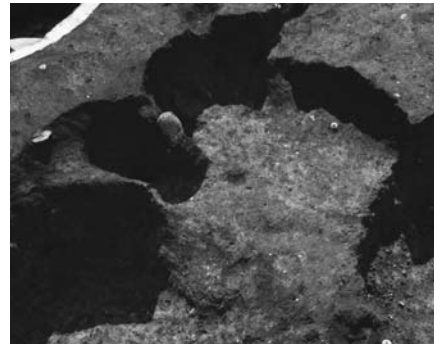
5区777号土坑



5区778号土坑



5区779号土坑



5区781号土坑



5区782号土坑



5区785号土坑



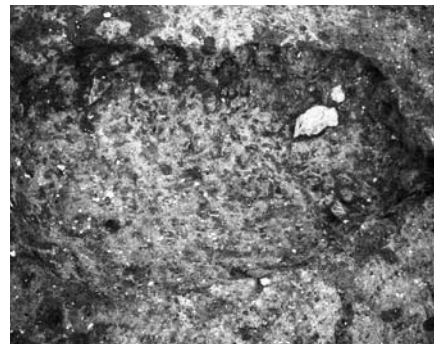
5区791号土坑



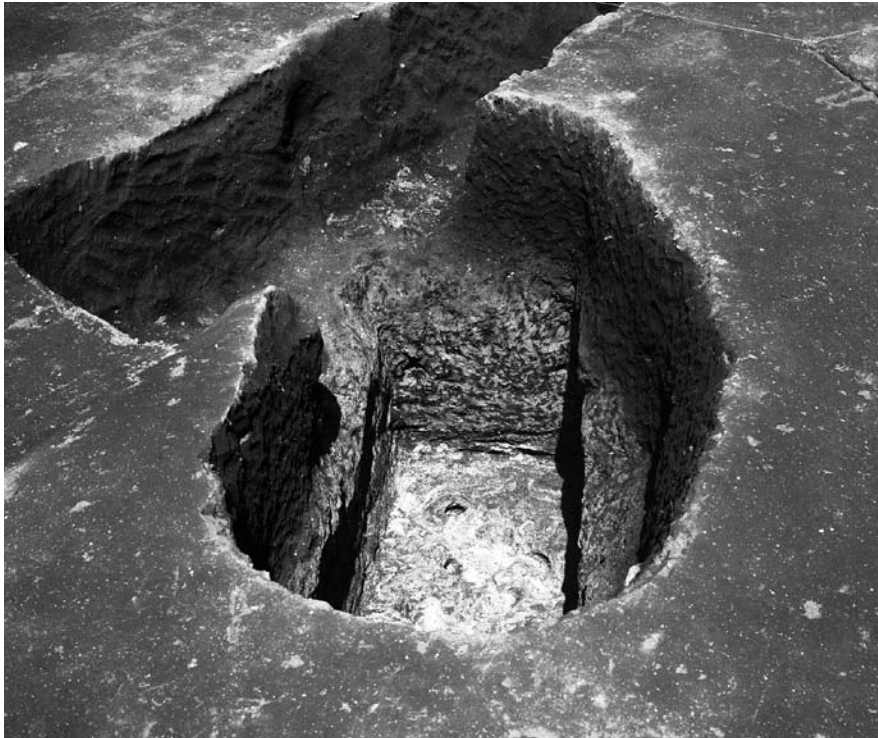
5区786号土坑



5区798号土坑



5区799号土坑



95区30号土坑



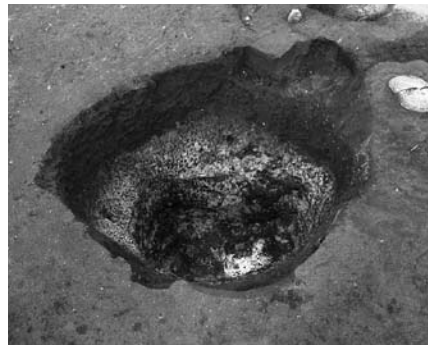
95区29号土坑



95区31号土坑



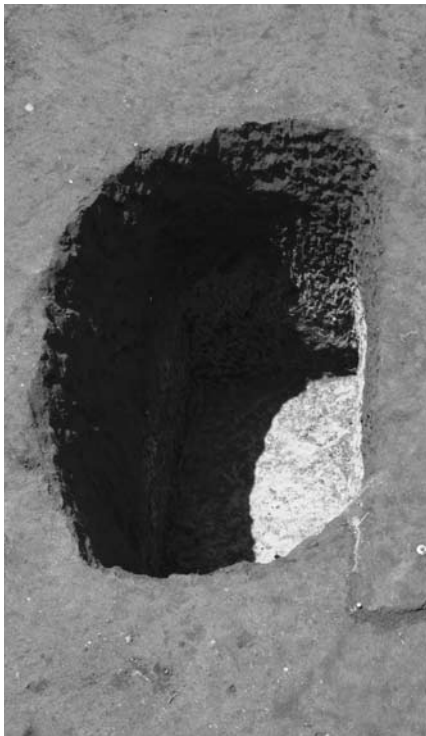
95区32号土坑



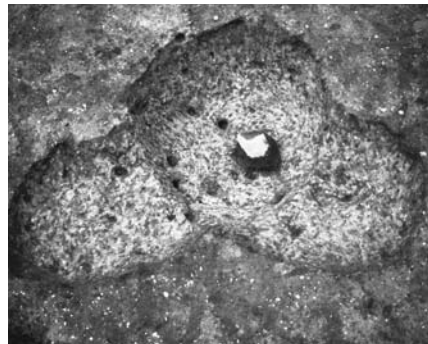
95区33号土坑



95区34号土坑



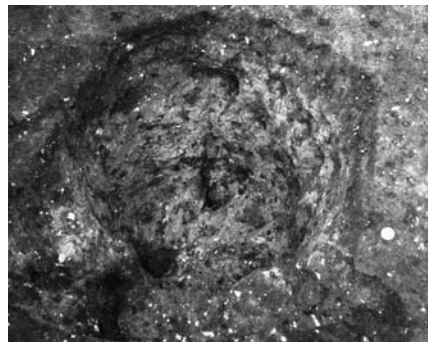
95区35号土坑



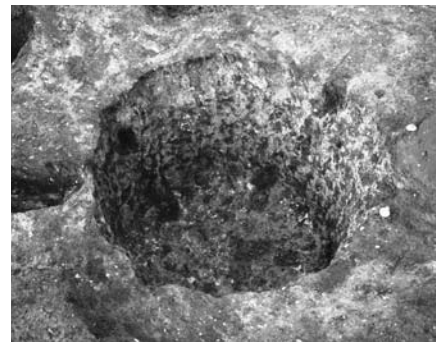
95区36·37·38号土坑



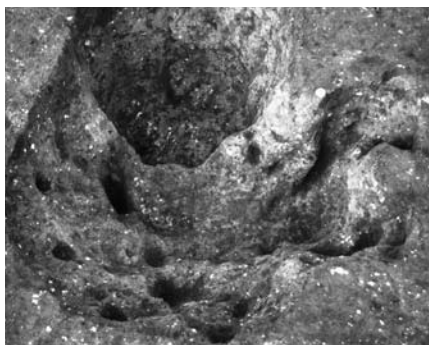
95区39号土坑(5区65住柱穴)



95区40号土坑(5区65住柱穴)



95区42号土坑



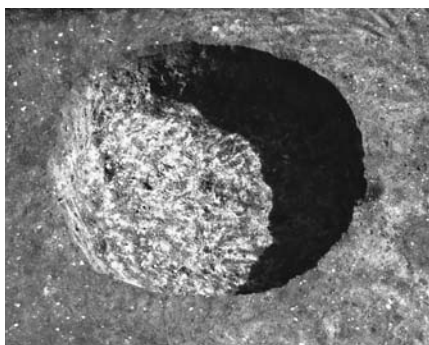
95区43号土坑



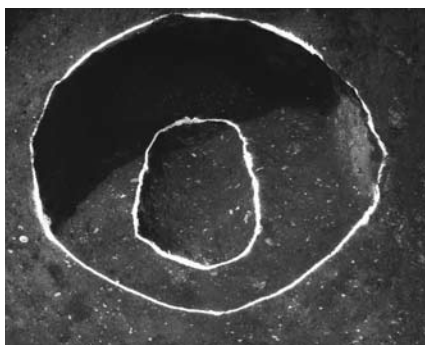
95区45号土坑



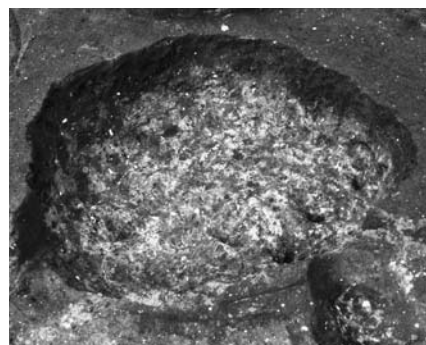
95区46号土坑



95区47号土坑



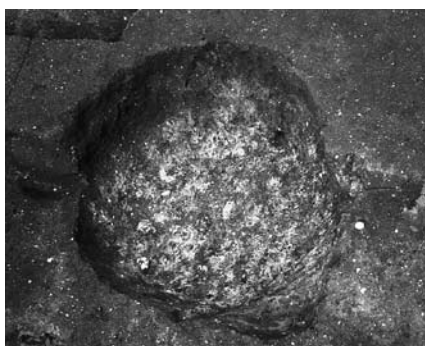
95区48号土坑(95区1号建物柱穴)



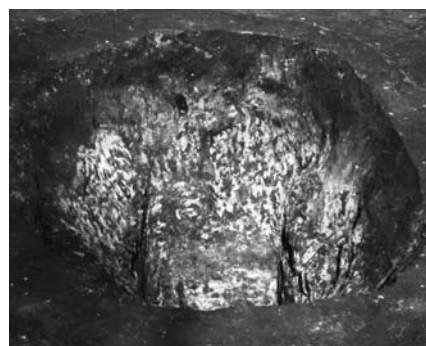
95区49号土坑



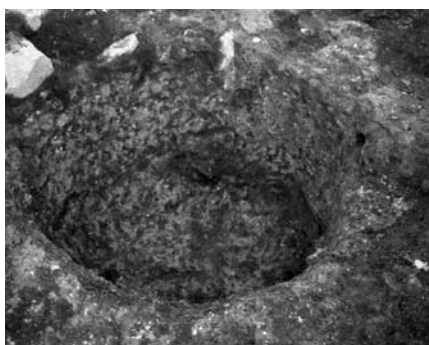
95区50号土坑



95区52号土坑



95区53号土坑



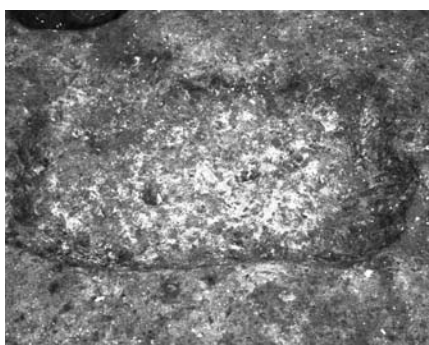
95区55号土坑



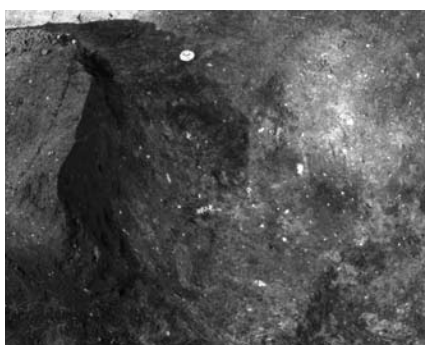
95区56·60号土坑



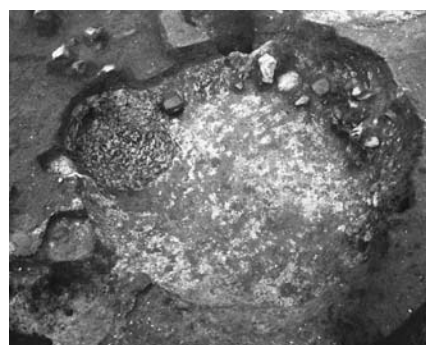
95区57号土坑(95区8号集石)



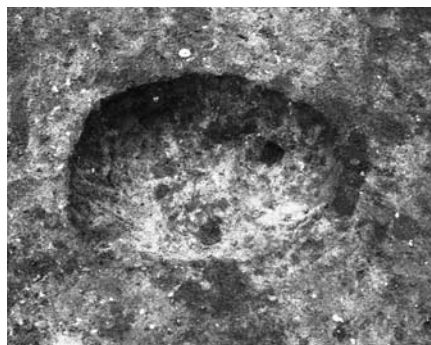
95区58号土坑



95区59号土坑



95区61号土坑



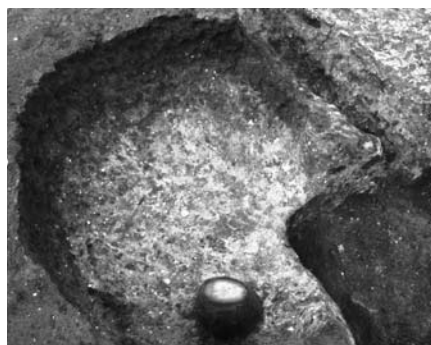
95区62号土坑



95区63号土坑



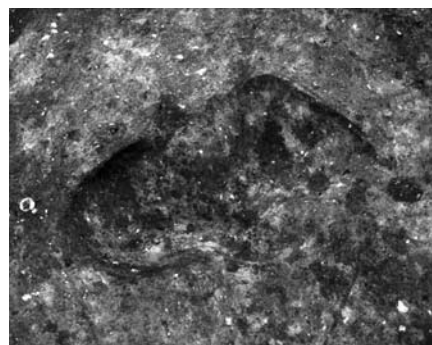
95区64号土坑



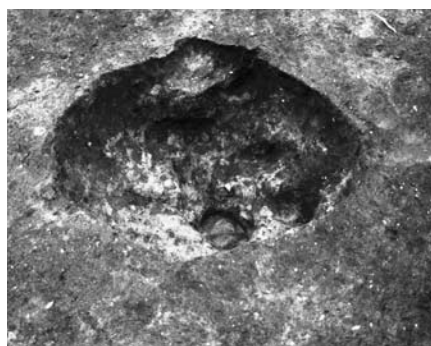
95区65号土坑



95区66号土坑



95区69号土坑



95区70号土坑



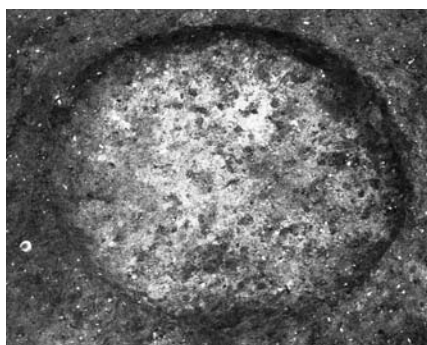
95区71号土坑



95区72号土坑



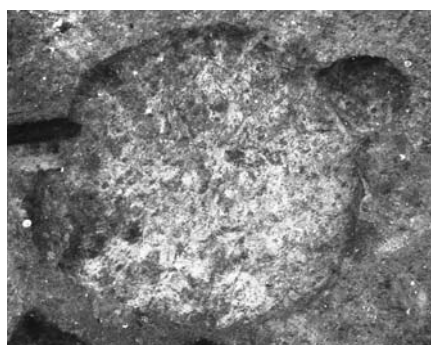
95区73号土坑



95区74号土坑



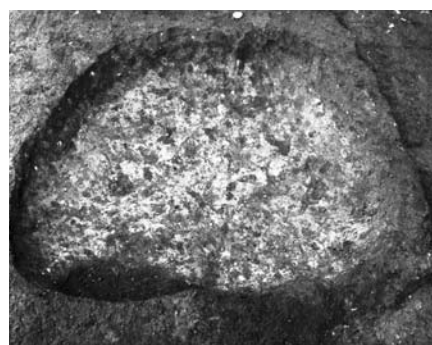
95区75号土坑



95区76号土坑



95区78号土坑



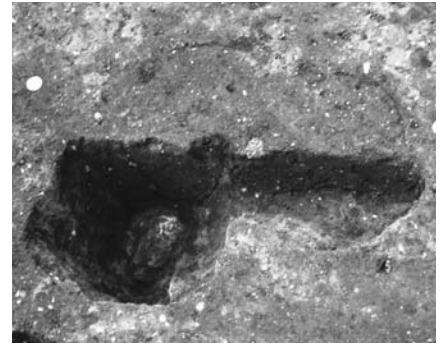
95区79号土坑



5区141号ピット



5区150号ピット



5区160・161号ピット



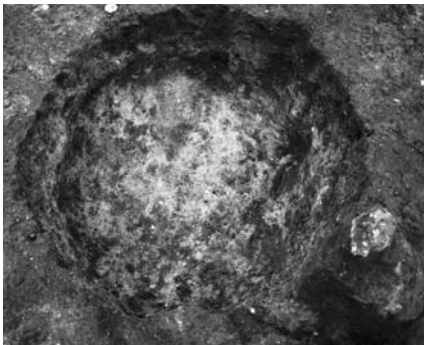
95区98号ピット(95区1号建物柱穴)



95区109号ピット(95区1号建物柱穴)



95区111号ピット(95区1号建物柱穴)



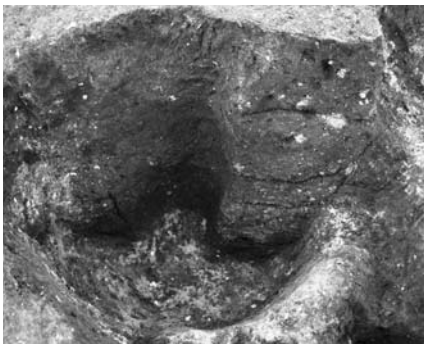
95区119号ピット



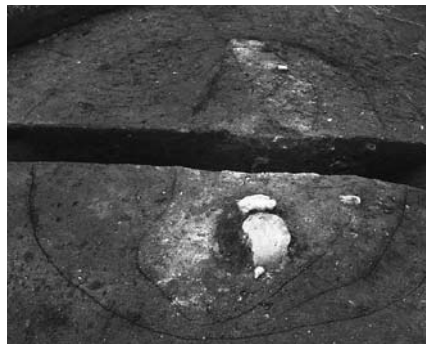
95区122号ピット(95区1号建物柱穴)



95区123号ピット



95区136号ピット(95区2号建物柱穴)



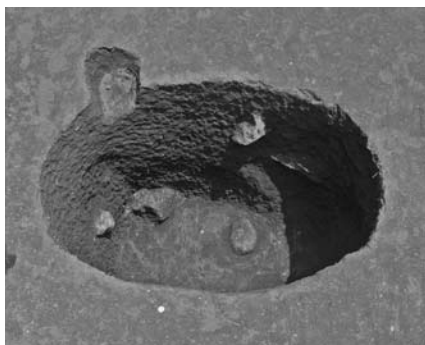
5区倒木痕



調査風景



17区2号土坑



17区4号土坑



17区3号土坑



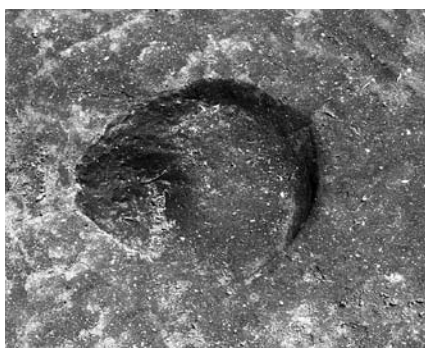
17区5号土坑



17区6号土坑



17区7号土坑



17区8号土坑



17区9号土坑



17区10号土坑



17区11号土坑



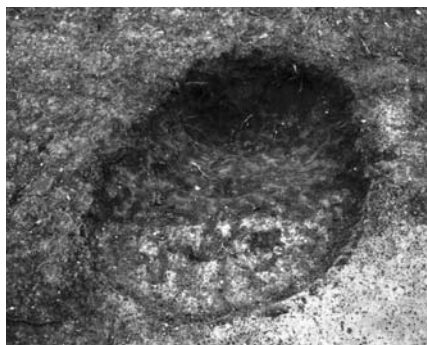
17区13号土坑



17区12号土坑



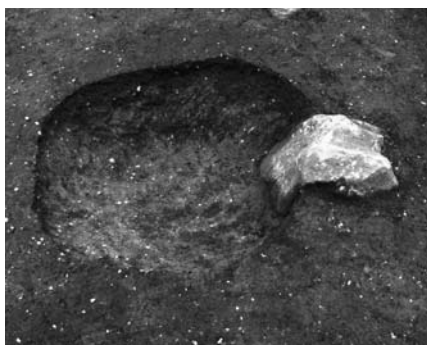
17区14号土坑



17区15号土坑



17区16号土坑



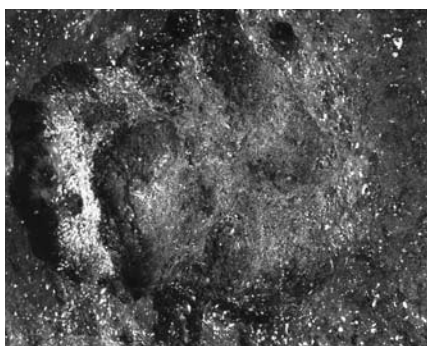
17区17号土坑



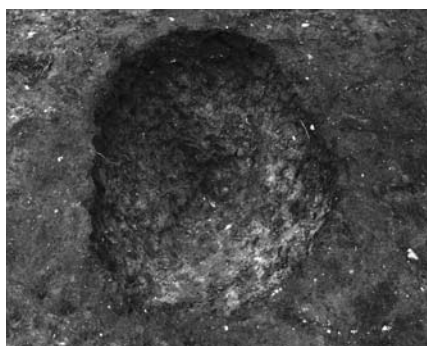
17区18号土坑



17区19号土坑



17区20号土坑



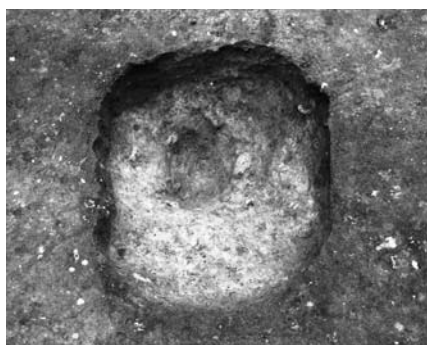
17区21号土坑



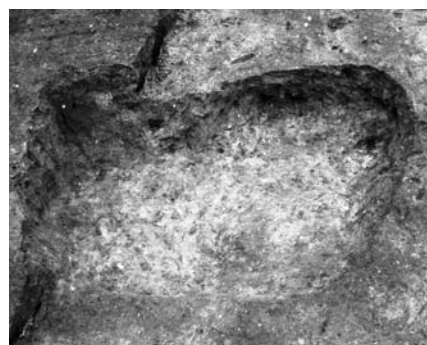
17区22号土坑



17区23号土坑



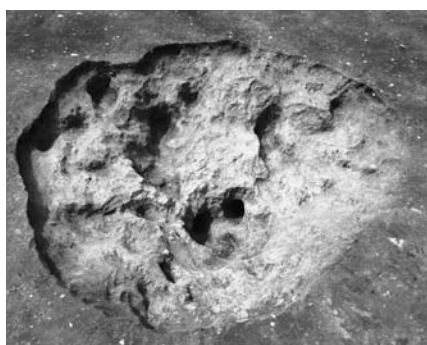
17区24号土坑



17区25号土坑



17区26号土坑

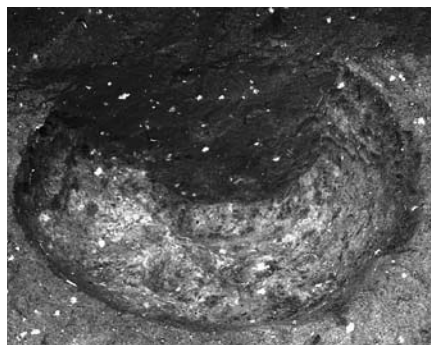


17区27号土坑

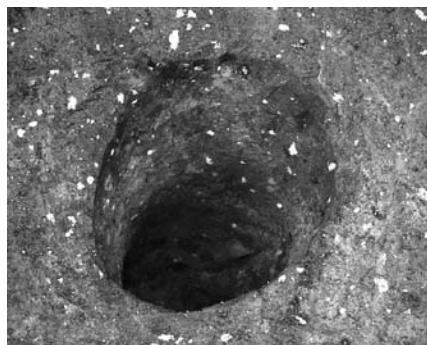


17区28号土坑

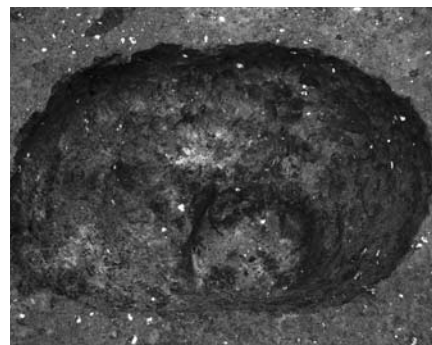
PL34 17区土坑・遠景



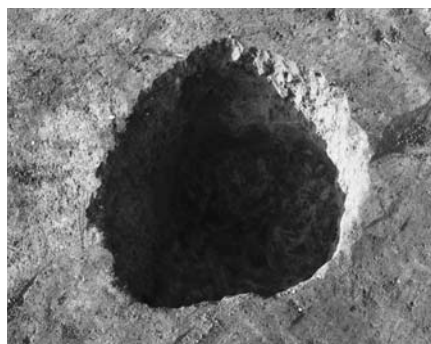
17区29号土坑



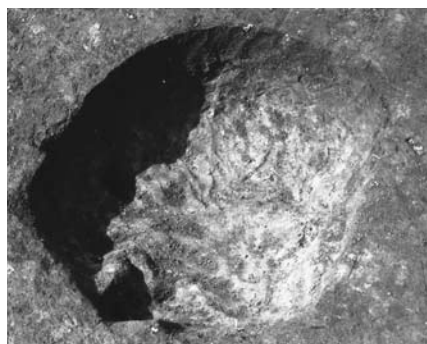
17区30号土坑



17区31号土坑



17区32号土坑



17区33号土坑



17区34号土坑



17区遠景



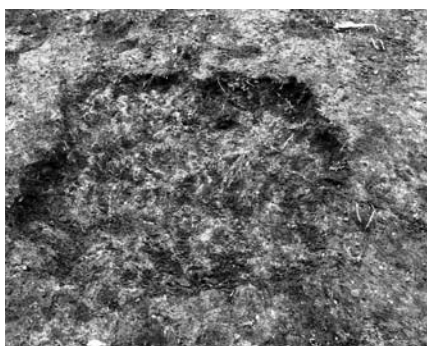
18区4号土坑



18区6号土坑



18区7号土坑



18区2号土坑



18区3号土坑



18区5号土坑



18区8号土坑



18区9号土坑



18区11号土坑



18区10号土坑



18区22号土坑



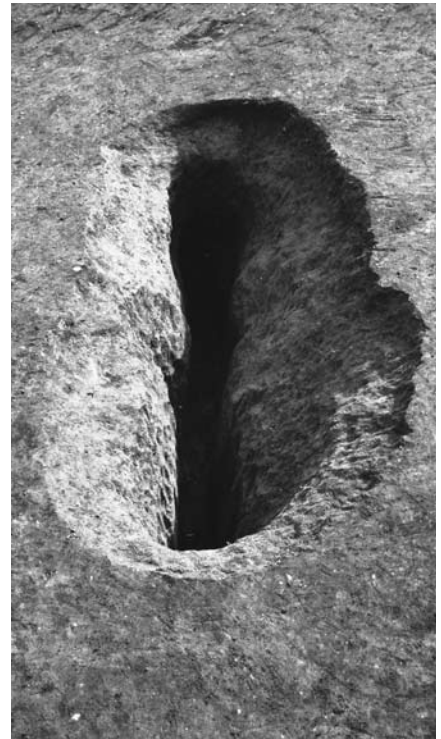
18区調査風景



18区13号土坑



18区14号土坑



18区15号土坑



18区16号土坑



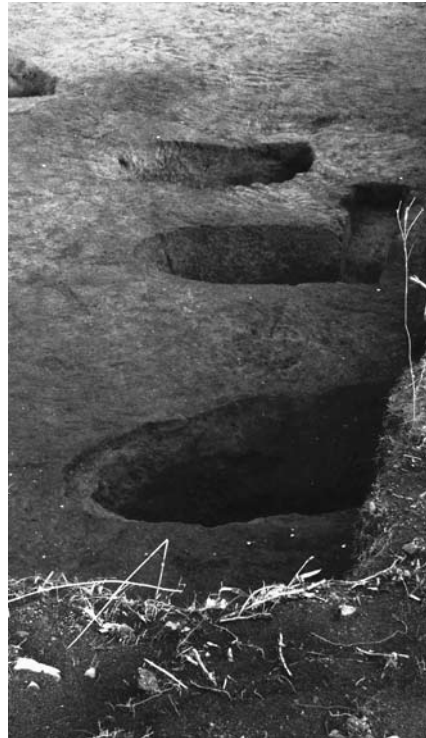
18区17号土坑



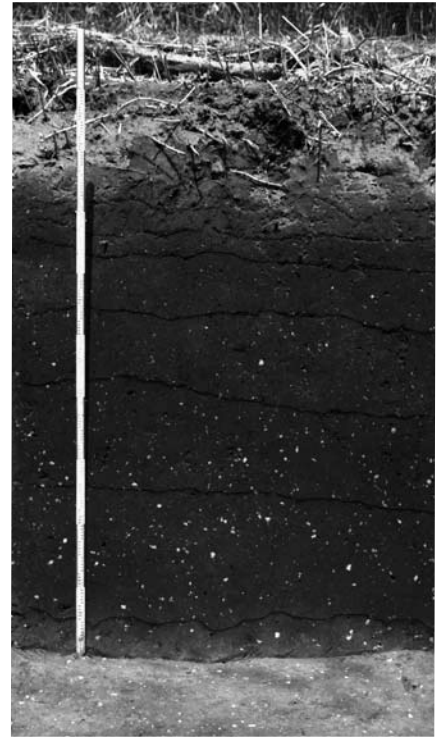
18区19号土坑



18区20号土坑



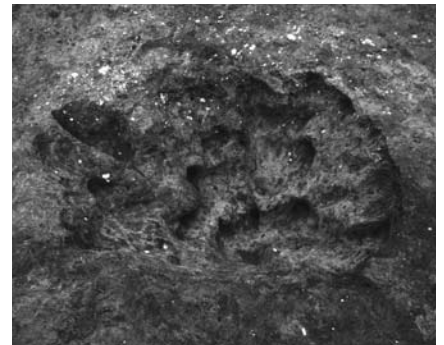
18区土坑群



18区土層



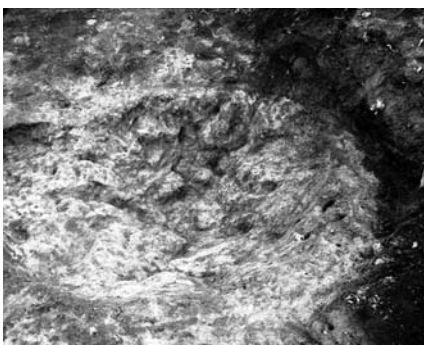
18区土坑群遠景



19区3号土坑



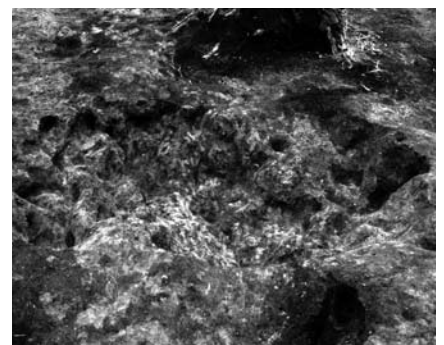
19区4号土坑



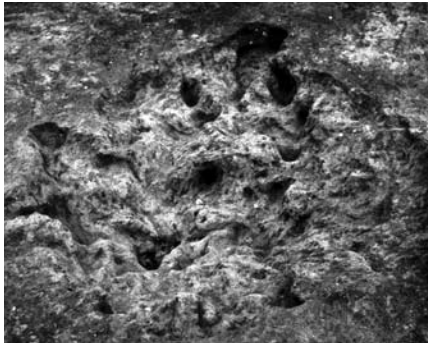
19区5号土坑



19区6号土坑



19区7号土坑



19区8号土坑



19区9号土坑



19区10号土坑



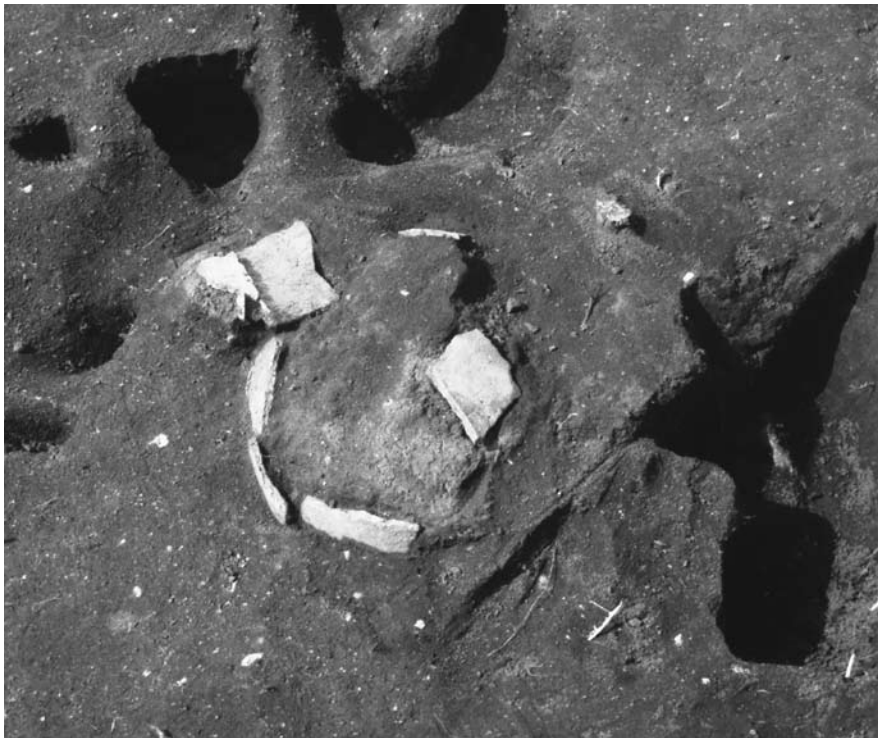
19区遠景



調査風景



調査風景



17区埋設土器



17区1号溝



5区列石



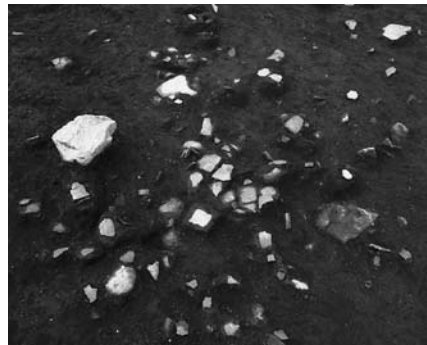
調査風景



調査風景



5区遺構外(Q-5)遺物出土



5区遺構外(P-2)遺物出土



5区遺構外(P-4)遺物出土



調査風景



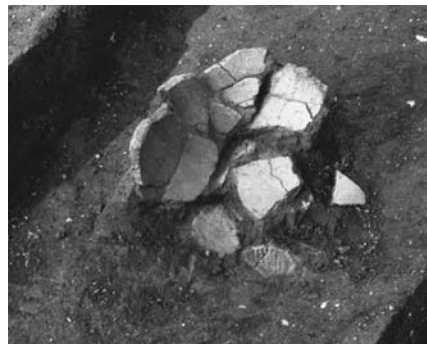
95区遺構外(S-22)遺物出土



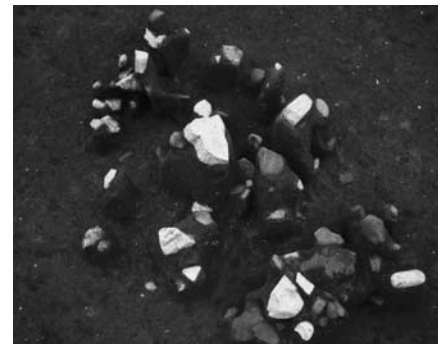
95区遺構外(Q-21)遺物出土



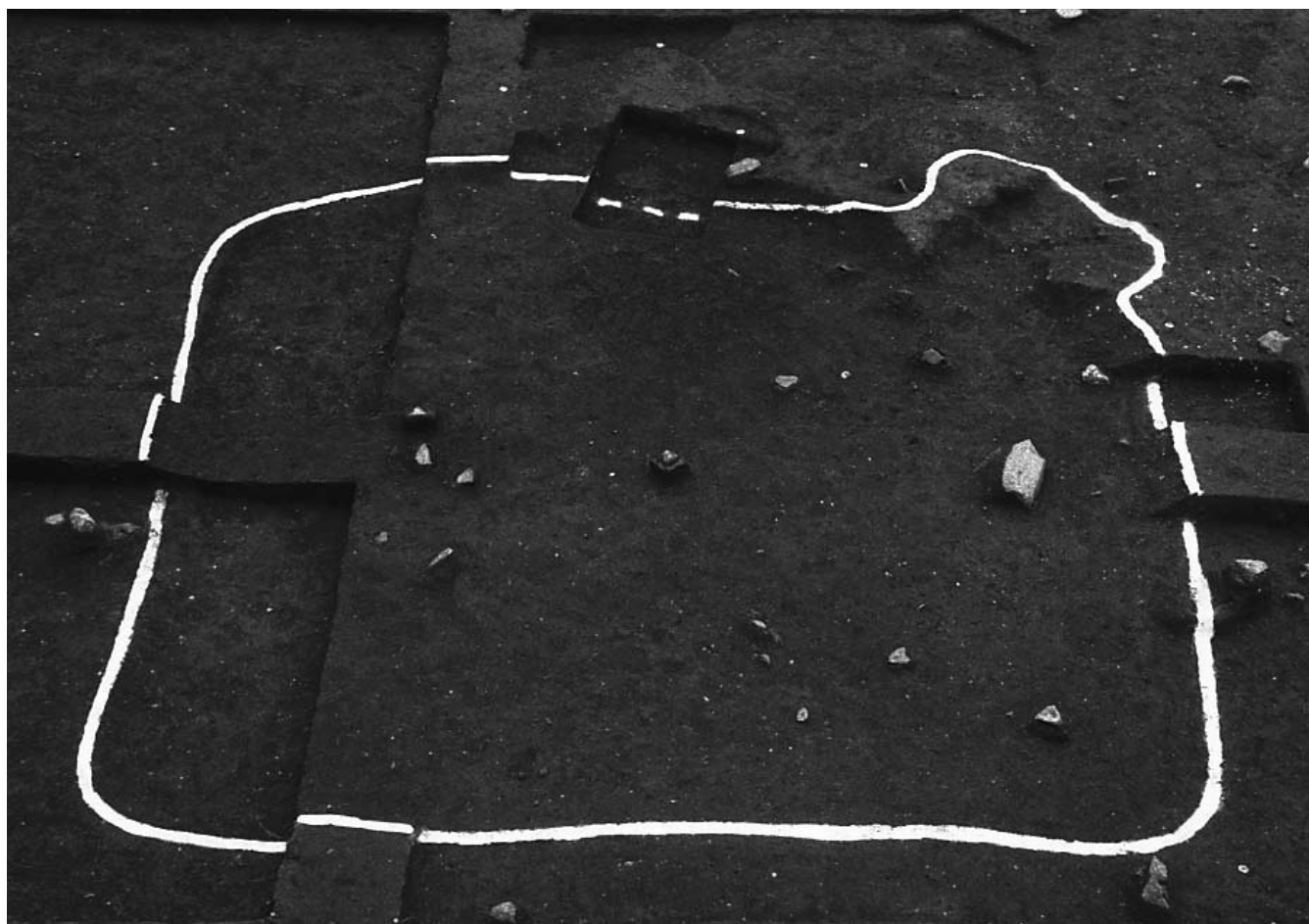
調査風景



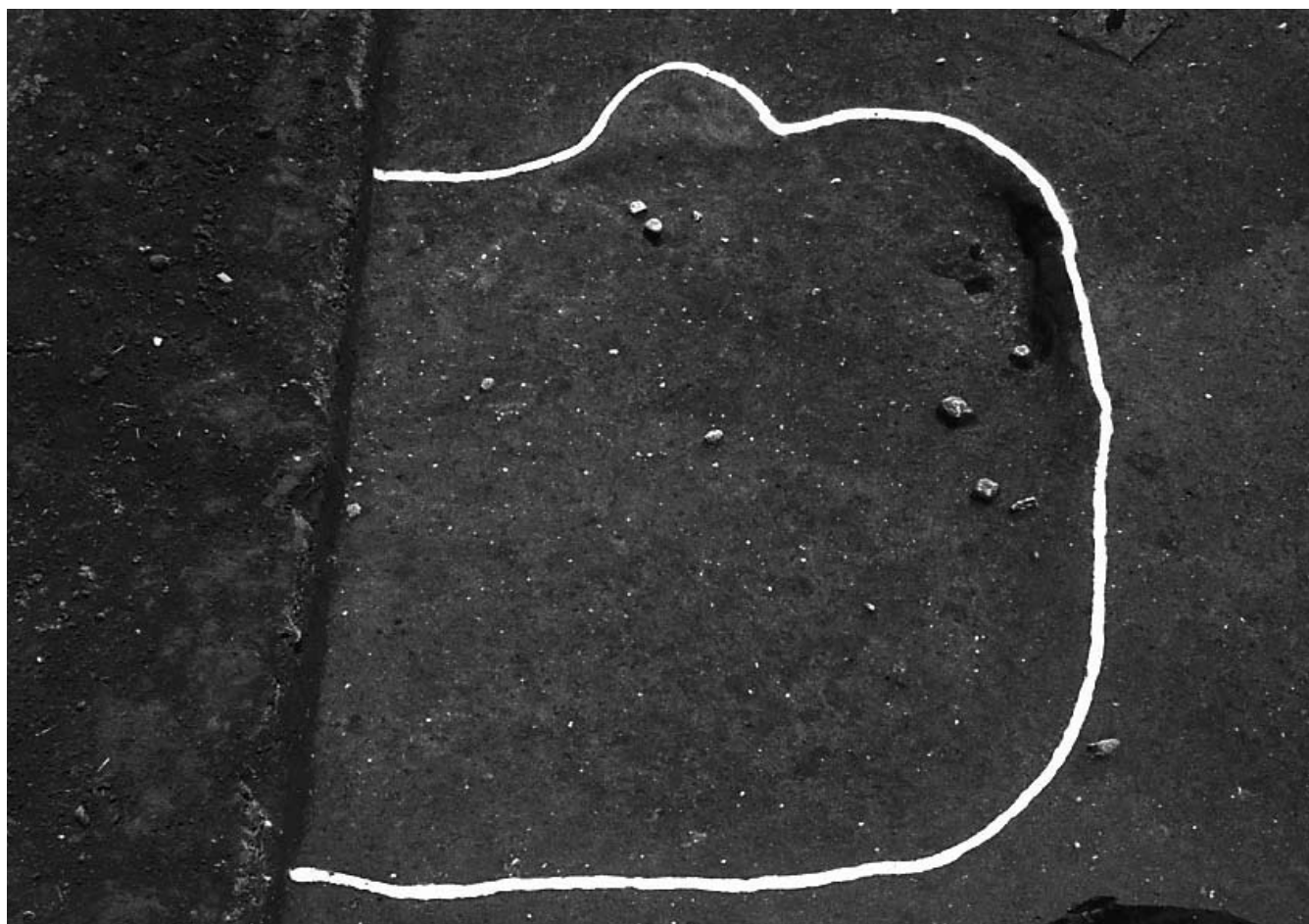
95区遺構外(P-22)遺物出土



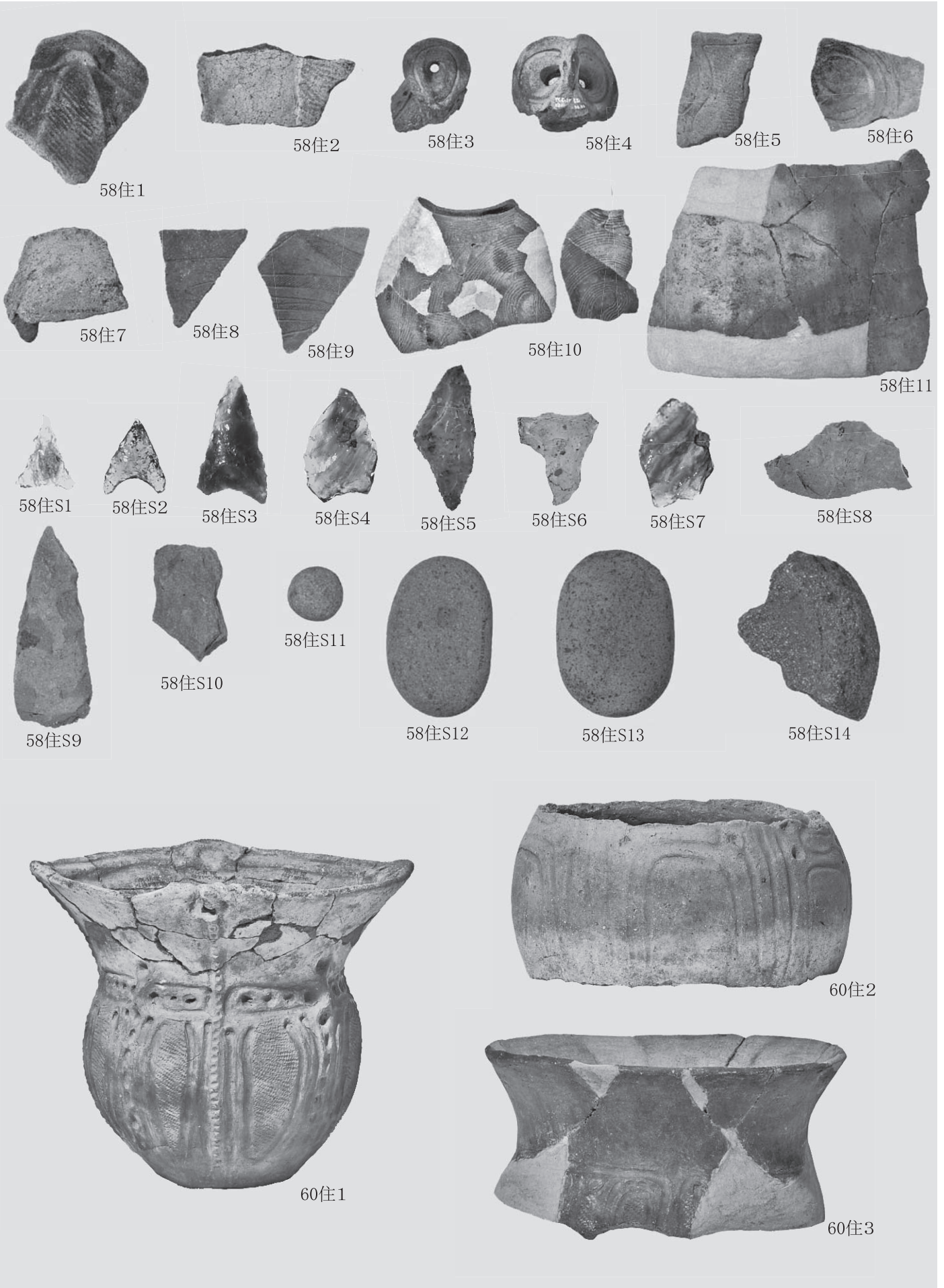
95区遺構外(N-20)遺物出土

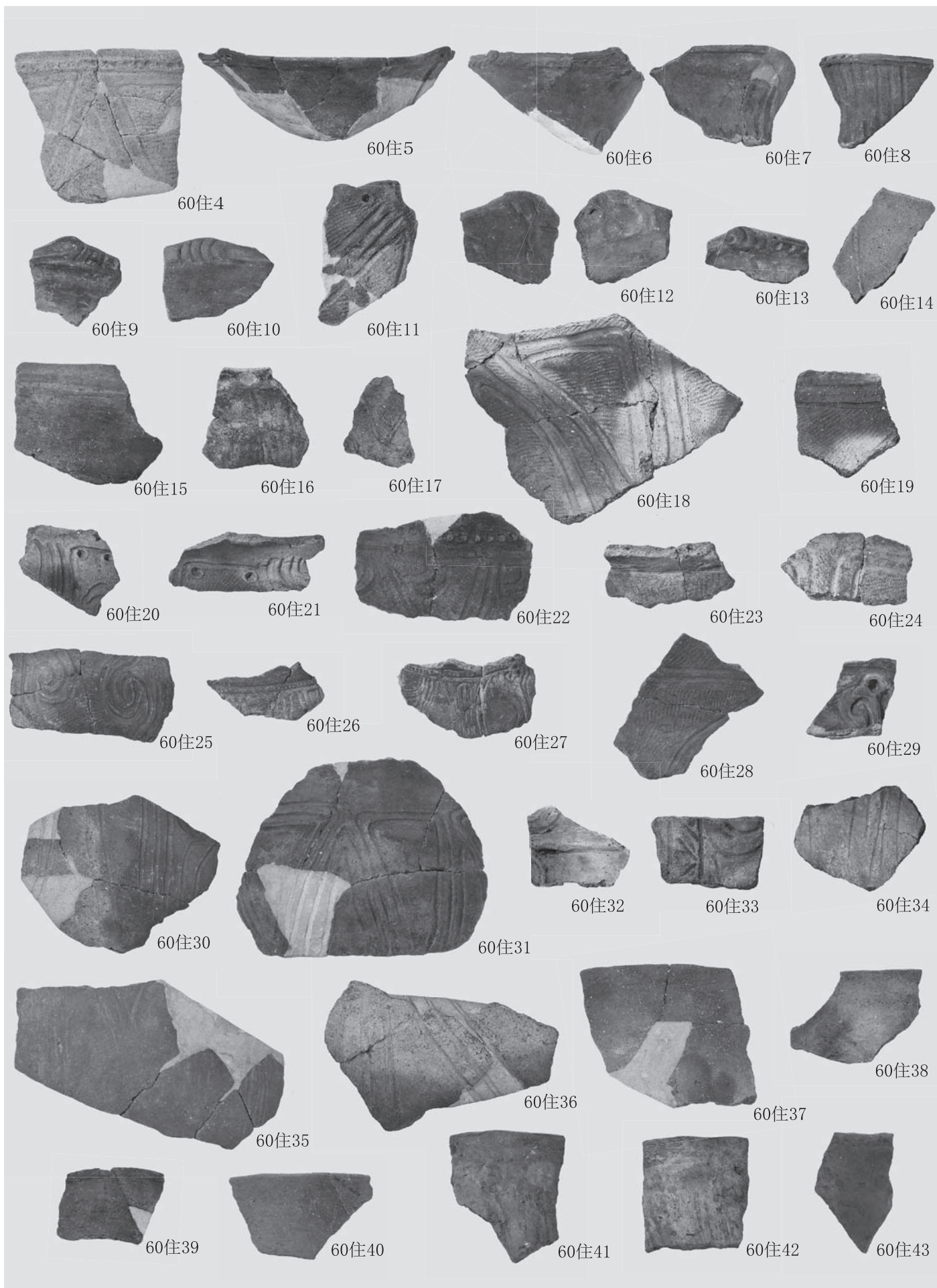


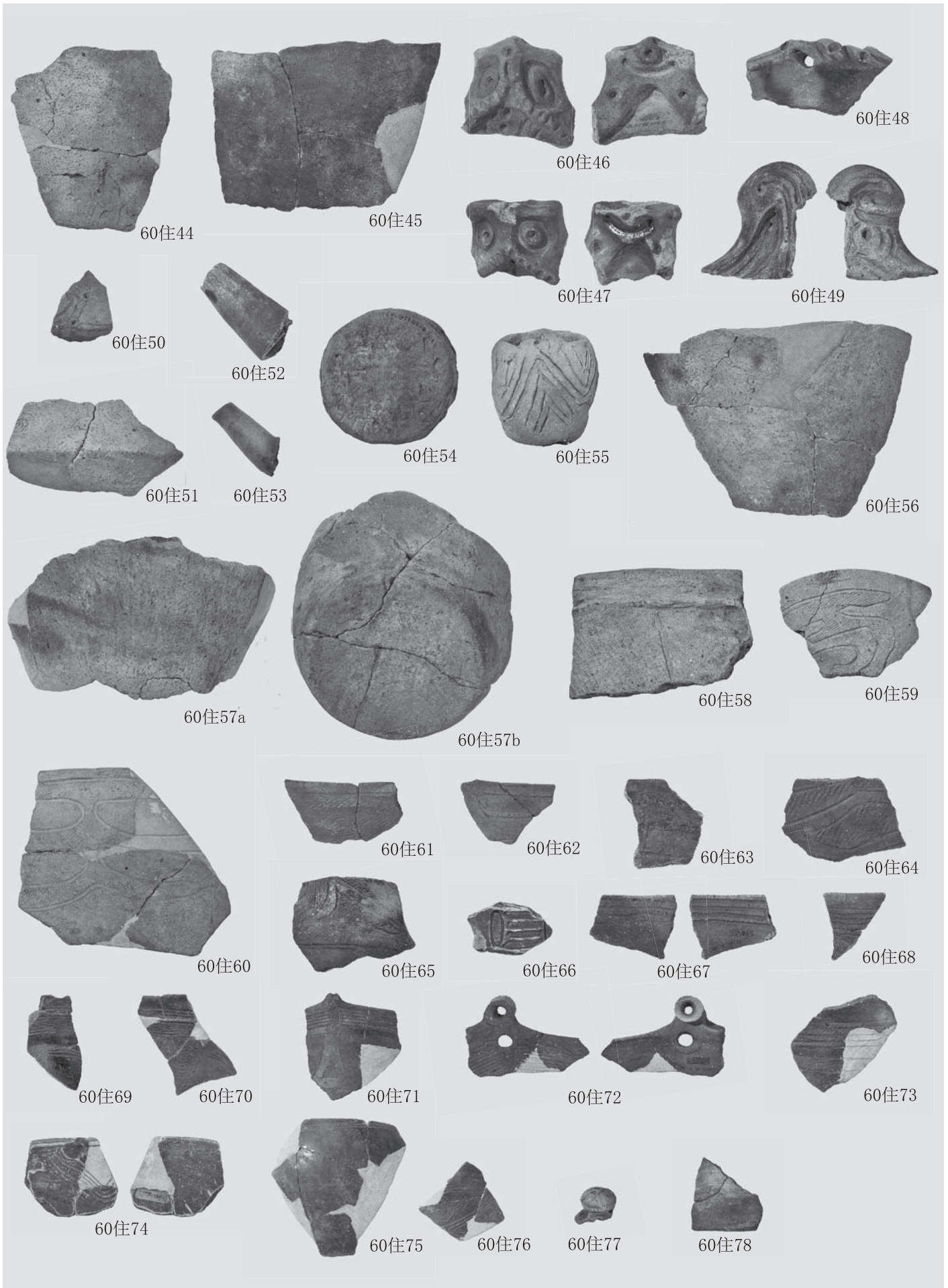
5区54号住居跡全景



5区57号住居跡全景









60住S1



60住S2



60住S3



60住S4



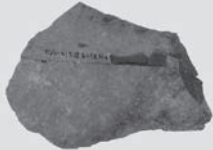
60住S5



60住S6



60住S7



60住S8



60住S9



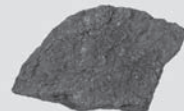
60住S10



60住S11



60住S12



60住S13



60住S14



60住S15



60住S16



60住S17



60住S18



60住S19



60住S20



60住S21



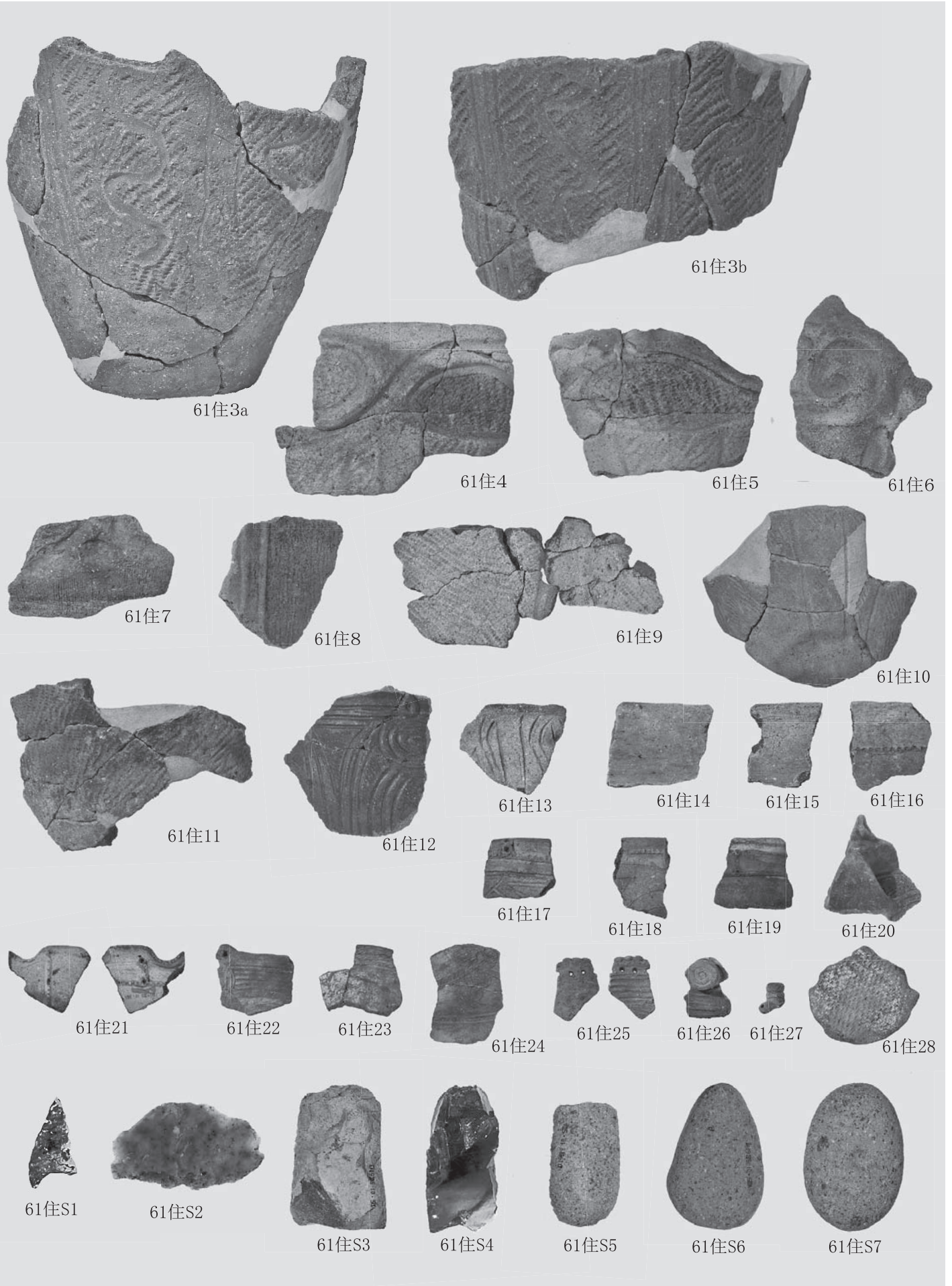
60住S22

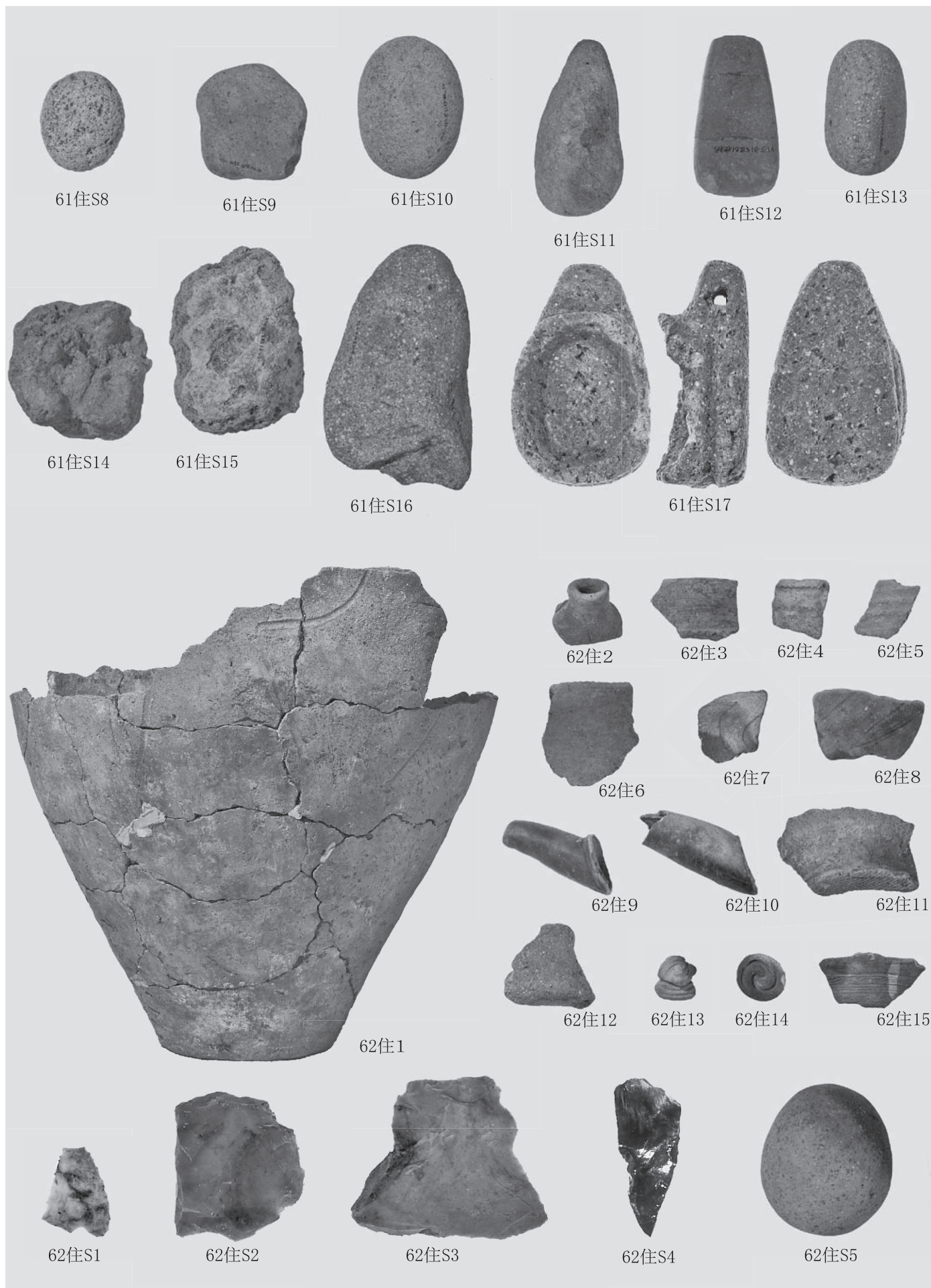


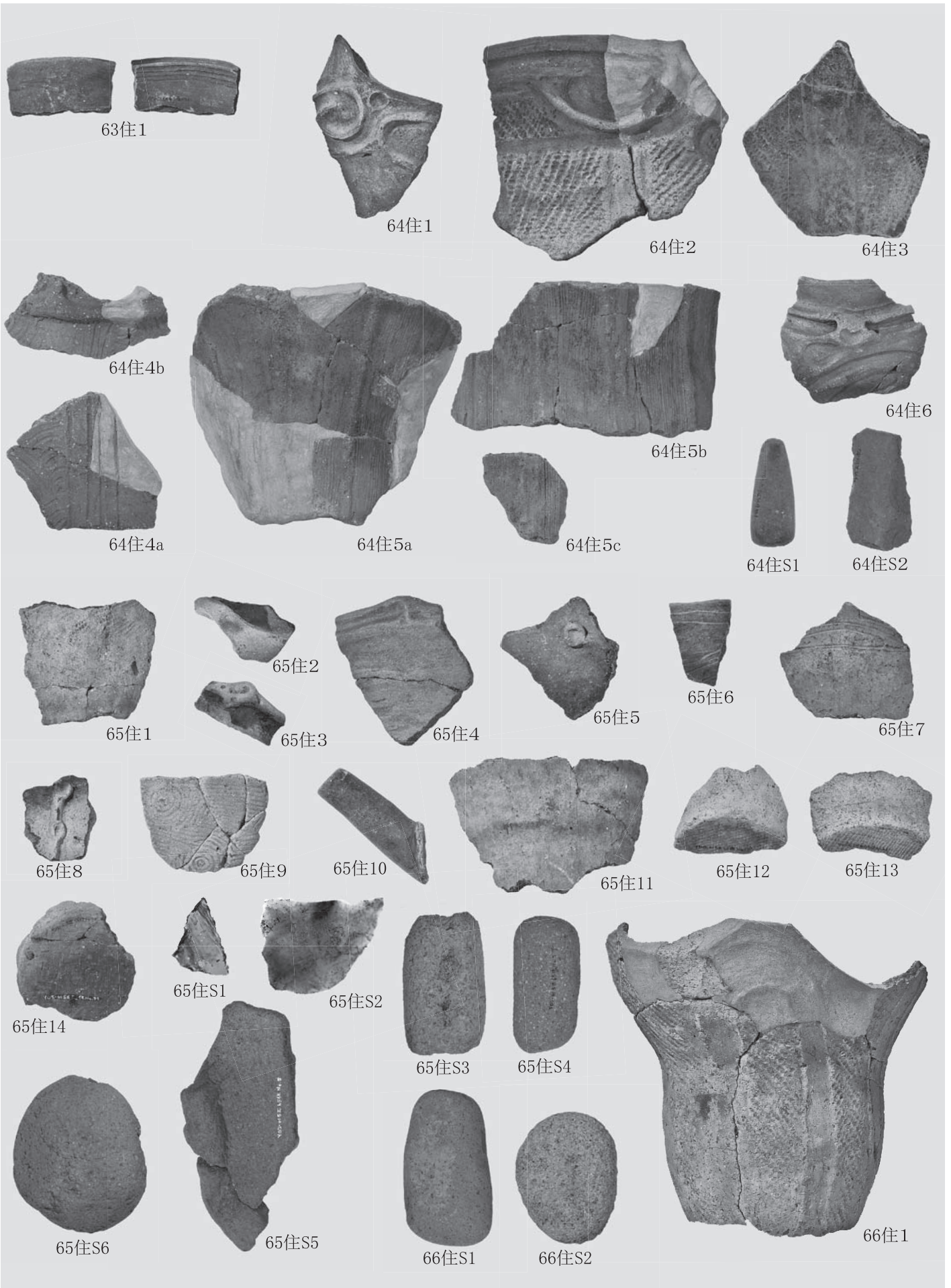
61住1

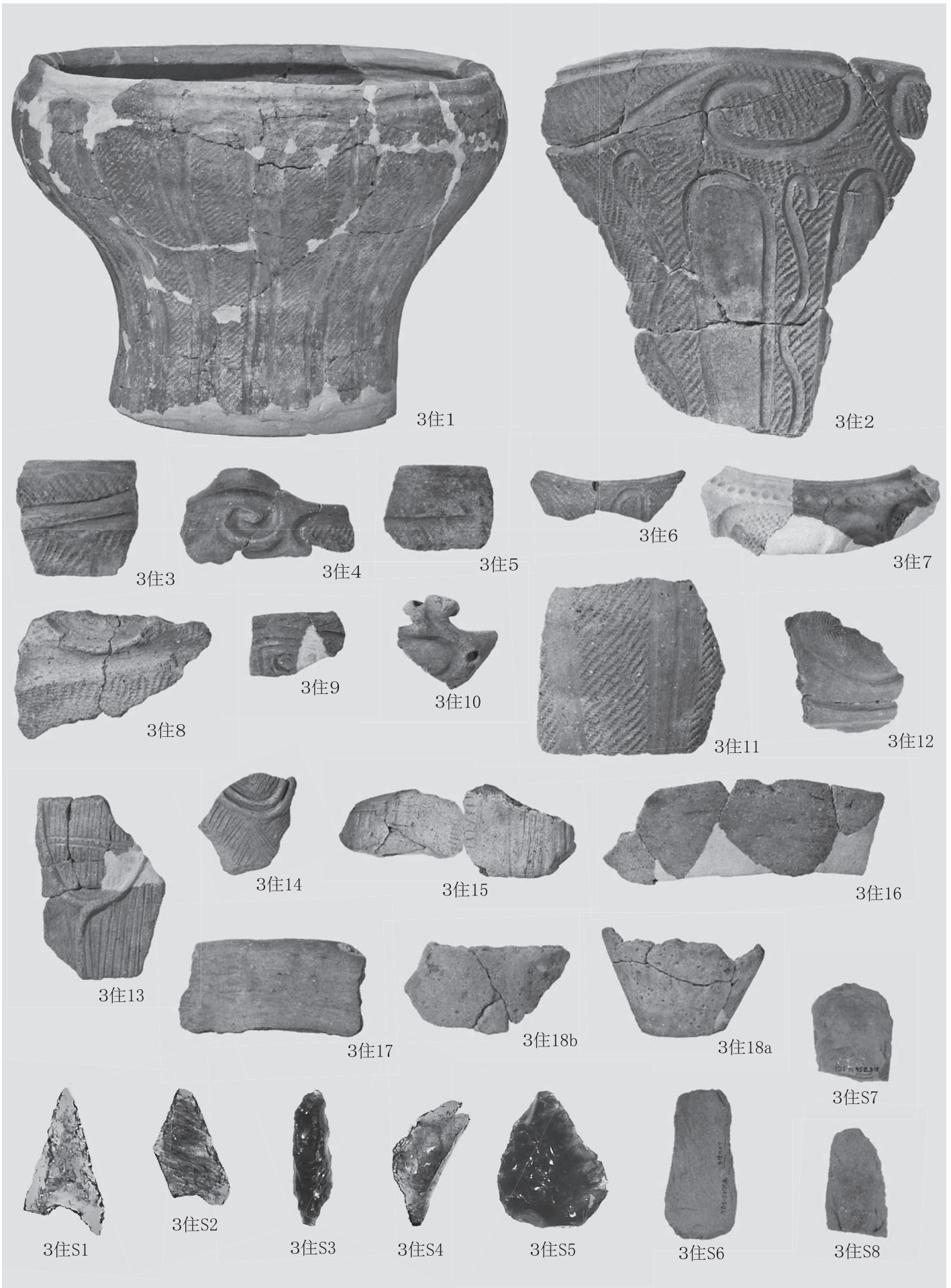


61住2











3住S9



3住S10



3住S12



3住S11



4住1



4住2



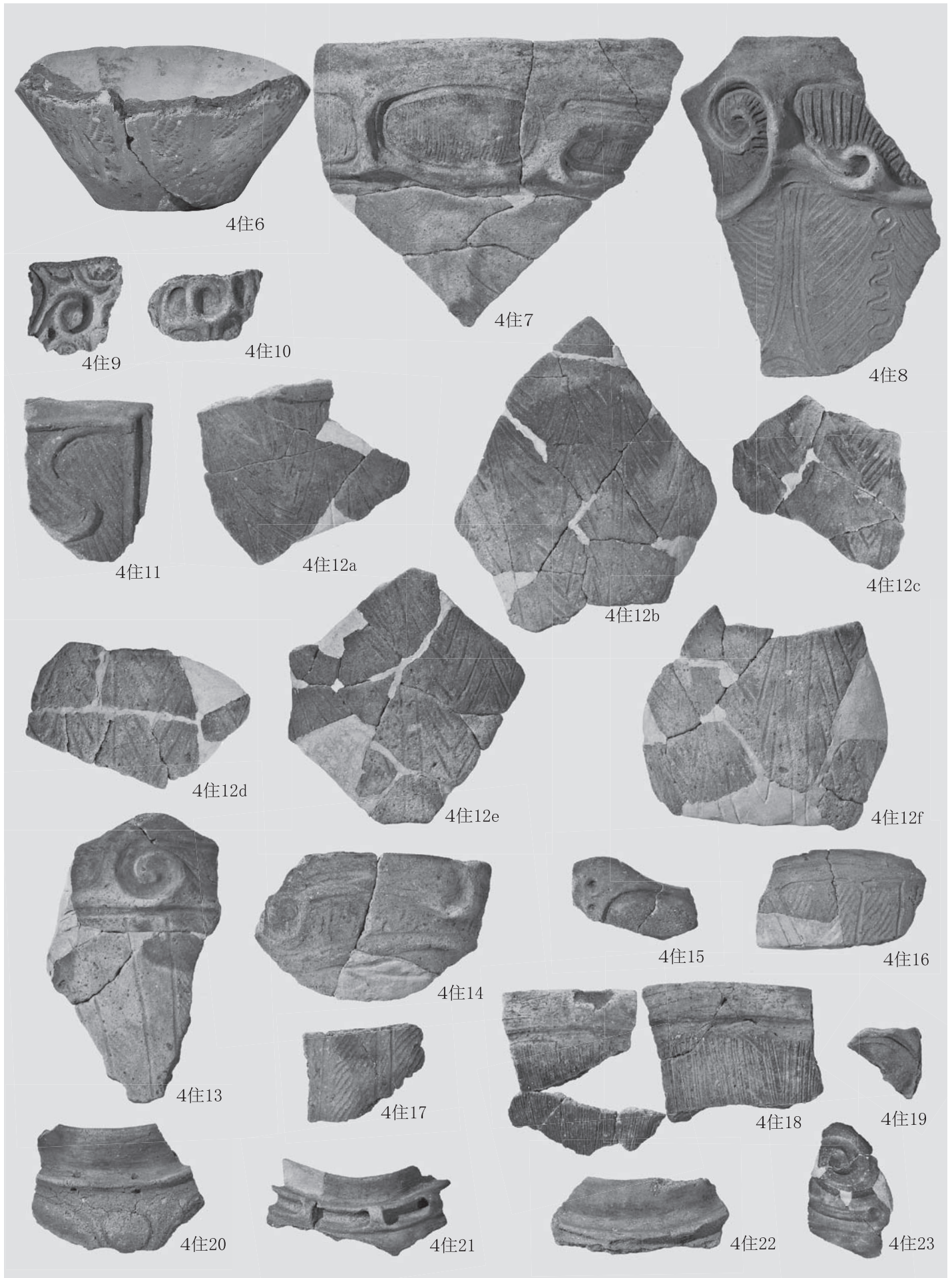
4住3

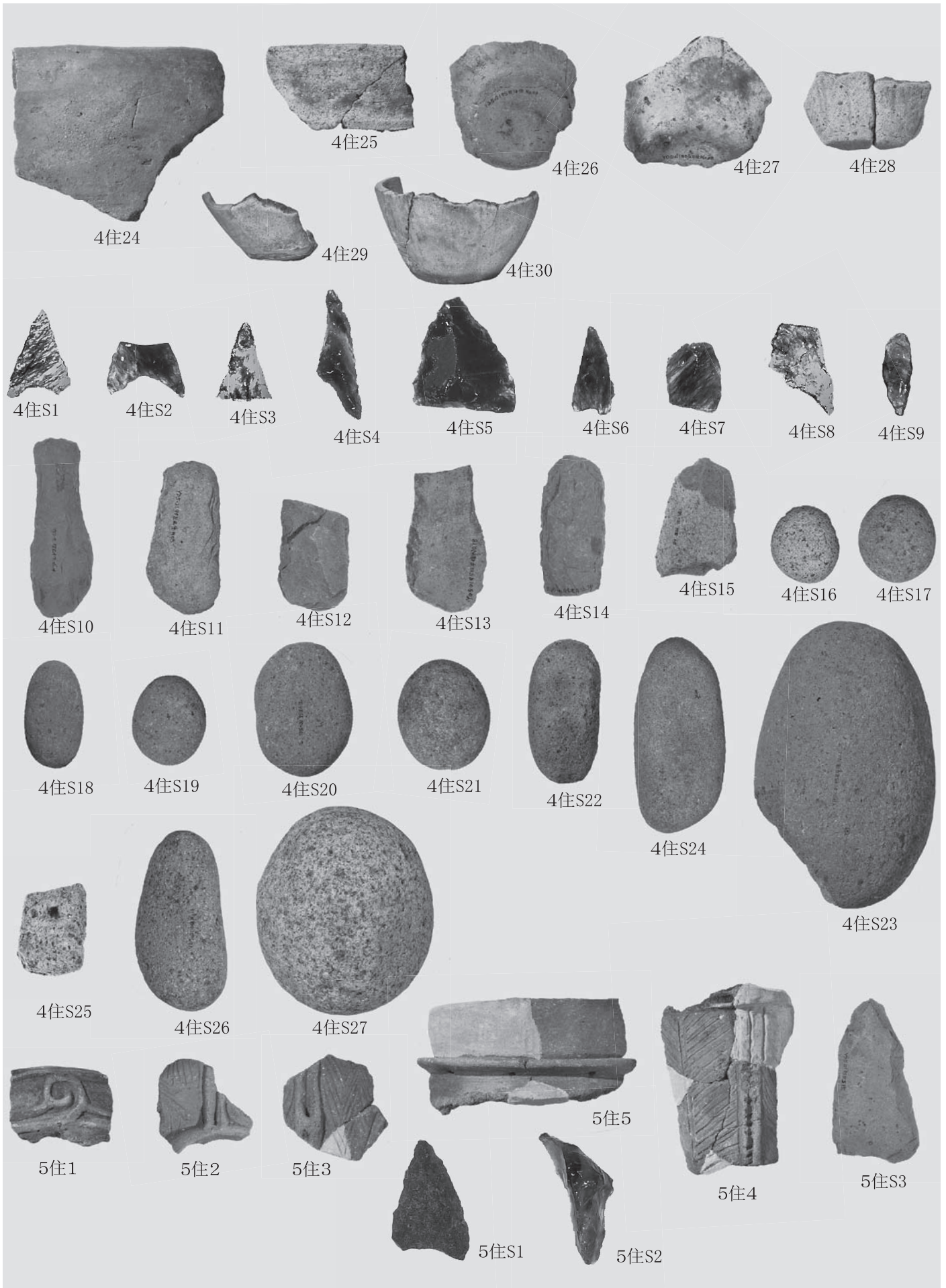


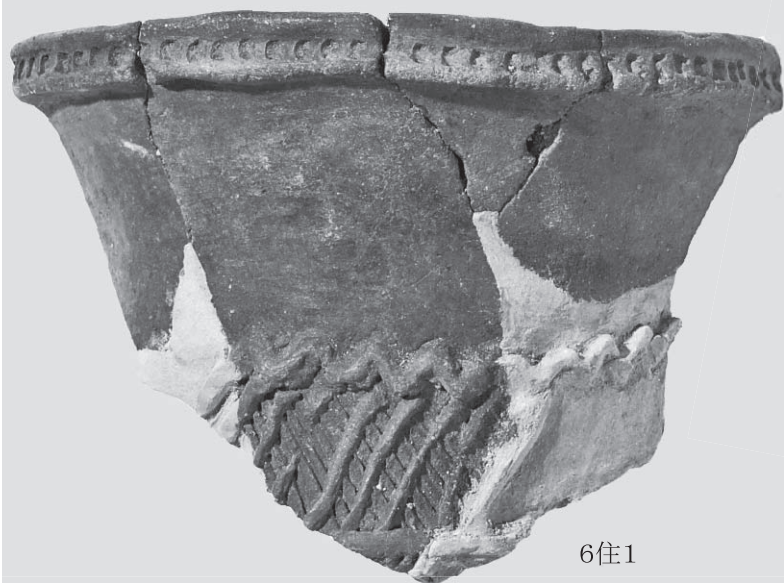
4住4



4住5







6住1



6住2



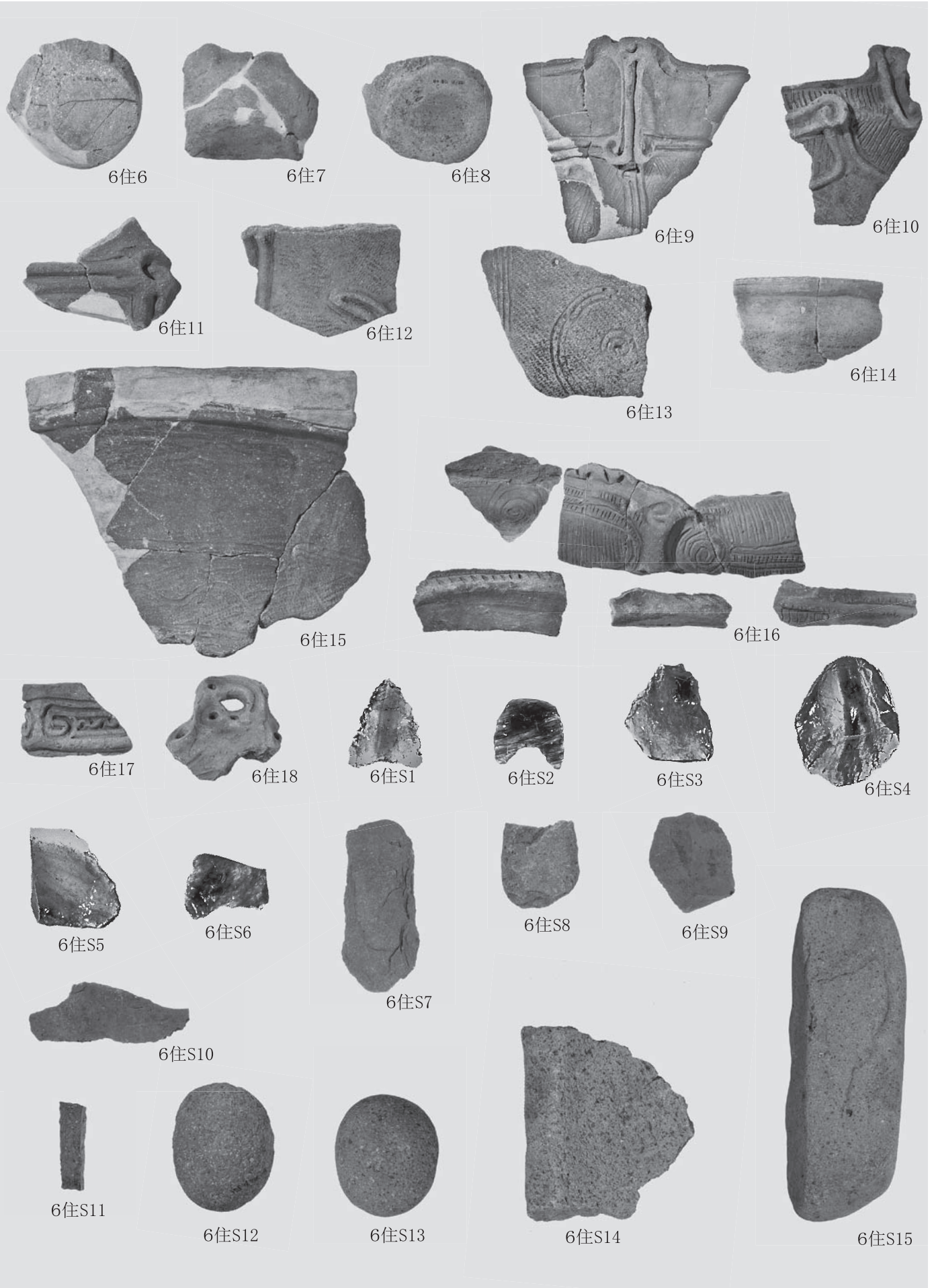
6住5



6住3



6住4





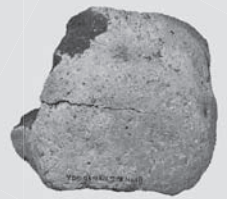
7住1



7住2



7住3



7住5



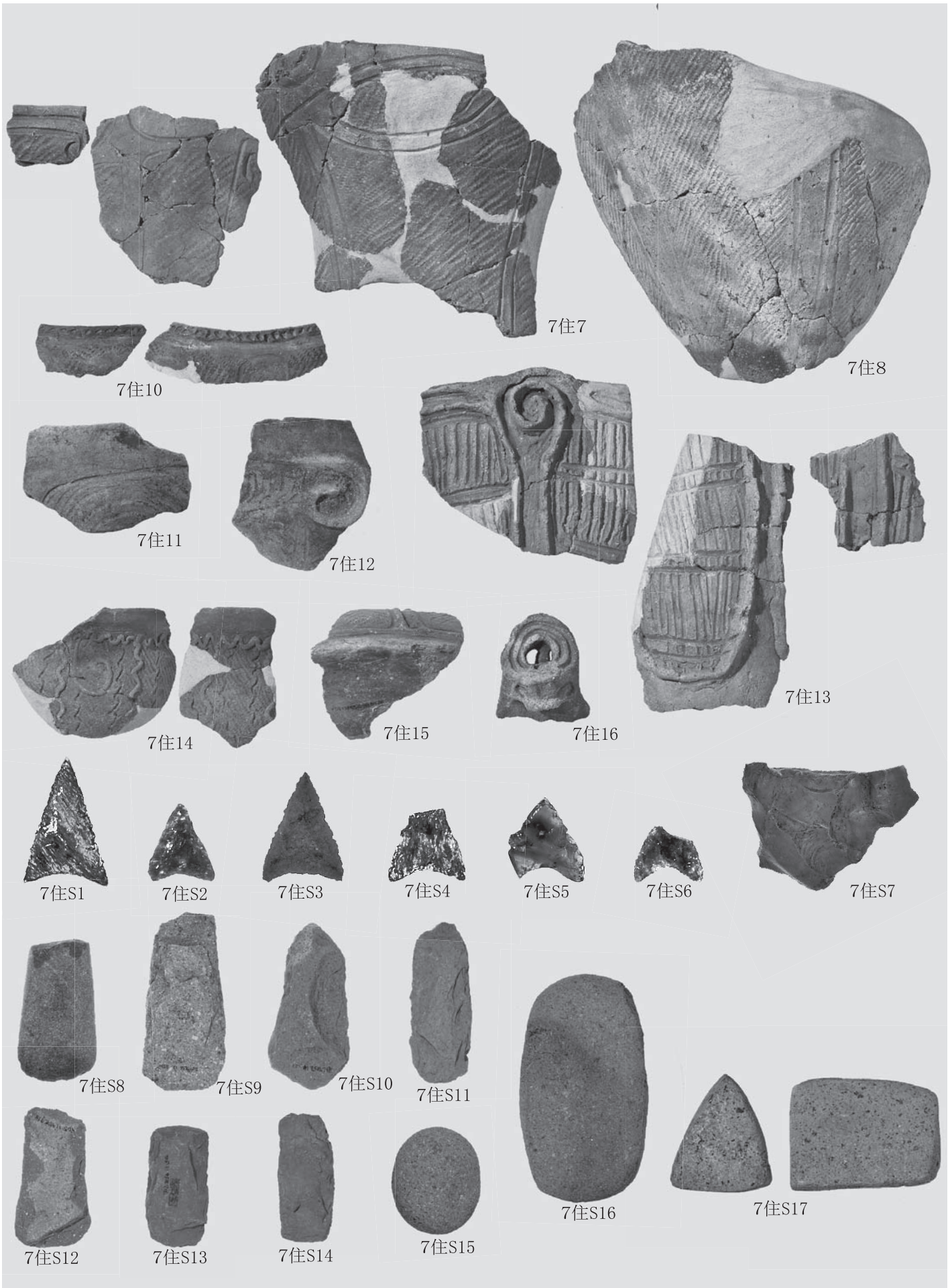
7住4

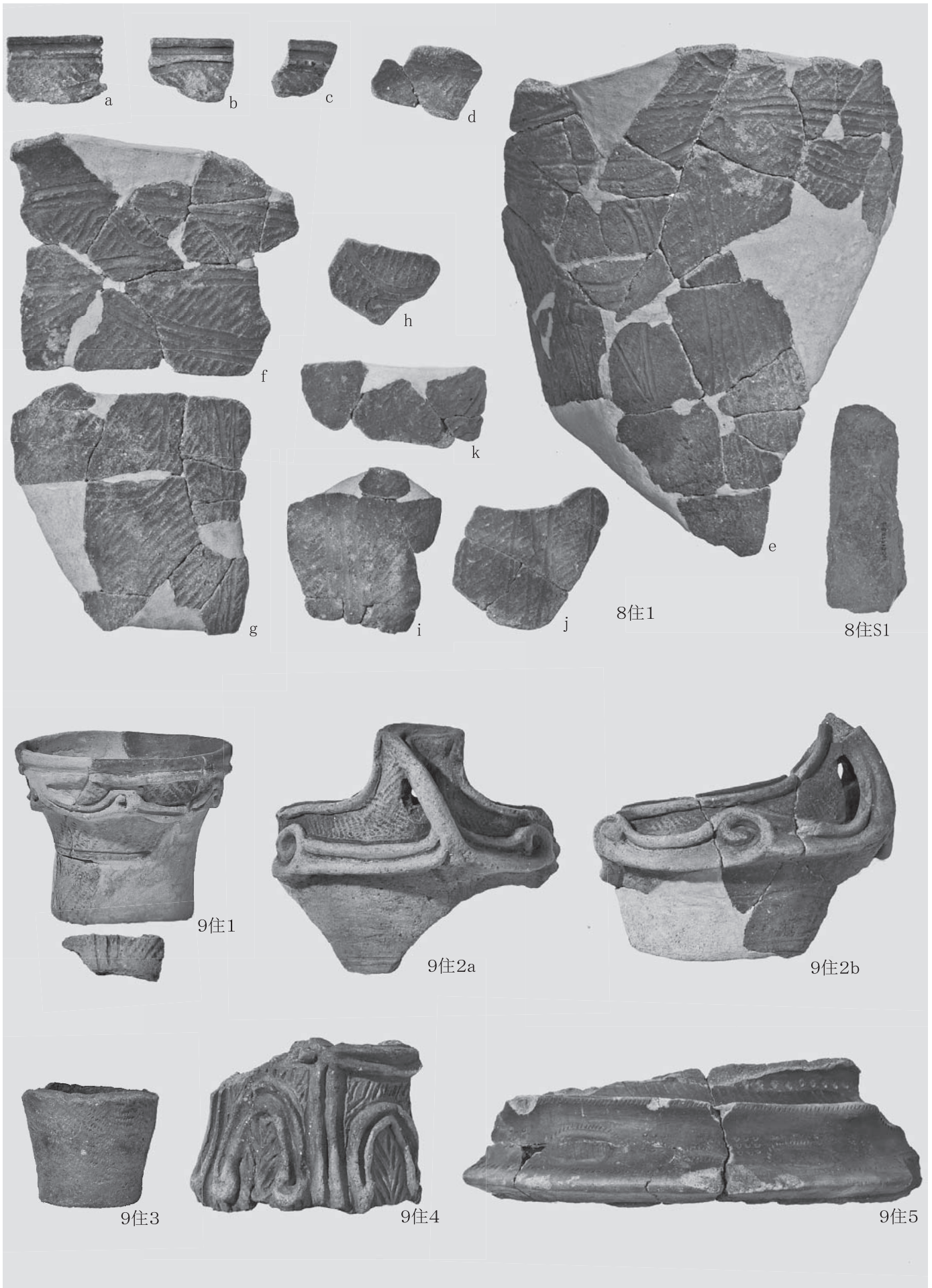


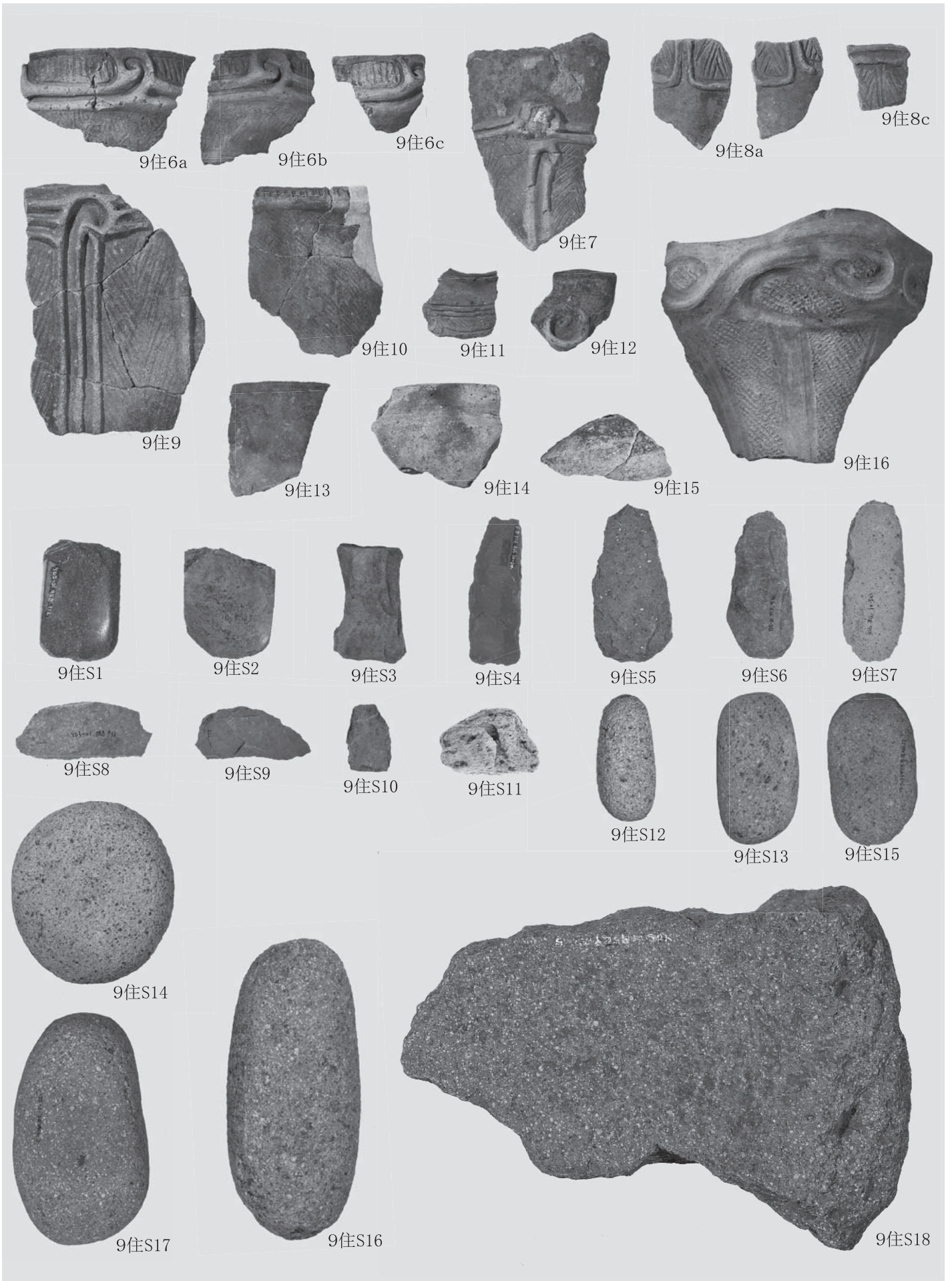
7住6

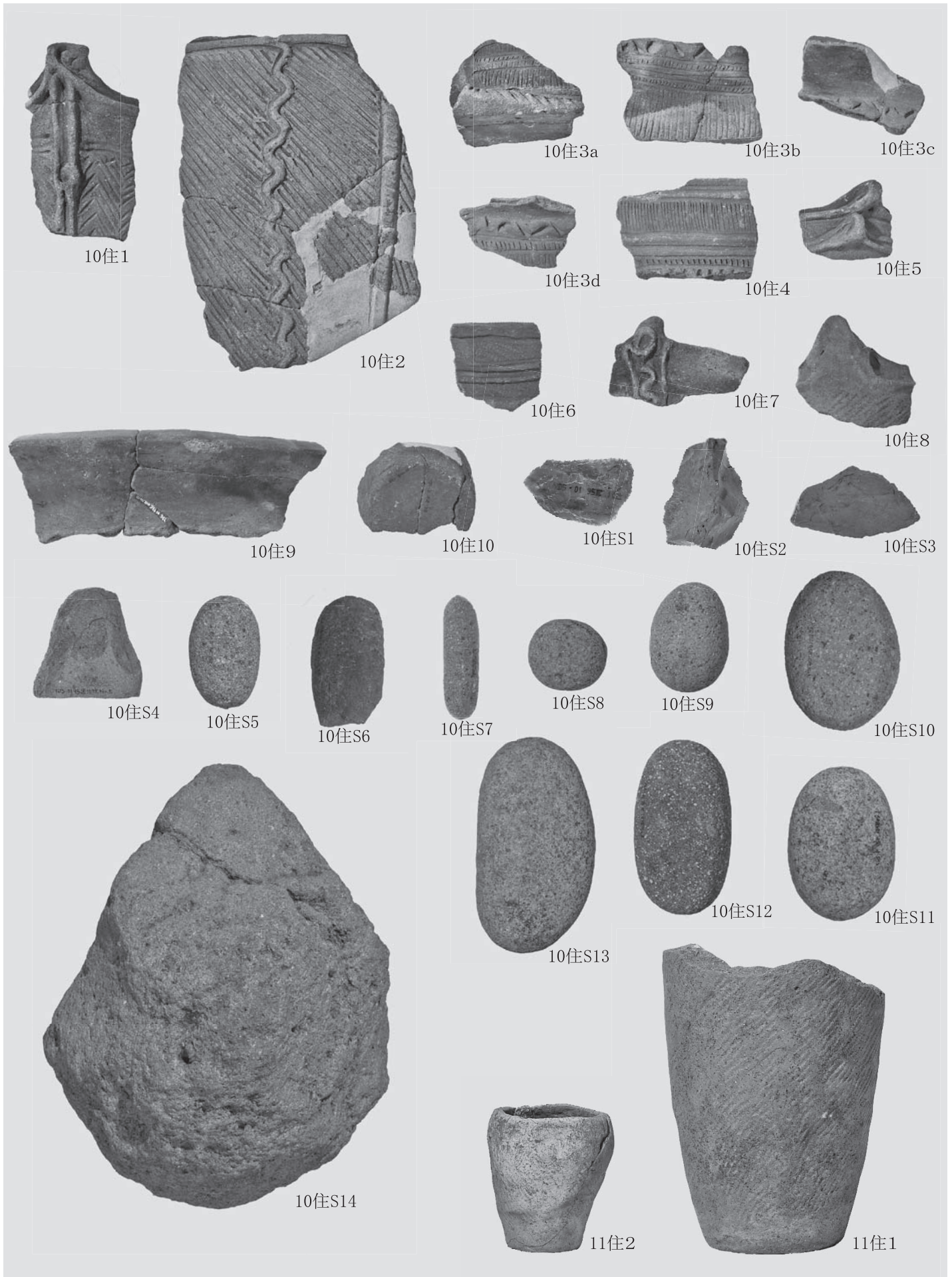


7住9





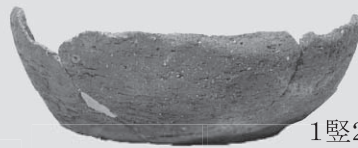




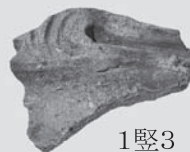
5区



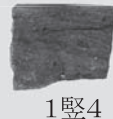
1竖1



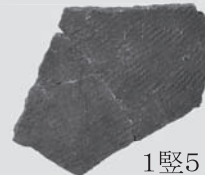
1竖2



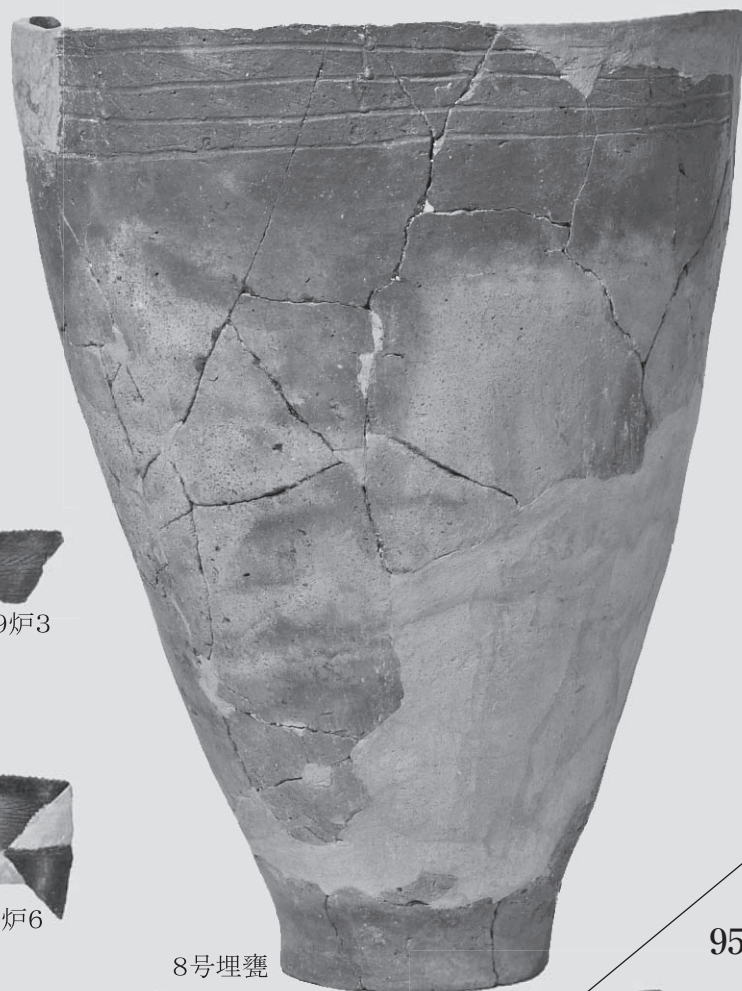
1竖3



1竖4



1竖5



8号埋甕

95区



9炉1



9炉2



9炉3



9炉4



9炉5



9炉6



10炉1



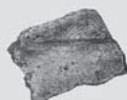
10炉2



10炉3



10炉4



10炉5



3炉1



3炉2



3炉3



5炉1



7炉1



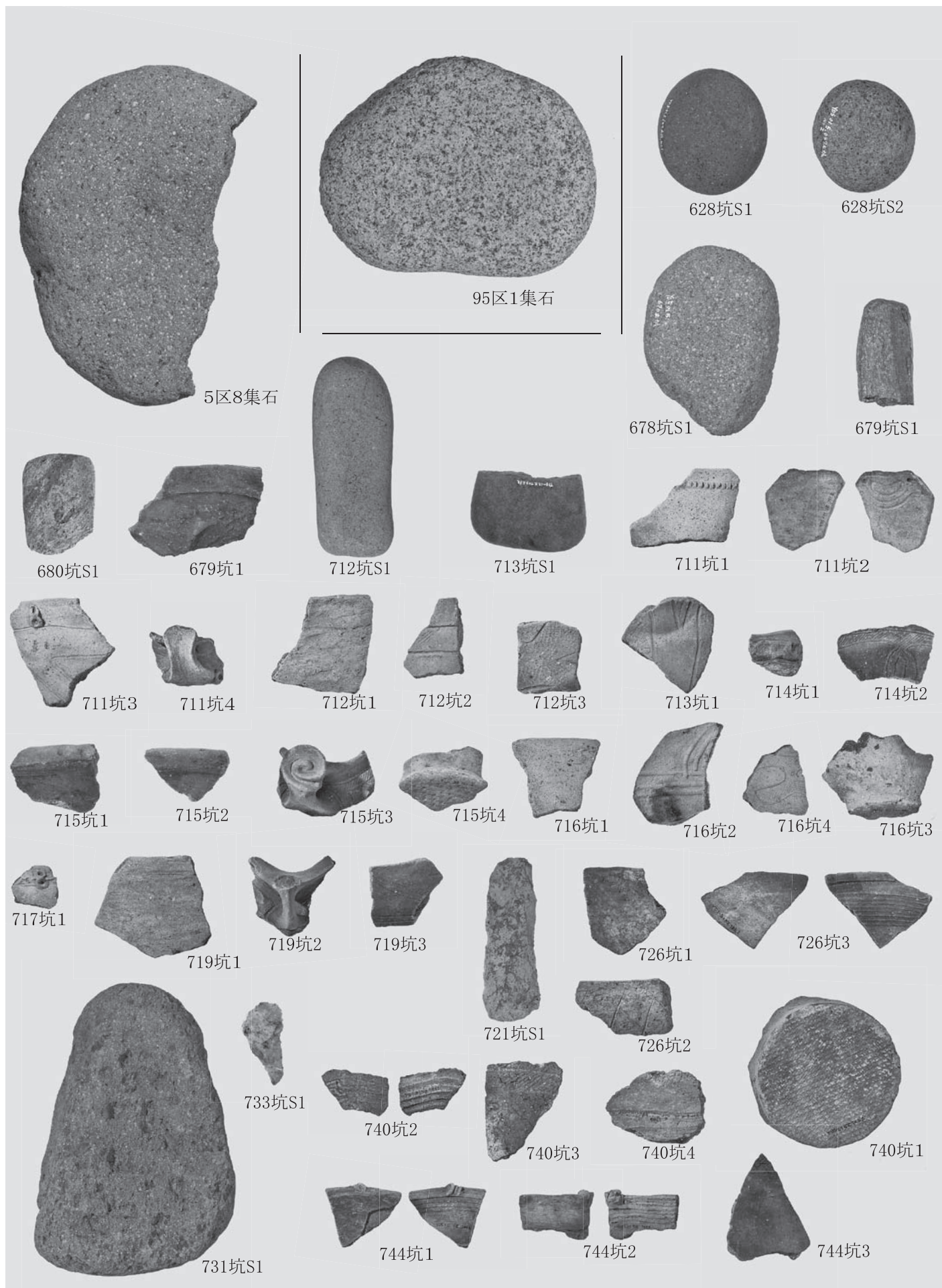
7炉2

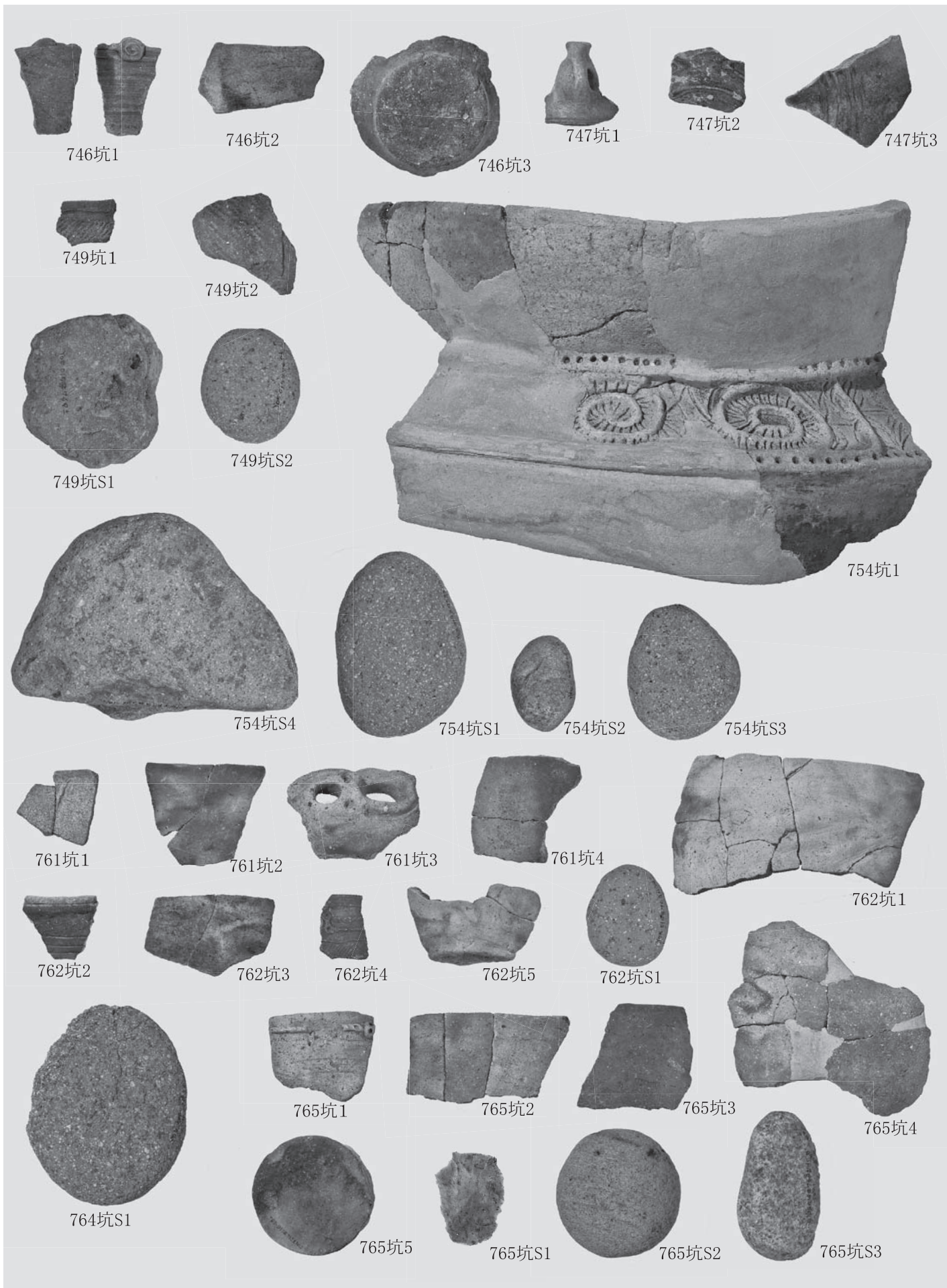


7炉3



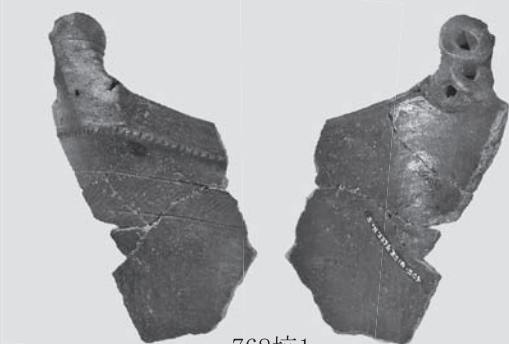
13炉S1







765坑6



768坑1



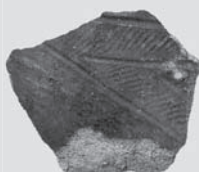
768坑2



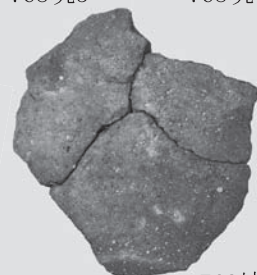
768坑3



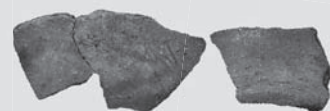
768坑4



768坑5



768坑6



768坑7



765坑S4



768坑8



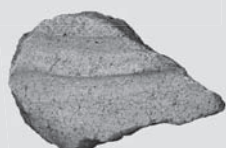
777坑1



777坑2



778坑1



778坑2



779坑1



780坑1



780坑2



780坑3



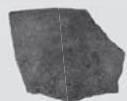
780坑S1



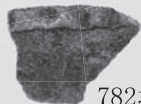
775坑1



782坑1



782坑2



782坑3



784坑1



786坑1



786坑2



786坑3



786坑5



786坑6



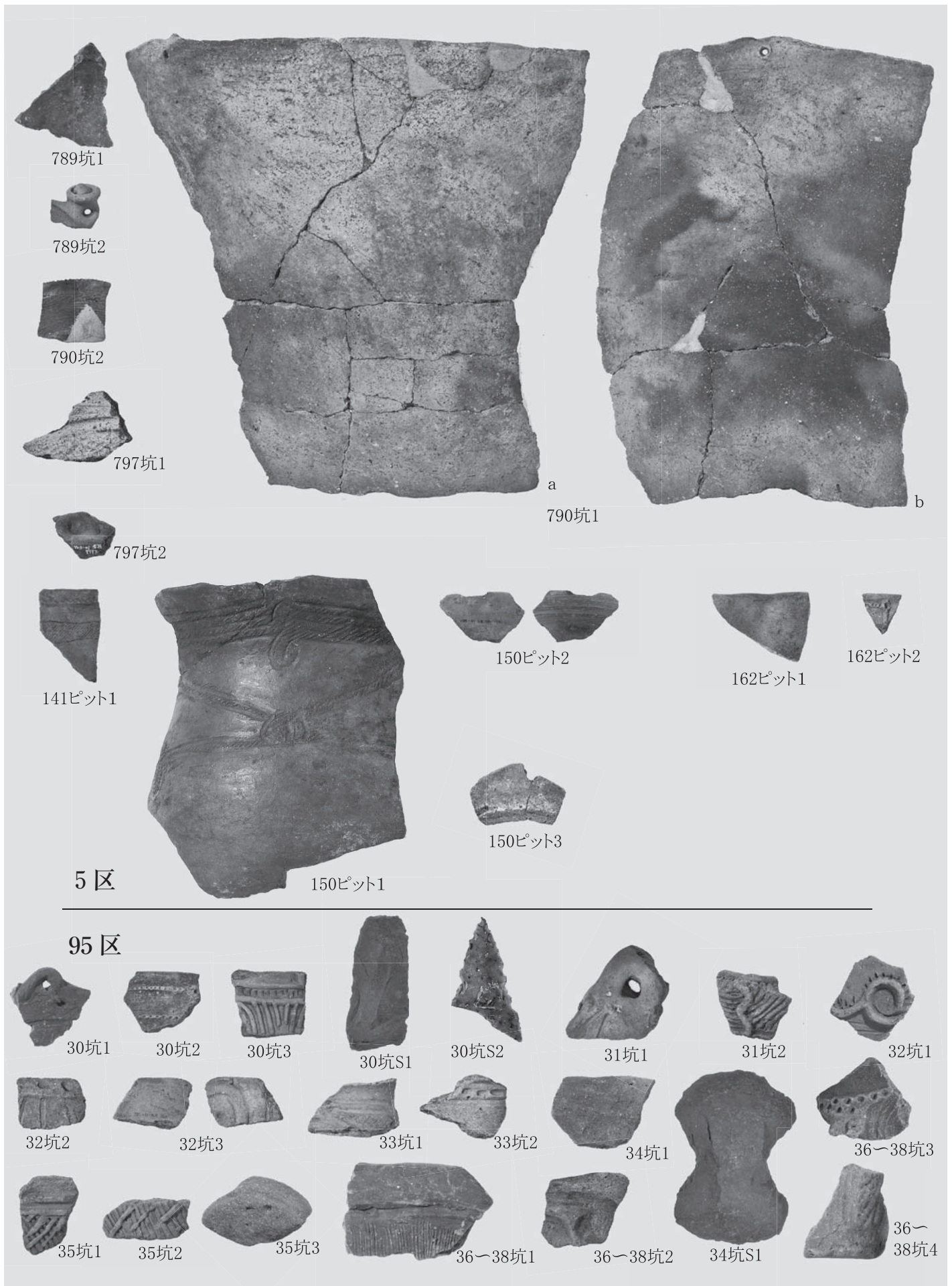
782坑S1

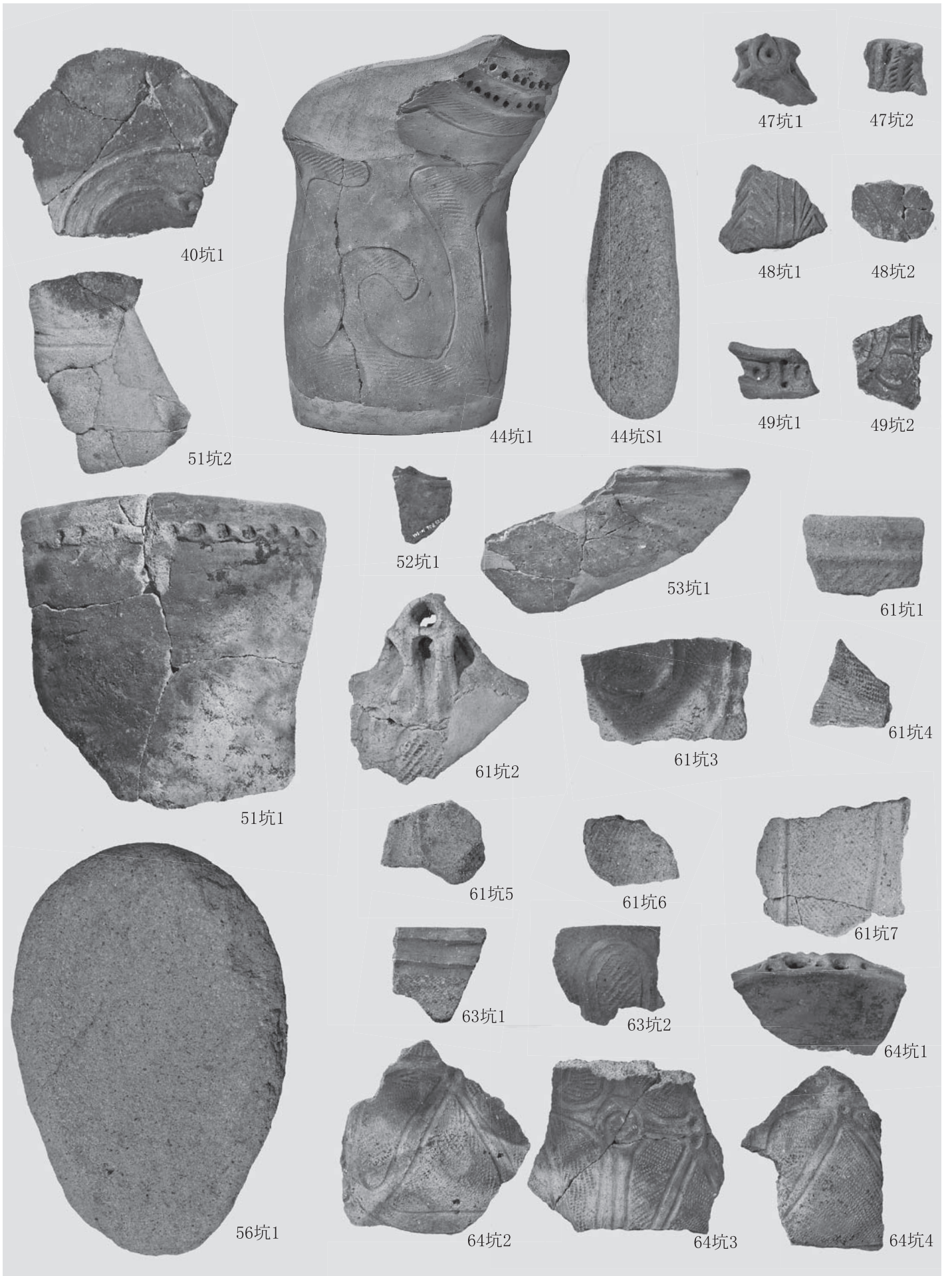


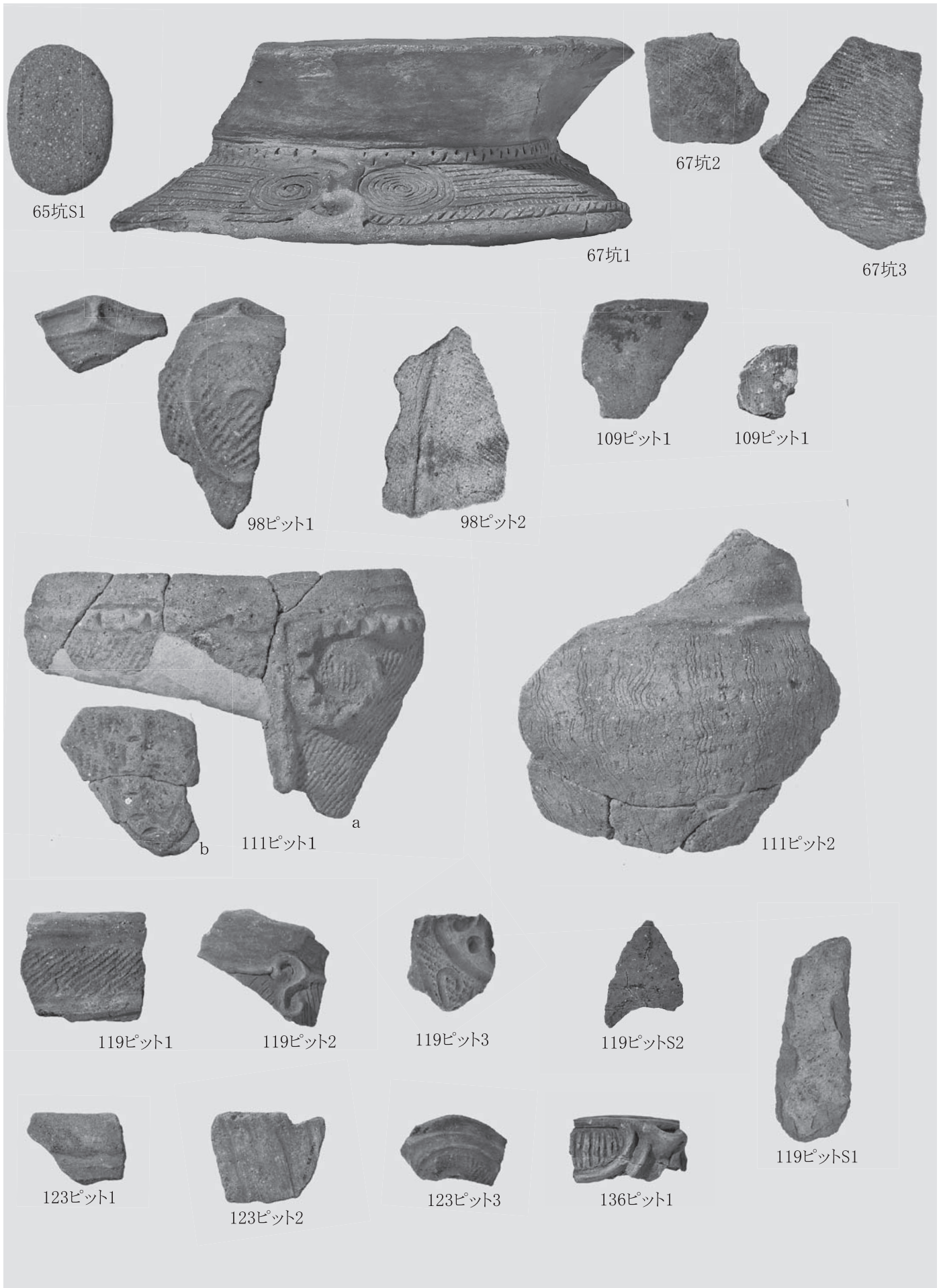
782坑S2



786坑S1

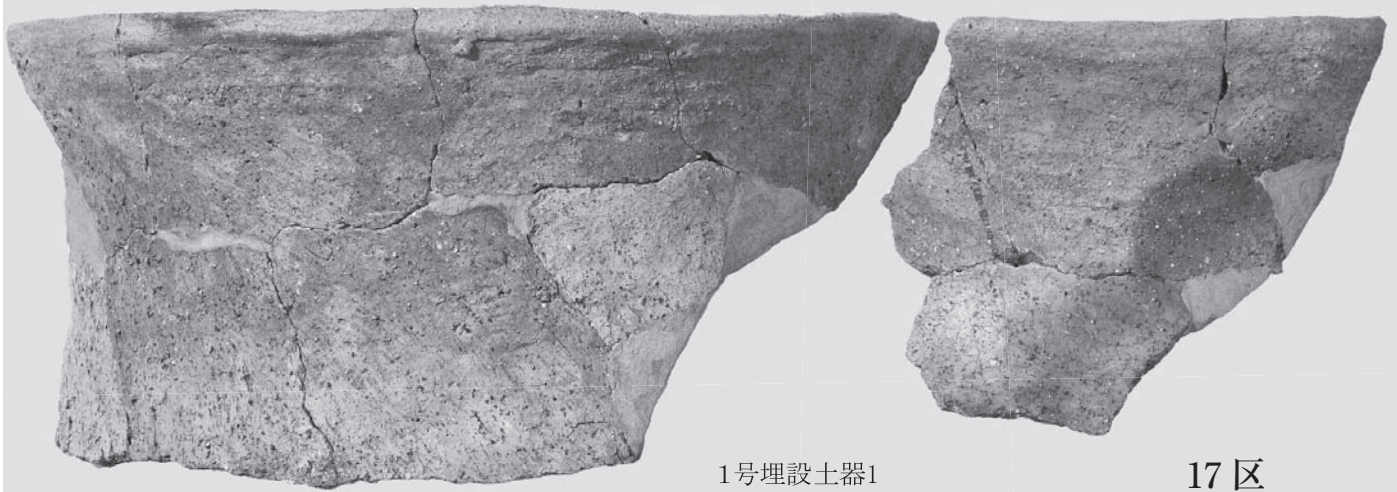








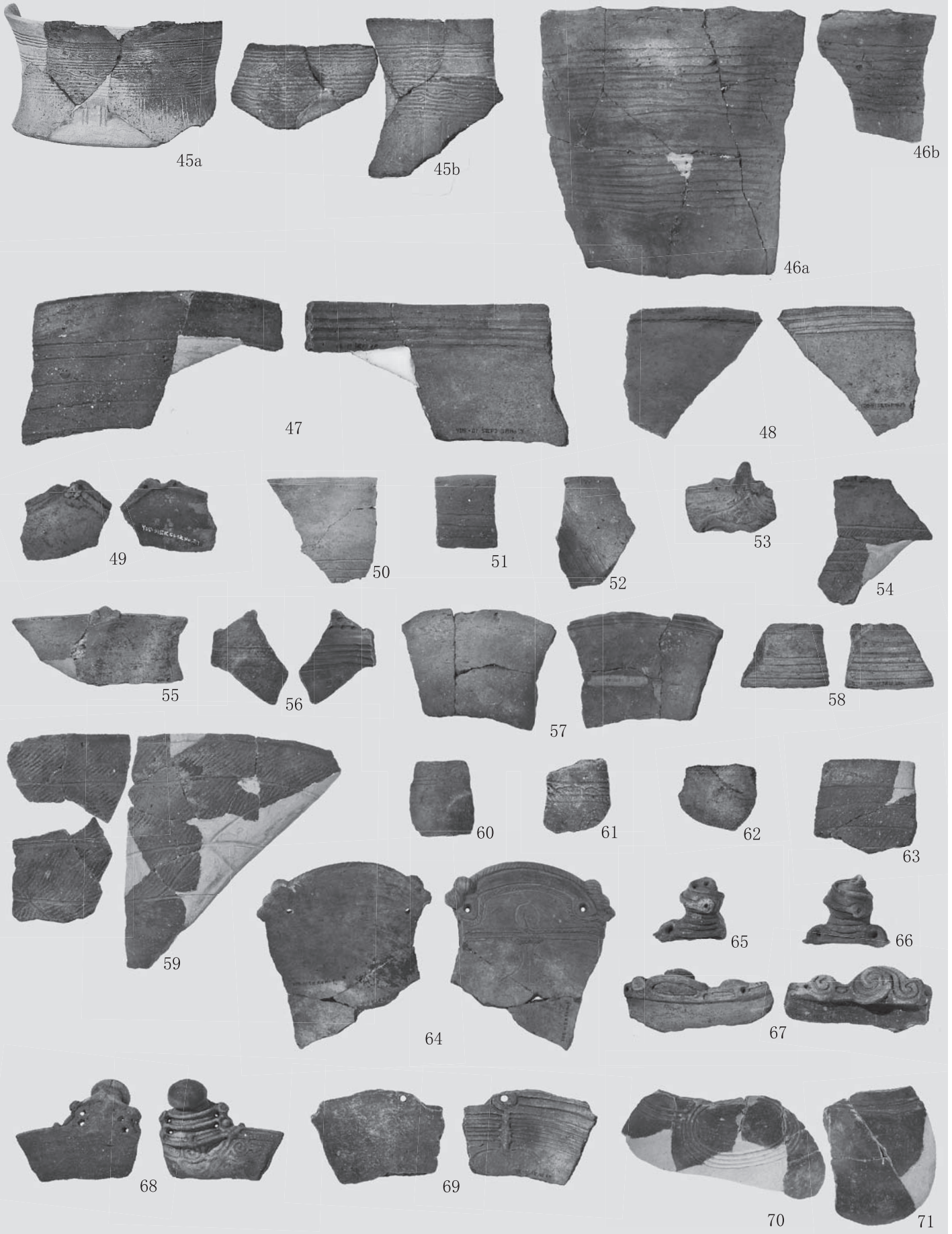
122ピット1

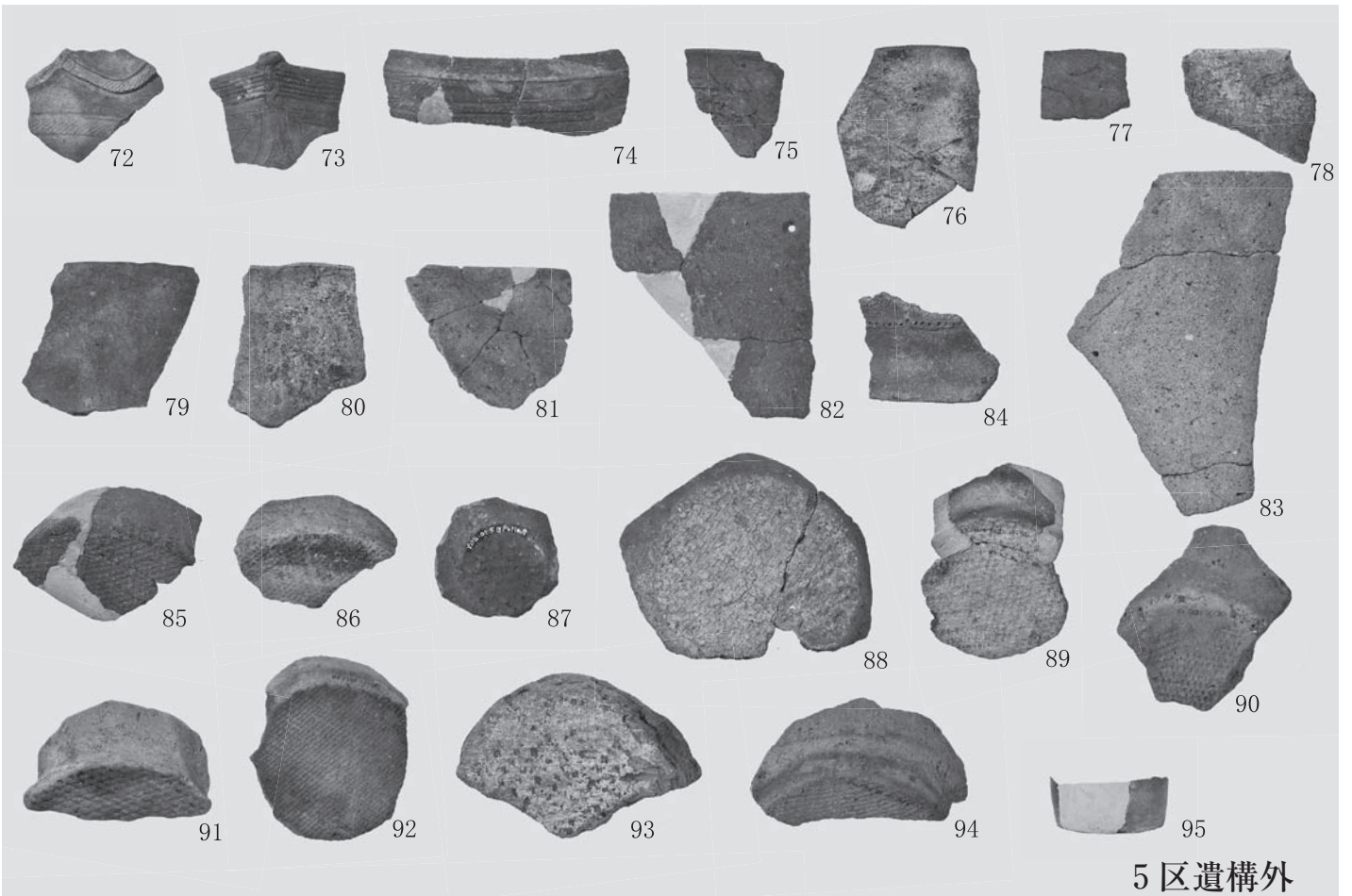


5区遺構外





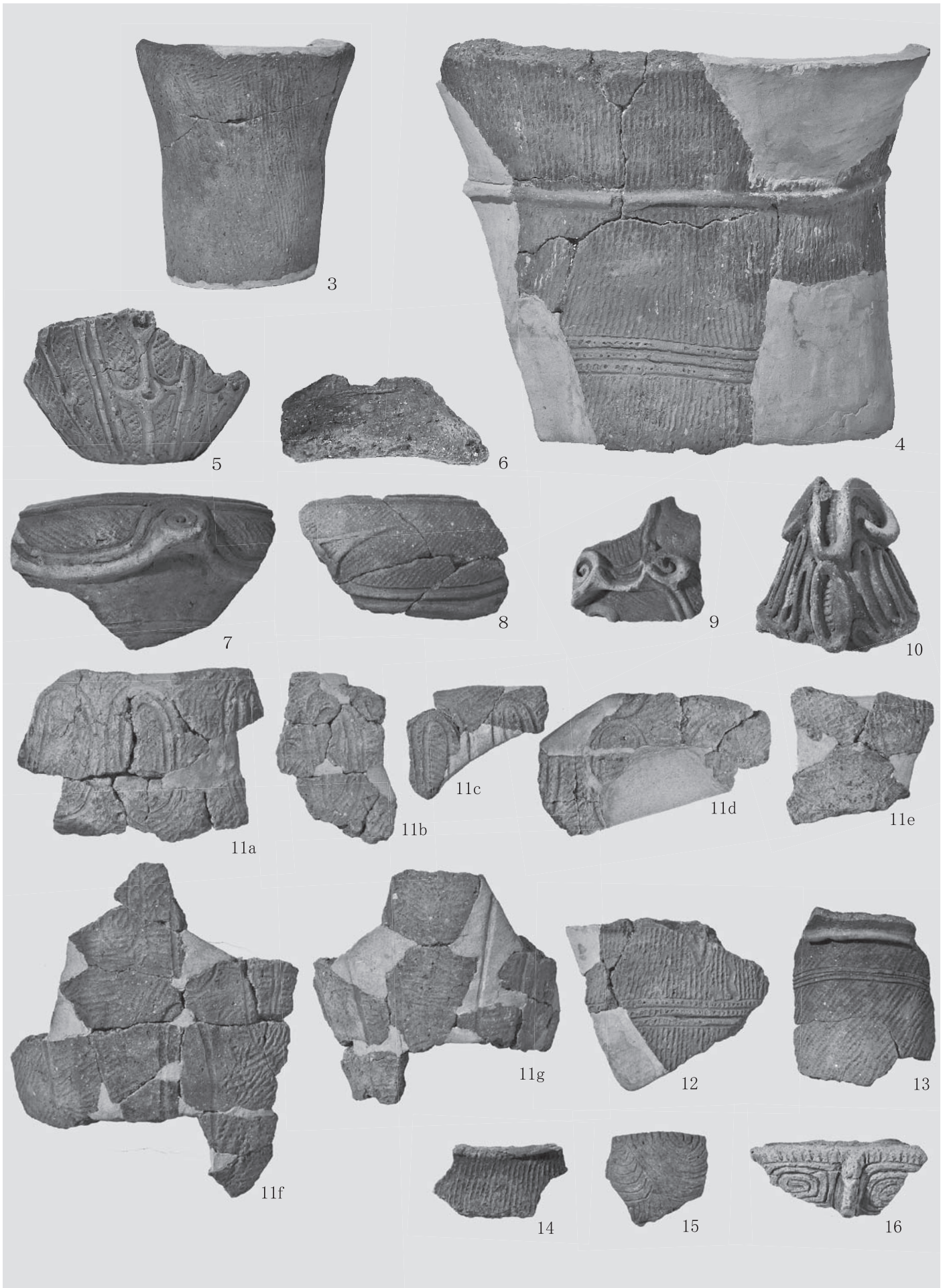


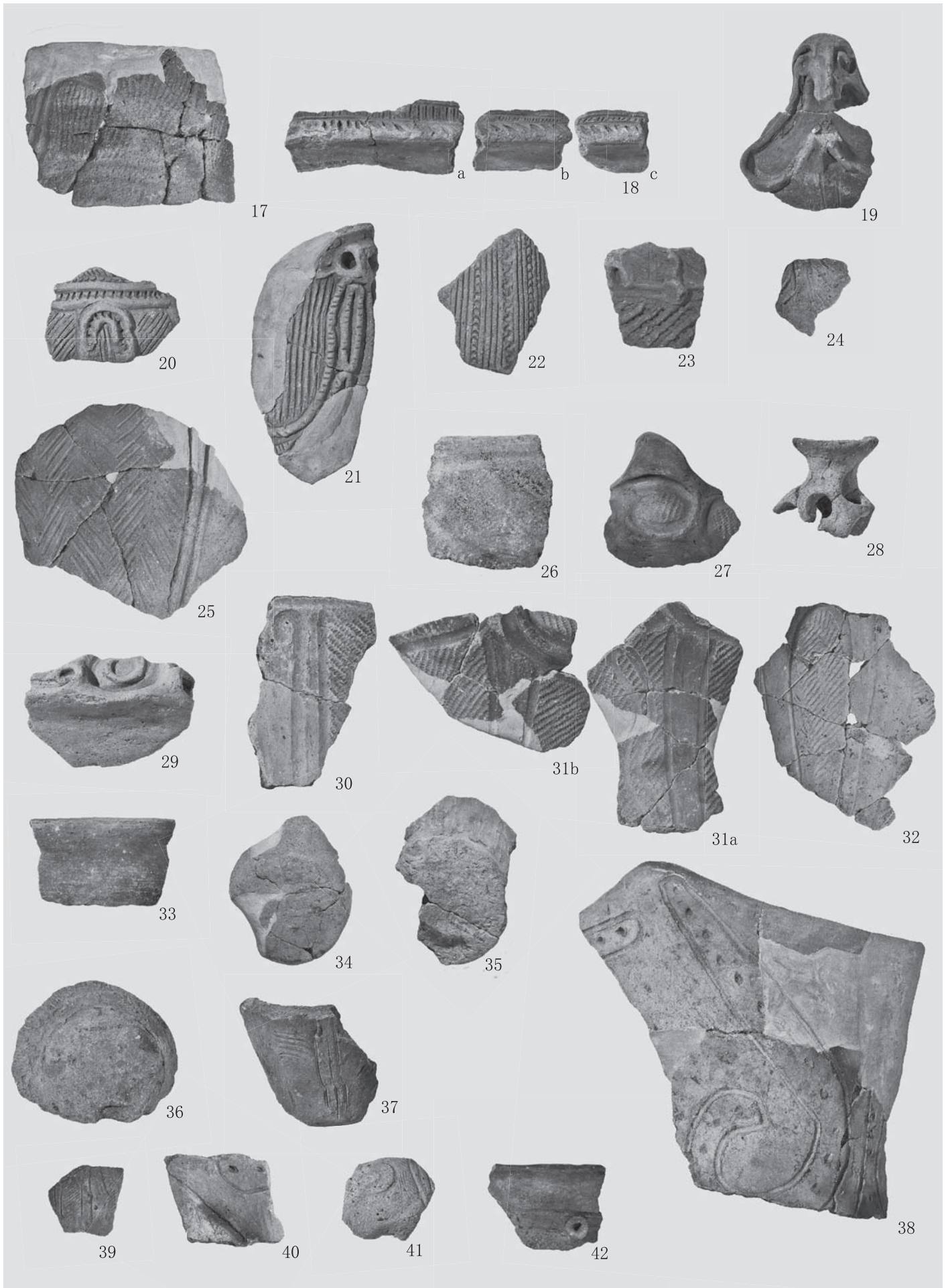


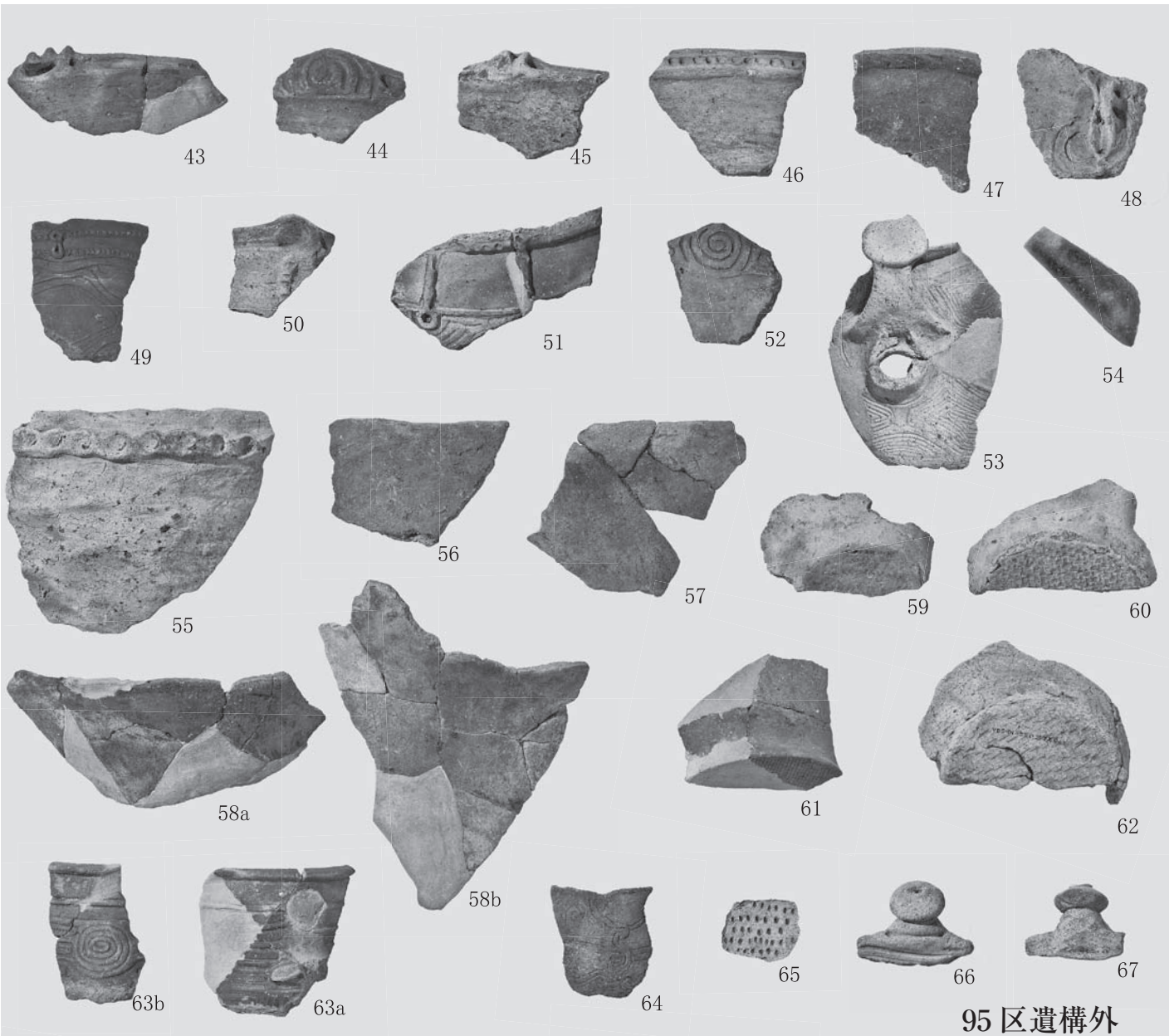
5区遺構外

95区遺構外



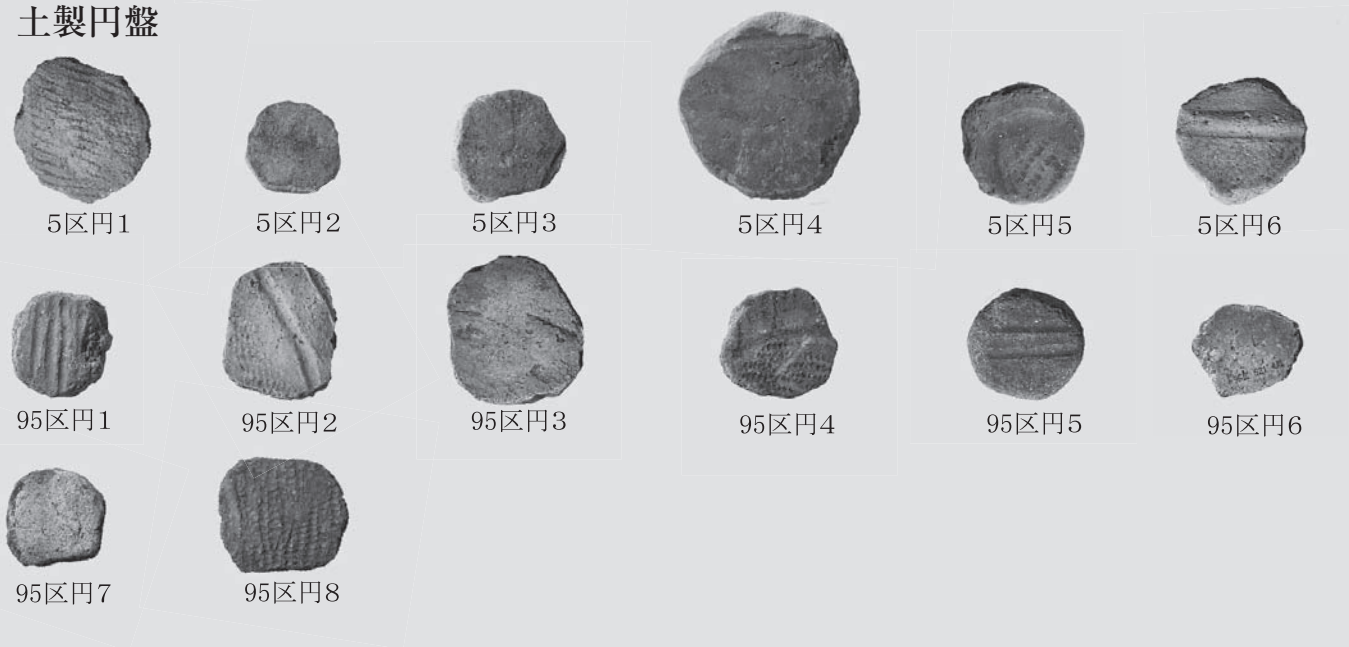






95区遺構外

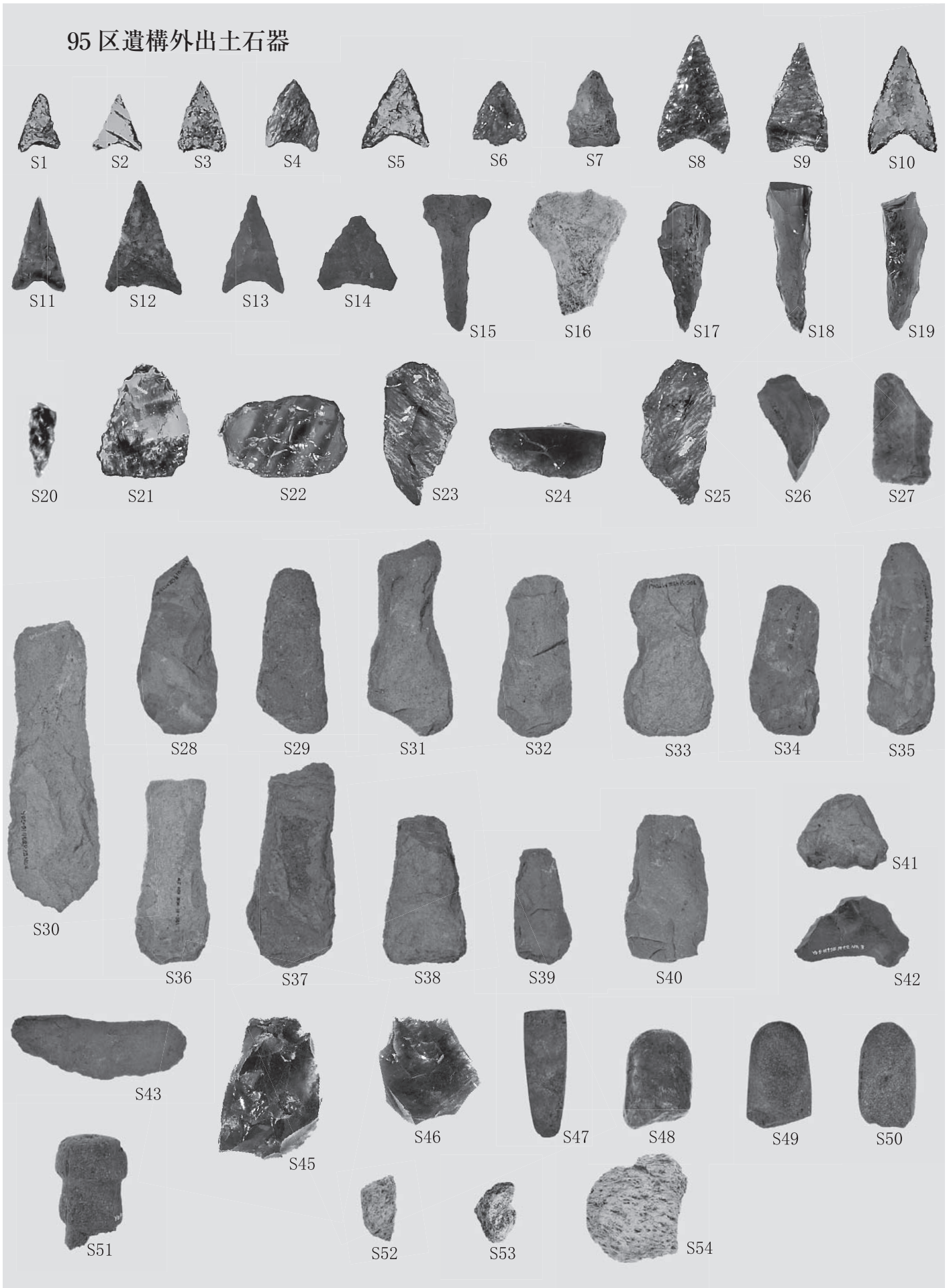
土製円盤

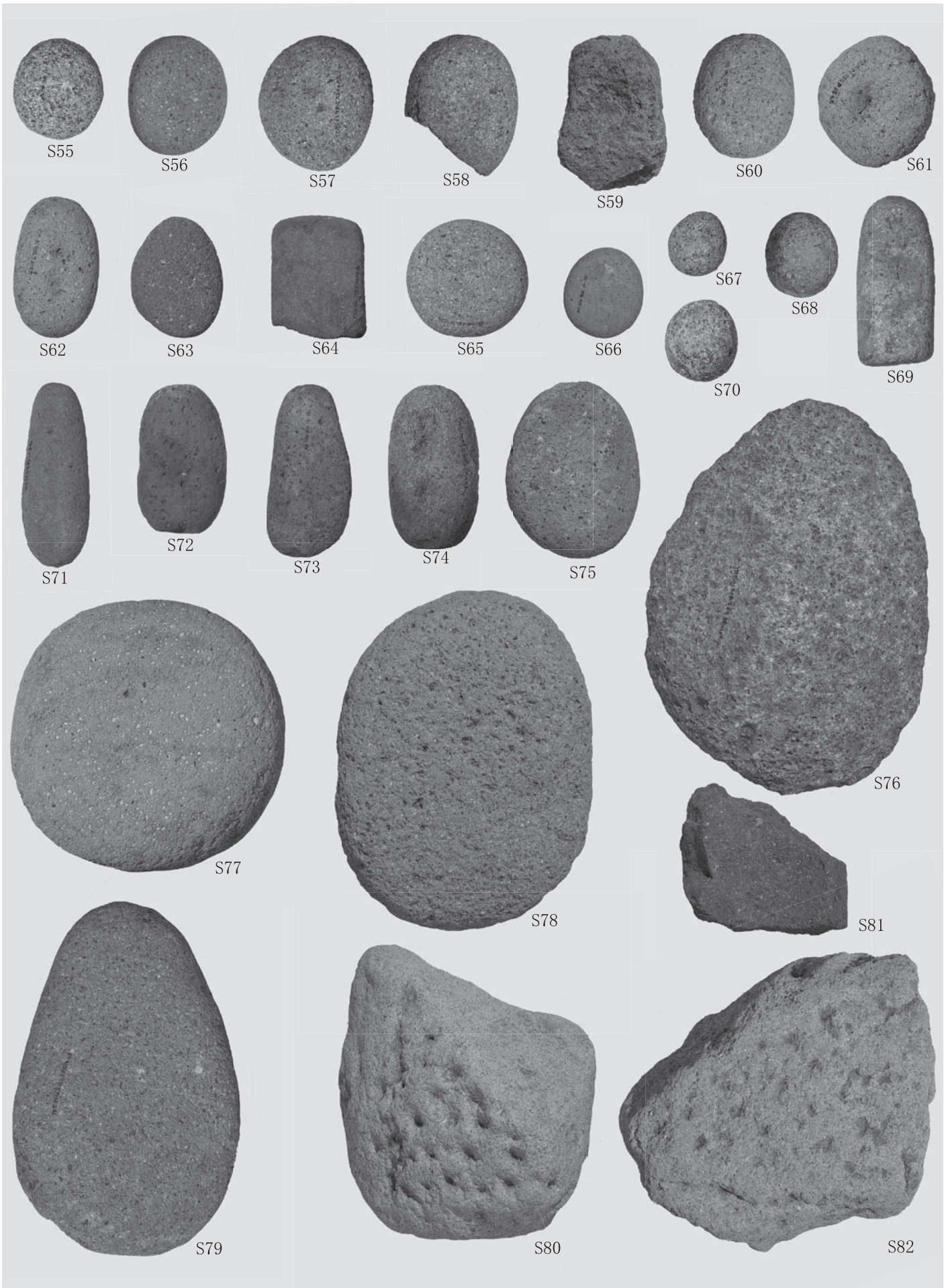


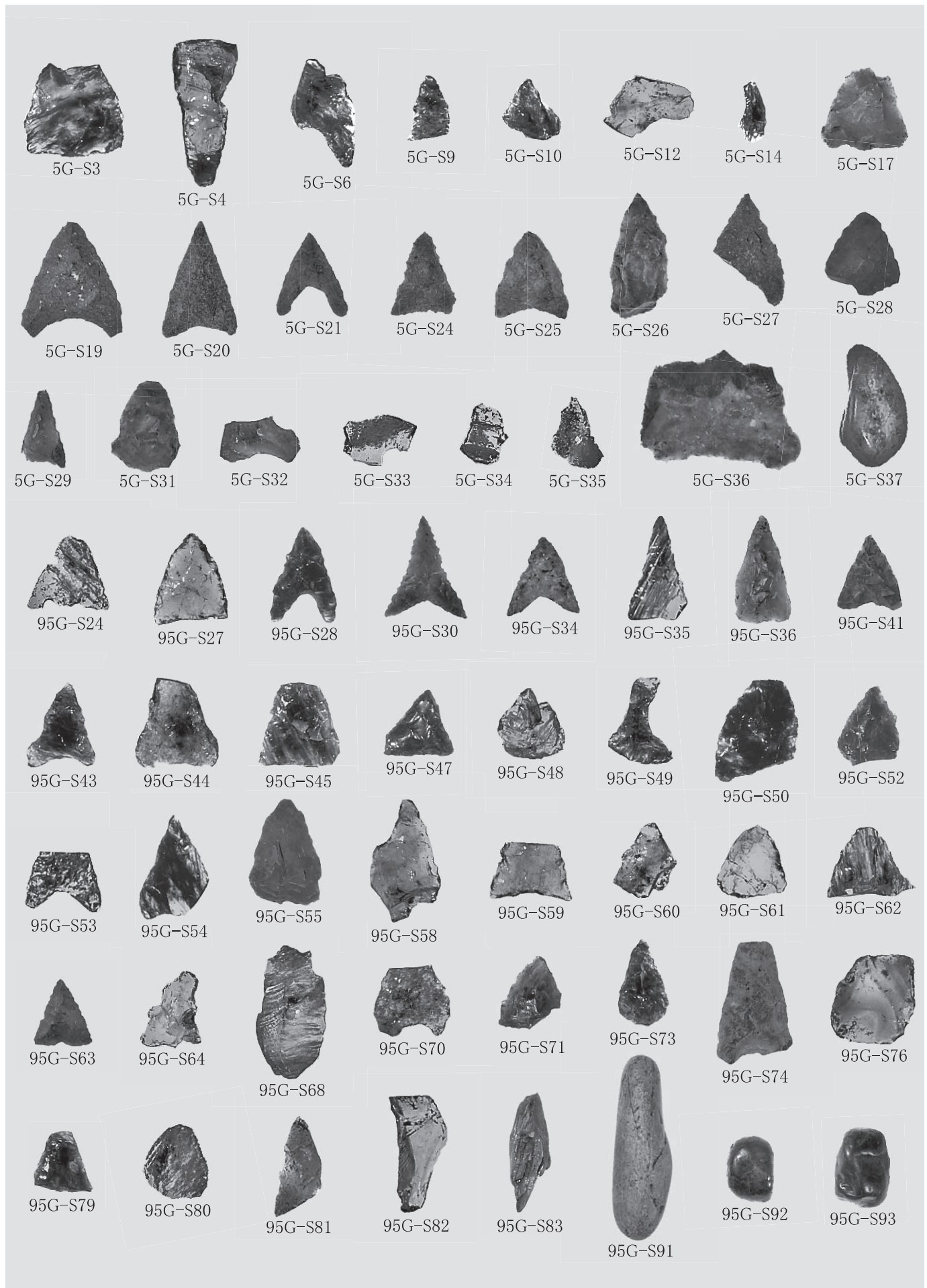
5区遺構外出土石器



95区遺構外出土石器







財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第441集

長野原一本松遺跡(4)

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第24集

平成20年3月21日 印刷

平成20年3月28日 発行

編集・発行／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町大字下箱田784-2

電話 0279-52-2511 (代表)

URL <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／松本印刷工業株式会社
